

茨城県教育財団文化財調査報告第284集

村松白根遺跡 2

大強度陽子加速器施設事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

上 卷

平成19年 3 月

日本原子力研究開発機構
高エネルギー加速器研究機構
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第284集

むら まつ しら ね
村松白根遺跡 2

大強度陽子加速器施設事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

上 卷

平成19年 3 月

日本原子力研究開発機構
高エネルギー加速器研究機構
財団法人 茨城県教育財団



第8区遺構全景（西から東）



第8区建物跡の並ぶ集落跡（調査風景）

序

日本原子力研究開発機構と高エネルギー加速器研究機構は、平成18年度末の完成を目指して、加速した陽子から生み出される二次粒子を利用して、様々な分野で最先端の研究を行うための施設である大強度陽子加速器施設（J-PARC）の建設を東海村村松白根地区において進めています。

この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である村松白根遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、日本原子力研究所（現日本原子力研究開発機構）と高エネルギー加速器研究機構から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成15年4月から平成16年8月まで発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既に当財団の文化財調査報告第250集として刊行しています。

本書は、村松白根遺跡の調査成果を収録したもので、本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である日本原子力研究開発機構と高エネルギー加速器研究機構から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、東海村教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見實徳

例 言

- 1 本書は、日本原子力研究開発機構（旧日本原子力研究所）及び高エネルギー加速器研究機構の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15・16年度に発掘調査を実施した、茨城県那珂郡東海村村松白根146番地の25ほかに所在する村松白根遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調査 平成15年4月1日～平成16年8月31日
整理 平成17年4月1日～平成19年3月31日
- 3 平成16年度の発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。平成15年度の発掘調査担当は村松白根遺跡1の発掘調査報告書に記載した。
首席調査員兼班長 荒井保雄 平成16年4月1日～平成16年8月31日
首席調査員 川又清明
主任調査員 後藤一成
主任調査員 皆川修
主任調査員 井上琢哉
主任調査員 石川武志 平成16年4月1日～平成16年5月31日
主任調査員 大塚雅昭 平成16年4月1日～平成16年6月30日
主任調査員 杉沢季展
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、以下の者が執筆を担当した。
主任調査員 皆川修 例言・凡例・抄録、第2章第1・2節、第3章第1・2・3節1(1)～(7)(9)(12)
2(1)～(6)、4(1)～(6)(8)(9)(12)、5、第4節1・2・3(1)～(4)・4・5
主任調査員 井上琢哉 第1章第1・2節、第3章第3節1(8)(10)(11)、2(7)、3、4(7)(10)(11)、
第4節3(5)(6)
- 5 本書の作成にあたり、中・近世における文献史料については東海村文化財審議委員の佐藤次男氏、中・近世の陶磁器については出光美術館主任学芸員の荒川正明氏、金属製品のX線撮影については財団法人とちぎ生涯学習文化財団栃木県埋蔵文化財センターの主任車塚哲久氏に御指導いただいた。
- 6 遺構から出土した炭化材及び内耳鍋に付着した煤の¹⁴C年代測定については名古屋大学助手の小田寛貴氏、人骨・獣骨の同定については国立歴史民俗博物館考古研究部教授の西本豊弘氏、人骨のDNA分析については名古屋大学大学院の坂平文博氏、遺構を形成する黑色土、畝状遺構及び粘土貼土坑の自然科学分析はバリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。成果は付章として巻末に掲載した。また、井戸枠の樹脂同定は奈良文化財研究所の光谷拓実氏、土製「面」の鑑定は町田市立博物館館長の田邊助三郎氏の御協力をいただいた。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、 $X = +50,120\text{m}$ 、 $Y = +68,760\text{m}$ の交点を基準点 (A1a1) とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

- 2 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 3 実測図・一覧表・遺物観察等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SH-釜屋 SI・SB-建物跡 HK-整地面 SN-粘土貼土坑・鹹水槽

SK-土坑 SE-井戸跡 SD-溝跡 SM-貝集積地 SX-不明遺構

Pg-ピット群 SF-道路跡 P-柱穴 K-攪乱

遺物 P-土器・陶磁器 TP-拓本土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品・古銭

B-骨角製品 T-瓦 L-漆器 W-木器 N-貝加工品・自然遺物

土層 K-攪乱

(1) 建物跡は黒色土を中心に構築された締まりのある平坦な面と炉跡、それに伴う規則的に配列された柱穴、その生活面から遺物が検出された範囲とした。住居と掘立柱建物の性格をもつ。

(2) 整地面は黒色土を主体とする盛土によって構築された締まりのある平坦な面と、それに伴う遺物が検出された範囲である。

(3) 土壙墓は人骨の埋葬が確認でき、約一体分の骨格が認められたものとした。

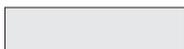
(4) 土壙は家畜として考えられる動物骨の埋葬が確認でき、約一体分の骨格が認められたものとした。

- 4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は1000分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

 灰釉・鉄釉・青磁釉・褐色砂  黒色土・油煙・煤

 火床面・焼砂・灰・赤彩  粘土・炭化材

●土器・陶磁器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品・古銭 ▲瓦

■骨角製品 ☆木製品・漆器 ★貝加工品・自然遺物

(4) 検出された遺構の土層解説は、色調、含有物の種類と量、粘性、締まり具合などを観点に、下記のように番号化した。

1は砂A層 5Y 7/2 灰白色 貝殻片微量で白砂が主体である層

2は砂B層	5 Y 4/2	灰オリーブ	炭化粒子・貝・黒B層が微量の砂質層
3は黒A層	5 Y 2/1	黒	炭化物・炭化粒子・貝が少量，灰が微量含まれ，黒色土と混ぜて作られた層で，主に当遺跡では遺構の構築に使用された層
4は黒B層	5 Y 3/2	オリーブ黒	炭化物・炭化粒子・灰が微量に含まれた黒色の砂質層
5は黒C層			黒A層と黒B層が混じるが，含有割合は黒A層が上回る層
6は黒D層			黒A層と黒B層が混じるが，含有割合は黒B層が上回る層
7は粘土層	5 Y 5/3	灰オリーブ	粘土ブロック多量，炭化粒子・黒A少量，炭化物が微量に含まれ，鹹水槽や粘土貼土坑などの遺構を構築する際に使用された層
8は焼砂層			
9は灰層			
10は暗褐色土層			暗褐色土と山砂を混ぜ合わせた層で釜屋の構築などに使用された層

(5) 遺構平面図の黒色土層の表示は，煩雑になるおそれがあるため省略した。

5 一覧表・遺物観察表の表記は次のとおりである。

- (1) 位置は遺構の占める小調査区範囲を表示した。
- (2) 標高は遺構確認面のレベルを記した。
- (3) 計測値の単位は，cm，gで示した。なお，現存値は（ ）で，推定値は[]を付して示した。
- (4) 遺物観察表の備考の欄は，残存率や写真図版番号等，その他必要と思われる事項を記した。
- (5) 遺物番号については通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。
- (6) 建物跡・整地面の「主軸方向・長軸（径）方向」は現存する形状や柱穴の配列等から主・長軸（径）を判断し，その主軸または長軸（径）が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。
- (7) 規模の欄の深さは，遺構確認面から火床または底面までの計測値を記した。
- (8) 平面形は現存している形状で判断し表記した。
- (9) 人骨の推定年齢については，下記のように区分した。

新生児：生後1～4週間 乳児：0～1歳 幼児：2～5歳 少年：6～12歳

若年：13～19歳 壮年：20～39歳 熟年：40～59歳 老年：60歳以上

抄 録

ふりがな	むらまつしらねいせきに							
書名	村松白根遺跡2							
副書名	大強度陽子加速器施設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第284集							
著者名	皆川 修 井上琢哉							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2007(平成19)年3月23日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
むらまつしらねいせき 村松白根遺跡	いばらきけん な かがんとうかいむら 茨城県那珂郡東海村 むらまつしらね 村松白根146番地の 25ほか	08341 - 174	36度 26分 58秒	140度 36分 07秒	3 ~ 10 m	20030401 ~ 20040831	63,110㎡	大強度陽子加速器施設事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
村松白根遺跡	集落跡	中・近世	土手状遺構	3か所	土師質土器(小皿・皿・内耳鍋・焙烙・香炉),			
			建物跡	60軒	陶磁器(皿・丸皿・折縁皿・稜皿・鉄絵皿・染付皿・天目茶碗・播鉢・甕), 土製品(管状土錘・土錘・土鈴・面),			
			整地面	68か所	木製品(木杭・横板),			
			井戸跡	3基	金属製品(小刀・小柄・鎌・鉾・包丁・火打金・釘・耳金・吊金具・鍵・釣針・鉄鍋・筭・毛抜・煙管), 古銭, 石製品(硯), 石器(石臼・石鉢・火打石・砥石),			
			畝状遺構	2か所	骨角製品(筭・サイコロ)			
			炉跡	99基				
			竈	1基				
			粘土貼土坑	226基				
			土坑	742基				
			溝跡	1条				
			貝集積地	31か所				
			流路跡	1条				
			集石	1か所				
			道路跡	1条				
			ピット群	23か所				
			区画状遺構	3か所				
			不明遺構	3か所				
	墓域	中・近世	土壙墓	57基	土師質土器(小皿),			
			土壙	10基	金属製品(切羽), 古銭, 人骨, 獣骨			
要約	<p>中世後半から近世初頭にかけての大規模な製塩跡に関連する集落跡と墓域を確認した。建物跡には、南東側に広場をもつL字状の曲屋が3軒並んで見つかり、当時の住居形態を知る上で重要である。</p> <p>また、土師質土器、瀬戸・美濃系や肥前系の国内陶器、中国製の碗・皿類の磁器のほか400枚を超える古銭が出土しており、製塩と集落の様相を明らかにするための貴重な資料といえる。</p>							

目 次

— 上 卷 —

序		
例	言	
凡	例	
抄	録	
目	次	
第1章	調査経緯	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査経過	2
第2章	位置と環境	3
第1節	地理的環境	3
第2節	歴史的環境	3
第3章	調査の成果	7
第1節	遺跡の概要	7
第2節	基本層序	7
第3節	遺構と遺物	9
1	9区の遺構と遺物	9
(1)	土手状遺構	9
(2)	建物跡	13
(3)	整地面	56
(4)	井戸跡	83
(5)	炉跡	90
(6)	粘土貼土坑	91
(7)	土坑	93
(8)	貝集積地	109
(9)	ピット群	109
(10)	土壙墓	113
(11)	土壙	138
(12)	遺構外出土遺物	141
2	1区の遺構と遺物	153
(1)	建物跡	153
(2)	整地面	161
(3)	粘土貼土坑	167
(4)	土坑	167
(5)	集石	173
(6)	溝跡	174
(7)	土壙墓	174
3	7区の遺構と遺物	176
(1)	整地面	176
(2)	流路跡	178
(3)	土坑	179
4	8区の遺構と遺物	181
(1)	土手状遺構	181
(2)	建物跡	183
(3)	整地面	243
(4)	炉跡	294
(5)	粘土貼土坑	295
(6)	土坑	297
(7)	貝集積地	314
(8)	ピット群	314
(9)	不明遺構	322
(10)	土壙墓	323
(11)	土壙	325
(12)	遺構外出土遺物	327

— 下 卷 —

5	5・6・8b区の遺構と遺物	331
(1)	建物跡	331
(2)	整地面	405
(3)	井戸跡	449
(4)	畝状遺構	451
(5)	炉跡	455
(6)	粘土貼土坑	456
(7)	土坑	462
(8)	貝集積地	484
(9)	ピット群	486
(10)	道路跡	500
(11)	区画状遺構	501
(12)	不明遺構	503
(13)	土壙墓	506
(14)	遺構外出土遺物	508
第4節	まとめ	515
付 章		561
写真図版		
付 図		



第1図 村松白根遺跡調査区設定図

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

日本原子力研究開発機構と文部科学省高エネルギー加速器研究機構は、大強度陽子加速器施設の建設を進めている。

平成14年1月25日、日本原子力研究所東海研究所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、大強度陽子加速器施設建設地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成14年2月4・5日に現地踏査を、平成14年2月25・26・28日、7月30・31日、9月17日、11月26日～29日、12月5・6・12・13日、平成15年2月4・5・7・12・17・18日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成14年12月17日、茨城県教育委員会教育長は、日本原子力研究所東海研究所長あてに、事業地内に村松白根遺跡が所在する旨回答した。

平成15年1月21日、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成15年2月4日、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成15年2月24日、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長は、茨城県教育委員会教育長に対して大強度陽子加速器施設建設に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成15年2月26日、茨城県教育委員会教育長は文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長あてに、村松白根遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成15年4月1日から平成16年3月31日まで発掘調査を実施することとなった。発掘調査期間中に新たな埋蔵文化財の発見があり、調査区の再構成が行われた。

新たな埋蔵文化財が発見された地区について、茨城県教育委員会は平成15年5月19～21日に追加の試掘調査を行い、遺跡範囲が広がることを確認した。平成15年5月23日、茨城県教育委員会教育長は、日本原子力研究所東海研究所長あてに、村松白根遺跡の範囲が広がる旨回答した。

平成15年6月24日、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、調査計画の変更について協議した。平成15年7月4日、茨城県教育委員会教育長は、文部科学省高エネルギー加速器研究所長、日本原子力研究所東海研究所長に対し、大強度陽子加速器施設の建設工事進捗上、調査面積を変えずに調査区を変更する旨回答した。

さらに、茨城県教育委員会は平成15年10月28～30日、11月12日に再度追加の試掘調査を行い、遺跡範囲が広がることを確認した。平成15年11月19日、茨城県教育委員会教育長は、日本原子力研究所東海研究所長あてに、村松白根遺跡の範囲が広がる旨回答した。

平成16年1月9日、文部科学省高エネルギー加速器研究所長、日本原子力研究所東海研究所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、大強度陽子加速器施設建設に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議（平成16

年度分)した。平成16年1月16日、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、調査計画の変更について協議した。

平成16年1月20日、茨城県教育委員会教育長は、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長あてに、村松白根遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答した。平成16年1月26日、茨城県教育委員会教育長は、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長あてに、大強度陽子加速器施設建設工事と発掘調査の進捗から、調査範囲及び面積等について追加する旨回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、文部科学省高エネルギー加速器研究機構長、日本原子力研究所東海研究所長から埋蔵文化財発掘調査事業について再度委託を受け、平成16年4月1日から平成16年8月31日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は、平成15年4月1日から平成16年8月31日まで実施した。その概要を表で記載する。なお、大強度陽子加速器施設の建設工事と埋蔵文化財発掘調査の進捗上、当初の調査面積62,020㎡に1,090㎡が追加となる契約変更がなされている。

期間 工程	平成15年度												平成16年度																						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月																		
調査準備	■																	■																	
表砂除去		■												■																					
遺構調査		■												■																					
遺物洗浄 注記 写真整理		■												■																					
補足調査 撤収																													■						

調査では、遺構確認面の下層に何層もの遺構面が存在するので、遺構確認面の試掘を行い遺構面の数の把握を行った。そして、最下層の遺構面を調査するまで重機を使用して表砂除去を行った。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

村松白根遺跡は、那珂郡東海村村松白根146番地の25ほかに所在し、新川下流左岸の砂丘上に位置している。

遺跡の位置する砂丘是那珂台地の東部に広がり、南是那珂川、北は久慈川に挟まれて南北に延びている。東海村の海岸線は、昔から「千々乱風」の伝説や、かつて久慈川河口を北に曲げた「向渚」と呼ばれる砂嘴を発達させるほど砂の供給が多い。この砂是那珂川などが上流から運んできたもので、北上する沿岸流によってさらに運ばれ、阿字ヶ浦から東海村の海岸に堆積し、砂丘を形成している。東海村の砂丘は比較的薄く堆積している台地上の砂丘と、厚く堆積している海岸寄りの海岸砂丘に分けることができる。この海岸砂丘には、村内の内陸側に位置する砂丘と海岸側に位置する二列の砂丘が確認できる。内陸側の砂丘の基底ができた時代は、今から3,000～4,000年前にさかのぼると推定される。その後、海が退き始め、ほぼ現在の海水準になると、沖合に砂州が姿を現した後、砂が供給されながら発達し、海岸側の砂丘が形成されたといわれている¹⁾。海岸砂丘の大部分は、大正2年以來の砂防林植栽事業で松林になり砂丘は固定されたが、汀線付近の新しい砂丘は今でも砂が移動している。

第2節 歴史的環境

東海村では、約173か所ほどの遺跡が周知され、中世以降の遺跡は約30か所確認されている。ひたちなか市に属する真崎浦の南側にある城跡などを含めると約40か所にのぼる²⁾。現在では豊かな水田地帯となっている村松周辺は、縄文時代の頃から阿漕ヶ浦や真崎浦、細浦を合わせて内湾を形成していた入り江であった。ここは、古代、中世においても人々の生活を支える大切な漁場で、穏やかな入り江は水上交通の要地であった。室町時代の連歌師として有名な宗祇は、1468年（応永2年）に武蔵国の品川から船で那珂湊を經由し、真崎浦に入ってきたと推定されている³⁾。東国の名勝であった村松に滞在し、真崎浦の景観や生活の様子を十編の歌にしている。その中で、「蟹の袂のかかる夕しほ」と詠んでおり、漁業を営む海人の姿を想像することができる。

中世は主として佐竹氏の支配下であり、佐竹氏に臣従した石神城⁴⁾〈2〉主の小野崎氏と佐竹氏一族の真崎氏がこの地域をおさめていた。真崎浦の入り江の入口にあたる村松には村松虚空蔵堂〈3〉、照沼には高台に位置する如意輪寺〈4〉が位置し、真崎浦を守るように相對している。こうした海上交通の要地に、佐竹氏は義重の三男義澄の子義連を真崎の地に送り、義連は真崎三郎と称し、真崎浦に突き出した半島に真崎城⁵⁾〈5〉を構え、出入りする船の監視や沿岸漁民を支配していたのである。その後、真崎氏は真崎城を拠点として南北朝の動乱期や戦国時代には、佐竹氏に従って各地を転戦し、佐竹一門のなかでも有力な一族に成長した。一方、小野崎氏は、秀郷流藤原氏の一流が太田郷に来住し、小野崎を名乗ったことにはじまる。小野崎道盛の子道長が佐竹昌義に臣従し、その子孫が石神、額田を拠点に居住した。その小野崎氏と佐竹氏の関係を知る史料として、「小野崎通貞家蔵文書」⁶⁾がある。それによると、小野崎氏は佐竹義憲に味方して、1432年（永享4年）の石神城の合戦や1433年（永享5年）の小佐都郡（現里美村）の合戦で山入氏と戦い、義憲から恩賞を受けている。しかし、1403年（応永10年）の佐竹義憲の養子問題から始まった佐竹宗家と一族の山入氏の争乱（佐竹の乱）⁶⁾が長期化し、1490年（延徳2年）に佐竹義治が没し義舜が家督を継ぐと、小野崎氏は佐竹領内へ侵略すること



第2図 村松白根遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院「ひたちなか」 1 : 50,000)

になる。1492年（明応元年）太田城を占拠していた山入義藤が病死すると、その子氏義と佐竹義舜との間に、岩城親隆・常隆親子とその家臣岡本竹隠軒らが介入して和議が成立する。和議の締結に際して、争乱過程で押収された佐竹領の調査と修復がはかられたことが、岡本竹隠軒の調査書類「岡本元朝家蔵文書」⁷⁾の中で伝えられている。また、1495年（明応4年）頃と推定される「領地違乱書付写」には、「村松塩竈まさき違乱」⁸⁾とあり、和議成立で所領が義舜に返還されたが再び真崎氏が横領したことが記載されている。村松で製塩が行われていたことがわかる最も古い史料として注目される。その後、真崎・小野崎両氏は1602年の佐竹氏の秋田移封に伴って、当地方を去って秋田へ移ることになるが、史実として残る1485年（文明17年）の佐竹の乱の出兵による村松虚空蔵堂の焼失や真崎氏による村松塩竈の横領は、遺跡の成立時期や様相を知る上で、重要な手がかりとなっている。

東海村の照沼・村松、ひたちなか市の馬渡・長砂・磯崎・阿字ヶ浦といった海岸沿いの村々に語り継がれている「千々乱風」の伝説がある。それによると、江戸時代の初期ごろに大風が吹き続け、これらの村々が砂に埋められて住めなくなり、その地を捨てて、集落ごとほかの土地へ移住したとされている⁹⁾。「村松虚空蔵堂所蔵文書」(1623年)の中には、村松浜の居屋敷が大風で砂に埋められて迷惑しているため、大神宮領内へ移住させてほしいと百姓十七名が連書している。それに対して、移住を承認した代官は書状を差し出し、村松虚空蔵堂の領内に移っても、水戸藩へ納める年貢役と塩竈役は、間違いなく勤めることを請け負うことが記されている¹⁰⁾。これまで、村松において製塩やそれに伴う集落の場所について確定できるだけの史料がなかったが、今回の発掘調査により、大規模な製塩跡と集落跡が確認され、出土遺物から15世紀中頃から17世紀初めの遺跡であることが村松白根遺跡1で報告されている¹¹⁾。これにより「千々乱風」の伝説や「村松虚空蔵堂所蔵文書」

表1 村松白根遺跡周辺遺跡・史跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世
①	村松白根遺跡						○		22	八枚割遺跡				○		○	
2	石神城跡						○		23	二ノ堀B遺跡					○	○	
3	村松虚空蔵堂					○	○	○	24	広ノ浦遺跡					○	○	
4	如意輪寺					○	○	○	25	座応遺跡			○	○	○	○	
5	真崎城跡						○		26	中道前東遺跡	○				○	○	
6	長砂渚遺跡						○		27	松山遺跡		○	○	○	○	○	
7	沢田遺跡						○	○	28	中道遺跡			○	○	○	○	
8	白根古墳				○				29	東中宿A遺跡		○	○	○	○	○	
9	無名塚							○	30	荒野遺跡					○	○	○
10	無名塚							○	31	馬場先遺跡						○	○
11	前原A遺跡		○			○	○		32	豊岡宮前遺跡		○		○	○	○	○
12	西ノ塙遺跡						○		33	西光遺跡					○	○	
13	表遺跡						○		34	八幡後遺跡	○	○				○	○
14	以古田A遺跡				○			○	35	奥山館跡						○	
15	以古田B遺跡		○					○	36	多良崎城跡						○	
16	上ノ諏訪遺跡							○	37	清水館跡						○	
17	庚申塚							○	38	小山城跡						○	
18	宮後窯跡群							○	39	内城跡						○	
19	遠間遺跡				○		○		40	足崎奥の院跡						○	
20	西ノ妻遺跡						○		41	深茂内館跡						○	
21	中曾根遺跡		○		○	○	○		42	甚兵衛屋敷跡						○	

にある集落の可能性は高くなったが、不明な点もあり断定するには至っていない。また、南へ2～3kmに位置する長砂渚遺跡¹²⁾や沢田遺跡¹³⁾の発掘調査により、前者は中世、後者は中世末から明治時代初めにかけての揚浜式製塩跡の存在が確認され、この地域における製塩の様相が明らかになりつつある。

近世の製塩は、関東の行徳と瀬戸内の赤穂を始めとするいわゆる十州塩が全国的に流通するようになり、水戸藩は、製塩技術をより発達した西国から導入しようと試みている。『塩録』によれば、平磯（ひたちなか市）に製塩場を築き、試行錯誤を繰り返し次第にきれいな塩ができるようになったが、益が少なく製塩をする地勢ではないという理由から、製塩場の廃止に至っている¹⁴⁾。また、水戸藩は藩内の砂浜に造られた塩釜数を調査している。寛政年間の調査結果には照沼村と前浜村（阿字ヶ浦）の記録があり、照沼村は調査の度に生産高が減少し休釜していることから、塩釜経営の実態は非常に不安定であったことがわかる。しかし、これらの調査結果に中世から製塩が行われていた村松村の記録はなく、その実態は明らかになっていない。

真崎浦を中心とする水産業には、1804年（文化元年）の「御用留」（照沼信邦家文書）の中で、真崎浦で蓮根、鳥の捕獲、蓮葉肉の生産、四ツ手網使用による漁獲、三陵の生産、鯉・鮒漁業の6種類が記録され、これらの生産や捕獲に対して藩が運上金を課している¹⁵⁾。また、1803年（享和3年）正月の年号をもつ「乍恐書付奉申上候事」の願書には、「一、小舟壹艘 但しうばかい取舟¹⁶⁾」との記載があり、照沼村と村松西方村では、真崎浦で投網による漁業やうば貝漁が行われていたことがわかる。今回調査された遺構や遺物の中で、多量に出土したうば貝集積地や、鉾、簞といった漁具が確認されている。宗祇の歌からもわかるように、中世から近世にかけての真崎浦の情景を鑑みることができる。

註)

- 1) 東海村の自然調査会『東海村の自然』東海村教育委員会 1994年
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図（地図編）（地名表編）』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 東海村史編さん委員会『東海村史 通史編』東海村教育委員会 1992年
- 4) 小川和博『石神城跡』東海村教育委員会 1992年3月
- 5) 茨城県史編集会『茨城県史料 中世編Ⅳ』茨城県 1991年3月25日
- 6) 茨城地方史研究会『茨城の歴史 県北編』2002年5月31日
- 7) 前掲文献5)に同じ
- 8) 前掲文献5)に同じ
- 9) 佐藤次男「伝説 千々乱風」『茨城県史研究』32 茨城県史編さん委員会 1975年8月
- 10) a 東海村史編さん委員会『村の歴史と群像』東海村教育委員会 1991年3月
b 東海村立図書館『東海村諸家文書史料』東海村 1996年9月
- 11) 芳賀友博・寺内久永「村松白根遺跡1 大強度陽子加速器施設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第250集（財）茨城県教育財団 2005年3月
- 12) 杉沢季展「長砂渚遺跡 常陸那珂港関連用地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第278集（財）茨城県教育財団 2007年3月
- 13) a 中根節男「沢田遺跡 常陸那珂港関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第52集（財）茨城県教育財団 1989年3月
b 鯉淵和彦・新井聡「沢田遺跡 常陸那珂港関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第77集（財）茨城県教育財団 1991年3月
c 後藤哲也「沢田遺跡 一般県道水戸那珂湊線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第95集（財）茨城県教育財団 1995年3月
d 川又清明「沢田遺跡 国営常陸海浜公園整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第115集（財）茨城県教育財団 1996年3月
e 真崎紀雄「沢田遺跡 国営常陸海浜公園整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第161集（財）茨城県教育財団 1999年3月
- 14) 前掲文献3)に同じ
- 15) 前掲文献3)に同じ
- 16) 前掲文献3)に同じ

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

村松白根遺跡は、十三詣で有名な村松虚空蔵堂の東約0.6 kmの日本原子力研究開発機構敷地内に位置している。調査範囲は大強度陽子加速器施設建設予定地内の東西約200m、南北約550mに広がり、遺構は標高3 mから標高10mの砂質土層の中で確認されている。

調査区は便宜上、1～9区に分けられている（第1図）。平成15年度は1～6区の47,630㎡を調査し、製塩跡、建物跡、墓域等が確認され、2～4区については平成16年度に「村松白根遺跡1」で報告されている。平成16年度は7～9区の15,480㎡を調査し、建物跡、墓域等が確認された。今回報告するのは、1・5～9区の31,050㎡である。調査の結果、中世後半以降の大規模な製塩跡と関係する建物跡、畝状遺構、土墳墓等が確認されていることから、製塩にかかわった人々が生活していた集落跡であることが判明した。

遺構は、土手状遺構3か所、建物跡60棟、整地面68か所、井戸跡3基、畝状遺構2か所、炉跡99基、竈1基、粘土貼土坑226基、土坑742基、溝跡1条、流路跡1条、貝集積地31か所、集石1か所、ピット群23か所、区画状遺構3か所、不明遺構3か所、土墳墓57基、土壇10基が確認されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で91箱分出土しており、土師質土器（小皿・皿・内耳鍋・焙烙・香炉）、陶磁器（皿・丸皿・折縁皿・稜皿・鉄絵皿・染付皿・天目茶碗・播鉢・甕）、土製品（管状土錘・土錘・面）、木器（木杭・横板）、金属製品（小刀・小柄・切羽・鎌・鉾・包丁・火打金・釘・耳金・吊金具・鍵・釣針・鉄鍋・筭・毛拔・煙管）、古銭、石器（石臼・石鉢・火打石・砥石）、石製品（硯）、骨角製品（筭・サイコロ）、人骨、獣骨（犬・馬等）などである。

第2節 基本層序

高エネルギー加速器研究機構の「高エネ研（東海）大強度陽子加速器施設地盤調査(2)」によると、調査区O11区付近は地表面の標高9.7mから海拔0.4mまでは沖積層であり、標高約4 mまで均一な砂層を主体に形成され、それ以下は所々薄層の腐植土が挟在する砂質土層である（第3図）。当遺跡は砂丘上に黒色土を主体とした盛土を生活面としており、腐植土と遺構確認面の標高がほぼ一致している。砂層と盛土の堆積状況が明確な8区の南部（O10i7区）において、地表面の表砂から遺構確認面までの土層観察を行った（第4図）。以下、土層の解説を行う。

第1層はオリーブ黒色の腐植土を含む砂層で、礫や粗砂混じりの砂を主体としている。粘性・締まりはともに弱い。層厚は約10cmである。

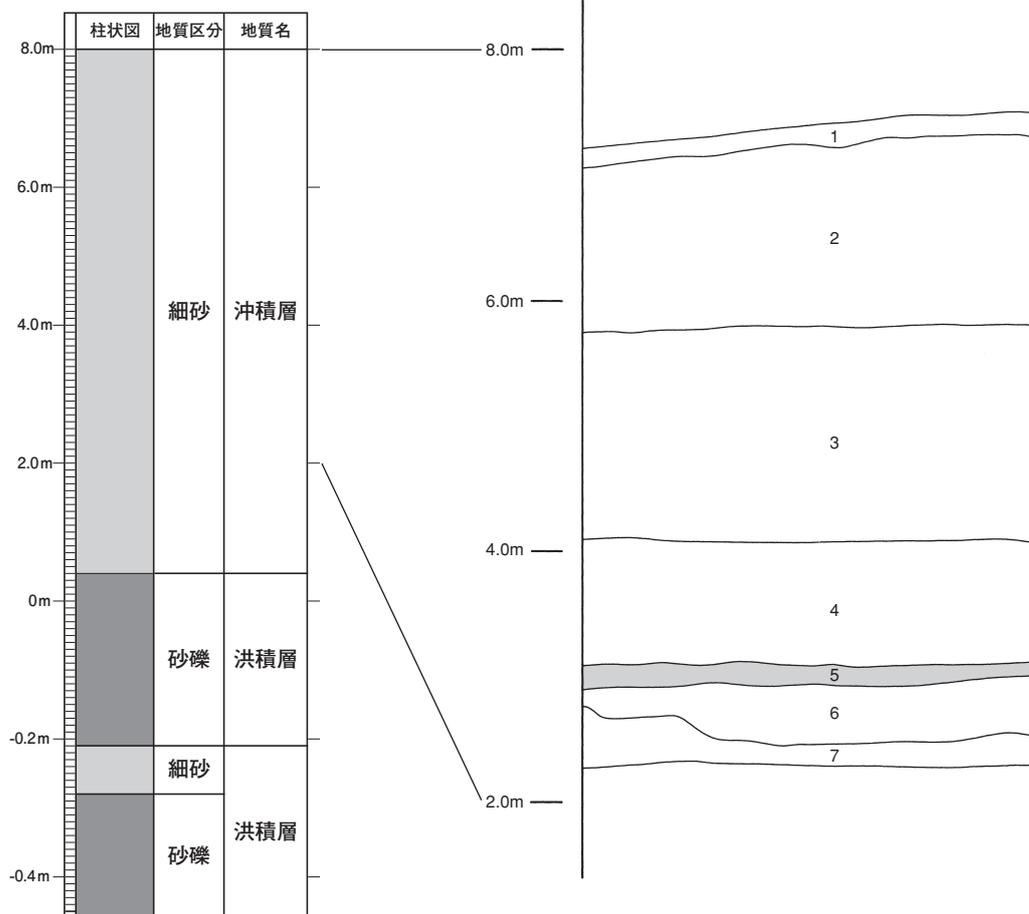
第2層はオリーブ黄色の砂層で、粗砂を主体とし、石英・長石・貝殻片を少量含んでいる。粘性・締まりはともに弱い。層厚は140～160cmである。

第3・4層は灰オリーブ色の砂層で、細砂を主体とし、石英・長石・貝殻片を少量含んでいる。粘性・締まりはともに弱い。第3層の層厚は約160cm、第4層の層厚は約100cmである。

第5層はオリーブ黒色の黒色土層で、那珂台地地表層を構成する火山灰土層最上部の黒ボク土を主体に炭化物・貝殻片を混入させたものである。粘性は普通で締まりは強い。層厚は約20cmである。

第6・7層は黄灰色の砂層で、細砂と粗砂を主体とし、石英・長石と黒色を呈する安山岩の岩石片などを少量含んでいる。粘性は弱く締まりは普通である。第6層の層厚は20~60cm、第7層の層厚は下層が未掘のため本来の厚さは不明である。

なお、遺構は第5層の黒色土層から確認されている。



第3図 高エネ研（東海）大強度陽子
加速器施設地盤調査(2)
ボーリング柱状図

第4図 基本層序

第3節 遺構と遺物

「村松白根遺跡1」では、遺構の関連性から各遺構ごとに報告している。今回は遺構を構築している黒色土の範囲から、前回の調査区と隣接する第9区、調査区が離れていて遺構の様相が異なる第1区と第7区、集落構成が分けられる第5・6・8b区、第8区に分けて報告する。

また、各遺構の判断基準は、下記のとおりである。

- 1 土手状遺構は、黒色土を客土した整地面の上に黒色土を盛り上げて、建物跡を区画していると認められるものとする。
- 2 建物跡は、原則的に以下の条件を満たす遺構を建物跡とする。建物跡の用途は、生活の場、作業場、倉庫などが想定される。
 - (1) 床面と考えられる黒色土を貼り付けた締まりのある平坦な面があるもの。遺構によっては、複数の生活面が認められるものがある。
 - (2) 上屋を想定できる柱穴が配されているもの。
 - (3) 炉が設けられているもの。
 - (4) 生活にかかわる遺物が出土しているもの。
 - (5) 当遺跡が砂丘上にあることから(1)～(4)までの条件は満たさないが調査で建物跡と判断できたもの。
- 3 整地面は、黒色土を主体として構築された平坦な面で、調査で整地面と判断できたものとする。整地面の用途は、広場や作業場などが想定される。
- 4 炉は、黒色土で構築され、底面から焼砂が検出されたものとする。
- 5 粘土貼土坑は、黒色土の上に粘土を貼り付けて構築しているものとする。
- 6 土坑は、黒色土で構築されたものとそうでないものがある。
- 7 貝集積地は、捨てられた貝と目的をもって集められた貝とが考えられる。貝種の和名、分類及び記載は、原則として『エコロン自然シリーズ貝』に拠る。

なお、建物跡や整地面に伴うと判断された炉、粘土貼土坑、土坑、貝集積地はその項目中で報告し、伴わないと判断されたものは、後の項目で報告する。

1 9区の遺構と遺物

土手状遺構2か所、建物跡12軒、整地面15か所、井戸跡2基を確認した。また、建物跡や整地面に伴わない炉6基、粘土貼土坑10基、土坑139基、貝集積地1か所、ピット群4か所、土壇墓48基、土壇6基を確認した。以下、各項の遺構と遺物について記述する。

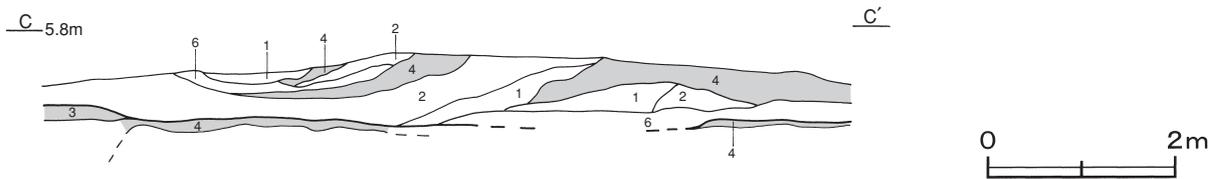
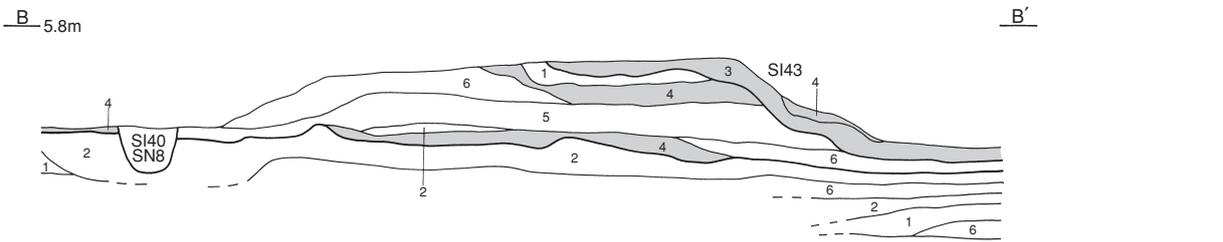
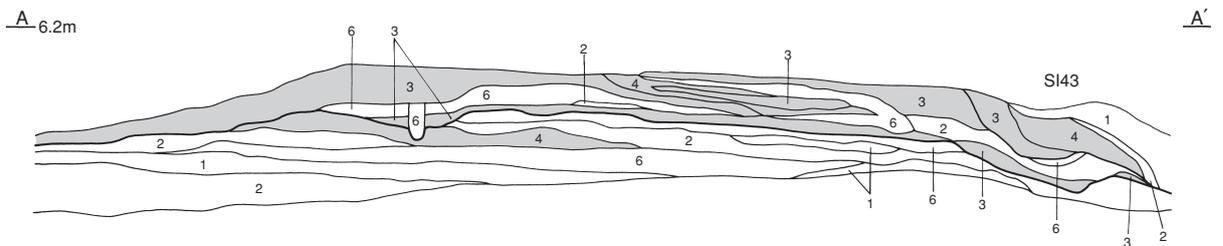
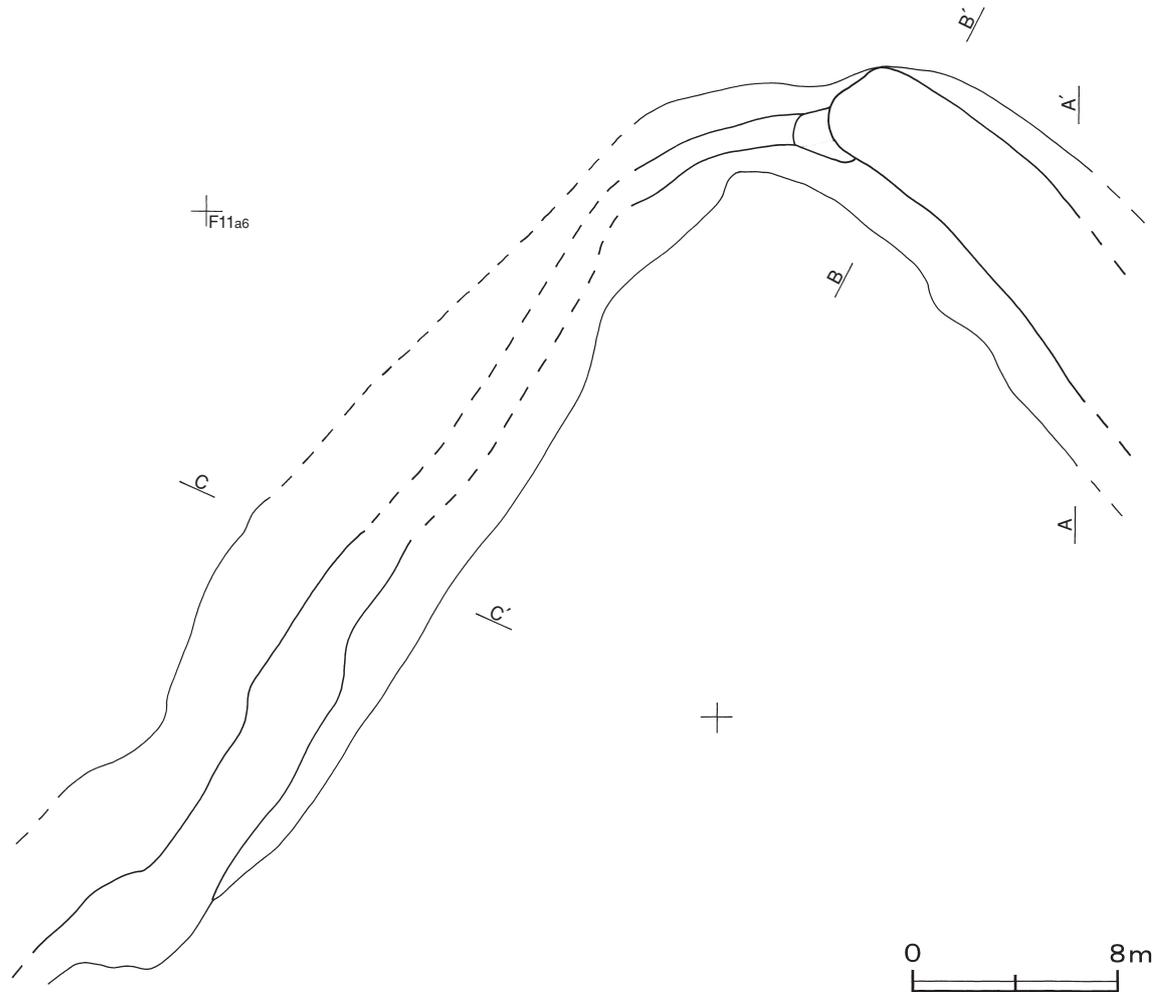
(1) 土手状遺構

第1号土手状遺構（第5図）

位置 調査区中央部のE11i4～F12h4区に位置している。第250集で報告されている第2区の第1号溝跡とつながり、第4区の第16号建物跡や第9号釜屋跡へ延びている。南側には第39・40号建物跡、北側には第43号建物跡が位置している。

確認状況 表砂を約4.7m除去し、標高約5.8mで黒色土面が確認された。

重複関係 第40号建物跡の北部の上面に黒色土を貼り付け、第39・43号建物跡を画するように構築されている。



第5図 第1号土手状遺構実測図

規模と形状 F 11h4区から北東方向（N-35°-E）にほぼ直線的に延び、E 12i1区から南東方向にほぼ直角に屈曲して緩やかに高まりながら、第4区の第16号建物跡の方向に延びてL字状を呈している。西側は調査区域外に延びるため、西部の長さ約45m、上幅約4.2～5.3m、下幅約8.1～8.9m、高さ約0.2mだけ確認された。形状はかなり崩れているが、断面は台形と推定される。東部は長さ約16m、上幅約3.5～4.2m、下幅約6.5～7.2m、高さ0.2～0.6mで、断面は台形である。土層断面図中のA-A'から、土層は砂B層、黒色土A層、黒色土B層を何回も重ねて構築され、上面の締まりは強い。

所見 平成15年度の第2区の調査で、中央部がややくぼむ第1号溝跡として報告されている。今回の調査で、それに続く北東方向に延びる低い土手と高まりながら南東方向に延びる土手を確認したことから、同一の遺構と判断し合わせて記述した。この土手状遺構は、建物跡を画し北東の風から建物を守る役目と盛土の締まりが強いことから第4区の建物跡や釜屋跡への通路として利用していたと考えられる。出土遺物はないが、土層断面から第43号建物以降に構築されたものである。

第2号土手状遺構（第6・7図）

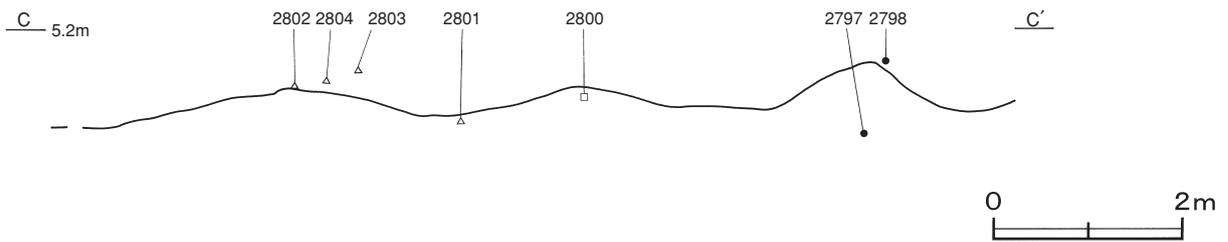
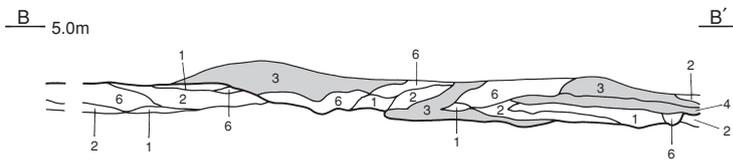
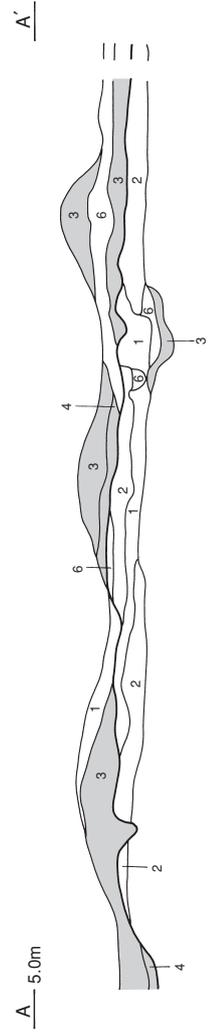
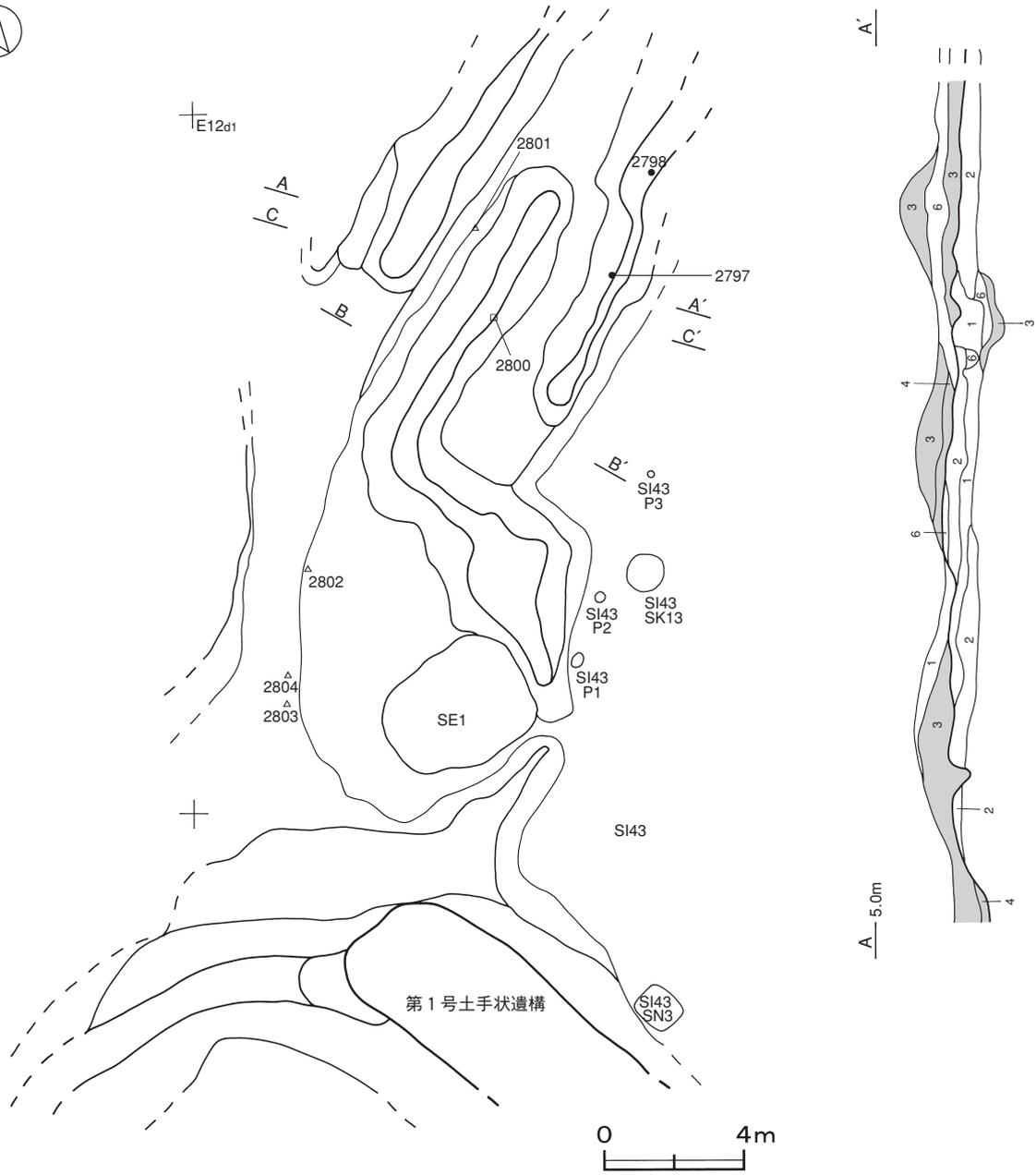
位置 調査区北部のE 12c1～E 12h4区に位置している。第1号土手状遺構の北側に構築されており、東側には第43号建物跡が位置している。

確認状況 表砂を約5.7m除去し、標高約4.8mで黒色土面が確認された。

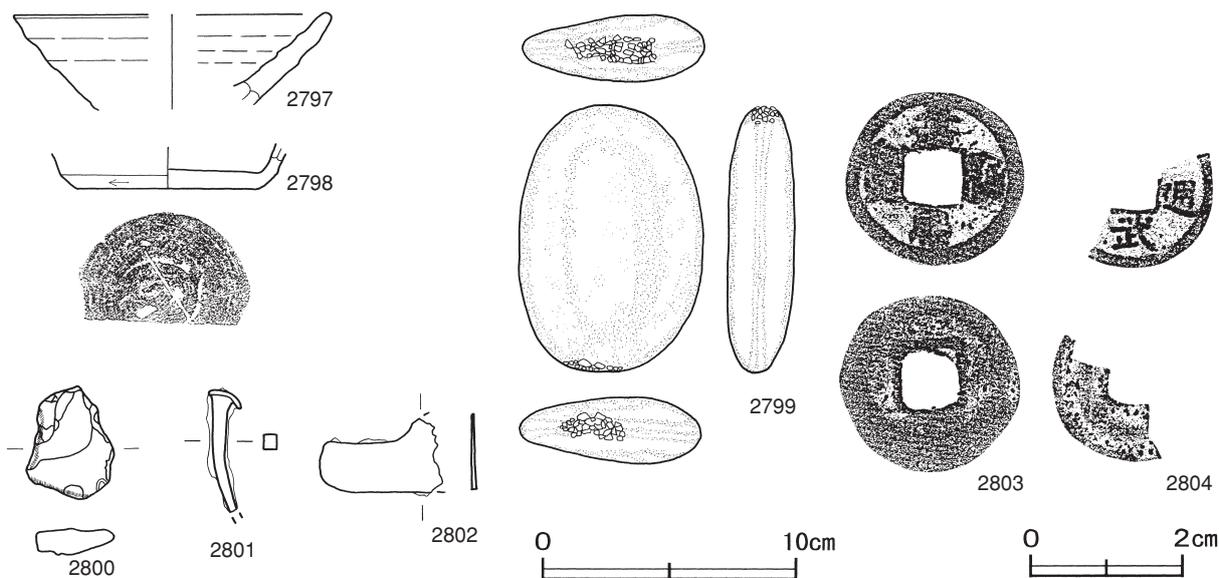
規模と形状 3か所の土手状の高まりが確認され、いずれも北東方向（N-30°-W）に延びている。東側の土手は調査区域外に延びているため、長さ約10m、上幅0.4～1.0m、下幅1.2～1.9m、高さ0.2～0.4mだけ確認された。中央の土手は、長さ約16m、上幅約0.7～2.2m、下幅2.9～3.5m、高さ0.2～0.4mで、L字状に構築されている。西側の土手は調査区域外に延びているため、長さ約9m、上幅0.4～1.1m、下幅1.5～2.2m、高さ0.2～0.4mだけ確認された。断面はいずれも台形である。東側の土手は、第43号建物画するように、中央の土手は第43号建物から突き出た後、東側の土手と平行に延びたL字状に構築されている。

遺物出土状況 土師質土器片16点（皿7、鍋9）、陶器片2点（皿、甕）、須恵器片1点（坏）、石器3点（敲石1、火打石2）、金属製品4点（火打金1、釘1、古銭2）が出土している。2797・2798は東側の土手の黒色土上面、2800・2801は中央の土手の黒色土中、2802～2804は第1号土手状遺構と第2号土手状遺構の間の南部黒色土中からそれぞれ出土している。2798は盛土として持ち込まれた黒色土に含まれていたと考えられる。

所見 遺構が北側の調査区域外に延びているため、全体の形状を捉えられなかった。東側の土手の形状は崩れているが、第43号建物を区画し、北東側に延びていたと推定される。中央の土手は、第43号建物の出入り口部分画している可能性が考えられる。



第6図 第2号土手状遺構実測図



第7図 第2号土手状遺構出土遺物実測図

第2号土手状遺構出土遺物観察表（第7図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2797	皿	土師質土器	[12.4]	3.7	-	雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ	東側土手黒色土上面	20%
2798	坏	須恵器	-	(1.7)	[7.2]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	東側土手黒色土上面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2799	敲石	10.6	7.3	2.6	299.0	砂岩	両端に敲打痕	覆土中	
2800	火打石	3.5	4.5	1.0	19.3	瑪瑙	一部の稜が摩滅	中央部土手黒色土中	
2801	釘	(5.0)	0.5	0.6	(11.5)	鉄	先端部欠損	中央部土手黒色土中	
2802	火打金	(4.9)	(2.9)	0.2	(11.8)	鉄	山型 打撃部やや厚い 孔有り	南部黒色土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2803	嘉祐通寶	2.41	0.75	0.09	3.02	1056	銅	篆書	南部黒色土中	
2804	-武通-	-	-	0.08	(0.72)	1368	銅	真書 欠け 洪武通寶カ	南部黒色土中	

(2) 建物跡

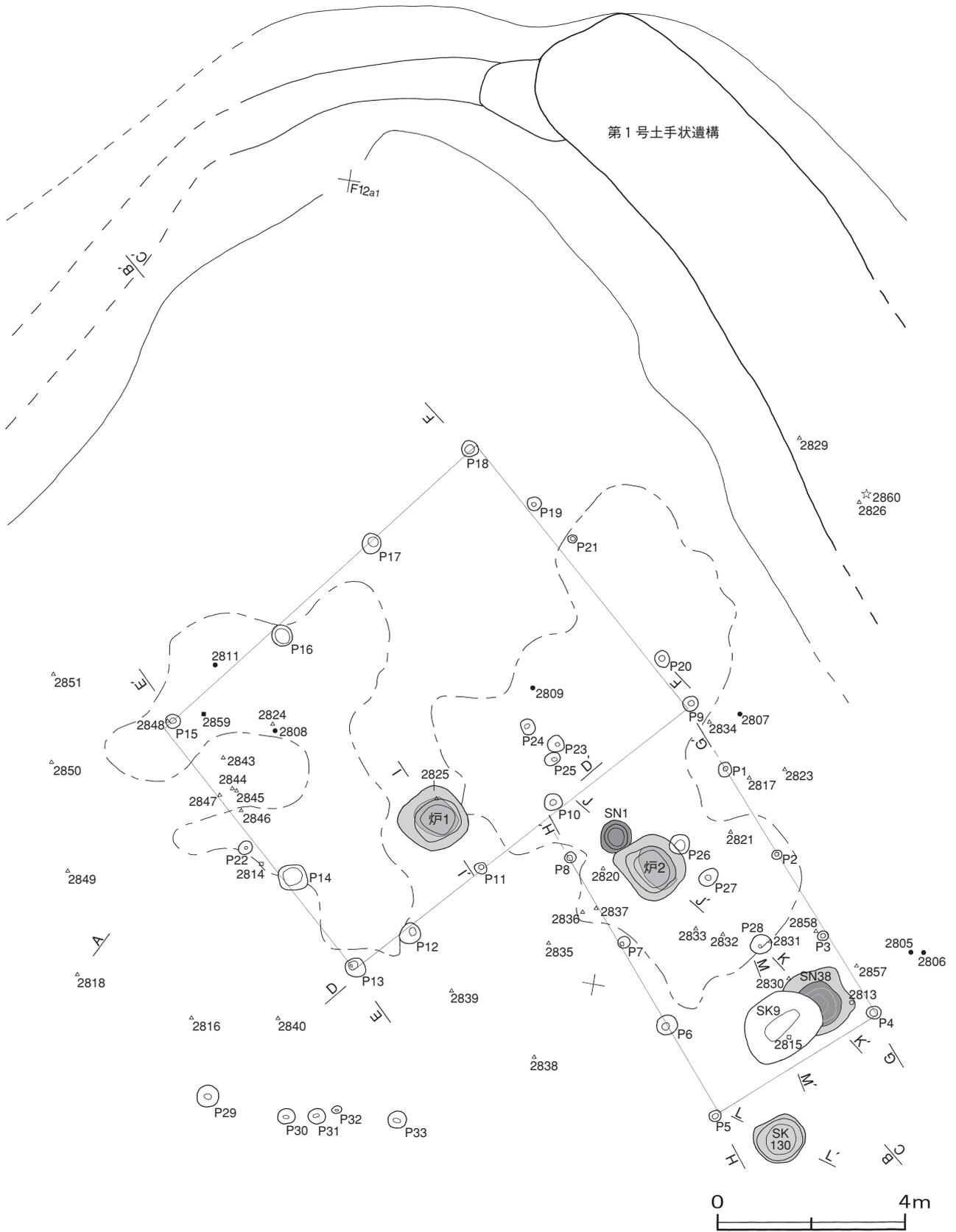
第39号建物跡 9区S I - 1 (第8~14図)

位置 調査区中央部のF12d2区を中心に位置している。北側には、第1号土手状遺構が隣接している。

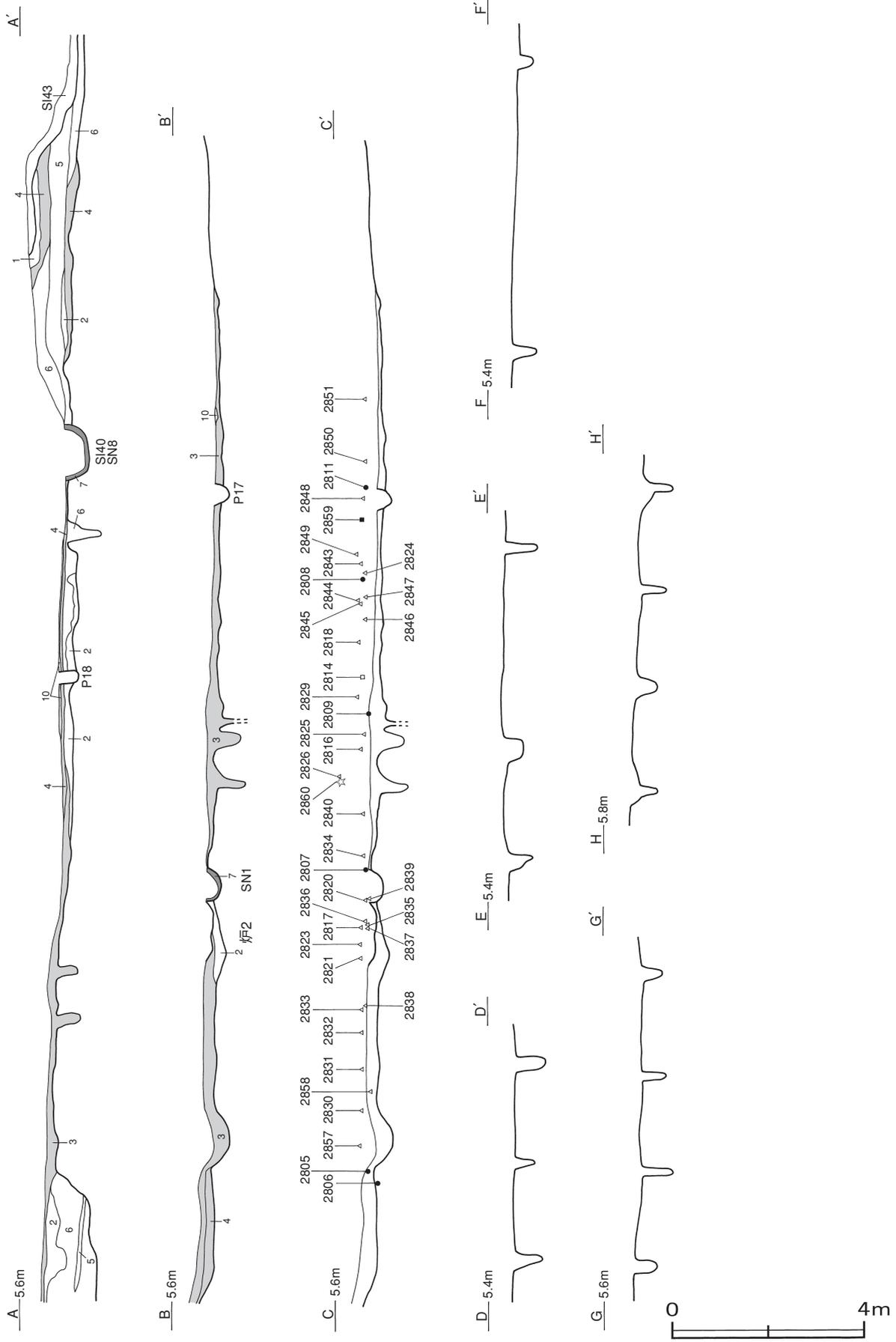
重複関係 第40号建物跡の上面に構築されている。

確認状況 表砂を約5.4m除去し、標高約5.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、土坑、粘土貼土坑、北東に並ぶ柱穴12か所と南東に並ぶ柱穴8か所、さらに黒色土面を除去して土坑と粘土貼土坑が確認された。

規模と施設 建物跡の床面として硬化している黒色土面の範囲は、長軸19.5m、短軸15.2mの不定形で、長軸方向はN-35°-Wである。炉2基、粘土貼土坑2基、土坑2基が構築されている。桁行3間、梁行2間の北東棟の建物跡と、桁行3間、梁行1間の北西棟の建物跡が隣接している。北東棟の桁行方向はN-45°-E、規模は桁行が9.1m、梁行が7.2mで、面積は65.5㎡である。柱間寸法は不規則である。北西棟の桁行方向はN-42°-W、規模は桁行6.5m、梁行4.1mで、面積は10.6㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m、梁間が3.9mを基調としている。付属施設として、炉2基、粘土貼土坑2基、土坑2基が構築されている。



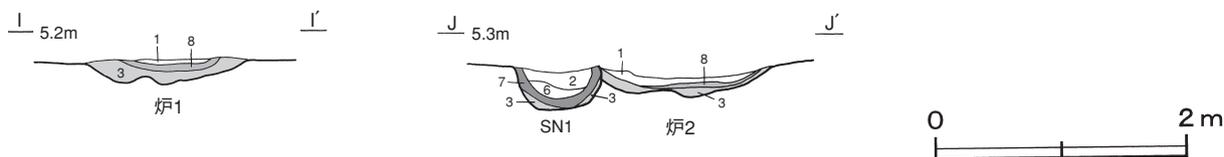
第8図 第39号建物跡実測図(1)



第9图 第39号建物跡实测图(2)

床 ほぼ平坦で、厚さ10～22cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉1の西部と炉2の周囲から硬化した黒色土が確認された。

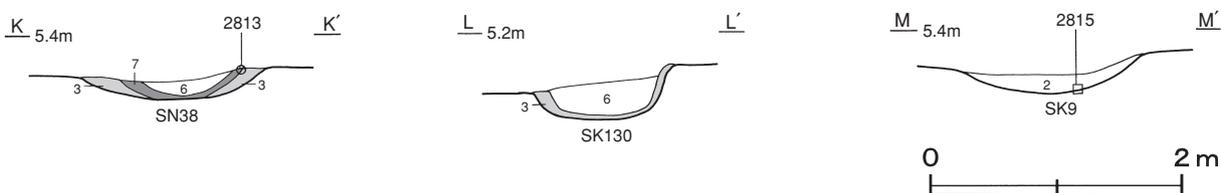
炉 (第10図) 炉1は北東棟の東部、炉2は北西棟の中央部に位置している。炉2は第1号粘土貼土坑と並んで構築されている。炉1は厚さ7～13cm、炉2は厚さ7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。最下層の覆土から、第8層の焼砂が検出されている。



第10図 第39号建物跡炉・粘土貼土坑土層図

ピット 33か所。P1～P8は深さ40～66cmで、北西棟を支えた主柱穴と考えられる。P14・P16は深さ18・13cm、P9～P13・P15・P17～P20は深さ30～70cmで、北東棟を支えた柱穴と考えられる。P21～P28は深さ35～90cmで、北東棟の上屋を支えた柱穴か間仕切りをした柱穴と考えられる。P29～P33は深さ27～46cmで、性格は不明である。

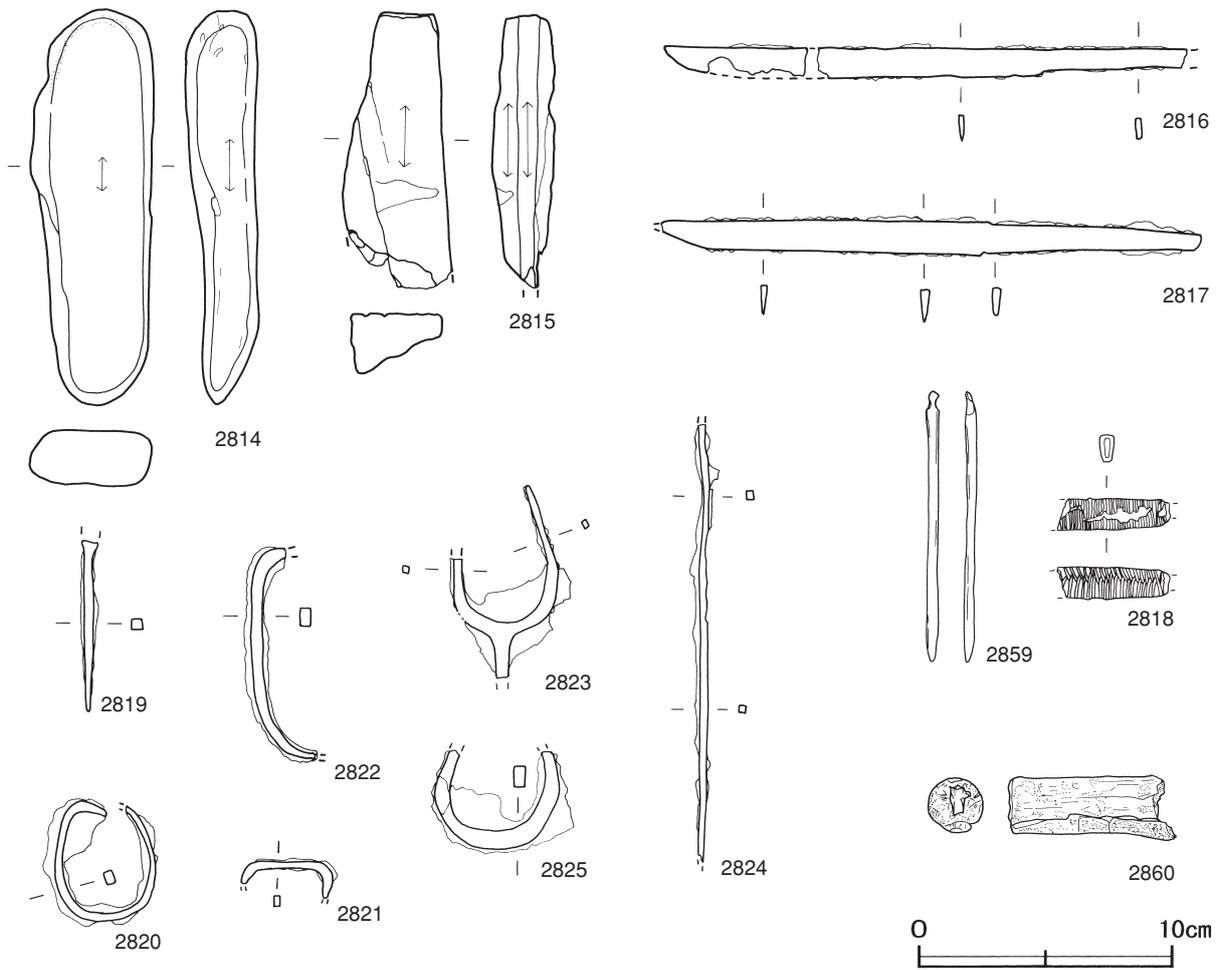
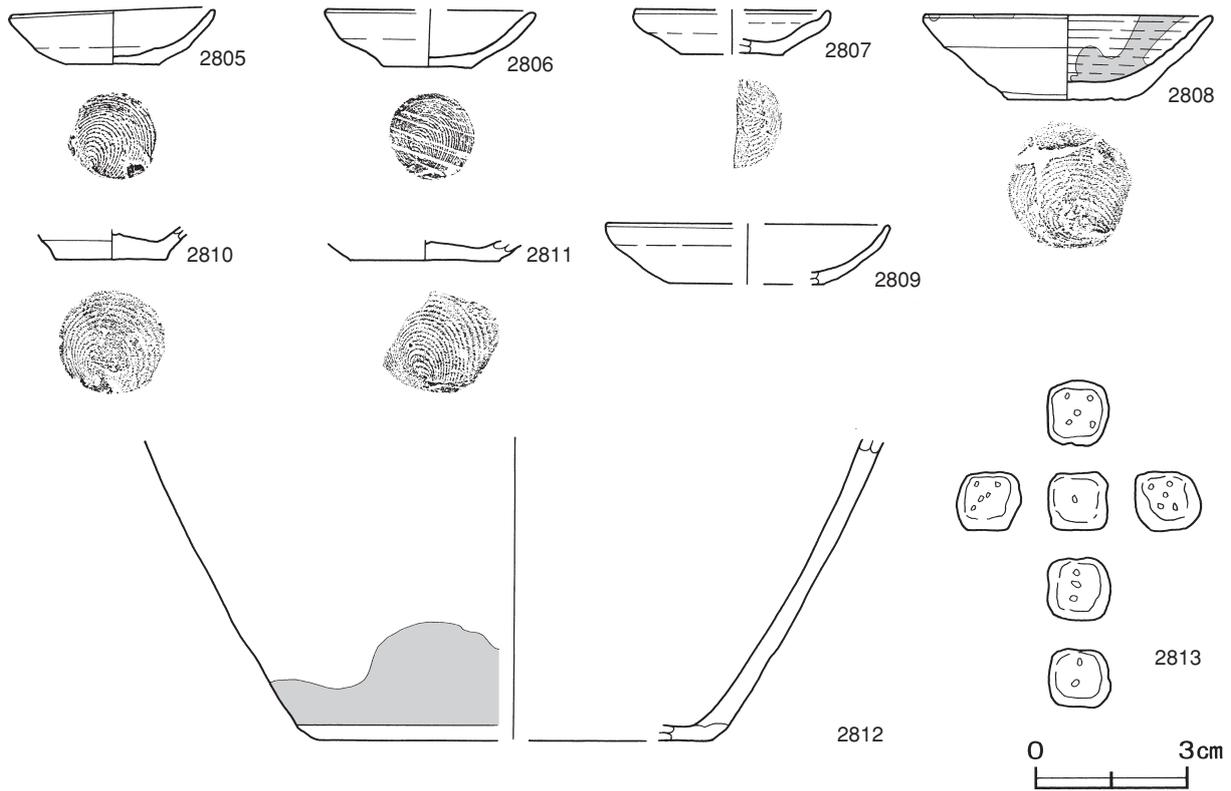
土坑 (第10・11図) 第1・38号粘土貼土坑、黒色土で構築された第130号土坑と第9号土坑があり、いずれも北西棟側に位置している。第1号粘土貼土坑は黒色土面、第38号粘土貼土坑、第9・130号土坑は黒色土面の下層から確認され、第9号土坑は第38号粘土貼土坑を掘り込んでいる。第1・38号粘土貼土坑は厚さ2～6cmの粘土、第130号土坑は厚さ5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



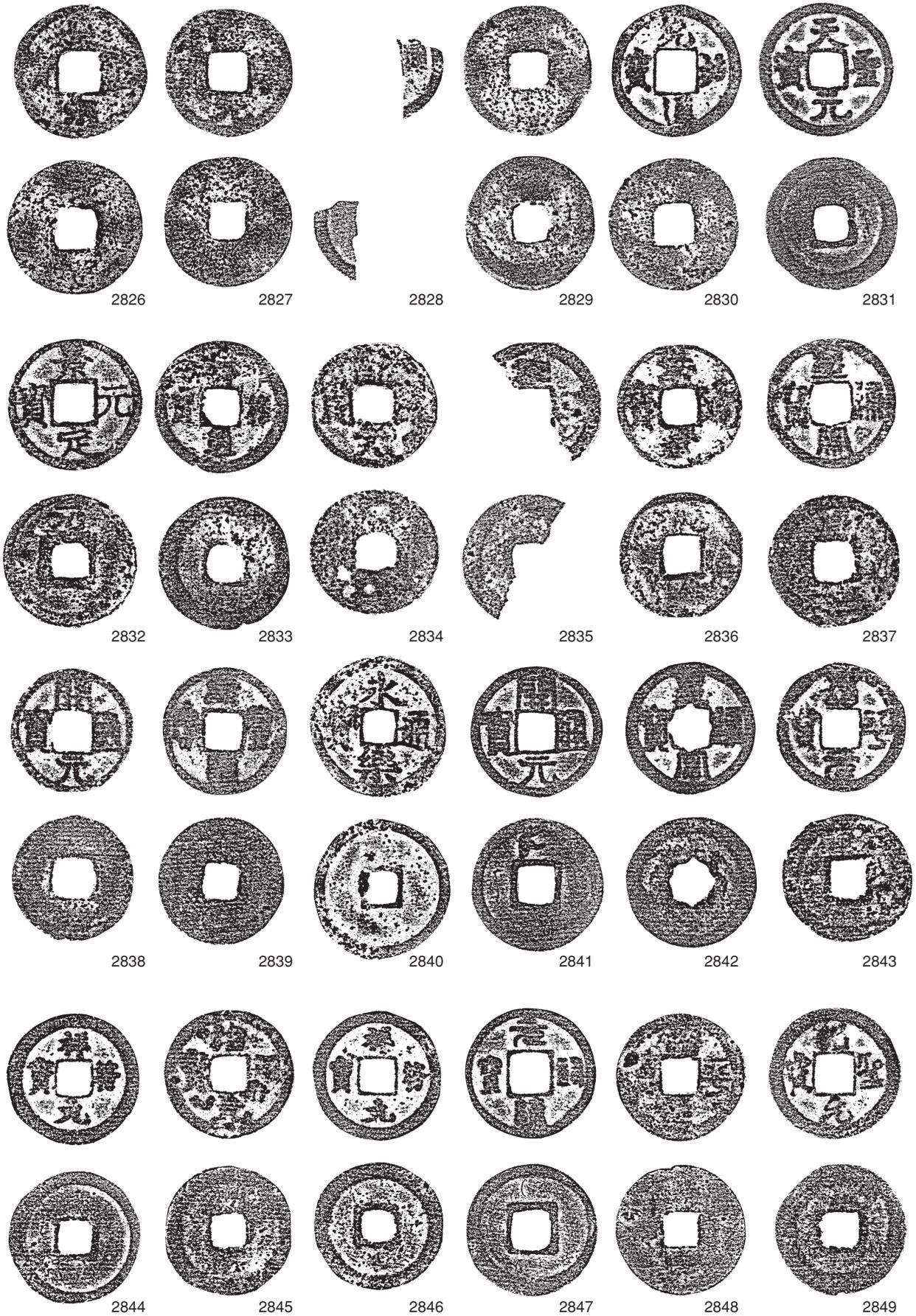
第11図 第39号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片83点(小皿4, 皿56, 鍋23), 陶器片3点(皿2, 甕1), 磁器片1点(碗), 土製品1点(サイコロ), 石器4点(砥石), 金属製品41点(小刀3, 釘2, 鏝1, 耳金1, 簪1, 古銭33), 骨角製品1点(筭), 木製品1点(柄)が出土している。遺物は炉1の西部と炉2付近の黒色土上面から散在した状態で出土している。2805～2807・2809は炉2付近, 2808・2811は炉1の西部から出土している。古銭は炉1付近から7枚, 炉2付近から10枚確認され, 合計で33枚出土している。最新銭は2851の永樂通寶である。2813は第38号粘土貼土坑内, 2815は第9号土坑内から出土している。陶磁器片は, 常滑の甕と龍泉窯系の青磁碗であるが細片のため図示できなかった。

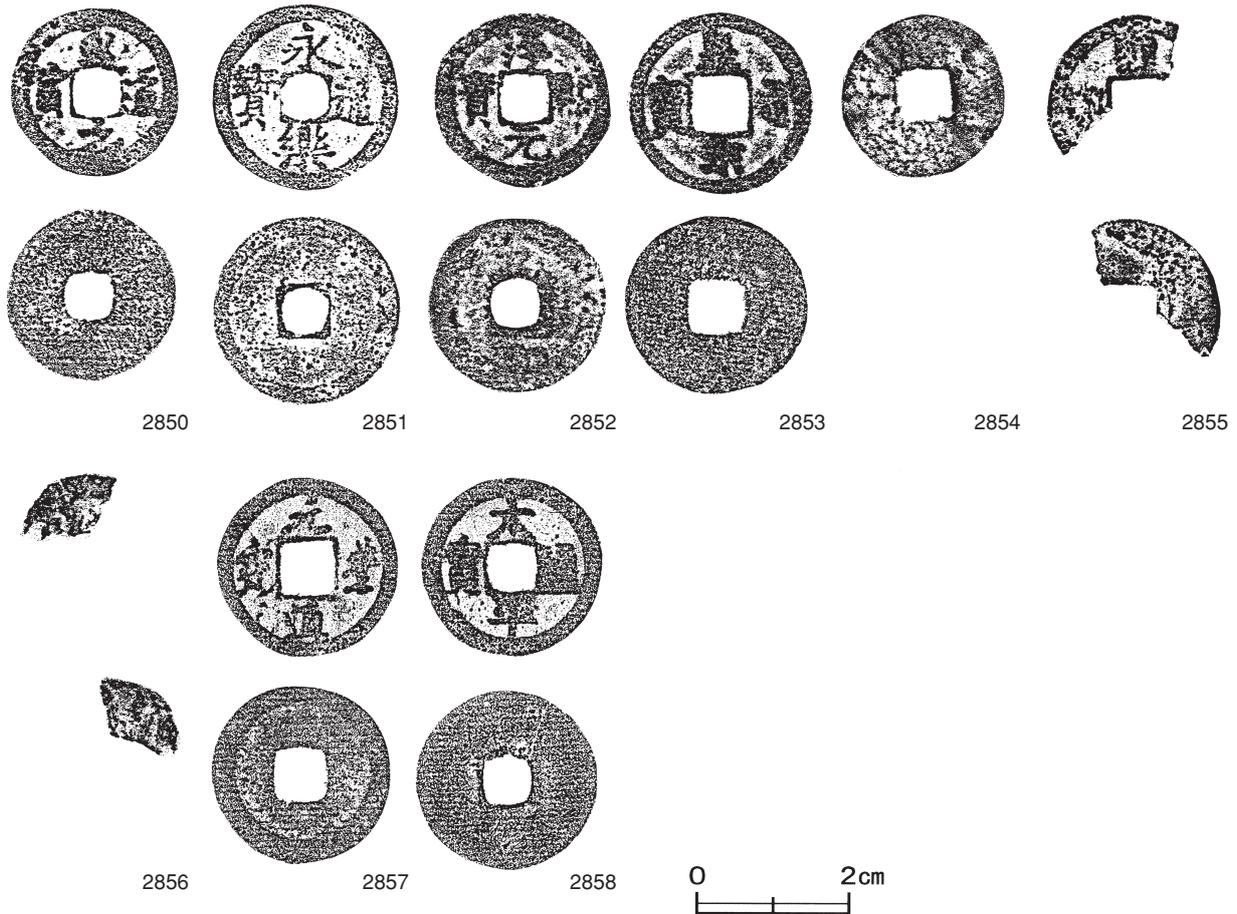
所見 桁行3間, 梁行2間の北東棟と, 桁行3間, 梁行1間の北西棟が隣接している。柱の軸線は多少異なるが, 曲屋的構造の建物の可能性も考えられる。主たる生活地点は, 建物跡の規模から北東棟とみられ, 炉と粘土貼土坑が並んで確認された北西棟が調理場として機能していたと推定される。黒色土面下から確認された土坑や粘土貼土坑は, 下面から確認された第40号建物跡が16世紀前半と考えられることから, それ以降の建物跡といえるが, 砂層をはさまない同一の黒色土内であり大きな時期差は認められない。



第12图 第39号建物跡実测图



第13図 第39号建物跡出土遺物実測図(2) [古銭は原寸大]



第14図 第39号建物跡出土遺物実測図(3)

第39号建物跡出土遺物観察表 (第12~14図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2805	小皿	土師質土器	8.0	2.2	3.6	雲母	橙	普通	内底面横ナデ	炉2付近黒色土上面	95% PL72
2806	小皿	土師質土器	[8.4]	2.3	3.4	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部回転糸切り後スノコ状圧痕	炉2付近黒色土下	60%
2807	小皿	土師質土器	[7.5]	1.8	[4.0]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	炉2付近黒色土上面	20%
2808	皿	土師質土器	[11.2]	3.5	4.8	雲母	にぶい褐	普通	内底面横ナデ 外面油煙付着	炉1西部黒色土上面	80% PL79
2809	皿	土師質土器	[11.0]	2.4	[6.0]	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ	炉2付近黒色土上面	20%
2810	皿	土師質土器	-	(1.3)	4.3	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	30%
2811	皿	土師質土器	-	(0.8)	[5.8]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	炉1西部黒色土上面	10%
2812	内耳鍋	土師質土器	-	(12.1)	[15.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ナデ 外面煤付着	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
2813	サイコロ	1.2	1.2	1.3	1.9	長石・雲母	6面中「5」が3面カ	SN38内	PL83
2814	砥石	15.7	4.9	2.8	294.0	安山岩カ	砥面2面 断面楕円形	中央部砂層	
2815	砥石	(10.9)	4.3	2.6	(118.9)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	SK9内	
2816	小刀	(20.7)	1.2	0.2~0.3	(17.7)	鉄	刀身・茎尻部欠損	南部黒色土上面	
2817	小刀	(21.3)	1.4	0.2~0.3	(34.9)	鉄	ほぼ完存 刃先欠損	中央部黒色土上面	PL91
2818	小刀	(4.9)	(1.2)	0.5	(7.1)	鉄	茎部 柄巻遺存	南部砂層	PL90
2819	釘	6.8	0.4	0.4	6.8	鉄	頭部欠損	覆土中	
2820	釘	4.8	0.3	0.5	(19.5)	鉄	O字状に湾曲折釘	中央部砂層	
2821	鏝	(1.5)	3.6	0.4	(3.0)	鉄	先端部扁平	中央部黒色土上面	
2822	耳金	(8.3)	0.4	0.7	(23.0)	鉄	両端部欠損 緩やかに湾曲	覆土中	
2823	箝	(7.3)	4.3	0.3~0.4	(24.9)	鉄	断面方形 2本箝	中央部砂層	
2824	棒状金具	(17.6)	0.3	0.3	(8.3)	鉄	断面方形 両端部欠損	中央部黒色土上面	
2825	不明鉄製品	(3.9)	5.0	0.5	(17.3)	鉄	U字状に湾曲	中央部黒色土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
2859	筭	10.8	0.5	0.4	2.5	骨角	完存 胴部から竿部は直線的	中央部黒色土上面	PL70
2860	柄	(6.6)	2.6	2.2	(20.4)	木製	木質部のみ遺存 断面円形	北部砂層	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2826	皇宋通寶	2.48	0.75	0.14	3.12	1038	銅	真書	北部砂層	
2827	□□元寶カ	2.37	0.66	0.10	2.70	-	銅	真書	覆土中	
2828	--通-	-	-	0.13	(0.64)	-	銅	真書 欠け	覆土中	
2829	□□□□	2.36	0.65	0.11	2.90	-	銅	判読不能	北部砂層	
2830	元祐通寶	2.40	0.74	0.10	0.68	1086	銅	行書	中央部黒色土上面	
2831	天聖元寶	2.43	0.63	0.11	2.94	1023	銅	真書	中央部黒色土上面	
2832	景定元寶	2.45	0.65	0.12	3.18	1260	銅	真書 背上「元」	中央部黒色土上面	PL96
2833	祥符元寶	2.44	0.67	0.10	3.24	1008	銅	真書	中央部黒色土上面	
2834	□□元寶	2.30	0.68	0.11	2.48	-	銅	真書 鑄込み不足の穴有り	中央部砂層	
2835	□豊--	(2.43)	-	0.10	(1.66)	1078	銅	行書 欠け 元豊通寶カ	中央部黒色土上面	
2836	洪武通寶	2.33	0.58	0.12	2.64	1368	銅	真書	中央部黒色土上面	
2837	皇宋通寶	2.39	0.77	0.12	3.02	1038	銅	篆書	中央部黒色土上面	
2838	開元通寶	2.26	0.75	0.08	1.78	621	銅	真書	南部黒色土中	
2839	元豊通寶	2.33	0.67	0.09	2.38	1078	銅	篆書	中央部黒色土中	
2840	永樂通寶	2.54	0.58	0.13	3.92	1408	銅	真書	南部砂層	
2841	開元通寶	2.45	0.62	0.08	2.72	621	銅	真書 背上「孕星」カ	覆土中	
2842	皇宋通寶	2.39	0.80	0.10	2.94	1038	銅	篆書 星形孔	覆土中	
2843	熙寧元寶	2.38	0.66	0.09	2.64	1068	銅	篆書	中央部黒色土上面	
2844	祥符元寶	2.42	0.61	0.09	2.60	1008	銅	真書	中央部黒色土上面	
2845	治平元寶	2.37	0.66	0.11	3.28	1064	銅	真書	中央部黒色土上面	
2846	祥符元寶	2.38	0.67	0.12	3.48	1008	銅	真書	中央部黒色土上面	
2847	元祐通寶	2.40	0.73	0.10	2.96	1086	銅	篆書	中央部黒色土上面	
2848	熙寧元寶	2.38	0.66	0.08	2.26	1068	銅	篆書	中央部黒色土上面	
2849	紹聖元寶	2.44	0.71	0.13	3.86	1094	銅	行書	西部砂層	
2850	至道元寶	2.27	0.67	0.08	2.42	995	銅	行書	西部黒色土上面	
2851	永樂通寶	2.50	0.56	0.11	2.26	1408	銅	真書	西部黒色土上面	
2852	淳熙元寶	2.35	0.65	0.09	2.80	1174	銅	真書 背上「九」	覆土中	PL96
2853	皇宋通寶	2.47	0.81	0.11	2.90	1038	銅	真書	覆土中	
2854	-	2.12	-	0.04	1.18	-	銅	折れ 判読不能	覆土中	
2855	□--□	-	0.71	0.12	(1.44)	-	銅	欠け 鑄付着 判読不能	覆土中	
2856	-	-	-	0.12	(0.50)	-	銅	欠け 判読不能	覆土中	
2857	元豊通寶	2.41	0.69	0.10	3.32	1078	銅	行書	中央部黒色土上面	
2858	太平通寶	2.43	0.62	0.09	2.94	976	銅	真書	中央部黒色土中	PL96

第40号建物跡 9区S I - 7 (第15~17図)

位置 調査区中央部のF12c1区を中心に位置している。

重複関係 上面に第39号建物, 第1号土手状遺構が構築されている。

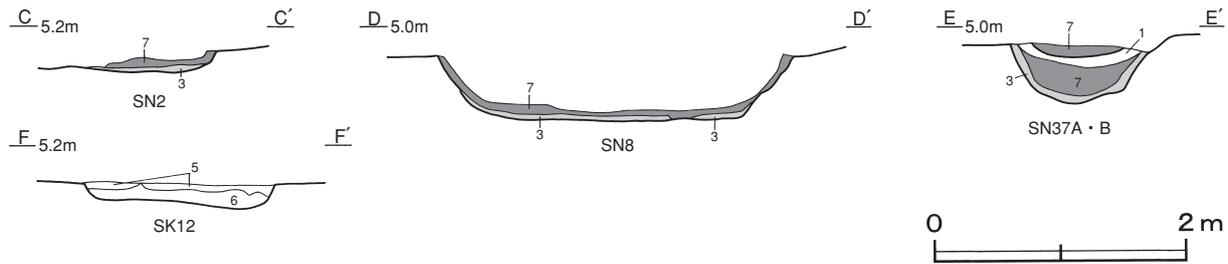
確認状況 第39号建物跡の黒色土を約0.1m掘り下げた標高4.8~5.0mで, ローム土を貼り付けている硬化面, 粘土貼土坑と土坑が確認された。

規模と施設 黒色土面とローム土を貼り付けている範囲は長軸12.3m, 短軸8.1mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-40°-Eである。付属施設として, 粘土貼土坑4基と土坑1基が構築されている。

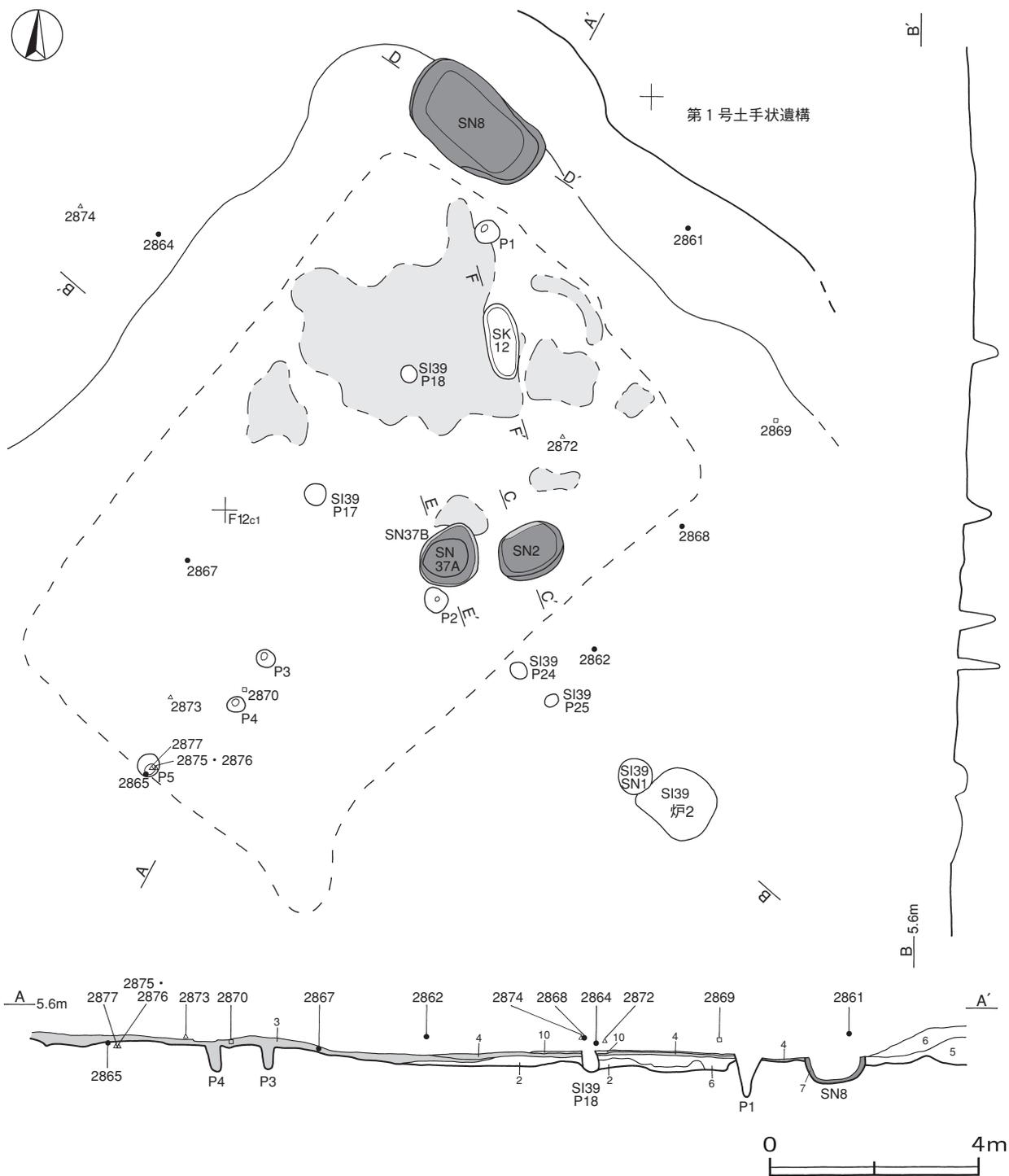
床 ほぼ平坦で, 厚さ4~20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。北東部には約1cmほどに貼られたローム土の硬化面が広がっている。

ピット 5か所。深さ48~70cmで, 不規則な配列のため性格は不明である。

土坑 (第15図) 第2・37A・B号粘土貼土坑は東部, 第8号粘土貼土坑と第12号土坑は北部に位置している。第37号粘土貼土坑は, 2回の作り替えをしている。第2・8・37A号粘土貼土坑は厚さ5~7cmほど, 第37B号粘土貼土坑は厚さ23cmの粘土を貼り付けて構築されている。



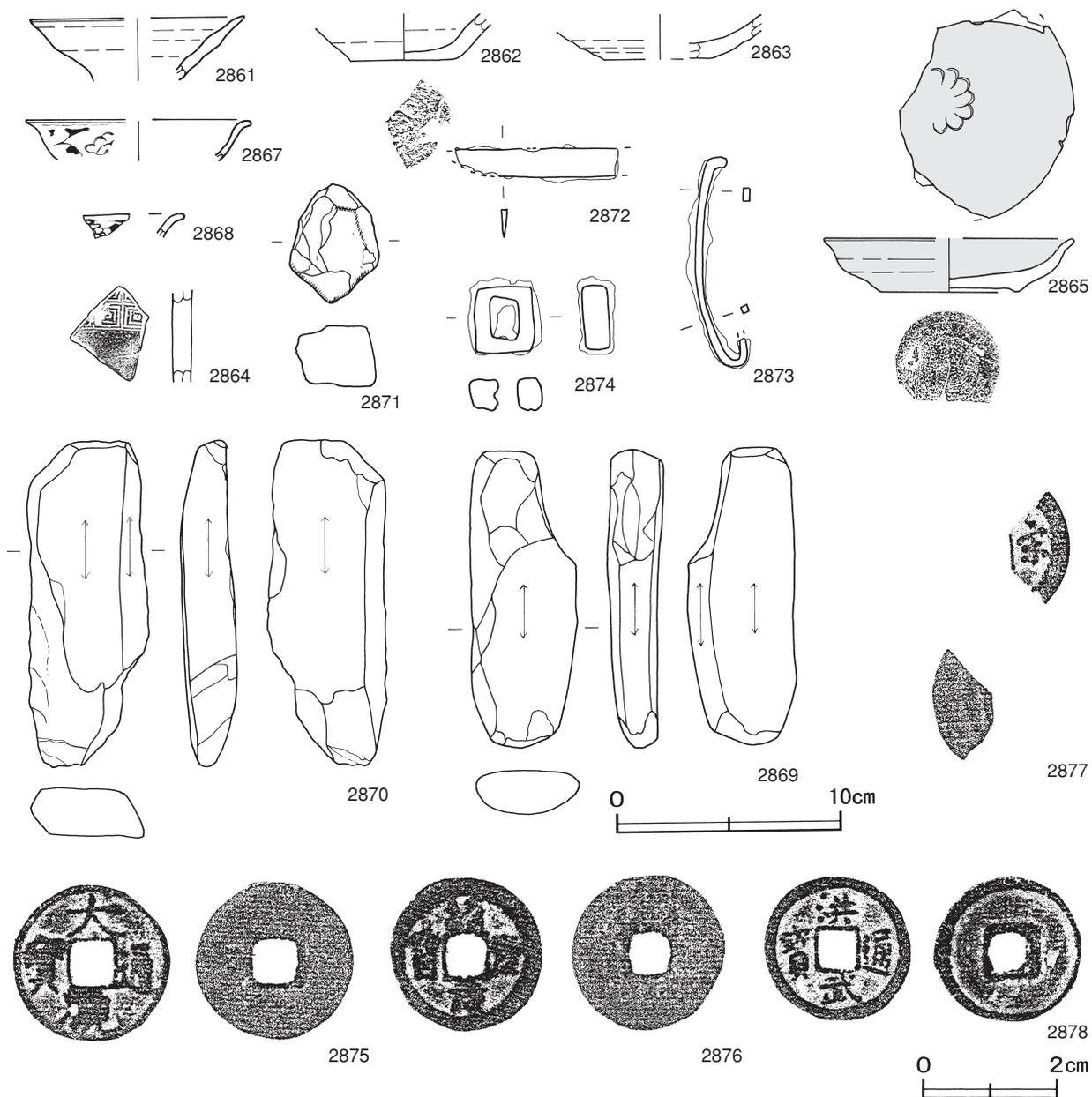
第15图 第40号建物跡土坑土層図



第16图 第40号建物跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片15点（皿9，香炉1，鍋4，甕1），陶器片2点（皿，小壺），磁器片2点（皿），石器4点（砥石2，火打石2），金属製品7点（小刀1，吊り金具1，古銭4，不明1）が出土している。遺物は南部と北部の黒色土上面に散在している。2865・2867は南部の黒色土中，2868は中央部の黒色土上面，2871・2875～2877はP5内からそれぞれ出土している。

所見 ローム土を貼り付けてある北東側は，よく踏み固められていることから土間か作業場として使用されていた可能性が高い。建物内の南側は出土遺物が多いことから，生活の中心であったと考えられる。時期は，黒色土中から出土した2865の皿から16世紀前半と考えられる。



第17図 第40号建物跡出土遺物実測図

第40号建物跡出土遺物観察表（第17図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2861	皿	土師質土器	[9.6]	(2.8)	-	雲母	灰褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	北部黒色土上面	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2862	皿	土師質土器	-	(2.0)	[4.6]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面強い横ナデ	中央部黒色土上面	15%
2863	皿	土師質土器	-	(2.0)	[4.8]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	15%
2864	香炉	土師質土器	-	(4.3)	-	雲母	灰黄褐	普通	体部外面スタンプ文(雷文)	西部黒色土上面	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
2865	端反皿	陶器	[11.0]	2.4	6.0	灰オリーブ・浅黄緑	灰釉	見込みに菊花文高台内輪ドチ痕有り	瀬戸・美濃 16C前半	南部黒色土中	30% 大塚2 PL63
2867	端反皿	磁器	[10.0]	(2.3)	-	灰白・灰白	染付・透明釉	外面唐草文	景徳鎮窯系 16C前半	南部黒色土中	10% B1群
2868	端反皿	磁器	-	(1.0)	-	灰白・灰白	染付・透明釉	外面唐草文	景徳鎮窯系 16C前半	中央部黒色土上面	10% B1群

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2869	砥石	13.4	4.8	2.6	220.0	砂岩	砥面3面 他は剥離面	北部黒色土上面	
2870	砥石	14.8	5.4	2.4	274.0	滑石カ	砥面3面 他は剥離面	南部黒色土中	
2871	火打石	5.3	4.0	2.8	70.1	瑪瑙	一部の稜が摩滅	P5内	
2872	小刀	(7.4)	(1.3)	0.2	(11.9)	鉄	刃先・刃部欠損	中央部黒色土上面	
2873	釘カ	(9.6)	0.3	0.6	(16.2)	鉄	断面方形 頭部・先端部屈曲	南部黒色土上面	
2874	不明鉄製品	3.5	3.4	1.8	38.1	鉄	断面方形 方形に巡る	西部黒色土上面	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2875	大観通寶	2.40	0.64	0.09	2.90	1107	銅	真書	P5内	
2876	紹聖元寶	2.32	0.68	0.10	2.74	1094	銅	篆書	P5内	
2877	-宋--	-	-	0.09	(0.76)	-	銅	真書 欠け	P5内	
2878	洪武通寶	2.24	0.64	0.12	3.44	1368	銅	真書	覆土中	

第41号建物跡 9区S I - 2 (第18~22図)

位置 調査区中央部のF11h0区を中心に位置している。

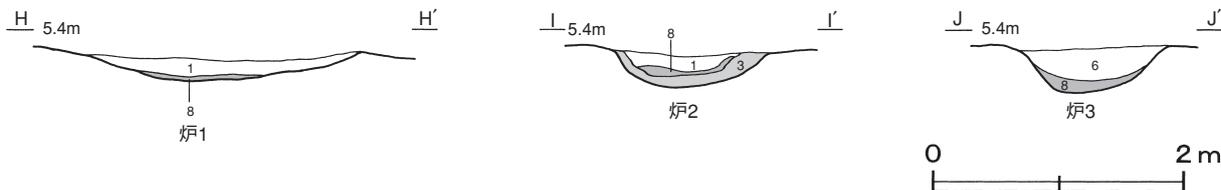
重複関係 第42号建物跡の上面に構築されている。

確認状況 表砂を約5.2m除去し、標高約5.3mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、土坑、貝集積地と北東に並ぶ柱穴17か所が確認された。

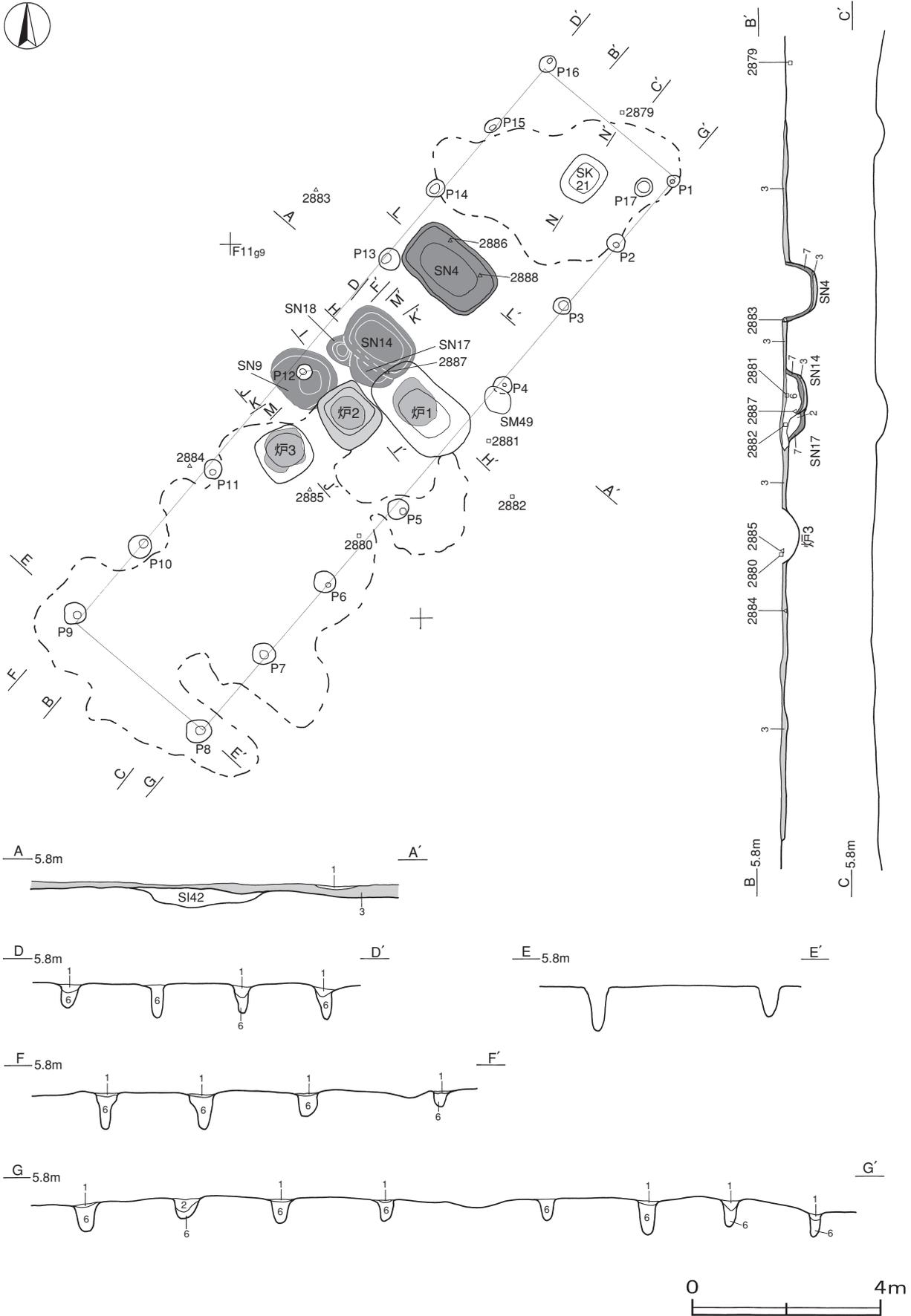
規模と施設 建物跡の床面として硬化している範囲は、長軸17.0m、短軸5.9mの不定形で、長軸方向はN-40°-Eである。桁行7間、梁行1間の北東棟の建物跡で、桁行方向はN-40°-Eである。規模は桁行15.5m、梁行3.7mで、面積は57.8㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m、梁間が3.7mを基調としている。付属施設として、炉3基、粘土貼土坑5基、土坑1基が構築され、貝集積地1か所が確認された。

床 平坦で、厚さ8~12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第21号土坑の周囲と炉3の南東部から硬化した黒色土を確認した。

炉 (第18図) いずれも中央部に位置している。炉1・3の底面に貼り付けられた黒色土は、長年使用されたためかわずかに遺存する程度である。炉2は厚さ10cmの黒色土を貼り付けて構築している。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。



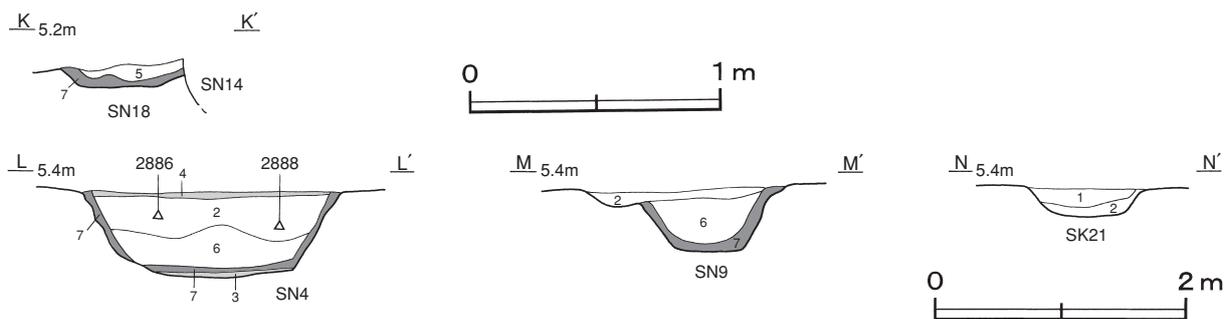
第18図 第41号建物跡炉土層図



第19图 第41号建物跡実測図

ピット 17か所。P 1～P 11・P 13～P 16は深さ44～76cmで、P 12は32cmとやや浅いが、北東棟を支えた主柱穴と考えられる。P 17は深さ33cmで、性格は不明である。

土坑 (第20図) 第4号粘土貼土坑と第21号土坑は黒色土面、第9・14・17・18号粘土貼土坑は黒色土面の下層から確認されている。第4・9・14・17号粘土貼土坑は厚さ4～10cmほど、第18号粘土貼土坑は厚さ15cmの粘土を貼り付けて構築されている。粘土貼土坑は第2層の砂B層と第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積した層である。第14・17・18号粘土貼土坑は、ほぼ同じ場所に何度も造り替えられており、土層断面図中から第14号粘土貼土坑が最も新しい。



第20図 第41号建物跡土坑土層図

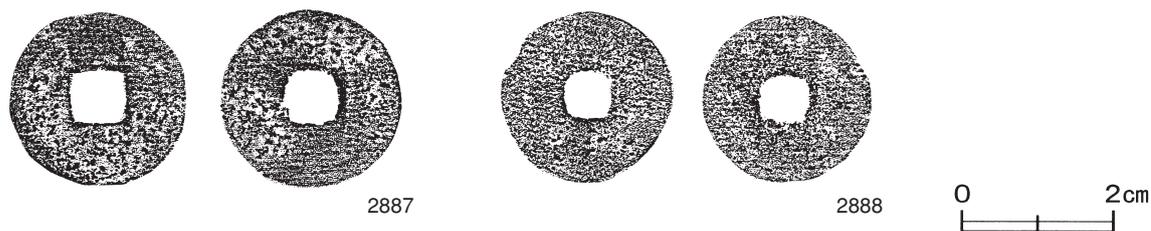
貝集積地 第49号貝集積地はP 4の上面に位置し、長径0.7m、短径0.6mの楕円形を呈している。貝層は、薄く広がった状態で確認された。

第49号貝集積地出土貝種一覧表

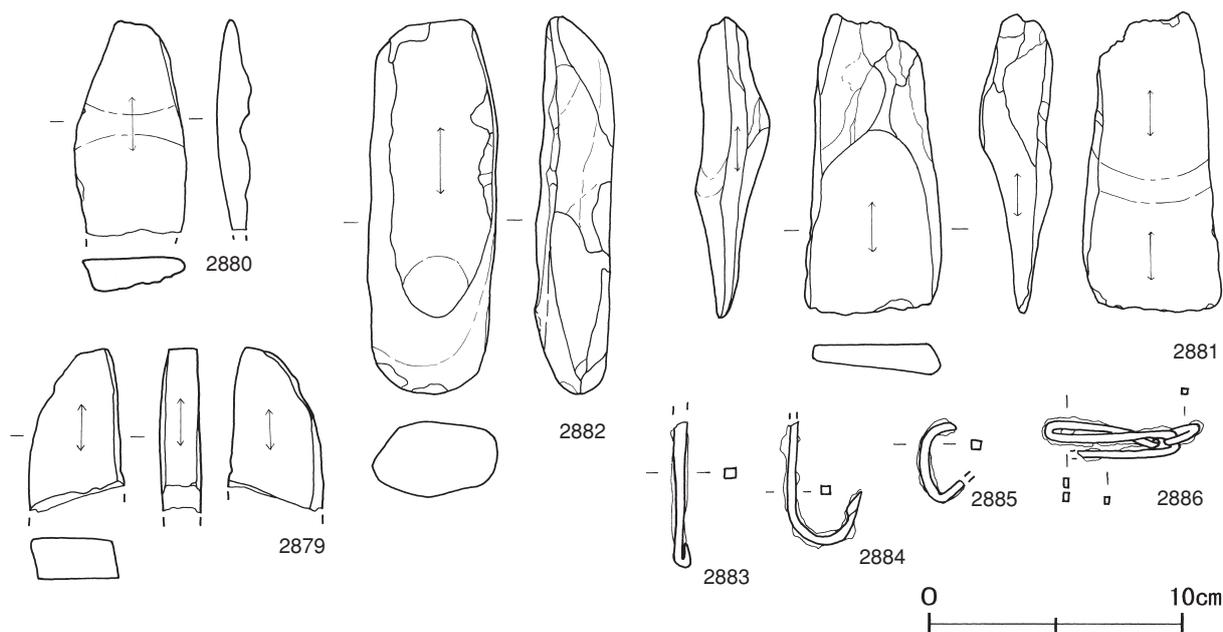
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	100.0	9.43	20	淡水	4	チョウセンハマグリ	5.0	0.47	1	
2	カキ	185.0	17.45	2		5	ウバガイ	320.0	30.19	L=2 R=3	
3	マツカサガイ	260.0	24.53	L=151 R= 81	淡水	6	ウバガイ細片	190.0	17.92		カキ細片混在

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿2, 鍋4), 陶器片1点(皿), 石器4点(砥石), 金属製品7点(釘1, 吊り金具1, 古銭2, 不明3)が出土している。中央部の黒色土上面から多く出土している。2880～2882は中央部の黒色土上面から黒色土中にかけて、2883は西部の黒色土上面、2888は第4号粘土貼土坑内から出土している。土師質土器などの生活雑器類は少ない。陶器片の皿は、細片のため図示できなかった。

所見 桁行7間、梁行1間の北東棟の建物跡で、中央部に炉と粘土貼土坑が構築されている。当初2軒の建物跡を想定していたが、桁行方向の軸がほぼ一直線に並ぶことから1軒の建物跡と判断した。生活雑器類の出土が少なく砥石4点が出土していることや遺構の構造から、作業小屋の性格をもつ建物と考えられる。時期は、遺構確認の第1次面から確認されていることから16世紀前半と考えられる。



第21図 第41号建物跡出土遺物実測図(1)



第22図 第41号建物跡出土遺物実測図(2)

第41号建物跡出土遺物観察表 (第21・22図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2879	砥石	(6.5)	3.9	1.6	(58.5)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	北部黒色土中	
2880	砥石	(8.4)	4.4	1.4	(56.2)	凝灰岩	砥面1面 他は剥離面	中央部黒色土上面	
2881	砥石	11.9	5.3	2.5	157.8	凝灰岩	砥面5面 他は剥離面	中央部黒色土上面	PL85
2882	砥石	14.9	5.2	3.1	375.0	泥岩カ	砥面1面 砥面上に凹み有り	中央部黒色土中	
2883	釘	(5.8)	0.5	0.4	(9.0)	鉄	先端部U字状に屈曲	西部黒色土上面	
2884	釣針	(5.1)	0.4	0.4	(7.0)	鉄	断面方形 針先にかえり	中央部黒色土中	PL95
2885	耳金カ	3.1	1.8	0.4	(4.0)	鉄	断面方形 C字状 先端部欠損	中央部黒色土上面	
2886	不明鉄製品	(6.3)	1.7	0.2~0.3	(8.2)	鉄	断面方形 3か所屈曲している	SN 4内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2887	□□□□	0.41	0.70	0.11	2.88	-	銅	判読不能	中央部黒色土下	
2888	□□□□	2.40	0.65	0.10	2.90	-	銅	判読不能	SN 4内	

第42号建物跡 9区S I - 6 (第23~27図)

位置 調査区中央部のF11h0区を中心に位置している。

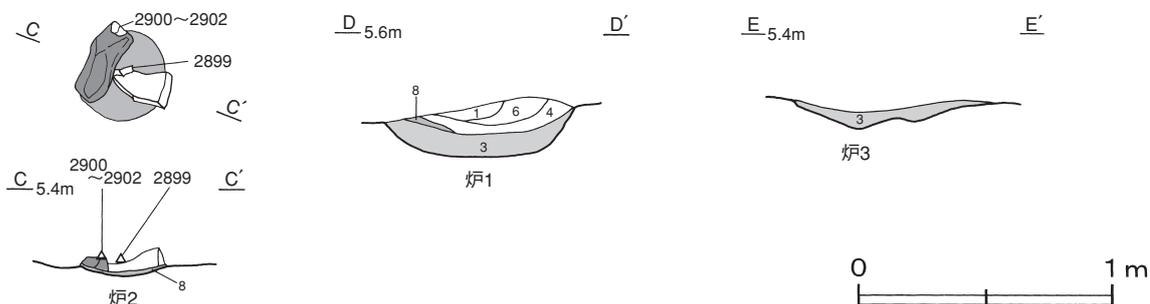
重複関係 第41号建物に掘り込まれている。

確認状況 第41号建物跡の黒色土を約0.1m掘り下げた標高5.1~5.2mで、炉、粘土貼土坑と土坑が確認された。さらに黒色土面を精査し、北東に並ぶ柱穴13か所が確認された。

規模と施設 建物跡の床面として硬化している範囲は確認できなかった。ピットの配列から桁行5間、梁行1間の北東棟の建物跡と捉えた。桁行方向はN-40°-E、規模は桁行13.5m、梁行4.9mで、面積は66.2㎡である。柱間寸法は不規則であるが、桁行が1.8~2.1m、梁間が4.4・4.9mでやや不均一である。付属施設として、炉3基、粘土貼土坑3基、土坑1基が構築されている。

炉 (第23図) 炉1は屋外の東部、炉2は中央部より東側、炉3は中央部より西部に位置している。炉1と第15号粘土貼土坑、炉2と第41号粘土貼土坑、炉3と第13号粘土貼土坑がそれぞれ隣接している。炉1は厚さ

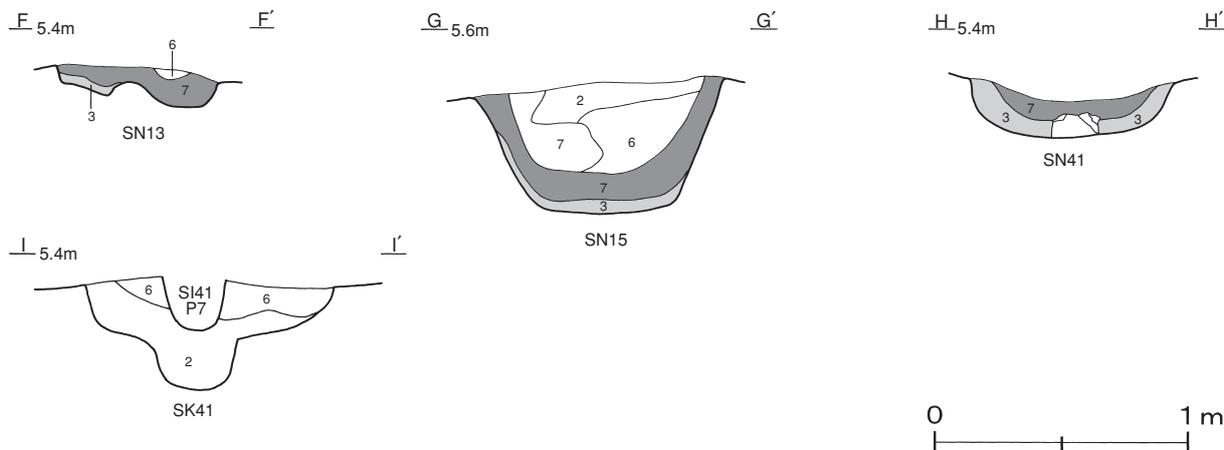
9 cm, 炉3は厚さ5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉2は、粘土塊と赤変した砂岩片が並んで出土し、底面に第8層の焼砂が堆積している。



第23図 第42号建物跡炉実測図

ピット 13か所。P 1・P 2・P 5～P 7・P 11は深さ29～50cm, P 3・P 4・P 8～P 10は深さ69～90cmで、北東棟を支えた支柱穴と考えられる。P 12・P 13は深さ85・60cmで、性格は不明である。P 9は第41号建物跡の炉3の下から確認されたピットである。

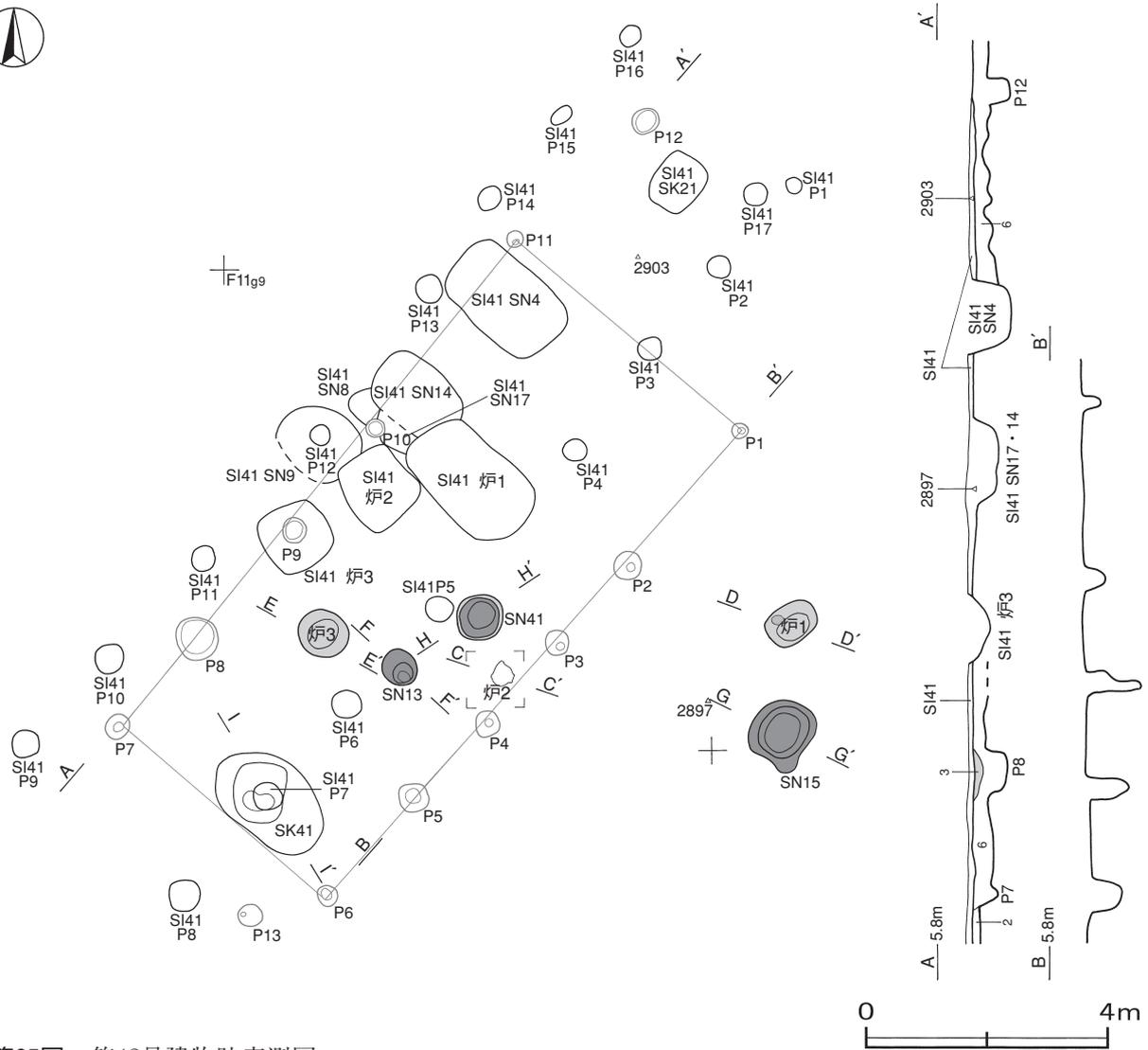
土坑 (第24図) 第13・41号粘土貼土坑は厚さ約8 cm, 第15号粘土貼土坑は厚さ5～10cmの粘土を貼り付けて構築されている。第41号土坑の覆土は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



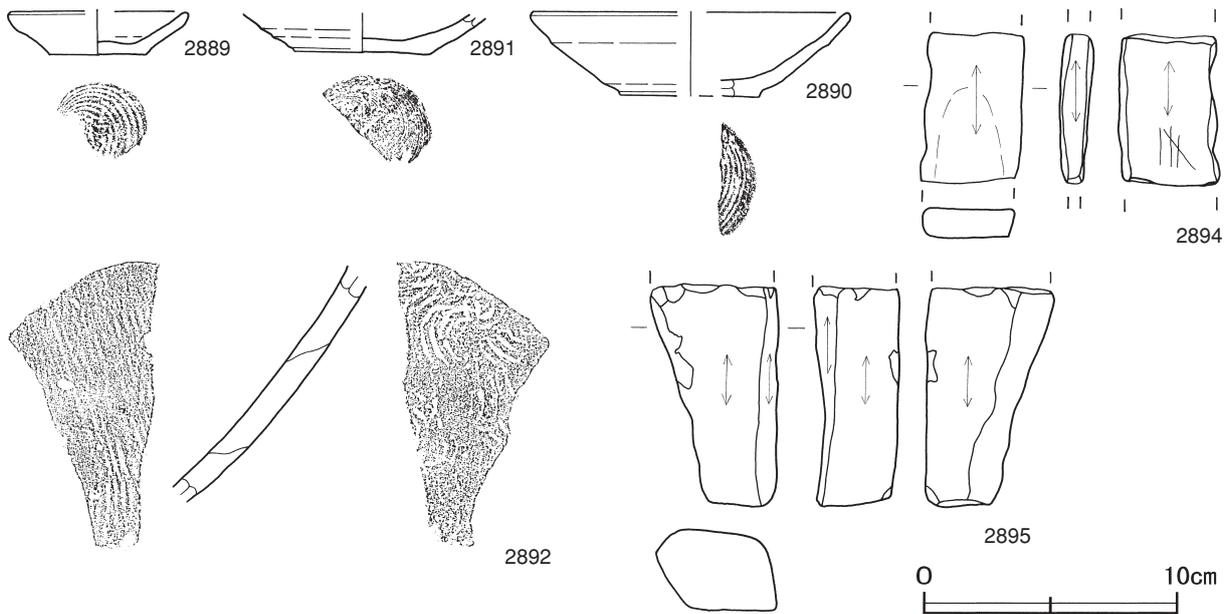
第24図 第42号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片16点(皿11, 鍋3, 甕2), 石器3点(砥石), 金属製品11点(鉄鍋1, 吊金具1, 飾り金具1, 古銭1, 不明7), 鉄滓が出土している。2891～2893・2896は黒色土下の砂層, 2889・2894・2898は第15号粘土貼土坑内から出土している。2899～2902は、炉2内から出土している。

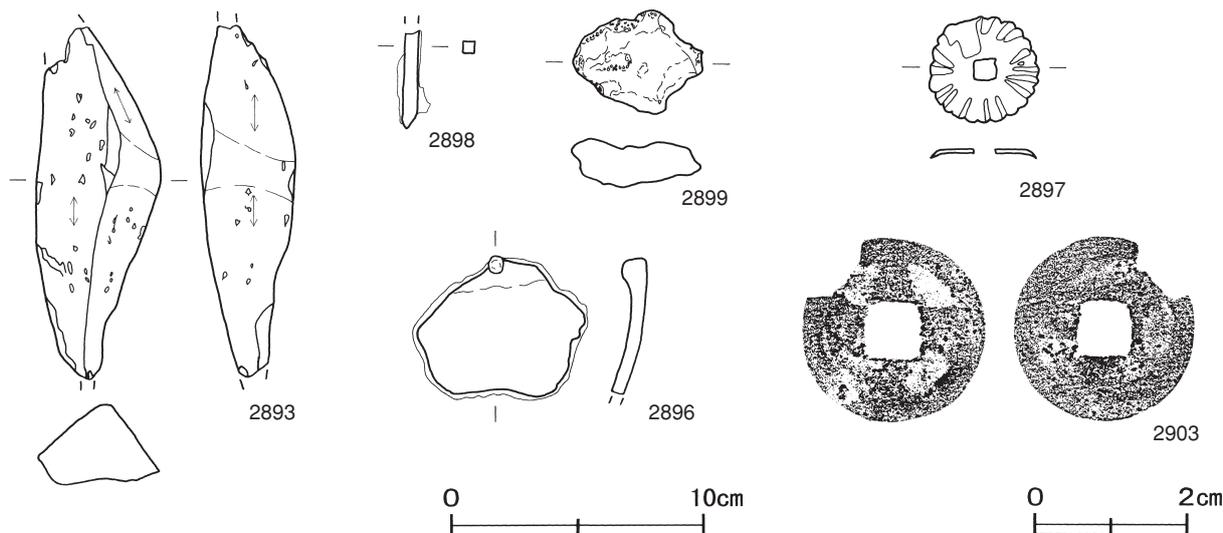
所見 桁行5間, 梁行1間の北東棟で、炉と粘土貼土坑が隣接して確認された建物跡である。火処の炉に伴うとみられる粘土貼土坑は、水溜と考えられる。炉2は赤変した砂岩片と鉄滓が出土していることから、鍛冶用の炉の可能性が高い。2893の砥石や2894の鉄鍋片などの出土遺物と建物跡の規模から、作業小屋の性格をもつ建物と考えられる。時期は、第41号建物跡の直下から確認されていることから、それより若干古い16世紀前半と考えられる。



第25图 第42号建物跡実測図



第26图 第42号建物跡出土遺物実測図(1)



第27図 第42号建物跡出土遺物実測図(2)

第42号建物跡出土遺物観察表 (第26・27図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2889	小皿	土師質土器	[7.0]	1.7	[3.8]	雲母	にぶい黄褐	普通	内底面強い横ナデ	SN15内	25%
2890	皿	土師質土器	[12.4]	3.3	[5.4]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	15%
2891	皿	土師質土器	-	(1.5)	[5.4]	雲母	にぶい黄橙	普通	内底面横ナデ	黒色土下砂層	30%
2892	甕	須恵器	-	(9.4)	-	長石・黒色粒子	褐灰	普通	体部内面同心円状の当て具痕	黒色土下砂層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2893	砥石	(14.0)	4.9	3.7	(185.1)	凝灰岩	砥面3面 断面三角形	黒色土下砂層	PL85
2894	砥石	(6.0)	3.9	1.2	(47.5)	凝灰岩	砥面3面 砥面に擦痕有り	SN15内	
2895	砥石	(8.9)	5.0	3.4	(173.9)	凝灰岩	砥面3面 中央部なだらかに凹む	炉2内	
2896	鉄鍋カ	(5.4)	(6.8)	0.5~0.9	(113.0)	鉄	口縁部の破片 内面に稜有り	黒色土下砂層	
2897	座金	1.4	0.3	0.05	0.8	銅	方形の孔有り 端部湾曲	中央部黒色土下	
2898	不明鉄製品	(4.0)	0.5	0.5	(5.2)	鉄	断面方形 脚部尖り	SN15内	
2899	鉄滓	4.1	5.1	1.9	33.8	鉄	表面茶褐色 地暗褐色	炉2内	
2900	鉄滓	3.5	2.7	2.5	24.6	鉄	表面茶褐色 地暗褐色	炉2内	計測値のみ
2901	鉄滓	3.3	2.9	1.5	10.7	鉄	表面茶褐色 地暗褐色	炉2内	計測値のみ
2902	鉄滓	2.1	1.8	1.7	5.0	鉄	表面茶褐色 地暗褐色	炉2内	計測値のみ

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2903	皇宋通寶カ	2.40	0.75	0.08	(2.54)	1038	銅	真書カ 欠け	中央部黒色土下	

第43号建物跡 9区S I - 3 (第28~30図)

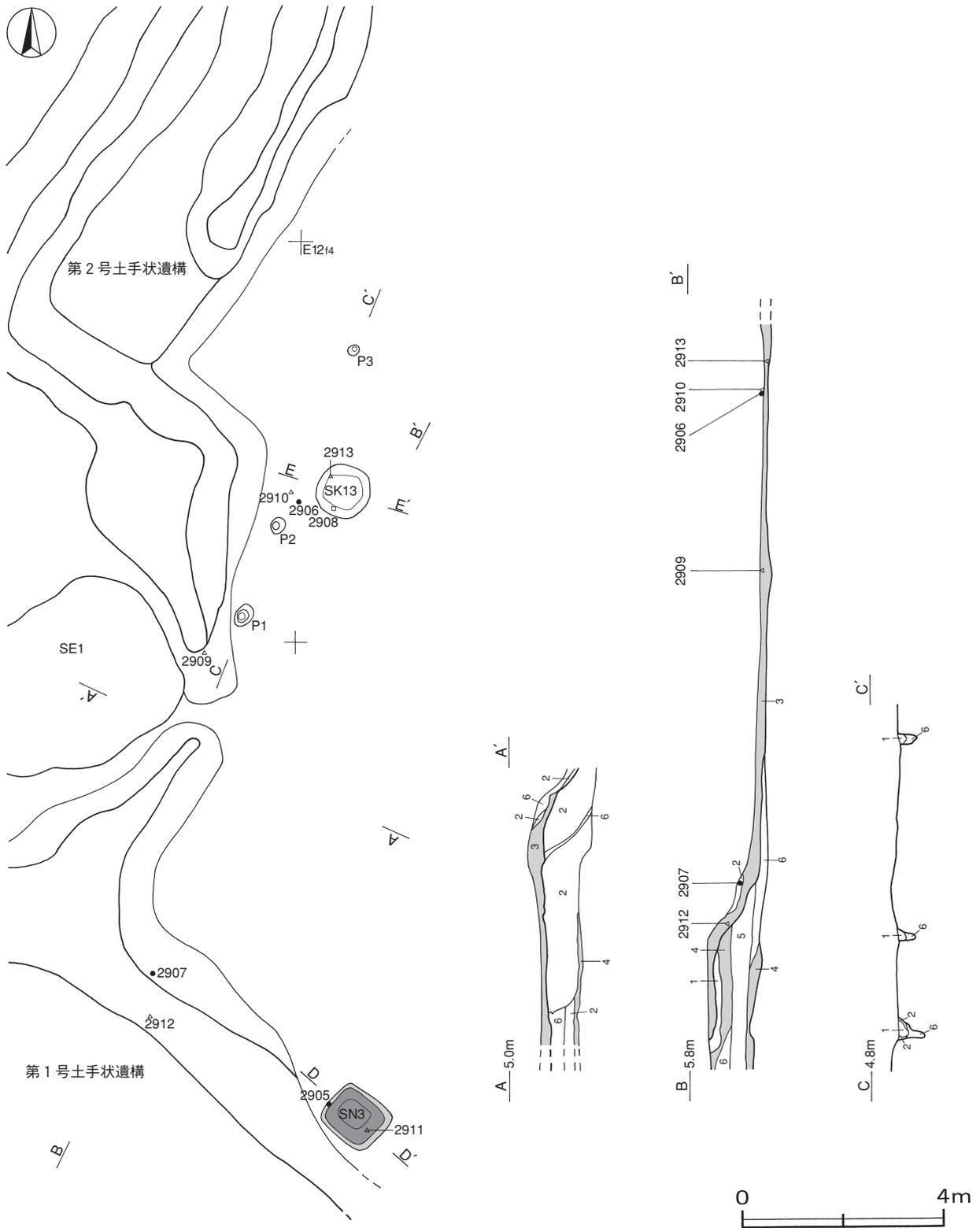
位置 調査区北部のE12g4区を中心に位置している。西側には第2号土手状遺構、南側には第1号土手状遺構が隣接している。

確認状況 表砂を約6.2m除去し、標高約4.3mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑と北東に並ぶ柱穴3か所が確認された。

規模と施設 北東部が第4区と調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、南北10.6m、東西4.4mが確認された。隣接する4区から確認された第131・132号土坑と第46号貝集積地は、本跡の土坑と10m以上離れていることから伴わないと判断した。付属施設として、粘土貼土坑1基、土坑1基が構築されている。

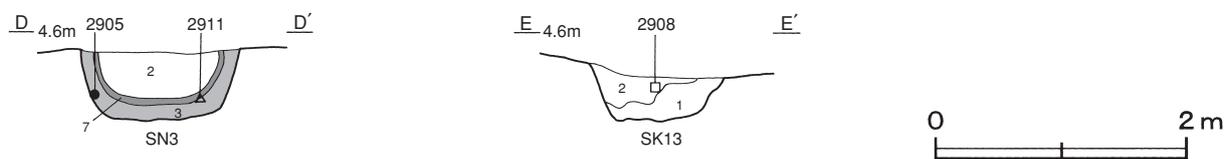
床 土層断面図から、床面は第1号土手状遺構と一緒に構築されたと考えられる。床面はやや凹凸で、厚さ約12cmの黒色土を貼り付けて構築されており、全体的によく踏み固められている。

ピット 3か所。深さは40~48cmで、北東を軸として配されていることから、上屋を支えた柱穴と考えられる。



第28図 第43号建物跡実測図

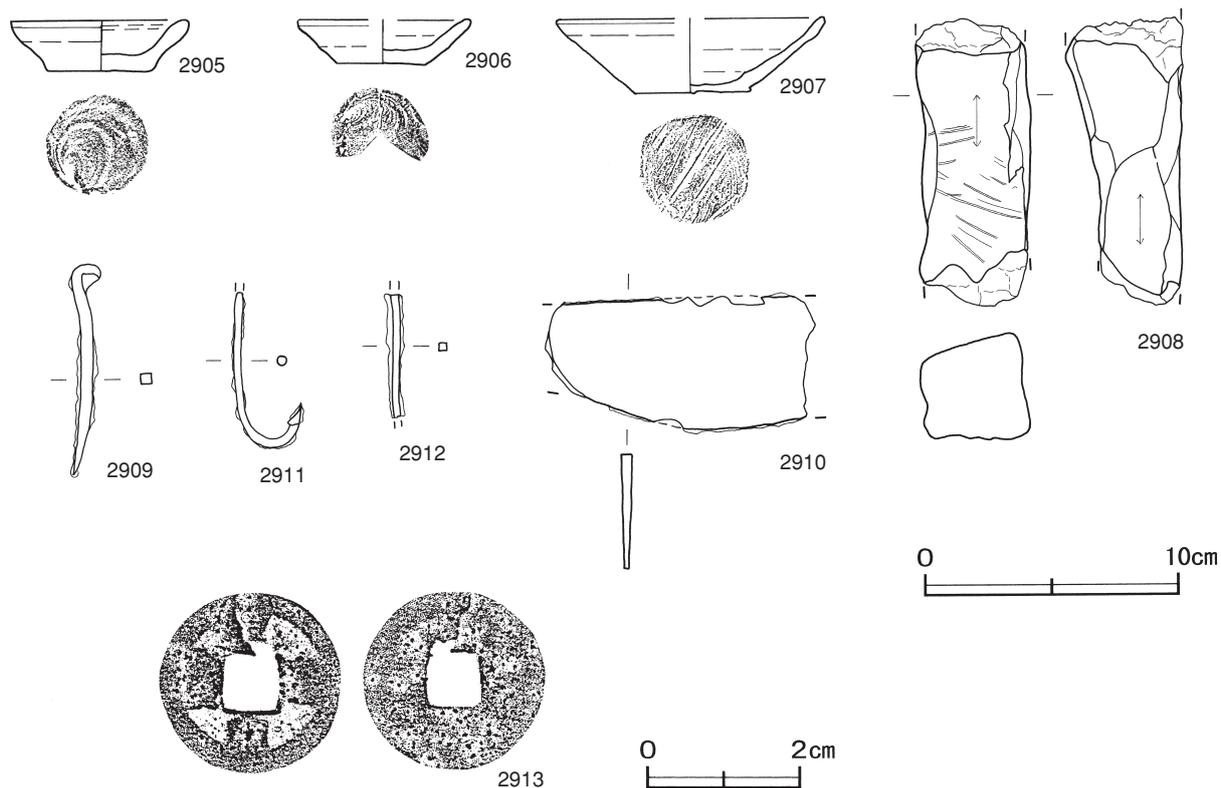
土坑（第29図）第3号粘土貼土坑は南部，第13号土坑は西部に位置している。第3号粘土貼土坑は厚さ5cmの粘土を貼り付けて構築されている。



第29図 第43号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片6点（小皿4，皿2），石器1点（砥石），金属製品6点（包丁カ1，釘2，耳金カ1，釣針1，古銭1）が出土している。2906・2910は第13号土坑付近の黒色土上面，2908は第13号土坑内からそれぞれ出土している。2907は南部の砂層，2912は南部の黒色土中から出土している。

所見 北東部が調査区域外に延びているため，確認された黒色土の範囲は少ないが，出土遺物や柱穴から建物跡と判断した。黒色土面の標高から判断すると，本跡は，北東側の4区に位置する第15号建物跡と同時期の可能性が高いと考えられる。



第30図 第43号建物跡出土遺物実測図

第43号建物跡出土遺物観察表（第30図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2905	小皿	土師質土器	6.6	2.0	4.1	雲母	明褐	普通	底部回転糸切り	SN 3内	100% PL72
2906	小皿	土師質土器	[6.6]	1.8	3.5	雲母	にぶい赤褐	普通	内底面横ナデ	SK13付近黒色土上面	70% PL71
2907	皿	土師質土器	[10.4]	2.9	4.4	長石・雲母	橙	普通	内底面強い横ナデ	南部砂層	40% PL74

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2908	砥石	(11.9)	4.5	4.6	(299.0)	凝灰岩	砥面2面 砥面に捺痕有り	SK13内	PL86
2909	釘	8.5	0.4	0.4	12.9	鉄	完存 緩やかに湾曲 折釘	西部黒色土上面	PL93
2910	包丁カ	(10.7)	4.5	0.6	(85.9)	鉄	刃部の破片	SK13付近黒色土上面	
2911	釣針	(6.2)	2.7	0.4	(4.4)	鉄	断面円形 針先にかえり	SN 3内	PL95
2912	棒状金具	(4.9)	0.3	0.3	(3.0)	鉄	断面方形 両端部欠損	南部黒色土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2913	皇宋通寶	2.42	0.71	0.07	(2.24)	1038	銅	篆書 欠け	SK13付近黒色土中	

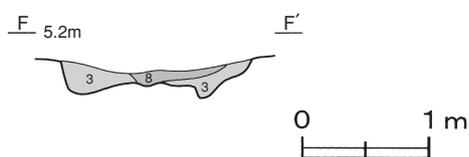
第44号建物跡 9区S I - 4 (第31~33図)

位置 調査区南部のG11d8区を中心に位置している。東側には、第45号建物跡が隣接している。

確認状況 表砂を約5.2m除去し、標高約4.8~5.3mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、北東と北西に並ぶ柱穴15か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸11.0m、短軸8.6mの隅丸長方形で、長軸方向はN-47°-Wである。ピットの配列から北東棟と考えられる。桁行方向はN-40°-E、規模は桁行7.1m、梁行6.6mで、面積は46.9㎡である。柱間寸法は不規則であるが、上屋を支えた主柱穴と考えられる。付属施設として、炉1基が構築されている。

床 中央部はほぼ平坦で、厚さ10~15cmの黒色土を貼り付けて構築されている。南東部には建物を画するような10~20cmの黒色土の高まりが認められる。建物跡の西側は焼砂と灰が薄く堆積し、炉の周囲はよく踏み固められている。



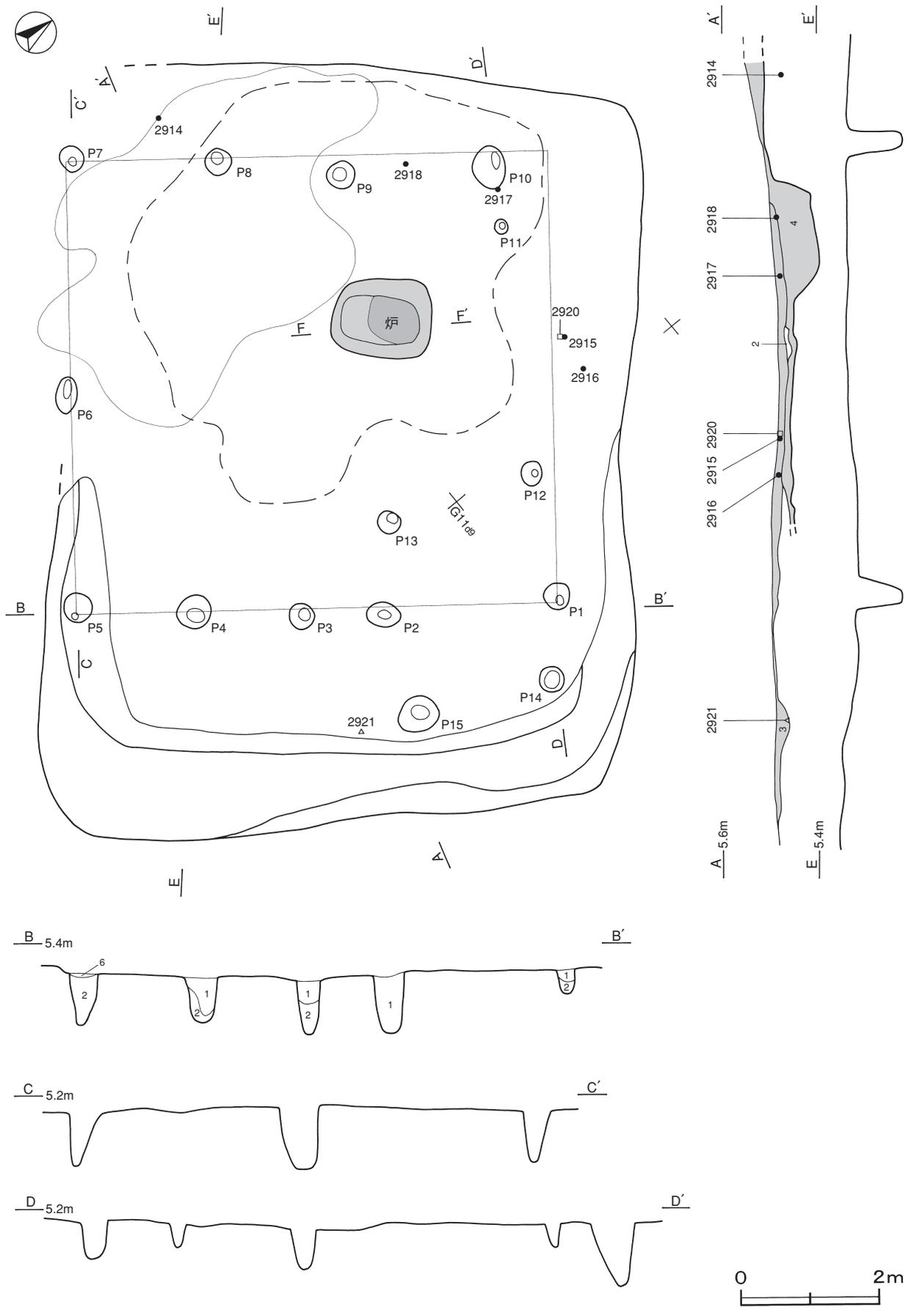
炉 (第31図) やや北西部に位置している。厚さ1~10cmの黒色土を貼り付けて構築しているが、長年使用されたためかわずかに遺存する程度である。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。

第31図 第44号建物跡炉土層図

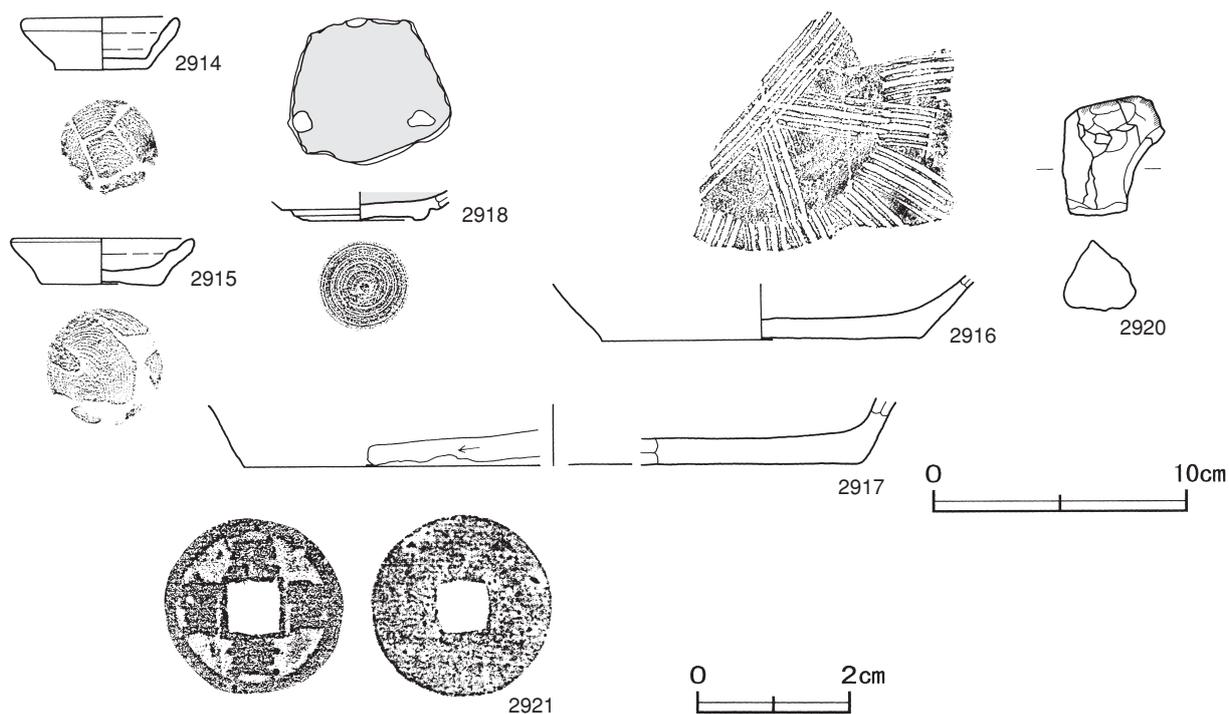
ピット 15か所。P1・P9・P11・P12は深さ35~45cm、P2~P8・P10は深さ60~90cmで、北東棟を支えた主柱穴と考えられる。P13~P15は深さ50~60cmで、上屋を支えた柱穴か間仕切り用の柱穴と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片10点(小皿2, 皿6, 鍋1, 播鉢1), 陶器片1点(碗), 石器2点(砥石, 火打石), 金属製品2点(古銭, 不明)が出土している。遺物は黒色土上面から黒色土中にかけて散在した状態で出土している。2915~2917・2920は北部, 2914・2918は西部, 2921は東部の黒色土上面から黒色土下にかけてそれぞれ出土している。

所見 南東部に黒色土の高まりを有する北東棟の建物跡である。炉の周囲が硬化し、日常雑器類が出土していることから、生活の中心は北西部が主とみられる。本跡に伴うと考えられる2917と2918は底部片のため、時期を断定するには難しいが、隣接する第45号建物跡と同じ黒色土面で確認されていることから、16世紀後半と判断したい。



第32图 第44号建物跡実測図



第33図 第44号建物跡出土遺物実測図

第44号建物跡出土遺物観察表（第33図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2914	小皿	土師質土器	5.9	2.0	3.7	雲母	橙	普通	底部回転糸切り	西部黒色土下	100%
2915	小皿	土師質土器	7.0	1.9	4.6	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北部黒色土上面	95% PL72
2916	播鉢	土師質土器	-	(2.2)	[12.6]	長石・雲母	にぶい橙	普通	5条1単位の播目	北部黒色土中	15%
2917	焙烙	土師質土器	-	(2.4)	[24.4]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ 外面ヘラ削り	北部黒色土上面	15%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
2918	平碗	陶器	-	(1.1)	5.4	灰白・浅黄橙	灰釉	内面にトチン痕有り	瀬戸・美濃 15C後半	西部黒色土上面	10% 大窯1~2

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2920	火打石	4.8	4.0	2.8	51.9	瑪瑙	一部の稜が摩滅	北部黒色土上面	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2921	熙寧元寶	2.43	0.75	0.11	3.58	1068	銅	真書	東部黒色土中	

第45号建物跡 9区S I - 5（第34~38図）

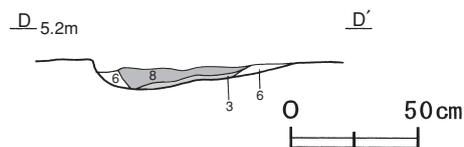
位置 調査区南部のG11e0区を中心に位置している。西側には、第44号建物跡が隣接している。

確認状況 表砂を約5.2m除去し、標高約5.3mで黒色土面が確認された。黒色土面から土坑と北東に並ぶ柱穴6か所、さらに黒色土を除去して、炉、粘土貼土坑、土坑と柱穴1か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸6.8m、短軸5.0mの不定形で、長軸方向はN-33°-Eである。柱穴が北東軸に並ぶ桁行3間、梁行1間の北東棟の建物跡と想定される。桁行方向はN-32°-E、規模は桁行6.2m、梁行3.5mで、面積は21.7㎡である。柱間寸法は桁行が2.0m、梁間が3.5mを基調としている。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑6基、土坑4基が構築されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ6～10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。北東部からわずかに堆積した焼土が検出された。

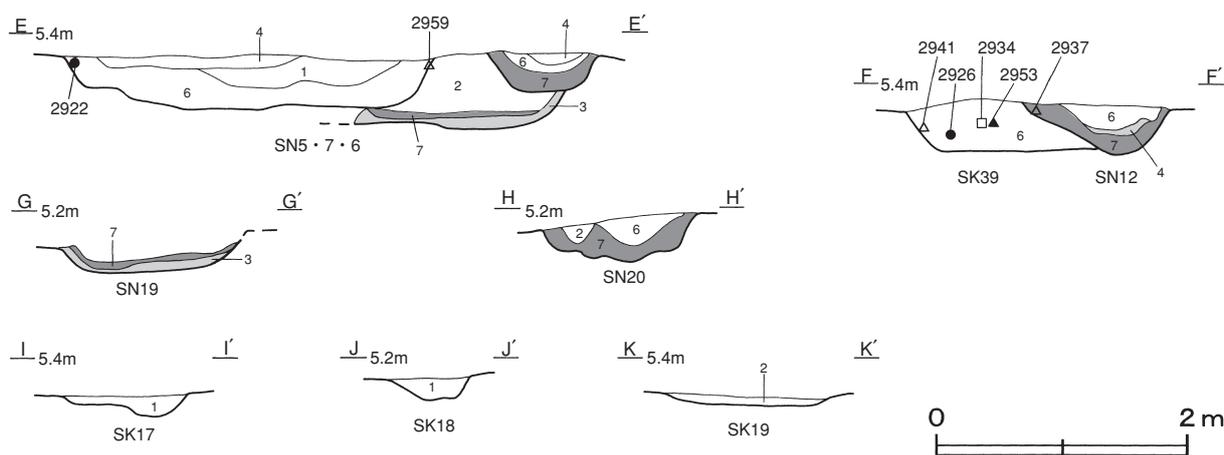
炉 (第34図) 炉は黒色土を取り除いた後に確認されたもので、第19号粘土貼土坑と隣接している。炉の底部には、貼り付けた黒色土がわずかに遺存している。覆土には、第8層の焼砂が検出されている。黒色土が硬化した最終生活面の下から確認されており、当初使用され、その後使われなくなったものと考えられる。



第34図 第45号建物跡炉土層図

ピット 7か所。深さは25～57cmで、北東棟を支えた主柱穴と考えられる。

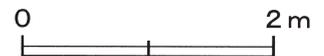
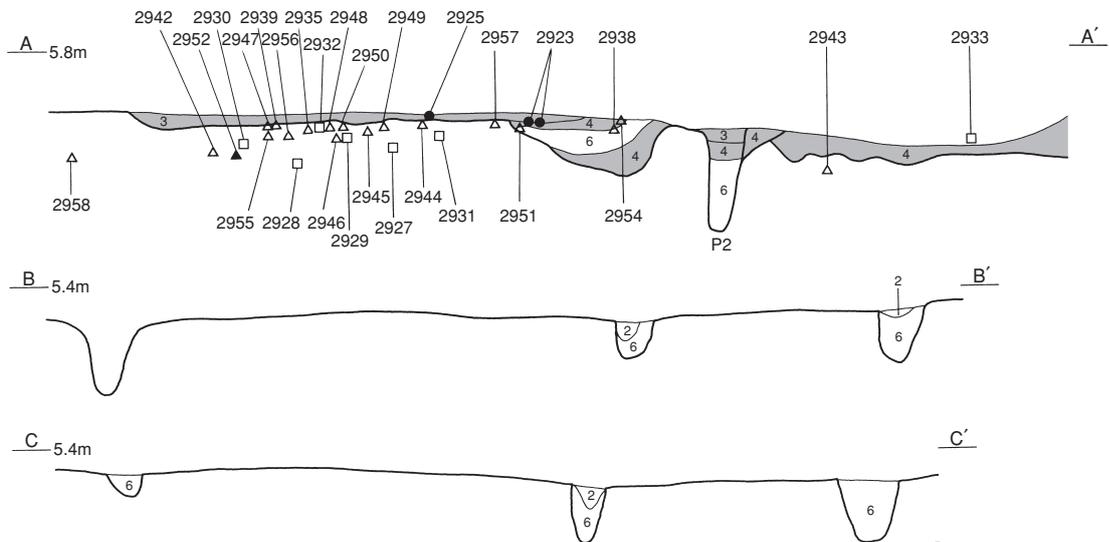
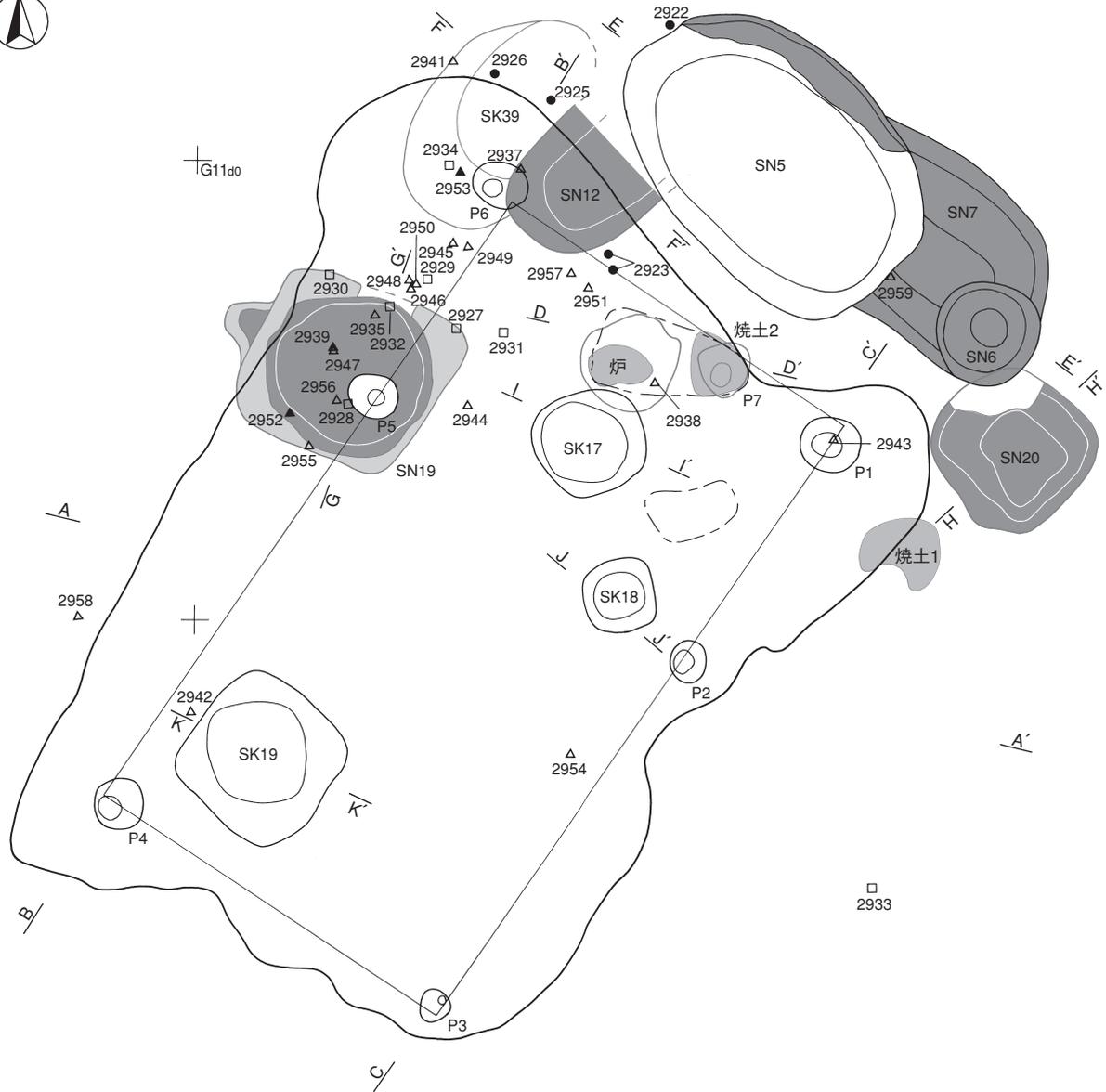
土坑 (第35図) 第5～7号粘土貼土坑は屋外の北部、第17～19号土坑は黒色土面、第12・19・20号粘土貼土坑、第39号土坑は黒色土面を取り除いた北部から確認されている。第5号粘土貼土坑は、壁際に貼り付けた粘土がわずかに遺存している。第6・12・19・20号粘土貼土坑は厚さ6～15cmほど、第7号粘土貼土坑は厚さ3cmの粘土を貼り付けて構築されている。



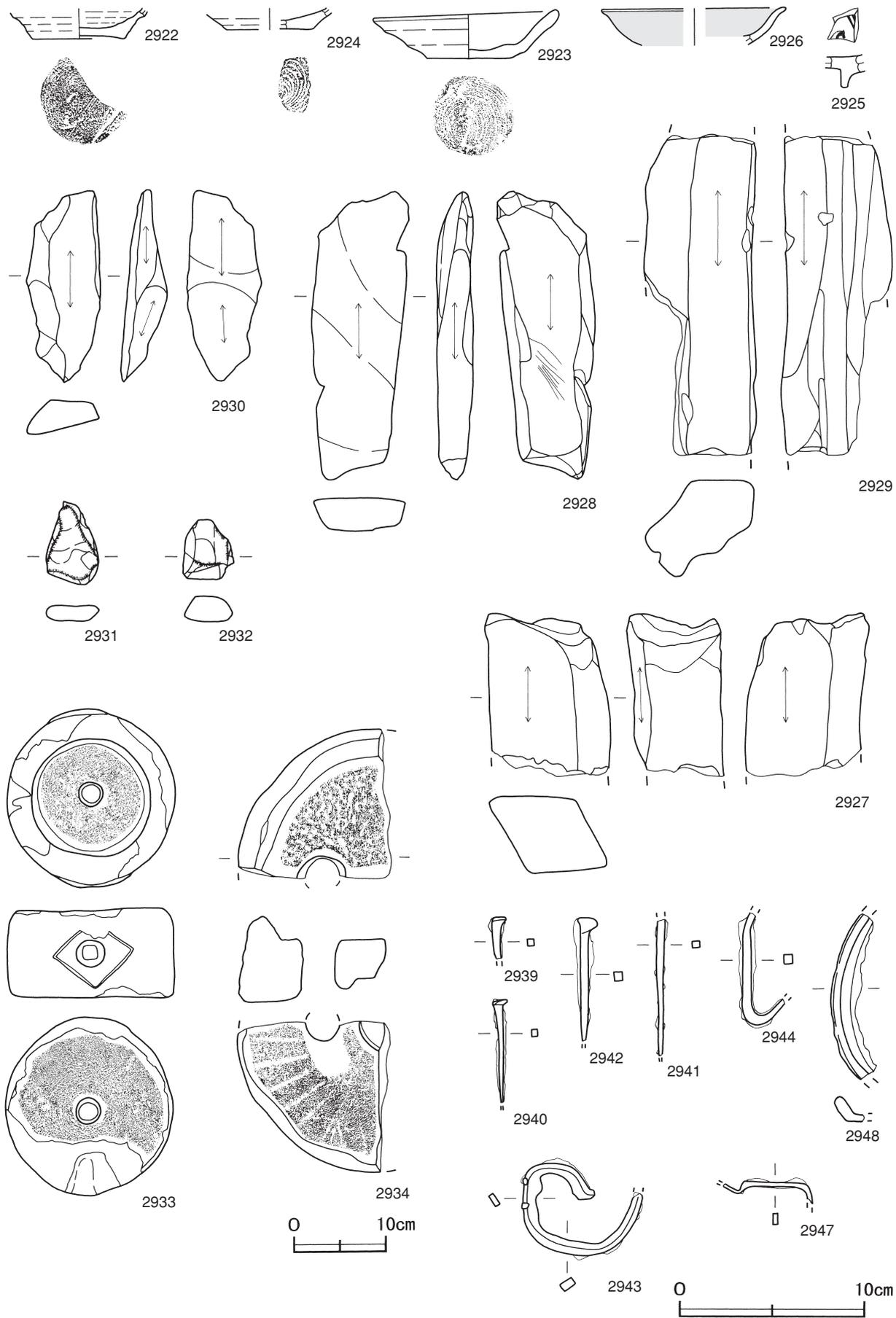
第35図 第45号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片38点(小皿4, 皿30, 鍋4), 陶器片3点(皿2, 甕1), 磁器片1点(碗), 石器9点(砥石5, 火打石2, 石臼2), 金属製品35点(小刀4, 鎌1, 火打金1, 釘4, 吊金具2, 毛抜1, 古銭6, 不明16), 瓦片2点が出土している。2923・2925・2927～2932・2935・2938・2939・2944～2951は、北部の黒色土上面から黒色土中にかけて散在している。2933は東部の砂層, 2943はP 1内, 2922は第5号粘土貼土坑内, 2937は第12号粘土貼土坑内からそれぞれ出土している。2926・2934・2940・2941・2953は第39号土坑内から投棄された状態で出土している。

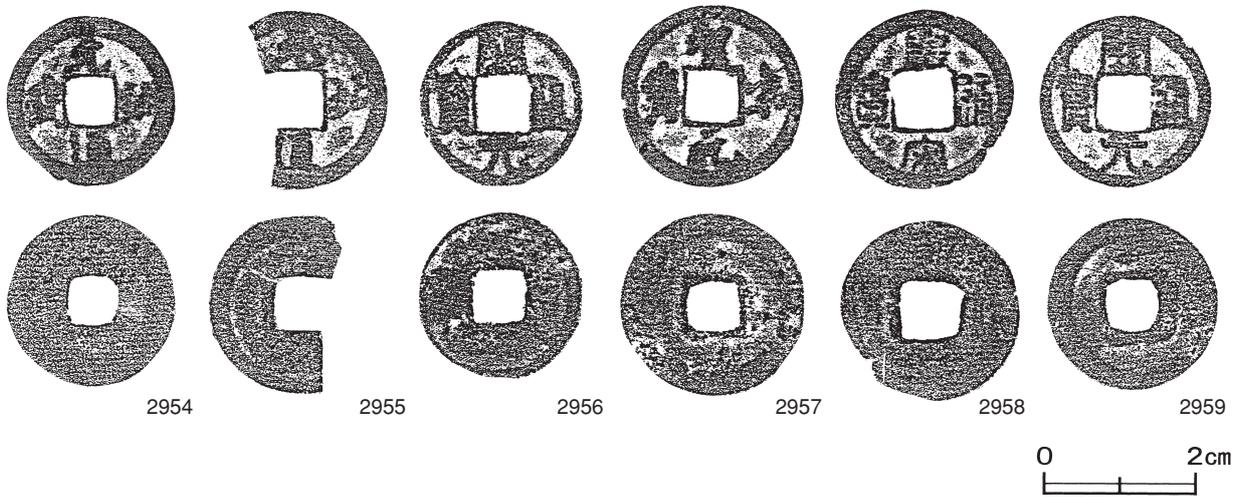
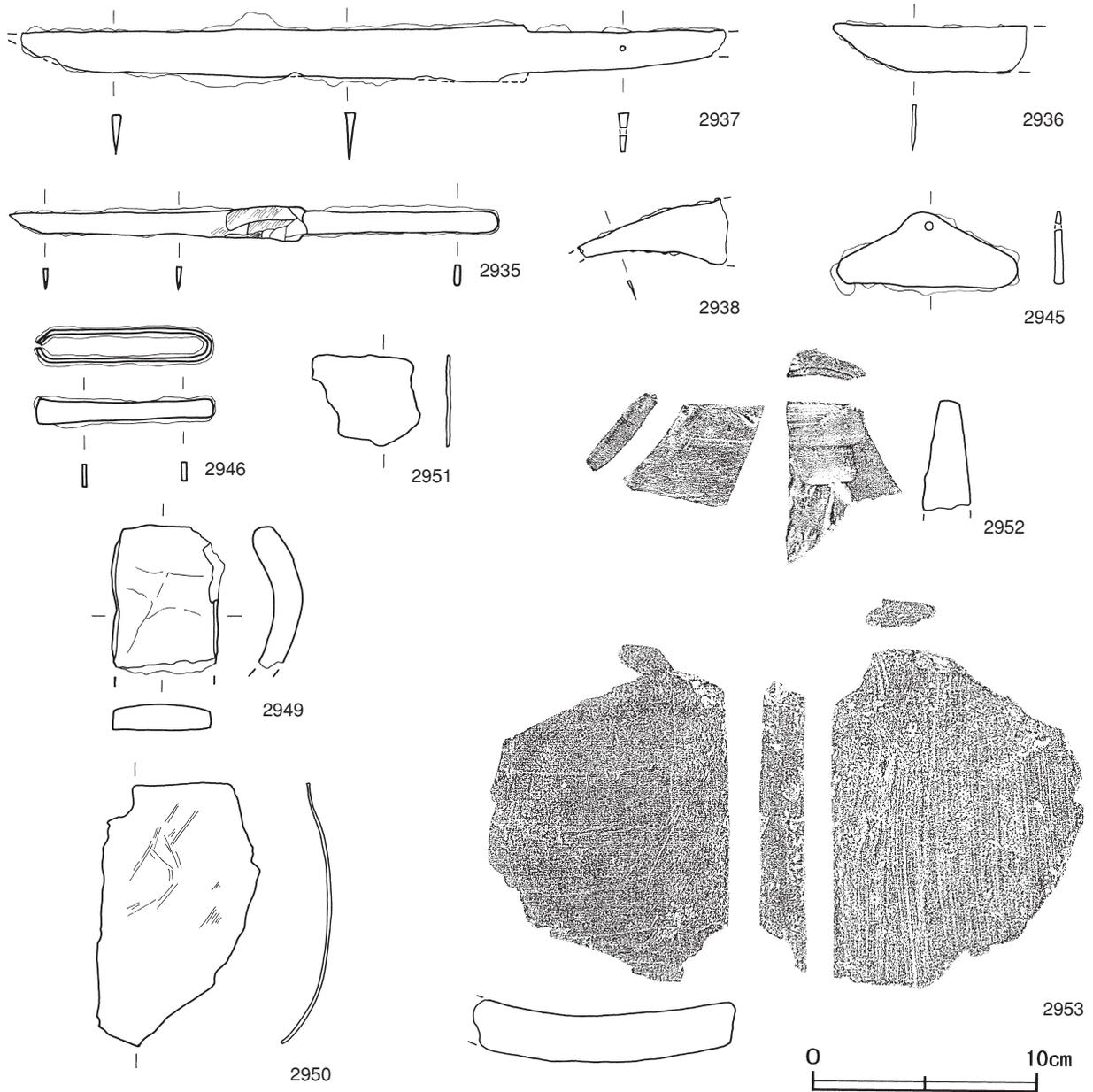
所見 黒色土面の下から本跡に伴う炉や粘土貼土坑が確認され、黒色土を何回か貼り替えて生活していたと推察される。皿・砥石・火打石・火打金や石臼などの日常雑器類が多く出土していることから、生活を営んだ建物跡と考えられる。時期は、出土遺物から16世紀後半と考えられる。



第36図 第45号建物跡実測図



第37图 第45号建物跡出土遺物実測図(1)



第38图 第45号建物跡出土遺物実測図(2)

第45号建物跡出土遺物観察表（第37・38図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2922	小皿	土師質土器	-	(1.6)	5.0	雲母	にぶい褐	普通	内底面横ナデ	SN 5内	30%
2923	皿	土師質土器	10.0	2.6	4.5	長石・小礫	橙	普通	底部回転糸切り	北部黒色土上面	90% PL 79
2924	皿	土師質土器	-	(1.1)	[4.6]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
2925	碗	磁器	-	(1.8)	-	灰白・明青灰	染付・透明釉	高台部片 壘付面取り	明代カ	北部黒色土上面	5%
2926	端反皿	陶器	[10.0]	(1.5)	-	灰白・浅黄	灰釉	内外面施釉	瀬戸・美濃産	SK 39内	5% 大窯期

番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
2927	砥石	(8.9)	6.9	5.3	(324.0)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	北部黒色土中	
2928	砥石	15.6	5.3	2.0	217.0	凝灰岩	砥面3面 砥面に擦痕有り	北部黒色土中	
2929	砥石	(17.4)	6.3	6.1	(694.0)	結晶片岩	砥面2面 他は剥離面	北部黒色土上面	
2930	砥石	10.4	4.0	2.5	72.3	凝灰岩	砥面5面 他は剥離面	北部黒色土中	
2931	火打石	4.6	2.8	0.8	15.3	瑪瑙	一部の稜が摩滅	北部黒色土上面	
2932	火打石	3.3	2.8	1.4	14.1	瑪瑙	一部の稜が摩滅	北部黒色土中	
2933	茶臼	17.6	-	9.4	(3640.0)	安山岩	挽臼部 底部一部欠損 座は菱形	東部砂層	PL88
2934	石臼	[29.4]	-	9.9	(2450.0)	安山岩	上臼の1/4破片 6分画カ5溝	SK 39内	PL88
2935	小刀	21.9	1.1	0.2	39.9	鉄	完存 木質わずかに遺存 両関	北部黒色土中	PL91
2936	小刀	(8.7)	2.2	0.2	(11.9)	鉄	刀身部わずかに棟側に反る	覆土中	
2937	小刀	(31.5)	2.6	0.4	(164.0)	鉄	ほぼ完存 刃先部わずかに欠損 両関カ	SN 12内	PL90
2938	鎌カ	(6.8)	2.9	0.1	(13.6)	鉄	刃部の一部 曲刃鎌カ	北部黒色土上面	
2939	釘	(2.4)	0.4	0.4	(3.1)	鉄	先端部欠損	北部黒色土上面	
2940	釘	(5.7)	0.3	0.4	(4.0)	鉄	ほぼ完存 先端部わずかに欠損	SK 39内	PL93
2941	釘	(7.4)	0.4	0.4	(3.0)	鉄	断面方形 頭部・先端部欠損	SK 39内	
2942	釘	(6.7)	0.5	0.5	(9.3)	鉄	先端部わずかに欠損 折釘	南部黒色土中	PL93
2943	釘カ	6.5	0.4	0.7	30.6	鉄	断面方形 C字状に屈曲 先端部欠損	P 1内	
2944	吊金具カ	(6.3)	0.5	0.5	(10.4)	鉄	両端部欠損 軸部わずかに湾曲	北部黒色土上面	
2945	火打金	8.2	3.3	0.3	34.8	鉄	山型 打撃部わずかに厚い 孔有り	北部黒色土上面	PL94
2946	毛抜	7.8	1.1	0.1~0.2	13.7	鉄	完存 断面長方形 銀杏形	北部黒色土上面	PL92
2947	鏝カ	(1.1)	(4.9)	0.3	(4.3)	鉄	断面方形 先端部欠損	北部黒色土上面	
2948	不明	(9.0)	(2.5)	1.4	(40.1)	鉄	輪状鉄製品の一部 五徳カ	北部黒色土上面	
2949	不明	(6.7)	4.4	1.1	(153.0)	鉄	環状鉄製品の一部カ	北部黒色土上面	
2950	不明	11.8	(7.3)	0.2	(52.7)	銅	わずかに湾曲する銅板 外面蕪状痕	北部黒色土上面	
2951	不明	4.1	(4.8)	0.1	(11.4)	銅	平坦な銅板	北部黒色土上面	
2952	丸瓦	(7.2)	(5.9)	(2.1)	(64.8)	長石・雲母	玉縁部 凹面ヘラ削り	北部黒色土中	
2953	平瓦	(15.6)	(11.7)	2.8	(500.0)	長石・雲母	凹面ヘラナデ 凸面ヘラ削り・煤付着	SK 39内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2954	元祐通寶	2.28	0.64	0.10	3.28	1086	銅	行書	南部黒色土上面	
2955	元祐通-	2.42	0.71	0.10	(2.24)	1086	銅	行書 欠け	北部黒色土上面	
2956	開元通寶	2.26	0.74	0.01	2.26	621	銅	真書	北部黒色土上面	
2957	聖宋元寶	2.48	0.71	0.11	3.62	1101	銅	行書	北部黒色土上面	
2958	皇宋通寶	2.42	0.79	0.11	2.84	1038	銅	篆書	南部黒色土下	
2959	開元通寶	2.30	0.72	0.08	2.74	621	銅	真書 背上「月」	SN 7内	

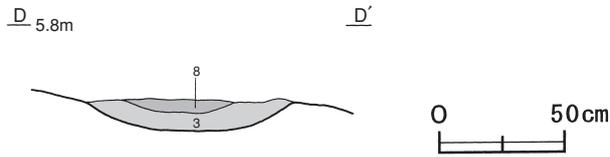
第46号建物跡 9区S I - 8（第39~43図）

位置 調査区南部のF12h2区を中心に位置している。東側には、第47号建物跡が隣接している。

重複関係 上面に第48号建物が構築されている。

確認状況 第48号建物跡の黒色土を約0.1m掘り下げた標高約5.5mの砂上で、炉、粘土貼土坑、貝集積地と柱穴7か所が確認された。第48号建物跡の2次面とも考えられるが、柱穴の配列が異なることから別遺構と判断した。

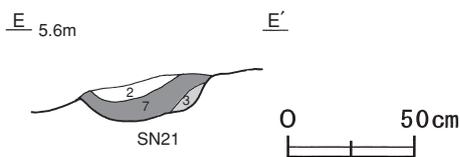
規模と施設 ピットの配列から、桁行2間、梁行2間の北東棟の建物跡と捉えた。桁行方向はN-42°-E、規模は桁行4.5m、梁行3.2mで、面積は14.4㎡である。柱間寸法は桁行が2.2m、梁間が1.6mを基調としている。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑1基が構築され、貝集積地1か所が確認された。



第39図 第46号建物跡炉土層図

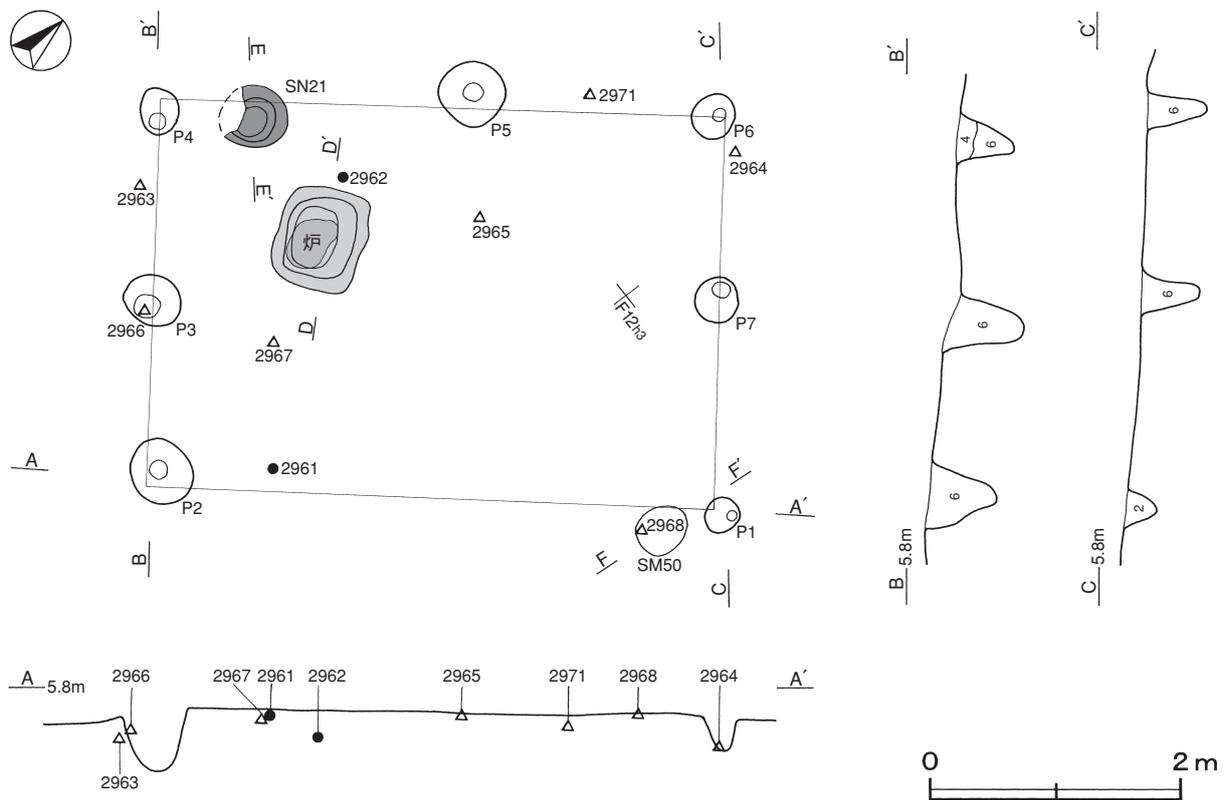
炉 (第39図) 南側に位置し、第21号粘土貼土坑と隣接している。厚さ5~8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。

ピット 7か所。P1は深さ22cm、P2~P7は深さ42~58cmで、北東棟を支えた主柱穴と考えられる。

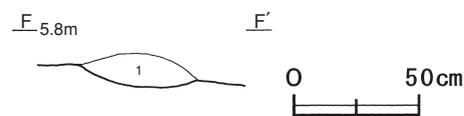


第40図 第46号建物跡粘土貼土坑土層図

土坑 (第40図) 第21号粘土貼土坑は、厚さ5~9cmの粘土を貼り付けて構築されている。



第41図 第46号建物跡実測図



第42図 第46号建物跡貝集積地土層図

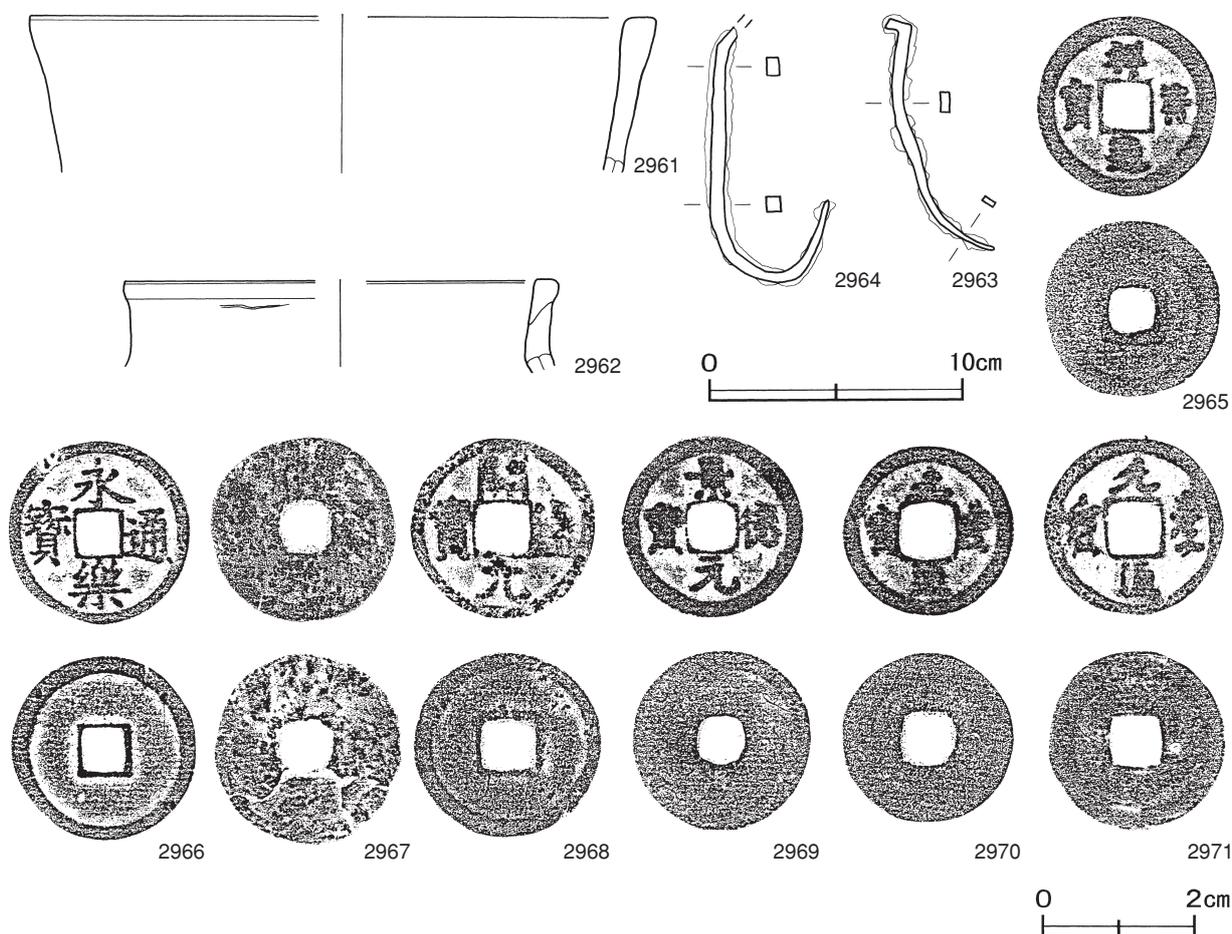
貝集積地 (第42図) 第50号貝集積地は東側に位置している。長径0.4m、短径0.3mの楕円形で、貝層の厚さは最大で12cmである。

第50号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	クボガイ	10.0	1.14	1		4	マツカサガイ	740.0	84.09	L=186 R=202	淡水 7個体接合
2	オオタニシ	20.0	2.27	3	淡水	5	細片	85.0	9.66		数種混在
3	ベンケイガイ	25.0	2.84	L=0 R=3							

遺物出土状況 土師質土器片5点（鍋4，火鉢1），金属製品9点（釘1，古銭7，不明1）が出土している。2961～2963・2965・2967は炉付近，2964・2971は北部，2968は東部の砂層からそれぞれ出土している。2966はP3内から出土している。古銭は散在した状態で出土しており，2966の永樂通寶が最新銭である。

所見 桁行2間，梁行2間の北東棟で，炉と粘土貼土坑が隣接して確認された建物跡である。規模が小さく，床面に黒色土が認められないことから，作業小屋の可能性が考えられる。



第43図 第46号建物跡出土遺物実測図

第46号建物跡出土遺物観察表（第43図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2961	内耳鍋	土師質土器	[24.6]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	炉付近砂層	5%
2962	火鉢カ	土師質土器	[16.8]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	炉付近砂層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2963	釘	9.3	0.5	0.9	23.8	鉄	断面長方形 皆折釘	炬付近砂層	
2964	吊金具	(10.2)	0.6	0.7	(34.0)	鉄	断面方形 湾曲	北部砂層	PL93

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2965	祥符通寶	2.43	0.67	0.11	3.70	1008	銅	真書	炬付近砂層	
2966	永樂通寶	2.46	0.60	0.11	2.88	1408	銅	真書	P 3内	
2967	開元通寶カ	2.50	0.64	0.12	2.70	621	銅	真書 錆付着 鑄込み不足の穴有り	炬付近砂層	
2968	開元通寶	2.47	0.74	0.13	3.16	621	銅	真書	東部砂層	
2969	景德元寶	2.43	0.66	0.10	3.16	1004	銅	真書	覆土中	
2970	元豐通寶	2.27	0.75	0.08	2.42	1078	銅	行書	覆土中	
2971	元豐通寶	2.41	0.69	0.12	3.24	1078	銅	行書	北部砂層	

第47号建物跡 9区HK-1 (第44~47図)

位置 調査区中央部のF12i4区を中心に位置している。西側には、第46・48号建物跡が隣接している。

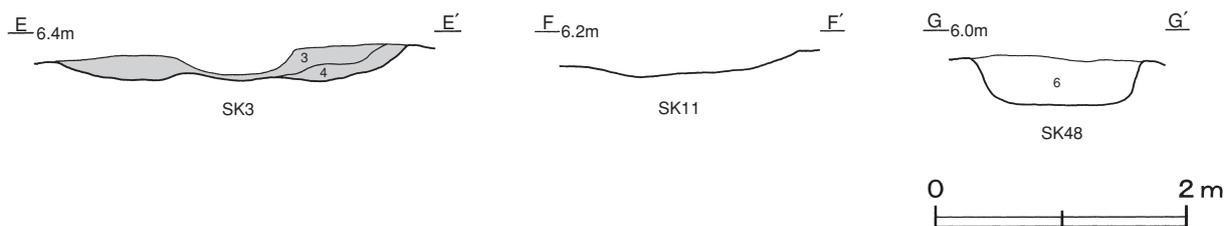
確認状況 表砂を約4.3m除去し、標高約6.2mで黒色土面が確認された。黒色土面の表面には、破碎されたような貝片や小礫が散在していた。黒色土面から土坑と柱穴4か所、さらに黒色土を除去して、土坑、北東と北西に並ぶ柱穴21か所が確認された。

規模と施設 黒色土面は東側の4区へ延びているため、黒色土の範囲は、南北12.4m、東西8.2mが確認された。確認できた部分で、桁行3間、梁行2間の北東棟の建物跡、その外側に、桁行5間、梁行2間の北東棟の建物跡が認められる。2棟とも桁行方向はN-35°-Eである。桁行3間、梁行2間の建物跡の規模は、桁行6.4m、梁行4.6mで、面積は29.4㎡と推定される。柱間寸法は桁行が2.0m、梁間が2.2mを基調としている。桁行5間、梁行2間の建物跡の規模は、桁行10.4m、梁行長4.4mで、面積は45.8㎡と推定される。柱間寸法は桁行が2.0m、梁間が2.1mを基調としている。付属施設として、土坑3基が構築されている。

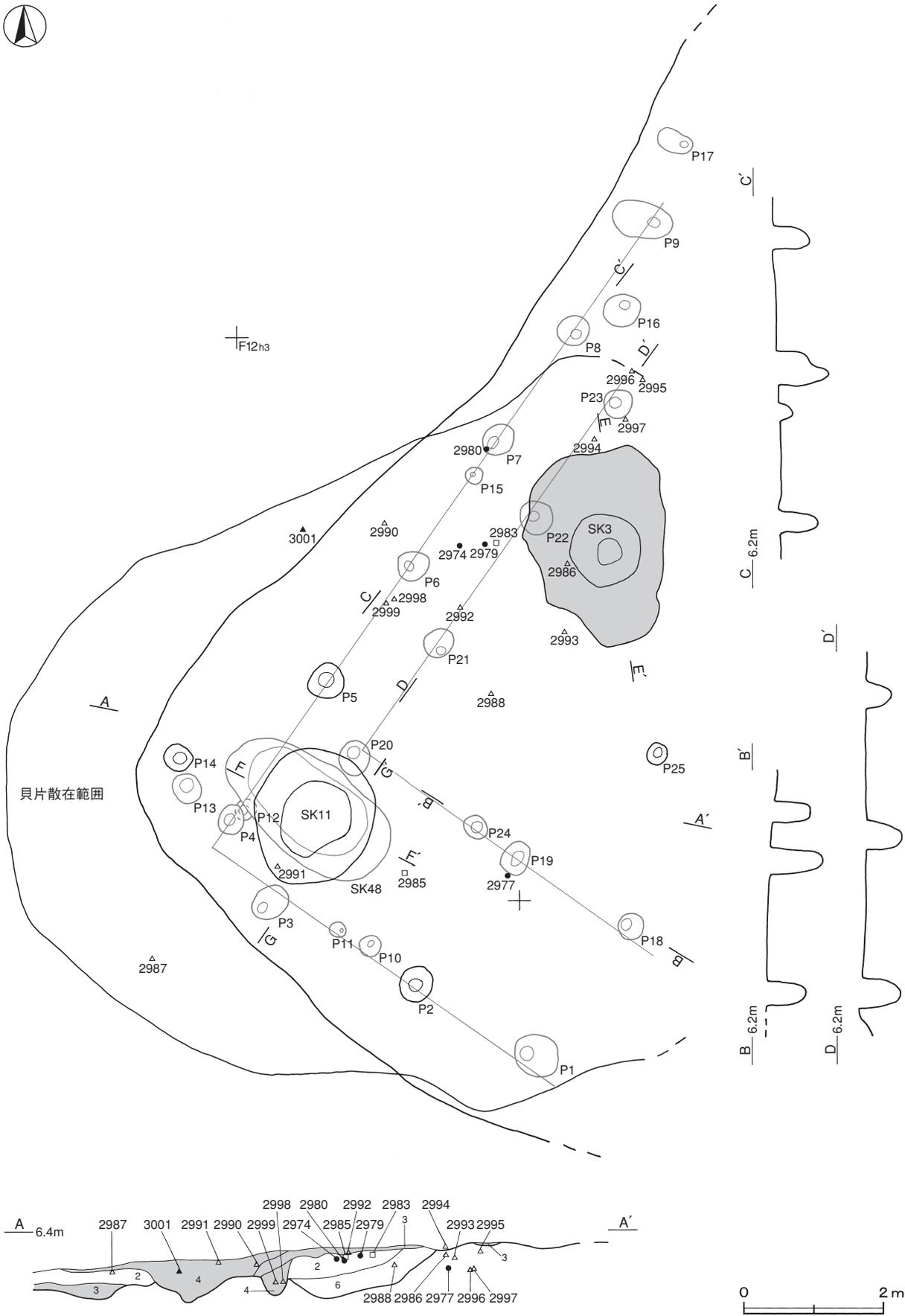
床 西部に向かって緩やかに傾斜し、最大で60cmの黒色土を貼り付けて構築されている。床面には、破碎されたウバ貝やカキの碎片と径1~4cm大の細礫が散在している。

ピット 25か所。ピットの配列から2時期に分けられる。P1・P2・P4・P6~P9は深さ33~66cm、黒色土面で確認したP3・P5は深さ90・92cmで、桁行5間、梁行2間を支えた主柱穴と考えられる。P10~P17は深さ30~44cmで上屋を支えた柱穴と考えられる。また、P18~P23は深さ34~59cmで、桁行3間、梁行2間を支えた主柱穴と考えられる。P24・P25は深さ61・73cmで上屋を支えた柱穴と考えられる。P22は第3号土坑の下から確認されたものであり、桁行3間、梁行2間の建物跡の方が古いと判断した。

土坑 (第44図) 黒色土で構築された第3号土坑は黒色土面の中央部、第11号土坑は黒色土面の南西部に位置している。第48号土坑は黒色土面の下層から確認されている。第3号土坑は厚さ5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第48号土坑は第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



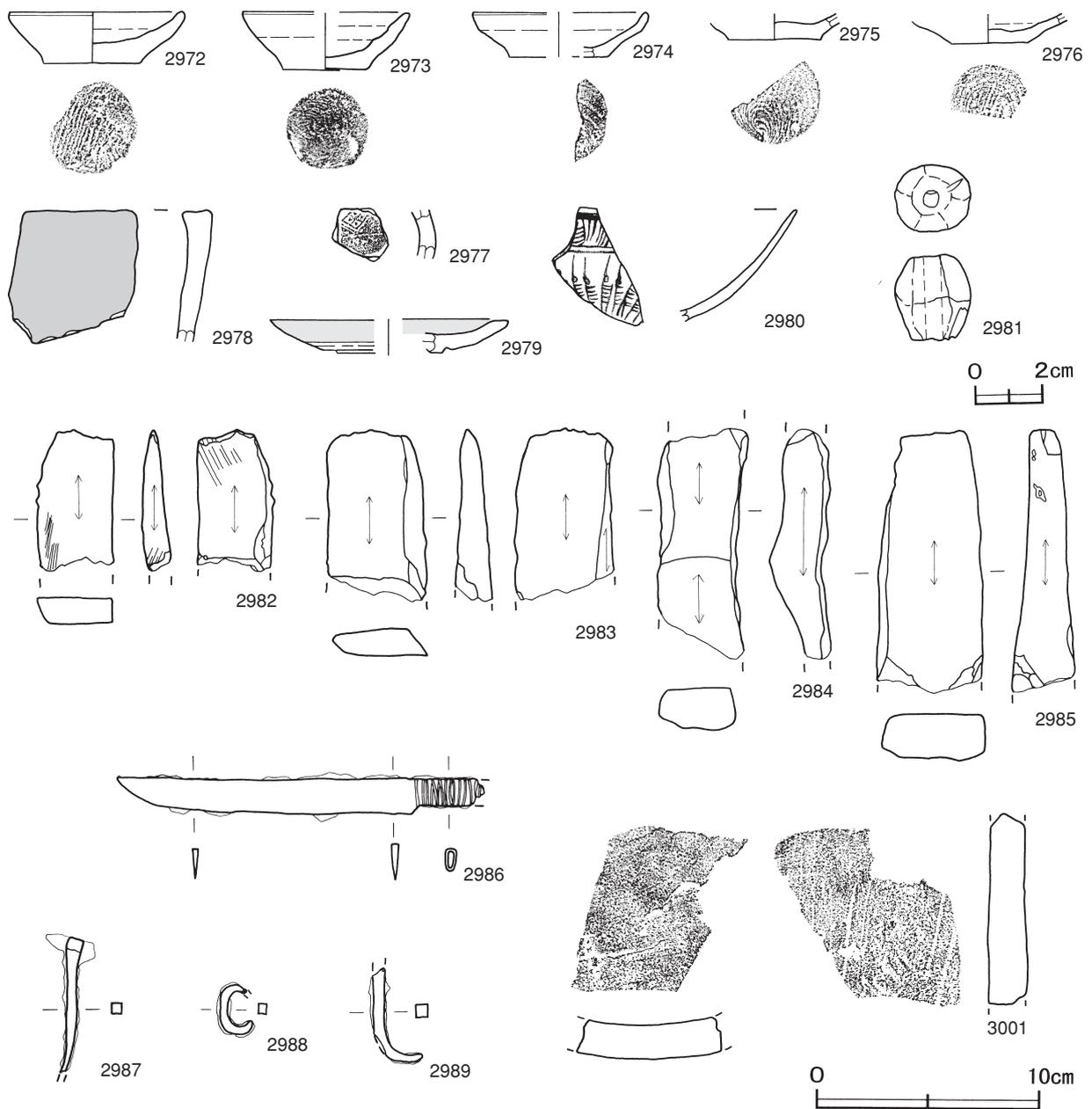
第44図 第47号建物跡土坑土層図



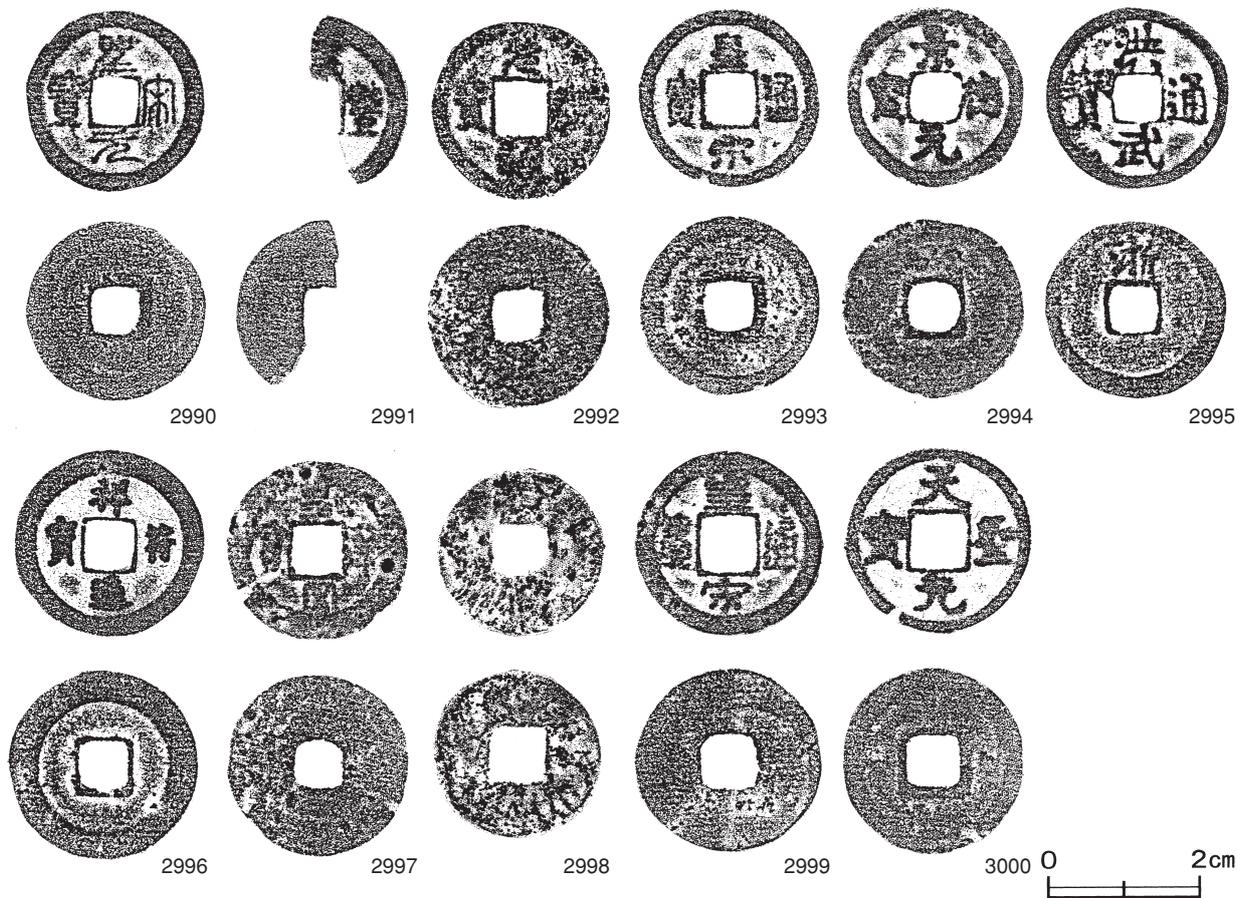
第45図 第47号建物跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片58点（小皿5，皿29，香炉2，鍋22），陶器片1点（小皿），磁器片1点（碗），土製品1点（土錘），石器4点（砥石），金属製品20点（小刀1，釘1，鍬カ1，古銭11，不明6），瓦片1点が出土している。中央部の第3号土坑付近から多く出土し，2974・2977・2979・2980・2983・2986・2988・2990・2992～2994・2997が黒色土上面から黒色土中にかけて散在している。また，2995は北部の黒色土上面，2972・2975はP5内，3000はP7内から出土している。古銭は全体に散在しており，2995の洪武通寶が最新銭である。

所見 破碎された貝や細礫は広範囲で確認されているが，目的や性格は不明である。厚く貼り付けられた黒色土や皿，内耳鍋などの生活雑器類や小刀が出土していることから建物跡と判断した。また，建物跡は柱穴の検出状況から，拡張のための建て替えをしていると判断した。時期は，出土遺物から15世紀末から16世紀前半と考えられる。



第46図 第47号建物跡出土遺物実測図(1)



第47図 第47号建物跡出土遺物実測図(2)

第47号建物跡出土遺物観察表 (第46・47図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2972	小皿	土師質土器	7.7	2.3	4.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後スノコ圧痕	P 5 内	70%
2973	小皿	土師質土器	[7.4]	2.6	3.8	長石・雲母	灰黄褐	普通	内底面横ナデ	覆土中	70% PL72
2974	小皿	土師質土器	[7.6]	2.0	[4.4]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	中央部黒色土中	25%
2975	小皿	土師質土器	-	(1.1)	[4.2]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	P 5 内	10%
2976	小皿	土師質土器	-	(1.3)	[3.4]	雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面横ナデ	覆土中	10%
2977	香炉	土師質土器	-	(2.2)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面スタンプ文(菱形文)	中央部黒色土中	5%
2978	内耳鍋	土師質土器	-	(6.1)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面煤付着	覆土中	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
2979	腰折皿	陶器	[10.6]	1.5	[4.8]	白灰・褐灰	灰釉	削り出し高台	瀬戸・美濃産 15C後半	中央部黒色土上面	10% 古瀬戸後4
2980	碗	磁器	-	(5.1)	-	白灰・灰白	染付・透明釉	芭蕉葉文カ	漳州窯系 16C前半	中央部黒色土中	10% PL69

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
2981	土錘	2.6	2.3	2.1	11.2	長石・雲母	外面棗状にナデ整形	覆土中	
2982	砥石	(6.3)	3.4	1.4	(42.7)	凝灰岩	砥面3面 砥面に擦痕有り	覆土中	
2983	砥石	(7.7)	4.5	1.7	(61.9)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	中央部黒色土上面	
2984	砥石	(10.4)	4.0	2.7	(113.2)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	覆土中	
2985	砥石	(11.9)	4.8	2.8	(199.2)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	南部黒色土中	
2986	小刀	(16.6)	1.6	0.2~0.5	(29.9)	鉄	刀身部完存 柄巻遺存	中央部黒色土上面	
2987	釘	(6.3)	0.5	0.5	(9.3)	鉄	断面方形 先端部欠損	南部砂層	
2988	耳金	2.5	0.4	0.5	(3.2)	鉄	断面方形 頭部欠損	中央部黒色土中	
2989	耳金カ	(4.7)	0.5	0.6	(9.1)	鉄	断面方形 先端部欠損	覆土中	
3001	平瓦	(8.9)	(6.6)	1.8	(138.4)	長石・雲母	凹面ヘラナデ 凸面ヘラ削り	西部砂層	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
2990	聖宋元寶	2.43	0.61	0.10	3.18	1101	銅	篆書	中央部黒色土上面	
2991	□豊-	-	-	0.11	(1.54)	-	銅	篆書 欠け 元豊通寶カ	南部黒色土上面	
2992	元祐通寶カ	2.43	0.67	0.13	3.76	1086	銅	篆書	中央部黒色土上面	
2993	皇宋通寶	2.42	0.68	0.16	3.00	1038	銅	真書	中央部黒色土上面	
2994	景德元寶	2.41	0.63	0.10	3.44	1004	銅	真書	中央部黒色土上面	
2995	洪武通寶	2.46	0.59	0.10	3.06	1368	銅	真書 背上「浙」	北部黒色土上面	
2996	祥符通寶	2.53	0.67	0.11	3.24	1008	銅	真書	北部黒色土上面	
2997	皇宋通寶カ	2.45	0.64	0.10	(3.08)	1038	銅	篆書 欠け	北部黒色土中	
2998	□□□□	2.21	0.72	0.12	(2.04)	-	銅	判読不明 錆付着	中央部黒色土中	
2999	皇宋通寶	2.49	0.75	0.09	3.36	1038	銅	真書	中央部黒色土中	
3000	天聖元寶	2.50	0.78	0.10	(3.32)	1023	銅	真書 欠け	P 7 内	

第48号建物跡 9区HK-2 (第48~51図)

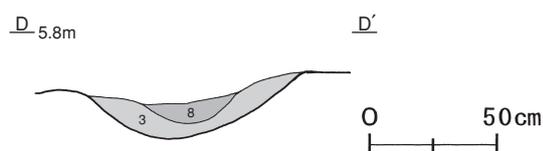
位置 調査区中央部のF12h3区を中心に位置している。東側には、第47号建物跡が隣接している。

重複関係 第46号建物跡の上面に構築されている。

確認状況 表砂を約4.9m除去し、標高約5.6mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、貝集積地と柱穴8か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長径5.7m、短径2.7mの楕円形で、長径方向はN-37°-Eある。ピットの配列から、桁行2間、梁行2間の北東棟の建物跡と捉えた。桁行方向はN-43°-E、規模は桁行・梁行とも3.3mで、面積は10.9㎡である。柱間寸法は約1.6mを基調としている。付属施設として、炉1基が構築され、貝集積地1か所が確認された。

床 ほほ平坦で、厚さ6~8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。



炉 (第48図) 中央部に位置し、厚さ4~8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。

第48図 第48号建物跡炉土層図

ピット 8か所。深さは56~69cmで、上屋を支えた主柱穴と考えられる。

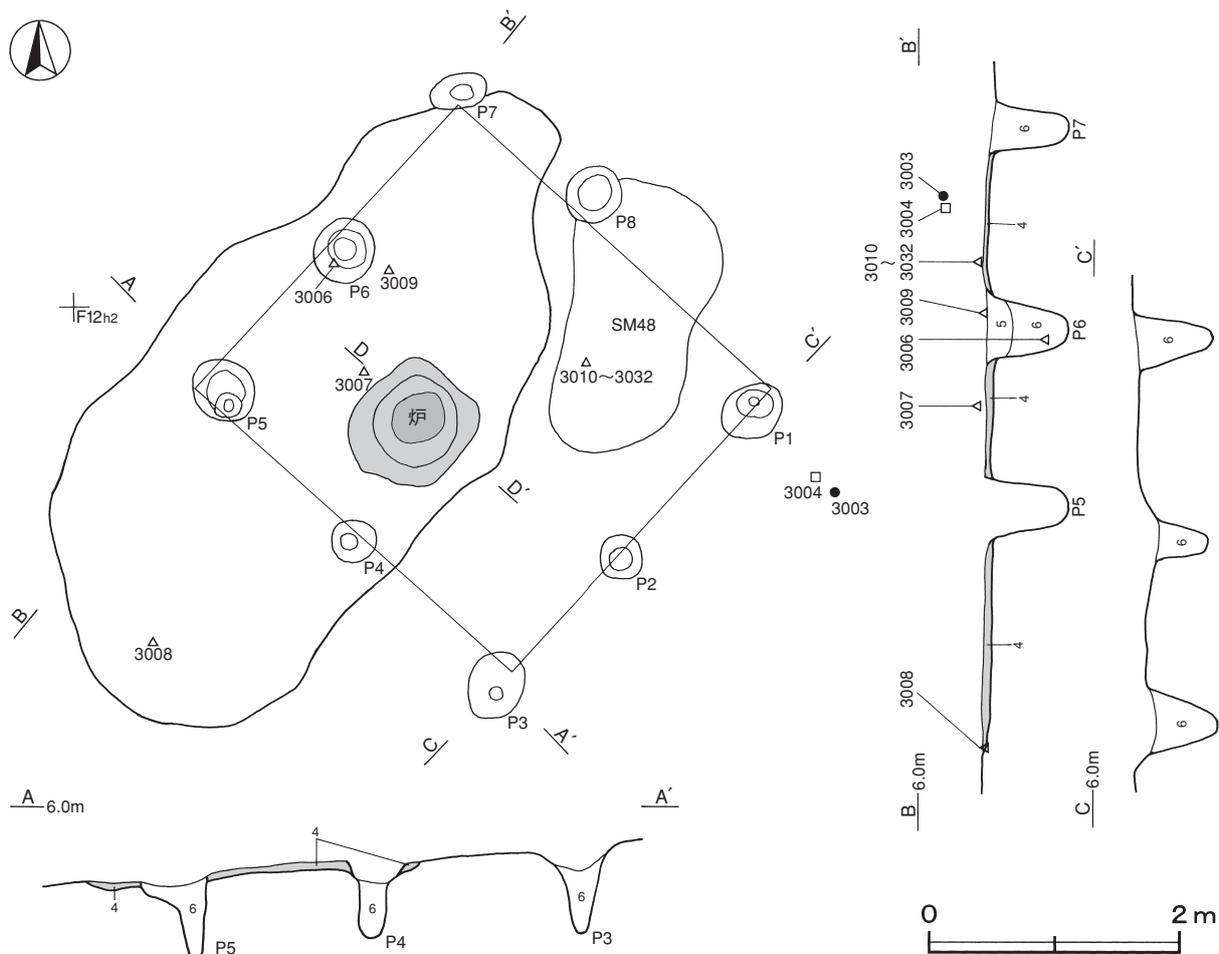
貝集積地 第48号貝集積地はP8付近に位置している。長径2.2m、短径1.2mの楕円形で、貝層の厚さは最大で8cmである。

第48号貝集積地出土貝種一覧表

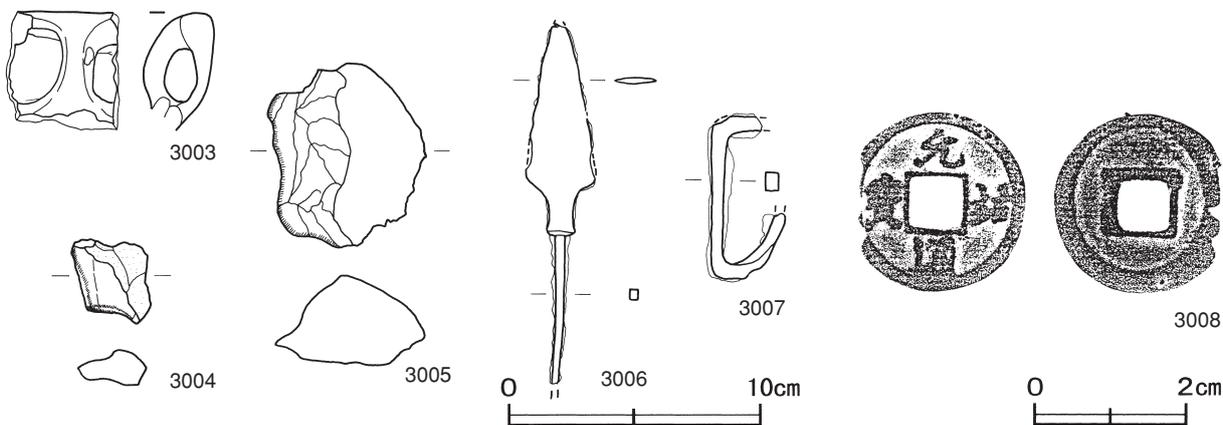
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	クボガイ	10.0	0.22	1		8	コタマガイ	90.0	1.94	8	
2	レイシガイ	45.0	0.97	1		9	チョウセンハマグリ	120.0	2.58	3	
3	サルボウガイ	10.0	0.22	1		10	ウバガイ	1,840.0	39.61	L=27 R=15	
4	アカガイ	15.0	0.32	2		11	カキ細片	180.0	3.88		
5	ベンケイガイ	20.0	0.43	2		12	ウバガイ細片	1,700.0	36.60		
6	カキ	450.0	9.69	10							
7	マツカサガイ	165.0	3.55	L=37 R=28	淡水						

遺物出土状況 土師質土器片3点(鍋), 石器2点(火打石), 金属製品28点(耳金1, 鉾1, 古銭26)が出土している。3003は東部の砂層, 3007・3009は中央部の黒色土上面, 3008は南部の黒色土中, 3006はP6内から出土している。3010~3023は第48号貝集積地の下から縉の状態出土している。3010・3011の洪武通寶が最新銭である。

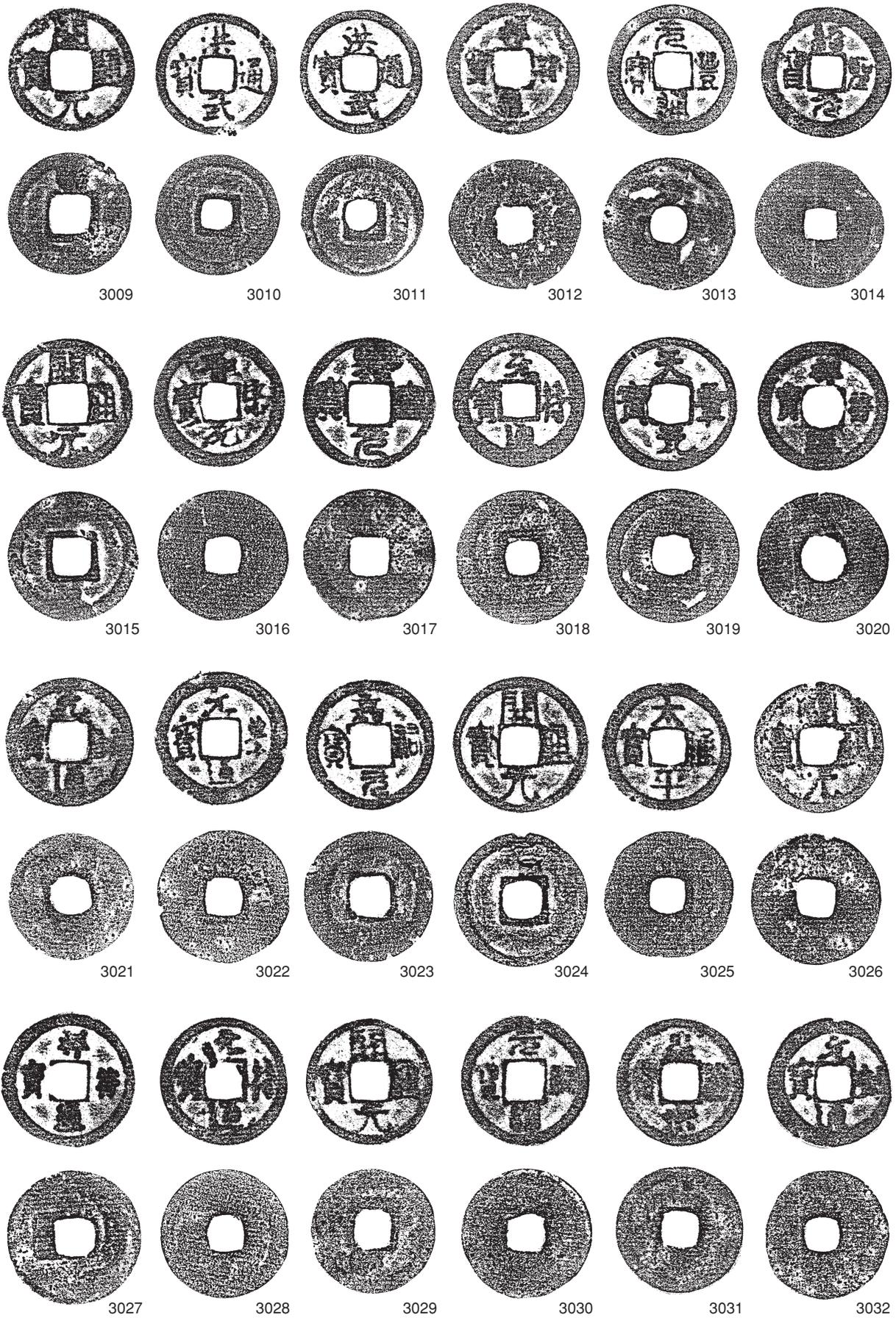
所見 桁行2間, 梁行2間の北東棟で, 屋内に炉を構築していることから建物跡と判断した。鉾や耳金などの出土遺物から, 作業小屋の性格をもつ建物と推測される。



第49図 第48号建物跡実測図



第50図 第48号建物跡出土遺物実測図(1)



第51図 第48号建物跡出土遺物実測図(2) [古銭は原寸大]

第48号建物跡出土遺物観察表（第50・51図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3003	内耳鍋	土師質土器	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 耳は楕円形 外面煤付着	東部砂層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3004	火打石	3.3	3.1	1.4	15.3	瑪瑙	一部の稜が摩滅	東部砂層	
3005	火打石	7.3	6.1	3.6	160.8	石英	一部の稜が摩滅	覆土中	
3006	銚	(14.3)	2.7	0.2~0.4	(30.5)	鉄	先端部楕円形 峰部方形	P 6 内	PL92
3007	耳金	6.4	0.5	0.7	(20.3)	鉄	断面方形 両端部欠損	中央部黒色土上面	PL92

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3008	元祐通寶	2.43	0.74	0.10	(3.28)	1086	銅	行書 欠け	南部黒色土中	
3009	開元通寶	2.28	0.78	0.12	3.48	621	銅	真書	中央部黒色土上面	
3010	洪武通寶	2.23	0.58	0.12	3.38	1368	銅	真書	SM48下	
3011	洪武通寶	2.24	0.54	0.13	3.18	1368	銅	真書	SM48下	
3012	祥符通寶	2.43	0.68	0.08	2.64	1008	銅	真書	SM48下	
3013	元豊通寶	2.43	0.64	0.08	2.44	1078	銅	篆書 鑄込み不足の穴有り	SM48下	
3014	紹聖元寶	2.43	0.56	0.11	(4.10)	1094	銅	篆書 欠け	SM48下	
3015	開元通寶	2.36	0.73	0.09	2.28	621	銅	真書 鑄込み不足の穴有り	SM48下	
3016	聖宋元寶	2.38	0.69	0.07	2.10	1101	銅	行書	SM48下	
3017	熙寧元寶	2.41	0.75	0.13	3.88	1068	銅	篆書	SM48下	
3018	元符通寶	2.47	0.59	0.10	3.46	1098	銅	行書 鑄込み不足の穴有り	SM48下	
3019	天聖元寶	2.42	0.72	0.08	2.70	1023	銅	真書 鑄込み不足の穴有り	SM48下	
3020	祥符通寶	2.34	0.75	0.08	2.72	1008	銅	真書	SM48下	
3021	元祐通寶	2.36	0.67	0.10	3.38	1086	銅	行書	SM48下	
3022	元豊通寶	2.44	0.65	0.10	2.98	1078	銅	篆書	SM48下	
3023	嘉祐元寶	2.36	0.71	0.11	3.46	1056	銅	真書	SM48下	PL96
3024	開元通寶	2.46	0.71	0.12	3.28	621	銅	真書 背上「月」	SM48下	
3025	太平通寶	2.37	0.64	0.09	2.98	976	銅	真書	SM48下	
3026	開元通寶	2.38	0.68	0.07	(2.72)	621	銅	真書 欠け	SM48下	
3027	祥符通寶	2.43	0.71	0.07	2.70	1008	銅	真書	SM48下	
3028	元符通寶	2.32	0.67	0.08	2.54	1098	銅	真書	SM48下	
3029	開元通寶	2.32	0.68	0.12	3.68	621	銅	真書 背下「□」	SM48下	
3030	元祐通寶	2.36	0.70	0.10	3.08	1086	銅	篆書	SM48下	
3031	皇宋通寶	2.32	0.70	0.09	2.92	1038	銅	真書	SM48下	
3032	元祐通寶	2.28	0.60	0.09	2.74	1086	銅	行書	SM48下	

第49号建物跡 9区HK-13（第52~55図）

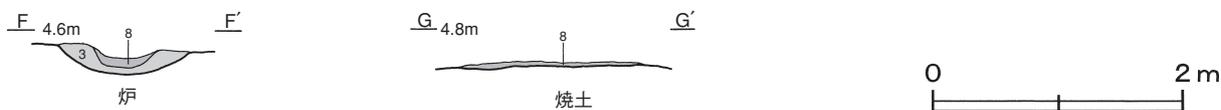
位置 調査区中央部のF11g6区を中心に位置している。

確認状況 第1号土手状遺構の西部を約0.8m掘り下げた、標高約4.6mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉と土坑を、さらに黒色土を除去して、柱穴15か所が確認された。

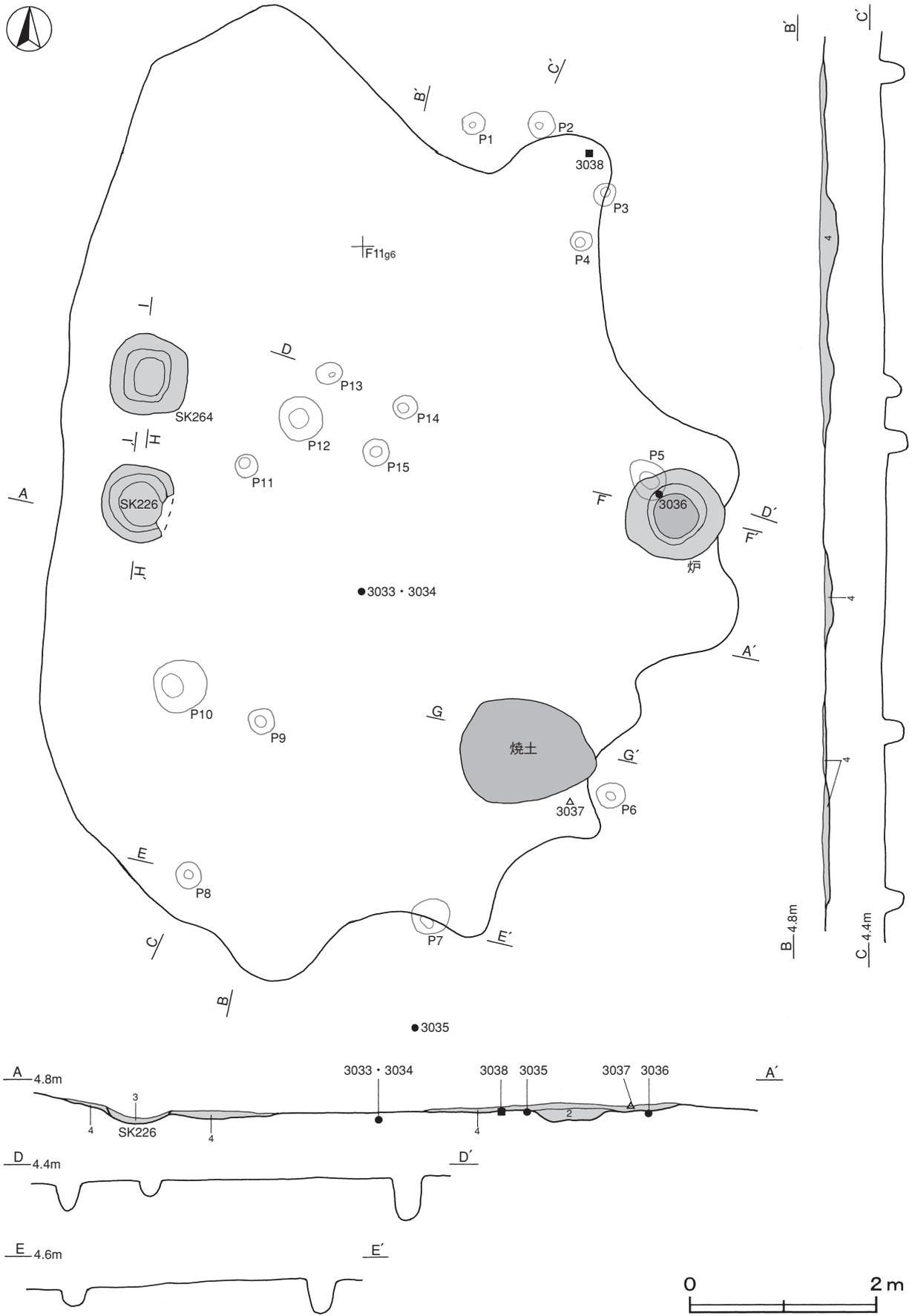
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸10.6m、短軸7.6mの不定形で、長軸方向はN-0°である。付属施設として、炉1基、土坑2基が構築されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ5~15cmの黒色土を貼り付けて構築されているが、締まりは弱い。P6付近には、わずかに堆積した焼土が広がっている。

炉（第52図）東部に位置し、厚さ4cmの黒色土を貼り付けて構築されている。灰と焼土が検出されている。

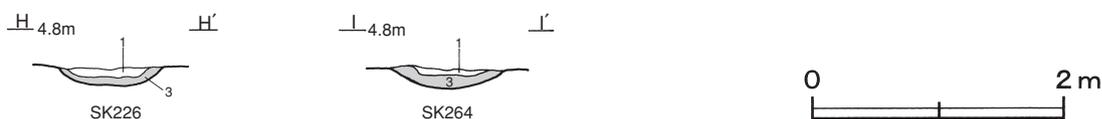


第52図 第49号建物跡炉・焼土土層図



第53图 第49号建物迹实测图

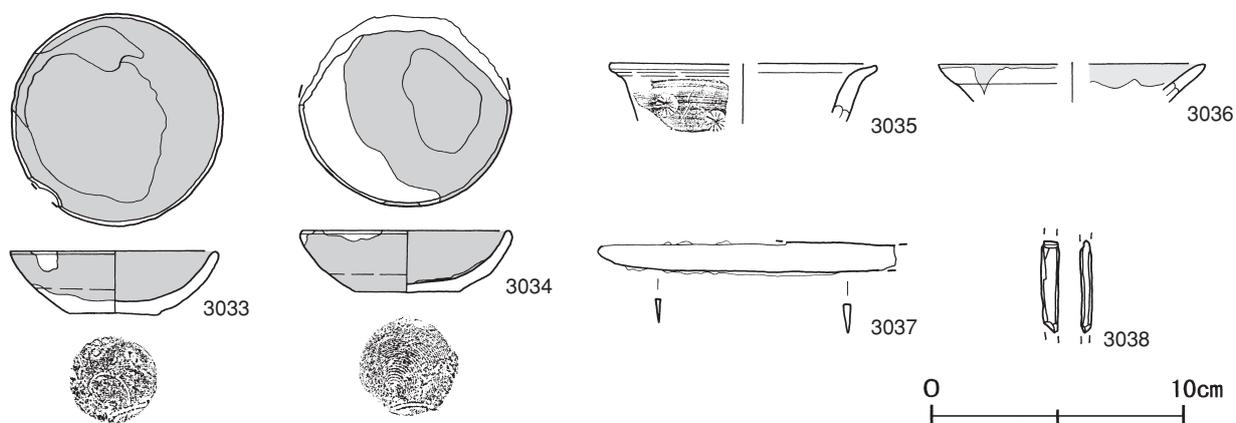
ピット 15か所。P1・P2・P4・P6・P8・P9・P14は深さ15～25cm, P3・P5・P7・P10～P13・P15は深さ30～60cmである。上屋を支える柱穴と考えられるが、対応するピットが検出されなかった。
 土坑 (第54図) 第226・264号土坑は、西部に位置している。第226号土坑は厚さ5cm, 第264号土坑は厚さ5～9cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は第1層の砂A層が堆積しており、同時期に使用されていたと考えられる。



第54図 第49号建物跡土坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片9点(小皿2, 皿1, 香炉1, 鍋5), 陶器片1点(皿), 須恵器片1点(甕), 金属製品2点(小刀, 釘カ), 骨角製品1点(筭)が出土している。3033・3034は中央部の黒色土下, 3037は南部, 3038が北部の黒色土上面, 3036は炉内からそれぞれ出土している。3033・3034の小皿は重なって出土し、内面全体に煤が付着している。

所見 第1次面で確認された第1号土手状遺構や第41・42号建物跡から、約0.8mの砂層をはさんで検出されている。炉と複数の土坑, 灯明具として使用された小皿などが出土していることから建物跡と判断した。時期は、出土遺物から15世紀末から16世紀前半と考えられる。



第55図 第49号建物跡出土遺物実測図

第49号建物跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3033	小皿	土師質土器	8.1	2.5	3.4	雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転条切り 内・外面油煙付着	中央部黒色土下	95% PL72
3034	小皿	土師質土器	8.1	2.4	4.1	雲母	灰黄褐	普通	底部回転条切り 内・外面油煙付着	中央部黒色土下	80% PL72
3035	香炉	土師質土器	[10.4]	(2.3)	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面スタンプ文(菊花文)	南部砂層	5% PL80
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3036	縁袖小皿	陶器	[10.6]	(1.5)	-	灰黄・灰白	灰釉	口縁部片	瀬戸・美濃産 16C前葉	炉内	10% 大窯1 PL70
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3037	小刀	(11.8)	1.1	0.2～0.3	(15.5)	鉄	茎部欠損 棟部一部遺存		南部黒色土上面	PL91	
3038	筭カ	(3.7)	0.7	0.4	(1.2)	骨角	胴部遺存 断面長方形		北部黒色土上面		

第50号建物跡 9区SX-2 (第56~59図)

位置 調査区中央部のF11j0区を中心に位置している。約6.0m西側には、第48号整地面が位置している。

重複関係 北側の上面には、第42号建物が構築されている。

確認状況 表砂を約5.3m除去し、標高約5.2mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉と柱穴4か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸7.9m、短軸4.1mの不定形で、長軸方向はN-44°-Wである。中央部に炉1基が構築されている。



第56図 第50号建物跡実測図

床 ほぼ平坦で、厚さ4～8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉の西部付近は、黒色土面が硬化している。炉の南部にある、径15cm、深さ4cmほどのくぼみには、鍛造剥片が堆積している。

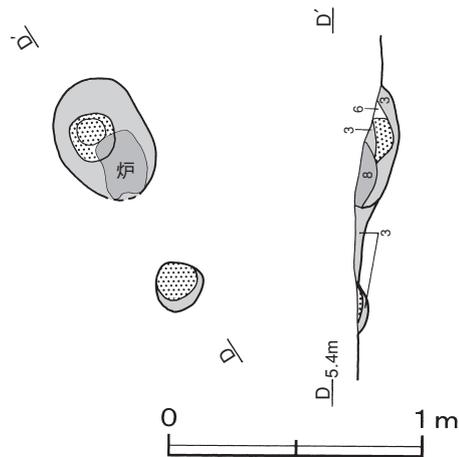
炉 (第57図) 長径0.6m、短径0.4mの楕円形で、8cmの焼砂が堆積している。断ち割ると厚さ7cmの硬化した砂層が確認された。これは、溶かした鉄分が含まれている層で椀状を呈している。

ピット 4か所。深さは53～86cmである。炉を囲むようには配列されていないが、上屋を支えた柱穴の可能性が考えられる。

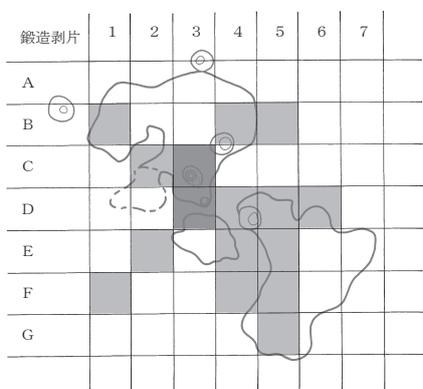
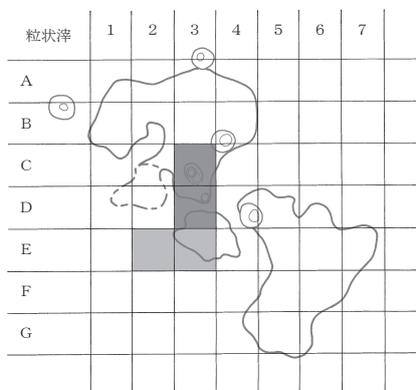
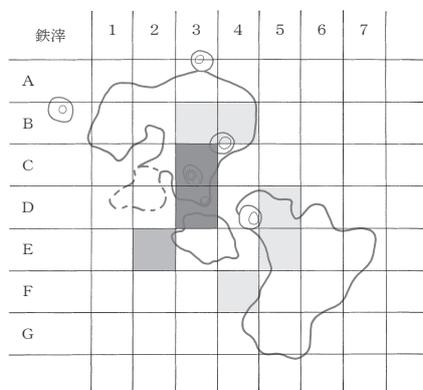
遺物出土状況 土師質土器片4点(皿1, 鍋3), 金属製品3点(古銭1, 不明2)が出土している。3039はP4内, 3040の内耳鍋はP2内から出土している。中央部に1m単位の方眼を組み、黒色土を選別した結果、

多量の鉄滓類が確認された。炉内からは、鉄滓288.5g, 粒状滓1.01g, 鍛造剥片2.03gが選別されている。また、鍛造剥片は炉の南側から多く出土しており、特にD3区では、101.06gと最も多く出土している。

所見 炉内から鉄滓, 炉を中心とする黒色土面から粒状滓や鍛造剥片が検出されたことから、鍛錬鍛冶が行われていた作業小屋と考えられる。床面の特徴と鍛造剥片の出土状況から、硬化した黒色土面から炉を中心として作業が行われていたと推測される。



第57図 第50号建物跡炉実測図



鉄滓	0.01～0.99	1.0～9.99	10.0以上
粒状滓・鍛造剥片	0.01～0.09	0.1～0.49	0.5以上

(単位はg)

第58図 第50号建物跡鉄滓類分布図

第50号建物跡 鉄滓類出土表

グリット	鉄滓	粒状滓	鍛造剥片	小計
A1	0	0	0	0
A2	0	0	0	0
A3	0	0	0	0
A4	0	0	0	0
A5	0	0	0	0
A6	0	0	0	0
A7	0	0	0	0
B1	0	0	0.32	0.32
B2	0	0	0	0
B3	0.40	0	0	0.40
B4	0.22	0	0.26	0.48
B5	0	0	0.14	0.14
B6	0	0	0	0
B7	0	0	0	0
C1	0	0	0	0
C2	0	0	0.24	0.24
C3	51.92	6.42	4.24	62.58
C4	0	0	0	0
C5	0	0	0	0
C6	0	0	0	0
C7	0	0	0	0

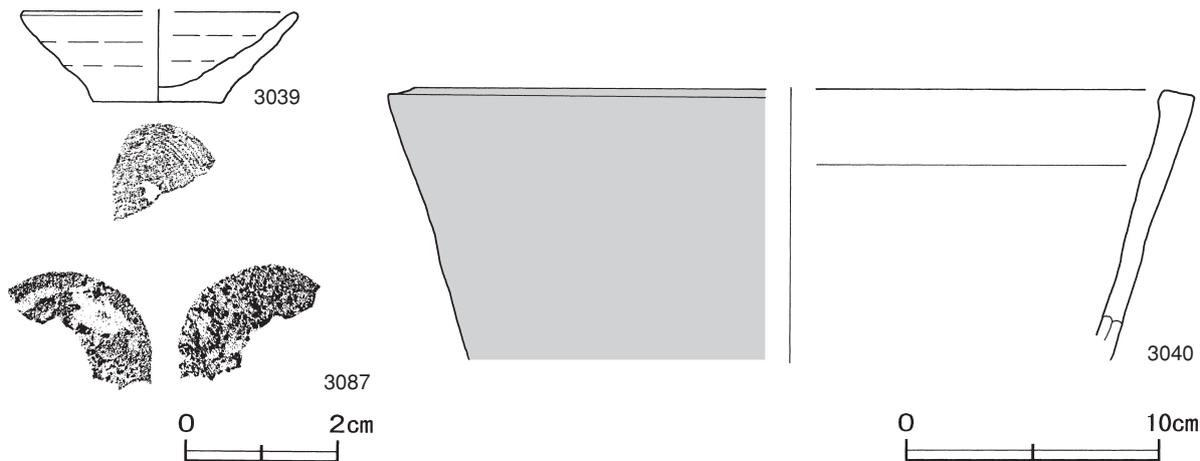
グリット	鉄滓	粒状滓	鍛造剥片	小計
D1	0	0	0.08	0.08
D2	0	0	0.46	0.46
D3	31.82	1.22	101.06	134.10
D4	0	0	0.32	0.32
D5	0.16	0	0.10	0.26
D6	0	0	0.14	0.14
D7	0	0	0	0
E1	0	0	0	0
E2	4.12	0.14	0.22	4.48
E3	0	0.22	0	0.22
E4	0	0	0.12	0.12
E5	0.66	0	0.16	0.82
E6	0	0	0	0
E7	0	0	0	0
F1	0	0	0.36	0.36
F2	0	0	0	0
F3	0	0	0	0
F4	0.26	0	0.10	0.36
F5	0	0	0.20	0.20
F6	0	0	0	0
F7	0	0	0	0

グリット	鉄滓	粒状滓	鍛造剥片	小計
G1	0	0	0	0
G2	0	0	0	0
G3	0	0	0	0
G4	0	0	0	0
G5	0	0	0.21	0.21
G6	0	0	0	0
G7	0	0	0	0

炉	288.56	1.01	2.03	291.60
---	--------	------	------	--------

総計	378.12	9.01	110.76	497.63
----	--------	------	--------	--------

(単位はg)



第59図 第50号建物跡出土遺物実測図

第50号建物跡出土遺物観察表 (第59図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3039	皿	土師質土器	[10.9]	3.6	5.1	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	P 4内	40%
3040	内耳鍋	土師質土器	[29.6]	(10.8)	-	長石・雲母	橙	普通	口縁部横ナア 体部外面煤付着	P 2内	10%

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3087	-□--	-	-	0.13	(1.28)	-	銅	欠け 判読不能	覆土中	

表3 9区建物跡一覧表

番号	旧遺構番号	位置	長軸・長径方向	黒色土			形状	厚さ(cm)	建物跡						付属施設	ピット	備考 新旧関係 旧→新	
				標高(m)	範囲(最大値) 長軸(径) (m)	短軸(径) (m)			桁行方向	柱間数	規模 桁行×梁行 (m)	面積 (㎡)	棟向	桁行柱間 (m)				梁行柱間 (m)
39	9区SI1	F12d2	N-35°-W	5.1	19.5	15.2	不定形	10~22	N-45°-E N-47°-W	3×2 3×1	9.1×7.2 6.5×4.1	65.5 10.6	北東棟 北西棟	不規則 2.1	不規則 3.9	炉1・2, SN1・38, SK9・130	33	SI40→本跡、北西棟P1~P8主 柱穴、北東棟P9~P20柱穴・ P21~P28柱穴
40	9区SI7	F12c1	N-40°-E	4.8~5.0	12.3	8.1	隅丸長方形	4~20	-	-	-	-	-	-	-	SN2・8・37A・37B, SK12	5	本跡→SI39・第1号土手状遺構
41	9区SI2	F11h0	N-40°-E	5.3	17.0	5.9	不定形	8~12	N-40°-E	7×1	15.5×3.7	57.8	北東棟	2.1	3.7	炉1~3, SN4・9・14・17・18, SK21, SM49	17	SI42→本跡, P1 ~P16主柱穴
42	9区SI6	F11h0	-	5.1~5.2	-	-	-	-	N-40°-E	5×1	13.5×4.9	66.2	北東棟	1.8~2.1	4.4・4.9	炉1~3, SN13・ 15・41, SK41	13	本跡→SI41・SI50, P1~P11主柱穴
43	9区SI3	E12g4	-	4.3	南北(10.6) 東西(4.4)	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	SN3, SK13	3	P1~P3柱穴
44	9区SI4	G11d8	N-47°-W	4.8~5.3	11.0	8.6	隅丸長方形	10~15	N-40°-E	-	7.1×6.6	46.9	北東棟	不規則	不規則	炉	15	P1~P12主柱穴, P13~P15柱穴
45	9区SI5	G11e0	N-33°-E	5.3	6.8	5.0	不定形	6~10	N-37°-E	3×1	6.2×3.5	21.7	北東棟	2.0	3.5	炉, SN5・6・7・12・19・20, SK17・18・19・39	7	P1~P7主柱穴
46	9区SI8	F12h2	-	5.5	-	-	-	-	N-42°-E	2×2	4.5×3.2	14.4	北東棟	2.2	1.6	炉, SN21, SM50	7	本跡→SI48, P1~P7主柱穴
47	9区HK1	F12i4	-	6.2	南北 (12.4)	東西 (8.2)	-	2~60	N-35°-E N-35°-E	5×2 3×2	(10.4)×(4.4) (6.4)×(4.6)	[45.8] [29.4]	[北東棟] [北東棟]	2.0 2.0	2.1 2.2	SK3・11・48	25	5×2間P1~P9主柱穴・P10~ P17柱穴, 3×2間P18~P23主 柱穴・P24・P25柱穴
48	9区HK2	F12h3	N-37°-E	5.6	5.7	2.7	楕円形	6~8	N-43°-E	2×2	3.3×3.3	10.9	北東棟	1.6	1.6	炉, SM48	8	SI46→本跡, P1~P8主柱穴
49	9区HK13	F11g6	N-0°	4.6	10.6	7.6	不定形	5~15	-	-	-	-	-	-	-	炉, SK226・264	15	P1~P15柱穴
50	9区SX2	F11j0	N-44°-W	5.2	7.9	4.1	不定形	4~8	-	-	-	-	-	-	-	炉	4	本跡→SI42, P1~P4柱穴

表4 9区建物跡炉一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI39	炉1	F12d2	5.0	N-42°-W	1.3	1.3	9	隅丸方形	7~13	-	緩斜	皿状		
	炉2	F12d2	5.0	-	1.3	1.2	18	方形	7	-	緩斜	平坦		(9区SK10)
SI41	炉1	F11g9	5.2	N-45°-W	2.3	1.3	6	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		(9区SK15)
	炉2	F11g9	5.2	-	1.2	1.1	6	方形	10	-	緩斜	皿状		
	炉3	F11g9	5.2	-	1.1	1.1	14	方形	-	-	緩斜	皿状		SN9→本跡 (9区SK16)
SI42	炉1	F12h1	5.3	N-62°-E	0.8	0.6	13	楕円形	9	-	緩斜	皿状		(9区SK43)
	炉2	F11h0	5.2	N-15°-E	0.4	0.3	-	円形	-	-	緩斜	皿状		鍛冶炉カ (9区SX1)
	炉3	F11h9	5.1	-	0.8	0.8	5	円形	5	-	緩斜	平坦		(9区SK42)
SI44	炉	G11c8	4.8	N-44°-E	1.4	1.2	23	長方形	1~10	-	緩斜	凸凹		
SI45	炉	G12d1	5.1	N-40°-E	0.8	0.8	11	不定形	2	-	外傾	平坦		
SI46	炉	F12h2	5.5	N-38°-W	0.8	0.7	5	長方形	5~8	-	緩斜	皿状		(9区SK46)
SI48	炉	F12h2	5.6	N-42°-E	1.0	0.8	20	長方形	4~8	-	緩斜	皿状		(9区SK7)
SI49	炉	F11g6	4.5	-	1.0	1.0	19	円形	4	-	緩斜	平坦	陶器(挟み皿)	(9区SK227)
SI50	炉	F11i0	5.2	N-30°-W	0.6	0.4	32	楕円形	-	-	緩斜	皿状		鍛冶炉

表5 9区建物跡粘土貼土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI39	SN1	F12d2	5.0	-	0.7	0.7	22	円形	5	6	緩斜	皿状		
	SN38	F12d4	5.1	N-46°-W	1.4	(0.8)	21	[不整長方形]	-	2~6	緩斜	皿状		本跡→SK9 (9区SK37)
SI40	SN2	F12c2	5.0	N-65°-E	1.3	1.0	8	楕円形	3	6	外傾	皿状		
	SN8	F12a2	4.8	N-48°-W	2.7	1.6	5	隅丸長方形	4	5	緩斜	平坦		
	SN37A	F12c2	4.9	-	-	-	-	-	-	7	-	-		SN37B→本跡 (9区SK27A)
	SN37B	F12c2	4.8	N-0°	1.2	1.1	15	-	5~7	23	緩斜	皿状	土製品(サイコロ)	本跡→SN37A (9区SK27B)
SI41	SN4	F11g0	5.3	N-43°-W	2.1	1.3	64	長方形	3~5	4~7	緩斜	平坦	古銭	
	SN9	F11g9	5.2	N-62°-W	1.4	[1.2]	42	[楕円形]	-	4~10	外傾・緩斜	皿状		本跡→炉3
	SN14	F11g9	5.2	N-47°-W	[1.6]	(1.1)	27	[隅丸長方形]	5	10	緩斜	凸凹		SN18・SN17→本跡
	SN17	F11g9	5.2	-	(1.1)	(0.4)	26	[楕円形]	-	6	-	-		SN18→本跡→SN14
	SN18	F11g9	5.0	N-40°-W	(0.6)	(0.4)	10	[楕円形]	6	15	-	-		本跡→SK17

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI42	SN 13	F 11h9	5.2	N - 38° - W	0.6	0.5	7	楕円形	4	8	-	-		
	SN 15	F 12h1	5.4	N - 35° - E	1.1	1.0	40	不定形	3~5	5~10	外傾・緩斜	平坦	土師質土器 (小皿) 砥石	
	SN 41	F 11h0	5.2	-	0.8	0.7	10	円形	5~10	7	緩斜	平坦		(9区 SK23)
SI43	SN 3	E 12j4	4.5	N - 41° - E	1.2	1.1	38	隅丸長方形	12~15	5	緩斜	平坦	土師質土器 (小皿) 鈎針	
SI45	SN 5	G 12c1	5.2	N - 47° - W	2.8	1.9	43	楕円形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器 (皿)	
	SN 6	G 12d1	5.2	-	0.9	0.9	16	円形	-	12~15	緩斜	皿状		
	SN 7	G 12d1	4.9	N - 56° - W	(1.3)	1.5	17	[長方形]	5~10	3	緩斜	平坦	古銭	
	SN 12	G 11d0	5.2	N - 49° - E	(1.1)	1.1	24	[楕円形]	-	7~11	緩斜	凸凹	小刀	SK 39→本跡
	SN 19	G 11d0	5.0	-	1.6	1.5	20	方形	-	6	緩斜	平坦		
SI46	SN 20	G 12d1	5.1	-	1.3	1.3	25	方形	-	14	緩斜	凸凹		
SI46	SN 21	F 12h2	5.4	-	0.5	0.5	7	円形	3	5~9	緩斜	皿状		

表6 9区建物跡土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI39	SK 9	F 12e4	5.1	N - 54° - E	1.7	1.4	28	楕円形	-	-	緩斜	皿状	砥石	SN 38→本跡
	SK 130	F 12e4	5.0	-	1.1	1.0	40	円形	5	-	外傾・緩斜	平坦		
SI40	SK 12	F 12b2	4.8	N - 10° - W	1.5	0.6	10	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
SI41	SK 21	F 11f0	5.3	N - 37° - E	1.0	0.8	22	長方形	-	-	外傾・緩斜	平坦		
SI42	SK 41	F 11i9	5.2	N - 45° - W	2.0	1.3	90	楕円形	-	-	外傾・緩斜	平坦		
SI43	SK 13	E 12g4	4.3	-	1.1	1.1	44	円形	-	-	外傾	凸凹	砥石	
SI45	SK 17	G 11d0	5.1	-	1.0	0.9	16	円形	-	-	緩斜	凸凹		
	SK 18	G 11d0	5.1	-	0.6	0.6	23	円形	-	-	外傾・緩斜	凸凹		
	SK 19	G 11e0	5.1	-	1.3	1.3	7	方形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 39	G 11c0	5.3	N - 40° - E	(2.0)	1.1	42	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦	土師質土器 (皿) 石白 釘 瓦	本跡→SN 12
SI47	SK 3	F 12h4	6.2	N - 14° - W	2.7	2.0	19	不定形	5	-	緩斜	皿状		
	SK 11	F 12i3	6.0	N - 30° - E	2.0	1.7	20	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 48	F 12i3	5.8	N - 39° - E	2.6	1.4	40	楕円形	-	-	外傾	平坦		
SI49	SK 226	F 11g5	4.5	N - 10° - E	0.8	0.7	6	不整長方形	5	-	緩斜	平坦		
	SK 264	F 11g5	4.5	-	0.9	0.8	8	長方形	5~9	-	緩斜	平坦		

表7 9区建物跡貝集積地一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	厚さ (cm)							
SI41	SM 49	F 11g0	5.3	N - 30° - W	0.7	0.6	-	楕円形	-	-	-	-		(9区 SM2)
SI46	SM 50	F 12h3	5.5	N - 4° - E	0.4	0.3	12	楕円形	-	-	-	-		(9区 SM3)
SI48	SM 48	F 12i3	5.6	N - 17° - E	2.2	1.2	8	楕円形	-	-	-	-		(9区 SM1)

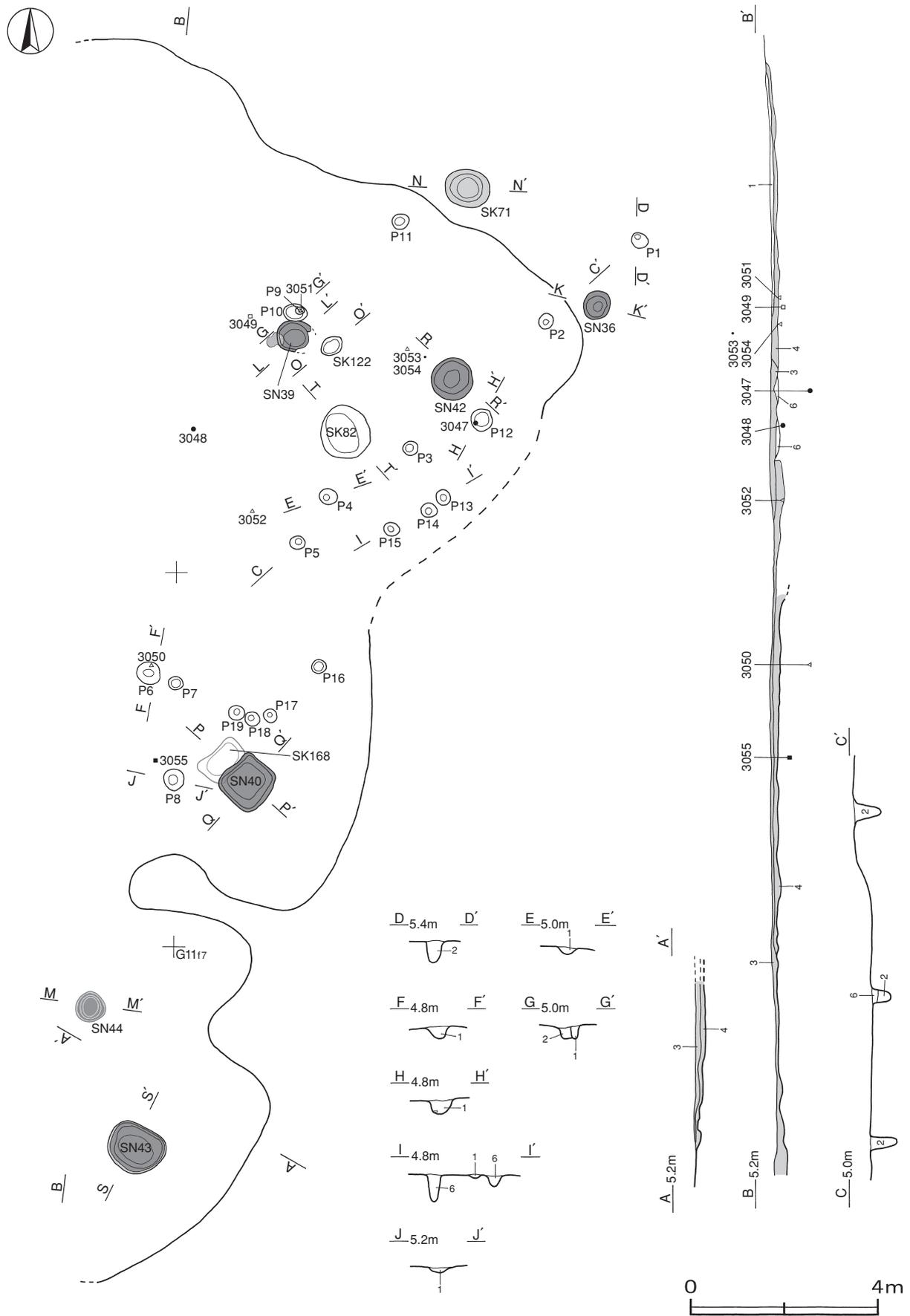
(3) 整地面

第34号整地面 9区HK-3・6 (第60~63区)

位置 調査区南部のG11d7区を中心に位置している。

確認状況 第44号建物跡の西側を約0.1m除去した標高約4.7mで、黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑と柱穴19か所、さらに黒色土を除去して土坑と粘土貼土坑が確認された。

規模と施設 西部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、南北26.4m、東西5.4mが確認された。付属施設として、粘土貼土坑6基、土坑4基が構築されている。

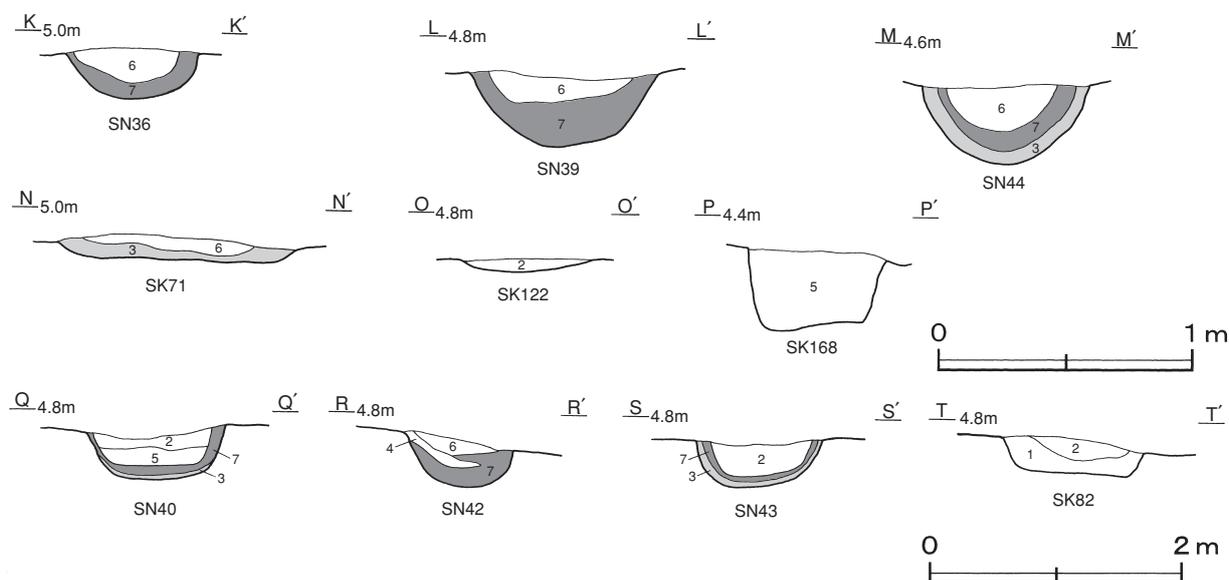


第60图 第34号整地面实测图

生活面 ほぼ平坦で、厚さ7～28cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層、第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。

ピット 19か所。P1～P3・P5・P9・P10・P13・P15は深さ35～67cm、P4・P7・P8・P11・P12・P14・P16～P19は深さ10～29cmである。不規則なため、性格は不明である。

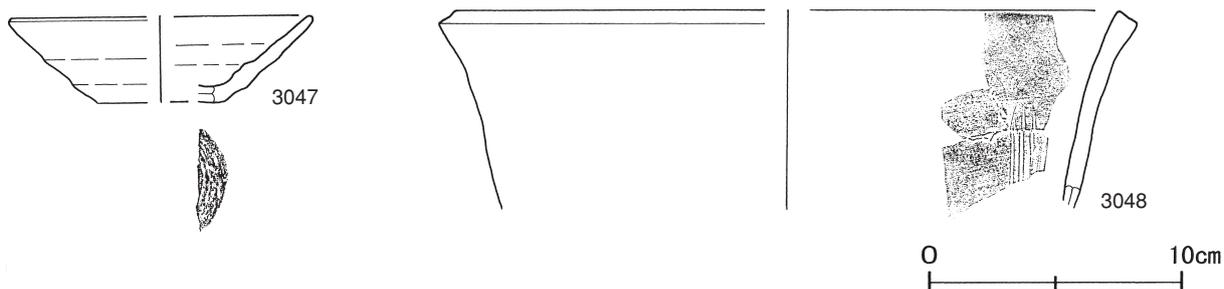
土坑 (第61図) 第36・39・42号粘土貼土坑、黒色土で構築された第71号土坑、第82・122号土坑は北部に位置している。第40・43号粘土貼土坑は黒色土面の南部、第44号粘土貼土坑、第168号土坑は黒色土面の下層から確認されている。第39号粘土貼土坑は遺存状態もよく、中から径10cmの礫が出土している。第36・40・43・44号粘土貼土坑は厚さ2～9cmほどの粘土、第39・42号粘土貼土坑は厚さ8～25cmほどの粘土、第71号土坑は厚さ2～6cmの黒色土を貼り付けて構築されている。



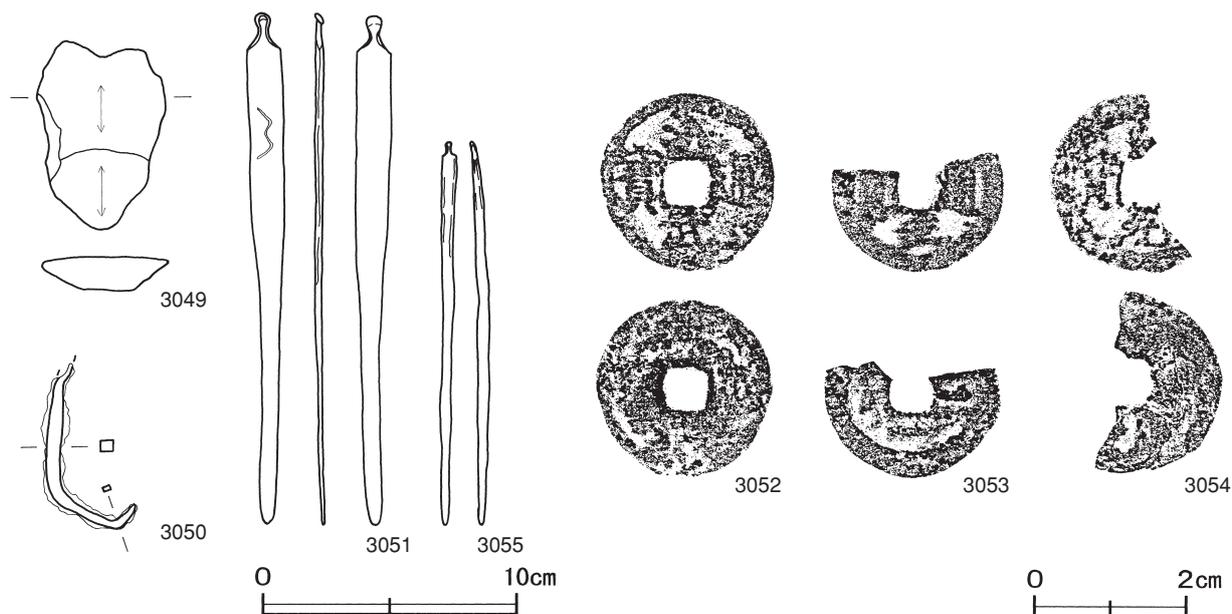
第61図 第34号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片14点(皿8, 鍋4, 播鉢2), 石器1点(砥石), 金属製品5点(吊金具カ1, 筭1, 古銭3), 骨角製品1点(筭)が出土している。3048・3049・3052～3054は北部の黒色土下, 3055は南部の黒色土下, 3047はP12内, 3050はP6内, 3051はP9内からそれぞれ出土している。

所見 炉や配列できる柱穴が確認できなかったことから整地面と判断した。構築されている粘土貼土坑や土坑の範囲から北部と南部に分けられ、作業場として使用されていたと想定される。時期は、最初の遺構確認面から検出されていることから、16世紀前半と考えられる。



第62図 第34号整地面出土遺物実測図(1)



第63図 第34号整地面出土遺物実測図(2)

第34号整地面出土遺物観察表 (第62・63図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3047	皿	土師質土器	[11.8]	4.4	[5.0]	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	P 12内	25%
3048	播鉢	土師質土器	[27.6]	(7.9)	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	4条1単位の播目	北部黒色土下	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3049	砥石	7.5	5.1	1.4	53.2	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	北部黒色土下	
3050	釘カ	(6.8)	0.5	0.2~0.4	(10.2)	鉄	頭部欠損 湾曲	P 6内	
3051	筭	20.3	1.4	0.4	33.2	銅	完存 耳搔部・胴部線刻有り	P 9内	PL70
3055	筭	15.3	0.6	0.7	3.8	鹿角	完存 断面円形 直線的	南部黒色土下	PL70

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3052	洪武通寶	2.33	0.50	0.14	2.74	1368	銅	真書 錆付着	北部黒色土下	
3053	- 武通寶	2.30	0.51	0.15	(2.36)	1368	銅	真書 背右「一」カ 洪武通寶カ 欠け	北部黒色土下	
3054	- 元寶カ	2.50	0.67	0.11	(1.64)	-	銅	真書 欠け 錆付着	北部黒色土下	

第35号整地面 9区HK-4 (第64~66図)

位置 調査区中央部のF12b3区を中心に位置している。

重複関係 第109・123号土坑に掘り込まれている。

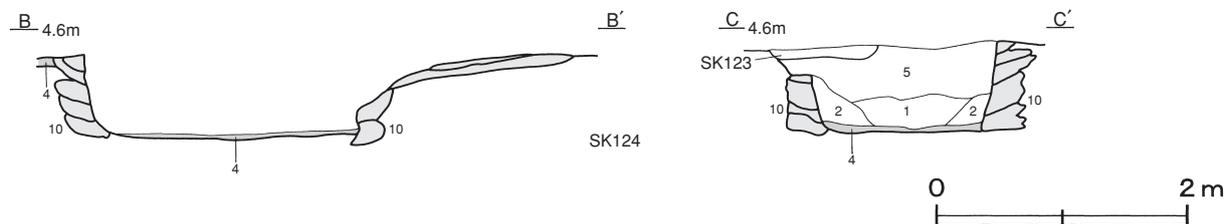
確認状況 第39号建物跡を約1.0m掘り下げた標高約4.4mで、黒色土面と土坑が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸7.0m、短軸4.3mの不定形で、長軸方向はN-0°である。付属施設として、南東部に第124号土坑が構築されている。

生活面 ほほ平坦で、厚さ4~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中、第4層は黒色土B層で締めりは普通である。

ピット 1か所。深さは42cmで、性格は不明である。

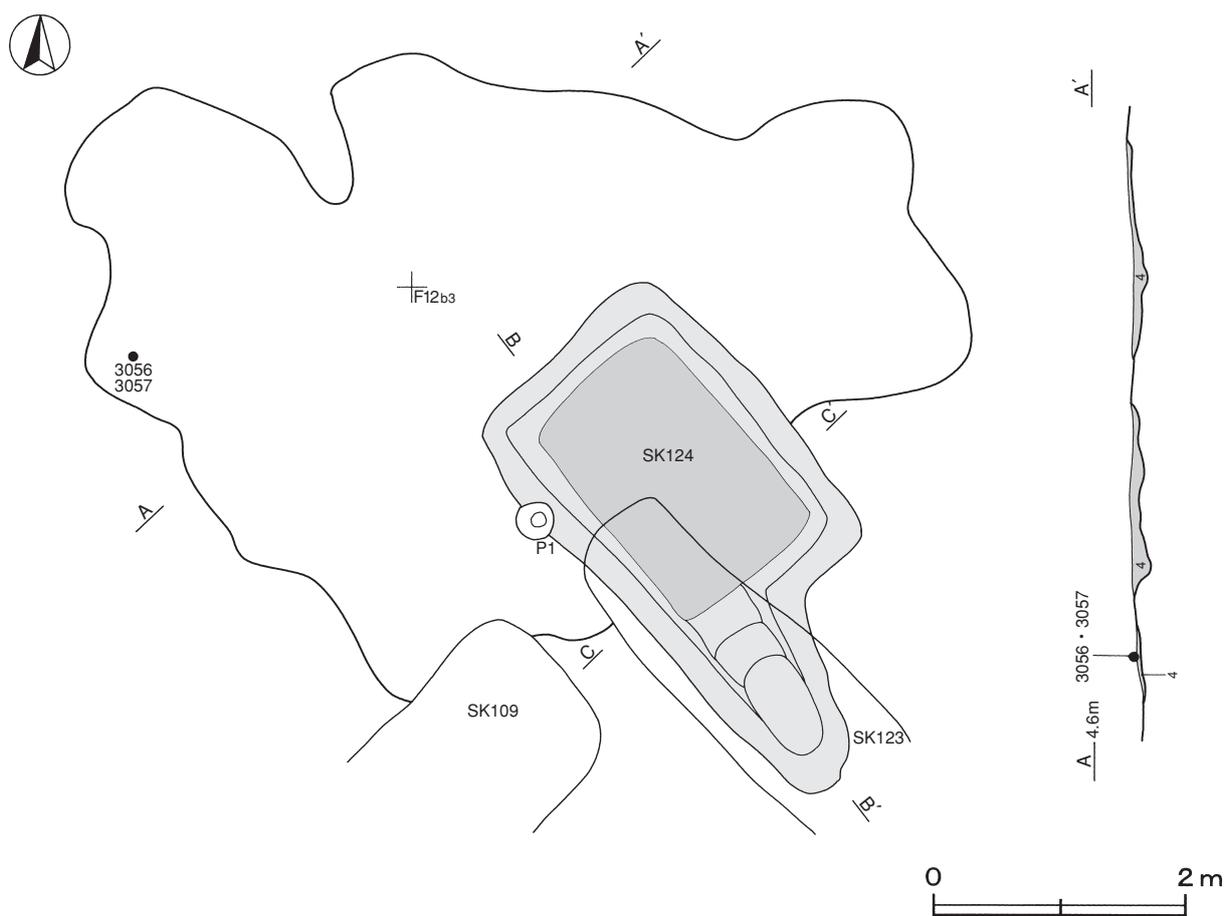
土坑（第64図）長軸2.8m，短軸2.1mの長方形で，深さ65cmである。壁面は砂とローム土を混ぜた暗褐色土で何層にも版築されている。締まりは極めて強い。南東壁は緩やかに立ち上がり，上面が暗褐色土で張り出している。底面には灰混じりの黒色土が貼り付けて構築されている。



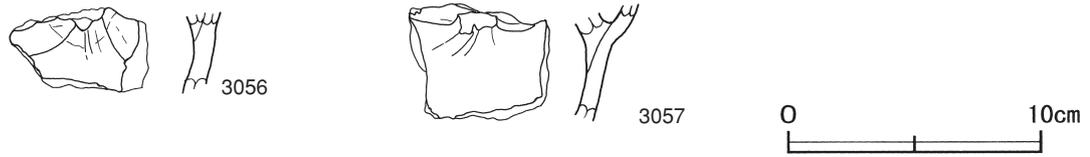
第64図 第35号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片2点（鍋）が出土している。3056・3057は西部の黒色土上面から出土している。

所見 第124号土坑の壁は強固に版築されており，半地下的な倉庫か穴蔵の性格をもつ土坑と推測される。時期は，第39号建物跡の1.0m下層から検出されていることから，16世紀前後と考えられる。



第65図 第35号整地面実測図



第66図 第35号整地面出土遺物実測図

第35号整地面出土遺物観察表（第66図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3056	内耳鍋	土師質土器	-	(3.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 内耳部欠損	西部黒色土上面	5%
3057	内耳鍋	土師質土器	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 内耳部欠損	西部黒色土上面	5%

第36号整地面 9区HK-5（第67~70図）

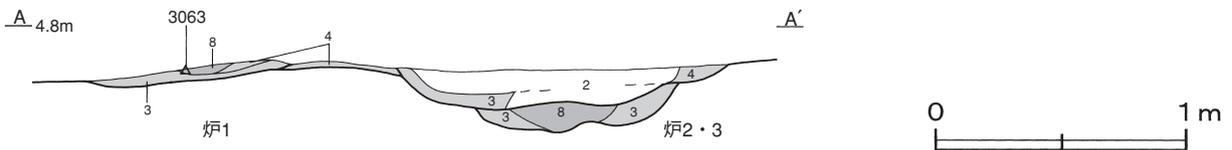
位置 調査区中央部のF12d3区を中心に位置している。

確認状況 第39号建物跡を約0.7m掘り下げた標高約4.7mで、黒色土面が確認された。黒色土面とその周囲から炉、粘土貼土坑と土坑が確認された。

規模と施設 東部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、長軸は3.8mだけが確認され、短軸3.2mである。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-46°-Wである。付属施設として、炉3基、粘土貼土坑1基、土坑5基が構築されている。

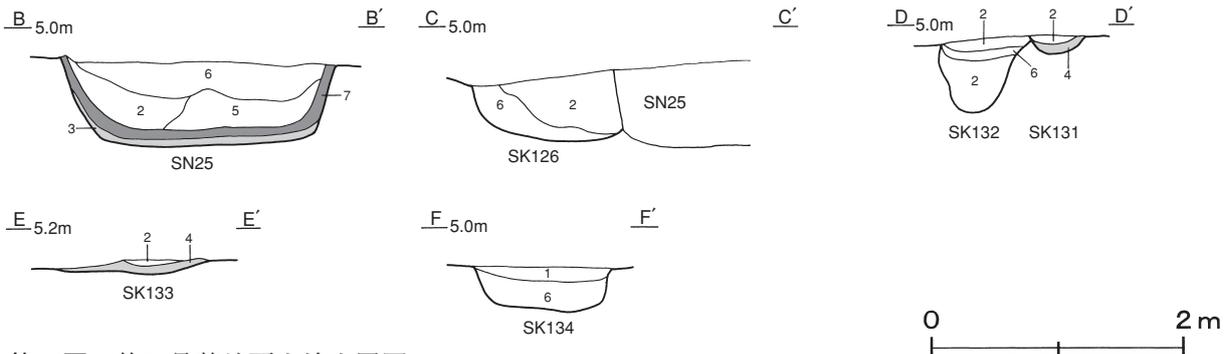
生活面 炉の周囲に広がっている平坦な黒色土面で、厚さ5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

炉（第67図）黒色土面内に位置し、炉2は炉3を掘り込んで造り替えている。炉1は厚さ3cm、炉2は厚さ6~9cm、炉3は厚さ8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。



第67図 第36号整地面炉土層図

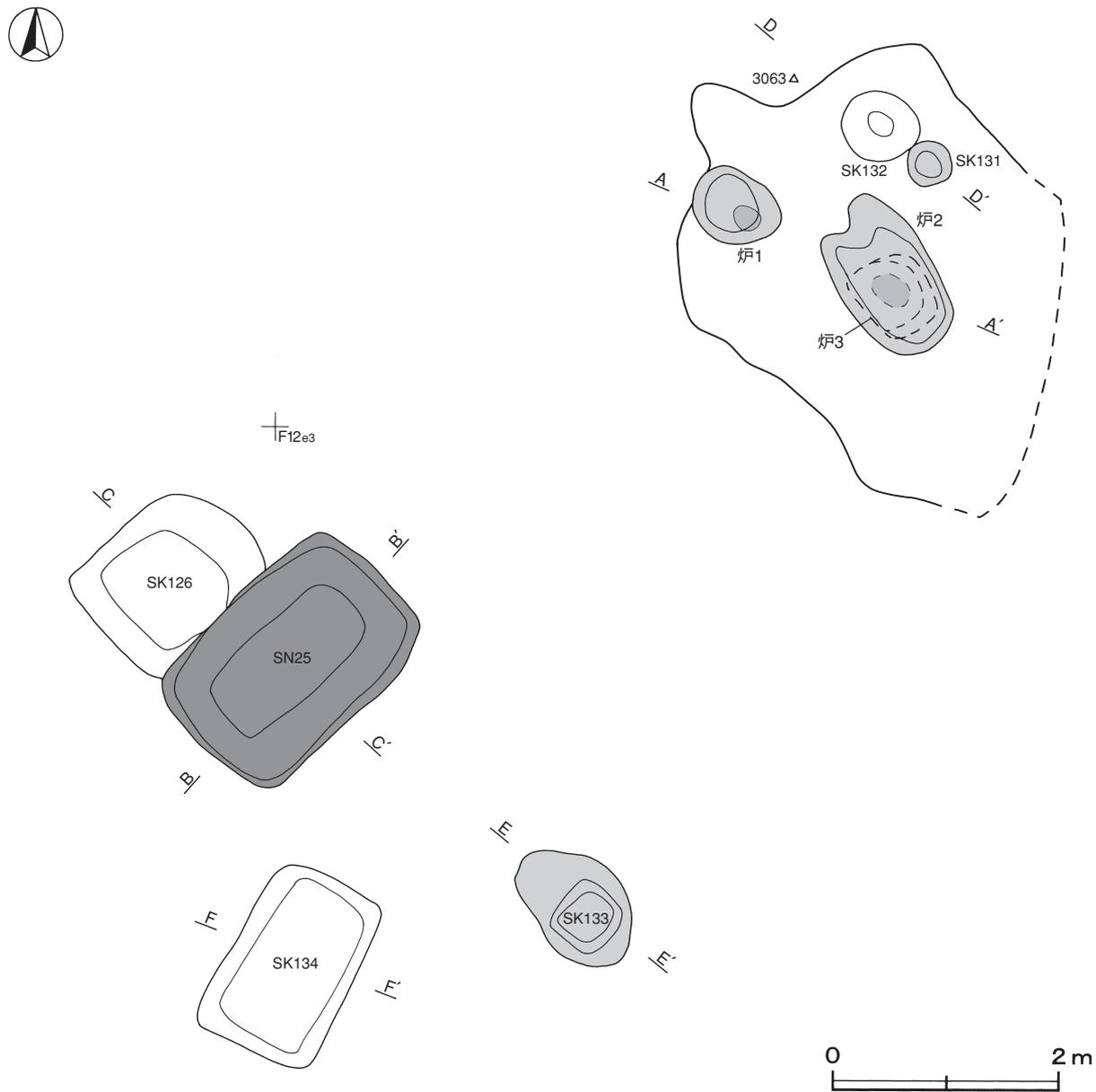
土坑（第68図）第25号粘土貼土坑、黒色土で構築された第131・133号土坑、第126・132・134号土坑があり、いずれも黒色土面の南部に位置している。第25号粘土貼土坑は厚さ7~19cmの粘土、第131・133号土坑は厚さ6~7cmほどの黒色土を貼り付けて構築されている。粘土貼土坑の覆土は、第2層の砂B層と第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積した層である。



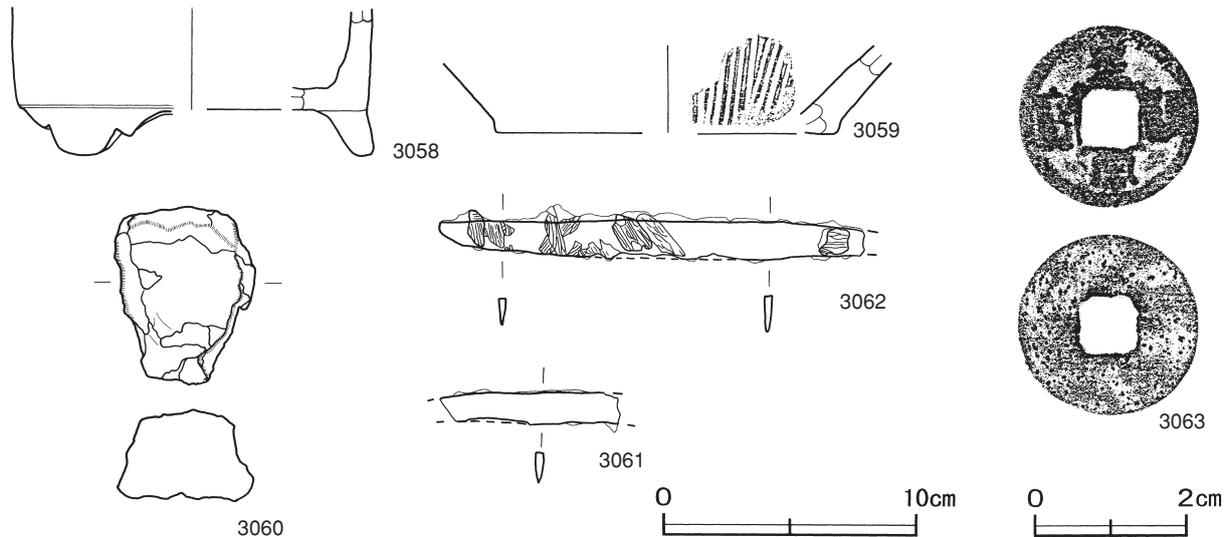
第68図 第36号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片 8点（皿 4，鍋 4），陶器片 4点（播鉢 3，火鉢カ 1），石器 3点（火打石），金属製品 3点（小刀 2，古銭 1）が出土している。3058・3060は第133号土坑，3059は第25号粘土貼土坑からそれぞれ出土している。覆土の堆積状況から，廃絶時に混入したものと考えられる。また，3063の古銭は砂層から出土している。

所見 小規模な黑色土面内から造り替えられた炉が確認され，黑色土面と同じ標高から土坑と粘土貼土坑が検出された。上屋を支える柱穴はなく，生活面の範囲から屋外の作業場と考えられる。時期は，第39号建物跡の0.7m下層から検出されていることから，16世紀前後と考えられる。



第69図 第36号整地面実測図



第70図 第36号整地面出土遺物実測図

第36号整地面出土遺物観察表（第70図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3058	香炉	土師質土器	-	(5.8)	[14.0]	雲母・赤色粒子	褐灰	普通	脚部貼り付け	SK 133内	20% PL81
3059	播鉢	土師質土器	-	(3.5)	[13.4]	長石・雲母	明赤褐	普通	5条1単位の播目	SN25内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3060	火打石	7.1	5.6	3.6	186.1	石英	一部の稜が摩滅	SK 133内	
3061	小刀	(7.1)	1.2	0.3	(7.8)	鉄	刃部の一部・茎部欠損	覆土中	
3062	小刀	(16.8)	1.5	0.3	(32.2)	鉄	刃部の一部欠損 木質部遺存	覆土中	PL91

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3063	皇宋通寶	2.45	0.76	0.13	3.26	1038	銅	篆書	砂層	

第37号整地面 9区HK-7（第71～74図）

位置 調査区中央部のG11i0区を中心に位置している。

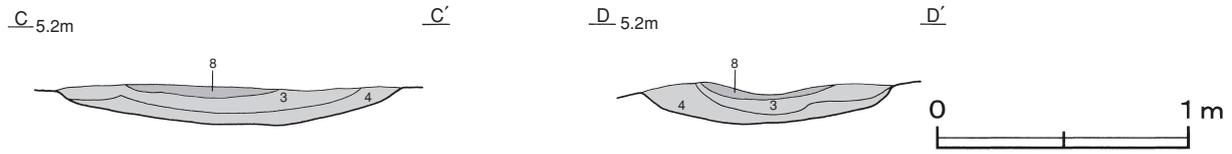
重複関係 第41号整地面の上面に構築されている。

確認状況 表砂を約4.7m除去し、標高約5.8mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑と土坑が確認された。

規模と施設 西部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、長軸21.0m、短軸は13.1mだけが確認された。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-57°-Wである。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑1基、土坑8基が構築されている。

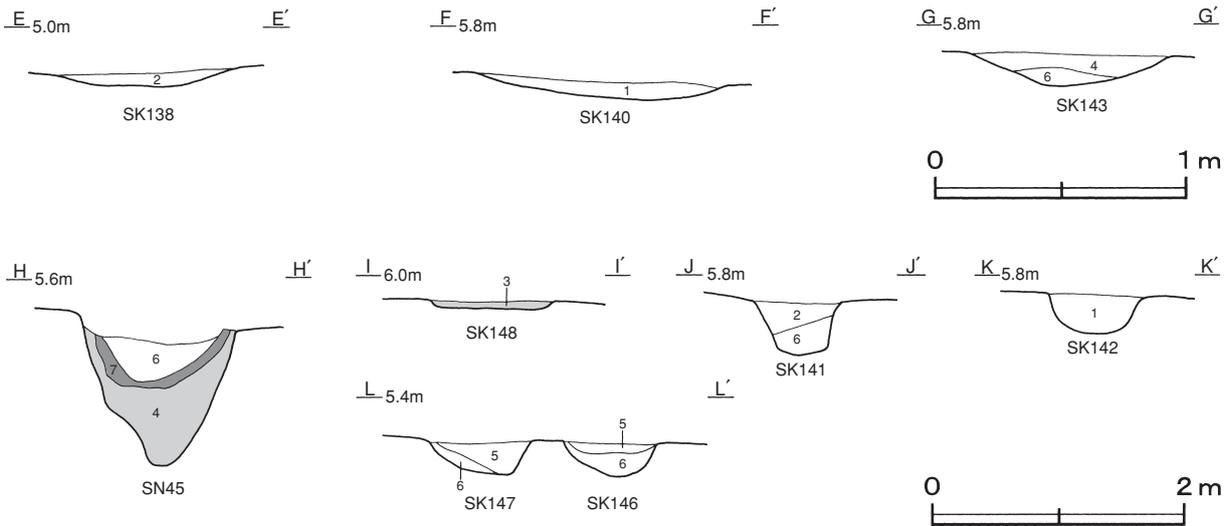
生活面 東部から西部に向かって緩やかに傾斜している。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、中央部の黒色土面は削平されている。締まりは普通である。

炉（第71図）西部に位置し、厚さ約10cmの黑色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。



第71図 第37号整地面炉土層図

土坑（第72図）第45号粘土貼土坑，黑色土で構築された第148号土坑，第140～142号土坑は東部，第138・146・147号土坑は西部に位置している。第45号粘土貼土坑は、厚さ4～8cmの粘土とその下に8～50cmの黑色土を貼り付けて構築されている。第148号土坑は、底部に貼り付けられた厚さ7cmの黑色土のみを確認したものである。第45号粘土貼土坑は第143号土坑の下から検出され、覆土は第6層の黑色土D層が人為堆積した層である。



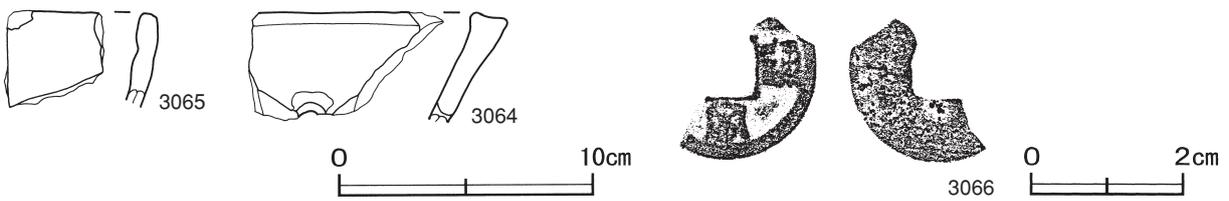
第72図 第37号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片5点（皿2，香炉1，鍋2），須恵器片2点（坏），金属製品1点（古銭）が出土している。3064～3066は東部の黑色土上面から出土している。土師質土器の皿と須恵器の坏は細片のため図示できなかった。

所見 生活面が傾斜していることや出土遺物が少ないことから、整地面と判断した。構築されている炉と粘土貼土坑の位置から東部と西部に分けられ、作業場として使用されていたと想定される。出土した須恵器片は、黑色土を構築するために他地域から持ち込まれたことを示す資料といえる。時期は、最初の遺構確認面から検出されていることから、16世紀前半と考えられる。



第73図 第37号整地面実測図



第74図 第37号整地面出土遺物実測図

第37号整地面出土遺物観察表（第74図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3064	内耳鍋	土師質土器	-	(4.3)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 焼成後の穿孔有り	東部黒色土上面	5%
3065	香炉カ	土師質土器	-	(3.2)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	東部黒色土上面	5%

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3066	-宋通-	-	-	0.07	(1.10)	1038	銅	篆書 欠け 皇宋通寶カ	東部黒色土上面	

第38号整地面 9区HK-8（第75~77図）

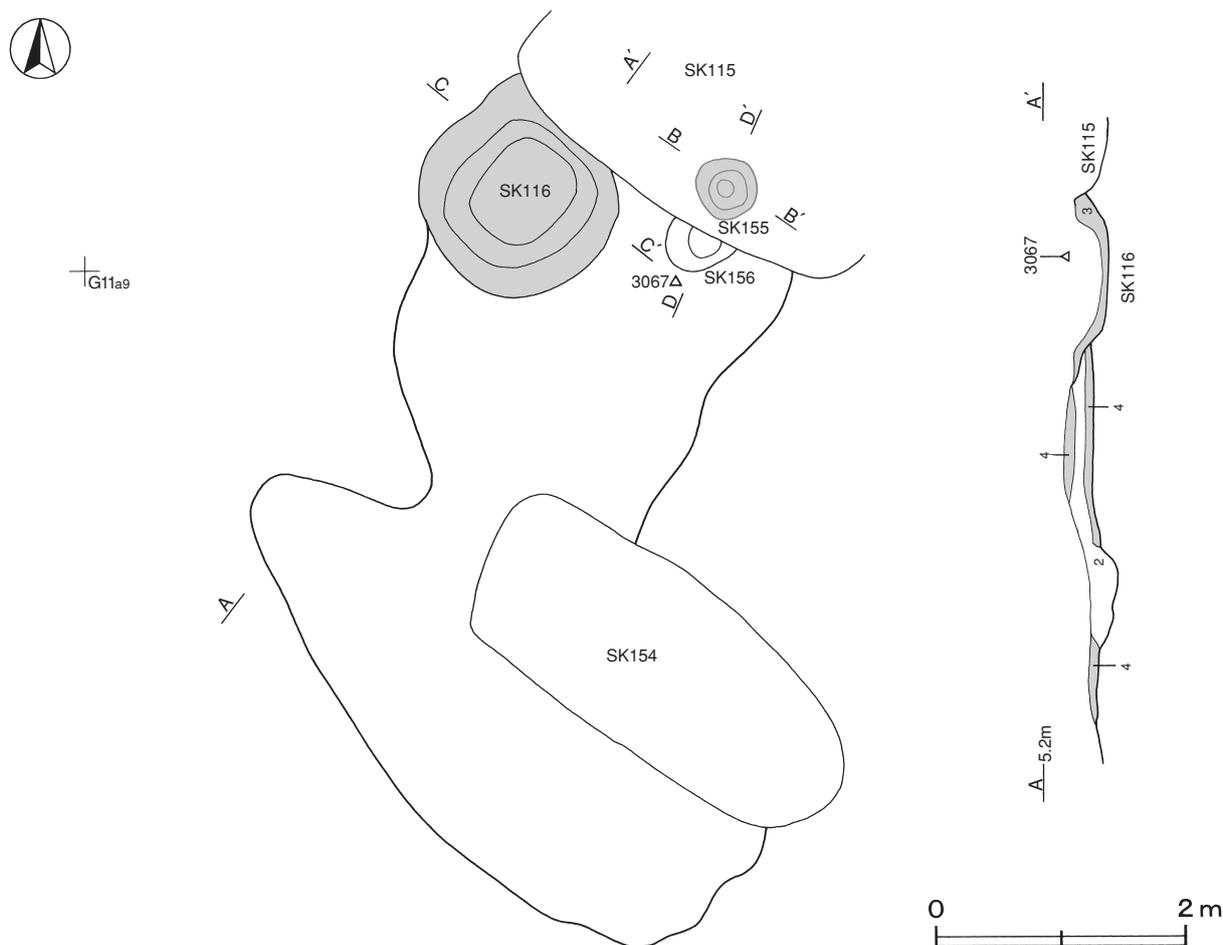
位置 調査区南部のG11a0区を中心に位置している。

重複関係 第115・154号土坑に掘り込まれている。

確認状況 第50号建物跡の南側を約0.5m掘り下げた標高約4.7mで、黒色土面と土坑が確認された。

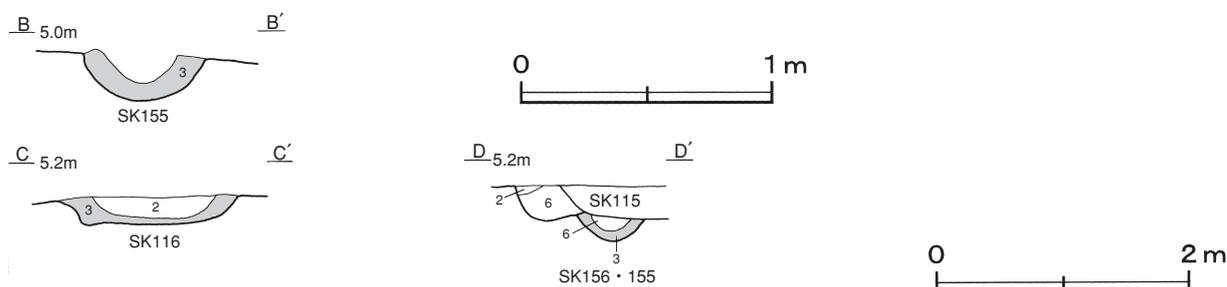
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸は5.1mだけ確認され、短軸2.6mである。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-34°-Eである。付属施設として、土坑3基が構築されている。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、一部に第2層の砂B層がはさまれている。締まりはやや弱い。



第75図 第38号整地面実測図

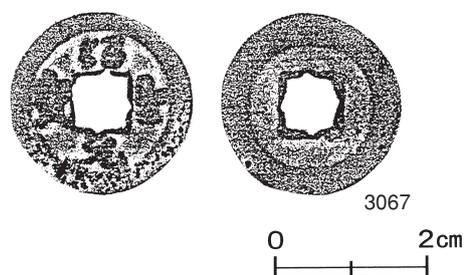
土坑 (第76図) 黑色土を貼り付けた第116・155号土坑と第156号土坑があり、いずれも北部に位置している。第116号土坑は厚さ5～14cm、第155号土坑は厚さ8cmの黑色土を貼り付けて構築されている。



第76図 第38号整地面土坑土層図

遺物出土状況 3067の古銭が、北部の黑色土上面から出土している。

所見 出土遺物は古銭のみである。黑色土面の範囲は小さく、周囲から柱穴が検出されないことから整地面と判断した。性格は不明である。時期は、第50号建物跡の0.5m下層から検出されていることから、16世紀前後と考えられる。



第77図 第38号整地面出土遺物実測図

第38号整地面出土遺物観察表 (第77図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3067	紹聖元寶	2.45	0.71	0.11	3.22	1094	銅	行書 星形孔	北部黑色土上面	

第39号整地面 9区HK-9 (第78～81図)

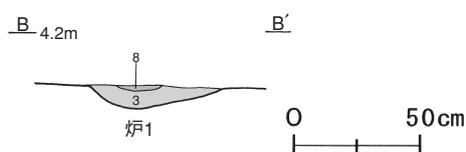
位置 調査区中央部のF12b2区を中心に位置している。

確認状況 第39号建物跡を約1.0m掘り下げた標高約4.2mで、黑色土面が確認された。黑色土面とその周囲から炉、土坑、貝集積地と柱穴2か所を、さらに黑色土面の下から土坑が確認された。

規模と施設 黑色土の範囲は、長軸5.0m、短軸2.1mの不定形で、長軸方向はN-41°-Eである。付属施設として、炉2基、土坑5基が構築され、貝集積地1か所を確認した。

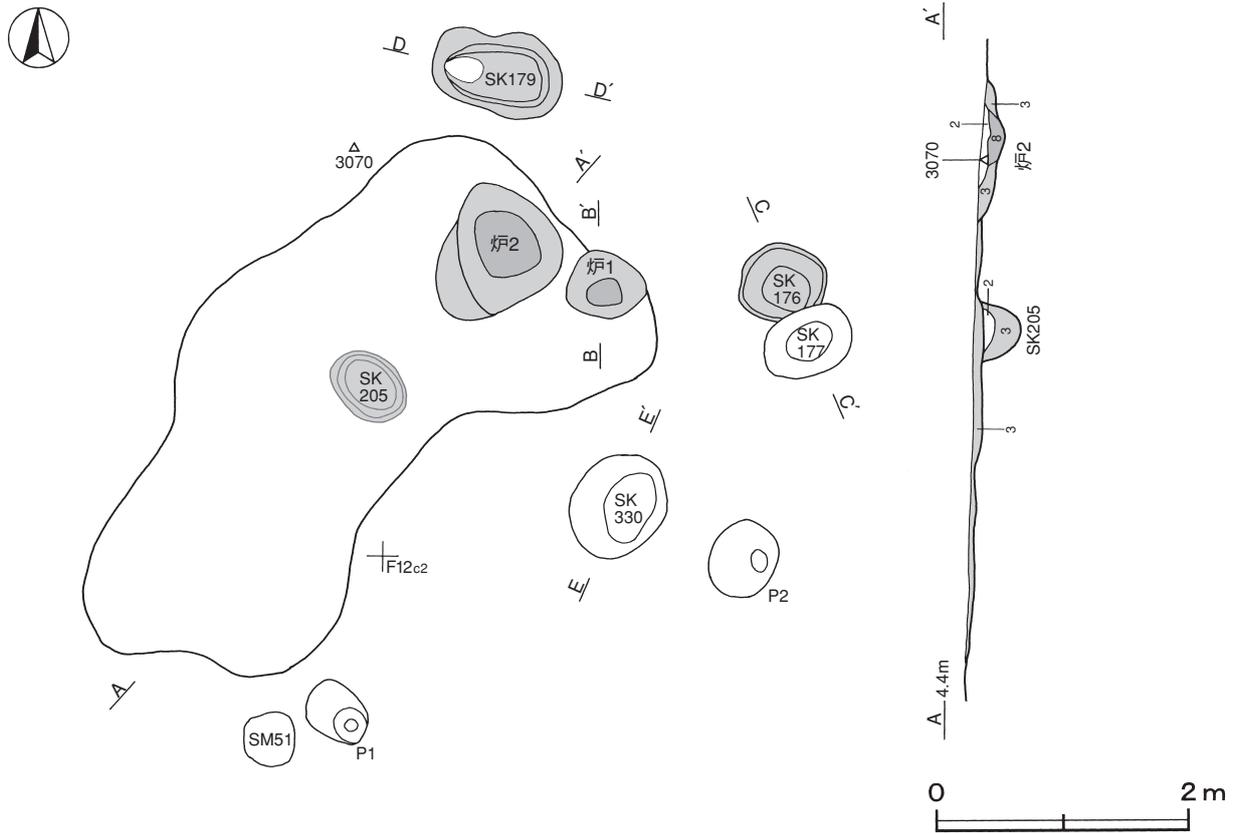
生活面 ほほ平坦で、厚さ2～7cmの黑色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黑色土A層で締まりは弱い。

炉 (第78図) 炉1・2は黑色土面の北部に位置している。炉1は厚さ7cm、炉2は厚さ5～10cmの黑色土を貼り付けて構築されている。どちらも、覆土下層から第8層の焼砂が検出されている。



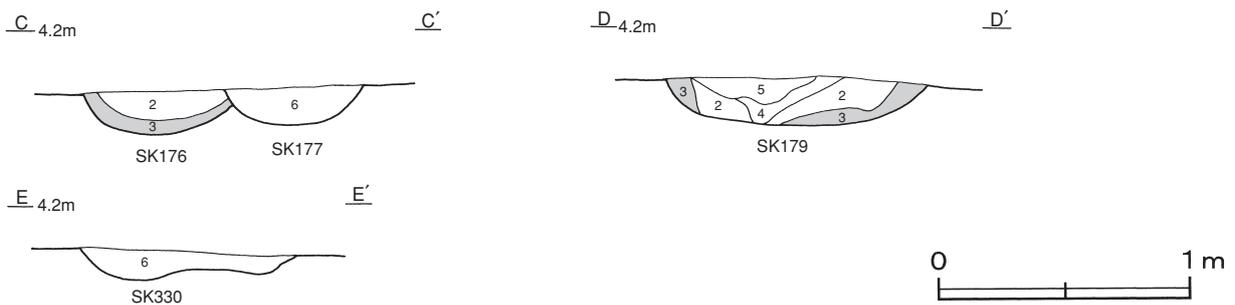
第78図 第39号整地面炉土層図

ピット 2か所。深さは56・68cmで、性格は不明である。



第79図 第39号整地面実測図

土坑（第80図）第177・330号土坑，黑色土で構築された第176号土坑は，黑色土面付近の北東部，第179号土坑は北部に位置している。第205号土坑は，黑色土面の下層から確認されている。第176・179号土坑は厚さ4・5cm，第205号土坑は厚さ10～15cmの黑色土を貼り付けて構築されている。



第80図 第39号整地面土坑土層図

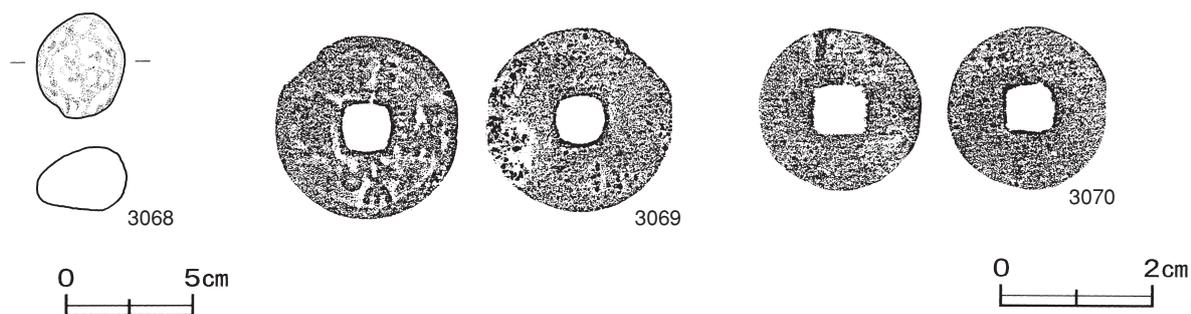
貝集積地 第51号貝集積地は南部に位置し，径0.4cmの円形である。貝層の厚さは最大で5cmである。

第51号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	コタマガイ	150.0	15.00	L=1 R=3		3	ウバガイ	350.0	35.00	L=7 R=6	
2	チョウセンハマグリ	25.0	2.50	L=1 R=0		4	細片	475.0	47.50		数種混在

遺物出土状況 土師質土器片5点(鍋), 金属製品2点(古銭), 軽石1点が出土している。3070は北部の砂層, 3069は第179号土坑内, 3068は第205号土坑内からそれぞれ出土している。内耳鍋片は細片のため図示できなかった。

所見 小規模な黒色土面から炉が確認されている。出土遺物は少なく, 上屋を支える柱穴が並ばないことから屋外の作業場と判断した。時期は, 第39号建物跡の1.0m下層から検出されていることから, 16世紀前後と考えられる。



第81図 第39号整地面出土遺物実測図

第39号整地面出土遺物観察表 (第81図)

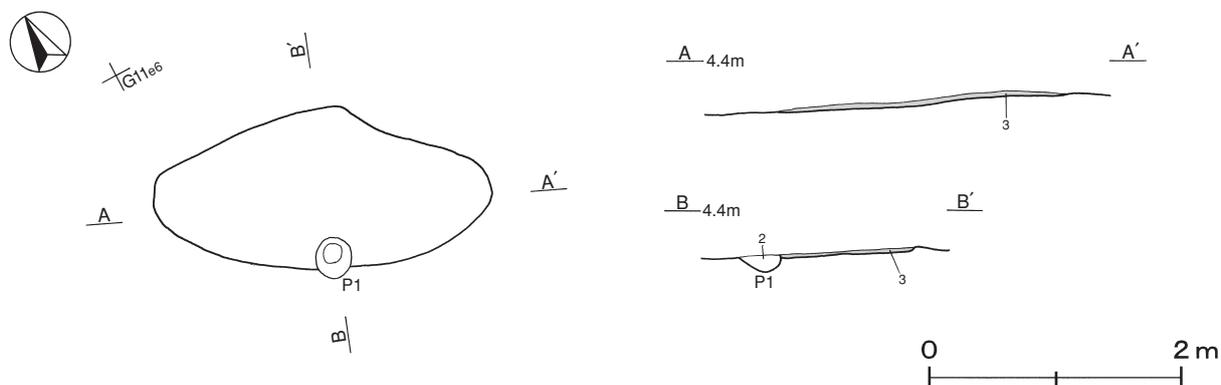
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
3068	軽石	4.2	3.5	2.6	8.7	軽石	断面楕円形	SK205内		
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3069	政和通寶	2.49	0.69	0.11	(2.18)	1111	銅	篆書 欠け	SK179内	
3070	-	2.20	0.60	0.09	2.48	-	銅	無文銭	北部砂層	

第40号整地面 9区HK-10 (第82図)

位置 調査区南部のG11e6区を中心に位置している。

確認状況 第34号整地面を約0.6m掘り下げた標高約4.1mで, 黒色土面と柱穴1か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は, 長径2.7m, 短径1.3mの楕円形で, 長径方向はN-64°-Wである。



第82図 第40号整地面実測図

生活面 ほぼ平坦で、厚さ3～8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で締まりは普通である。

ピット 1か所。深さは14cmで、性格は不明である。

所見 黒色土面の範囲は小さく、遺物は出土していない。性格は不明である。

第41号整地面 9区HK-12 (第83～85図)

位置 調査区南部のG11h9区を中心に位置している。

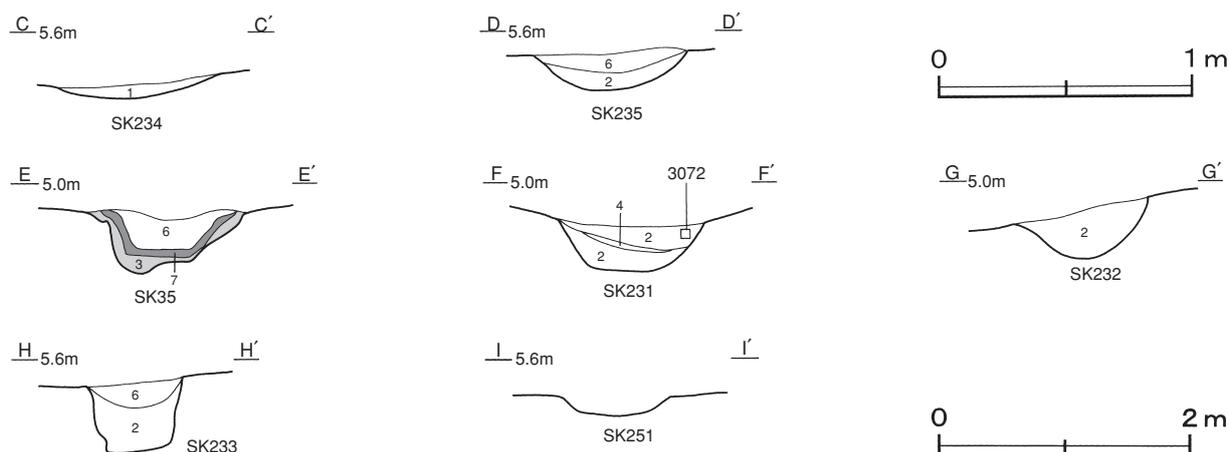
重複関係 上面に第37号整地面が構築され、東部は第37号整地面の黒色土面の下層と重なるように広がっている。

確認状況 第37号整地面を約0.4m掘り下げた標高約5.4mで、黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑と土坑が確認された。

規模と施設 西部の一部が調査区域外に延びているため、黒色土面の範囲は、長軸19.5m、短軸は10.8mだけが確認された。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-64°-Wである。付属施設として、粘土貼土坑1基、土坑6基が構築されている。

生活面 中央部がくぼむ皿状で、厚さ8～20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。北東部から東部にかけて、高さ10～30cmの黒色土が砂層を画するように高まっている。

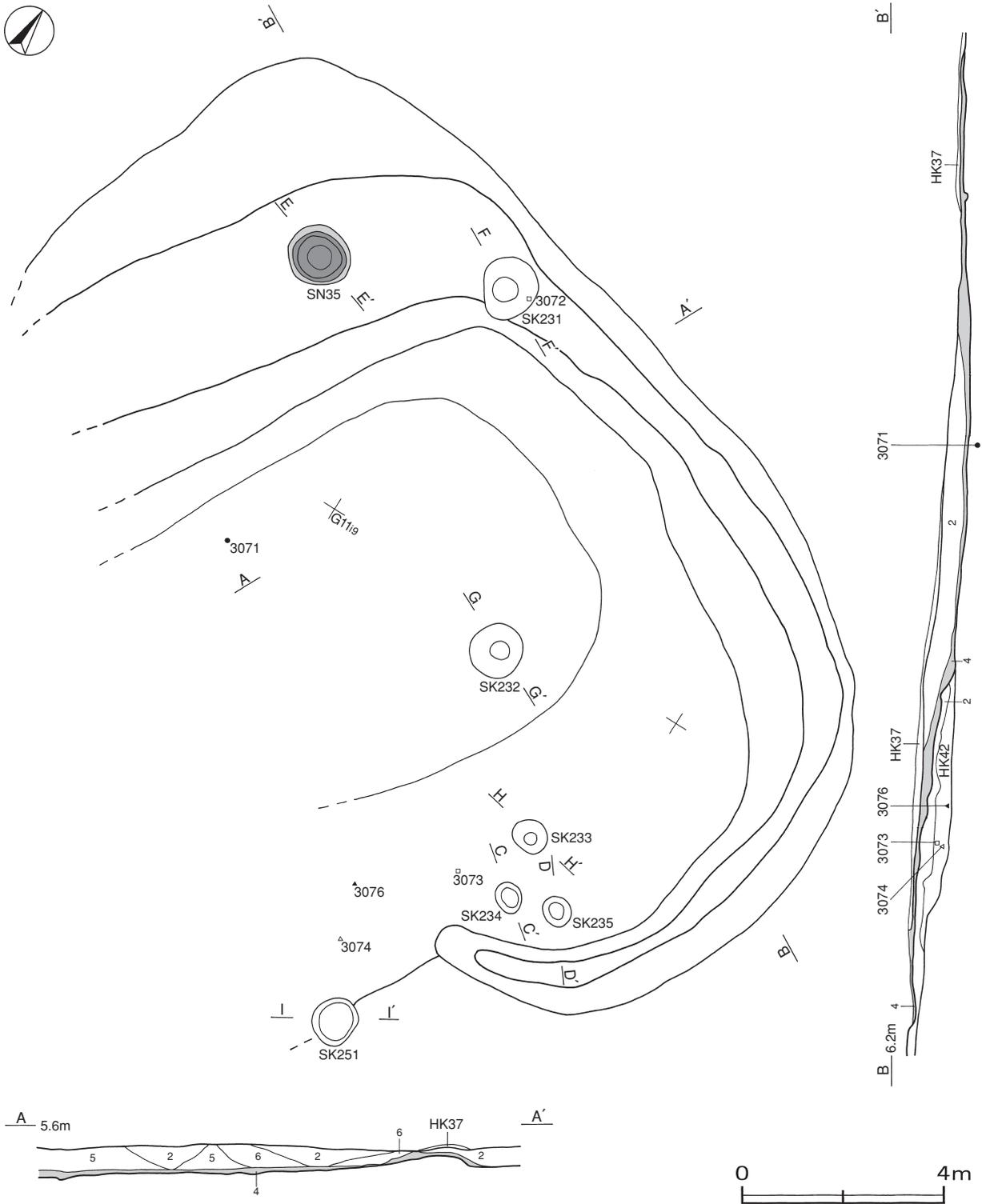
土坑 (第83図) 第35号粘土貼土坑と第231号土坑は北部、第232～235・251号土坑は南東部にそれぞれ位置している。粘土貼土坑は、厚さ6～8cmの粘土を貼り付けて構築されている。粘土貼土坑及び第231・233・235号土坑の覆土は、第2層の砂B層と第4・6層の黒色土B・D層が人為堆積した層である。



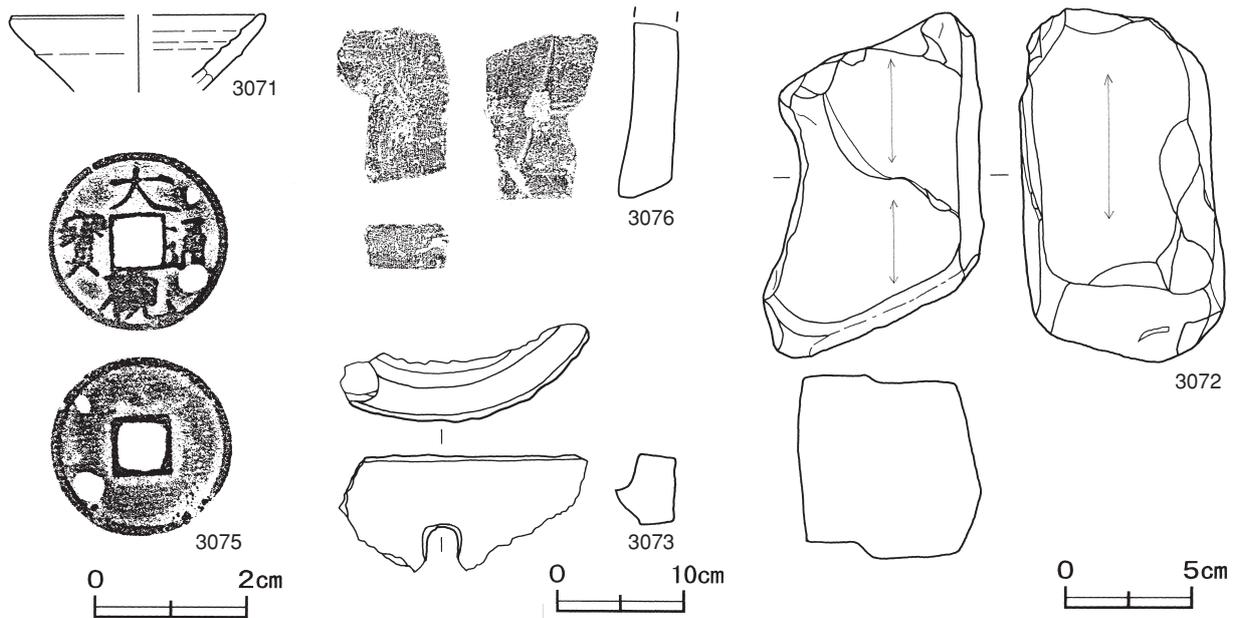
第83図 第41号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿), 石器3点(石臼2, 砥石1), 金属製品1点(古銭), 鉄滓1点, 瓦片1点が出土している。3071は中央部, 3073は南東部の黒色土上面から出土している。3072は第231号土坑内から出土している。3074と3076は南東部の黒色土中から出土していることから、構築の際に混入したものとみられる。

所見 出土遺物が少なく、黒色土面内に炉や柱穴が認められないことから、整地面と判断した。作業場として使用されていたことが考えられる。北東部から東部にかけての高まりは、かなり崩れているため断定はできないが、作業場を区画するためか、北東方向から吹く浜風を防ぐための高まりの可能性が考えられる。時期は、第37号整地面の0.4m下層から検出されていることから、15世紀後半から16世紀にかけてと考えられる。



第84図 第41号整地面実測図



第85図 第41号整地面出土遺物実測図

第41号整地面出土遺物観察表 (第85図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3071	皿	土師質土器	[10.0]	(3.0)	-	雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	中央部黒色土上面	10%
番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴		出土位置	備考	
3072	砥石	14.1	8.1	7.3	1320.0	砂岩	砥面3面		SK231内		
3073	石臼	[28.8]	-	(8.9)	(624.0)	安山岩	上臼の破片 横打込穴有り		南東部黒色土上面		
3074	鉄滓	5.2	3.3	2.1	56.6	鉄	表面暗赤褐色 地黒褐色		南東部黒色土中	写真のみ PL93	
3076	瓦	(6.9)	(4.7)	2.0	(810.0)	長石・石英	凹面摩滅激しい 凸面ヘラ削り・煤付着		南東部黒色土中		
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴		出土位置	備考
3075	大観通寶	2.41	0.60	0.12	3.06	1107	銅	真書 鑄込み不足の穴有り		覆土中	

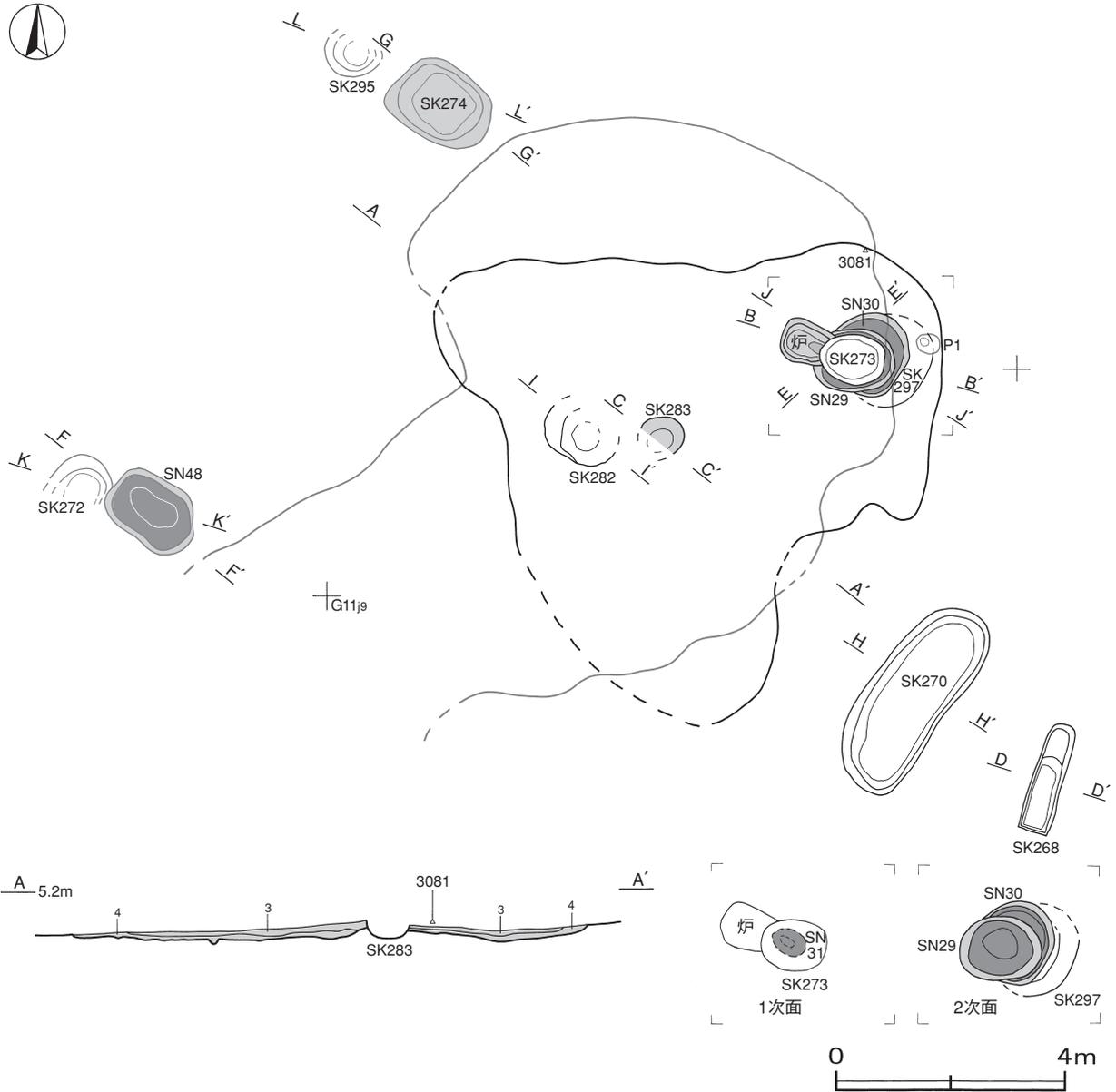
第42号整地面 9区 HK-14・15 (第86~89図)

位置 調査区南部のG11i0区を中心に位置している。

確認状況 第41号整地面を約0.4m掘り下げた標高約4.8mで、黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑と土坑が確認された。さらに黒色土を約20cm除去した標高4.6mで、第2次面の黒色土面とそれに伴う粘土貼土坑、土坑と柱穴1か所が確認された。

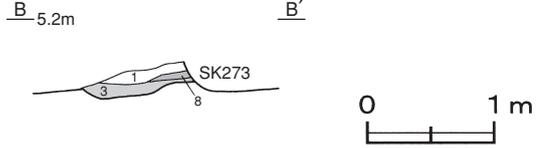
規模と施設 第1次面の黒色土の範囲は、長軸8.5m、短軸7.9mの不定形で、長軸方向はN-22°-Wである。第2次面の黒色土面の範囲は、長軸12.0m、短軸8.9mの不定形で、長軸方向はN-32°-Eである。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑4基、土坑9基が構築されている。

生活面 東部から西部に向かってやや傾斜し、第1次面は厚さ5~15cm、第2次面は厚さ2~15cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中、第3層は第1次面の黒色土A層、第4層は第2次面の黒色土B層で、締めりはやや弱い。



第86図 第42号整地面実測図

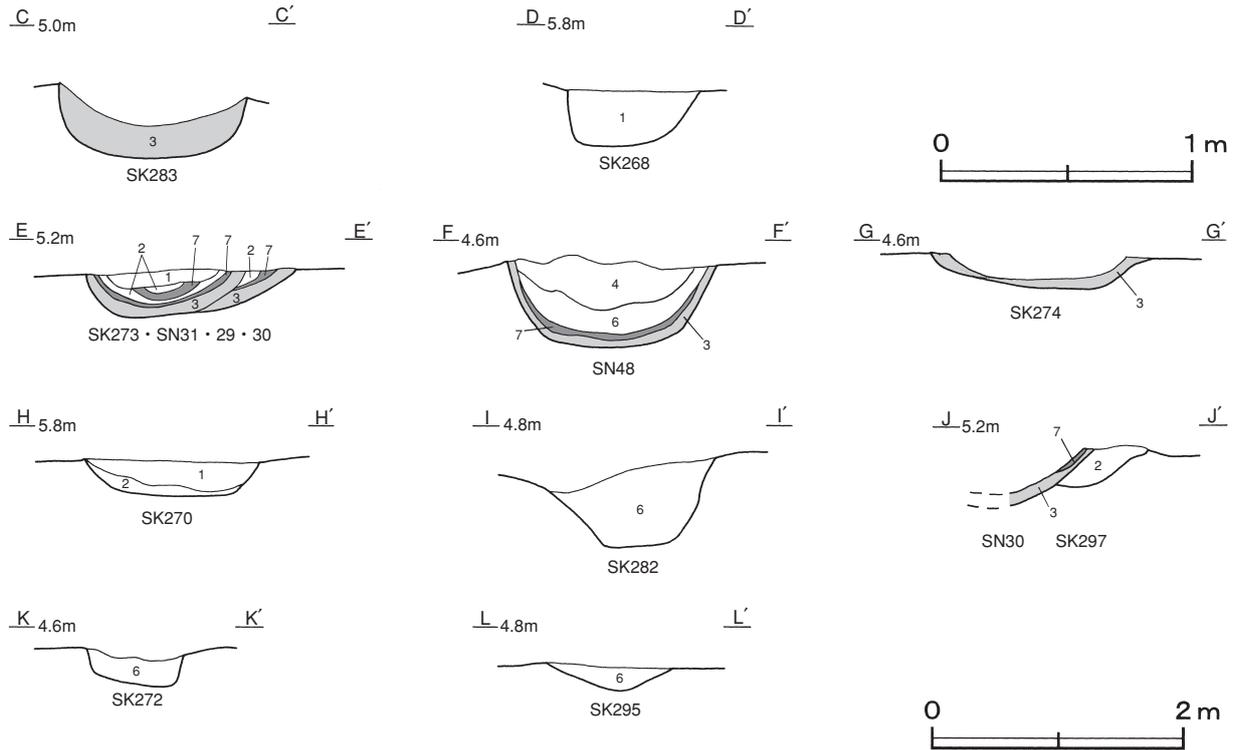
炉 (第87図) 東部に位置し、厚さ5~15cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉の東部は第273号土坑に掘り込まれている。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。



第87図 第42号整地面炉土層図

ピット 1か所。第2次面から確認され、深さは50cmである。性格は不明である。

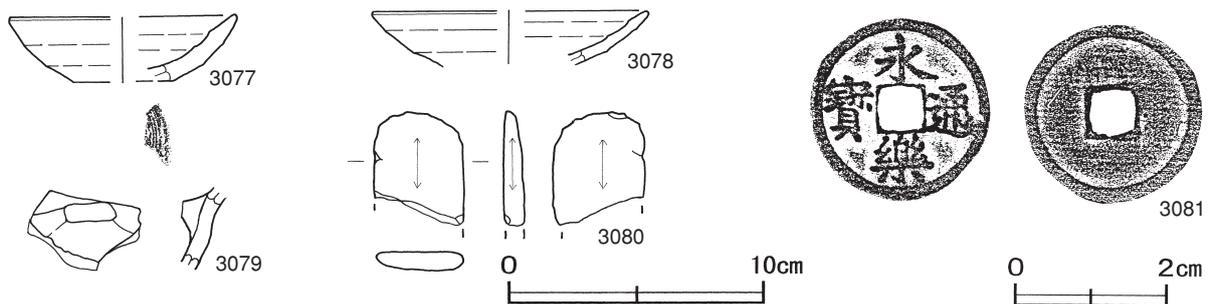
土坑 (第88図) 第1次面では、第29~31号粘土貼土坑と第268・270・273・297号土坑が重なった状態で東部に、第282・283土坑が中央部にそれぞれ位置している。第2次面では、第48号粘土貼土坑、第272・274・295号土坑が西部に位置している。粘土貼土坑は厚さ1~8cmほどの粘土、第274・283号土坑は厚さ7~15cmほどの黒色土を貼り付けて構築されている。第272・282・295号土坑の覆土は第6層の黒色土D層が、第48号粘土貼土坑の覆土は第4・6層の黒色土B・D層が人為堆積した層である。



第88図 第42号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片4点（小皿1，皿2，鍋1），石器1点（砥石），金属製品1点（古銭）が出土している。3081は北部の黒色土上面，3077・3078・3080は第29号粘土貼土坑内から出土している。

所見 生活面が緩やかに傾斜し，生活雑器類の出土が少ないことから作業場と判断した。第1次面で確認された炉，土坑と粘土貼土坑は，同じ場所に数回にわたって造り替えられている。時期は，最初の遺構確認面から検出されていることから，16世紀前半と考えられる。



第89図 第42号整地面出土遺物実測図

第42号整地面出土遺物観察表（第89図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3077	小皿	土師質土器	[8.8]	2.6	[4.0]	雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	SN29内	10%
3078	皿	土師質土器	[10.8]	(2.2)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ナデ	SN29内	15%
3079	内耳鍋	土師質土器	-	(3.2)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 内耳部欠損	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
3080	砥石	(4.5)	3.7	0.9	(16.1)	凝灰岩	砥面3面 断面扁平	SN29内		
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3081	永樂通寶	2.42	0.59	0.11	3.52	1408	銅	真書	北部黒色土上面	

第43号整地面 9区HK-17 (第90図)

位置 調査区中央部のF12e2区を中心に位置している。

重複関係 下面の第44号整地面に重なるように構築されている。

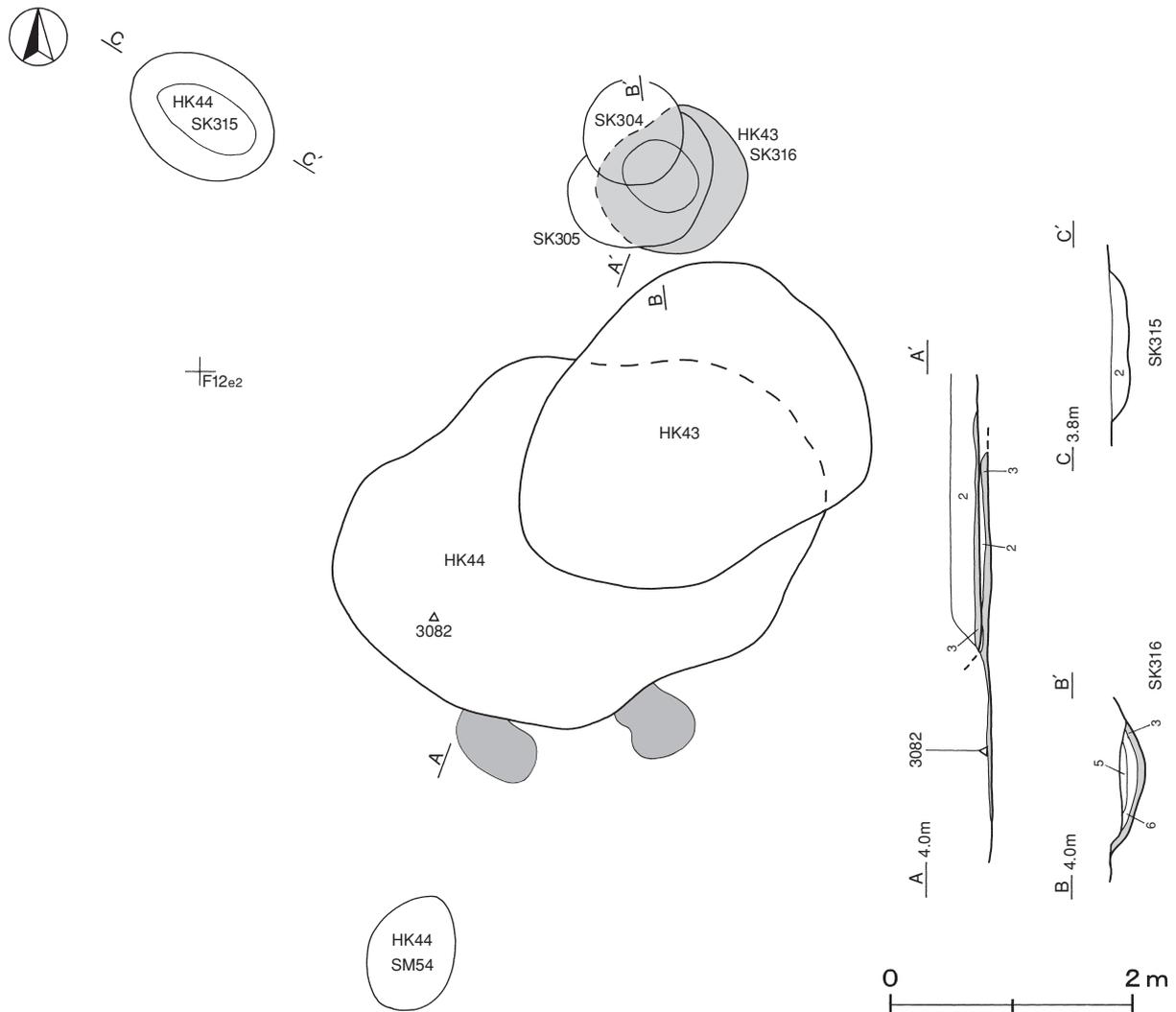
確認状況 第36号整地面を約0.9m掘り下げた標高約3.6mで、黒色土面と土坑が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長径3.2m、短径2.9mの不整楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ3~5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で締まりは普通である。

土坑 (第90図) 第316号土坑が北部に位置している。厚さ3~7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

所見 黒色土面の範囲は小さく、周囲から柱穴が検出されないことから整地面と判断した。性格は不明である。



第90図 第43・44号整地面実測図

第44号整地面 9区HK-16 (第90・91図)

位置 調査区中央部のF12e2区を中心に位置している。

重複関係 ほぼ上面に第43号整地面が重なるように構築されている。

確認状況 第43号整地面を約0.1m掘り下げた標高約3.5mで、黒色土面、土坑と貝集積地が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長径4.1m、短径3.1mの不整楕円形で、長径方向N-78°-Eである。付属施設として、土坑1基が構築され、貝集積地1か所が確認された。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ2~7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で締まりは普通である。南部には、灰混じりの焼砂が薄く広がっている。

土坑 (第90図) 第315号土坑が北西部に位置している。覆土は、第2層の砂A層が自然堆積している。

貝集積地 第54号貝集積地は南部に位置している。長径1.0m、短径0.7mの楕円形で、貝層の厚さは最大で10cmである。

第54号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	アワビ	50.0	11.49	2	淡水	4	ウバガイ	25.0	5.75	L=4 R=1	
2	マツカサガイ	100.0	22.99	L=26 R=45		5	マツカサガイ細片	90.0	20.69		
3	チョウセンハマグリ	10.0	2.30	L=1 R=0		6	ウバガイ細片	160.0	36.78		



遺物出土状況 金属製品1点(釘)が、黒色土上面から出土している。

所見 遺物は釘1点のみである。黒色土面の範囲は小さく、周囲から柱穴が検出されないことから整地面と判断した。性格は不明である。

第91図 第44号整地面出土遺物実測図

第44号整地面出土遺物観察表 (第91図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3082	釘カ	(7.0)	0.7	0.6	(9.4)	鉄	断面方形 両端部欠損	黒色土上面	

第45号整地面 9区HK-18 (第92図)

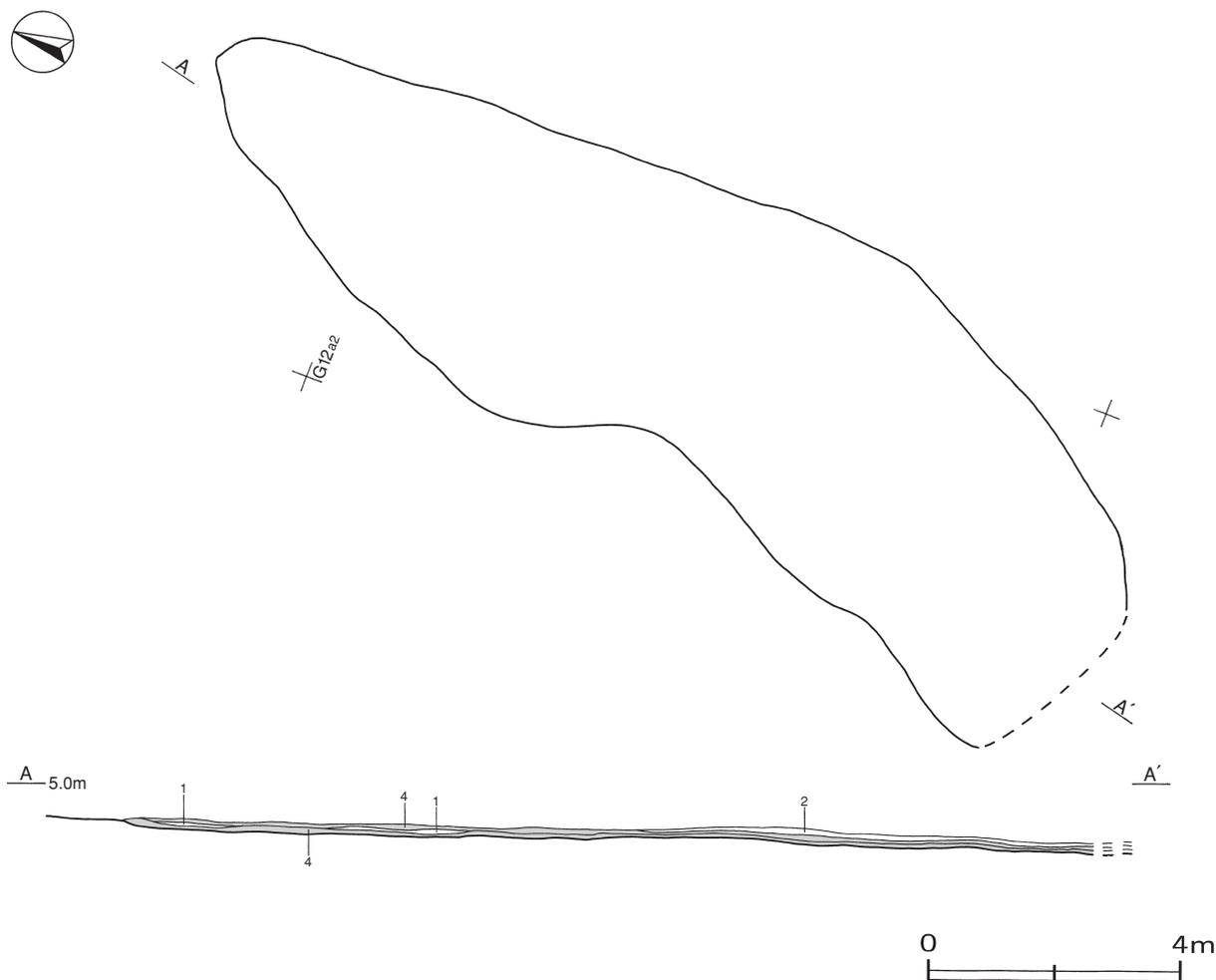
位置 調査区中央部のG12b2区を中心に位置している。

確認状況 第47号建物跡の南側を約0.7m掘り下げた標高約4.5mで、黒色土面が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、南部が一部崩れているため長軸は16.9mだけ確認され、短軸4.7mである。平面形は不定形で、長軸方向はN-12°-Eである。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ8~12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。第4層は二層に分層され、その間に第1層の砂A層が堆積している。

所見 遺物は出土していない。性格は不明である。



第92図 第45号整地面実測図

第46号整地面 9区HK-19 (第93・94図)

位置 調査区南部のG11j0区を中心に位置している。

確認状況 第42号整地面を約0.2m掘り下げた標高約4.6mで、黒色土面と土坑が確認された。

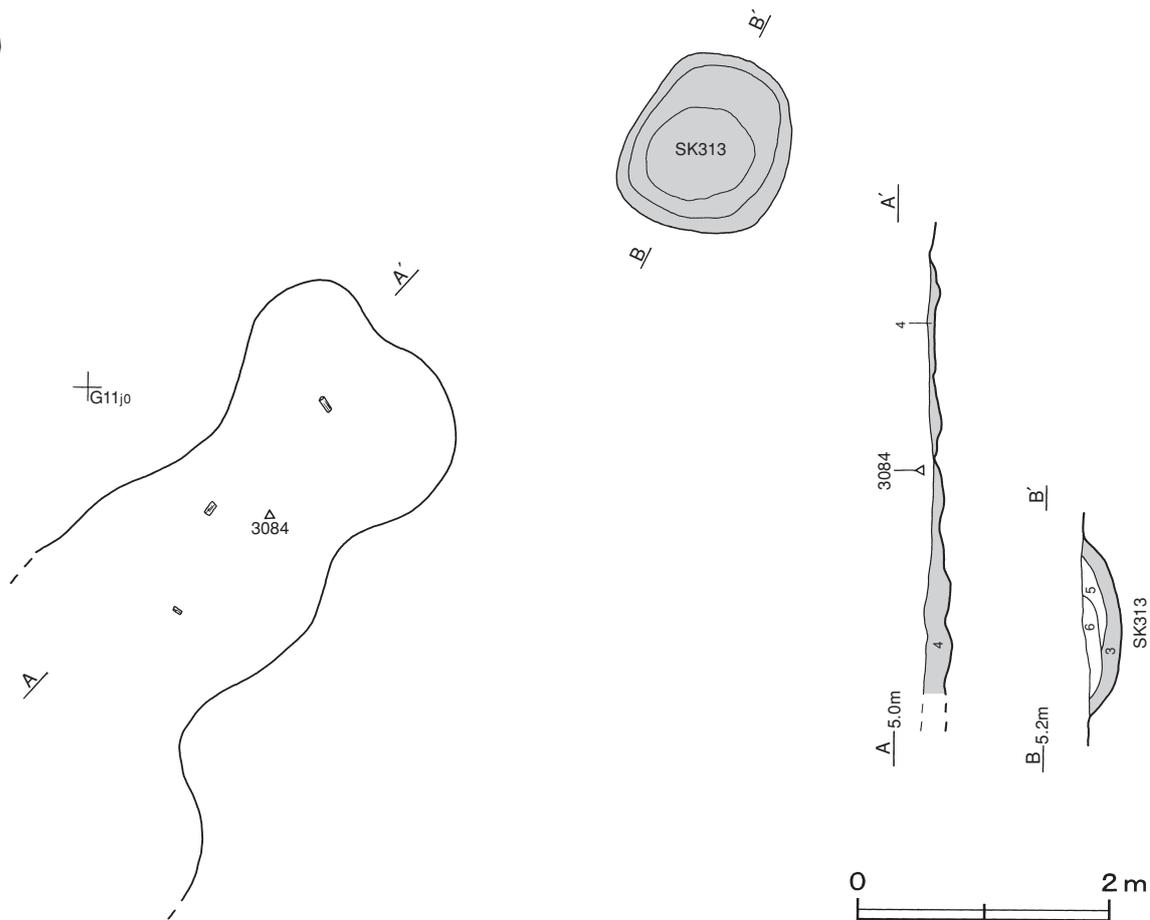
規模と施設 南部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、長軸は3.8mだけが確認され、短軸1.9mである。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-37°-Eである。付属施設として、土坑1基が構築されている。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。

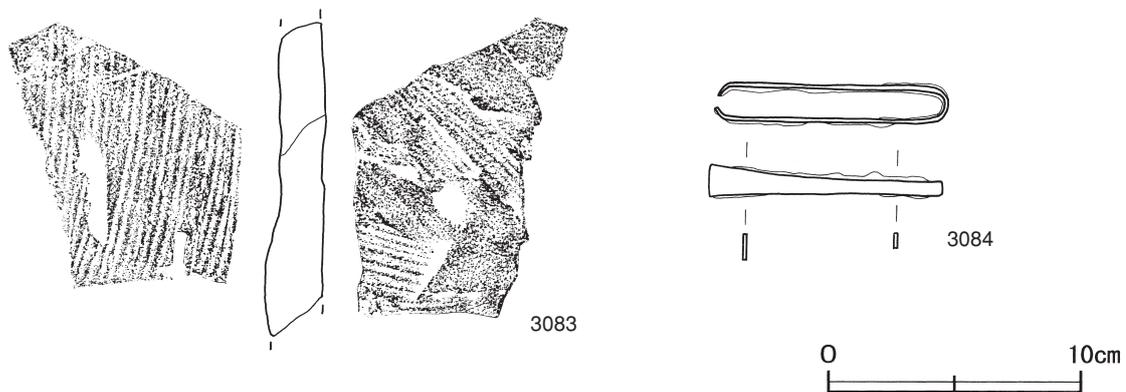
土坑 (第93図) 黒色土で構築された第313号土坑は、北東部に位置している。厚さ10~14cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は、第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 土製品1点(円筒埴輪), 金属製品1点(毛抜), 炭化材2点(竹)が出土している。3084は黒色土上面, 3083は覆土から出土している。炭化材は、黒色土上面に散在している。

所見 3083の円筒埴輪片は、黒色土を構築するために他地域から持ち込まれたことを示す貴重な資料といえる。黒色土面の範囲は小さく、周囲から柱穴が検出されないことから整地面と判断した。性格は不明である。



第93図 第46号整地面実測図



第94図 第46号整地面出土遺物実測図

第46号整地面出土遺物観察表（第94図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3083	円筒埴輪	(12.5)	-	1.7~2.2	(240.0)	長石・石英	外面縦位・内面横位と斜位のハケ目	覆土中	PL83
3084	毛拔	9.8	1.3	0.1~0.2	12.9	鉄	完存 断面長方形 銀杏形	黒色土上面	PL92

第47号整地面 9区HK-20 (第95図)

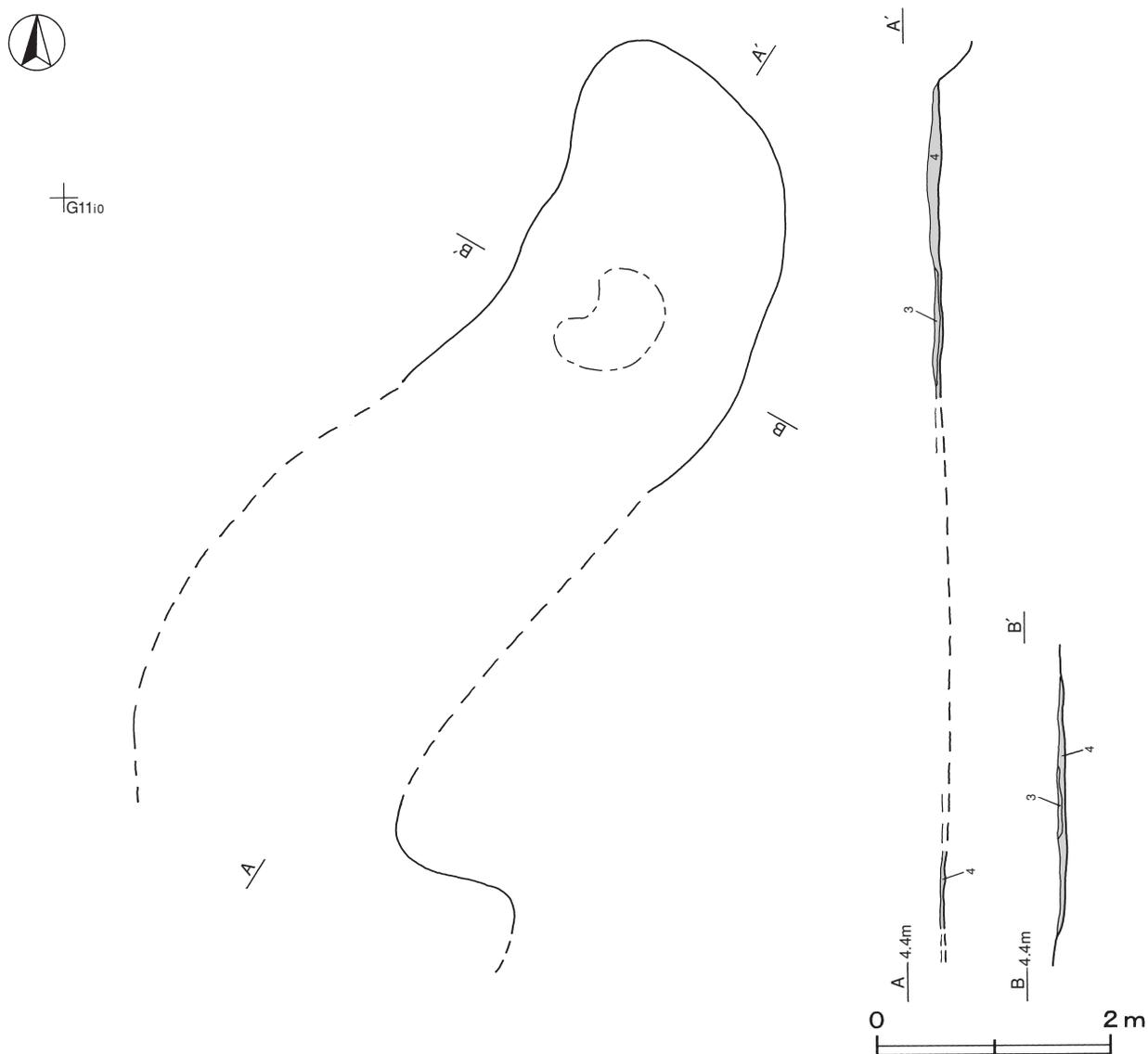
位置 調査区南部のG12i1区を中心に位置している。

確認状況 第46号整地面を約0.4m掘り下げた、標高約4.2mで黒色土面が確認された。

規模と施設 南部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、長軸7.4mだけが確認され、短軸2.2mである。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-29°-Eである。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ4~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層、第4層は黒色土B層である。中央部に硬化した黒色土部分が確認された。

所見 遺物は出土していない。黒色土面の範囲を確認したのみで、性格は不明である。



第95図 第47号整地面実測図

第48号整地面 9区SX-3 (第96・97図)

位置 調査区中央部のF11j8区を中心に位置している。約6.0m東側には、第50号建物跡が位置している。

確認状況 表砂を約5.4m除去し、標高約5.1mで黒色土面と柱穴3か所が確認された。

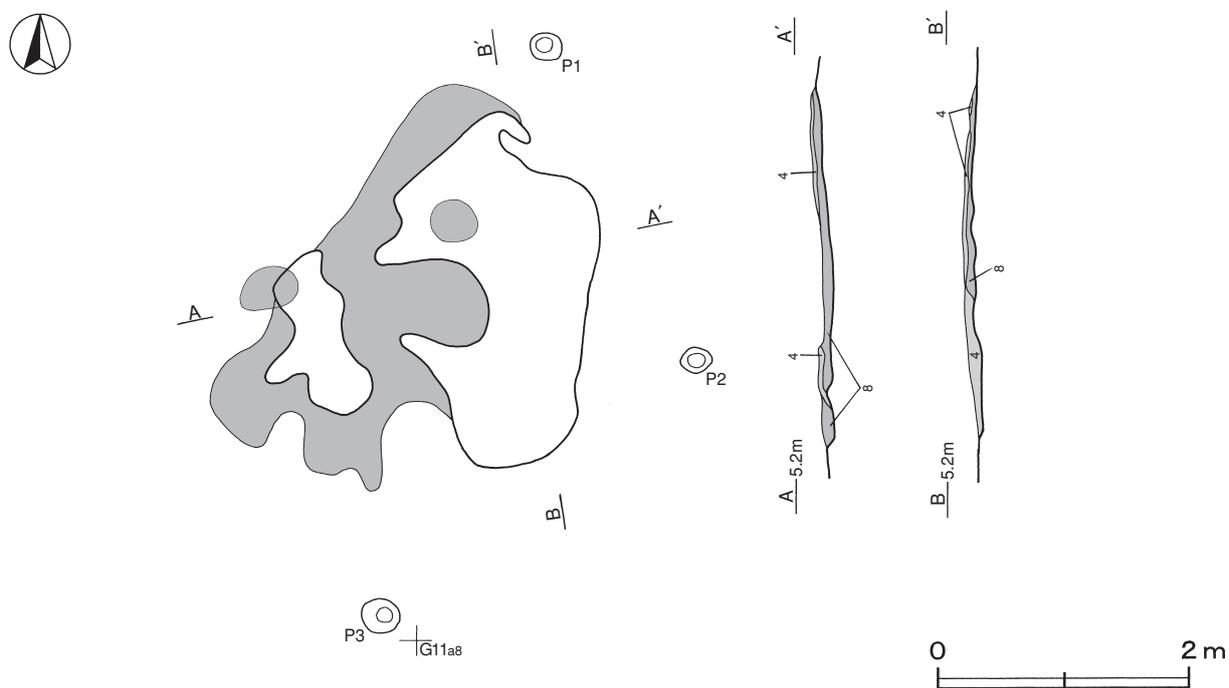
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸3.2m、短軸2.5mの不定形で、長軸方向はN-41°-Eである。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ3~5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。硬化した焼土範囲が2か所確認された。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりはやや弱い。黒色土面の下には、第8層の焼砂が広範囲に堆積している。

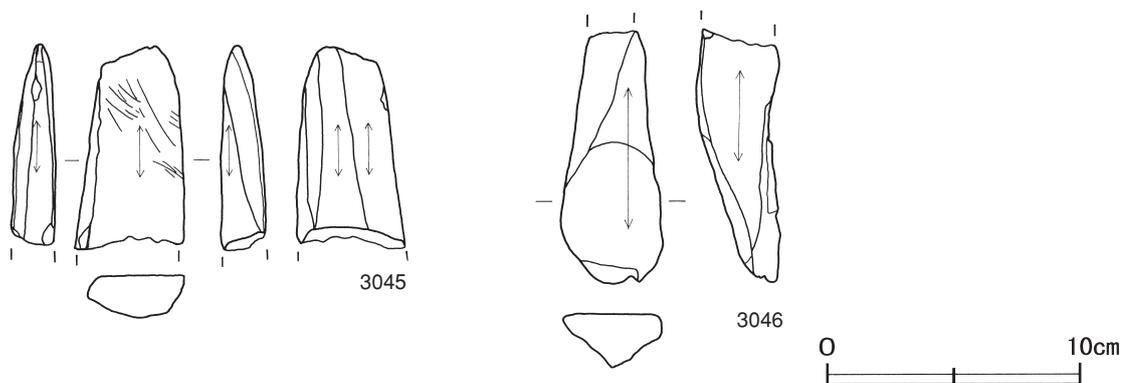
ピット 3か所。深さは30~55cmである。不規則なため、性格は不明である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（鍋）、石器2点（砥石）、が出土している。3045・3046は黒色土の覆土から出土している。内耳鍋片は、細片のため図示できなかった。

所見 第50号建物跡と同じく鍛冶関連の遺構と考えて調査したが、鍛冶関連の遺構及び出土遺物は認められなかった。黒色土面の焼土や床面下に焼砂が確認されていることから、第50号建物跡に関連する施設の可能性も考えられる。時期は、最初の遺構確認面から検出されていることから、16世紀前半と考えられる。



第96図 第48号整地面実測図



第97図 第48号整地面出土遺物実測図

第48号整地面出土遺物観察表（第97図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
3045	砥石	(8.0)	4.3	1.8	(70.6)	凝灰岩	砥面5面	砥面に擦痕有り	覆土中	
3046	砥石	(10.0)	4.0	3.3	(116.6)	凝灰岩	砥面2面	他は剥離面	覆土中	

表8 9区整地面一覽表

番号	旧遺構番号	位置	長軸・長径方向	黒色土				付属施設	ピット	備考 新旧関係 旧→新	
				標高(m)	範囲(最大値) 長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	形状				厚さ(cm)
34	9区HK3・6	G11d7	-	4.7	南北26.4	東西(5.4)	-	7~28	SN36・39・40・42~44, SK71・82・122・168	19	
35	9区HK4	F12b3	N-0°	4.4	7.0	4.3	不定形	4~10	SK124	1	本跡→SK109・123
36	9区HK5	F12d3	N-46°-W	4.7	(3.8)	3.2	[不定形]	5	炉1~3, SN25, SK126・131~134	-	
37	9区HK7	G11i0	N-57°-W	5.8	21.0	(13.1)	[不定形]	6~12	炉, SN45, SK138・140~143・146~148	-	HK41→本跡
38	9区HK8	G11a0	N-34°-E	4.7	(5.1)	2.6	[不定形]	7	SK116・155・156	-	本跡→SK115・154
39	9区HK9	F12b2	N-41°-E	4.2	5.0	2.1	不定形	2~7	炉1・2, SK176・177・179・205・330, SM51	2	
40	9区HK10	G11e6	N-64°-W	4.1	2.7	1.3	楕円形	3~8		1	
41	9区HK12	G11h9	N-64°-W	5.4	19.5	(10.8)	[不定形]	8~20	SN35, SK231~235・251	-	本跡→HK37
42	9区HK14・15	G11i0	N-22°-W	4.8	8.5	7.9	不定形	5~15	炉, SN29~31, SK268・270・273・282・283・297	-	
		第2次面	N-32°-E	4.6	12.0	8.9	不定形	2~15	SN48, SK272・274・295	1	
43	9区HK17	F12e2	N-50°-E	3.6	3.2	2.9	不整形楕円形	3~5	SK316	-	HK44→本跡
44	9区HK16	F12e2	N-78°-E	3.5	4.1	3.1	不整形楕円形	2~7	SK315, SM54	-	本跡→HK43
45	9区HK18	G12b2	N-12°-E	4.5	(16.9)	4.7	不定形	8~12		-	
46	9区HK19	G11j0	N-37°-E	4.6	(3.8)	1.9	[不定形]	20	SK313	-	
47	9区HK20	G12i1	N-29°-E	4.2	(7.4)	2.2	[不定形]	4~10		-	
48	9区SX3	F11j8	N-41°-E	5.1	3.2	2.5	不定形	3~5		3	

表9 9区整地面炉一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	深さ(cm)							
HK36	炉1	F12d4	4.6	N-64°-W	0.6	0.3	6	楕円形	3	-	緩斜	平坦		(9区SK127)
	炉2	F12d4	4.7	N-43°-W	1.3	[0.9]	10	[楕円形]	6~9	-	緩斜	平坦		炉3→本跡 (9区SK128)
	炉3	F12d4	4.6	N-32°-W	[0.7]	[0.6]	17	[楕円形]	8	-	緩斜	平坦		本跡→炉2 (9区SK129)
HK37	炉	G11i8	5.0	N-83°-E	1.4	1.0	16	楕円形	10	-	緩斜	平坦		(9区SK139)
HK39	炉1	F12b2	4.0	N-60°-W	0.6	0.5	1	不定形	7	-	緩斜	皿状		
	炉2	F12b2	4.1	N-30°-W	1.0	0.8	18	不定形	5~10	-	緩斜	皿状		(9区SK178)
HK42	炉	G12h1	4.8	N-71°-W	[1.1]	0.8	13	[楕円形]	5~15	-	緩斜	平坦		SN29→本跡→SN31

表10 9区整地面粘土貼土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	深さ(cm)							
HK34	SN36	G11b9	4.9	-	0.6	0.6	13	円形	-	6	緩斜	皿状		(9区SK66)
	SN39	G11b7	4.7	-	0.8	(0.7)	6	[円形]	-	8~17	緩斜	平坦		(9区SK121)
	SN40	G11e7	4.7	-	1.1	1.1	34	方形	-	2~7	緩斜	平坦		(9区SK135)
	SN42	G11b8	4.7	-	0.9	0.9	14	円形	-	9~25	緩斜	皿状		(9区SK68)
	SN43	G11g6	4.6	N-56°-W	1.2	1.0	30	楕円形	1~4	5~9	緩斜	平坦		(9区SK136)
	SN44	G11f6	4.4	N-10°-E	0.7	0.6	16	楕円形	5	8	緩斜	皿状		(9区SK150)
HK36	SN25	F12e3	4.7	N-47°-E	2.2	1.5	59	長方形	4~6	7~19	外傾	平坦	土師質土器(備録)火打石	SK126→本跡
HK37	SN45	G12i1	5.4	N-53°-E	1.3	(1.2)	43	[不定形]	8~50	4~8	緩斜	皿状		(9区SK166)
HK41	SN35	G11g8	4.8	-	1.3	1.2	25	円形	6~15	6~8	外傾・緩斜	平坦		

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
HK42	SN 29	G12h1	5.0	N-83°-W	[1.4]	1.1	34	[楕円形]	8~12	1~4	緩斜	平坦	土師質土器(小皿・皿) 砥石	SN30→本跡→SN31・SK273
	SN 30	G12h1	5.0	-	[1.4]	1.4	34	[円形]	3~10	1~5	緩斜	皿状		SK297→本跡→SN29
	SN 31	G12h1	4.9	N-75°-W	0.7	0.5	8	楕円形	-	5~8	緩斜	皿状		炬→本跡→SK273
	SN 48	G11i8	4.4	N-56°-W	1.7	1.1	52	楕円形	2~7	2~7	緩斜	平坦		(9区SK271)

表11 9区整地面土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
HK34	SK 71	G11a8	4.9	N-87°-W	1.0	0.8	6	楕円形	2~6	-	緩斜	平坦		
	SK 82	G11c7	4.7	N-15°-W	1.2	1.0	28	楕円形	-	-	外傾	平坦		
	SK122	G11b6	4.6	N-54°-E	0.5	0.4	6	楕円形	-	-	外傾	平坦		
	SK168	G11e7	4.4	N-43°-E	1.0	0.5	30	長方形	-	-	外傾	平坦		
HK35	SK124	F12b3	4.4	N-40°-W	2.8	2.1	65	長方形	4	黒色土厚34	外傾	平坦		本跡→SK123
HK36	SK126	F12e2	4.6	-	1.5	1.4	54	隅丸方形	-	-	外傾	平坦		本跡→SN25
	SK131	F12d4	4.7	-	0.4	0.4	8	円形	6~7	-	緩斜	皿状		
	SK132	F12d4	4.7	-	0.7	0.6	60	円形	-	-	外傾	皿状		
	SK133	F12f3	5.0	N-50°-W	1.2	0.8	10	楕円形	7	-	緩斜	皿状	土師質土器(香炉)	
	SK134	F12f3	4.7	N-28°-E	1.7	1.1	34	長方形	-	-	外傾	平坦		
HK37	SK138	G11g8	4.8	N-37°-E	0.8	0.7	5	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK140	G11i0	5.6	N-19°-W	0.7	0.6	7	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK141	G11i0	5.6	N-55°-W	0.8	0.7	41	楕円形	-	-	外傾	皿状		
	SK142	G11j0	5.6	N-0°	0.8	0.7	30	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK143	G12i1	5.7	N-18°-E	1.0	0.9	13	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK146	G11i9	5.0	N-34°-W	0.7	0.5	26	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK147	G11i9	5.0	N-67°-E	0.9	0.8	30	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK148	G12i1	5.8	N-0°	1.0	0.9	-	隅丸方形	7	-	-	平坦		
HK38	SK116	F11j9	5.0	-	1.6	(1.4)	25	[円形]	5~14	-	緩斜	皿状		本跡→SK115
	SK155	F11j0	4.7	-	0.5	0.5	13	円形	8	-	緩斜	皿状		本跡→SK115・156
	SK156	F11j0	5.0	-	0.6	[0.6]	30	[円形]	-	-	緩斜	平坦		SK155→本跡→SK115
HK39	SK176	F12b2	4.0	-	0.7	(0.6)	11	[円形]	4	-	緩斜	平坦		
	SK177	F12b2	4.0	N-55°-E	0.8	0.5	16	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK179	F12b2	4.0	N-80°-W	1.0	0.7	16	楕円形	5	-	緩斜	平坦	古銭	
	SK205	F12b1	4.1	N-40°-W	0.7	0.5	12	楕円形	10~15	-	緩斜	皿状	軽石	
	SK330	F12b2	4.0	N-55°-E	0.9	0.7	11	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
HK41	SK231	G11g9	4.7	N-9°-W	1.3	1.1	26	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK232	G11i0	4.8	-	1.1	1.0	48	円形	-	-	緩斜	皿状	砥石	
	SK233	G11i0	5.4	N-67°-W	0.7	0.6	58	楕円形	-	-	外傾	皿状		
	SK234	G11j0	5.4	N-55°-W	0.7	0.5	8	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK235	G12j1	5.5	-	0.6	0.6	16	円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK251	H11a0	5.4	N-32°-W	1.0	0.9	10	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
HK42	SK268	G12j2	5.6	N-18°-E	1.9	0.5	21	隅丸長方形	-	-	外傾・緩斜	平坦		
	SK270	G12j1	5.5	N-35°-E	3.6	1.4	26	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK272	G11i7	4.4	N-79°-W	1.1	(0.8)	28	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		
	SK273	G12h1	5.0	N-75°-W	1.1	0.9	8	楕円形	-	-	緩斜	平坦		SN31→本跡
	SK274	G11g9	4.5	N-51°-W	1.8	1.4	20	隅丸長方形	7	-	緩斜	平坦		
	SK282	G11i0	4.4	N-51°-W	1.4	(0.6)	70	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		
	SK283	G11i0	4.7	N-67°-W	0.8	(0.5)	15	[楕円形]	7~15	-	緩斜	平坦		
	SK295	G11g9	4.5	-	1.0	(0.5)	22	[円形]	-	-	緩斜	皿状		
	SK297	G12h1	5.4	N-27°-E	[1.7]	[1.2]	28	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SN30
HK43	SK316	F12d2	3.6	-	(1.2)	1.1	21	[楕円形]	3~7	-	緩斜	皿状		本跡→SK305→SK304
HK44	SK315	F12d1	3.6	N-62°-W	1.3	1.0	17	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
HK46	SK313	G12i1	4.8	N-25°-E	1.5	1.2	20	楕円形	10~14	-	緩斜	皿状		

表12 9区整地面貝集積地一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	厚さ(cm)							
HK39	SM 51	F 12c1	4.2	-	0.4	0.4	5	円形	-	-	-	-		(9区 SM4)
HK44	SM 54	F 12f2	3.5	N-23°-E	1.0	0.7	10	楕円形	-	-	-	-		(9区 SM7)

(4) 井戸跡

第1号井戸跡 9区SK-8・SE-1 (第98~102図)

位置 調査区北部のE12h3区に位置している。

重複関係 第2号井戸跡の横板を利用して、第1号井戸跡が構築されている。

確認状況 表砂を約5.7m除去し、標高約4.8mの第2号土手状遺構の第1次面で、砂層の堆積した第8号土坑が確認された。土坑調査後、約1.2m表砂を重機で除去した標高約3.6mで、不整楕円形に広がる黒色土の範囲が確認された。黒色土層は約1.8m堆積しており、標高約1.8mで径15~20cmの礫と井戸杵が確認された。井戸杵と第8号土坑の中心部がほぼ一致していることから、第8号土坑は第1号井戸跡の上層部と判断し、以下第1号井戸跡として報告する。

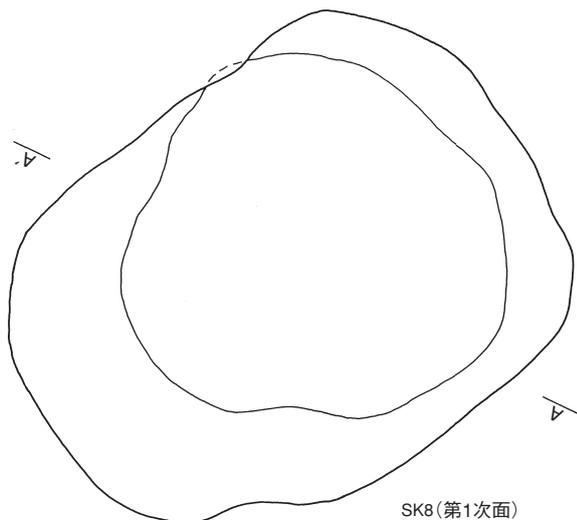
規模と形状 第1次面で確認された範囲は、長軸4.4m、短軸3.4mの不定形で、深さは1.5mである。断面形は漏斗状を呈している。覆土は、第1層の砂A層が堆積している。第1次面の黒色土を重機で除去すると、砂層のほぼ同じ場所から黒色土が確認された。黒色土の範囲は、長軸8.3m、短軸5.5mの不定形で、深さは約1.8mである。黒色土の範囲は掘り方部分も含まれており、第1次面で確認された規模よりも広い。断面形は確認した土層面で上端5.4m、下端1.9mの逆台形を呈している。覆土は、主に第5・6層の黒色土C・D層が重なるように堆積し、掘り方部分も崩れている状況である。井戸杵の規模は、一辺約2.0mの方形で、確認できた木杭の上面から井戸の底面までの深さは約1.0mである。井戸杵は、先端を加工した径15~20cm、長さは約0.8~1.0mの木杭を四隅に打ち込み、その外側に、平らな面を内側に向けた径20cmほどの丸木材を半截したものと、柁目の横板を重ねて構築されている。井戸の深さは、第2号土手状遺構から井戸底面まで約4.0mである。

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿1、香炉2、鍋3)、陶器片1点(甕)、金属製品6点(火打金1、不明5)が出土している。3088は覆土中層、3089・3090は井戸杵内の覆土、3091は東部の掘り方部分から出土している。陶器は常滑甕の体部片である。3103は二次利用されたとみられるほぞのある横板で、木杭と平行に埋設されている。3098~3102は四隅の木杭、3103・3104は横板、3105~3108は半截された丸木材である。

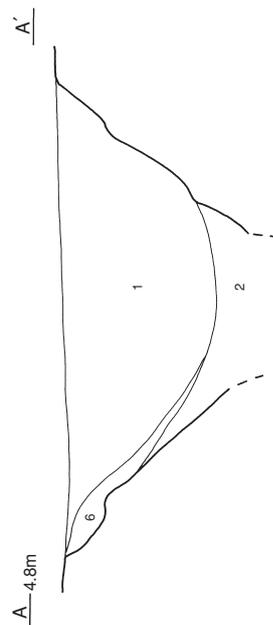
所見 第2号土手状遺構の面で確認された第8号土坑は、第1号井戸跡の木杵部分と中心が一致することから、第1号井戸跡の上面に堆積した砂層と考えられる。第2次面で確認された黒色土は、掘り方の黒色土が堆積している部分であり、埋没した覆土と掘り方の覆土に境が認められないことから、掘り方部分から崩れて埋没していると考えられる。井戸杵の木材は、奈良文化財研究所の光谷拓実氏の樹脂同定によると、すべて二葉松類であることが判明している。時期は、最終生活面の砂層が堆積していることから、16世紀前半と考えられる。



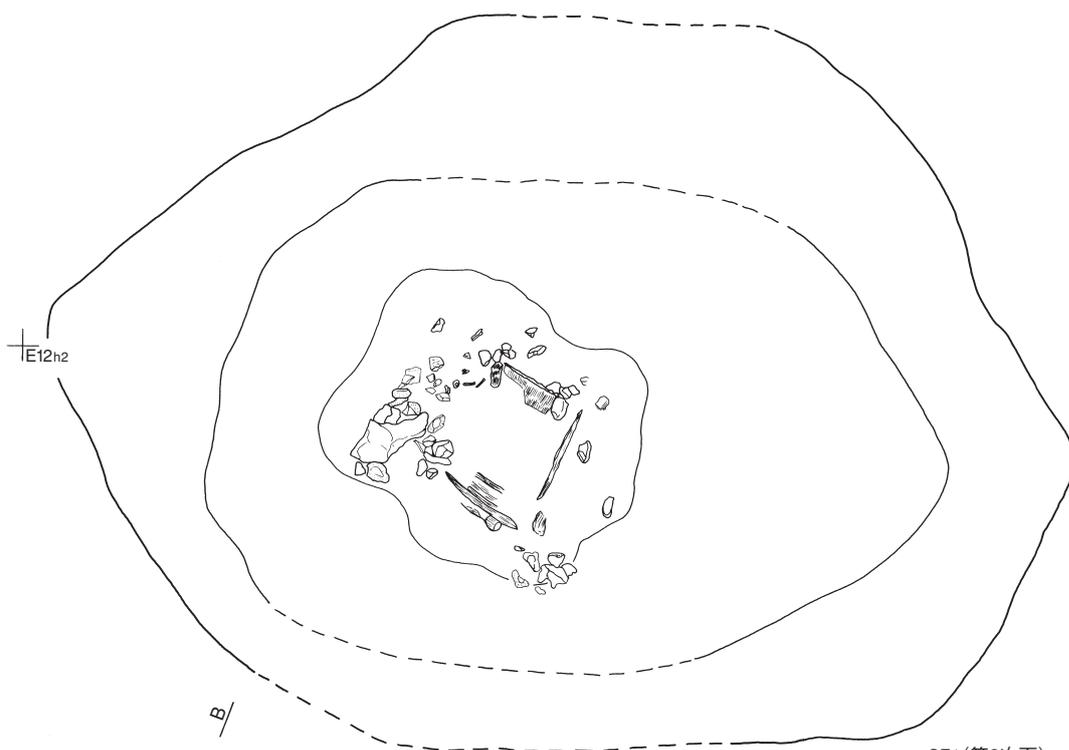
E12h2



SK8 (第1次面)

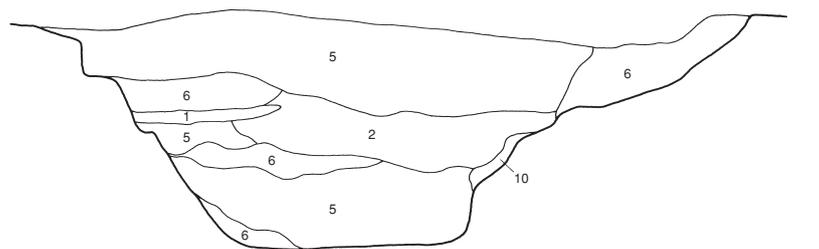


A-A' 4.8m

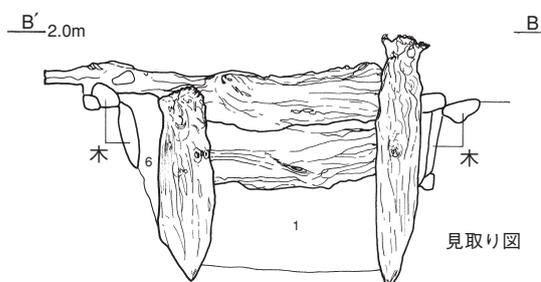
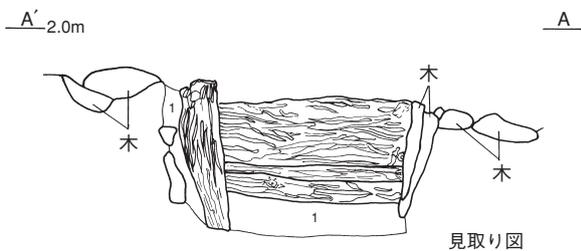
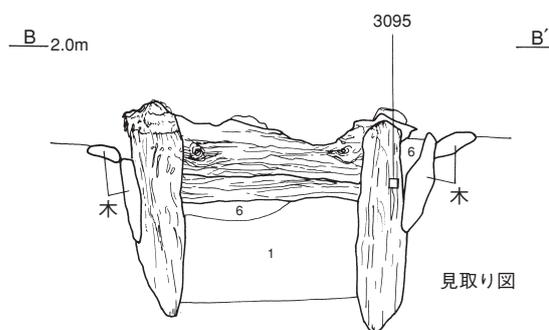
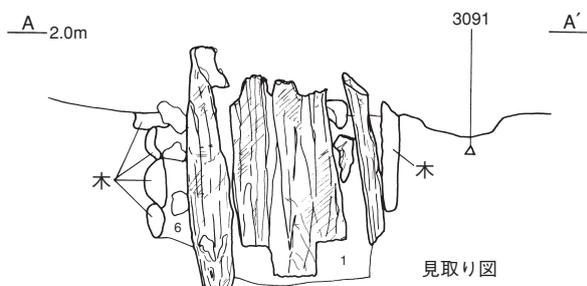
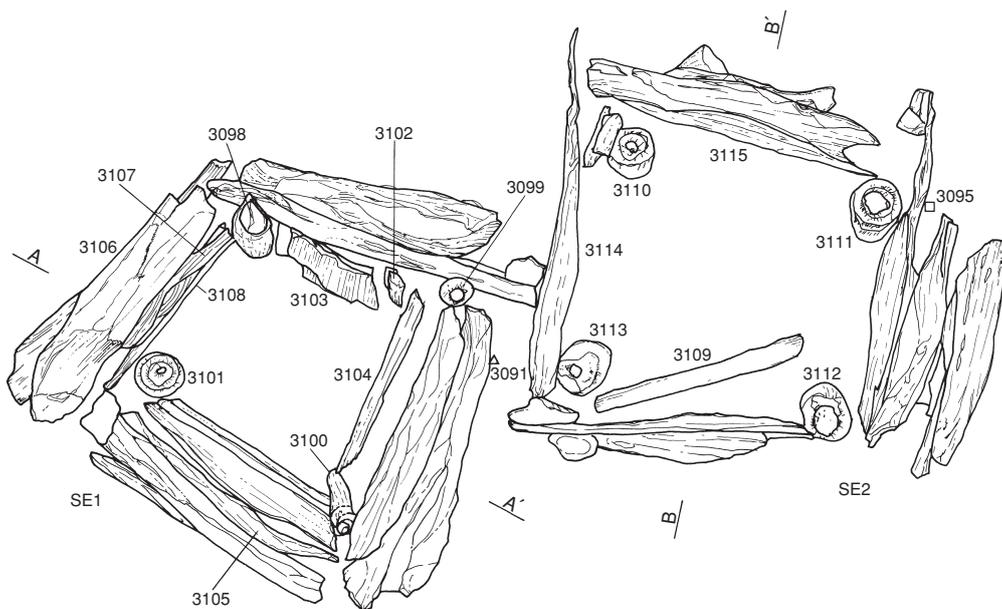


SE1 (第2次面)

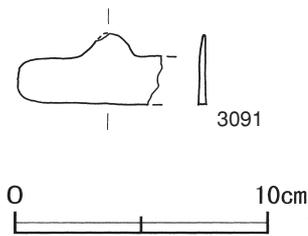
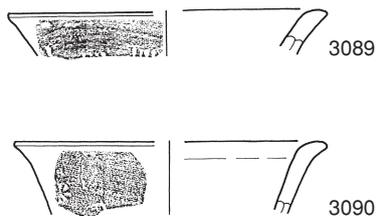
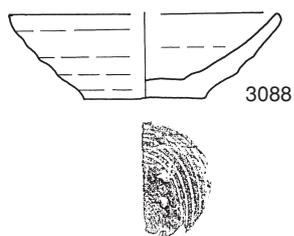
B-B' 3.8m



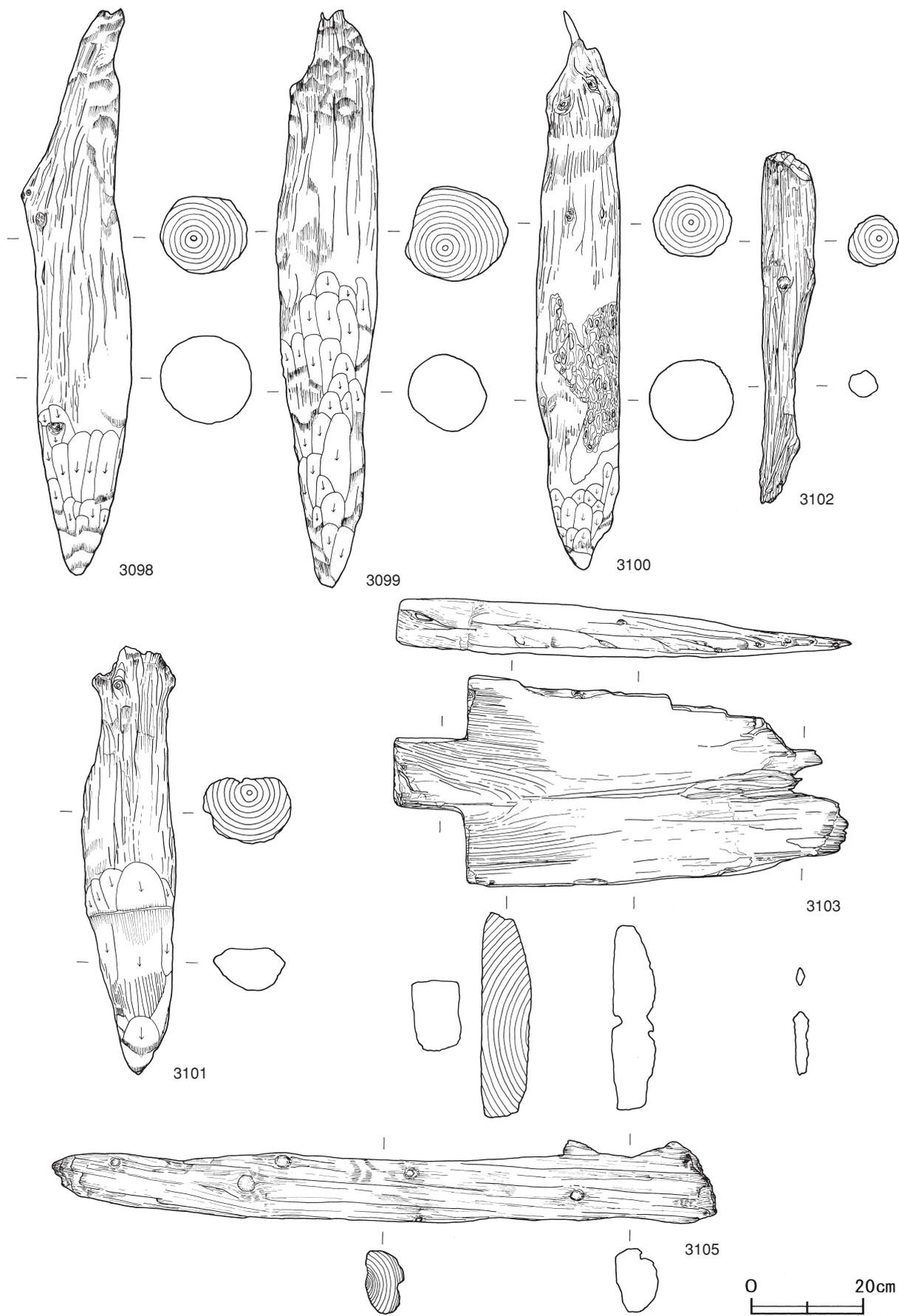
第98図 第1号井戸跡実測図



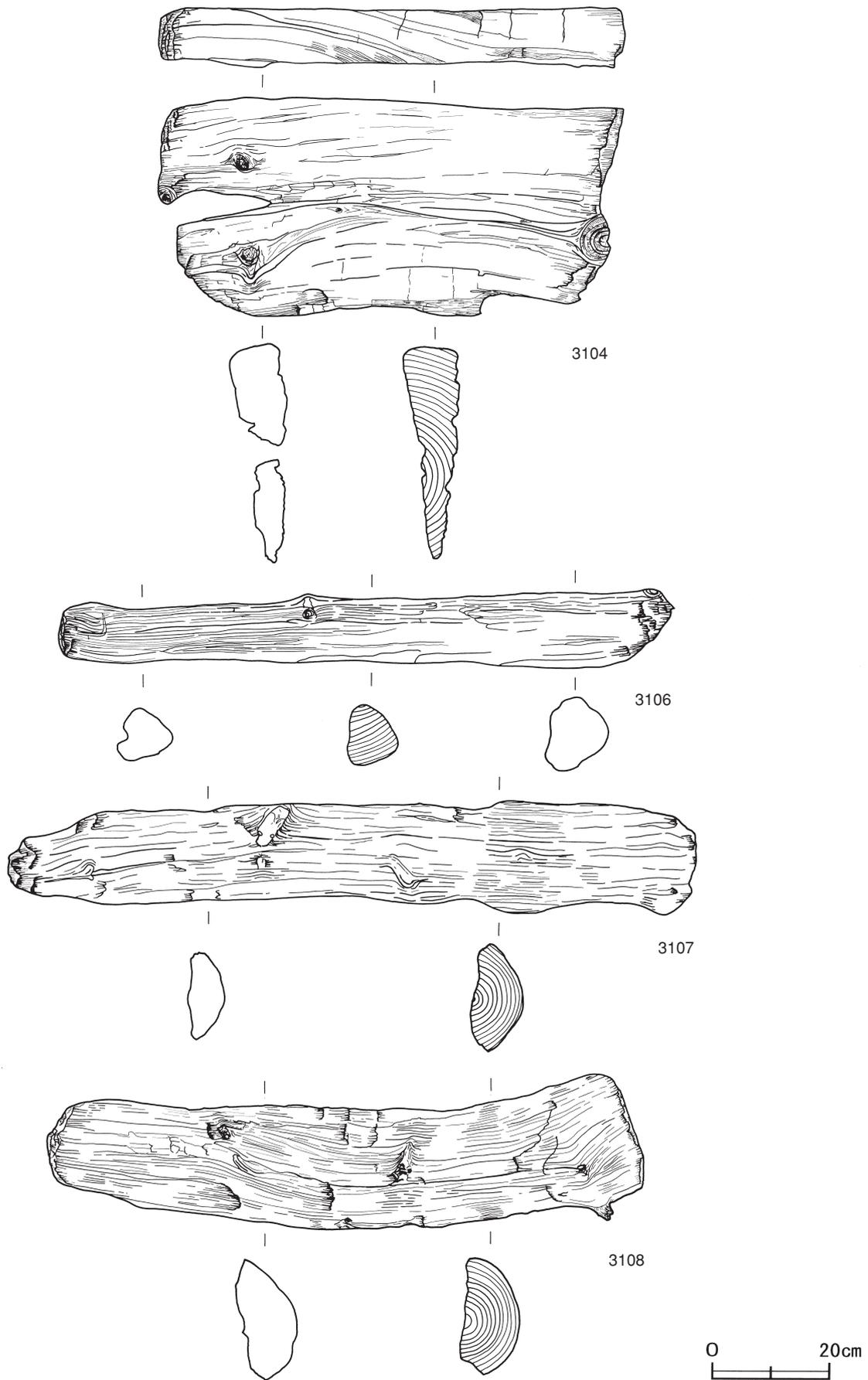
第99図 第1・2号井戸跡実測図



第100図 第1号井戸跡出土遺物実測図(1)



第101图 第1号井戸跡出土遺物実測図(2)



第102図 第1号井戸跡出土遺物実測図(3)

第1号井戸跡出土遺物観察表（第100～102図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3088	皿	土師質土器	[10.5]	3.3	4.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	40%
3089	香炉	土師質土器	[12.4]	(1.7)	-	雲母	橙	普通	体部外面スタンプ文	井戸枠内覆土中	5%
3090	香炉	土師質土器	[12.0]	(2.9)	-	雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面スタンプ文(菊花文)	井戸枠内覆土中	5% PL80

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3091	火打金	(5.7)	2.8	0.3	(9.5)	鉄	山型 孔無 打撃部厚い	東部掘り方	PL94
3098	木杭	(101.1)	最大径	16.6	(11500.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り	北西部	PL97
3099	木杭	(103.5)	最大径	18.3	(14700.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り	北東部	PL97
3100	木杭	(104.0)	最大径	14.6	(10900.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り 一部に表皮遺存	南東部	PL97
3101	木杭	(76.9)	最大径	15.8	(6600.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り	南西部	PL97
3102	木杭	(63.5)	最大径	10.0	(2100.0)	松	細い丸木材 先細り状に腐食	北東部	
3103	横板	(81.1)	37.6	10.3	(12000.0)	松	板目板材 両面平坦 端部を凸状に加工	北部	PL97
3104	横板	(79.3)	37.5	10.4	(11200.0)	松	板目板材 片面平坦部遺存	東部	PL97
3105	丸木材	(118.7)	14.7	9.0	(6500.0)	松	1/2の割り材 腐食し加工痕不明	南部	
3106	丸木材	(105.0)	13.5	11.0	(6500.0)	松	1/4ほどの割り材 腐食し加工痕不明	西部	
3107	丸木材	(116.5)	19.4	12.8	(10300.0)	松	1/2の割り材 腐食し加工痕不明	西部	
3108	丸木材	(101.1)	26.6	16.5	(14200.0)	松	1/2の割り材 腐食し加工痕不明	西部	

第2号井戸跡 9区SE-2（第99・103・104図）

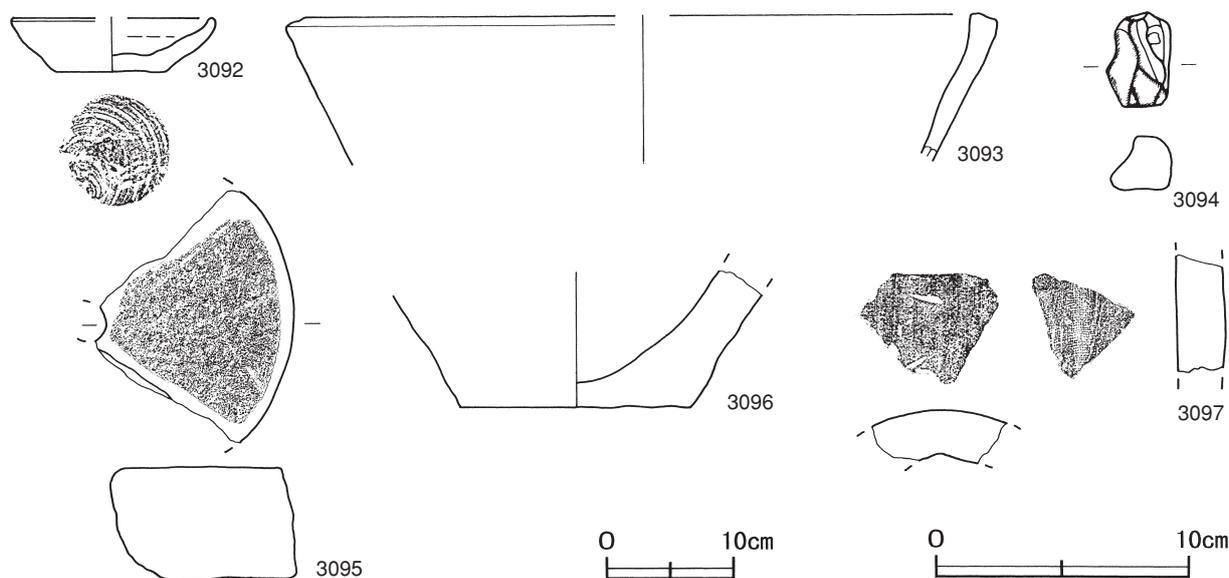
位置 調査区北部のE12h3区に位置している。

確認状況 第1号井戸跡の黒色土を除去した標高1.8mで、第1号井戸跡の東部に隣接して確認された。

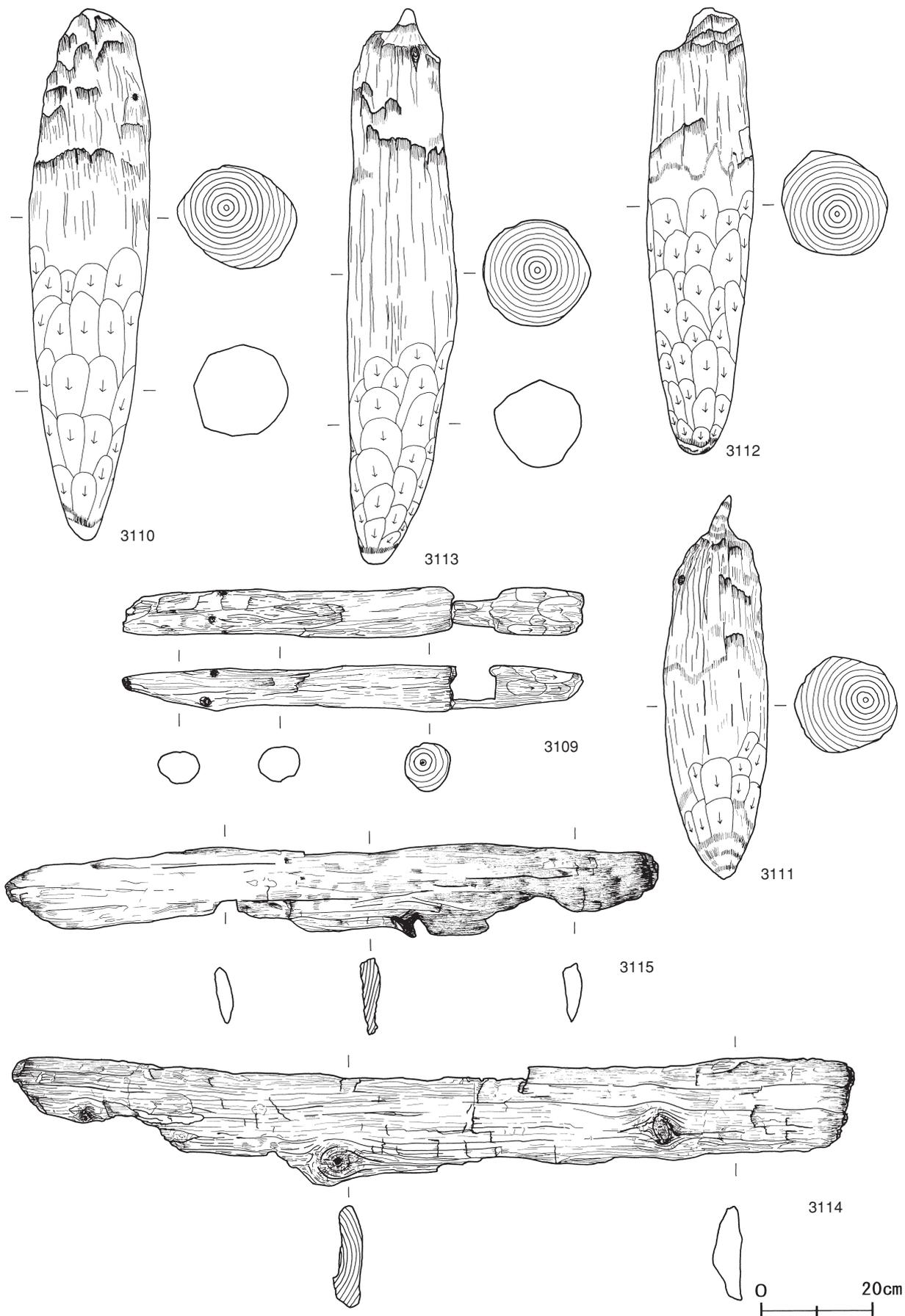
規模と形状 井戸枠の規模は、一辺約2.7mの方形で、確認できた木杭の上面から井戸の底面までの深さは約1.0mである。井戸枠は、先端を加工した径20cm、長さは約0.8～1.1mほどの木杭を四隅に打ち込み、その外側に、平らな面を内側に向けた径20cmほどの丸木材を半截したものと、柁目の横板を重ねて構築されている。

遺物出土状況 土師質土器片15点（小皿1、皿5、香炉1、鍋8）、石器3点（火打石、石臼、石鉢）、瓦1点が出土している。3092・3096は南部、3095は東部の掘り方部分から出土している。3109は井戸内の底面から横位の状態で出土している。3110～3113は四隅の木杭、3114・3115は横板である。

所見 井戸枠の木材は、すべて二葉松類である。西部の横板は第1号井戸跡に利用されていることから、16世紀前半よりも古いと考えられる。



第103図 第2号井戸跡出土遺物実測図(1)



第104図 第2号井戸跡出土遺物実測図(2)

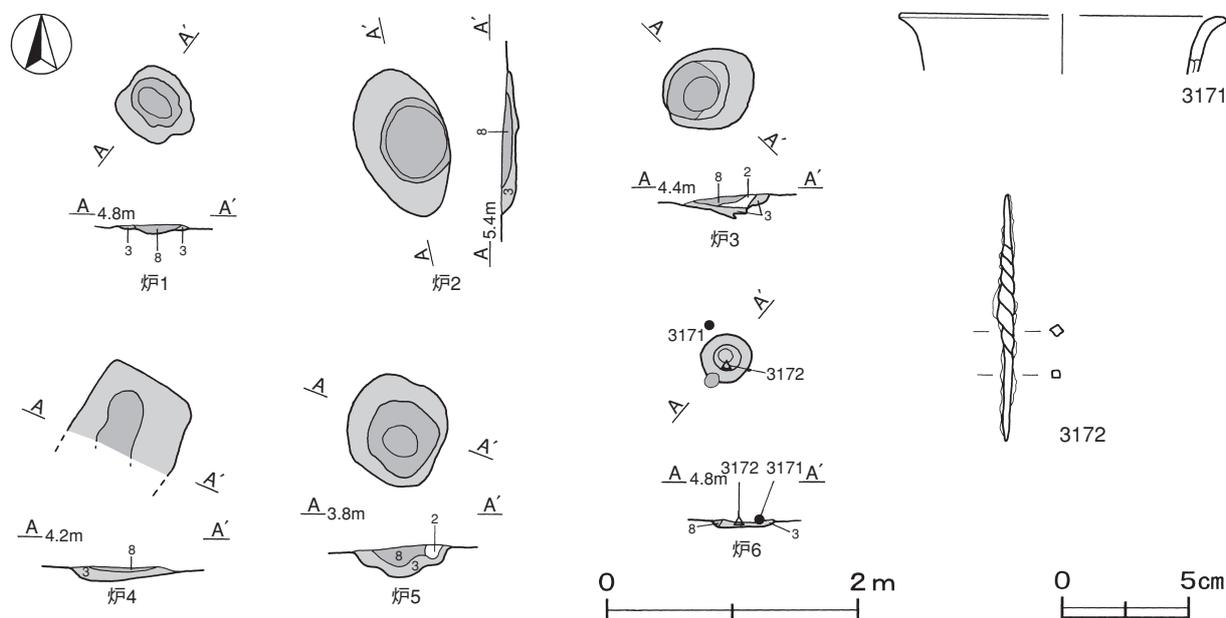
第2号井戸跡出土遺物観察表（第103・104図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3092	小皿	土師質土器	[8.0]	2.1	4.3	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	南部掘り方内	90% PL72
3093	内耳鍋	土師質土器	[28.0]	(5.9)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内外面ナデ	掘り方内	5%

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3094	火打石	3.7	2.5	2.1	28.2	瑪瑙	一部の稜が摩滅	掘り方内	
3095	石臼	[26.8]	8.7	-	(2560.0)	安山岩	下臼の破片 すり合わせ部摩滅	東部掘り方内	
3096	石鉢	-	(10.5)	17.6	(1200.0)	安山岩	底部片 内面摩滅	南部掘り方内	
3097	丸瓦	(4.6)	(5.2)	1.9	(50.3)	長石・石英	内面布目痕 外面ヘラナデ	掘り方内	
3109	部材	(83.2)	最大径	8.9	(2400.0)	松	細い丸木材 頭部に長方形のほぞ穴有り	井戸内底面	PL97
3110	木杭	(95.4)	最大径	21.7	(17300.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り	北西部	
3111	木杭	(69.2)	最大径	18.3	(10100.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り	北東部	PL97
3112	木杭	(80.6)	最大径	18.9	(14800.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り	南東部	PL97
3113	木杭	(99.8)	最大径	19.5	(18500.0)	松	丸木材 先端部に加工痕有り	南西部	
3114	横板	(150.0)	20.1	5.3	(6200.0)	松	板目板材カ 腐食激しい	西部	
3115	横板	(116.8)	16.6	3.7	(2300.0)	松	板目板材カ 腐食激しい	北部	

(5) 炉跡

建物跡や整地面に組み込まれない炉跡6基が確認された。当初は土坑として取り上げた中で、覆土底面から焼砂や灰などが確認されたものである。規模は、長径0.4~1.2m、短径0.3~0.7mの楕円形が主であり、すべて黒色土を貼り付けて構築されている。建物跡や整地面と伴わないことから、屋外炉の可能性が考えられる。以下、遺構及び遺物の実測図と一覧表で掲載する。



第105図 炉跡・出土遺物実測図

炉跡出土遺物観察表（第105図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3171	香炉	土師質土器	[12.6]	(2.3)	-	砂粒	にぶい黄橙	普通	体部内・外面横ナデ	炉6付近砂層	5%

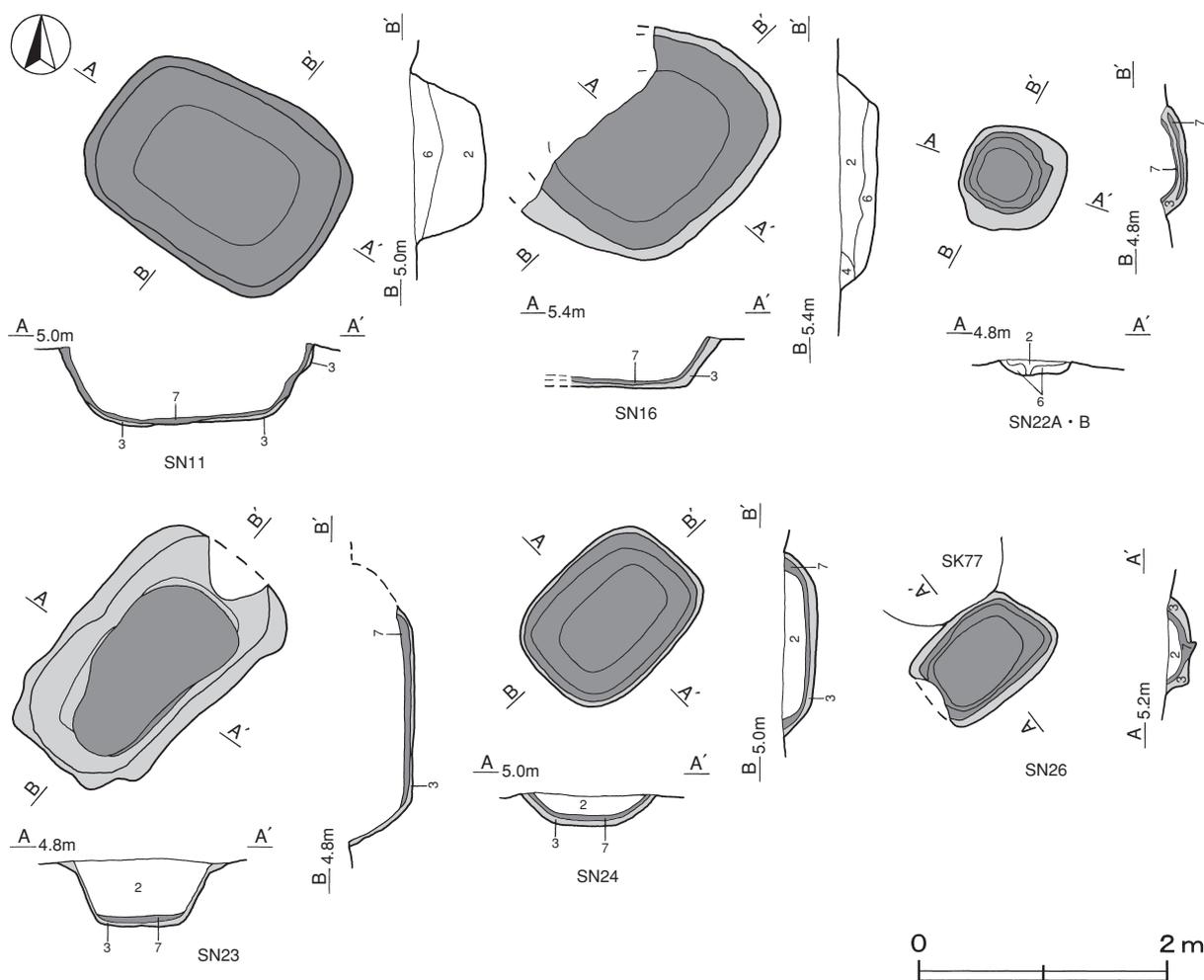
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3172	不明鉄製品	9.8	0.6	0.5	6.3	鉄	断面方形 螺旋状にねじれ、両端部尖る	炉6内	

表13 9区炉跡一覧表

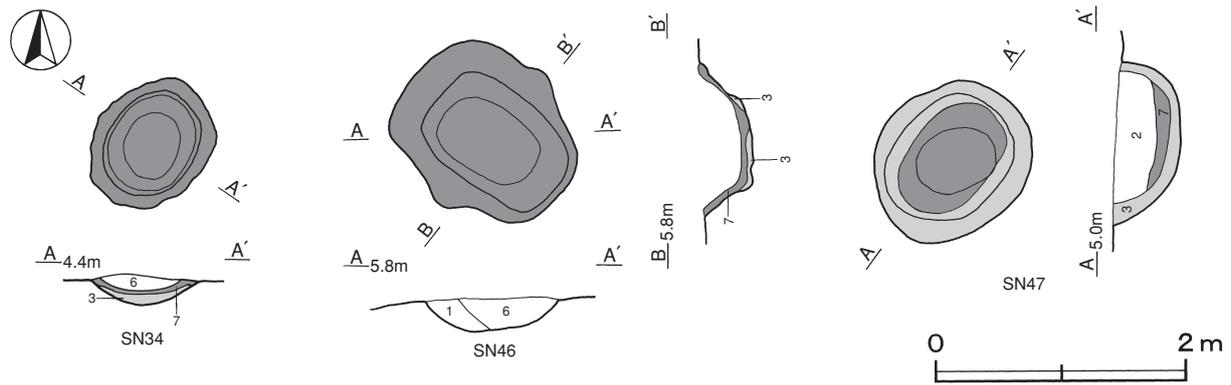
番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	深さ(cm)							
1	第1号炉跡	F11c7	4.7	N-50°-W	0.6	0.6	7	不定形	4	-	緩斜	皿状		(9区 SK57)
2	第2号炉跡	G12d2	5.3	N-11°-W	1.2	0.7	8	楕円形	3~11	-	緩斜	平坦		(9区 SK60)
3	第3号炉跡	F11c0	4.3	N-50°-E	0.8	0.7	10	楕円形	2~8	-	緩斜	皿状		(9区 SK90)
4	第4号炉跡	E12e3	4.0	N-61°-W	0.9	(0.7)	3	[長方形]	4~9	-	緩斜	平坦		(9区 SK94)
5	第5号炉跡	E12d2	3.5	N-14°-W	0.9	0.8	16	楕円形	6~12	-	緩斜	皿状		(9区 SK152)
6	第6号炉跡	H12a1	4.5	-	0.4	0.4	10	円形	2~4	-	緩斜	平坦	土師質土器(香炉, 不明鉄製品)	(9区 SX5)

(6) 粘土貼土坑

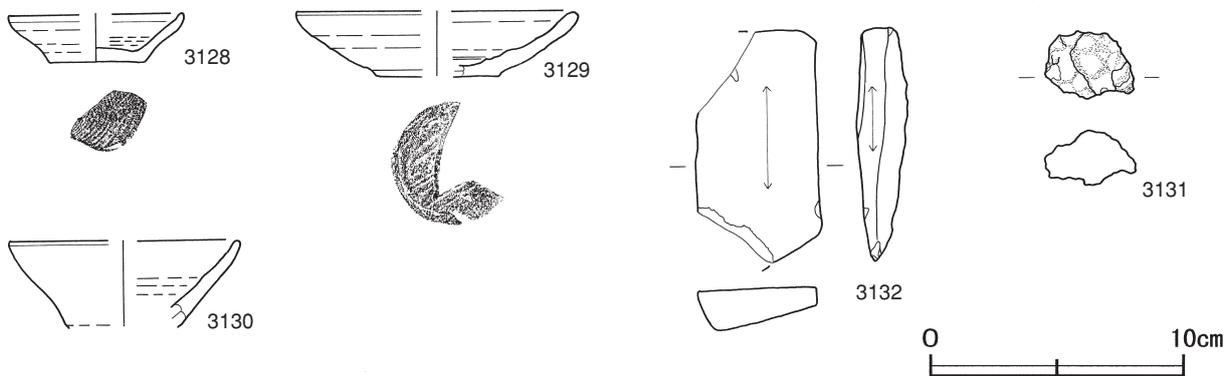
建物跡や整地面に組み込まれない10基の粘土貼土坑が確認された。規模と形状から、長軸1.5~2.0m、短軸1.0mほどの長方形を呈する4基と、長軸(径)が1.0mほどの円形や楕円形及び隅丸方形を呈する6基に分けられる。以下、遺構及び遺物の実測図と一覧表で掲載する。なお、これらの遺構の時期は、おおむね15世紀後半から16世紀前半頃と考えられる。



第106図 粘土貼土坑実測図(1)



第107図 粘土貼土坑実測図(2)



第108図 粘土貼土坑出土遺物実測図

粘土貼土坑出土遺物観察表 (第108図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3128	小皿	土師質土器	[6.8]	1.9	[3.8]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	SN11内	20%
3129	皿	土師質土器	[11.0]	2.6	[4.8]	長石・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	内底面横ナデ	SN11内	30%
3130	皿	土師質土器	[9.1]	(3.4)	-	雲母	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ	SN11内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3131	鉄滓	3.5	2.8	2.1	31.7	鉄	表面にぶい赤褐色 地黒褐色	SN11内	
3132	砥石	(9.2)	5.0	2.1	(99.3)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	SN24内	

表14 9区粘土貼土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	深さ(cm)							
1	SN 11	F 12c1	4.9	N-59°-W	2.1	1.6	62	長方形	1~5	2~6	緩斜	平坦	土師質土器(小皿, 皿) 鉄滓	
2	SN 16	G 11e0	5.2	N-45°-E	2.0	(1.2)	35	隅丸長方形	2~5	3~6	緩斜	平坦		
3	SN 22A	F 12b2	4.6	-	0.8	0.8	13	隅丸方形	3~12	2	緩斜	平坦		SN 22B → 本跡
4	SN 22B	F 12b2	4.5	-	0.8	0.8	6	隅丸方形	3	3	緩斜	平坦		本跡 → SN 22A
5	SN 23	F 11b0	4.6	N-44°-E	2.2	1.3	43	長方形	4	4	緩斜	平坦		
6	SN 24	F 11d0	4.8	N-46°-E	1.4	1.1	15	隅丸長方形	4	3~6	緩斜	平坦	砥石	
7	SN 26	F 11g7	5.1	N-43°-E	2.0	1.6	10	長方形	6	6	緩斜	皿状		本跡 → SK 77
8	SN 34	G 11h9	4.3	N-40°-E	1.1	0.9	8	楕円形	5~8	3~4	緩斜	皿状		
9	SN 46	G 12a1	5.6	N-53°-W	1.5	1.2	30	不整楕円形	4	4~7	緩斜	平坦		(9区 SK63)
10	SN 47	F 11d7	4.9	N-40°-E	1.3	1.1	33	楕円形	6~14	6~10	緩斜	平坦		(9区 SK58)

(7) 土坑

建物跡や整地面に組み込まれない土坑139基が確認された。土坑は、黒色土を貼り付けて構築された土坑10基、砂と褐色土を混ぜた暗褐色土で壁を版築している土坑3基と砂層を掘り込んだだけの土坑126基に分けられる。ここでは、遺物の出土位置が明確な土坑2基、特徴的な土坑1基、土坑群2か所のうち1か所について取り上げ、それ以外は実測図と一覧表で掲載する。なお、同じ標高で土坑群の区域内に含まれるピットについては、この項で報告する。なお、これらの遺構の時期は、おおむね15世紀後半から16世紀前半頃と考えられる。

第22号土坑 9区SK-22 (第109図)

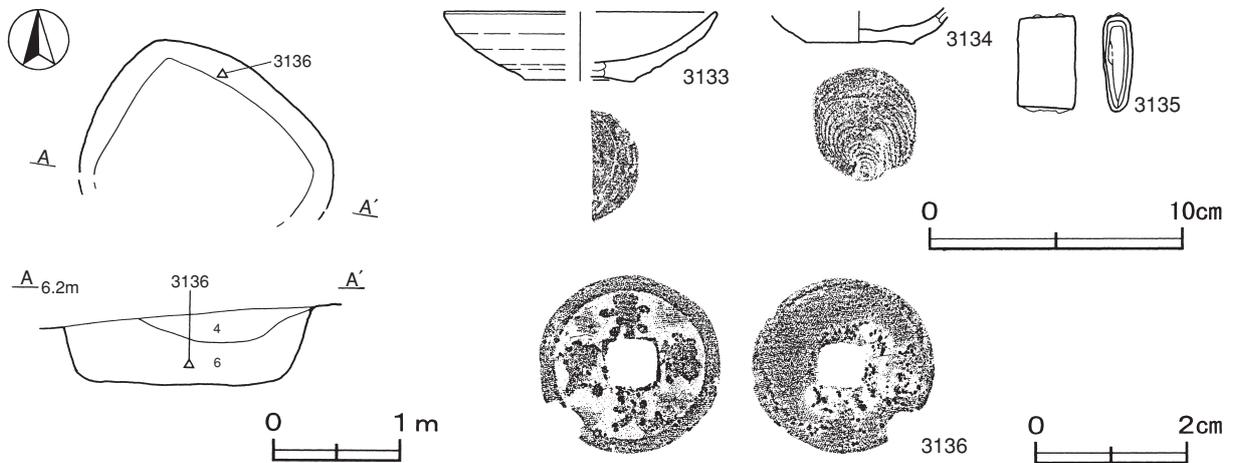
位置 調査区中央部のF12i3区に位置している。

確認状況 表砂を約4.5m除去し、標高約6.0mから確認された。

規模と形状 長軸2.0m、短軸は確認できた長さで1.3mの隅丸長方形と推定され、深さは64cmである。長軸方向はN-55°-Wである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。覆土は、第4・6層の黒色土B・D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿), 鉄製品1点(鏝), 古銭が出土している。3133~3135は覆土, 3136は底面から出土し、埋め戻されたときに混入したものと考えられる。

所見 砂層を掘り込んで構築された土坑で、性格は不明である。遺構確認の第1次面から検出されていることから、16世紀前半と考えられる。



第109図 第22号土坑・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表 (第109図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3133	皿	土師質土器	[10.6]	2.7	[4.2]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	30%
3134	皿	土師質土器	-	(1.0)	4.3	長石・赤色粒子	橙	普通	内底面横ナデ	覆土中	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3135	鏝	3.7	2.2	1.1	14.3	鉄	完存	茎穴は角棟	覆土中	PL90	
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴		出土位置	備考
3136	景德元寶	2.47	0.57	0.18	(3.70)	1004	銅	真書 欠け	鑄込み不足の穴有り	底面	

第30号土坑 9区SK-30 (第110図)

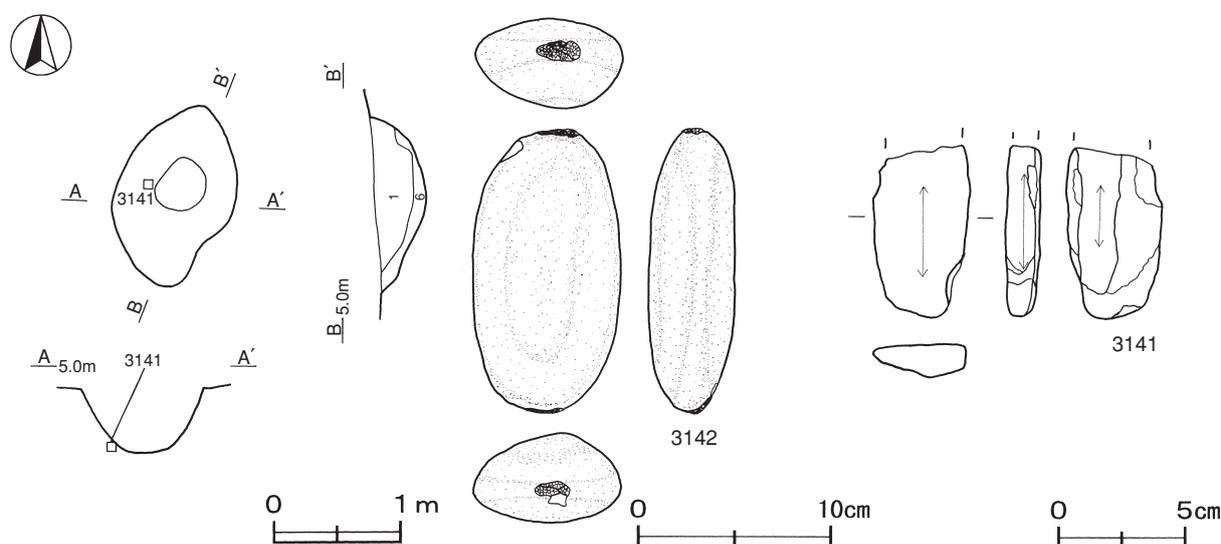
位置 調査区南部のG11g9区に位置している。

確認状況 表砂を約5.7m除去し、標高約4.8mから確認された。

規模と形状 長径1.5m、短径1.0mの楕円形で、深さは45cmである。長径方向はN-4°-Eである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。覆土は、第1層の砂A層が自然堆積、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 石器2点(砥石、敲石)が出土している。3141は底面、3142は覆土から出土し、埋め戻されたときに混入したものと考えられる。

所見 砂層を掘り込んで構築された土坑で、性格は不明である。遺構確認の第1次面から検出されていることから、16世紀前半と考えられる。



第110図 第30号土坑・出土遺物実測図

第30号土坑出土遺物観察表 (第110図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3141	砥石	(6.8)	3.8	1.4	(47.5)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	底面	
3142	敲石	15.1	7.8	4.5	809.0	砂岩	両端に敲打痕	覆土中	

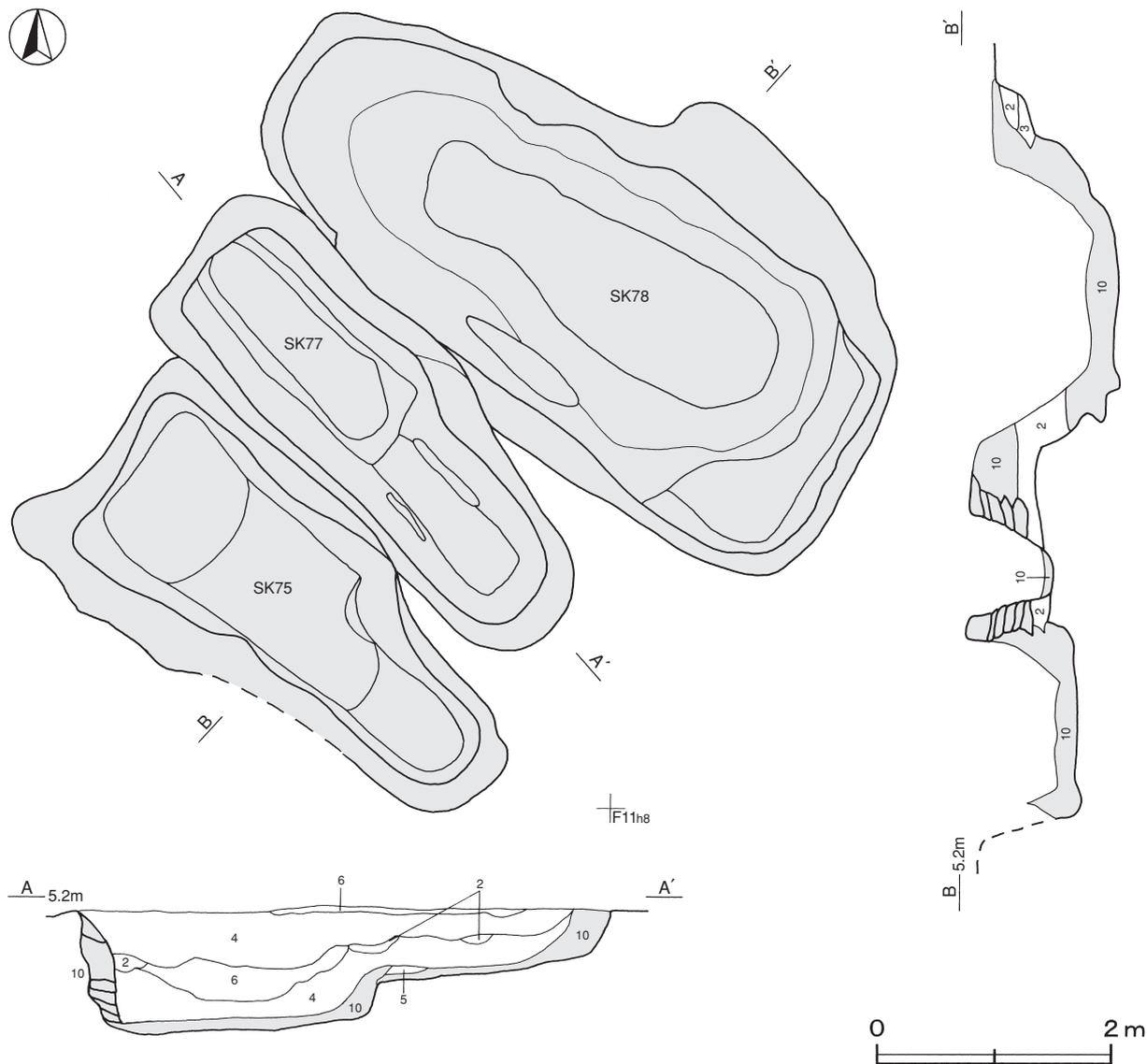
第77号土坑 9区SK-77 (第111・112図)

位置 調査区中央部のF11g7区を中心に位置している。

重複関係 第75・78号土坑を掘り込んでいる。

確認状況 表砂を約5.5m除去し、標高約5.0mから確認された。

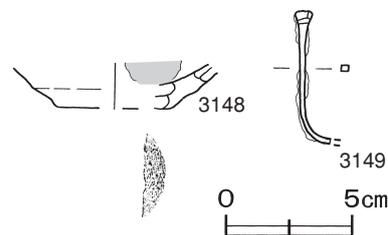
規模と形状 長軸4.4m、短軸1.7mの不整長方形で、深さは90cmである。長軸方向はN-47°-Wである。底面は平坦で、締まりは強いが壁面ほどではない。南東部は底面から約30cmで段をもち、その後、約1.0mの平坦な面をもって緩やかに立ち上がっている。北西部の壁はほぼ直立し、その両側の壁は外傾して立ち上がっている。南東部を除く壁は、砂とローム土を混ぜた暗褐色土で何層にも版築されている。覆土は、主に第4・6層の黒色土B・D層が人為堆積した層である。



第111図 第75・77・78号土坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)と鉄製品1点(不明)が出土している。3148は底面の暗褐色土内から、3149は覆土から出土している。

所見 第75・78号土坑を掘り込んでいることから、本跡が最も新しい。底面の南西側が一段高くなっていることから、出入り口部分と考えられる。第75号土坑と同様に、半地下的な倉庫か穴蔵の性格をもつ土坑である。時期は、遺構確認の第1次面から検出された第41・42号建物跡と同時期の16世紀前半と考えられる。



第112図 第77号土坑出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表 (第112図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3148	皿	土師質土器	-	(1.8)	[4.4]	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り 内面煤附着	底面暗褐色土内	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3149	釘	(5.2)	0.3	0.3	(3.0)	鉄	断面方形	先端部緩やかに湾曲	覆土中		

第1号土坑群（第113～115図）

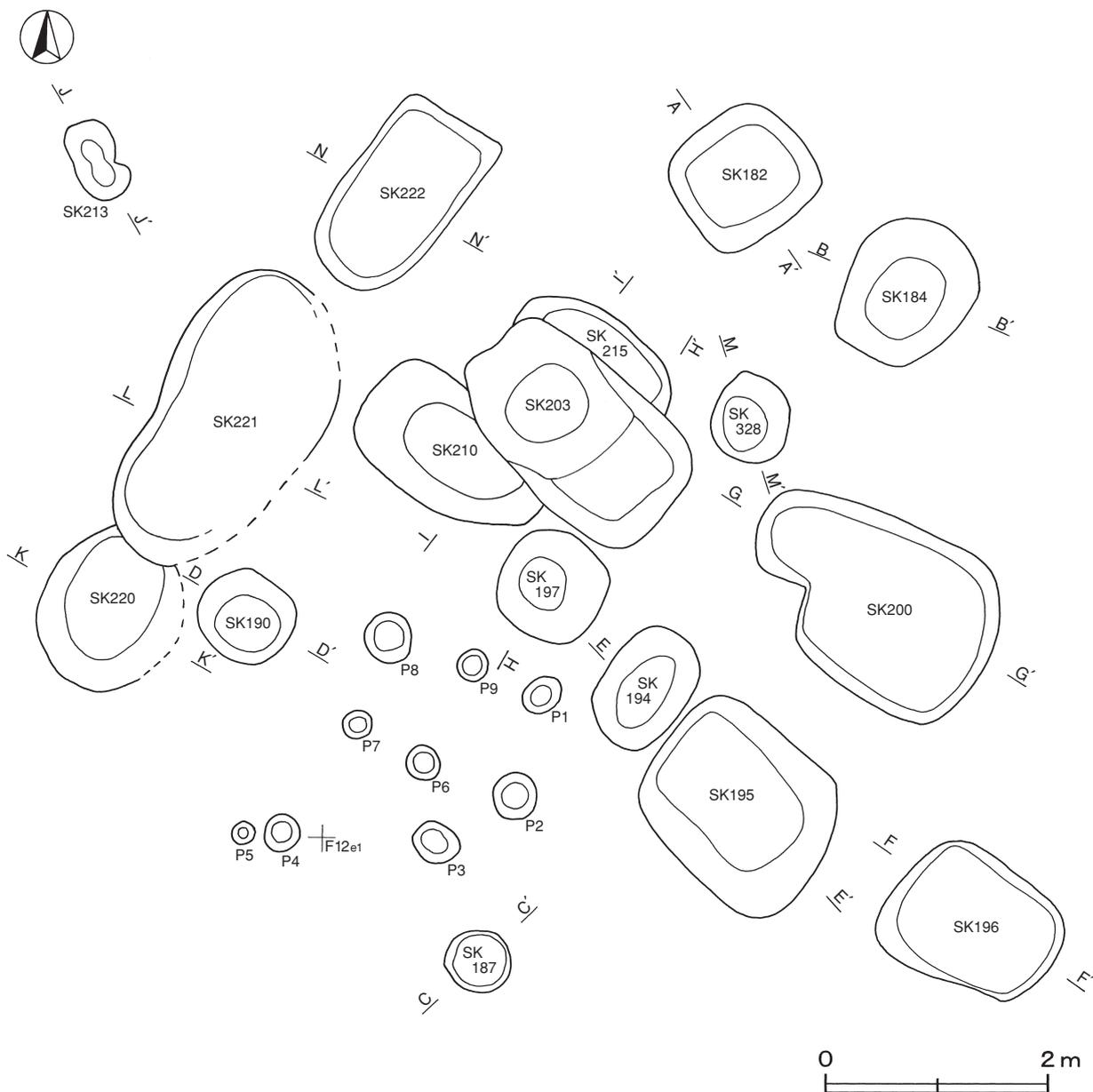
位置 調査区中央部のF11c0～F12e2区に位置している。

重複関係 第221号土坑は第220号土坑を、第203号土坑は第210・215号土坑を掘り込んでいる。

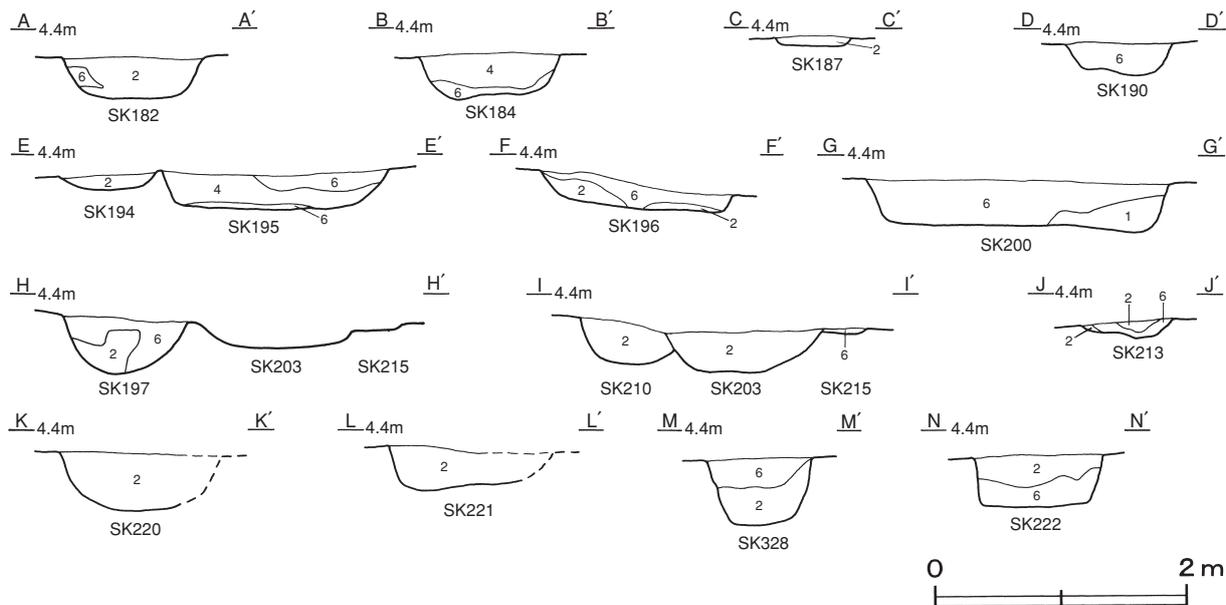
確認状況 第39号建物跡の黒色土を約0.9m除去した標高約4.2mで、土坑17基とピット9基が確認された。

規模と形状 南北8.2m、東西9.5mの範囲から、第182・184・187・190・194～197・200・203・210・213・215・220～222・328号土坑と南部に集中するピット9基が確認された。土坑は長軸（径）が0.6～2.9mの円形や楕円形及び長方形などで、深さは4～54cmである。配置に規則性は認められない。ピットは径（長径）が20～42cmの円形又は楕円形で、深さは15～51cmである。覆土は、第2層の砂B層が自然堆積、第4・6層の黒色土B・D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（鍋）、石器3点（砥石、火打石、石臼）が出土している。3158は第182号土坑の覆土、3160～3162は第196号土坑の覆土から出土している。



第113図 第1号土坑群実測図



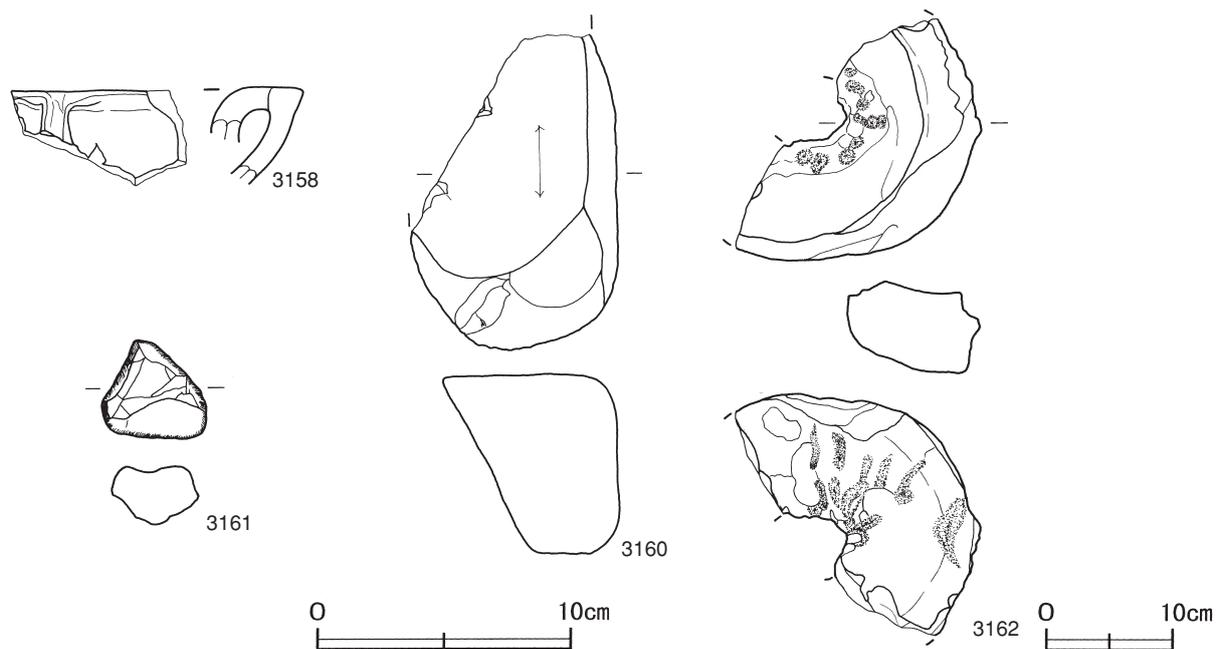
第114図 第1号土坑群土層図

第9区 第1号土坑群ピット集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	38	26	24	P4	32	30	16	P7	24	24	51
P2	40	38	48	P5	20	18	15	P8	42	40	19
P3	38	34	28	P6	30	30	26	P9	28	26	20

所見 ほぼ同じ標高で人骨を伴う土壙墓が確認されているが、人骨や副葬品とみられる遺物が出土していないことから土坑群と判断した。性格は不明である。16世紀前半の第39号建物跡から約0.9m下層の砂層から確認されていることから15世紀後半から16世紀初めの時期と考えられる。

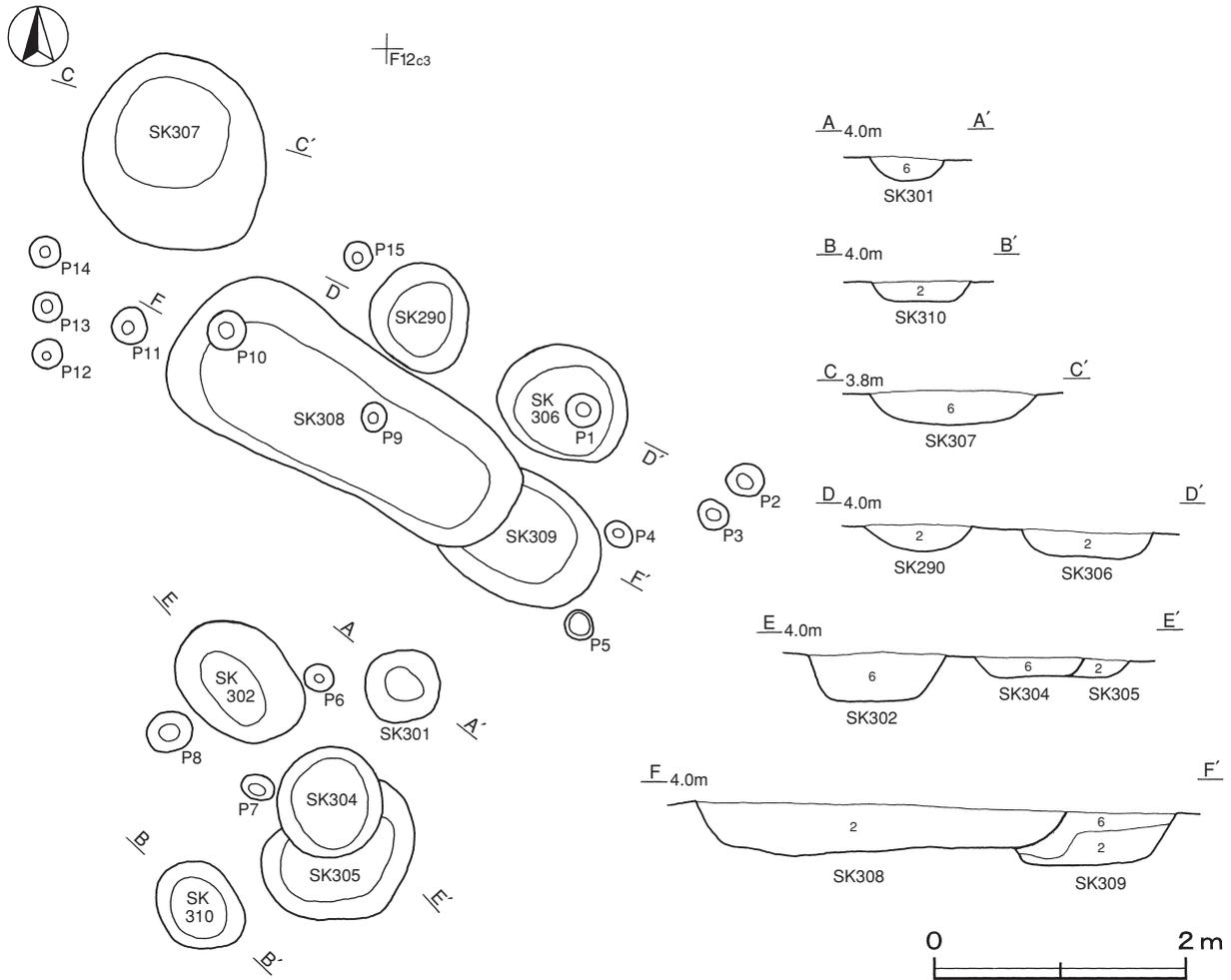


第115図 第1号土坑群出土遺物実測図

第1号土坑群出土遺物観察表 (第115図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3158	内耳鍋	土師質土器	-	(3.8)	-	長石・黒色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着	SK 182内	5%

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3160	砥石	(12.6)	(7.7)	7.2	(868.0)	砂岩	砥面1面 断面逆台形	SK 196内	
3161	火打石	4.0	4.2	2.4	40.5	瑪瑙	一部の稜が摩滅	SK 196内	
3162	石臼	[24.5]	7.4	-	(2320.0)	砂岩	下臼 すり合わせ部摩滅が激しい	SK 196内	PL88

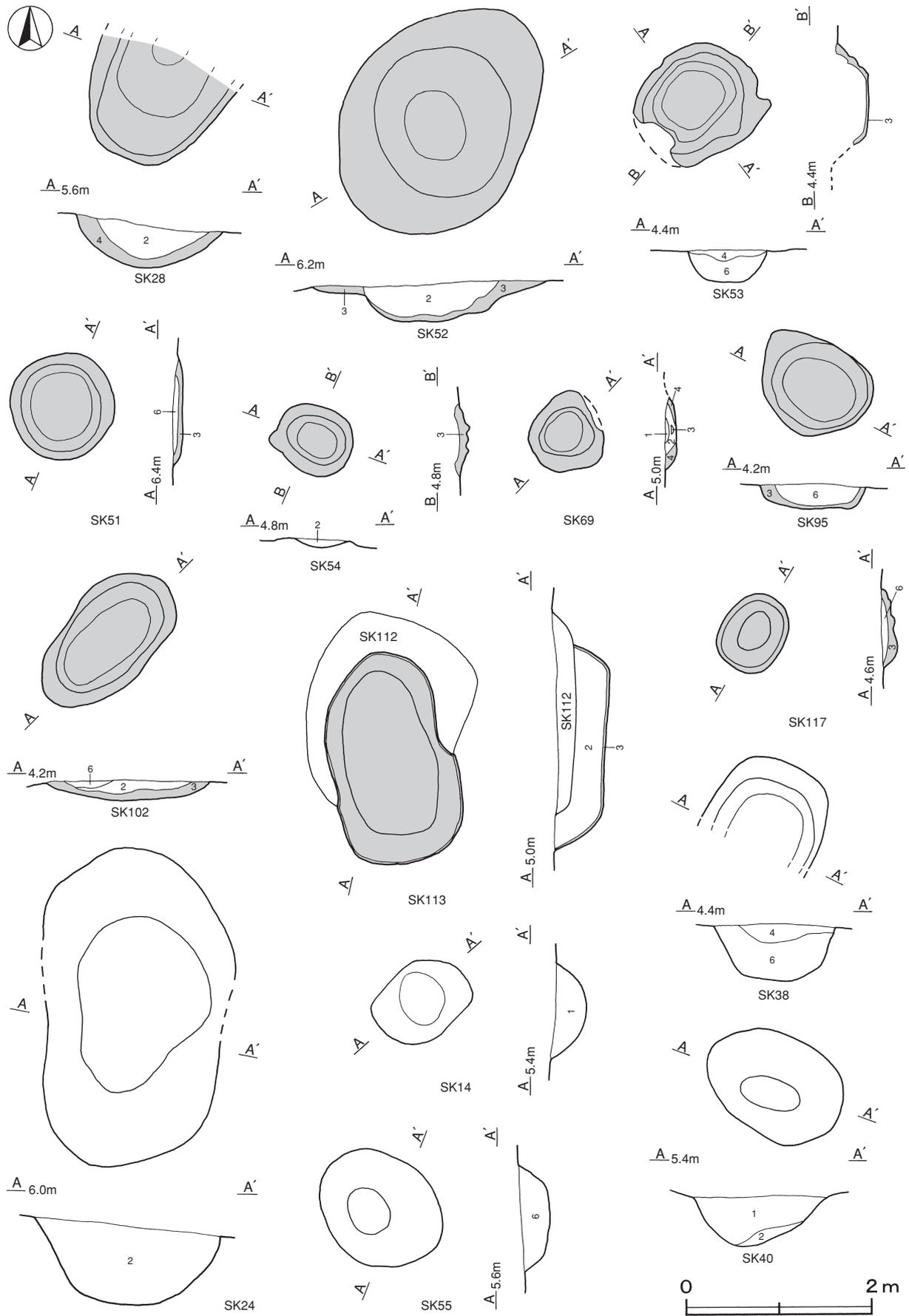


第116図 第2号土坑群実測図

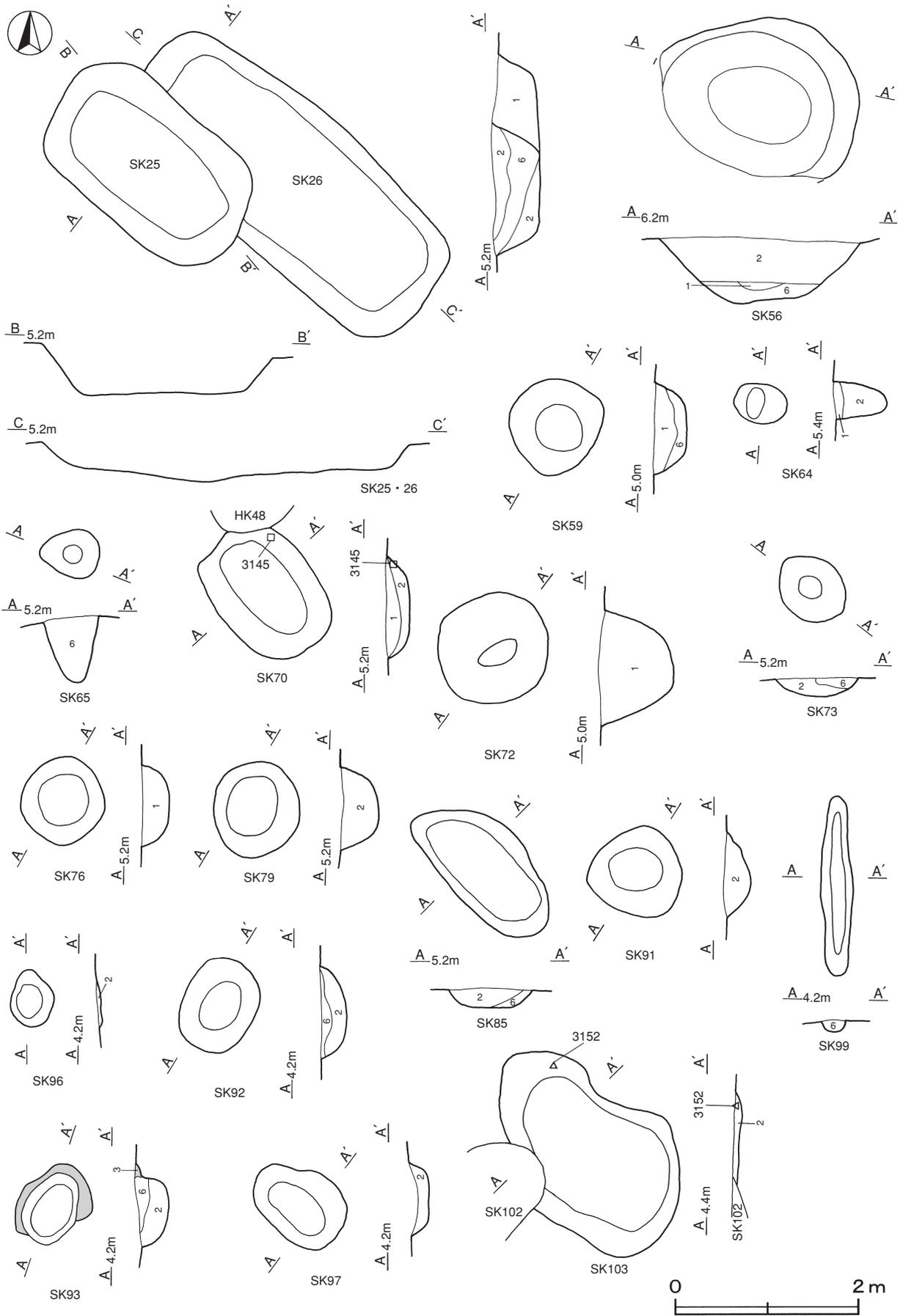
第9区 第2号土坑群ピット集計表

単位は cm

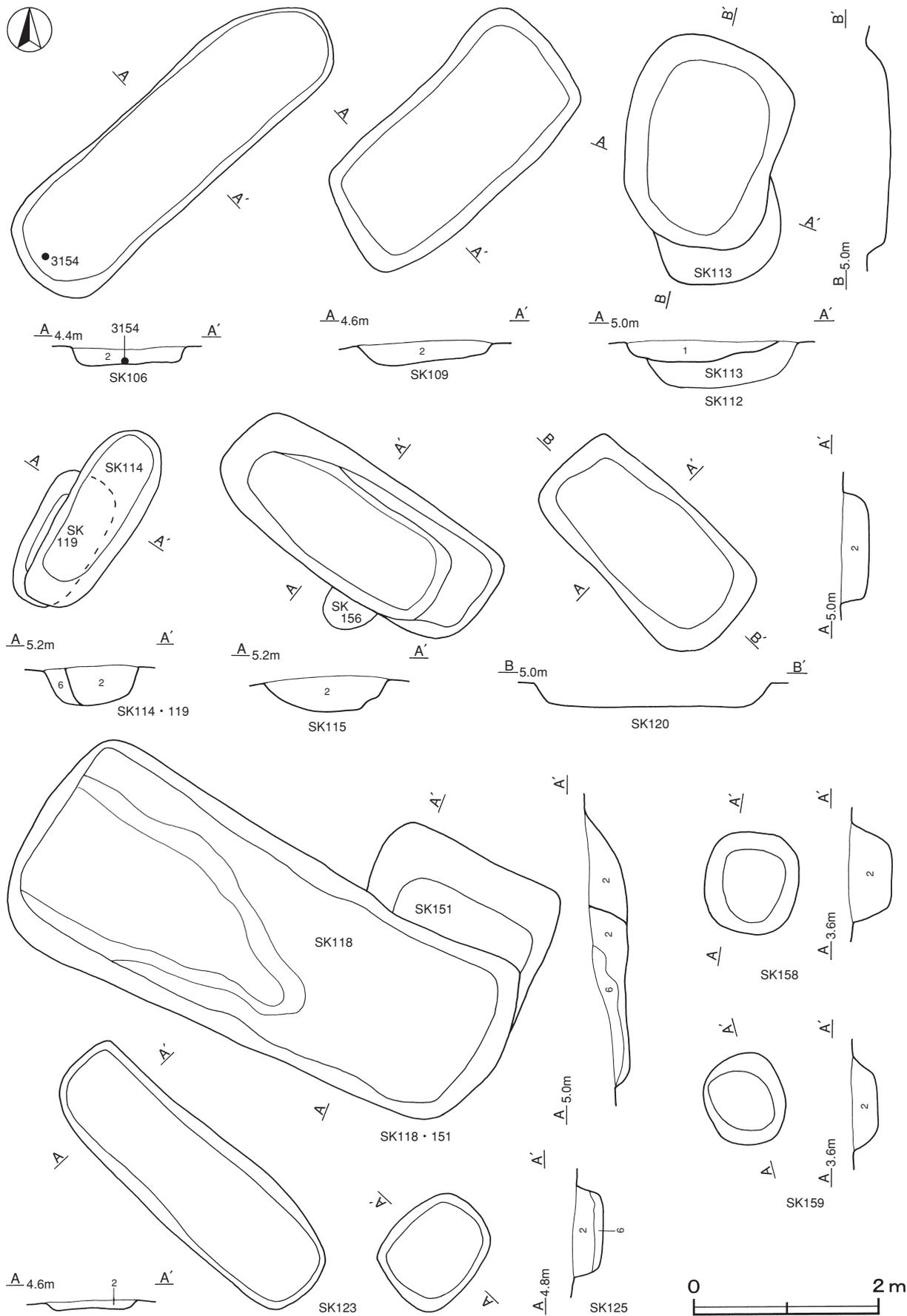
番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	24	24	44	P5	22	22	36	P9	20	18	40	P13	22	22	29
P2	30	26	45	P6	22	22	23	P10	28	28	46	P14	24	24	22
P3	24	20	14	P7	26	18	10	P11	30	28	28	P15	22	20	28
P4	22	18	34	P8	34	28	15	P12	24	22	53				



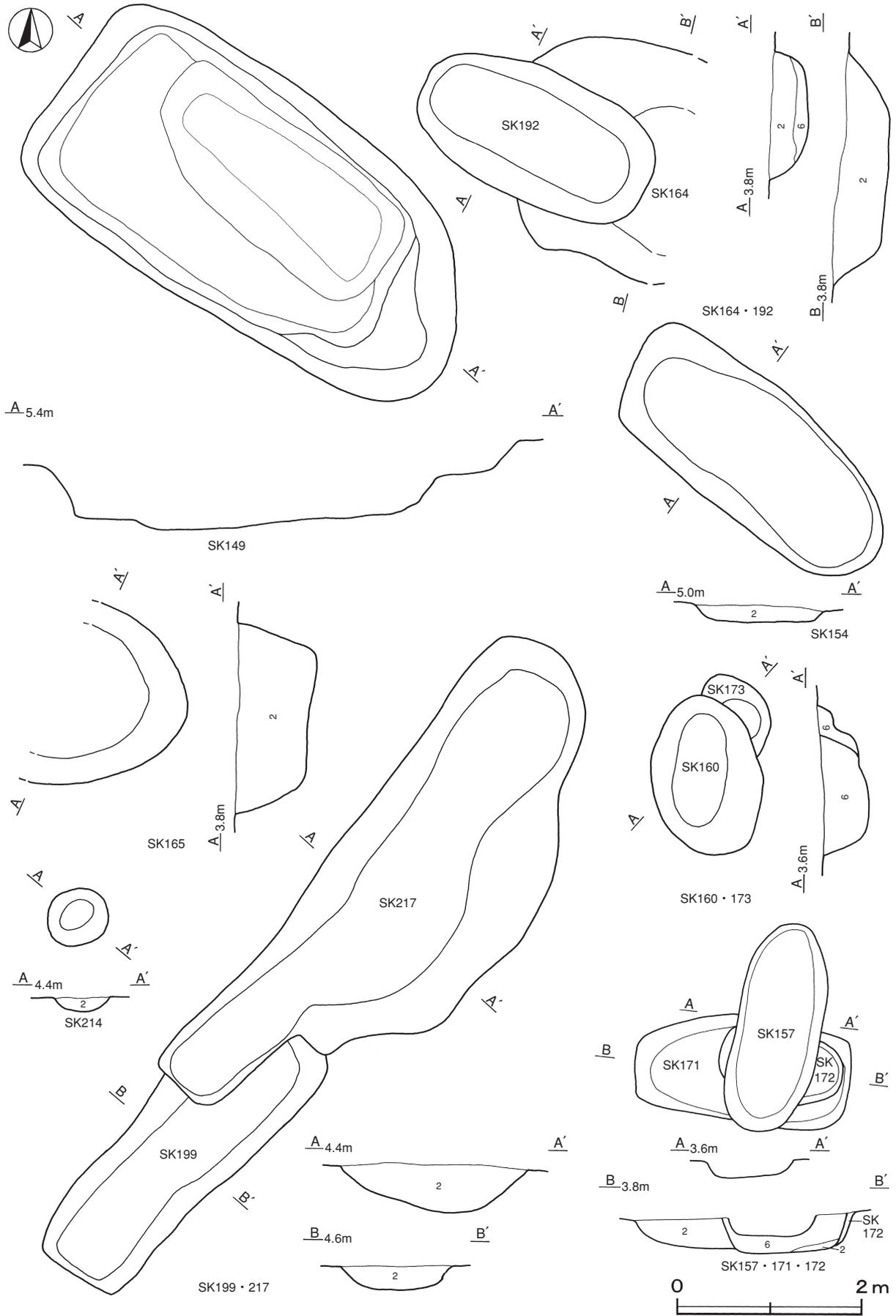
第117图 黑色土贴土坑·土坑实测图



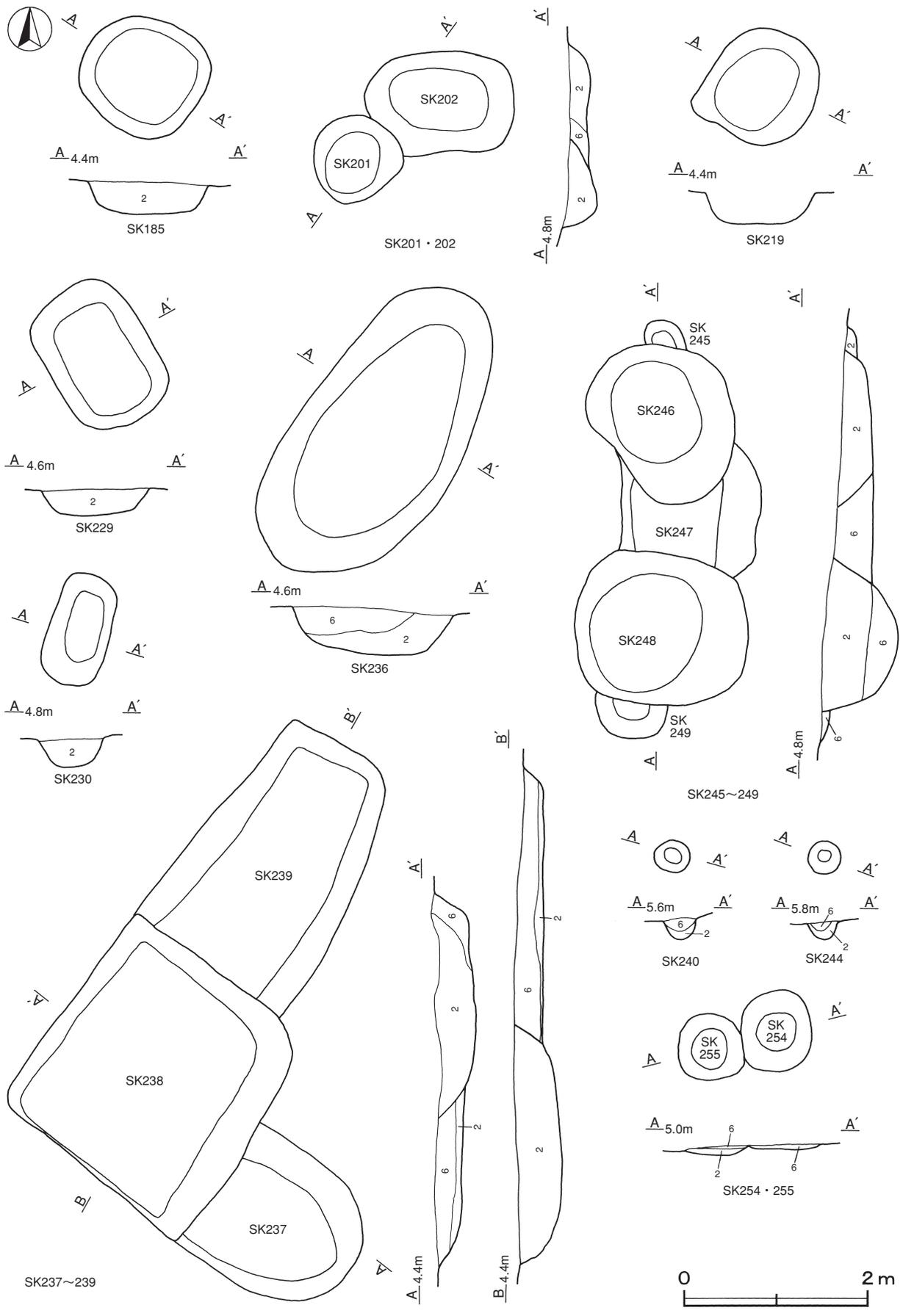
第118图 土坑实测图(1)



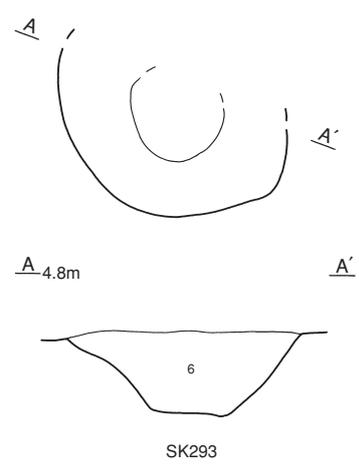
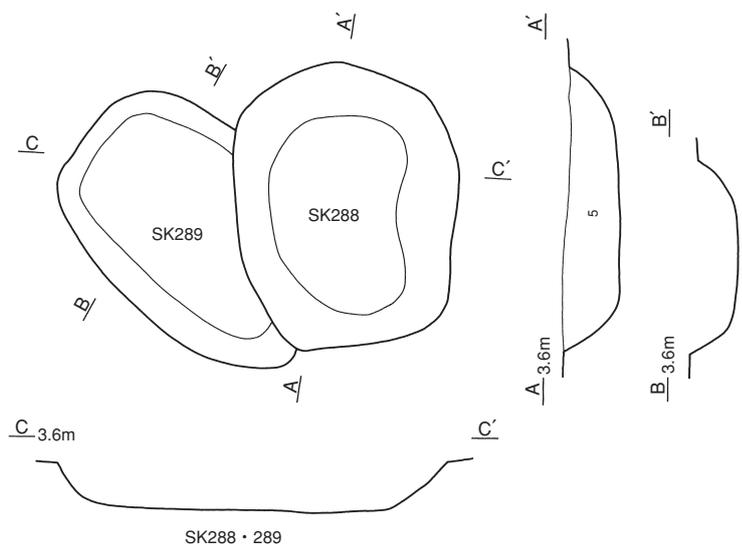
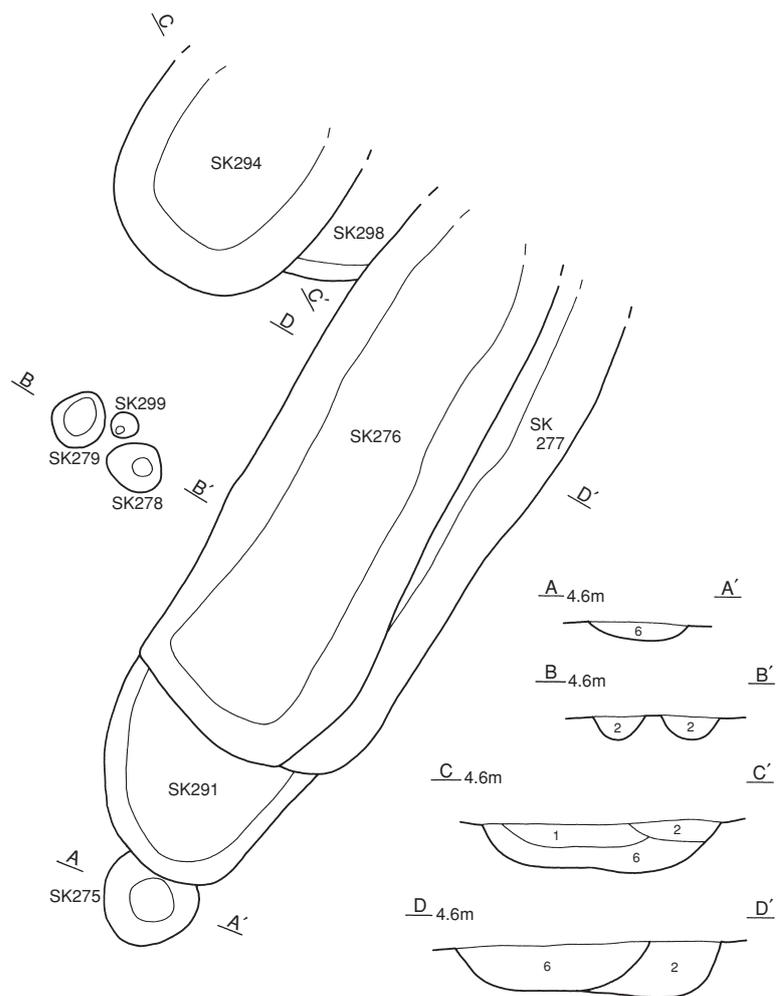
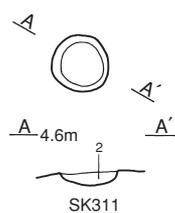
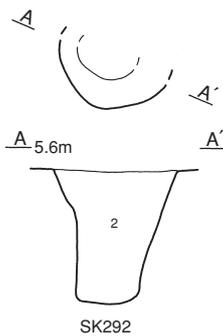
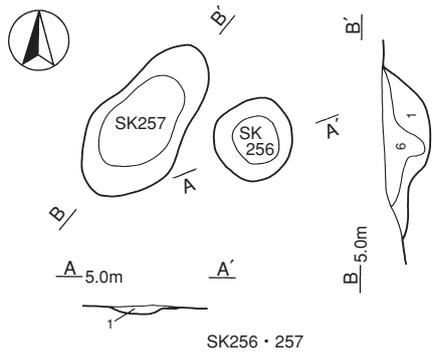
第119图 土坑实测图(2)



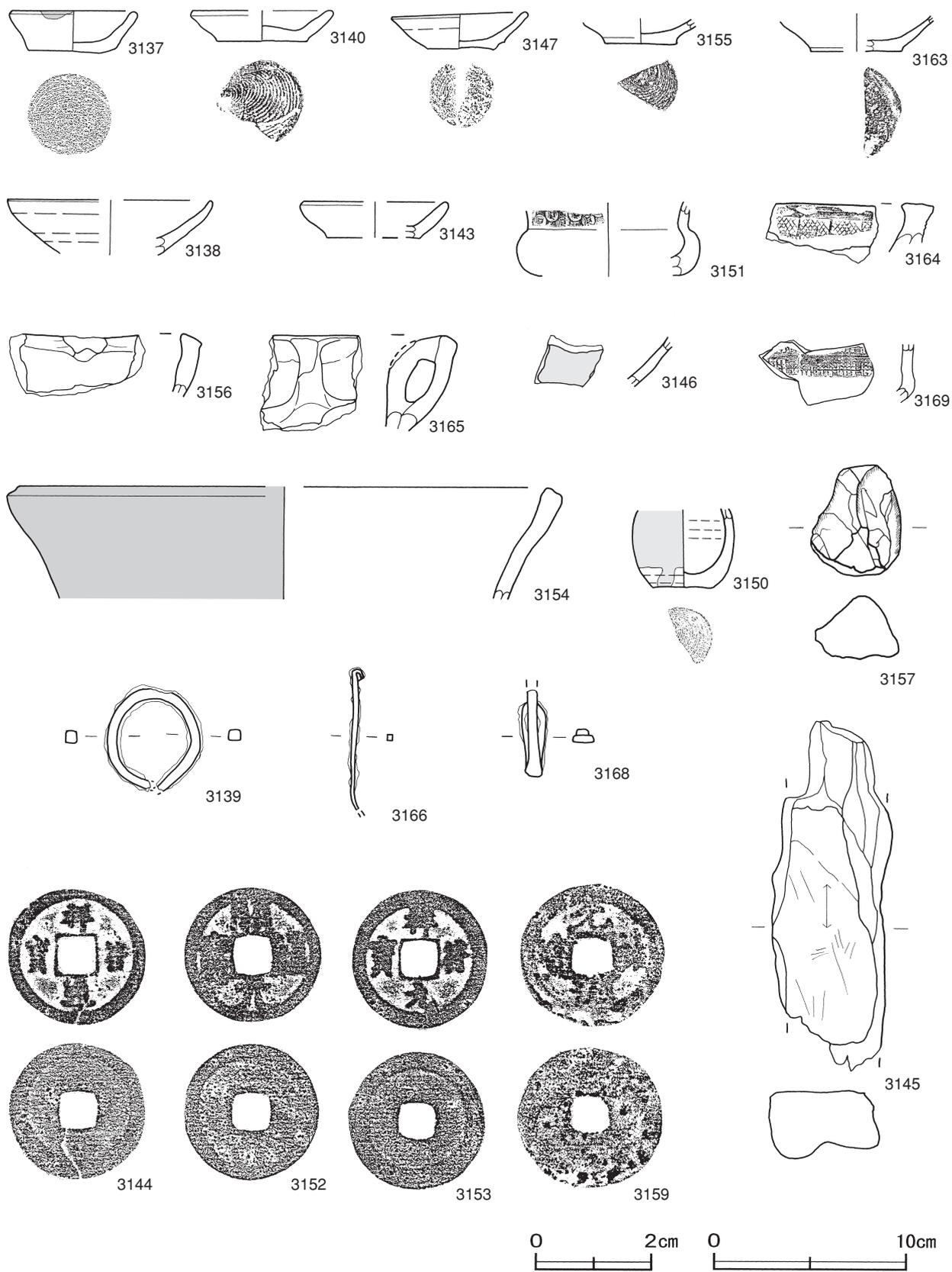
第120图 土坑实测图(3)



第121图 土坑实测图(4)



第122図 土坑実測図(5)



第123图 土坑出土遺物实测图

その他の土坑出土遺物観察表 (第123図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3137	小皿	土師質土器	6.4	2.2	4.5	長石・雲母	にぶい褐	普通	内底面横方向のナデ 口縁部油煙付着	SK24内	90% PL71
3143	小皿	土師質土器	[7.9]	1.9	[4.9]	雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	SK40内	10%
3147	小皿	土師質土器	7.0	2.0	3.2	長石・雲母	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	SK75内	70% PL71
3140	小皿	土師質土器	[7.2]	1.1	[4.6]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	SK26内	20%
3138	皿	土師質土器	[10.7]	(2.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内・外面口クロナデ	SK24内	5%
3155	皿	土師質土器	-	(0.9)	[3.8]	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	SK109内	10%
3163	皿	土師質土器	-	(1.6)	[4.7]	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内底面横ナデ	SK199内	10%
3151	袴腰香炉	土師質土器	-	(3.9)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部外面スタンプ文(梵字文) 内・外面磨き	SK92内	10% PL80
3169	香炉	土師質土器	-	(3.0)	-	砂粒	にぶい黄橙	普通	体部外面スタンプ文(格子目文)	SK118内	10%
3154	内耳鍋	土師質土器	[28.8]	(5.9)	-	長石・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着	SK106内	5%
3156	内耳鍋	土師質土器	-	(3.3)	-	雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 外面一部煤付着	SK109内	5%
3165	内耳鍋	土師質土器	-	(5.0)	-	長石	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 耳は楕円形	SK200内	5%
3164	火鉢カ	土師質土器	-	(2.5)	-	雲母	橙	普通	口縁部外面スタンプ文(格子目文)	SK199内	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3146	皿	陶器	-	(2.8)	-	灰・灰白	灰釉	内外面施釉	瀬戸・美濃産	SK72内	5%
3150	茶入カ	陶器	-	(4.1)	3.2	灰・黒	鉄釉	釉は漬け掛け	瀬戸・美濃産 16C前半	SK78内	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3145	砥石	(18.5)	6.1	3.4	(442.0)	粘板岩	砥面1面 他は剥離面	SK70内	
3157	火打石	5.9	4.7	3.3	97.8	石英	一部の稜が摩滅	SK109内	
3166	釘	(7.4)	0.3	0.3	(5.4)	鉄	断面方形 先端部欠損	SK217内	
3168	釘カ	(4.6)	1.2	0.7	(8.7)	鉄	断面長方形 二折に屈曲	SK306内	
3139	不明鉄製品	(5.3)	4.9	0.6	(25.4)	鉄	断面方形 環状に湾曲	SK24内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3144	祥符元寶	2.41	0.78	0.10	3.16	1008	銅	真書	SK40内	
3152	開元通寶	2.37	0.60	0.10	2.33	621	銅	真書	SK103内	
3153	祥符元寶	2.41	0.64	0.10	3.54	1008	銅	真書	SK103内	
3159	元祐通寶	2.56	0.65	0.12	(3.58)	1086	銅	行書 鏽付着	SK192内	

表15 9区黒色土貼土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	深さ(cm)							
1	SK 28	G11e7	5.4	N-61°-W	1.5	(1.1)	45	[楕円形]	9~16	-	緩斜	皿状		
2	SK 51	G12c3	6.2	-	1.1	1.1	4	円形	8~12	-	緩斜	平坦		
3	SK 52	G12b3	6.0	N-40°-E	2.7	2.0	35	楕円形	5~15	-	緩斜	皿状		
4	SK 53	E12f3	4.1	N-44°-E	1.3	1.2	40	不整形	2~5	-	緩斜	平坦		
5	SK 54	F12b2	4.6	N-69°-W	0.8	0.7	5	楕円形	5	-	緩斜	皿状		
6	SK 69	F11j8	4.9	N-10°-E	0.9	0.8	12	不定形	3~8	-	緩斜	平坦	SK85→本跡	
7	SK 75	F11g7	5.0	N-47°-W	4.3	2.0	92	不整形長方形	暗褐色土6~25	外傾・直立	平坦	土師質土器(小皿)	本跡→SK77	
8	SK 77	F11g7	5.0	N-47°-W	4.4	1.7	90	不整形長方形	暗褐色土10~24	外傾・直立	平坦	土師質土器(皿)釘	SK75・78→SN26→本跡	
9	SK 78	F11f7	5.0	N-52°-W	5.9	2.5	90	不整形長方形	暗褐色土10~30	緩斜・外傾	平坦	茶入カ		
10	SK 95	E12f3	4.0	N-59°-W	1.2	1.0	24	楕円形	3~18	-	緩斜	平坦		
11	SK102	E12j1	4.1	N-45°-E	1.8	1.0	14	楕円形	5~10	-	緩斜	皿状	本跡→SK103	
12	SK113	F11h0	4.8	N-11°-W	2.3	1.3	50	楕円形	1	-	緩斜	平坦	本跡→SK112	
13	SK117	G11b9	4.5	N-34°-E	0.9	0.7	6	楕円形	5~10	-	緩斜	皿状		

表16 9区土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SK 14	F 11e9	5.2	N-44°-E	1.0	0.7	32	長方形	-	-	緩斜	皿状		
2	SK 22	F 12i3	6.0	N-55°-W	2.0	(1.3)	64	[隅丸長方形]	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿) 銅 古銭	
3	SK 24	F 12i2	5.6	N-58°-W	3.5	2.5	89	不定形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(小皿、皿) 不明鉄製品	
4	SK 25	F 11i7	5.1	N-57°-W	2.4	1.4	50	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		SK 26→本跡
5	SK 26	F 11i7	5.1	N-50°-W	3.9	1.6	37	長方形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿)	本跡→SK 25
6	SK 30	G 11g9	4.8	N-4°-E	1.5	1.0	45	楕円形	-	-	緩斜	皿状	砥石 敲石	
7	SK 38	E 12h4	4.3	N-23°-E	1.3	(0.9)	61	[長方形]	-	-	外傾	平坦		
8	SK 40	F 11i8	5.2	N-57°-W	1.6	1.1	52	楕円形	-	-	緩斜	皿状	土師質土器(小皿) 古銭	
9	SK 55	G 12c2	5.4	N-59°-W	1.5	1.2	42	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
10	SK 56	G 12b2	6.0	N-75°-W	2.3	1.9	74	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
11	SK 59	F 11e8	4.8	-	1.0	1.0	35	円形	-	-	緩斜	平坦		
12	SK 64	G 11a9	5.2	N-78°-W	0.6	0.4	58	楕円形	-	-	外傾	皿状		
13	SK 65	G 11b9	5.2	N-90°-W	0.7	0.5	73	楕円形	-	-	外傾	皿状		
14	SK 70	F 11j8	4.8	N-38°-W	1.5	1.1	24	楕円形	-	-	緩斜	平坦	砥石	SI51→本跡
15	SK 72	F 11e8	4.8	-	1.3	1.2	80	円形	-	-	外傾	皿状	陶器(皿)	
16	SK 73	F 11f6	5.0	N-45°-W	0.9	0.7	20	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
17	SK 76	F 11f6	5.0	-	1.0	0.9	30	円形	-	-	緩斜	平坦		
18	SK 79	F 11g6	5.1	-	1.0	1.0	44	円形	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK 77
19	SK 85	G 11a8	4.8	N-45°-W	1.8	0.9	19	不整楕円形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK 69
20	SK 91	F 11h6	5.1	-	1.0	1.0	27	円形	-	-	緩斜	皿状		
21	SK 92	E 12e4	3.9	N-26°-E	1.0	0.8	27	楕円形	-	-	緩斜	皿状	土師質土器(袴腰香炉)	
22	SK 93	E 12f4	3.9	N-27°-E	0.9	0.8	34	不整楕円形	-	-	緩斜	皿状		
23	SK 96	E 12f3	4.0	N-5°-W	0.6	0.5	5	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
24	SK 97	E 12g3	4.0	N-47°-W	1.1	0.8	21	不整楕円形	-	-	緩斜	平坦		
25	SK 99	E 12f2	4.0	N-2°-W	2.0	0.4	7	楕円形	-	-	外傾	皿状		
26	SK 103	E 12j2	4.1	N-48°-W	2.5	1.6	5	不整楕円形	-	-	緩斜	皿状	古銭	SK 102→本跡
27	SK 106	F 12a1	4.3	N-46°-E	4.2	1.2	17	楕円形	-	-	外傾	平坦	土師質土器(内耳鍋)	
28	SK 109	F 12b3	4.4	N-47°-E	3.0	1.4	23	長方形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿、内耳鍋) 火打石	
29	SK 112	F 11g5	4.8	N-20°-E	2.2	1.7	25	隅丸長方形	-	-	緩斜	凸凹		SK 113→本跡
30	SK 114	F 11j9	5.0	N-32°-E	2.2	0.8	40	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK 119→本跡
31	SK 115	F 11j0	5.0	N-55°-W	3.2	1.3	35	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		SK 116→本跡
32	SK 118	G 11b9	4.7	N-60°-W	5.6	2.1	40	長方形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(香炉)	SK 151→本跡
33	SK 119	F 11j9	4.9	N-31°-E	[1.5]	[0.7]	35	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK 114
34	SK 120	F 11i0	4.9	N-45°-W	2.5	1.2	26	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		
35	SK 123	F 12b3	4.4	N-44°-W	3.5	1.1	10	長方形	-	-	緩斜	平坦		SK 124→本跡
36	SK 125	F 12c3	4.5	N-47°-E	1.2	1.0	32	楕円形	-	-	外傾	平坦		
37	SK 149	G 11f9	4.8	N-55°-W	5.1	2.7	98	長方形	-	-	緩斜	平坦		
38	SK 151	G 11b9	4.8	N-61°-W	2.0	(1.0)	42	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK 118
39	SK 154	G 12a0	4.8	N-54°-W	3.5	1.4	18	楕円形	-	-	緩斜	凸凹		
40	SK 157	E 12g2	3.5	N-13°-E	2.3	0.9	20	楕円形	-	-	緩斜	平坦		SK 171・172→本跡
41	SK 158	E 12f2	3.4	-	1.1	1.0	45	隅丸方形	-	-	緩斜	平坦		
42	SK 159	E 12e3	3.4	N-26°-W	1.0	0.9	30	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
43	SK 160	E 12e3	3.4	N-4°-W	1.7	1.2	55	楕円形	-	-	緩斜・外傾	平坦		SK 173→本跡
44	SK 164	E 12h1	3.7	N-21°-E	2.5	(1.7)	62	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK 192
45	SK 165	E 12i3	3.7	N-20°-E	2.1	(1.3)	84	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		
46	SK 169	G 12e2	4.8	N-84°-W	4.6	1.5	16	不定形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK 170・Pg2
47	SK 170	G 12e1	4.8	N-62°-W	2.5	(0.9)	23	[長方形]	-	-	緩斜	凸凹		SK 169→本跡→Pg2
48	SK 171	E 12g2	3.5	N-88°-W	2.3	1.1	45	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK 172
49	SK 172	E 12g2	3.5	N-79°-W	[1.4]	[0.8]	45	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		SK 171→本跡→SK 157
50	SK 173	E 12e3	3.5	N-26°-W	1.0	(0.4)	47	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK 160
51	SK 182	F 12c1	4.2	-	1.2	1.1	33	方形	-	-	外傾	平坦	土師質土器(内耳鍋)	
52	SK 184	F 12c2	4.2	N-36°-E	1.4	1.1	37	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
53	SK 185	F 12d3	4.2	-	1.3	1.3	36	円形	-	-	外傾	平坦		
54	SK 187	F 12e1	4.3	-	0.6	0.6	8	円形	-	-	外傾	平坦		
55	SK 190	F 11d0	4.3	N-49°-W	0.9	0.8	28	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
56	SK 192	E 12h1	3.6	N-62°-W	2.7	1.4	40	楕円形	-	-	緩斜	皿状	古銭	SK 164→本跡
57	SK 194	F 12d1	4.2	N-37°-E	1.1	0.8	15	楕円形	-	-	緩斜	平坦		

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
58	SK195	F12d1	4.2	N-48°-W	1.8	1.5	29	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		
59	SK196	F12e2	4.3	N-56°-W	1.5	1.3	35	長方形	-	-	緩斜	平坦	砥石 石白 火打石	
60	SK197	F12d1	4.2	-	1.0	1.0	45	円形	-	-	緩斜	皿状		
61	SK199	G11d9	4.3	N-42°-E	3.7	1.2	24	不整長方形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿,火鉢カ)	本跡→SK217
62	SK200	F12d2	4.2	N-52°-W	2.5	1.6	35	不定形	-	-	外傾	平坦	土師質土器(内耳鍋)	
63	SK201	G11h6	4.6	N-29°-E	1.0	0.9	38	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK202→本跡
64	SK202	G11h7	4.6	N-88°-W	1.6	1.1	22	楕円形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK201
65	SK203	F12d1	4.1	N-45°-W	2.1	1.2	32	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		SK210・215→本跡
66	SK204	G11d7	4.2	N-61°-W	3.5	1.5	16	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
67	SK206	G11d6	4.3	N-68°-W	[0.6]	0.4	5	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		
68	SK208	G11d6	4.2	N-27°-E	[0.9]	0.4	43	[楕円形]	-	-	外傾	皿状		
69	SK210	F12d1	4.2	N-53°-W	1.8	1.1	38	不整長方形	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK203
70	SK211	G11d8	4.2	N-37°-E	1.3	1.0	78	楕円形	-	-	外傾	平坦		
71	SK213	F11c0	4.2	N-60°-W	0.8	0.4	14	不整楕円形	-	-	緩斜	凸凹		
72	SK214	G11c8	4.3	-	0.7	0.6	14	円形	-	-	緩斜	皿状		
73	SK215	F12c1	4.3	N-43°-W	(1.6)	(0.3)	4	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK210
74	SK217	G11c9	4.2	N-39°-E	6.3	2.2	28	不定形	-	-	緩斜	皿状	釘	SK199→本跡
75	SK219	F11c0	4.2	-	1.1	1.1	38	円形	-	-	緩斜	平坦		第141号土壌→本跡
76	SK220	F11d0	4.2	N-36°-E	(1.3)	1.3	47	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK221
77	SK221	F11d0	4.3	N-29°-E	2.9	1.5	36	楕円形	-	-	外傾	平坦		SK220→本跡
78	SK222	F12c1	4.2	N-34°-E	1.8	1.5	43	長方形	-	-	外傾	平坦		
79	SK229	G11f7	4.4	N-30°-W	1.6	1.1	30	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		
80	SK230	G11h7	4.5	N-17°-E	1.2	0.7	33	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		
81	SK236	G11f7	4.4	N-34°-E	3.5	1.8	50	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
82	SK237	G11e9	4.2	N-58°-W	(1.7)	1.6	25	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		
83	SK238	G11e8	4.3	-	2.5	2.5	45	方形	-	-	緩斜	平坦		SK237・239→本跡
84	SK239	G11d9	4.3	N-32°-E	(2.8)	1.9	29	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK238
85	SK240	H12a1	5.5	-	0.4	0.4	25	円形	-	-	緩斜	皿状		
86	SK244	H12a2	5.7	-	0.4	0.4	20	円形	-	-	緩斜	皿状		
87	SK245	G11f8	4.3	N-18°-W	0.4	(0.3)	14	[楕円形]	-	-	緩斜	皿状		
88	SK246	G11f8	4.4	N-16°-W	1.8	1.5	38	楕円形	-	-	外傾	平坦		SK247→本跡
89	SK247	G11f8	4.5	-	1.5	[1.5]	43	[方形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK246・248
90	SK248	G11g8	4.6	N-79°-W	1.9	1.5	81	楕円形	-	-	外傾	皿状		SK247→本跡
91	SK249	G11g8	4.6	N-82°-W	0.8	[0.6]	51	[楕円形]	-	-	外傾	皿状		
92	SK250	G11c9	4.2	N-33°-E	1.9	1.3	18	長方形	-	-	外傾	平坦	古銭	
93	SK252	G11b7	4.2	N-68°-W	4.5	1.3	14	長方形	-	-	緩斜	平坦		本跡→Pg3
94	SK254	G12f2	4.8	N-0°	0.9	0.8	4	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
95	SK255	G12f2	4.8	-	0.7	0.7	10	円形	-	-	緩斜	平坦		
96	SK256	G12f1	4.7	-	0.6	0.6	6	円形	-	-	緩斜	平坦		
97	SK257	G12f2	4.9	N-39°-E	1.4	0.8	45	不整楕円形	-	-	緩斜	平坦		
98	SK260	F11h0	4.6	N-38°-E	1.8	1.1	10	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
99	SK261	G11b7	4.3	N-36°-E	1.5	1.0	10	楕円形	-	-	緩斜	皿状		本跡→Pg3
100	SK262	G11b8	4.4	N-57°-W	5.9	1.6	18	長方形	-	-	外傾	平坦		
101	SK265	G11d7	4.2	N-43°-W	(1.2)	0.8	20	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		第149号土壌→本跡
102	SK275	G11h8	4.4	-	0.8	0.8	15	円形	-	-	緩斜	皿状		SK291→本跡
103	SK276	G11h8	4.4	N-29°-E	(4.5)	1.6	40	[隅丸長方形]	-	-	緩斜	平坦		SK277→本跡
104	SK277	G11h8	4.4	N-31°-E	(4.5)	[1.6]	53	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		SK291・298→本跡→SK276
105	SK278	G11h8	4.3	N-45°-W	0.5	0.4	20	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
106	SK279	G11g8	4.3	N-30°-E	0.5	0.4	17	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
107	SK288	E12j3	3.4	N-12°-W	2.3	1.8	45	楕円形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK289
108	SK289	E12j3	3.4	N-49°-W	(2.4)	1.5	38	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		SK288→本跡
109	SK290	F13c3	3.8	N-7°-W	0.9	0.8	20	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
110	SK291	G11h8	4.4	N-31°-E	[3.0]	1.6	20	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK275・277
111	SK292	G12h2	5.4	-	0.9	(0.7)	105	[円形]	-	-	外傾	平坦		
112	SK293	G11g8	4.3	N-58°-W	2.0	(1.0)	66	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		
113	SK294	G11g8	4.3	N-31°-E	1.7	(1.5)	43	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		SK298→本跡
114	SK298	G11g8	4.3	-	(1.0)	(0.5)	-	不明	-	-	-	[平坦]		本跡→SK277・294
115	SK299	G11h8	4.3	-	0.2	0.2	-	円形	-	-	[緩斜]	[皿状]		

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
116	SK301	F12d3	3.8	-	0.6	0.6	16	円形	-	-	緩斜	皿状		
117	SK302	F12d2	3.8	N-51°-W	1.1	0.8	39	楕円形	-	-	外傾	平坦		
118	SK304	F12d2	3.8	-	0.9	0.8	17	円形	-	-	緩斜	平坦		SK305→本跡
119	SK305	F12d2	3.8	N-51°-E	1.3	[1.0]	14	[不整楕円形]	-	-	緩斜	平坦		SK316→本跡→SK306
120	SK306	F12c3	3.8	N-66°-W	1.1	0.9	22	楕円形	-	-	緩斜	平坦	釘カ	SK群2P1→本跡
121	SK307	F12c2	3.7	-	1.6	1.5	27	円形	-	-	緩斜	平坦		
122	SK308	F12c2	3.8	N-57°-W	3.0	1.3	44	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		SK309・SK群2P9・10→本跡
123	SK309	F12c3	3.7	N-57°-W	1.3	1.0	43	楕円形	-	-	外傾	平坦		本跡→SK308
124	SK310	F12d2	3.8	N-47°-W	0.8	0.6	18	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
125	SK311	G11j9	4.3	-	0.5	0.5	12	円形	-	-	緩斜	皿状		
126	SK328	F12d1	4.2	N-8°-W	0.9	0.7	54	楕円形	-	-	外傾	平坦		

(8) 貝集積地

ここでは、遺構に伴わない貝集積地1か所について、その概要を記述する。

第52号貝集積地 9区SM-5

位置 調査区南部のG11c9区で、標高5.2mに位置している。

確認状況 第217号土坑の調査中に、土坑の底面で貝が確認された。

規模と形状 径0.3mの円形である。貝層の厚さは薄く、図示できなかった。

所見 第217号土坑の底面に、同一貝種の貝殻がまとまった状態で検出されたことから、貝は投棄されたものと判断し貝集積地とした。貝種はマツカサガイのみである。右殻左殻の数がほぼ同じであることから、マツカサガイは食されたものと推測される。

第52号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	マツカサガイ	70.0	51.85	L=37 R=39	淡水
2	マツカサガイ細片	65.0	48.15		

(9) ピット群

黒色土を取り除いた後の中央部と南部から、建物跡や整地面に伴わないピット群4か所が確認された。

ここでは、1か所について取り上げ、それ以外は実測図と一覧表で掲載する。また、同じ標高でピット群の区域内にある土坑については、この項で報告する。ただし、土坑の計測値は(7)の土坑一覧表に記載する。

第2号ピット群 9区Pg-2 (第124・125図)

位置 調査区南部のG11a7～G12e2区に位置している。

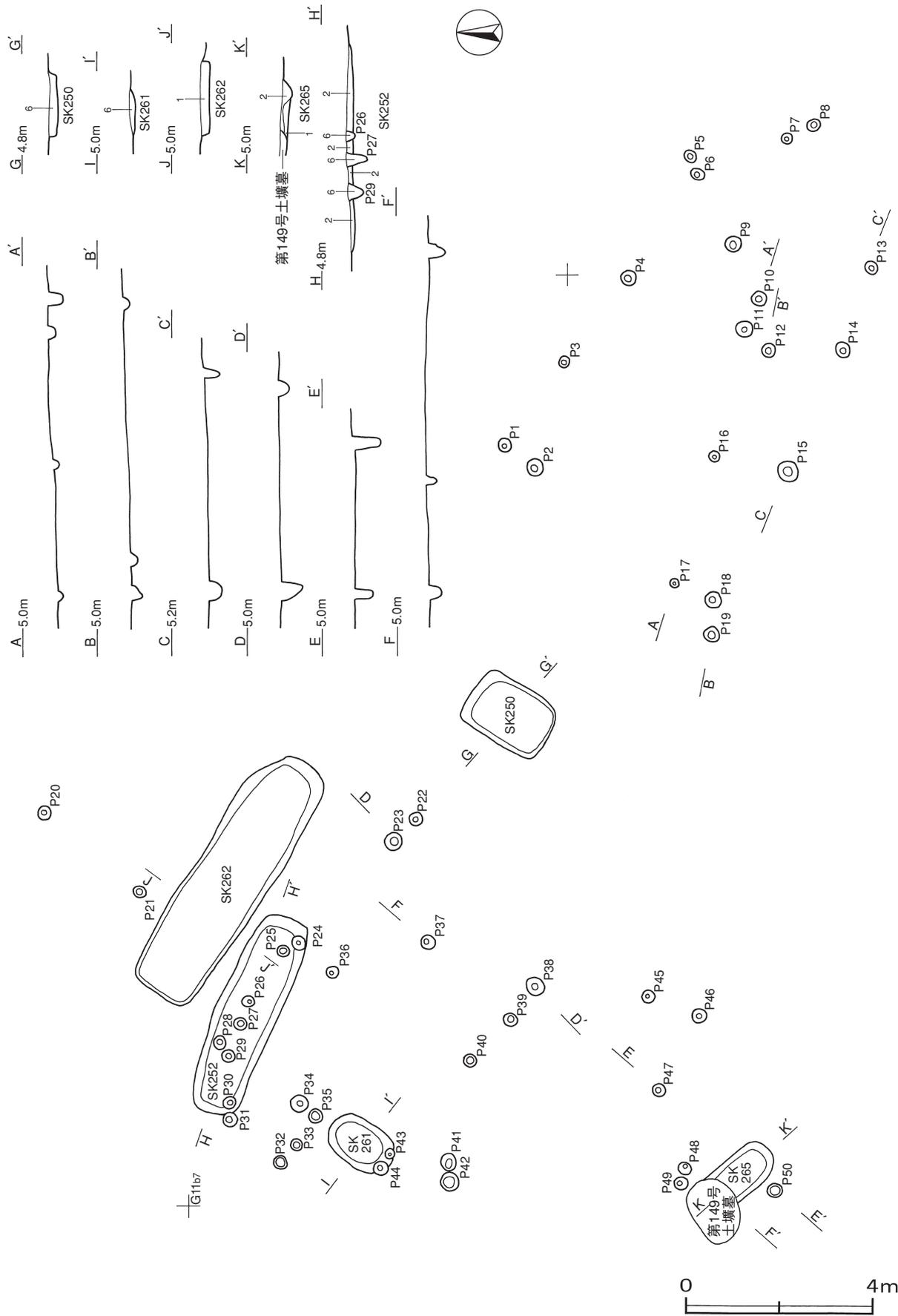
重複関係 第252・261号土坑を掘り込んでいる。

確認状況 第4号ピット群の砂層を約0.2m除去した標高約4.4mで、ピット50か所と土坑5基が確認された。

規模と形状 南北18.5m、東西23.9mの範囲から、不規則な50か所のピットと、ほぼ同じ標高から第250・252・261・262・265号土坑が確認された。いずれも砂層を掘り込んでいる。径(長径)が18～40cmの円形又は楕円形で、深さ14～59cmである。

遺物出土状況 第250号土坑の覆土から、流れ込みとみられる3167の古銭が出土している。

所見 50か所のピットを確認したが、配列に規則性は見られない。時期・性格は不明である。

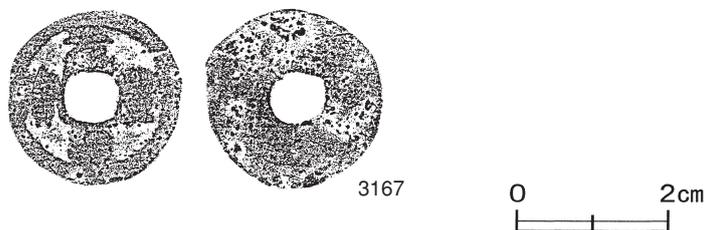


第124図 第2号ピット群実測図

第2号ピット群集計表

単位は cm

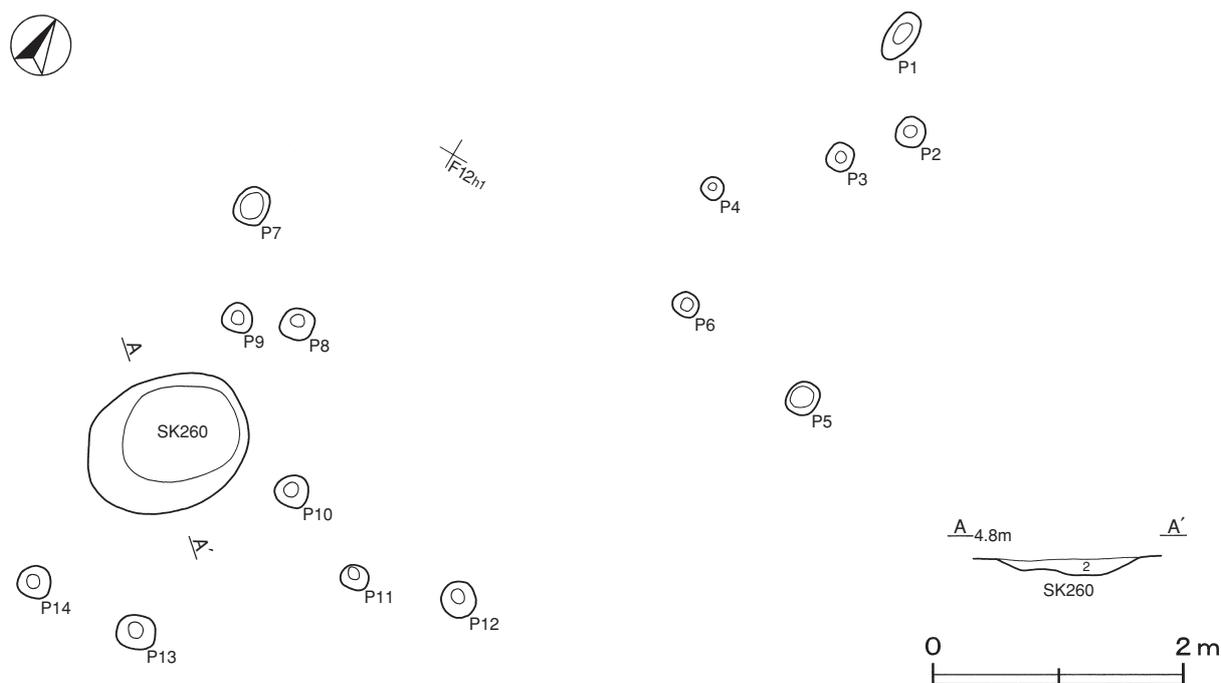
番号	長径	短径	深さ												
P1	30	28	22	P14	30	30	30	P27	26	24	40	P40	26	24	45
P2	36	30	18	P15	40	40	26	P28	30	26	35	P41	38	30	35
P3	22	22	22	P16	22	20	14	P29	26	26	38	P42	40	40	35
P4	32	32	20	P17	18	18	14	P30	28	26	38	P43	22	20	26
P5	26	22	35	P18	34	30	18	P31	30	30	37	P44	32	28	52
P6	30	22	28	P19	36	32	24	P32	30	28	33	P45	28	26	30
P7	22	22	22	P20	30	28	44	P33	26	24	25	P46	32	30	29
P8	30	26	31	P21	26	24	57	P34	38	36	30	P47	28	28	33
P9	36	30	17	P22	30	28	22	P35	30	30	45	P48	26	24	26
P10	30	28	35	P23	40	38	49	P36	28	24	28	P49	30	28	28
P11	36	30	19	P24	30	28	43	P37	32	28	28	P50	32	30	59
P12	28	28	14	P25	24	22	16	P38	40	38	20				
P13	28	24	33	P26	24	22	25	P39	30	28	25				



第125図 第2号ピット群出土遺物実測図

第2号ピット群出土遺物観察表 (第125図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
3167	元豊通寶	2.38	0.67	0.09	2.46	1078	銅	篆書	SK250内	

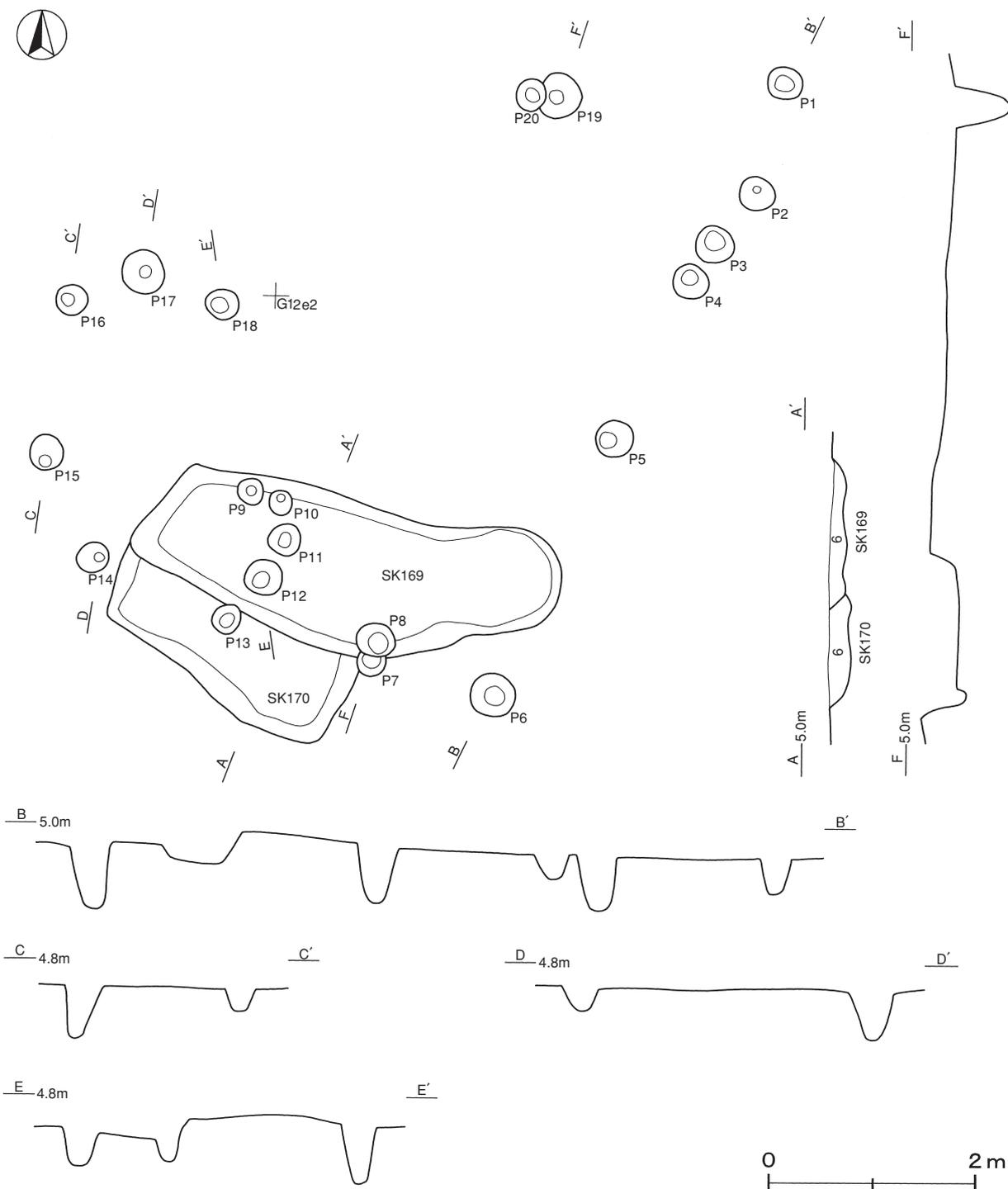


第126図 第3号ピット群実測図

第3号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	40	22	48	P5	28	24	18	P9	22	20	22	P13	30	30	42
P2	26	22	24	P6	24	20	28	P10	28	26	42	P14	26	24	32
P3	22	20	14	P7	30	26	26	P11	24	20	20				
P4	18	16	18	P8	28	26	20	P12	30	28	30				

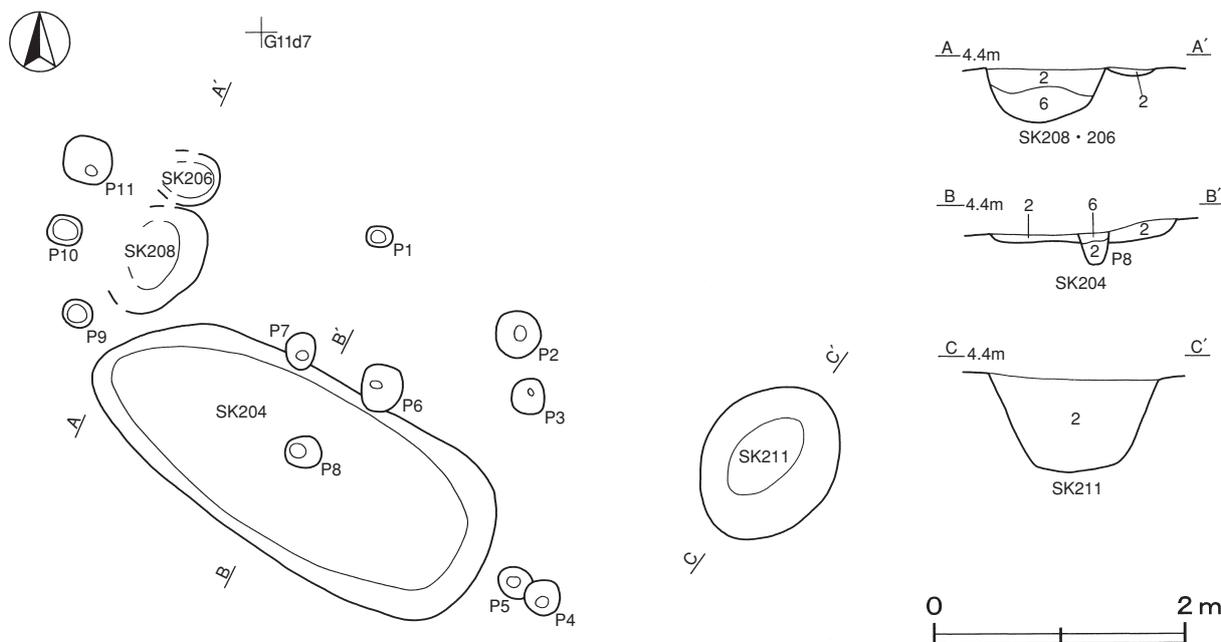


第127図 第4号ピット群実測図

第4号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	34	32	34	P6	44	40	61	P11	32	28	41	P16	30	30	23
P2	34	34	30	P7	30	26	43	P12	36	34	35	P17	40	40	45
P3	38	36	55	P8	38	34	19	P13	28	26	29	P18	32	28	56
P4	36	34	26	P9	24	22	21	P14	30	28	27	P19	44	40	53
P5	38	34	54	P10	24	22	26	P15	34	30	49	P20	32	26	32



第128図 第5号ピット群実測図

第5号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	20	18	43	P4	28	28	19	P7	28	22	34	P10	26	22	20
P2	34	32	38	P5	26	22	18	P8	30	26	15	P11	40	36	53
P3	28	24	23	P6	38	32	28	P9	24	22	27				

表17 9区ピット群一覧表

番号	位置	標高	範囲 (m)		柱穴数	柱穴平面形	径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考
			南北	東西						
2	G11a7~G12e2	4.4	18.5	23.9	50	円形・楕円形	18~40	14~59		SK250・252・261・262・265含む
3	F11g0~F12i1	4.7	17.9	5.2	14	円形	16~40	14~48		SK260含む
4	G12d1~G12e3	4.6	6.5	7.6	20	円形・楕円形	22~44	19~61		SK169・170含む
5	G11d6~G11d8	4.2	4.2	6.4	11	円形・楕円形	18~40	15~53		SK204・206・208・211含む

(10) 土壙墓

9区では、53体の人骨が確認された。9区は、「村松白根遺跡1」の発掘調査報告書の4区の隣接地区で、3・4区を含む「北部一帯が墓域として意識されていたと考えられる。」と報告されており、同様の性格を持っていると考えられる。ここでは、9区で検出された人骨のうち、埋葬が確認され遺存状態の明確な38基についてその概要を記述する。なお、実測できなかった10基と埋葬状況の不明確な人骨5体については、一覧表に計測値のみ掲載した。

第110号土墳墓 SK-1

位置 9区中央部のF12b1区で、第39号建物跡の上層2mに位置している。

確認状況 表砂を2.9m除去後、標高6.9mで人骨を確認した。表砂除去の際にほとんどの骨が動いてしまったため、残存している骨で位置と高さを記録した。

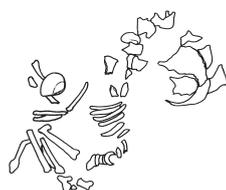
性別と年齢 男性 壮年

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。上肢下肢ともに残存状態は良好である。頭蓋骨は厚みがあり、眉弓隆起は弱い。大坐骨切痕は鋭角である。大腿骨後稜が強く隆起しており、筋肉の発達がかがえる。歯は永久歯で、第3大臼歯まで萌出している。下顎左右の中切歯は生前脱落し、歯槽骨が閉塞している。

所見 副葬品を伴わないため、埋葬の時期は不明である。第39号建物構築後の埋葬である。

第111号土墳墓 SK-2 (第129・130図)

位置 9区南部のG12c4区で、第47号建物跡の南側12mに位置している。



第129図 第111号土墳墓実測図

確認状況 表砂を4.6m除去後、標高6.3mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

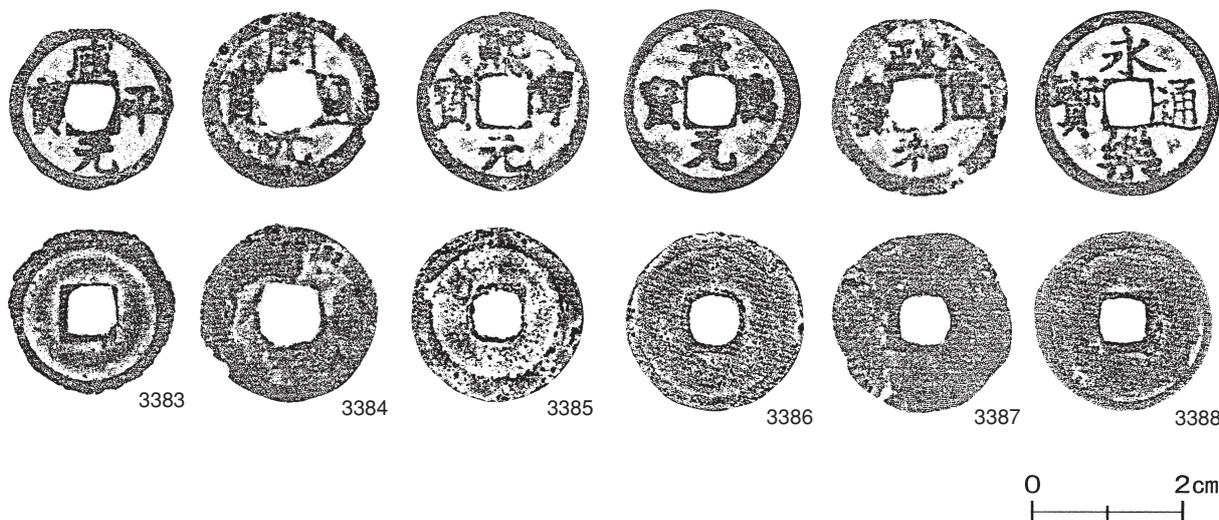
埋葬の状況 北東頭位西面右側臥屈葬で埋葬されていた。両腕は体の前方にやや伸ばしていた。

遺物出土状況 古銭6枚と貝殻1点(ウバガイ)が右腕上から出土している。

性別と年齢 性別不明 幼児(2~3歳)

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。上肢下肢ともに残存状態は良好である。歯は乳歯で、第1乳臼歯、第2乳臼歯ともに、萌出途中である。

所見 貝殻と古銭は副葬品である。判読できた最新銭は、永樂通寶(初鑄年1408)である。



第130図 第111号土墳墓出土遺物実測図

第111号土墳墓出土遺物観察表（第130図）

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3383	咸平元寶	2.19	0.61	0.08	(2.26)	998	銅	真書 欠け	右腕上	PL96
3384	開元通寶	2.41	0.74	0.10	(2.88)	621	銅	真書 欠け	右腕上	
3385	熙寧元寶	2.37	0.59	0.15	4.52	1068	銅	真書	右腕上	
3386	景德元寶	2.44	0.62	0.09	2.78	1004	銅	真書	右腕上	
3387	政和通寶	2.48	0.63	0.10	(2.78)	1111	銅	分楷 欠け	右腕上	
3388	永樂通寶	2.47	0.58	0.11	3.78	1408	銅	真書	右腕上	

第112号土墳墓 SK-4（第131図）

位置 9区中央部のF11j9区で、第41号建物跡の南側4mに位置している。

確認状況 表砂を4.4m除去後、標高5.1mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

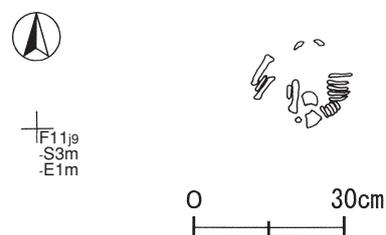
埋葬の状況 仰臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨が崩れていたため、顔の向きは確認できなかった。四肢骨の状況と頭蓋骨片から北頭位と推測される。

遺物出土状況 礫2点が骨盤下から出土している。

性別と年齢 性別不明 乳児（生後6ヶ月未満）

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。頭蓋骨は薄くて弱く、小さい。大きめの手足に対して、背骨は小さい。歯は乳歯で、乳切歯の歯根は形成途中、乳臼歯は歯冠のみである。

所見 礫は2点とも砂岩の自然礫で楕円形をしており、副葬品と考えられる。人骨の形状から、乳児期に死亡したと推測される。



第131図 第112号土墳墓
実測図

第113号土墳墓 SK-5（第132図）

位置 9区南部のG11a9区で、第41号建物跡の南側6mに位置している。

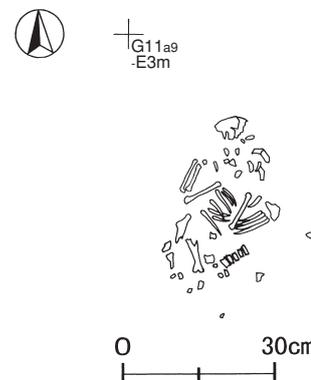
確認状況 表砂を4.6m除去後、標高5.2mで人骨の上腕を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 仰臥屈葬で埋葬されていた。左上腕骨は肋骨の上に重なっていた。頭蓋骨は崩れており、顔の向きは確認できなかった。四肢骨の状況と頭蓋骨片から北東頭位と推測される。

性別と年齢 性別不明 幼児（2歳前後）

遺骸の特徴 頭蓋骨を除き、上半身の骨格の大半が確認された。下半身は崩れており、左大腿骨以外は確認できなかった。歯は乳歯で、乳犬歯はほぼ萌出しているが、歯根は塞がっていない。第1乳臼歯もほぼ萌出しているが、第2乳臼歯は萌出していない。

所見 副葬品を伴わないため、埋葬の時期は不明である。第112号土墳墓の南東3mの位置にあり、標高や埋葬の頭位がほぼ同じであることから、同時期の埋葬と考えられる。



第132図 第113号土墳墓
実測図

第114号土壌墓 SK-6 (第133図)

位置 9区南部のG12d2区で、第45号建物跡の東側4mに位置している。

確認状況 表砂を5.1m除去後、標高5.1mで人骨の頭部を確認した。

規模と形状 長径1.0m、短径0.7mの楕円形で、深さは0.2mである。

覆土 黒色土D層の単一層である。埋葬時の埋め戻しと考えられる。

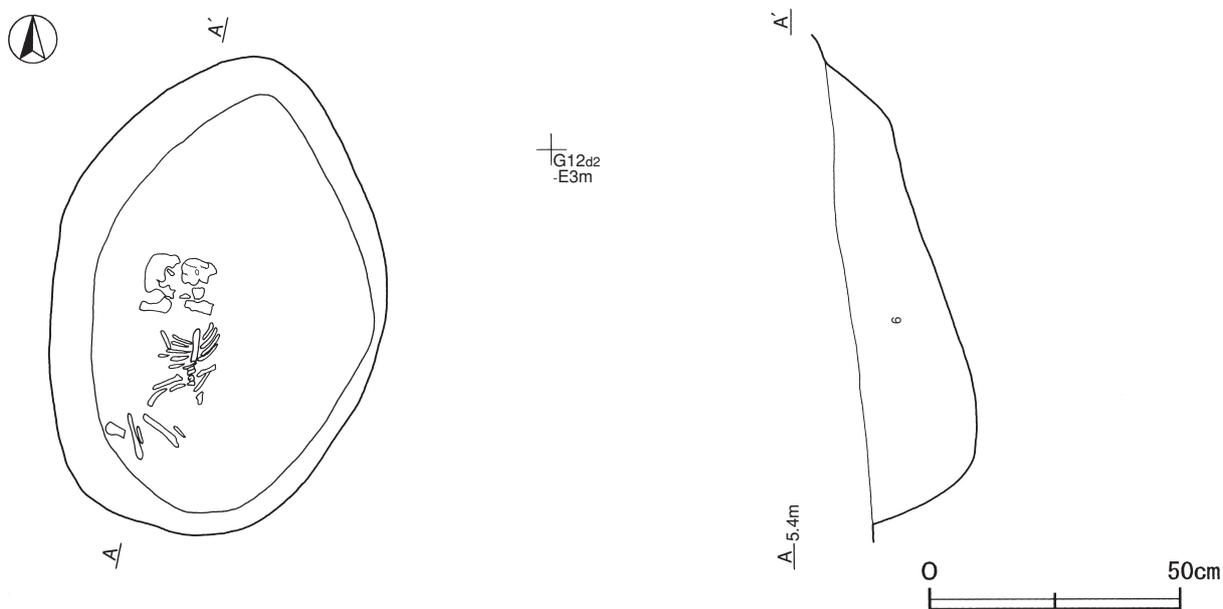
埋葬の状況 北頭位西面右側臥屈葬で埋葬されていた。左手は顔前面に置かれていた。

遺物出土状況 陶器片1点(播鉢)が出土している。

性別と年齢 性別不明 乳児(1~1歳半)

遺骸の特徴 体の下になっていた右半身の上肢骨、下肢骨は一部しか確認できなかったが、他の骨格はほぼすべて確認された。歯は乳歯で、第1乳臼歯は完全に萌出し、第2乳臼歯は萌出途中である。

所見 陶器片は覆土中にあり、埋葬時に混入したものである。細片のため図示できなかった。第45号建物跡と人骨の標高差がほとんどないことから、第45号建物構築後の埋葬と考えられる。



第133図 第114号土壌墓実測図

第115号土壌墓 SK-33 (第134図)

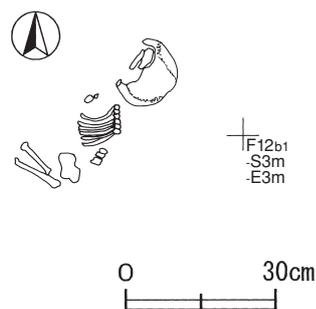
位置 9区中央部のF12b1区で、第116号土壌墓の東側2mに位置している。

確認状況 表砂を5.4m除去後、第40号建物跡の下層0.4mの標高4.4mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北東頭位右側臥で埋葬されていた。表砂除去の際、頭蓋骨顔面部と大腿骨以外の四肢骨を破損した。残存している骨の状況から、顔は北西向きで、屈葬と推定される。

遺物出土状況 磔1点が腰骨の下から出土している。

性別と年齢 性別不明 乳児(1歳頃)



第134図 第115号土壌墓実測図

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。歯は乳歯で、乳切歯と乳犬歯は萌出途中、第1乳臼歯は萌出始めである。第2乳臼歯は萌出していない。

所見 磔は砂岩で径約3cmの自然磔であり、出土状態から副葬品と考えられる。第40号建物構築前の埋葬である。

第116号土壌墓 SK-34 (第135図)

位置 9区中央部のF12b1区で、第115号土壌墓の西側2mに位置している。

確認状況 表砂を5.6m除去後、第40号建物跡の下層0.8mの標高4.0mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位西面右側臥屈葬で埋葬されていた。上肢骨、下肢骨ともに、小さく折りたたまれ、体に密着した状態であった。

遺物出土状況 貝1点(ウバガイ)が上腕骨で胸部に抱えられた状態で出土している。

性別と年齢 性別不明 乳児(1歳半頃)

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。歯は乳歯で、乳切歯と第1乳臼歯は萌出している。第2乳臼歯は萌出途中である。乳犬歯は確認できなかった。

所見 貝は副葬品と考えられる。第40号建物構築前の埋葬である。



F12b1
S2m
E1m



第135図 第116号土壌墓実測図

第117号土壌墓 SK-44 (第136図)

位置 9区中央部のF11i8区で、第112号土壌墓の北西側7mに位置している。

確認状況 表砂を4.0m除去後、第41号建物跡の下層0.4mの標高4.8mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位西面右側臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨は、かなり上方に傾けられていた。両腕は体前面に置かれていた。両足は、膝から下で交差していた。

性別と年齢 性別不明 乳児(生後9ヶ月頃)

遺骸の特徴 ほぼ全身の骨格が確認された。歯は乳歯で、乳切歯が萌出している。第1乳臼歯は萌出途中である。乳犬歯は歯槽骨内に確認できた。

所見 第41号建物の整地面に掘り込んだ跡がないことから、第41号建物構築前の埋葬である。建物構築時に本人骨の埋葬を認識していたかは不明である。



F11i8
S1m
E1m



第136図 第117号土壌墓
実測図

第118号土壙墓 SK-45 (第137図)

位置 9区中央部のF12h3区で、第111号土壙墓の北西側20mに位置している。

確認状況 表砂を6.5m除去後、第47号建物跡の下層0.2mの標高5.8mで人骨の頭部を確認した。



F12h3
E0.5m



第137図 第118号土壙墓実測図

埋葬の状況 北東頭位西面右側臥で埋葬されていた。右腕が体前面に折りたたまれている状況から、屈葬と推測される。下肢骨は骨の有無が確認できたが攪乱を受けていた。

性別と年齢 性別不明 乳児（生後3～6ヶ月）

遺骸の特徴 頭蓋骨は薄く、縫合も未熟である。下肢骨はほぼ確認され、細く短い骨である。歯は確認できなかった。

所見 第47号建物の整地面に掘り込んだ跡がないことから、第47号建物構築前の埋葬である。下肢骨の攪乱の原因については不明である。

第119号土壙墓 SK-49

位置 9区中央部のF11g5区で、第122号土壙墓の北側4mに位置している。

確認状況 表砂を1.8m除去後、第1号土手状遺構の下層0.2mの標高5.0mで大腿骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

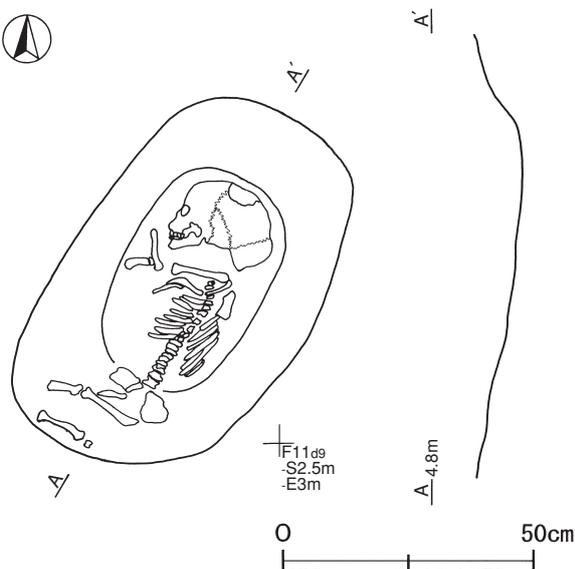
埋葬の状況 骨盤と大腿骨の位置から屈葬で、北あるいは北東頭位であると推測される。

性別と年齢 性別不明 乳児（1～1歳半）

遺骸の特徴 下顎の一部と左腕、大腿骨、乳歯6本が確認できた。第1乳臼歯は完全に萌出し、第2乳臼歯は萌出し始めである。

所見 乳歯が下肢骨周辺から確認されていることから、埋葬後攪乱を受けた可能性がある。第1号土手状遺構構築前の埋葬である。

第120号土壙墓 SK-61 (第138図)



第138図 第120号土壙墓実測図

位置 9区中央部のF11d9区で、第121号土壙墓の北東側5mに位置している。

確認状況 表砂を4.6m除去後、標高4.7mで人骨の頭部を確認した。

規模と形状 長径0.8m、短径0.5mの楕円形で、深さは0.1mである。

埋葬の状況 北東頭位西面仰臥屈葬で埋葬されていた。左手は顔前面に添えられていた。

性別と年齢 性別不明 幼児（4～5歳）

遺骸の特徴 頭蓋骨と左上肢下肢骨、体幹骨が確認できた。下になっていた右半身の上肢骨、下肢骨は一部確認することができた。歯は乳歯で、乳中切歯から第2乳臼歯まで完全に萌出している。永久歯第1大臼歯

が萌出直前である。

所見 出土遺物がなく、埋葬の時期は不明である。第121号土壙墓とほぼ同じ標高で確認されている。

第121号土壙墓 SK-62 (第139・140図)

位置 9区中央部のF11e8区で、第120号土壙墓の南西側5mに位置している。

確認状況 表砂を4.4m除去後、標高4.7mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 崩れた状態の頭蓋骨のみ確認できた。埋葬状況は不明である。

遺物出土状況 古銭6枚が人骨の北側0.3mで1か所にまとまって、古銭1枚が人骨の北側0.7mでそれぞれ確認された。

性別と年齢 性別不明 死亡推定年齢不明

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでおり、頭蓋骨の厚さや大きさを確認することができなかった。歯も確認できなかった。

所見 頭蓋骨付近から人骨の標高とほぼ同じ高さで古銭が出土したことから、古銭は副葬品の六道銭と考えた。6枚まとめて出土した古銭のうち、判読できた最新銭は政和通寶(初鑄年1111)である。1枚単独で確認の古銭は、永樂通寶(初鑄年1408)である。



△
3396

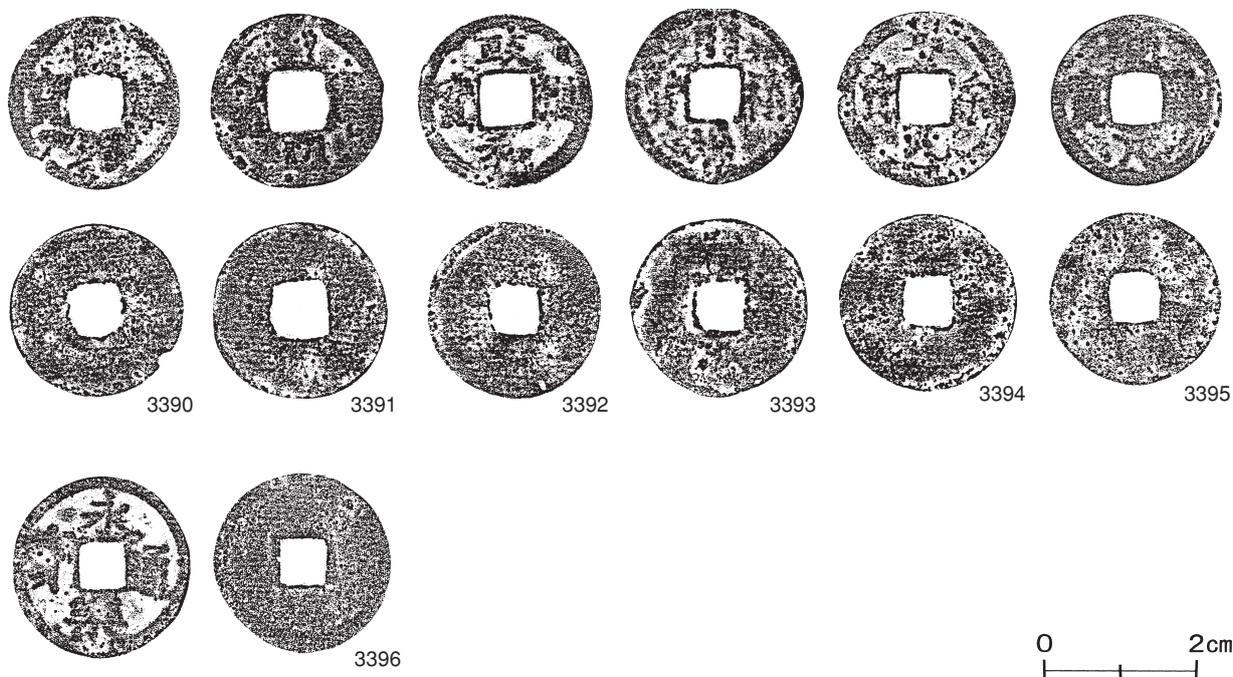
△
3390~3395



F11e8
E3m



第139図 第121号土壙墓実測図



第140図 第121号土壙墓出土遺物実測図

第121号土墳墓出土遺物観察表（第140図）

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
3390	熙寧元寶	2.34	0.70	0.08	(1.86)	1068	銅	篆書 欠け	北側0.3m	
3391	□□□□	2.35	0.76	0.11	2.90	-	銅	判読不能	北側0.3m	
3392	政和通寶	2.36	0.68	0.08	2.44	1111	銅	分楷	北側0.3m	
3393	開禧通寶	2.41	0.64	0.12	2.62	1205	銅	真書 背上「元」カ	北側0.3m	
3394	聖宋元寶	2.38	0.65	0.07	2.52	1101	銅	行書	北側0.3m	
3395	開元通寶	2.32	0.67	0.09	2.30	621	銅	真書	北側0.3m	
3396	永樂通寶	2.41	0.60	0.13	3.60	1408	銅	真書	北側0.7m	

第122号土墳墓 SK-80（第141図）

位置 9区中央部のF11h5区で、第119号土墳墓の南側4mに位置している。

確認状況 表砂を2.0m除去後、第1号土手状遺構の下層0.4mの標高4.9mで人骨の頭部を確認した。土墳墓の最下部を確認することができた。

規模と形状 長径0.8m、短径0.7mの楕円形で、深さは0.5mである。

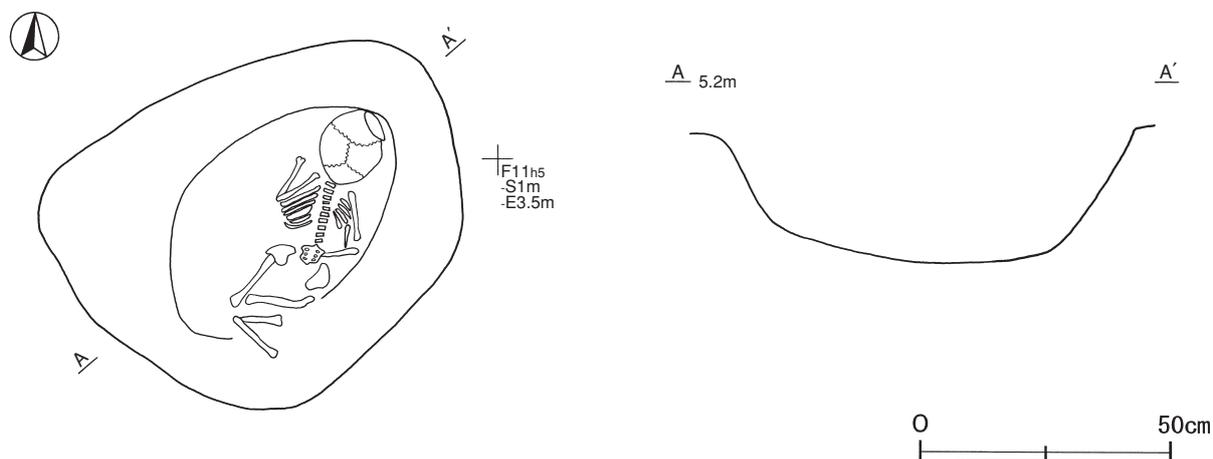
埋葬の状況 北東頭位西面仰臥屈葬で埋葬されていた。右手は胸上、左手は骨盤上に添えられていた。左膝の上に右膝が置かれ、右足が土墳墓の壁の立ち上がりに沿うように、上方に持ち上がっていた。

遺物出土状況 貝1点（ウバガイ）が右踵付近から出土している。

性別と年齢 性別不明 幼児（5歳以下）

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいたが、ほぼ全身骨格が確認できた。歯は乳犬歯、第1・2乳臼歯、第1大臼歯が確認できた。歯根がほとんど成長していないことから、第1大臼歯は萌出していないと推定できる。

所見 貝は副葬品と考えられる。埋葬の時期は不明であるが、第1号土手状遺構構築前の埋葬である。



第141図 第122号土墳墓実測図

第123号土墳墓 SK-98（第142図）

位置 9区北部のE12f2区で、第131号土墳墓の南側5mに位置している。

確認状況 表砂を6.6m除去後、第2号土手状遺構の下層1.1mの標高3.6mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

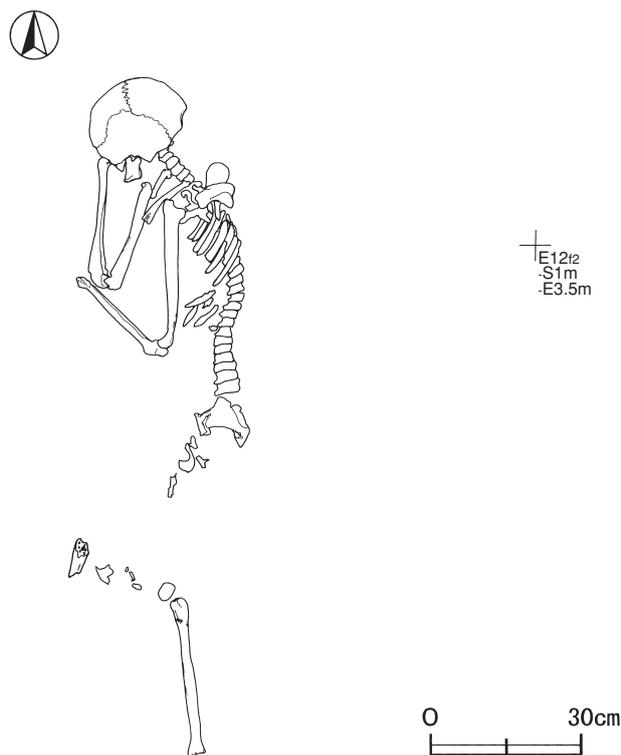
埋葬の状況 北頭位西面右側臥伸展葬で埋葬されていた。右手は頭蓋骨下に、左手は右肘に添えられていた。

遺物出土状況 土師質土器片（内耳鍋）が覆土中から出土している。

性別と年齢 男性 老年

遺骸の特徴 上半身に比べ下半身の骨の腐朽が進んでいた。頭蓋骨の眉弓は隆起しており、上腕骨、大腿骨が太い。歯は13本確認でき、すべて永久歯であった。下顎の第1～3大臼歯は生前脱落であり、歯槽骨の閉塞がみられた。下顎左の小白歯が3本あった。

所見 土師質土器片は細片のため、図示できなかった。埋葬時の混入と考えられ、埋葬の時期は不明であるが、層位から第2号土手状遺構構築前の埋葬である。当遺跡では、伸展葬での埋葬の確認例は少ない。



第142図 第123号土壙墓実測図

第124号土壙墓 SK-101 (第143～145図)

位置 9区中央部のF12c1区で、第115号土壙墓の南側3mに位置している。

確認状況 表砂を5.4m除去後、第40号建物跡の下層0.4mの標高4.4mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

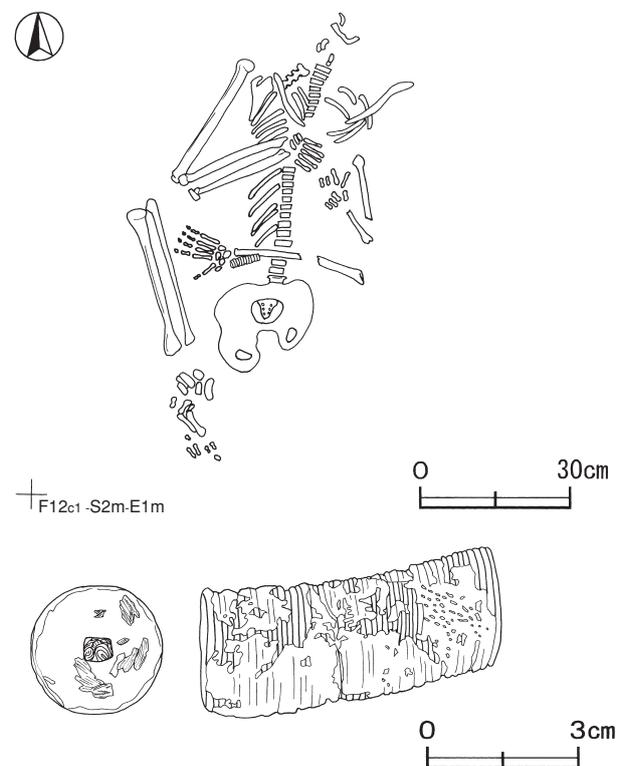
埋葬の状況 仰臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨は確認できなかったが、体幹骨の状況から北東頭位と推測される。右手は胸上に、左手は腹部右足に添えられていた。

遺物出土状況 縹銭が骨盤と左前腕の間から出土している。

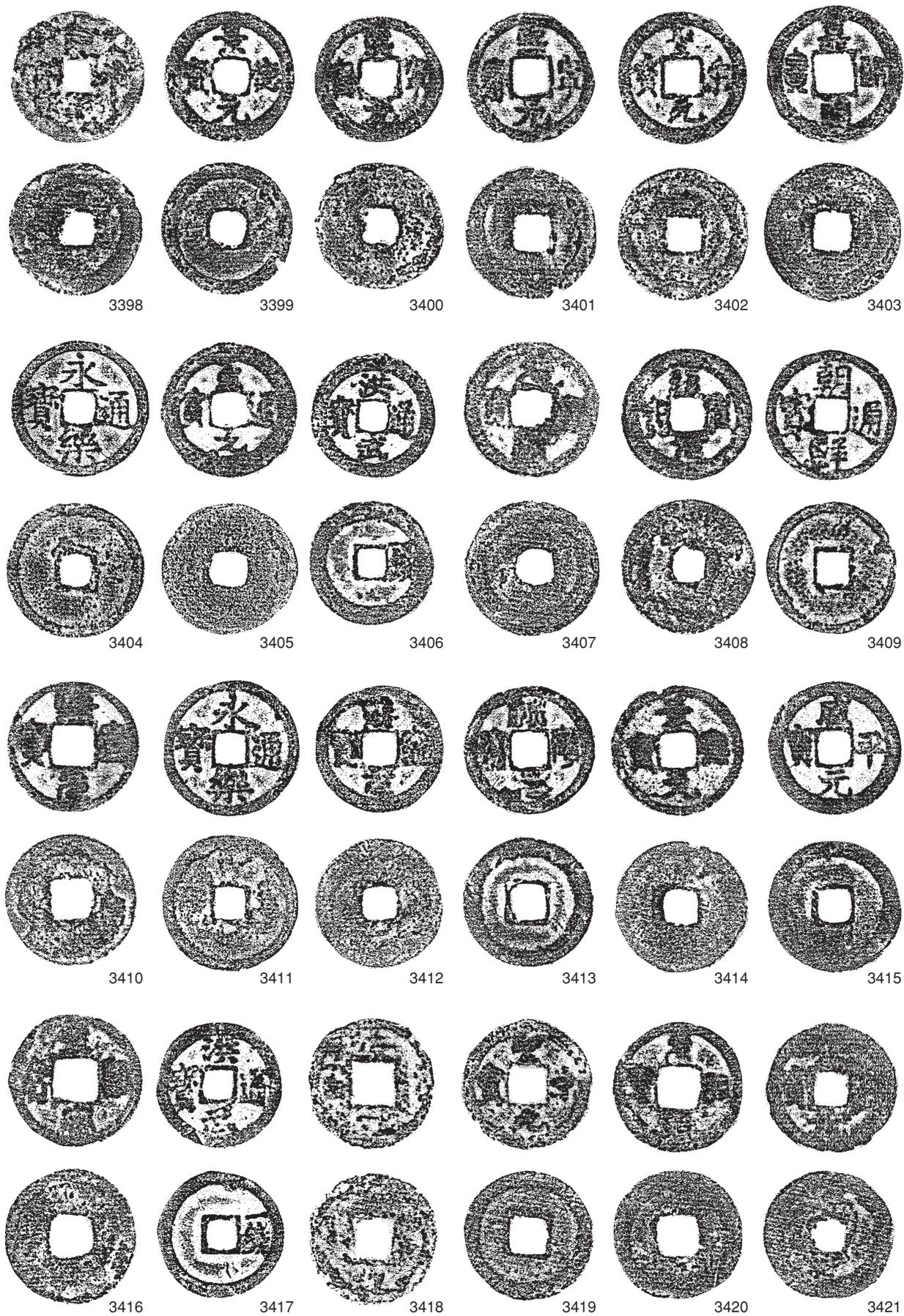
性別と年齢 男性 壮年

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいたが、左足以外の四肢骨が計測できた。歯は3本確認でき、すべて永久歯であった。腕は細目の骨で華奢であるが、手足の大きさから壮年の男性と推定した。

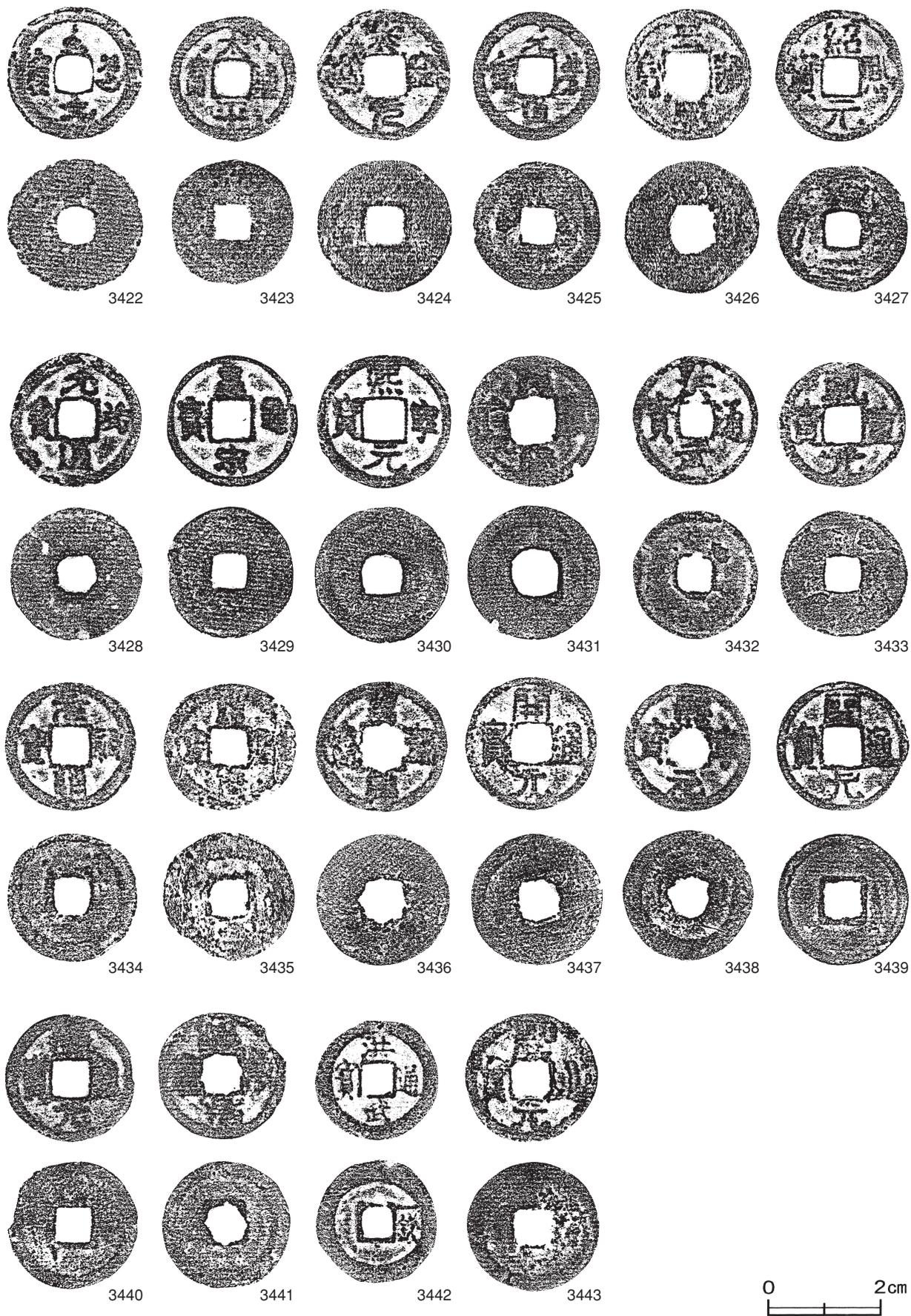
所見 出土状況から縹銭は副葬品と考えられ、46枚の古銭が束ねられていた。判読できた最新銭は朝鮮通寶（初鑄年1423）である。層位から第40号建物構築前の埋葬である。



第143図 第124号土壙墓・出土遺物実測図



第144図 第124号土壙墓出土遺物実測図(1) [古銭は原寸大]



第145图 第124号土壙墓出土遺物实测图(2)

第124号土墳墓出土遺物観察表（第144・145図）

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3398	□□□□	2.44	0.57	0.12	3.30	-	銅	判読不能 鏽付着	骨盤上	
3399	景德元寶	2.40	0.61	0.09	2.68	1004	銅	真書	骨盤上	
3400	熙寧元寶	2.38	0.59	0.12	3.16	1068	銅	真書	骨盤上	
3401	熙寧元寶	2.42	0.62	0.14	3.34	1068	銅	真書	骨盤上	
3402	聖宋元寶	2.42	0.58	0.13	3.50	1101	銅	行書	骨盤上	
3403	嘉祐通寶	2.50	0.64	0.11	3.20	1056	銅	篆書	骨盤上	PL96
3404	永樂通寶	2.49	0.53	0.12	3.50	1408	銅	真書	骨盤上	
3405	至道元寶	2.49	0.68	0.11	3.24	995	銅	行書	骨盤上	
3406	洪武通寶	2.27	0.52	0.13	3.80	1368	銅	真書 背右「一錢」	骨盤上	
3407	元□□寶	2.49	0.64	0.10	3.60	-	銅	篆書	骨盤上	
3408	紹聖元寶	2.43	0.54	0.14	4.64	1094	銅	篆書	骨盤上	
3409	朝鮮通寶	2.41	0.57	0.13	(3.48)	1423	銅	真書 欠け	骨盤上	PL96
3410	熙寧元寶	2.40	0.57	0.13	2.82	1068	銅	篆書	骨盤上	
3411	永樂通寶	2.51	0.53	0.11	3.28	1408	銅	真書	骨盤上	
3412	熙寧元寶	2.34	0.59	0.14	3.90	1068	銅	篆書	骨盤上	
3413	熙寧元寶	2.36	0.61	0.11	3.22	1068	銅	篆書	骨盤上	
3414	景德元寶カ	2.40	0.62	0.11	(2.80)	1004	銅	真書 欠け	骨盤上	
3415	咸平元寶	2.43	0.54	0.09	2.88	998	銅	真書	骨盤上	
3416	皇宋通寶	2.46	0.78	0.09	2.62	1038	銅	篆書	骨盤上	
3417	洪武通寶	2.29	0.52	0.14	4.40	1368	銅	真書 背右「一錢」	骨盤上	
3418	□□□寶	2.32	0.71	0.12	2.34	-	銅	篆書カ	骨盤上	
3419	聖宋元寶	2.38	0.65	0.14	3.26	1101	銅	行書	骨盤上	
3420	元祐通寶カ	2.39	0.74	0.10	3.42	1086	銅	篆書	骨盤上	
3421	淳□元寶	2.37	0.58	0.11	3.76	1174	銅	真書 背上「-」カ	骨盤上	
3422	至道元寶	2.43	0.68	0.09	2.64	995	銅	草書	骨盤上	PL96
3423	太平通寶	2.30	0.61	0.08	2.60	976	銅	真書	骨盤上	
3424	熙寧元寶	2.48	0.66	0.11	3.44	1068	銅	篆書	骨盤上	
3425	元豐通寶	2.34	0.65	0.10	3.08	1078	銅	行書	骨盤上	
3426	皇宋通寶	2.43	0.83	0.09	(2.76)	1038	銅	篆書 欠け	骨盤上	
3427	紹熙元寶	2.39	0.66	0.11	3.40	1190	銅	真書 背下「二」	骨盤上	
3428	元祐通寶	2.39	0.65	0.08	2.68	1086	銅	行書 穴あき	骨盤上	
3429	皇宋通寶	2.36	0.66	0.12	3.86	1038	銅	真書	骨盤上	
3430	熙寧元寶	2.45	0.71	0.11	3.56	1068	銅	真書	骨盤上	
3431	□宋□寶	2.41	0.81	0.10	(2.68)	1038	銅	篆書 欠け 皇宋通寶カ	骨盤上	
3432	洪武通寶	2.27	0.61	0.08	2.26	1368	銅	真書 うすく摩滅	骨盤上	
3433	乾元重寶	2.30	0.63	0.08	3.00	758	銅	真書 うすく摩滅	骨盤上	
3434	元祐通寶	2.37	0.67	0.14	3.48	1086	銅	篆書	骨盤上	PL96
3435	□□□寶	2.42	0.62	0.12	(3.12)	-	銅	真書カ うすく摩滅	骨盤上	
3436	皇宋通寶カ	2.43	0.78	0.11	3.60	1038	銅	篆書 星形孔	骨盤上	
3437	開元通寶	2.44	0.76	0.11	3.20	621	銅	真書	骨盤上	
3438	熙寧元寶	2.37	0.75	0.10	2.90	1068	銅	真書 星形孔	骨盤上	
3439	開元通寶	2.40	0.68	0.10	3.04	621	銅	真書	骨盤上	
3440	開元通寶	2.35	0.67	0.11	3.42	621	銅	真書	骨盤上	
3441	熙寧元寶	2.37	0.68	0.12	3.18	1068	銅	篆書 星形孔	骨盤上	
3442	洪武通寶	2.24	0.56	0.12	3.10	1368	銅	真書 背右「一錢」	骨盤上	
3443	開元通寶	2.40	0.68	0.10	3.14	621	銅	真書	骨盤上	

第125号土墳墓 SK-104（第146図）

位置 9区中央部のF12d2区で、第126号土墳墓の南西側4mに位置している。

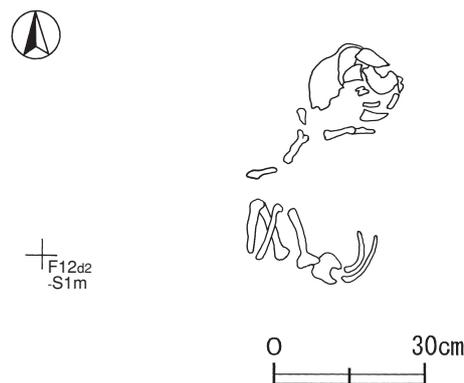
確認状況 表砂を6.2m除去後、第40号建物跡の下層0.5mの標高4.4mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位西面右側臥屈葬で埋葬されていた。右腕は、膝を抱えるように伸ばしていた。左上腕骨の位置から、左手は顔前面に添えられていたと推測される。

性別と年齢 性別不明 幼児（3～4歳）

遺骸の特徴 ほぼ全身の骨格が確認された。歯はすべて乳歯であり、乳中切歯から第2乳臼歯まで萌出していた。第1大臼歯は未萌出であった。

所見 出土遺物がなく、埋葬時期は不明であるが、層位から第40号建物構築前に埋葬されたと考えられる。



第146図 第125号土壙墓実測図

第128号土壙墓 SK-108（第147図）

位置 9区中央部のF11e0区で、第120号土壙墓の南東側4mに位置している。

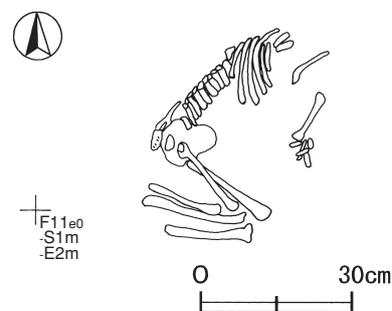
確認状況 表砂を5.2m除去後、標高4.5mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 左側臥屈葬で埋葬されていた。四肢骨と体幹骨の状況から北東頭位、顔は南東を向いていたと推測される。

性別と年齢 性別不明 幼児（5～6歳）

遺骸の特徴 頭蓋骨を除くほぼ全身骨格が確認された。歯は乳犬歯と乳臼歯、第1大臼歯が確認された。第1大臼歯の歯根が成長しており、萌出始めである。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。当遺跡では、左側臥の埋葬例は少ない。



第147図 第128号土壙墓実測図

第129号土壙墓 SK-110（第148図）

位置 9区中央部のF11c0区で、第141号土壙墓の南西側2mに位置している。

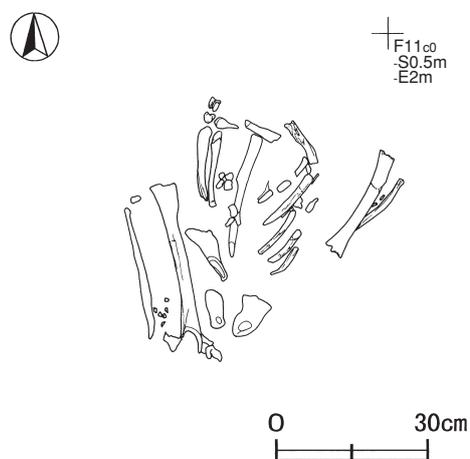
確認状況 表砂を5.2m除去後、第40号建物跡の下層0.6mの標高4.3mで人骨の大腿骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 右側臥屈葬で埋葬されていた。体幹骨と四肢骨の状況から、北頭位と推測される。両腕、両足は小さく折りたたまれていた。

性別と年齢 男性 熟年（40歳代）

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいた。頭蓋骨は確認できなかった。大腿骨後稜の隆起が強く、筋肉の発達がかがえる。確認された永久歯15本のなかに大臼歯はなかった。生前脱落か埋葬後脱落かは不明である。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。層位から、第40号建物構築前の埋葬と考えられる。第141号土壙墓と近接しており、本土壙墓と前後して埋葬された可能性がある。



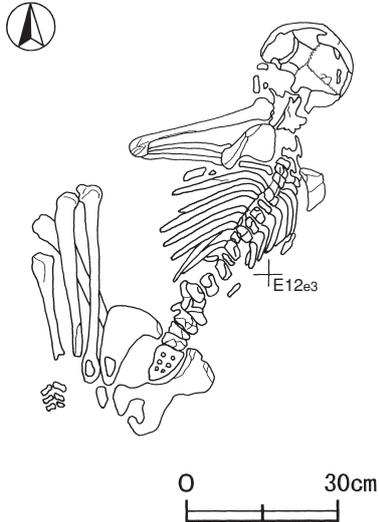
第148図 第129号土壙墓実測図

第131号土壙墓 SK-153 (第149・150図)

位置 9区北部のE12d3区で、第123号土壙墓の北側5mに位置している。

確認状況 表砂を6.6m除去後、第2号土手状遺構の下層0.9mの標高3.6mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北東頭位西面俯臥屈葬で埋葬されていた。左手は、胸の下に置かれていた。



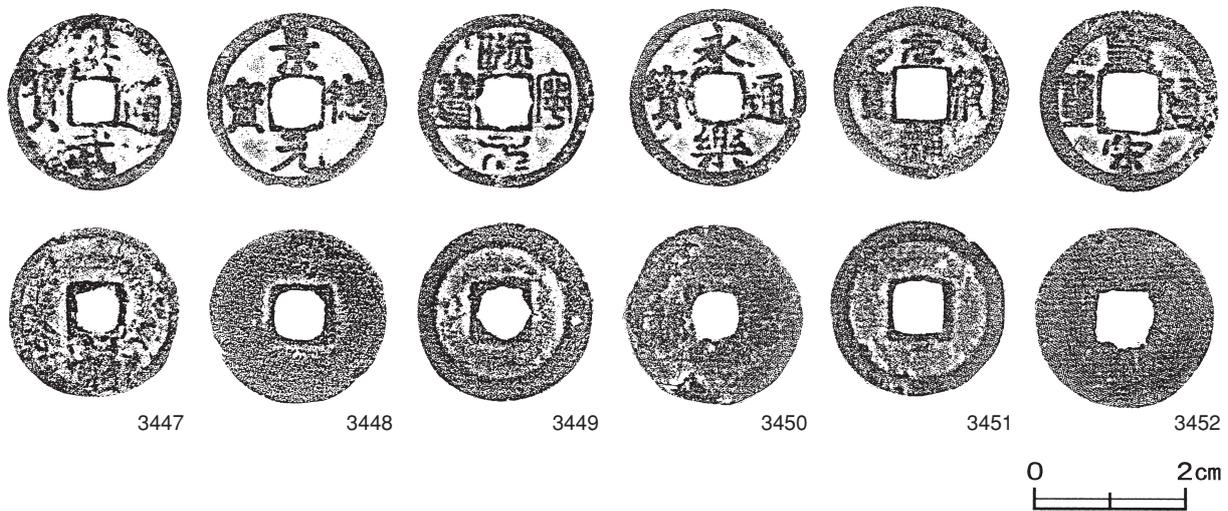
遺物出土状況 左肋骨付近から古銭6枚が、覆土中から土師質土器片2点(内耳鍋)が出土している。

性別と年齢 女性 壮年

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。頭蓋骨は、縫合の癒着がみられ、眼窩上隆起は弱い。大坐骨切痕の角度は鈍角である。歯は永久歯で、上顎の第3大臼歯が萌出している。歯の磨滅は少ない。歯周症の可能性が高い。

所見 肋骨に緑青が付着していることから、古銭は副葬品で、埋葬に伴う六道銭と考えられる。判読できた最新銭は永樂通寶(初鑄年1408)である。層位から、第2号土手状遺構構築前の埋葬である。土師質土器片は細片のため図示できなかった。

第149図 第131号土壙墓実測図



第150図 第131号土壙墓出土遺物実測図

第131号土壙墓出土遺物観察表 (第150図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3447	洪武通寶	2.32	0.59	0.12	3.08	1368	銅	真書 背下「福」カ	左肋骨付近	六道銭
3448	景德元寶	2.40	0.62	0.08	2.20	1004	銅	真書	左肋骨付近	六道銭
3449	熙寧元寶	2.39	0.73	0.10	3.06	1068	銅	篆書 星形孔	左肋骨付近	六道銭
3450	永樂通寶	2.41	0.62	0.10	(2.86)	1408	銅	真書 欠け 鑄込み不足の穴有り	左肋骨付近	六道銭
3451	元符通寶	2.37	0.75	0.13	3.48	1098	銅	篆書	左肋骨付近	六道銭 PL96
3452	皇宋通寶	2.47	0.77	0.08	2.56	1038	銅	真書	左肋骨付近	六道銭

第132号土壙墓 SK-161 (第151図)

位置 9区北部のE12f2区で、第144号土壙墓の南東側4mに位置している。

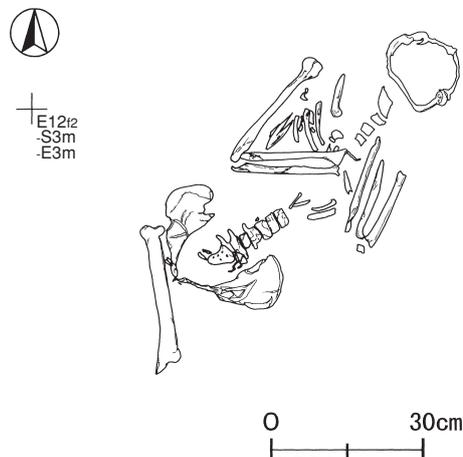
確認状況 表砂を7.3m除去後、第2号土手状遺構の下層0.9mの標高3.3mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北東頭位仰臥屈葬で埋葬されていた。両手は胸上に置かれていた。顔の向きは確認できなかった。

性別と年齢 女性 熟年～老年

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。頭蓋骨は崩れている。大坐骨切痕は鈍角である。上肢下肢ともに細い骨で、華奢である。歯はすべて永久歯である。下顎の犬歯は左右とも生前脱落で、歯槽骨が閉塞していた。下顎左右の第1・2大白歯は半分程度摩滅している。上顎第1～3大白歯は左右とも確認できなかった。歯周症が進んでいる。黒変している骨がみられるが、原因は不明である。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明であるが、層位から、第2号土手状遺構構築前の埋葬と考えられる。



第151図 第132号土壙墓実測図

第133号土壙墓 SK-163 (第152図)

位置 9区北部のE12i1区で、第123号土壙墓の南西側12mに位置している。

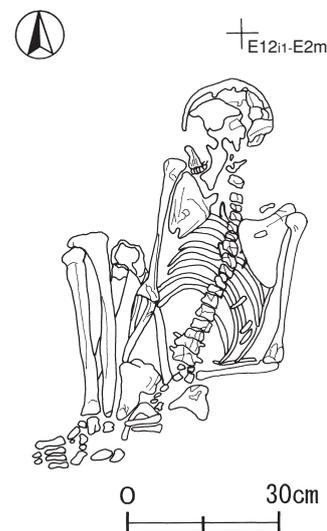
確認状況 表砂を6.4m除去後、第1号土手状遺構の下層1.3mの標高3.5mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位西面俯臥屈葬で埋葬されていた。両手は下腹部に添えられるように、骨盤下に置かれていた。下肢骨が体幹骨の左側にあり、下半身を左にひねった状態である。

性別と年齢 女性 壮年～熟年

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。残存状態は良好である。頭蓋骨の眼窩上縁部はなだらかである。上肢下肢ともに細く、手足も小さく、華奢な骨である。歯はすべて永久歯である。下顎の犬歯、第1・2大白歯は左右とも生前脱落で、歯槽骨が閉塞していた。第3大白歯の歯根は成長しておらず、未萌出である。歯の磨滅は少ない。上顎右中切歯と側切歯の間に歯がみられた。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明であるが、層位から、第1号土手状遺構構築前の埋葬である。

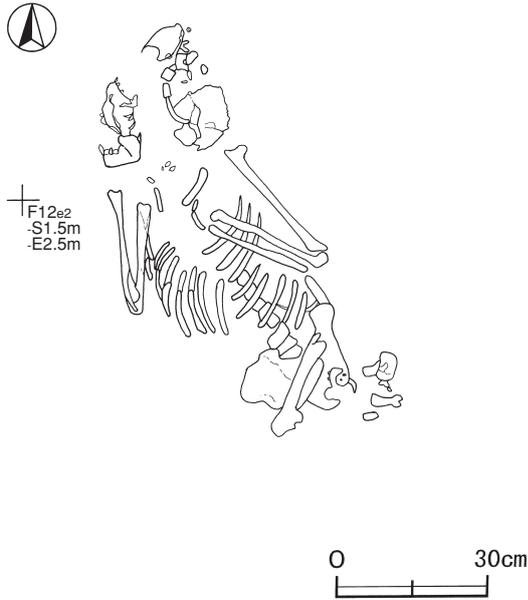


第152図 第133号土壙墓実測図

第134号土壙墓 SK-174 (第153図)

位置 9区中央部のF12e2区で、第138号土壙墓の西側5mに位置している。

確認状況 表砂を7.0m除去後、第39号建物跡の下層0.7mの標高4.2mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。



第153図 第134号土壙墓実測図

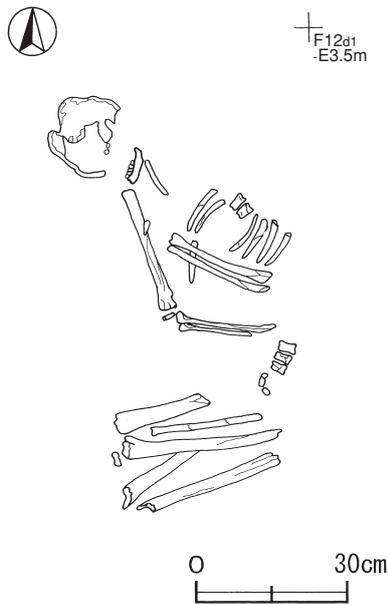
埋葬の状況 右側臥屈葬で埋葬されていた。表砂除去の際、頭蓋骨と下肢骨が動かされたが、体幹骨と下顎の状況から北西頭位で顔は西向きと推測される。左腕は胸元に、右腕は下顎近くに置かれていた。

性別と年齢 男性 壮年

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。大坐骨切痕は鋭角である。確認された歯は第3大臼歯以外の28本で、すべて永久歯である。第3大臼歯については歯槽骨に痕跡がないため、生前脱落の可能性がある。第1・2大臼歯には摩滅があり、右上顎第1大臼歯と右下顎第2大臼歯はう歯であった。歯周症が確認された。

所見 埋葬位置と標高から、第43号整地面構築後、第39号建物構築前の埋葬である。

第135号土壙墓 SK-175 (第154図)



第154図 第135号土壙墓実測図

位置 9区中央部のF12d1区で、第137号土壙墓の北東側2mに位置している。

確認状況 表砂を5.9m除去後、第40号建物跡の下層0.6mの標高4.3mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北西頭位南面右側臥屈葬で埋葬されていた。左腕は胸元に、右腕は左脇腹に置かれていた。右肩上に頭部があった。

性別と年齢 女性 壮年

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。骨は細く、華奢である。歯はすべて永久歯であり、摩滅は少ない。下顎左右の第1～3大臼歯は確認できず、生前脱落か埋葬後の脱落かは不明である。

所見 骨盤の形状から女性と推定した。副葬品がないため埋葬時期は不明であるが、層位から第40号建物構築前の埋葬である。

第136号土壙墓 SK-191 (第155図)

位置 9区中央部のF12e3区で、第138号土壙墓の南側2mに位置している。

確認状況 表砂を8.2m除去後、第39号建物跡の下層0.9mの標高4.2mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

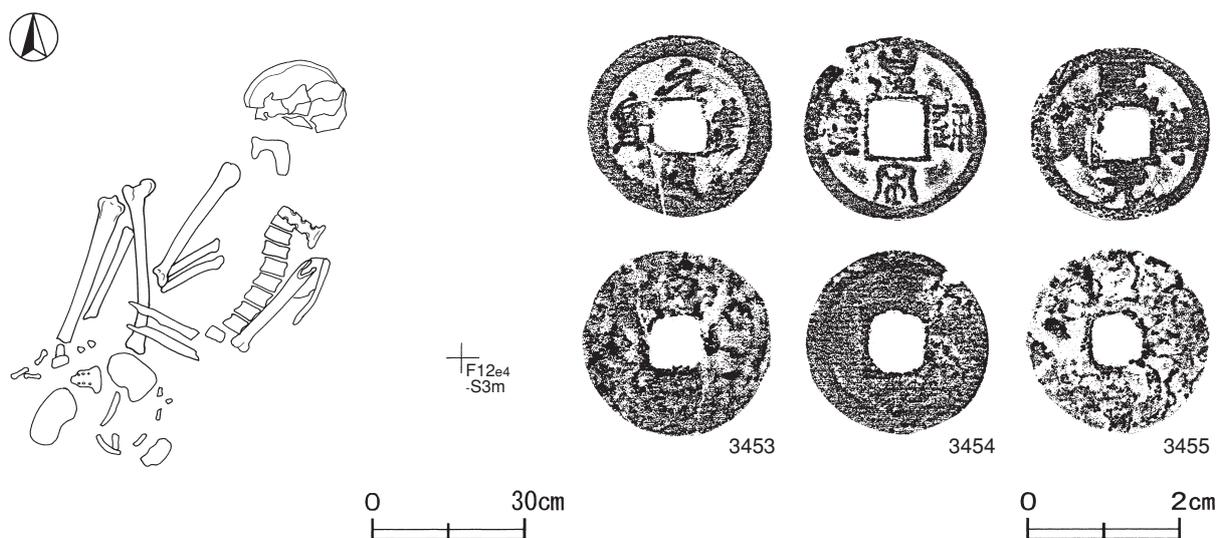
埋葬の状況 北東頭位西面屈葬で埋葬されていた。四肢骨と体幹骨の状況から仰臥での埋葬と推測される。

遺物出土状況 古銭2枚が下顎下から、古銭1枚が覆土から出土している。

性別と年齢 男性 熟年～老年

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいたが、下肢骨と上腕骨の計測は可能であった。頭蓋骨の縫合は、癒着が進んでいた。大腿骨は太く、後稜が高く隆起していることから、筋肉が発達していたと推測される。確認できた歯は13本で、すべて永久歯である。歯全体の磨滅が進んでおり、特に大白歯は磨滅が激しい。右下顎側切歯から第2小臼歯までは、同じ高さに磨滅している。歯周症である。

所見 出土状況から、下顎下の古銭は埋葬に伴う副葬品と考えられ、判読できた最新銭は熙寧元寶（初鑄年1068）である。覆土から出土した古銭は天豊通寶（初鑄年1078）であり、埋葬時の混入と考えられる。層位から、第39号建物構築前の埋葬である。



第155図 第136号土壙墓・出土遺物実測図

第136号土壙墓出土遺物観察表（第155図）

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3453	元豊通寶	2.50	0.68	0.11	2.60	1078	銅	行書	覆土中	
3454	皇宋通寶	2.46	0.77	0.10	(2.72)	1038	銅	篆書 欠け	下顎下	
3455	熙寧元寶	2.45	0.68	0.13	3.76	1068	銅	真書 錆付着	下顎下	

第137号土壙墓 SK-193(第156図)

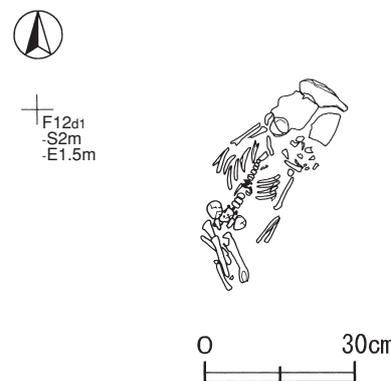
位置 9区中央部のF12d1区で、第135号土壙墓の南西側2mに位置している。

確認状況 表砂を5.8m除去後、第40号建物跡の下層0.6mの標高4.3mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北東頭位仰臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨は崩れていたため顔の向きは不明である。両腕は下肢骨の方向へのばしていた。

遺物出土状況 貝1点（キンギョガイ）が右頬付近から出土している。

性別と年齢 性別不明 乳児（生後6ヶ月頃）



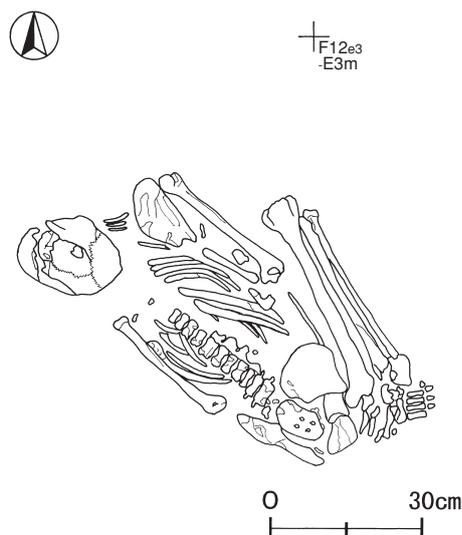
第156図 第137号土壙墓実測図

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認できた。歯はすべて乳歯で、乳中切歯は萌出している。乳側切歯は萌出始めである。骨盤は小さく未発達のため、歩行以前の死亡と考えられる。

所見 貝は埋葬に伴う副葬品である。埋葬の時期は不明であるが、層位から第40号建物構築前の埋葬である。

第138号土壌墓 SK-198 (第157図)

位置 9区中央部のF12e3区で、第136号土壌墓の北側2mに位置している。



第157図 第138号土壌墓実測図

確認状況 表砂を7.9m除去後、第39号建物跡の下層0.8mの標高4.3mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北西頭位北面俯臥屈葬で埋葬されていた。両手は下腹部に置かれていた。

性別と年齢 男性 壮年(30歳代)

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認できた。骨の残存状態は良好である。大腿骨後稜が発達している。上肢骨に比べて下肢骨はたくましい。大坐骨切痕は鋭角である。歯はすべて永久歯で、第3大臼歯まで萌出している。歯の磨滅はほとんどみられない。

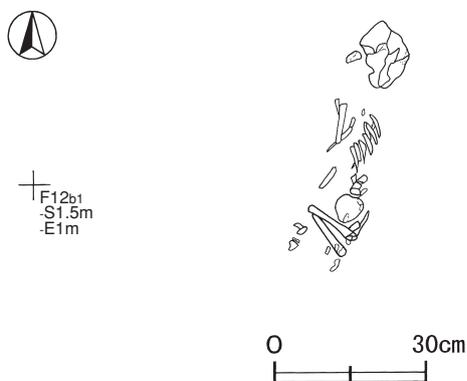
所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬の時期は不明であるが、層位から第40号建物構築前の埋葬である。

第140号土壌墓 SK-216 (第158図)

位置 9区中央部のF12b1区で、第116号土壌墓の北東側1mに位置している。

確認状況 表砂を5.7m除去後、第40号建物跡の下層0.8mの標高4.0mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位右側臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨は崩れていたが、四肢骨と体幹骨の状況から、顔は西向きと推測される。



第158図 第140号土壌墓実測図

遺物出土状況 礫2点が頭蓋骨前面20cmと左膝前方15cmで出土している。

性別と年齢 性別不明 幼児(3歳頃)

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。萌出している歯は、すべて乳歯である。第2乳臼歯は萌出途中である。第1・2大臼歯は歯冠のみで、歯槽骨内にある。

所見 礫は2点ともブロック状の砂岩の自然礫であり、埋葬の際、故意に遺骸に添えられたと考えられ、副葬品の可能性がある。層位から、第40号建物構築前の埋葬である。

第141号土壙墓 SK-218 (第159図)

位置 9区中央部のF11c0区で、第140号土壙墓の南西側4mに位置している。

確認状況 表砂を5.3m除去後、第40号建物跡の下層0.7mの標高4.2mで、土坑を調査している段階で人骨の頭部を確認した。

重複関係 第219号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径約1.2mのほぼ円形で、深さは15cmである。

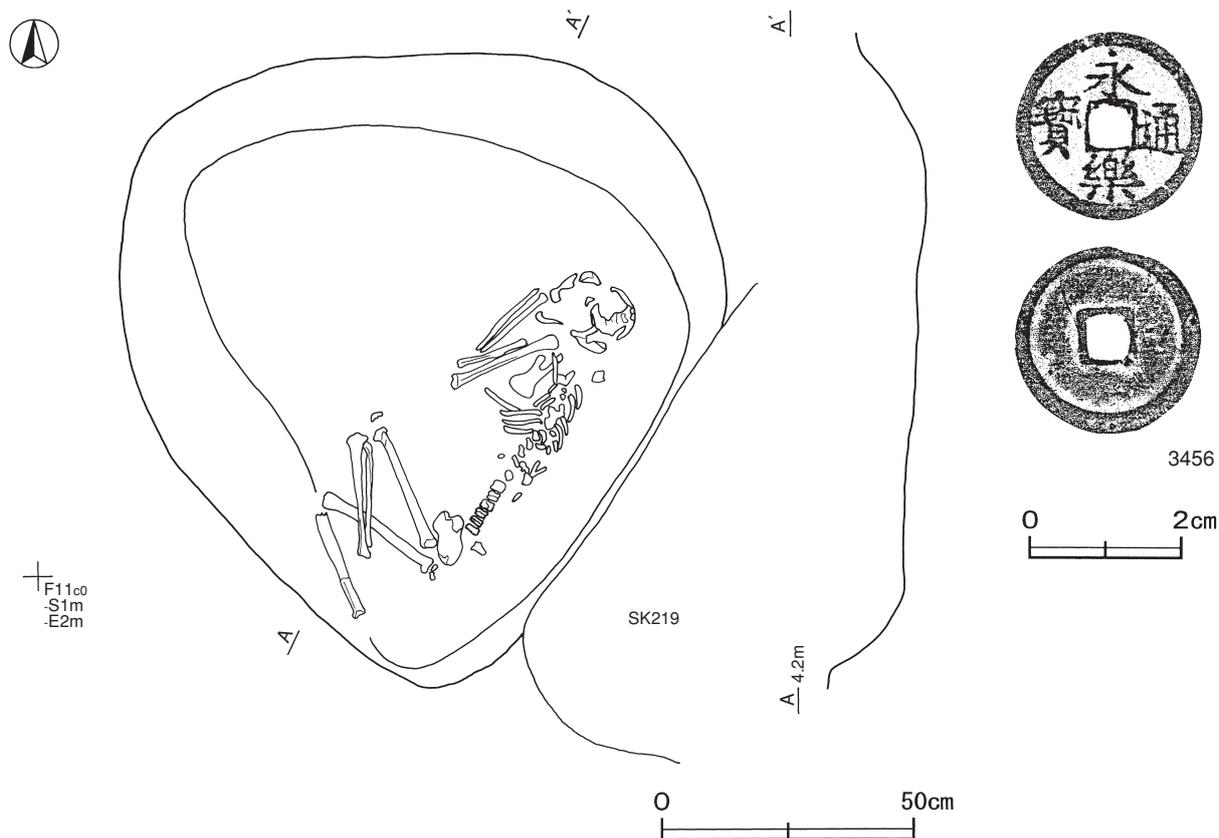
埋葬の状況 北東頭位北西面右側臥屈葬で埋葬されていた。左手は、顔の前面に添えられていた。

遺物出土状況 古銭1枚が左脇から出土している。

性別と年齢 女性 若年(13~14歳)

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。上腕骨は細く、華奢である。歯はすべて永久歯である。第2大臼歯が萌出している。第3大臼歯は歯槽骨内にも確認できなかった。

所見 古銭は永樂通寶(初鑄年1408)で副葬品である。層位から、第40号建物構築前の埋葬である。



第159図 第141号土壙墓・出土遺物実測図

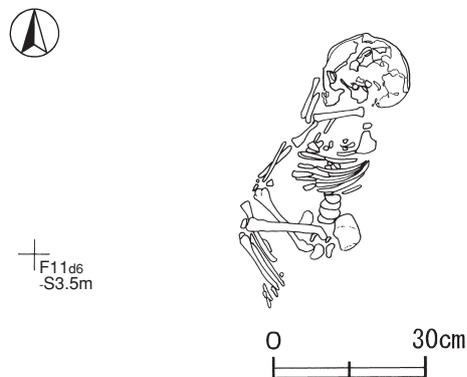
第141号土壙墓出土遺物観察表 (第159図)

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3456	永樂通寶	2.51	0.58	0.12	3.78	1408	銅	真書	左脇付近	

第142号土壌墓 SK-223 (第160図)

位置 9区中央部のF11d6区で、第49号建物跡の北側7mに位置している。

確認状況 表砂を3.5m除去後、第1号土手状遺構の下層1.3mの標高3.9mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。



埋葬の状況 北頭位西面右側臥屈葬で埋葬されていた。右手は右膝下に、左手は頭蓋骨右頬の下に置かれていた。

性別と年齢 性別不明 幼児(4~5歳)

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。残存状態は良好である。萌出している歯は、すべて乳歯である。第1大臼歯は歯冠のみで、下顎右歯槽骨内に確認できた。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。層位から、第1号土手状遺構構築前の埋葬である。

第160図 第142号土壌墓実測図

第143号土壌墓 SK-228 (第161図)

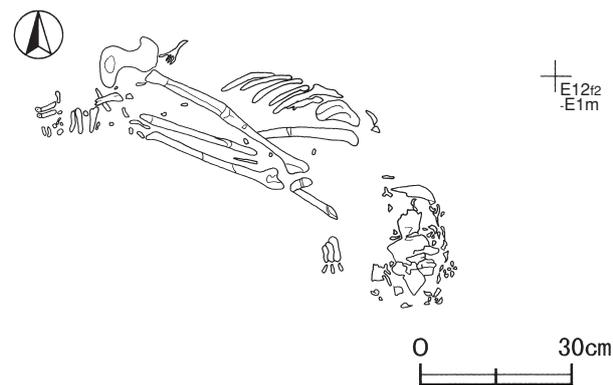
位置 9区北部のE12f2区で、第144号土壌墓の西側2mに位置している。

確認状況 表砂を6.9m除去後、第2号土手状遺構の下層1.5mの標高3.2mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 南東頭位南西面左側臥屈葬で埋葬されていた。四肢骨が小さく折りたたまれており、右膝が右肘上にあっった。

性別と年齢 女性 熟年

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいたが、ほぼ全身骨格が確認された。頭蓋骨は厚みのある骨である。四肢骨、



鎖骨が細く、華奢である。膝蓋骨は小さい。歯はすべて永久歯である。下顎右第1大臼歯と下顎左中切歯は、歯槽骨の閉塞がみられるため生前脱落である。歯全体に摩滅がみられ、特に下顎左の歯の摩滅が進んでいる。上顎、下顎ともに歯周症が進んでいる。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明であるが、層位から、第2号土手状遺構構築前の埋葬である。当遺跡では、南東頭位での埋葬は確認例が少ない。

第161図 第143号土壌墓実測図

第144号土壌墓 SK-241 (第162図)

位置 9区北部のE12e3区で、第143号土壌墓の東側2mに位置している。

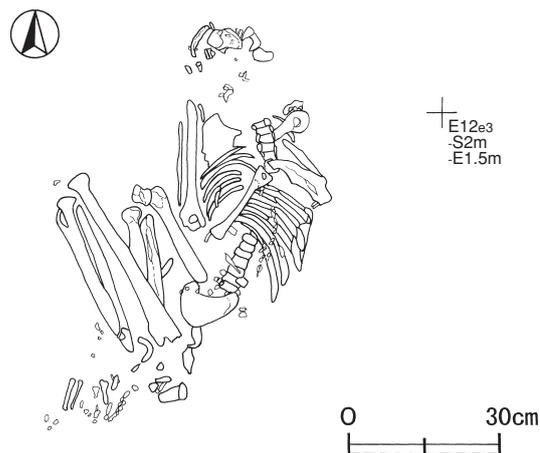
確認状況 表砂を7.1m除去後、第2号土手状遺構の下層1.3mの標高3.2mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位俯臥屈葬で埋葬されていた。顔は下の方向に向けられ、底面に接していた。下半身は体左にひねられていた。左手は頭蓋骨左に添えられていた。

性別と年齢 女性 熟年

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。大坐骨切痕は鈍角である。両大腿骨と右上腕骨はしっかりとしており、体つきは華奢であるが筋肉の発達が推測される。歯はすべて永久歯であり、大きさは小さい。磨滅はほとんどみられない。上顎下顎とも第1・3大臼歯は生前脱落である。全面が歯周症である。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。層位から、第2号土手状遺構構築前の埋葬である。



第162図 第144号土壙墓実測図

第145号土壙墓 SK-242 (第163図)

位置 9区北部のE12e3区で、第144号土壙墓の北側1mに位置している。

確認状況 表砂を7.2m除去後、第2号土手状遺構の下層1.5mの標高3.0mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

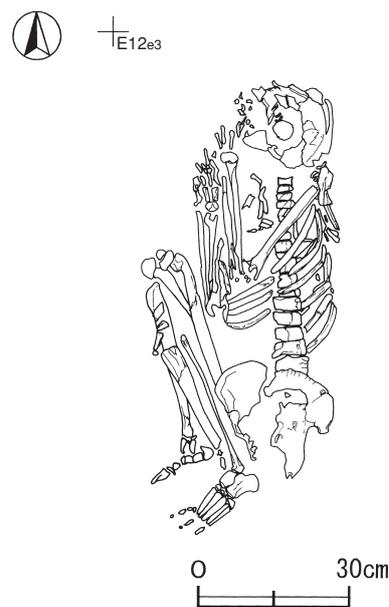
埋葬の状況 北頭位右側臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨は崩れていたが、下顎の状況から顔は北西に向いていたと推測される。

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋, 小皿)が出土している。

性別と年齢 女性 壮年(20歳代後半)

遺骸の特徴 腐朽が進んでいたが、ほぼ全身骨格が確認された。他の土壙墓の四肢骨と比べて、細身の四肢骨で、鎖骨も細い。歯は永久歯であり、第3大臼歯が萌出している。成長の不完全な歯がみられる。下顎右第2大臼歯は萌出不完全で、歯槽骨内にある。下顎左第2小臼歯と第1大臼歯は小さい。歯の磨滅は少ない。中切歯から第1大臼歯付近まで歯周症である。

所見 土師質土器は細片のため図示できなかった。埋葬時の混入である。層位から、第2号土手状遺構構築前の埋葬である。



第163図 第145号土壙墓実測図

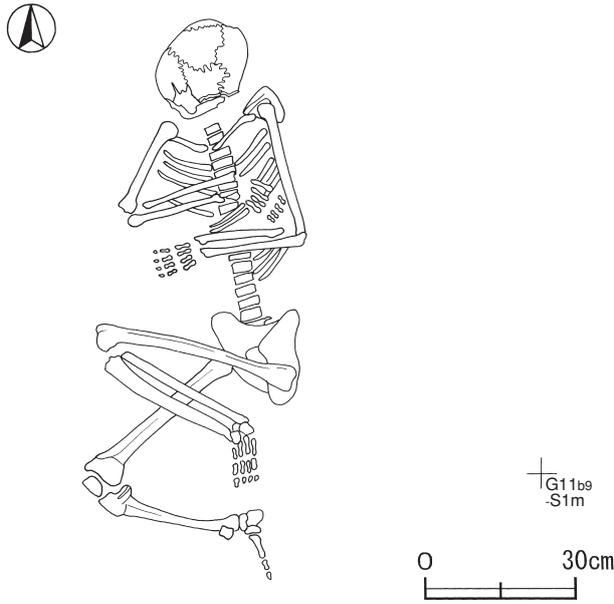
第148号土壙墓 SK-258 (第164図)

位置 9区南部のG11b8区で、第147号土壙墓の北東側5mに位置している。

確認状況 表砂を5.2m除去後、第34号整地面の下層0.7mの標高4.0mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位南西面右側臥屈葬で埋葬されていた。両腕は胸上で組まれていた。右膝はたてた状態であった。

性別と年齢 女性 壮年(30歳頃)



第164図 第148号土壙墓実測図

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。残存状態は良好である。頭蓋骨の乳様突起は小さい。頭蓋骨内側には針痕状の穴が多くみられる。骨盤の大坐骨切痕は鈍角である。歯はすべて永久歯である。下顎は、左右の第3大臼歯まで萌出している。下顎左右ともに、中切歯から第1小臼歯までほぼ同じ高さに摩滅している。下顎左と上顎右の第1大臼歯にも摩滅がみられる。う歯は2か所確認された。歯周症は軽度である。骨盤右側と、尾骨に骨増殖がある。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。層位から、第34号整地面構築前の埋葬である。

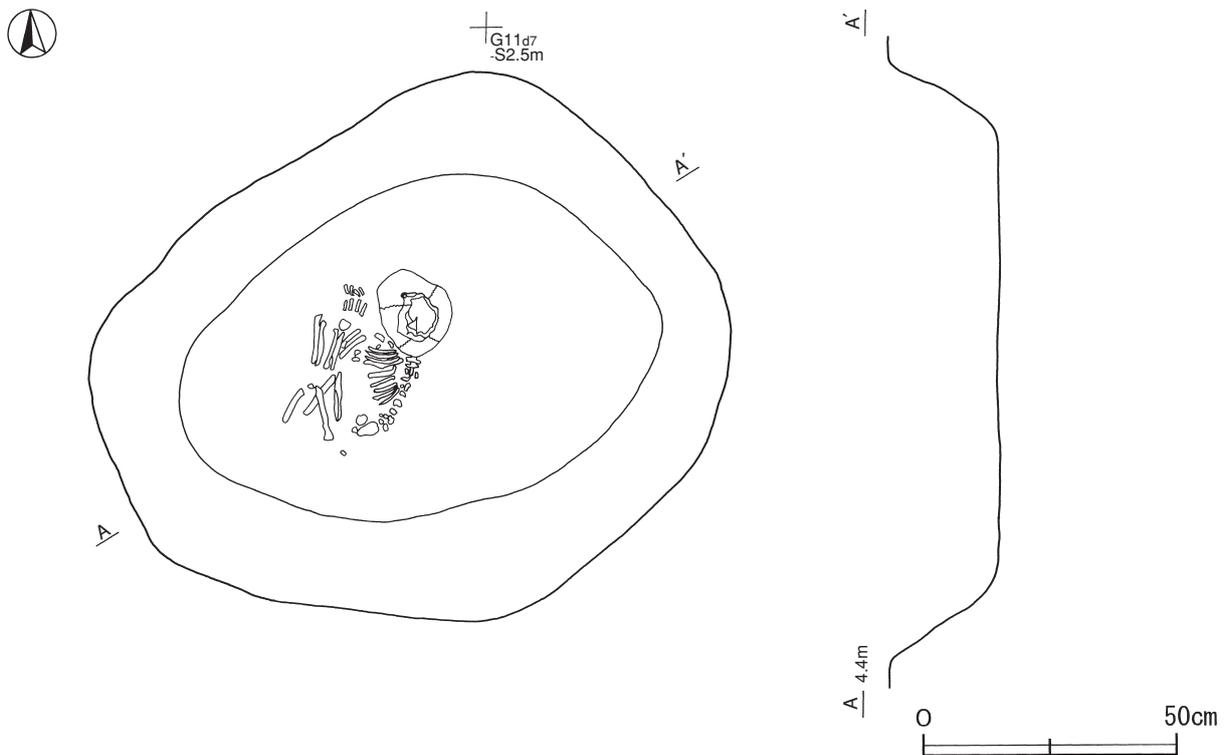
第149号土壙墓 SK-263 (第165図)

位置 9区南部のG11d6区で、第148号土壙墓の南西側12mに位置している。

確認状況 表砂を4.1m除去後、第34号整地面の下層0.3mの標高4.2mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかったが、土壙墓の最下部を認めることができた。

重複関係 第265号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 土壙墓の最下部は、長径1.3m、短径1.0mの楕円形で、深さは20cmである。



第165図 第149号土壙墓実測図

埋葬の状況 北東頭位北西面右側臥屈葬で埋葬されていた。上半身は俯臥に近い状態であった。

性別と年齢 性別不明 幼児（3～4歳）

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。残存状態は良好である。頭蓋骨の縫合は未完成である。萌出している歯は、すべて乳歯である。第1大臼歯は萌出前で、下顎歯槽骨内に確認できた。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。層位から、第34号整地面構築前の埋葬である。

第151号土壙墓 SK-285（第166図）

位置 9区中央部のF12a2区で、第152号土壙墓の北側2mに位置している。

確認状況 表砂を6.7m除去後、第39号整地面の下層0.3mの標高3.8mで人骨の脚部を確認した。掘り込みは確認できなかったが、本人骨を埋葬した土壙墓の最下部を認めることができた。

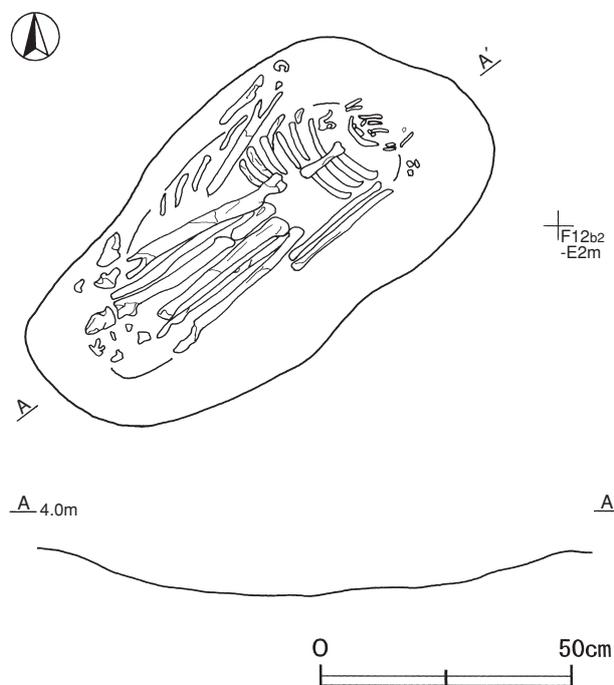
規模と形状 土壙墓の最下部は、長径1.0m、短径0.5mの楕円形で、深さは10cmである。

埋葬の状況 北東頭位仰臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨が崩れていたため、顔の向きは不明である。四肢骨は小さく折りたたまれていた。

性別と年齢 男性 壮年

遺骸の特徴 腐朽が進んでいたが、ほぼ全身骨格が確認された。頭蓋骨の眼窩上隆起はあまり発達していない。大腿骨の後稜の隆起が強く、筋肉の発達がうかがえる。膝蓋骨は大きい。歯は8本確認され、すべて永久歯である。どの歯にも強い磨滅みられ、第2小臼歯の磨滅が特に激しい。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。層位から、第39号整地面構築前の埋葬である。第152号土壙墓に近接し、同じ高さで埋葬されていることから、第152号土壙墓と前後して埋葬された可能性がある。



第166図 第151号土壙墓実測図

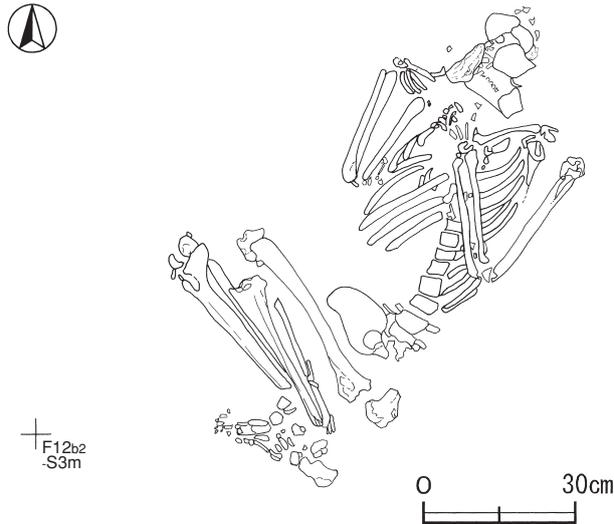
第152号土壙墓 SK-286（第167図）

位置 9区中央部のF12b2区で、第151号土壙墓の南側2mに位置している。

確認状況 表砂を6.5m除去後、第39号整地面の下層0.3mの標高3.8mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北東頭位北西面仰臥屈葬で埋葬されていた。右手は右肩付近に、左手は胸上に置かれていた。両足は小さく折りたたまれていた。

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋）が覆土から出土している。



第167図 第152号土壙墓実測図

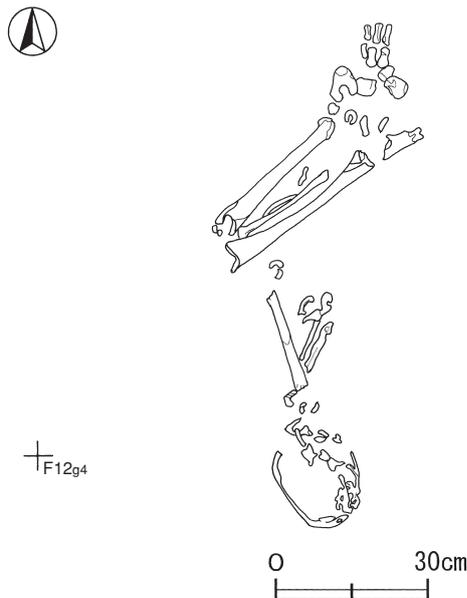
性別と年齢 女性 壮年 (30歳代)

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認された。残存状態は良好である。大坐骨切痕は鈍角で、大腿骨後稜が発達していない。歯はすべて永久歯である。第3大臼歯は歯槽骨にも痕跡がないことから、欠歯と考えられる。歯の磨滅は少ない。歯周症も軽度である。

所見 土師質土器片は細片のため図示できなかった。埋葬時の混入と考えられる。層位から、第39号整地面構築前の埋葬である。第151号土壙墓と前後して埋葬された可能性がある。

第154号土壙墓 SK-300 (第168図)

位置 9区中央部のF12f4区で、第136号土壙墓の南側5mに位置している。



第168図 第154号土壙墓実測図

確認状況 表砂を9.2m除去後、標高3.8mで人骨の頭部を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 南頭位屈葬で埋葬されていた。四肢骨の状況から仰臥での埋葬と推定される。

性別と年齢 男性 壮年

遺骸の特徴 骨の腐朽がかなり進んでいたが、右腕以外の上肢骨の計測ができた。頭蓋骨はかなり厚みがある。確認された歯は15本で、すべて永久歯である。歯全体の磨滅は少ない。第2大臼歯は、う歯である。

所見 四肢骨と骨盤の形状から、男性と推定した。第47号建物跡の下層から確認されているが、本人骨との関係は不明である。当遺跡では、南頭位での埋葬の確認例が少ない。

第155号土壙墓 SK-303 (第169図)

位置 9区中央部のF12c2区で、第153号土壙墓の南西側3mに位置している。

確認状況 表砂を6.5m除去後、標高3.9mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

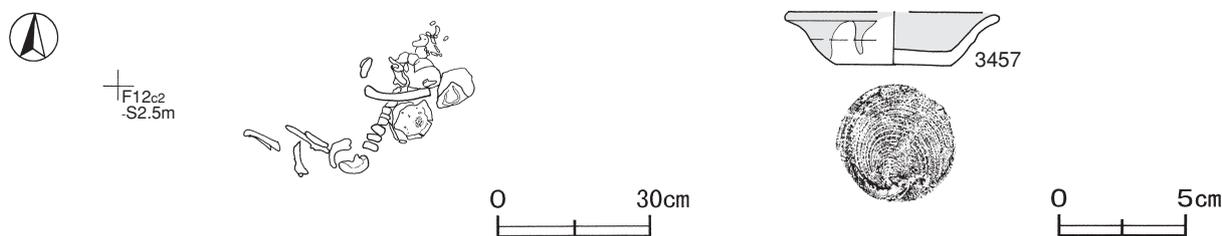
埋葬の状況 北東頭位屈葬で埋葬されていた。下顎の状況から顔は北西向き、四肢骨の状況から右側臥での埋葬と推定される。

遺物出土状況 陶器1点(小皿)と貝1点(ウバガイ)が脇上から、貝の上に陶器が載せられた状態で出土している。

性別と年齢 性別不明 乳児(生後7~8ヶ月)

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいたが、四肢骨の一部が計測できた。歯は乳歯で、12本確認された。歯根部は完全に形成されておらず、萌出途中であると推測される。

所見 3457と貝は副葬品である。埋葬時期は、3457から16世紀前半またはそれ以降と考えられる。授乳期の死亡と推測される。第39号整地面の下層から確認されているが、関係については不明である。



第169図 第155号土壙墓・出土遺物実測図

第155号土壙墓出土遺物観察表（第169図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3457	小皿	陶器	8.2	2.1	4.6	灰白・淡黄	灰釉	底部回転糸切り	瀬戸・美濃 16C前半	左脇上	70% 大塚1・PL63

表18 9区土壙墓一覧表

番号	区	遺構番号	位置	標高	性別	推定死亡年齢	推定身長	各四肢骨の長さ（単位cm）												備考
								上腕骨		橈骨		尺骨		大腿骨		脛骨		腓骨		
								右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
110	9	SK 1	F 12b1	6.9	男	壮年	151	26.0	(22.0)	(20.4)	(19.2)	(22.4)	(22.5)	39.0	(34.0)	-	(30.5)	(28.0)	-	SI39上層
111	9	SK 2	G 12c4	6.3	-	2~3歳	-	11.0	10.7	(8.2)	9.0	(8.2)	(8.2)	13.3	(13.0)	(9.0)	11.0	10.6	10.3	
112	9	SK 4	F 11j9	5.1	-	生後6ヶ月未満	-	(4.0)	9.5	(6.5)	6.5	(5.0)	(7.0)	11.0	(10.8)	9.0	(9.0)	(8.5)	(8.0)	
113	9	SK 5	G 11a9	5.2	-	2歳前後	-	(8.0)	(5.0)	(4.0)	(4.5)	(4.0)	(4.0)	-	(12.0)	-	-	-	-	
114	9	SK 6	G 12d2	5.1	-	1~1歳半	-	(8.0)	(7.5)	-	(8.0)	-	(2.0)	(11.0)	(10.5)	-	(10.0)	-	(6.5)	
115	9	SK 33	F 12b1	4.4	-	1歳頃	-	-	-	-	-	(6.7)	(4.5)	(8.8)	(8.6)	(6.1)	(4.0)	-	(4.3)	SI40下層
116	9	SK 34	F 12b1	4.0	-	1歳半頃	-	(9.5)	(8.0)	-	-	-	-	(8.5)	(8.8)	(7.9)	(8.6)	(8.4)	(8.3)	SI40下層
117	9	SK 44	F 11i8	4.8	-	生後9ヶ月頃	-	(5.7)	(8.0)	-	(7.5)	-	(5.3)	10.6	10.5	(6.5)	8.5	(8.2)	(6.9)	SI41下層
118	9	SK 45	F 12h3	5.8	-	生後3~6ヶ月	-	(5.2)	-	(5.1)	-	-	-	8.4	8.4	(7.0)	7.1	(6.5)	-	SI47下層
119	9	SK 49	F 11g5	5.0	-	1~1歳半	-	-	(8.0)	-	(8.0)	-	-	17.2	(15.1)	-	-	-	-	土手1下層
120	9	SK 61	F 11d9	4.7	-	4~5歳	-	-	(11.6)	-	-	-	(6.5)	-	(13.0)	(7.5)	(6.8)	-	-	
121	9	SK 62	F 11e8	4.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
122	9	SK 80	F 11h5	4.9	-	5歳以下	-	(11.2)	(11.4)	-	(9.5)	-	(10.6)	(14.0)	(16.5)	(11.5)	(13.0)	(11.3)	(10.0)	土手1下層
123	9	SK 98	E 12f2	3.6	男	老年	164	(26.0)	29.5	(18.3)	23.5	(21.5)	(24.5)	(33.5)	44.0	-	(32.0)	-	-	土手2下層
124	9	SK 101	F 12c1	4.4	男	壮年	-	(28.5)	-	(22.0)	(16.0)	26.0	26.0	-	-	(31.0)	-	(30.0)	-	SI40下層
125	9	SK 104	F 12d2	4.4	-	3~4歳	-	(11.0)	(7.2)	(6.5)	-	(5.5)	(8.5)	(14.5)	(8.0)	(12.0)	(10.8)	(7.0)	(6.5)	SI40下層
126	9	SK 105	F 12c3	4.5	-	4歳頃	-	11.5	11.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SI40下層
127	9	SK 107	F 12d1	4.4	-	1~1歳半	-	9.0	9.5	(6.7)	7.0	(8.0)	-	(11.1)	(9.5)	(9.0)	-	-	-	SI40下層
128	9	SK 108	F 11e0	4.5	-	5~6歳	-	(5.5)	14.0	(9.0)	(8.5)	(6.5)	(8.5)	19.0	19.5	16.0	(16.8)	(15.5)	(15.0)	
129	9	SK 110	F 11c0	4.3	男	40歳代	-	-	(11.0)	-	-	(18.0)	(15.0)	(26.0)	-	(24.0)	-	(24.0)	-	SI40下層
130	9	SK 111	F 11f0	4.6	-	3~4歳	-	-	-	-	-	-	-	(7.2)	(9.5)	-	-	-	-	SI41下層
131	9	SK 153	E 12d3	3.6	女	壮年	-	(25.5)	(24.2)	(19.5)	(18.5)	(21.5)	(21.5)	(31.5)	(39.0)	(32.0)	(35.0)	(28.0)	(29.0)	土手2下層
132	9	SK 161	F 12f2	3.3	女	熟年~老年	144	26.2	(17.0)	21.0	21.0	22.0	22.0	(32.3)	(28.2)	-	(16.0)	(22.0)	(15.0)	土手2下層
133	9	SK 163	E 12i1	3.5	女	壮年~熟年	151	30.0	29.2	(27.0)	(20.0)	(19.3)	(21.0)	40.0	(38.5)	33.0	(33.0)	(27.0)	(31.0)	土手1下層
134	9	SK 174	F 12e2	4.2	男	壮年	159	(27.5)	30.5	22.4	23.0	24.0	24.0	(28.4)	42.1	33.9	34.4	-	32.7	SI39下層
135	9	SK 175	F 12d1	4.3	女	壮年	147	27.7	(17.7)	(18.4)	(18.7)	(20.9)	(15.6)	(30.0)	(15.1)	(13.7)	(15.0)	(22.5)	(18.6)	SI40下層
136	9	SK 191	F 12e3	4.2	男	熟年~老年	-	(26.9)	(23.6)	-	-	-	-	(28.0)	(37.8)	(22.3)	(29.0)	(27.0)	(17.5)	SI39下層
137	9	SK 193	F 12d1	4.3	-	生後6ヶ月頃	-	8.0	7.9	(5.8)	(5.7)	(5.9)	(6.2)	(9.5)	(9.0)	(6.6)	(8.0)	(7.2)	(5.2)	SI40下層
138	9	SK 198	F 12e3	4.3	男	30歳代	162	(26.0)	29.6	23.5	(22.1)	24.7	(22.5)	(39.1)	43.5	(31.7)	35.3	(30.7)	34.9	SI39下層
139	9	SK 212	F 11d9	4.3	-	子供	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SI39下層
140	9	SK 216	F 12b1	4.0	-	3歳頃	-	(11.0)	(11.0)	-	9.5	(6.0)	10.5	(14.0)	(15.0)	(10.0)	(12.3)	(7.8)	(12.0)	SI40下層
141	9	SK 218	F 11c0	4.2	女	13~14歳	-	(20.0)	(20.0)	(11.0)	(14.0)	(13.5)	(15.5)	(23.2)	(31.5)	(22.0)	(23.0)	(20.0)	(20.0)	SI40下層

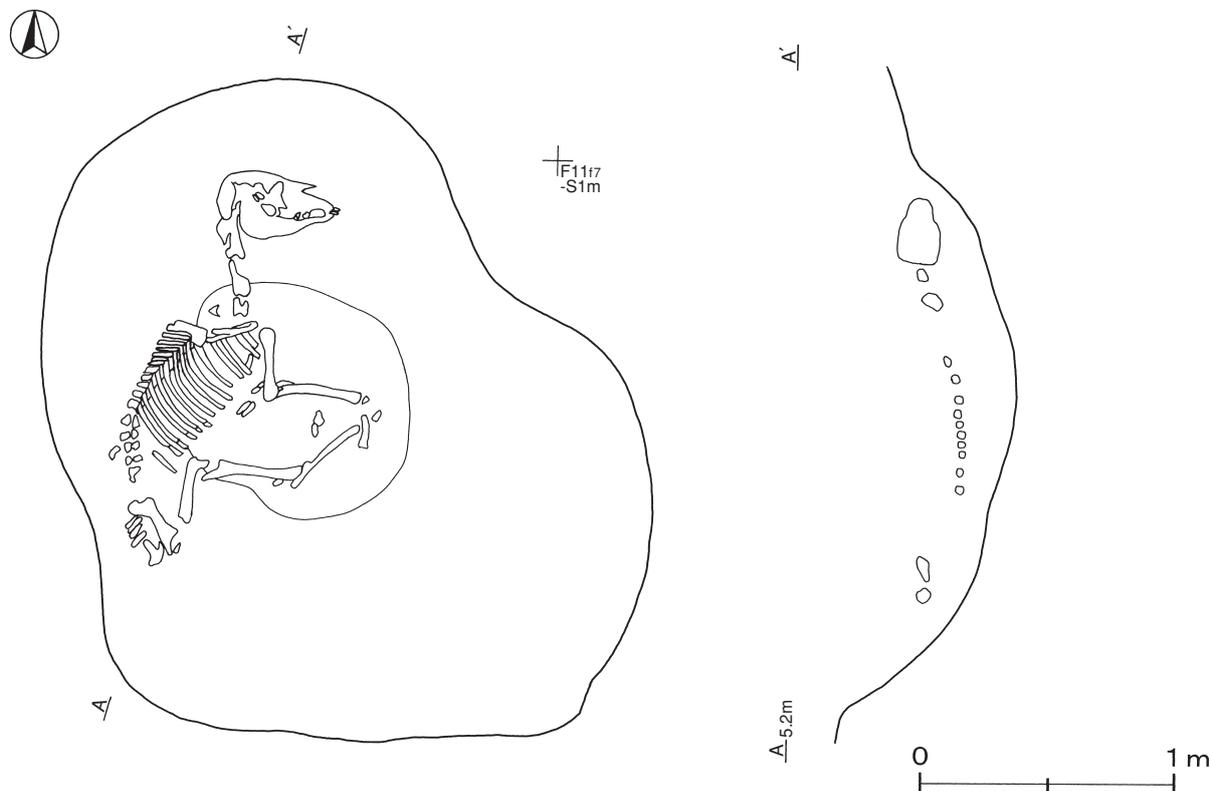
番号	区	遺構番号	位置	標高	性別	推定死亡年齢	推定身長	各四肢骨の長さ(単位cm)												備考
								上腕骨		橈骨		尺骨		大腿骨		脛骨		腓骨		
								右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
142	9	SK223	F11d6	3.9	-	4~5歳	-	11.5	(11.4)	9.3	(9.6)	8.8	(6.7)	14.9	15.0	12.2	12.3	12.0	12.2	土手1下層
143	9	SK228	E12f2	3.2	女	熟年	-	(27.5)	(22.0)	(13.0)	(21.5)	(23.5)	(23.0)	(41.5)	(40.0)	(30.0)	(34.0)	(24.0)	(14.5)	土手2下層
144	9	SK241	E12e3	3.2	女	熟年	-	(31.5)	(28.5)	(22.0)	23.5	(21.0)	22.0	(40.5)	(38.0)	(32.5)	(37.0)	(30.0)	(30.0)	土手2下層
145	9	SK242	E12e3	3.0	女	20歳代後半	-	(29.0)	(28.0)	(23.0)	(18.0)	(22.5)	(21.0)	(45.0)	-	(33.5)	(34.5)	(28.5)	(30.0)	土手2下層
146	9	SK243	E12f2	3.1	男	熟年	-	(30.0)	(31.0)	(24.0)	23.5	26.0	(18.5)	(44.0)	(45.0)	(30.5)	(34.0)	(17.0)	(14.5)	土手2下層
147	9	SK253	G11b7	4.1	-	新生児カ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	HK34下層
148	9	SK258	G11b8	4.0	女	30歳頃	147	25.9	27.3	20.9	19.8	21.3	22.1	38.5	38.3	30.4	30.5	28.8	28.8	HK34下層
149	9	SK263	G11d6	4.2	-	3~4歳	-	(10.5)	(9.5)	7.9	7.8	8.9	(9.0)	(12.5)	(13.4)	(11.2)	10.8	(10.5)	10.6	HK34下層
150	9	SK284	F11j8	3.4	男	成人	-	-	-	-	-	-	-	(21.0)	(21.5)	-	-	-	-	SI51下層
151	9	SK285	F12a2	3.8	男	壮年	-	(24.5)	(24.5)	(25.0)	(25.0)	(26.0)	(26.0)	(41.0)	(41.0)	(35.0)	(35.0)	(32.5)	(32.5)	HK39下層
152	9	SK286	F12b2	3.8	女	30歳代	146	27.6	27.6	21.2	21.5	23.0	23.5	38.0	37.0	32.0	32.5	31.5	31.4	HK39下層
153	9	SK287	F12b2	3.9	-	1~1歳半	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	HK39下層
154	9	SK300	F12f4	3.8	男	壮年	-	-	(24.0)	-	(18.0)	(25.5)	(19.0)	(36.0)	(32.0)	(13.0)	(28.0)	(29.0)	(23.0)	
155	9	SK303	F12c2	3.9	-	生後7~8ヶ月	-	(7.5)	(7.0)	-	-	-	-	(6.5)	(6.5)	(5.8)	(6.5)	-	-	
156	9	SK323	F12g4	5.3	-	幼児	-	-	(10.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SI47下層
157	9	SK326	G11i7	4.7	-	1歳半~2歳	-	(6.2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	9	SK180	-	-	-	0歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	9	SK266①	E12-	-	-	成人	-	-	-	-	-	-	-	(38.5)	(38.5)	(28.5)	(32.0)	-	-	
-	9	SK266②	E12-	-	-	子供	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	9	SK267	G12-	-	男	熟年~老年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	9	SK329	-	-	-	1歳頃	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(1) 土壌

出土した動物遺骸の中で、埋葬の状況を確認できた馬4体、犬2体について、その概要を記述する。

第7号土壌 SK-74 (第170・171図)

位置 9区中央部のF11f6区で、第41号建物跡の北西側12mに位置している。



第170図 第7号土壌実測図

確認状況 表砂を2.7m除去後、第1号土手状遺構の下層0.3m、標高4.9mで土坑調査中に馬骨の頭部が確認された。

規模と形状 掘り込みの最下部は、長軸3.0m、短軸2.4mの不定形で、深さは70cmである。

覆土 砂B層の単一層であり、埋葬時の埋め戻しと考えられる。

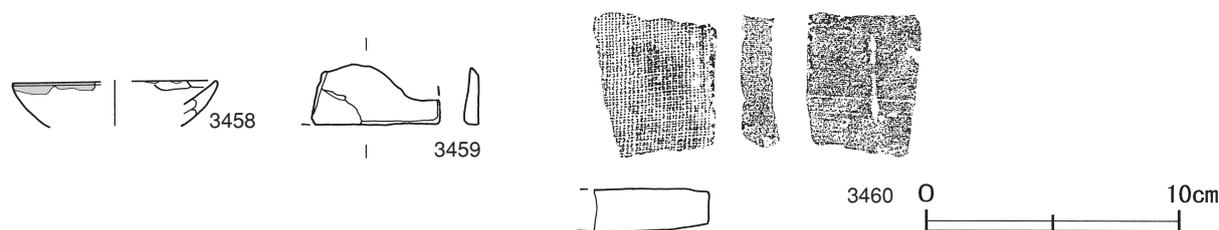
埋葬の状況 頭位は北方向で、前肢骨と後肢骨を東側に向け、椎骨を西側にした状態で埋葬されていた。

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）、石製品片1点（硯）、瓦片1点（平瓦）が覆土から出土している。

雌雄と年齢 雄 2歳半～3歳

遺骸の特徴 ほぼ1体分が確認された。頭蓋骨や四肢骨、体幹骨が残存していた。確認された歯の歯根は、完全にできあがっていない。犬歯は萌出前である。

所見 3458～3460は破片であり、出土状況から埋葬時の混入である。層位から、第1号土手状遺構構築前の埋葬である。第119号土壌墓とほぼ同じ標高で埋葬されているが、関係については不明である。



第171図 第7号土壌出土遺物実測図

第7号土壌出土遺物観察表（第171図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3458	小皿	土師質土器	[8.0]	(1.8)	-	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ナデ 口縁部油煙付着	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴		出土位置	備考	
3459	硯	(2.4)	(5.0)	0.6	(7.4)	粘板岩	硯背・硯側の一部カ		覆土中		
3460	平瓦	(6.4)	(4.9)	1.8	(82.9)	長石・雲母	凹面ナデ 凸面布目痕		覆土中		

第8号土壌 SK-88（第172図）

位置 9区南部のG11c8区で、第9号土壌の北東側2mに位置している。

確認状況 表砂を4.3m除去後、第44号建物跡の下層0.4m、標高4.4mで馬骨の脚部が確認された。掘り込みは確認できなかったが、土壌の最下部を認めることができた。

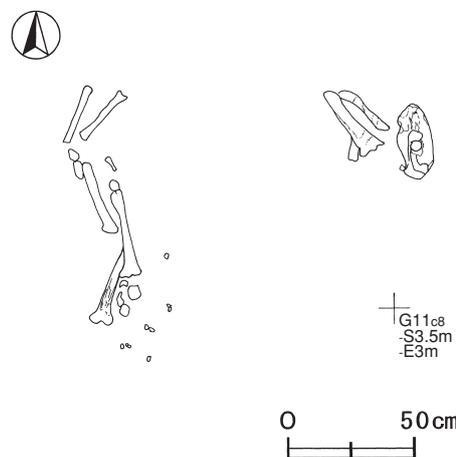
規模と形状 土壌の最下部は、長径1.8m、短径1.1mの楕円形で、深さは18cmである。

埋葬の状況 頭位は北東方向で、後肢骨を北側に向けた状態で埋葬されていた。椎骨は確認されなかったが、後肢骨の確認状況から、南東側にあったと推測される。

雌雄と年齢 雌 4～5歳

遺骸の特徴 頭蓋骨と後肢骨が残存していた。確認された歯は成長しており、歯根が長く、若い馬である。

所見 土壌に伴う遺物が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。層位から、第44号建物構築前の埋葬である。第9号土壌と近接しており、前後して埋葬された可能性が考えられる。

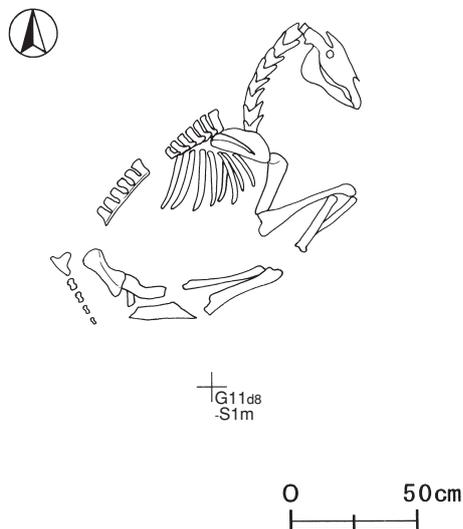


第172図 第8号土壌実測図

第9号土壌 SK-89 (第173図)

位置 9区南部のG11d8区で、第8号土壌の南西側2mに位置している。

確認状況 表砂を4.1m除去後、第44号建物跡の下層0.4m、標高4.4mで馬骨の頭部が確認された。掘り込みは確認できなかったが、土壌の最下部を認めることができた。



第173図 第9号土壌実測図

規模と形状 土壌の最下部は、長径2.0m、短径1.3mの楕円形で、深さは19cmである。

埋葬の状況 頭位は北東方向で、前肢骨と後肢骨を南東側に向け、椎骨を北西側にした状態で埋葬されていた。

雌雄と年齢 雄 15~16歳

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいたが、頭蓋骨と四肢骨、体幹骨の一部が残存していた。歯は、犬歯が萌出していることが確認された。骨格から小型の馬と考えられる。

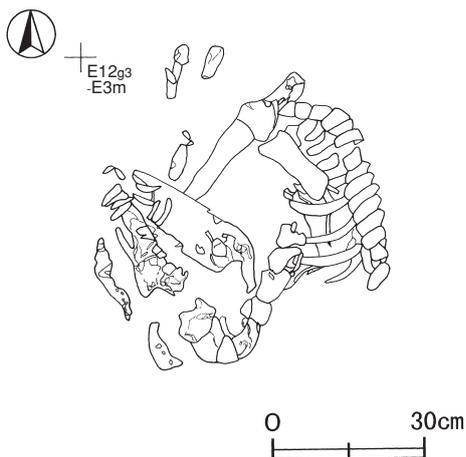
所見 馬骨観察中に、10歳頃の馬骨が混じっていることが確認された。同時に埋葬されたか、混入かは不明である。層位から、第44号建物構築前の埋葬である。近接している第8号土壌と前後して、埋葬された可能性が考えられる。

第10号土壌 SK-162 (第174図)

位置 9区北部のE12g3区で、第132号土壌墓の南東側5mに位置している。

確認状況 表砂を6.8m除去後、第2号土手状遺構の下層0.9m、標高3.4mで馬骨の頭部が確認された。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 頭位は北方向で、後肢骨を西側に向け、椎骨を東側にした状態で埋葬されていた。脛骨が曲げられた状態で、頭骨が後肢膝付近にあった。下顎は北側、頭蓋骨は南側であった。



第174図 第10号土壌実測図

雌雄と年齢 雄 不明

遺骸の特徴 頭骨と後肢骨、前肢骨の一部、体幹骨の一部および歯が確認された。骨の腐朽が進んでいた。歯は、犬歯が萌出している。

所見 ほぼ1体分の骨が確認できた。頸部が不自然に曲がっているのは、頭部が持ち上げられた状態で埋葬され、後に砂圧によって頸部が曲がり、頭骨の向きが逆になったものと推測される。層位から、第2号土手状遺構構築前の埋葬であり、第132号土壌墓と前後して埋葬された可能性が考えられる。

第11号土壌 SK-320 (第175図)

位置 9区中央部のF12j1区で、第50号建物跡の東側6mに位置している。

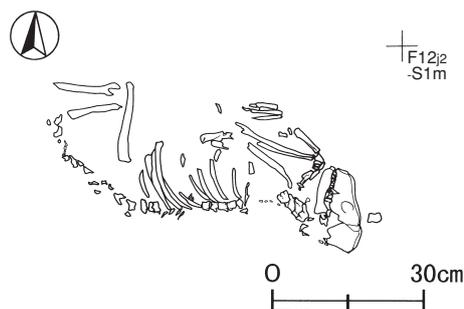
確認状況 表砂を6.2m除去後、標高4.1mで犬の骨格が確認された。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 頭位は東方向で、前肢骨と後肢骨を北側に向け、椎骨を南側にした状態で埋葬されていた。

雌雄と年齢 不明 成犬

遺骸の特徴 ほぼ1体分が確認された。頭蓋骨、四肢骨、体幹骨及び歯が残存しており、骨の状態は良好であった。

所見 土壌に伴う遺物が確認されなかったので、埋葬の時期は不明である。第50号建物跡との標高差は1.0mほどである。



第175図 第11号土壌実測図

第12号土壌 SK-225 (第176図)

位置 9区中央部のF11f8区で、第49号建物跡の東側9mに位置している。

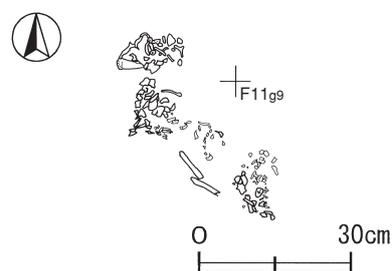
確認状況 表砂を5.7m除去後、標高4.1mで犬の骨格が確認された。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 頭位は北西方向で、前肢骨と後肢骨を南西側に向け、椎骨を北東側にした状態で埋葬されていた。

雌雄と年齢 不明 成犬カ

遺骸の特徴 ほぼ1体分が確認された。骨の腐朽が進んでおり、頭蓋骨や体幹骨は崩れていた。

所見 土壌に伴う遺物が確認されなかったので、埋葬の時期は不明である。第49号建物跡との標高差は、0.4mほどである。



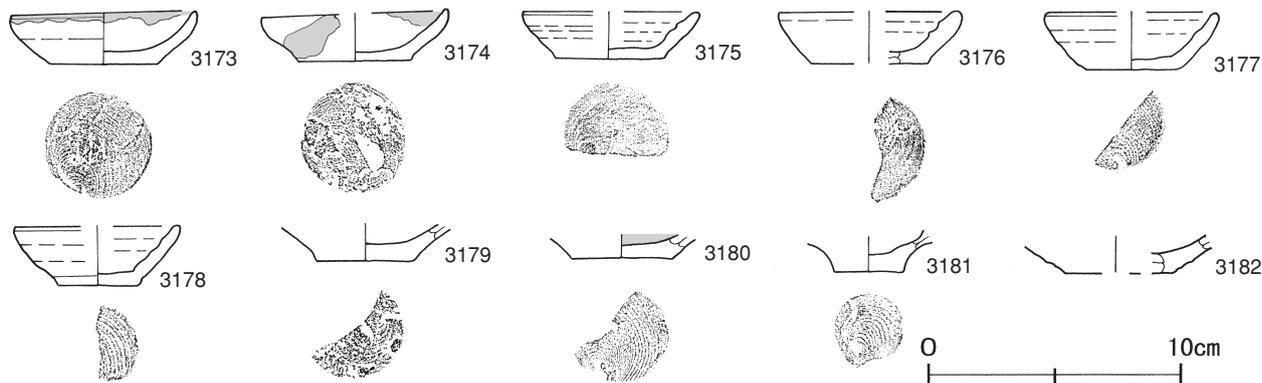
第176図 第12号土壌実測図

表19 9区土壌一覧表

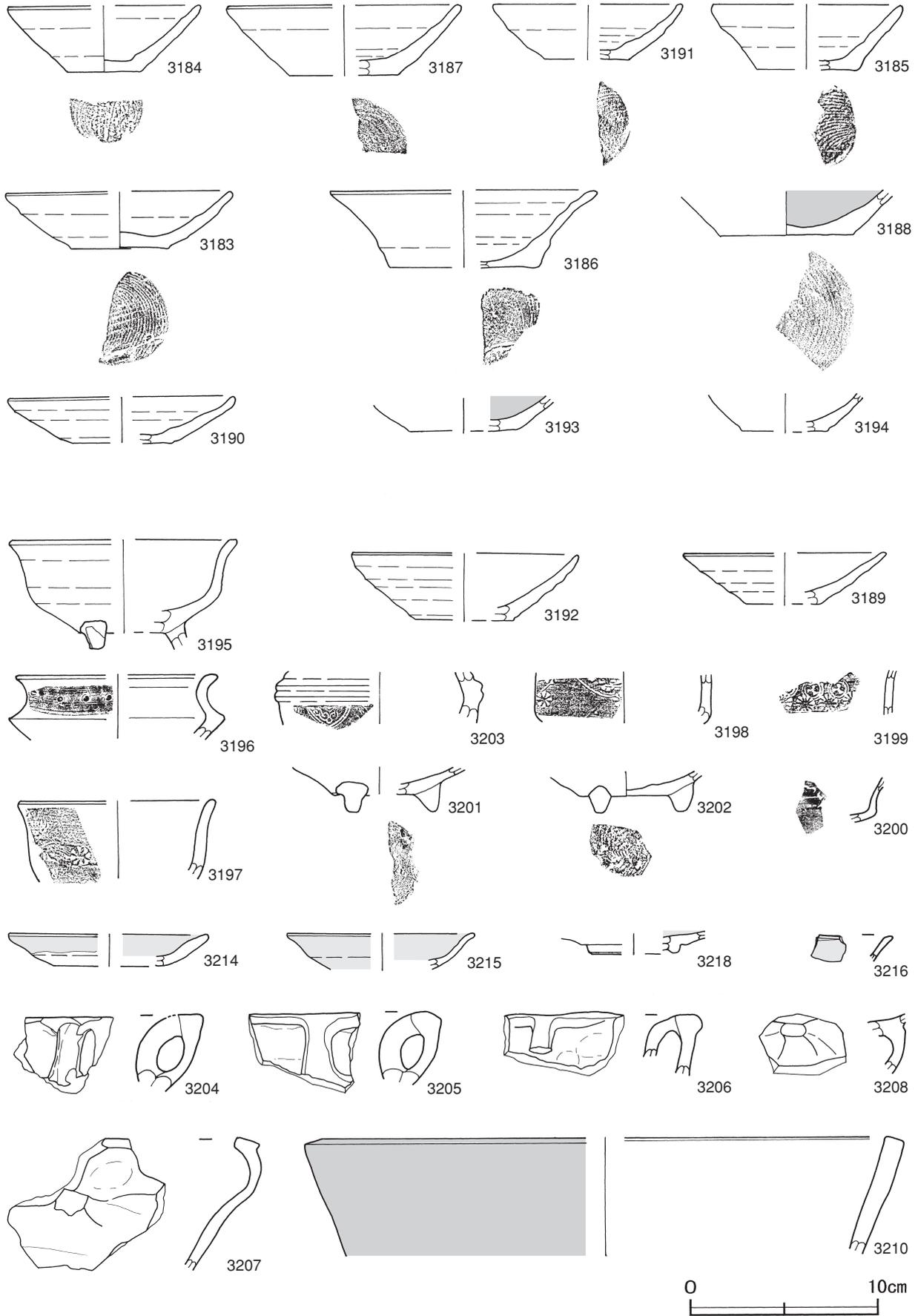
番号	区	遺構番号	位置	標高	動物名	雌雄	推定死亡年齢	推定体高	確認された部位	備考
7	9	SK 74	F 11f6	4.9	馬	雄	2歳半~3歳		1個体分	犬歯萌出前
8	9	SK 88	G 11c8	4.4	馬	雌	4~5歳		1個体分	
9	9	SK 89	G 11d8	4.4	馬	雄	15~16歳		1個体分	犬歯あり
10	9	SK162	E 12g3	3.4	馬	雄	-		1個体分	犬歯あり
11	9	SK320	F 12j1	4.1	犬	-	成犬		1個体分	
12	9	SK225	F 11f8	4.1	犬	-	成犬カ		1個体分	

(12) 遺構外出土遺物

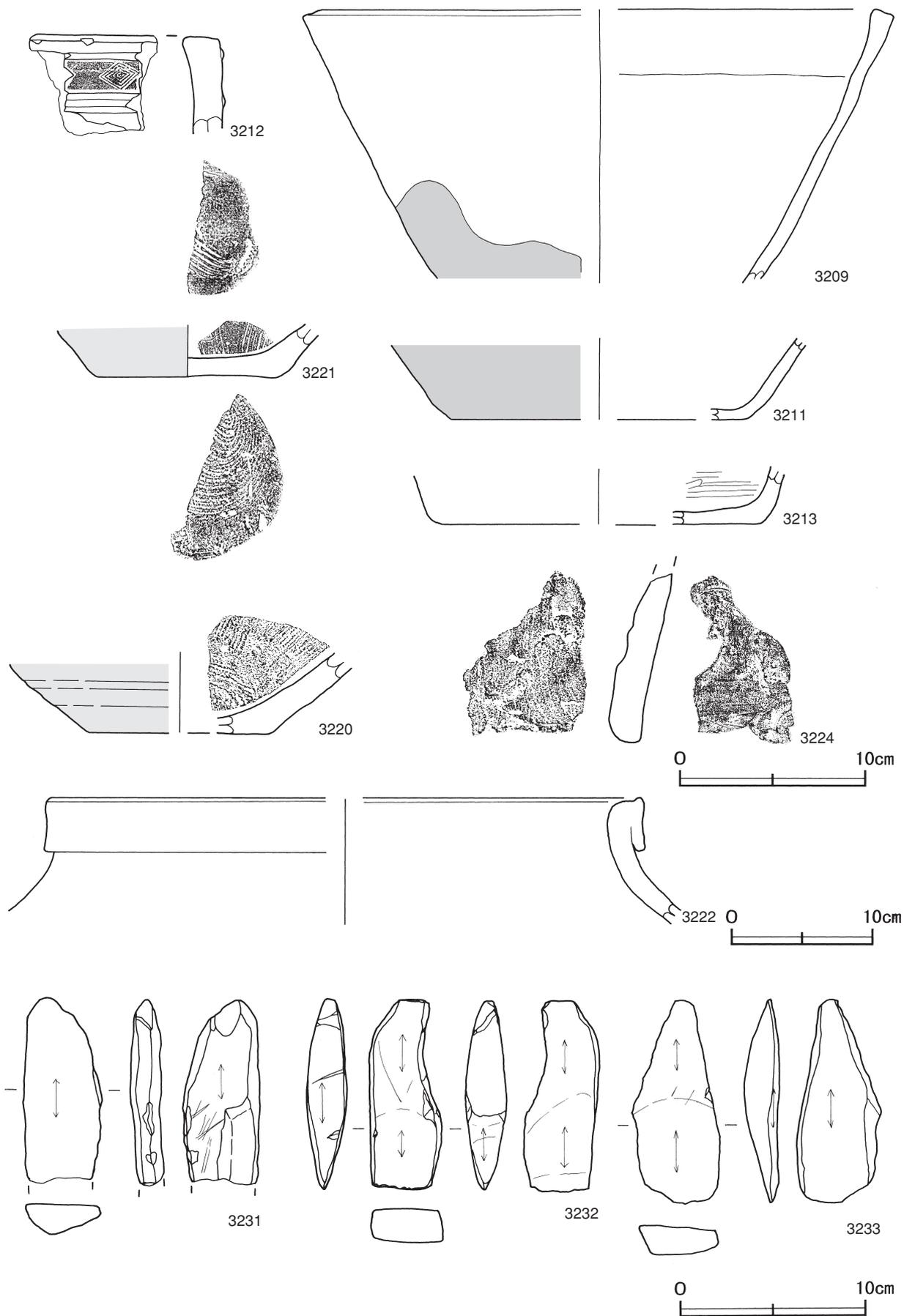
遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び出土遺物観察表で記載する。



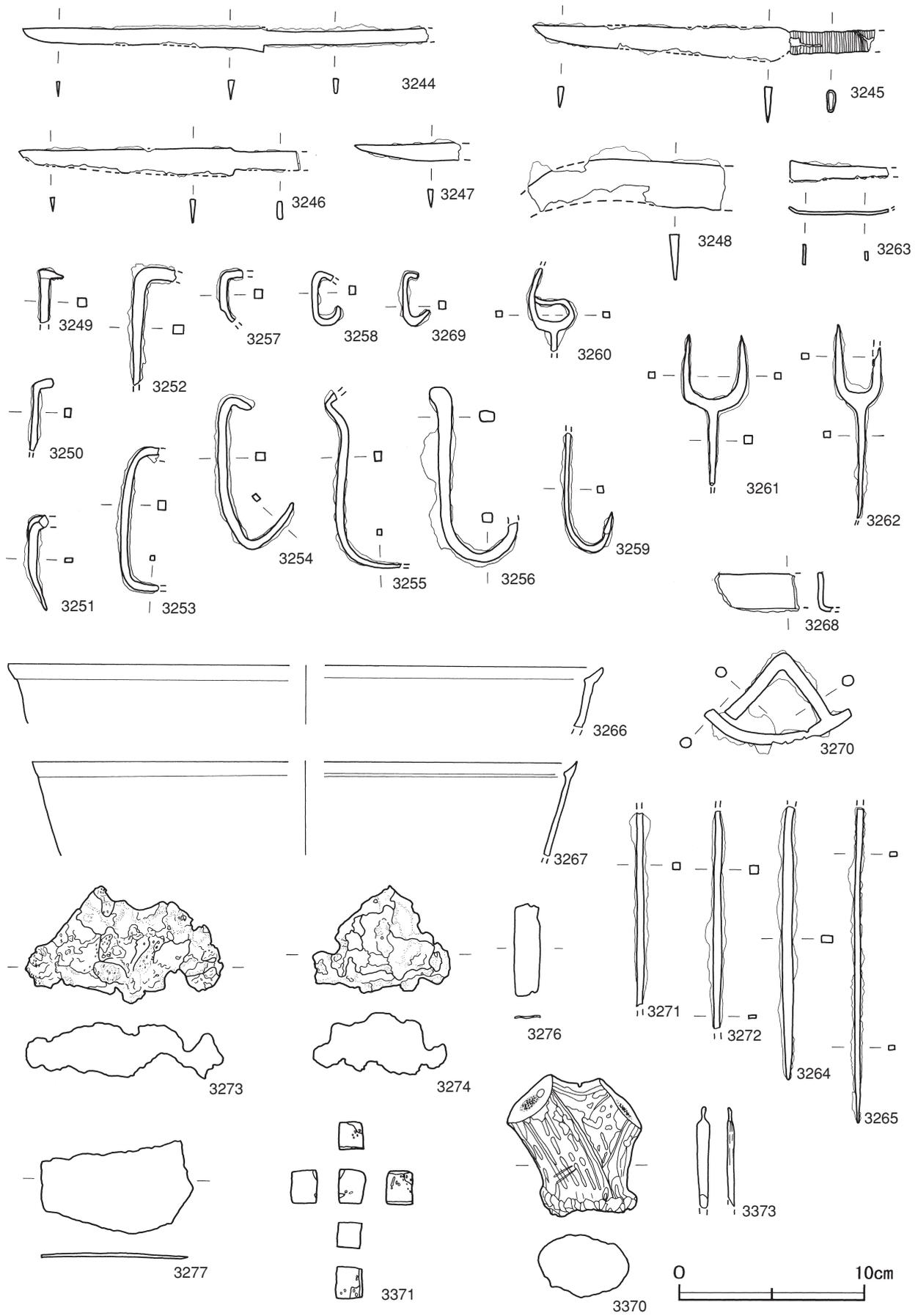
第177図 遺構外出土遺物実測図(1)



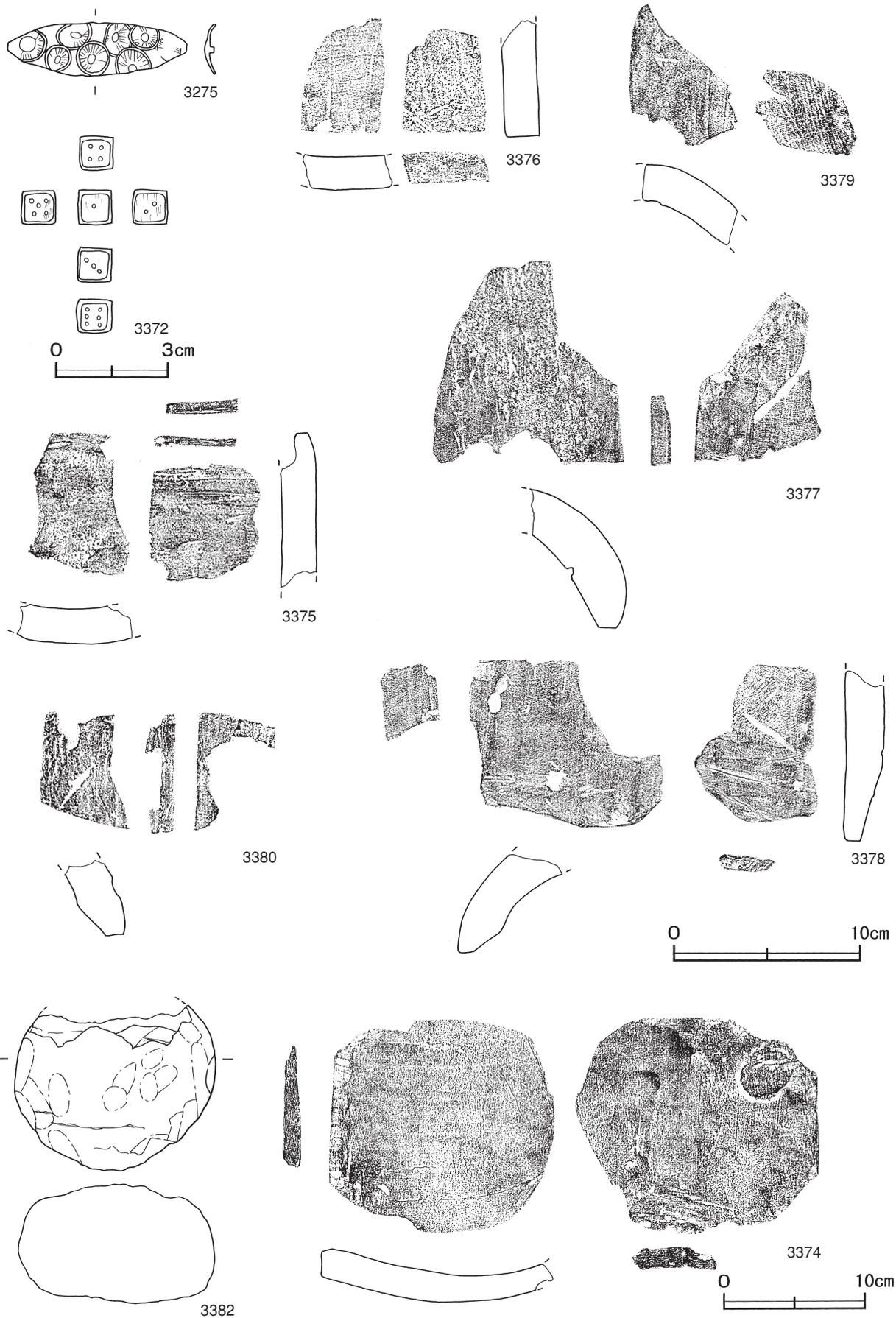
第178図 遺構外出土遺物実測図(2)



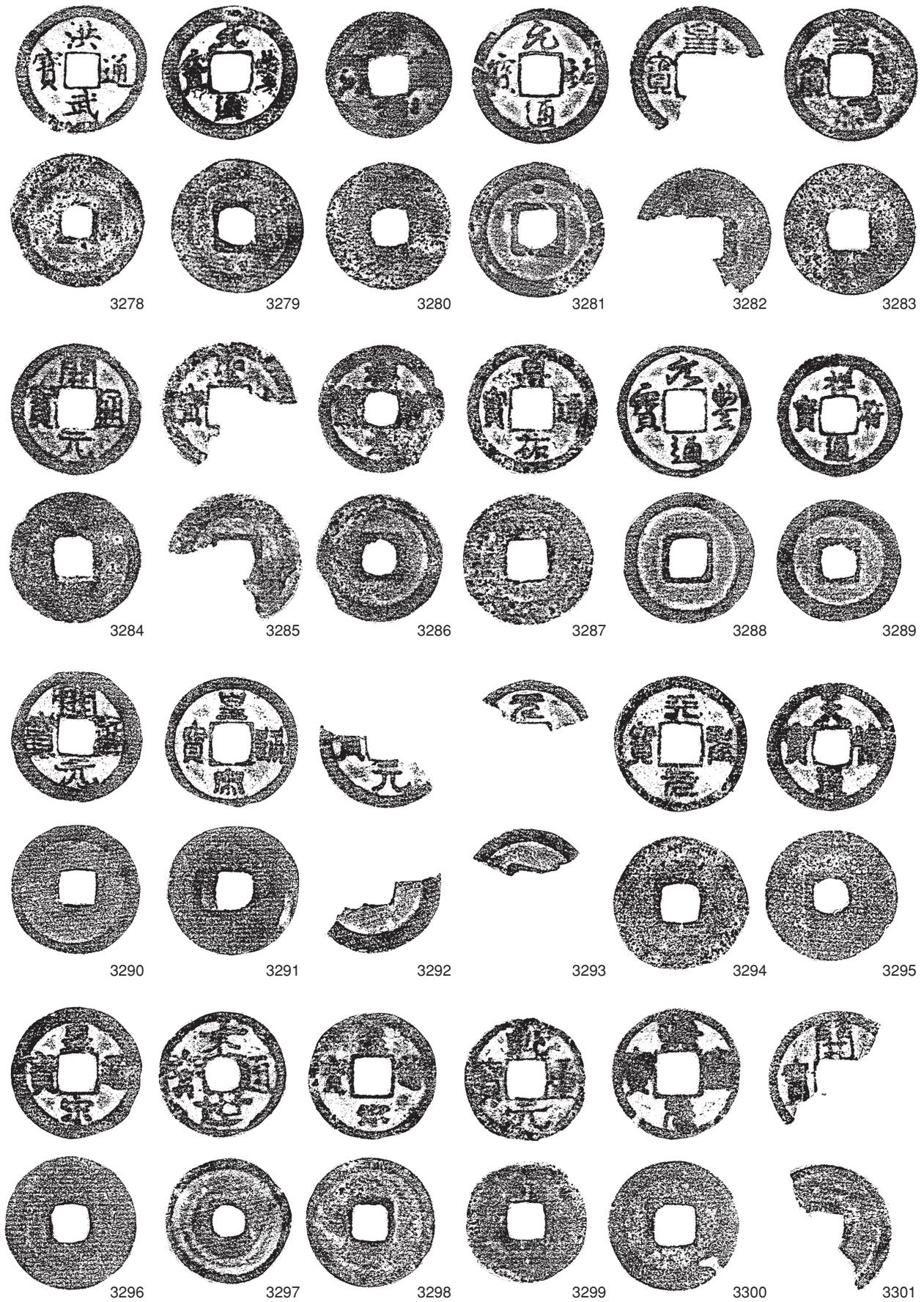
第179図 遺構外出土遺物実測図(3)



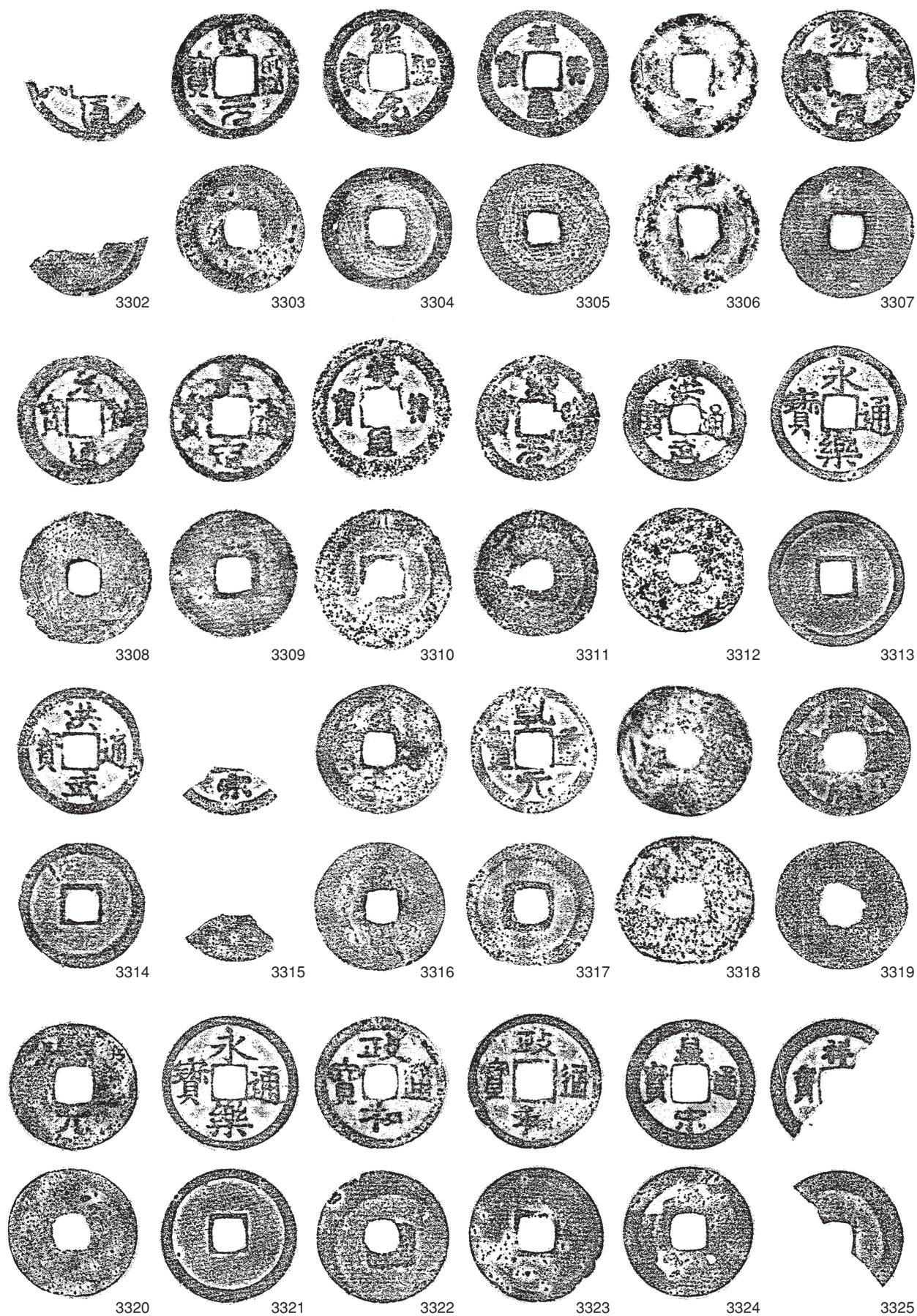
第180图 遺構外出土遺物実測図(4)



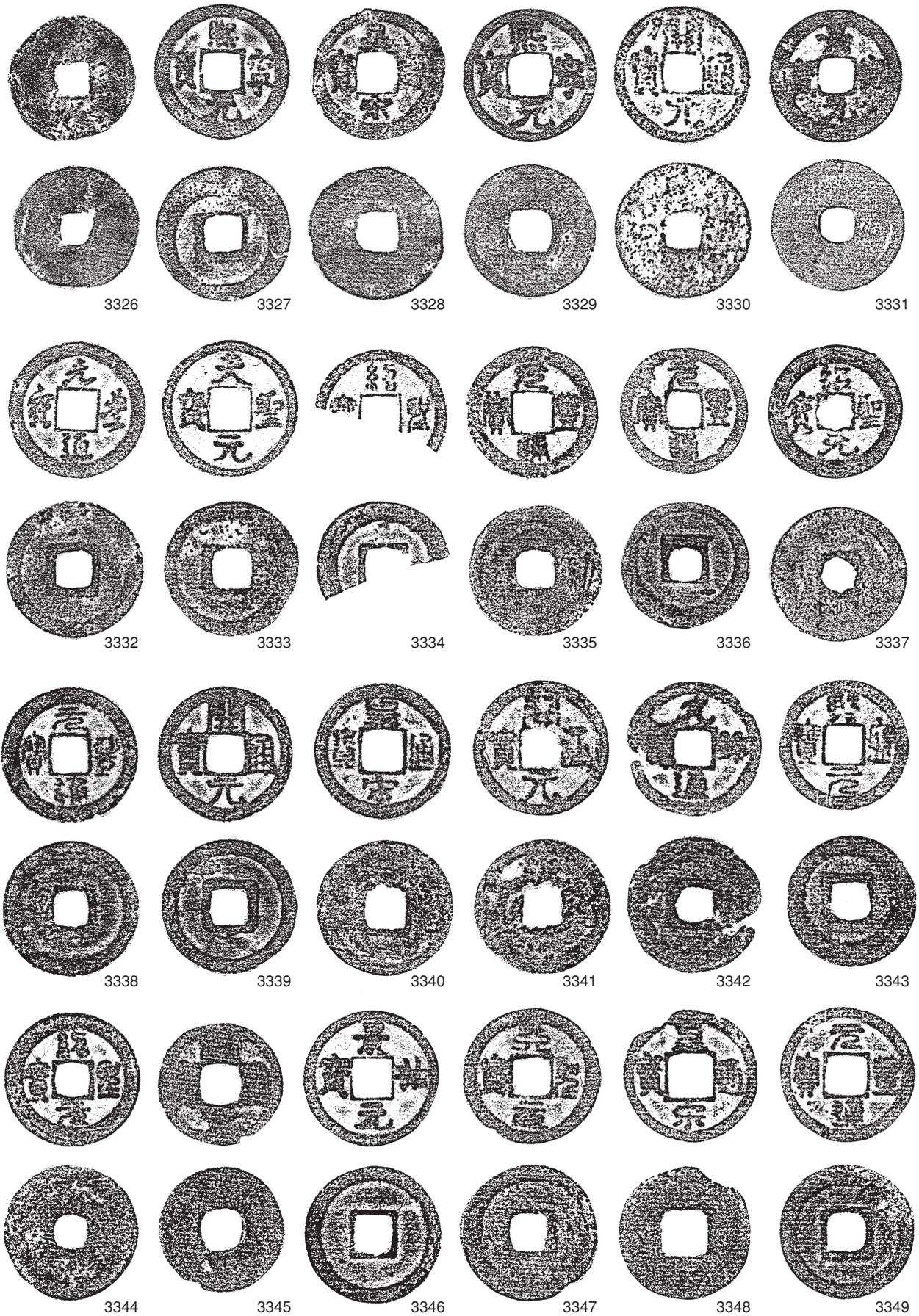
第181図 遺構外出土遺物実測図(5)



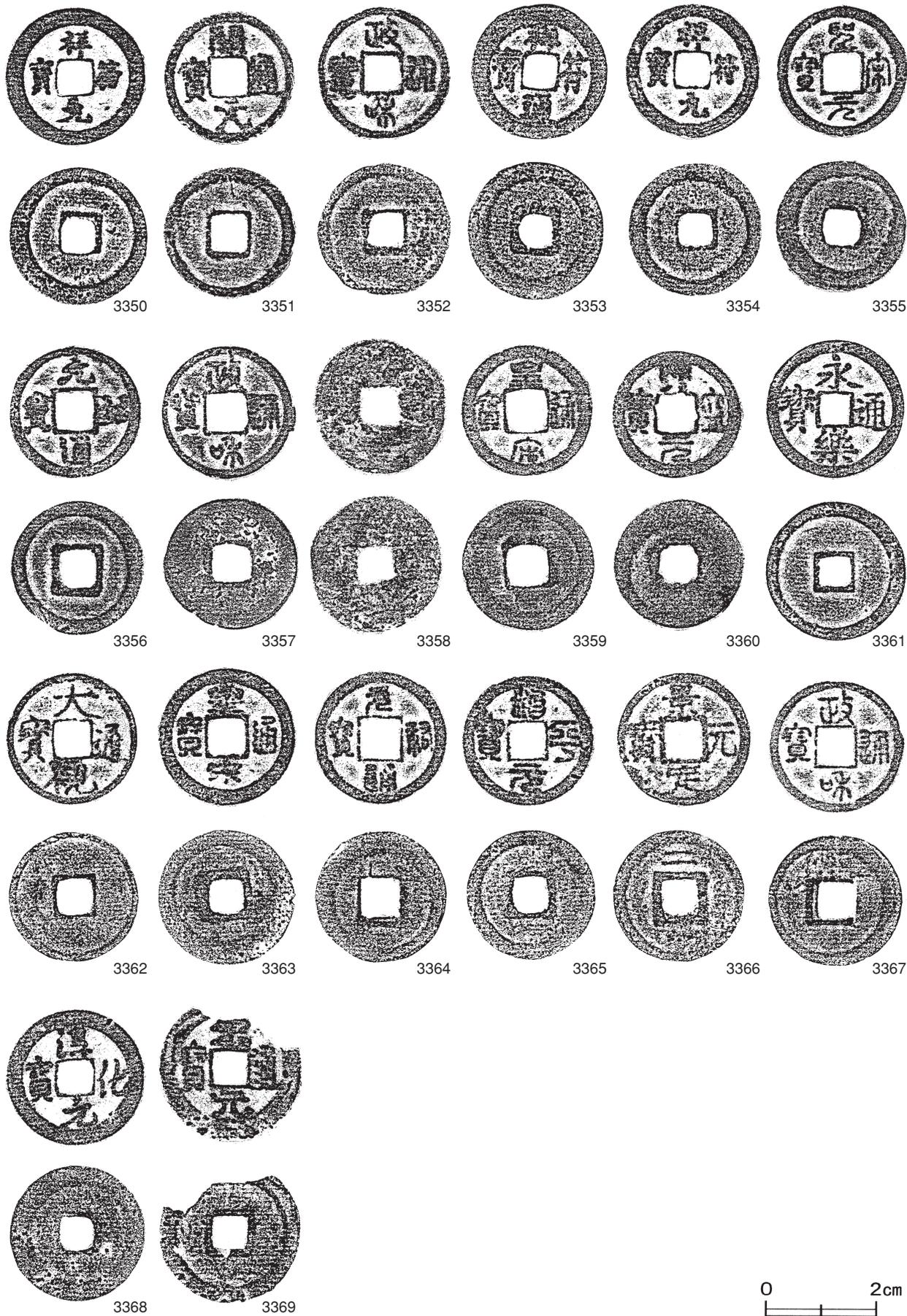
第182図 遺構外出土遺物実測図(6) [古銭は原寸大]



第183図 遺構外出土遺物実測図(7) [古銭は原寸大]



第184図 遺構外出土遺物実測図(8) [古銭は原寸大]



第185图 遺構外出土遺物実測図(9)

第9区遺構外出土遺物観察表（第177～185図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3173	小皿	土師質土器	7.3	2.1	4.3	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り 口縁部油煙付着	F12区	90% 灯明皿+ PL72
3174	小皿	土師質土器	[7.2]	2.0	4.5	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り 内外面油煙付着	F11区	80% 灯明皿+ PL72
3175	小皿	土師質土器	[6.7]	1.8	4.2	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	F12区	40%
3176	小皿	土師質土器	[7.1]	2.1	[4.6]	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	F12区	40%
3177	小皿	土師質土器	[6.6]	2.3	3.6	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	F11区	40%
3178	小皿	土師質土器	[6.4]	2.4	3.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	F11区	35%
3179	小皿	土師質土器	-	(1.3)	3.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内底面横ナデ	E12区	50%
3180	小皿	土師質土器	-	(1.0)	[4.0]	雲母	灰黄褐	普通	底部回転糸切り 内面煤付着	F11区	20%
3181	小皿	土師質土器	-	(1.1)	2.8	長石・小礫	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	E12区	10%
3182	小皿	土師質土器	-	(1.5)	[4.2]	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	E12区	5%
3183	皿	土師質土器	[11.8]	3.1	5.2	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後スノコ状圧痕	E12区	30%
3184	皿	土師質土器	[10.2]	3.6	4.0	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	底部回転糸切り	F12区	30% PL79
3185	皿	土師質土器	[10.0]	3.5	[5.4]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	G12区	40%
3186	皿	土師質土器	[14.2]	4.2	[8.0]	雲母	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	F12区	30%
3187	皿	土師質土器	[12.4]	3.8	[5.8]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ヘラナデ 内底面横ナデ	E12区	15%
3188	皿	土師質土器	-	(2.1)	[7.2]	雲母・赤色粒子・小礫	にぶい褐	普通	底部回転糸切り後ヘラナデ 内面煤付着	E12区	20%
3189	皿	土師質土器	[10.8]	2.7	[4.0]	雲母	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	E12区	20%
3190	皿	土師質土器	[12.0]	2.5	[5.4]	赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り後ヘラ削り 内底面横ナデ	E12区	20%
3191	皿	土師質土器	[10.0]	3.0	[4.6]	赤色粒子	浅黄橙	普通	内底面横ナデ	F12区	35%
3192	皿	土師質土器	[11.8]	3.6	[5.2]	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	E12区	15%
3193	皿	土師質土器	-	(1.5)	[5.8]	石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り 内面煤付着	E12区	10% 灯明皿カ
3194	皿	土師質土器	-	(2.0)	[4.6]	赤色粒子	浅黄橙	普通	内底面横ナデ	E12区	30%
3195	香炉	土師質土器	[11.8]	(5.9)	-	雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面横ナデ	F11区	30% 3足カ PL81
3196	香炉	土師質土器	[10.7]	(3.5)	-	石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	頸部外面スタンプ文(円形文)	E12区	10% PL80
3197	香炉	土師質土器	[10.4]	(4.2)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面スタンプ文(菊花文)	F11区	10%
3198	香炉	土師質土器	-	(2.7)	-	雲母	にぶい橙	普通	体部外面スタンプ文(菊花文)	E12区	5% PL80
3199	香炉	土師質土器	-	(2.2)	-	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面スタンプ文(菊花文 三巴文)	F12区	10%
3200	香炉	土師質土器	-	(2.3)	-	砂粒	にぶい赤褐	普通	腰部外面スタンプ文	F11区	5%
3201	香炉	土師質土器	-	(2.4)	-	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後足貼り付け	F12区	10% 3足カ
3202	香炉	土師質土器	-	(2.1)	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後足貼り付け	G12区	5%
3203	香炉	瓦質土器	-	(2.8)	-	長石	暗灰	普通	体部外面スタンプ文	F11区	5%
3204	内耳鍋	土師質土器	-	(4.1)	-	石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着	E12区	5%
3205	内耳鍋	土師質土器	-	(3.8)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着	F12区	5%
3206	内耳鍋	土師質土器	-	(3.3)	-	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ	F12区	5%
3207	内耳鍋	土師質土器	-	(7.1)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着	E12区	5%
3208	内耳鍋	土師質土器	-	(3.1)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着	E12区	5%
3209	内耳鍋	土師質土器	[32.0]	(14.9)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着	F12区	10%
3210	内耳鍋	土師質土器	[30.0]	(6.3)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ 外面煤付着	E12区	5%
3211	内耳鍋	土師質土器	-	(4.5)	[16.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ナデ 外面煤付着	F11区	5%
3212	火鉢	瓦質土器	-	(5.1)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面スタンプ文(菱形文)	F11区	5% PL82
3213	火鉢	瓦質土器	-	(3.1)	[17.0]	長石・雲母	灰	普通	体部内面ヘラ磨き	F11区	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3214	腰折皿	陶器	[10.4]	1.7	[5.8]	灰白・オリブ黄	灰釉	内・外面施釉	瀬戸・美濃産 15C後半	F12区	20% 古瀬戸後4
3215	端反皿	陶器	[10.0]	(2.0)	-	灰白・黄褐	灰釉	内・外面施釉	瀬戸・美濃産	G12区	5% 大窯期
3216	端反皿	陶器	-	(1.4)	-	灰白・浅黄	灰釉	内・外面施釉	瀬戸・美濃産	E12区	5% 大窯期
3218	腰折皿カ	陶器	-	(1.2)	[4.8]	灰白・にぶい黄橙	灰釉	削り出し高台	瀬戸・美濃産	E12区	5%
3220	播鉢	陶器	-	(4.3)	[9.8]	浅黄・極暗赤褐	錆釉	8条1単位の播目	瀬戸・美濃産	F12区	5%
3221	播鉢	陶器	-	(3.8)	9.8	灰白・黒褐	錆釉	7条1単位の播目	瀬戸・美濃産	F12区	5% PL81
3222	甕	陶器	[42.6]	(9.2)	-	灰・オリブ黒	-	口縁部端面に沈線	常滑産 15C前半	F12区	5% 9形式 PL82

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3224	円筒埴輪	(9.1)	-	1.3~1.8	(117.5)	長石・石英	底部片 内面横位のナデ 外面縦位のヘラナデ	G11区	PL83
3231	砥石	(10.1)	4.3	1.8	(86.0)	凝灰岩	砥面2面 砥面に捺痕有り	G11区	
3232	砥石	10.3	3.9	2.3	107.0	凝灰岩	砥面6面 断面長方形	E12区	
3233	砥石	11.1	4.6	2.0	92.0	凝灰岩	砥面4面 砥面やや湾曲	F12区	

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3244	小刀	(22.0)	1.4	0.1~0.3	(25.9)	鉄	ほぼ完存 両関カ	G12区	PL91
3245	小刀	(18.3)	1.8	0.4	(37.6)	鉄	基部一部欠損 基部に柄巻遺存	F11区	PL90
3246	小刀	(15.1)	1.6	0.2~0.3	(20.8)	鉄	刃部・基部の一部欠損 両関	F12区	PL91
3247	小刀	(5.7)	0.9	0.3	(4.5)	鉄	刃先部遺存	F11区	
3248	鎌カ	(10.7)	2.4	0.5	(40.6)	鉄	刃部の一部欠損	F12区	
3249	釘	(3.0)	0.5	0.5	(4.4)	鉄	断面方形 頭部屈曲	G12区	
3250	釘	(3.9)	0.4	0.6	(5.1)	鉄	断面方形 頭部屈曲	F12区	
3251	釘	(5.2)	0.4	0.3	(4.2)	鉄	断面方形 頭部欠損	G12区	
3252	釘	(6.4)	0.7	0.6	(14.5)	鉄	断面方形 頭部屈曲 両端部欠損	F12区	
3253	耳金カ	8.0	0.2~0.4	0.2~0.6	(16.1)	鉄	断面方形 両端部欠損	G12区	
3254	耳金	8.2	0.5	0.4	20.6	鉄	完存 断面方形 湾曲	E12区	PL92
3255	耳金カ	(9.5)	0.4	0.3~0.6	(19.0)	鉄	断面方形 頭部外側に湾曲 両端部欠損	F11区	
3256	吊金具	9.5	0.5~0.6	0.5~0.6	(38.9)	鉄	ほぼ完存 断面方形 湾曲	F11区	
3257	耳金カ	(2.8)	0.4	0.4	(3.3)	鉄	断面方形 両端部欠損	F11区	PL92
3258	耳金	3.0	0.4	0.5	(3.4)	鉄	ほぼ完存 断面方形	F11区	PL92
3259	釣針	(6.5)	0.3	0.4	(6.3)	鉄	断面方形 頭部欠損 針先にかえり	F11区	PL95
3260	箝	(4.5)	2.6	0.3	(8.6)	鉄	断面方形 2本 箝	F11区	PL95
3261	箝	(8.3)	3.7	0.4~0.5	(17.2)	鉄	断面方形 2本 箝	E12区	PL95
3262	箝	(10.6)	2.7	0.4	(13.3)	鉄	断面方形 2本 箝	F12区	PL95
3263	毛抜	(5.4)	1.2	0.2	(4.1)	鉄	1/2遺存 断面長方形 銀杏形	F11区	
3264	棒状金具	(15.0)	0.6	0.4	(29.6)	鉄	断面方形 直線的で先端部遺存	E12区	
3265	棒状金具	(17.1)	0.1~0.4	0.3	(10.6)	鉄	断面方形 直線的で先端部遺存 紡茎カ	F12区	
3266	鉄鍋	[32.2]	(3.2)	-	(32.8)	鉄	口縁部片 内面に陵有り	G12区	PL95
3267	鉄鍋	[29.4]	(5.0)	-	(50.9)	鉄	口縁部片 内面に陵有り	G12区	PL95
3268	鉄釜カ	[17.6]	(2.1)	-	(16.7)	鉄	口縁部片	F11区	
3269	耳金	3.0	0.4	0.5	4.2	鉄	完存 断面方形	G12区	PL92
3270	不明	(7.9)	4.9	0.5~0.6	(33.5)	鉄	断面円形	G12区	
3271	棒状金具	(10.6)	0.4	0.4	(13.6)	鉄	断面方形 両端部欠損	F11区	
3272	棒状金具	(11.9)	0.4	0.2~0.5	(17.1)	鉄	断面方形 両端部欠損	F12区	
3273	鉄滓	10.6	6.4	3.1	138.7	鉄	表面暗褐色 地褐灰色	G11区	PL93
3274	鉄滓	7.5	5.8	3.6	123.1	鉄	表面茶褐色 地黒褐色	G11区	PL93
3275	目貫	4.8	1.5	0.3	2.5	銅	やや湾曲 表面菊花文	F12区	PL90
3276	不明	(5.0)	1.4	0.06	(2.3)	銅	薄い帯状の銅板	F12区	
3277	不明	(5.1)	(7.2)	0.2	(30.0)	銅	平らな銅板の破片	G12区	
3370	鹿角	(7.7)	(7.2)	3.5	(122.0)	鹿角	断面楕円形 切断部2か所	E12区	PL98
3371	サイコロカ	1.8	1.9	1.5	3.1	鹿角	6面体 サイコロの未製品カ	F12区	PL98
3372	サイコロ	0.9	0.9	0.9	1.4	鯨骨	完存 6面体	F11区	PL98
3373	筭	(5.5)	0.8	0.4	(1.4)	鹿角	耳搔部・胴部遺存 直線的	G12区	
3374	平瓦	(16.3)	(17.0)	2.3	(810.0)	長石・石英	凹面ヘラ削り 凸面ヘラ削り・補修痕有り	G12区	
3375	平瓦	(8.3)	(6.1)	2.1	(124.3)	長石・石英	凹面ヘラ削り 凸面ヘラナデ	F11区	
3376	平瓦	(6.4)	(4.9)	1.9	(82.5)	長石・雲母	凹面ヘラナデ 凸面ヘラ削り	E12区	
3377	丸瓦	(11.4)	(5.2)	2.6	(260.0)	長石・雲母	凸面ナデ・二次焼成の赤変 凹面布目・吊り紐痕有り	G11区	
3378	丸瓦	(9.2)	(9.5)	2.1	(196.5)	長石・雲母	凸面ヘラナデ 凹面布目・吊り紐痕 端部ヘラ削り	E12区	
3379	丸瓦	(8.9)	(6.0)	2.4	(100.4)	長石・石英	凹面布目痕 凸面ヘラナデ	F11区	
3380	丸瓦	(6.8)	(5.5)	2.1	(97.2)	長石・石英	凹面布目痕 凸面ヘラナデ	F12区	
3381	アワビ	11.8	8.6	2.9	50.0	貝	光沢有り	F12区	計測値のみ PL98
3382	漆喰	(10.1)	14.5	8.8	(1340.0)	貝	内面灰白色 締まりは強い 指頭痕有り	G11区	PL97

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3278	洪武通寶	2.43	0.61	0.15	4.34	1368	銅	真書	E12区	PL96
3279	元豊通寶	2.47	0.63	0.10	3.40	1078	銅	行書	E12区	
3280	熙寧元寶カ	2.31	0.71	0.07	2.28	1068	銅	篆書カ	E12区	
3281	元祐通寶	2.47	0.76	0.11	(2.72)	1086	銅	行書 欠け 背上「星」	E12区	
3282	皇一寶	2.47	-	0.10	(1.74)	1038	銅	篆書 欠け 皇宋通寶カ	F11区	
3283	皇宋通寶	2.42	0.71	0.12	3.14	1038	銅	真書	F11区	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3284	開元通寶	2.39	0.70	0.11	3.00	621	銅	真書	F11区	PL96
3285	聖一寶	2.43	0.69	0.13	(1.98)	1101	銅	行書 欠け 聖宋通寶カ	F11区	
3286	祥符元寶	2.32	0.63	0.12	(2.66)	1008	銅	真書 欠け	F11区	
3287	嘉祐通寶	2.42	0.74	0.12	3.18	1056	銅	真書	F11区	
3288	元豐通寶	2.43	0.69	0.12	4.00	1078	銅	行書	F11区	PL96
3289	祥符通寶	2.32	0.64	0.10	2.70	1008	銅	真書	F11区	PL96
3290	開元通寶	2.42	0.69	0.12	4.14	621	銅	真書	F11区	
3291	皇宋通寶	2.43	0.70	0.10	3.28	1038	銅	篆書	F11区	PL96
3292	一一元寶	-	-	0.11	(1.18)	-	銅	真書 欠け	F11区	
3293	元一一	-	-	0.11	(0.85)	-	銅	篆書 欠け	F11区	
3294	天聖元寶	2.48	0.75	0.11	3.22	1023	銅	篆書	F11区	PL96
3295	天禧通寶	2.40	0.71	0.12	3.52	1017	銅	真書	F11区	
3296	皇宋通寶	2.41	0.78	0.10	2.70	1038	銅	真書	F11区	
3297	大世通寶	2.30	0.60	0.14	4.10	1454	銅	真書	F11区	PL96
3298	皇宋通寶	2.36	0.71	0.10	2.88	1038	銅	真書	F11区	
3299	軋元重寶	2.22	0.70	0.10	2.20	758	銅	真書	F11区	
3300	熙寧元寶	2.40	0.78	0.12	3.44	1068	銅	篆書 鑄込み不足の穴有り	F11区	
3301	開一寶	2.48	-	0.11	(1.52)	621	銅	真書 欠け 開元通寶カ	F11区	
3302	一一通一	-	-	0.10	(0.90)	-	銅	行書 欠け	F11区	
3303	熙寧元寶	2.39	0.64	0.13	3.24	1068	銅	篆書	F11区	
3304	紹聖元寶	2.40	0.70	0.10	3.00	1094	銅	行書	F12区	PL96
3305	祥符通寶	2.43	0.59	0.10	3.42	1008	銅	真書	F12区	PL96
3306	至和通寶カ	2.27	0.69	0.07	(2.34)	1054	銅	真書 欠け 鑄付着	F12区	
3307	熙寧元寶	2.45	0.68	0.11	3.26	1068	銅	篆書	F12区	
3308	元祐通寶	2.43	0.58	0.10	2.52	1086	銅	行書 鑄込み不足の穴有り	F12区	
3309	嘉定通寶	2.36	0.64	0.09	3.10	1208	銅	真書 背「元」カ	F12区	PL96
3310	祥符通寶	2.56	0.72	0.14	3.86	1008	銅	真書 欠け 星形孔	F12区	
3311	至口元寶	2.30	0.59	0.13	2.60	1054	銅	篆書 至和元寶カ	F12区	
3312	洪武通寶	2.27	0.52	0.12	3.58	1368	銅	真書	F12区	
3313	永樂通寶	2.52	0.58	0.12	3.34	1408	銅	真書	F12区	PL96
3314	洪武通寶	2.30	0.60	0.13	3.70	1368	銅	真書	F12区	
3315	一宋一一	-	-	0.07	(0.55)	1038	銅	真書 欠け 皇宋通寶カ	F12区	
3316	口口口口	2.41	0.56	0.10	2.96	-	銅	判読不能	F12区	
3317	軋元重寶	2.33	0.64	0.90	2.62	758	銅	真書 当十銭	F12区	PL96
3318	口口口口	2.36	0.62	0.11	2.06	-	銅	鑄付着 判読不能	F12区	
3319	皇宋通寶	2.41	0.81	0.09	2.46	1038	銅	篆書 星形孔	F12区	
3320	熙寧元寶カ	2.33	0.66	0.12	2.90	1068	銅	真書	G11区	
3321	永樂通寶	2.48	0.59	0.11	2.98	1408	銅	真書	G11区	
3322	政和通寶	2.42	0.59	0.12	3.38	1111	銅	真書	G12区	PL96
3323	政和通寶	2.46	0.65	0.12	3.56	1111	銅	真書	G12区	
3324	皇宋通寶	2.39	0.65	0.09	2.44	1038	銅	真書 穴鑄込み不足の穴有り	G12区	
3325	祥一寶	2.45	-	0.11	(1.68)	-	銅	真書	G12区	
3326	-	2.26	0.54	0.08	2.76	-	銅	無文銭 ゆがみ有り	G12区	
3327	熙寧元寶	2.43	0.65	0.12	3.86	1068	銅	真書	G12区	PL96
3328	皇宋通寶	2.40	0.71	0.10	2.90	1038	銅	真書	G12区	
3329	熙寧元寶	2.41	0.74	0.09	2.46	1068	銅	真書	G12区	
3330	開元通寶	2.46	0.68	0.11	3.44	621	銅	真書 鑄付着	G12区	
3331	景德元寶	2.42	0.65	0.10	2.50	1004	銅	真書	G12区	PL96
3332	元豐通寶	2.49	0.66	0.11	3.68	1078	銅	行書 背上「星」 鑄付着	E12区	
3333	天聖元寶	2.49	0.70	0.11	2.96	1023	銅	真書	F12区	
3334	紹聖一寶	2.44	0.67	0.12	(2.20)	1094	銅	篆書 欠け 紹聖元寶カ	9区	
3335	元豐通寶	2.41	0.66	0.12	4.34	1078	銅	篆書 鑄付着	9区	
3336	元豐通寶	2.34	0.61	0.11	3.64	1078	銅	篆書 背右下「星」カ	9区	
3337	紹聖元寶	2.46	0.56	0.11	1.80	1094	銅	行書 星形孔	9区	
3338	元豐通寶	2.47	0.65	0.11	3.92	1078	銅	篆書 鑄込み不足の穴有り	9区	
3339	開元通寶	2.45	0.66	0.10	3.42	621	銅	真書	9区	
3340	皇宋通寶	2.48	0.73	0.11	3.66	1038	銅	真書	9区	
3341	開元通寶	2.43	0.70	0.10	(3.24)	621	銅	真書 欠け 鑄込み不足の穴有り	9区	
3342	元祐通寶	2.47	0.68	0.09	(3.42)	1086	銅	行書 欠け	9区	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3343	熙寧元寶	2.37	0.66	0.12	4.14	1068	銅	篆書	9区	
3344	紹聖元寶	2.47	0.61	0.11	3.74	1094	銅	篆書	9区	
3345	□□元寶	2.27	0.71	0.09	2.84	-	銅	真書カ	9区	
3346	景祐元寶	2.47	0.72	0.11	3.50	1034	銅	真書 鑄込み不足の穴有り	9区	PL96
3347	天聖元寶	2.49	0.65	0.10	3.42	1023	銅	篆書	9区	
3348	皇宋通寶	2.41	0.81	0.07	(2.50)	1038	銅	真書 欠け	9区	
3349	元豐通寶	2.47	0.71	0.08	3.48	1078	銅	篆書	9区	
3350	祥符元寶	2.54	0.63	0.10	3.86	1008	銅	真書	9区	
3351	開元通寶	2.41	0.68	0.10	2.84	621	銅	真書	9区	
3352	政和通寶	2.45	0.63	0.11	3.74	1111	銅	篆書	9区	
3353	祥符通寶	2.53	0.61	0.10	4.04	1008	銅	真書	9区	
3354	祥符元寶	2.44	0.63	0.10	3.38	1008	銅	真書	9区	
3355	聖宋元寶	2.37	0.66	0.10	2.98	1101	銅	篆書	9区	PL96
3356	元祐通寶	2.43	0.68	0.10	3.98	1086	銅	行書	9区	
3357	政和通寶	2.40	0.75	0.10	3.60	1111	銅	篆書	9区	
3358	-	2.49	0.65	0.10	3.04	-	銅	無文銭	9区	
3359	皇宋通寶	2.42	0.74	0.07	2.56	1038	銅	篆書 鑄込み不足の穴有り	9区	
3360	熙寧元寶	2.38	0.68	0.13	3.90	1068	銅	篆書 星形孔	9区	
3361	永樂通寶	2.54	0.52	0.14	4.40	1408	銅	真書	9区	
3362	大觀通寶	2.39	0.65	0.11	2.98	1107	銅	真書	9区	PL96
3363	皇宋通寶	2.56	0.64	0.10	4.36	1038	銅	真書	9区	
3364	元祐通寶	2.42	0.69	0.09	3.14	1086	銅	篆書	9区	
3365	治平元寶	2.40	0.61	0.13	3.74	1064	銅	篆書	9区	
3366	景定元寶	2.44	0.68	0.11	3.60	1260	銅	真書 背「二」	9区	
3367	政和通寶	2.46	0.68	0.13	3.82	1111	銅	篆書	9区	
3368	淳化元寶	2.51	0.62	0.11	4.06	990	銅	行書	9区	PL96
3369	宋通元寶	2.57	0.58	0.12	(3.46)	960	銅	真書 欠け	9区	PL96

2 1区の遺構と遺物

調査第1区は、遺構を構築している盛土が南東部に広がっている。そのため、黒色土面全体をひとつの整地面として捉えた。整地面の上面から整地面下の砂層にかけて構築された遺構は、建物跡3軒、建物跡に伴わない粘土貼土坑7基と土坑47基、集石1か所、溝跡1条、土墳墓2基である。以下、各項の遺構と遺物について記述する。

(1) 建物跡

第51号建物跡 1区 S I - 1 (第186~188図)

位置 調査区南東部の J 9 i 9区を中心に位置し、第49号整地面の上面に構築されている。

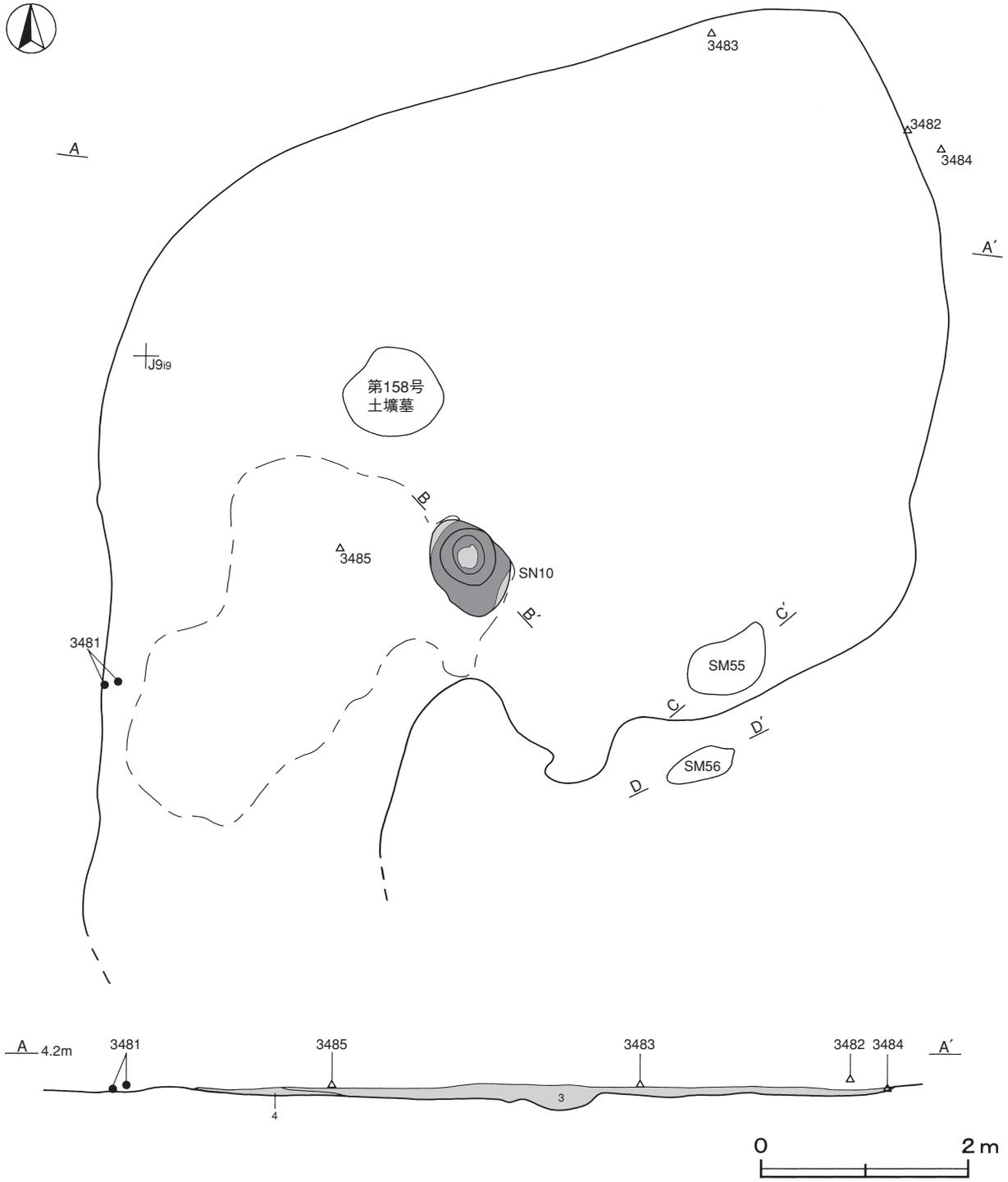
重複関係 第158号土墳墓に掘り込まれている。

確認状況 表砂を約3.5m除去し、標高約4.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑と貝集積地が確認された。

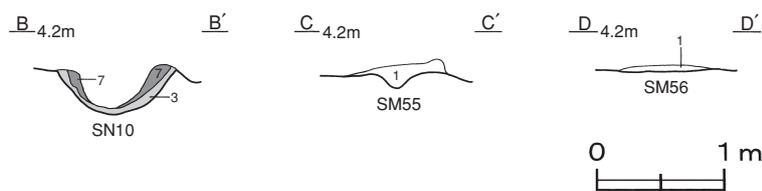
規模と施設 南部の一部が調査区域外に延びている。黒色土の範囲は、長軸は11.2mだけが確認され、短軸7.3mである。平面形は不定形で、長軸方向はN-42°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑1基が構築され、貝集積地2か所を確認した。

床 ほぼ平坦で、厚さ4~12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。粘土貼土坑付近から南西部にかけての黒色土面が硬化している。

土坑 (第187図) 第10号粘土貼土坑が中央部に位置している。厚さ2~10cmの粘土を貼り付けて構築されている。



第186図 第51号建物跡実測図



第187図 第51号建物跡粘土貼土坑・貝集積地土層図

貝集積地（第187図）第55・56号貝集積地は南東部に位置している。第55号貝集積地は長軸0.9m，短軸0.6mの不定形で，貝層の厚さは約20cmである。第56号貝集積地は長径0.7m，短径0.3mの楕円形で，貝層の厚さは5cmである。

第55号貝集積地出土貝種一覧表

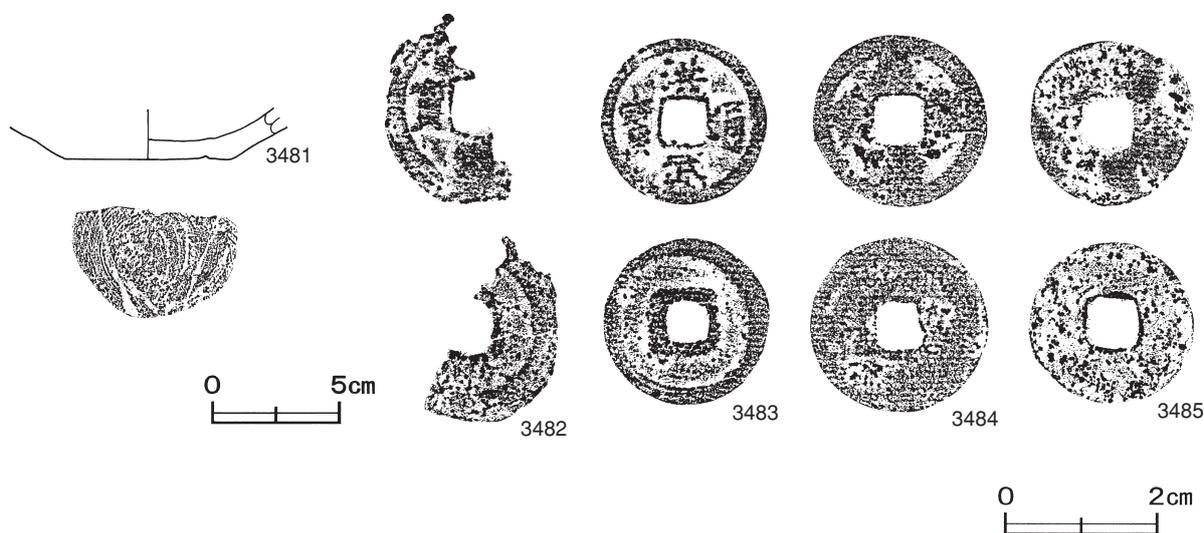
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	8.0	0.76	1	淡水
2	ウバガイ細片	1,050.0	99.24		

第56号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	ウバガイ	27.7	27.81	L=1 R=0	
2	ウバガイ細片	71.9	72.19		

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿), 金属製品4点(古銭)が出土している。3481は南西部, 3482・3483は北東部の黒色土上面から出土している。3485は第10号粘土貼土坑付近から出土している。古銭は3483の洪武通寶が最新銭である。

所見 遺構が南部の調査区域外に延びているため, 全体の状況は確認できなかった。炉は検出されなかったが, 硬化した黒色土面の床面, 建物跡内から多く検出されている円形の粘土貼土坑及び黒色土面の南部から貝集積地2か所が確認されており, その配置から建物跡の可能性が高いと判断した。第49号整地面が構築された時期は, 15世紀後半から16世紀前半であることから, 16世紀前半と考えられる。



第188図 第51号建物跡出土遺物実測図

第51号建物跡出土遺物観察表(第188図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3481	皿	土師質土器	-	(2.0)	(6.6)	雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面横ナデ	南西部黒色土上面	30%

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3482	--□寶	-	-	0.12	(1.18)	-	銅	真書 欠け	北東部黒色土上面	
3483	洪武通寶	2.21	0.55	0.11	2.38	1368	銅	真書	北東部黒色土上面	
3484	□□□□	2.41	0.62	0.12	4.22	-	銅	判読不能	北東部砂層	
3485	-	2.16	0.63	0.07	1.92	-	銅	無文銭 錆付着	SN10付近	

第52号建物跡 1区SX-1・2(第189~191図)

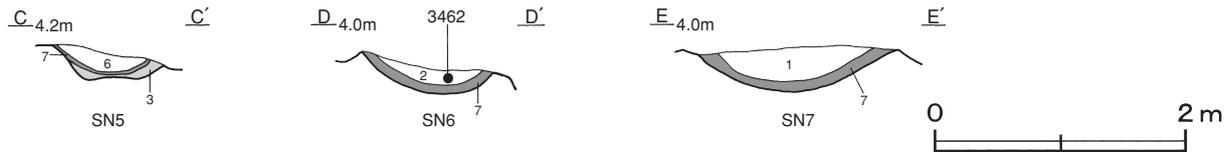
位置 調査区北東部のI9j5区を中心に位置し, 第49号整地面から約5m西側の砂層に構築されている。

確認状況 表砂を約3.1m除去し, 標高約4.0mで, 黒色土面と粘土貼土坑が確認された。

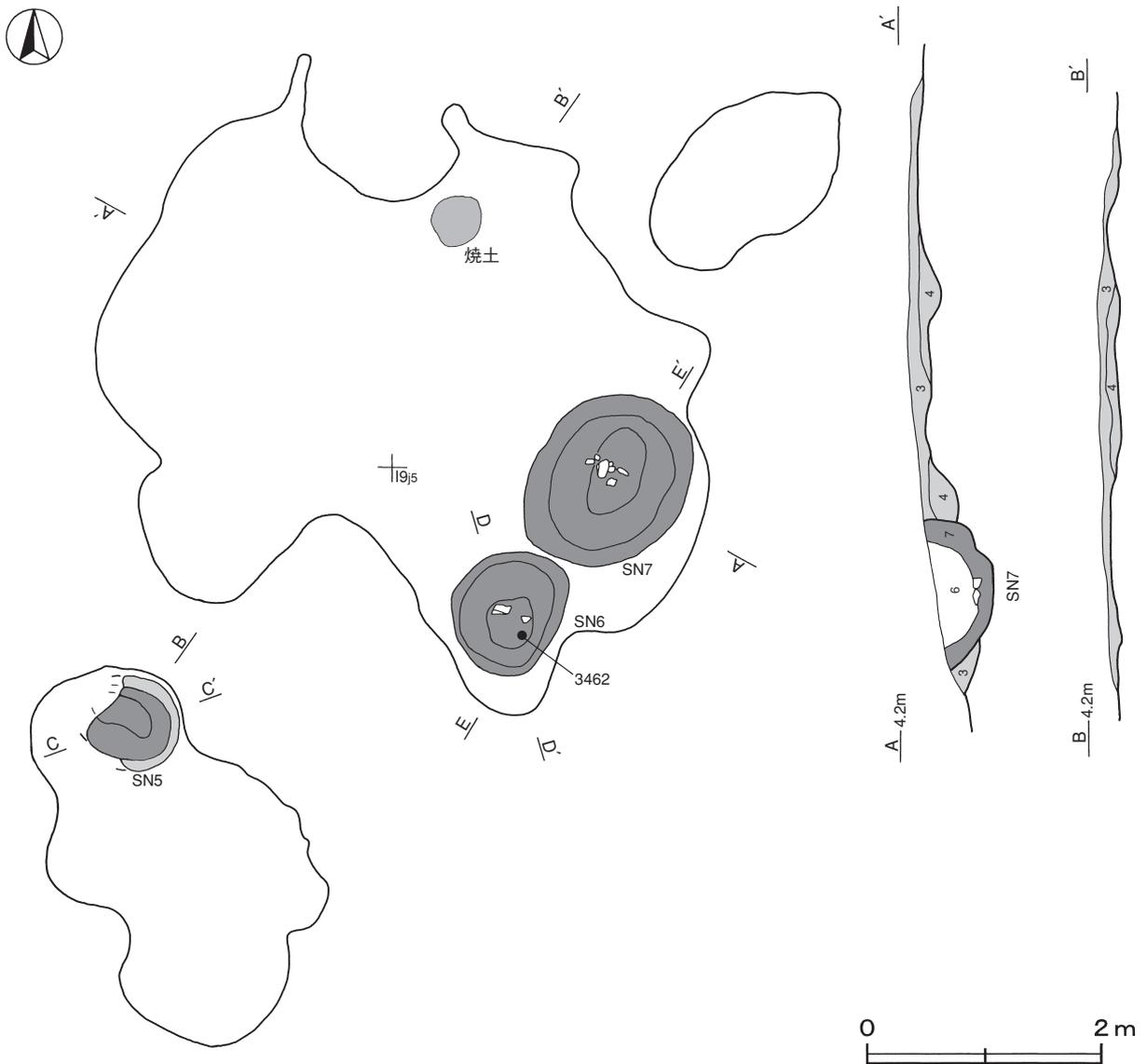
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸9.7m、短軸5.4mの不定形で、長軸方向はN-37°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑3基が構築されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ2~30cmの黒色土を貼り付けて構築されている。締まりは強く、硬化している。黒色土面の北部から、薄く堆積した焼土範囲が確認された。焼土範囲下の黒色土面は、掘り込まれていない。

土坑 (第189図) 第5号粘土貼土坑は南部、第6・7号粘土貼土坑は東部に位置している。第5号粘土貼土坑は厚さ2cmの粘土、第6・7号粘土貼土坑は厚さ約8cmの粘土を貼り付けて構築されている。第5号粘土貼土坑は第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



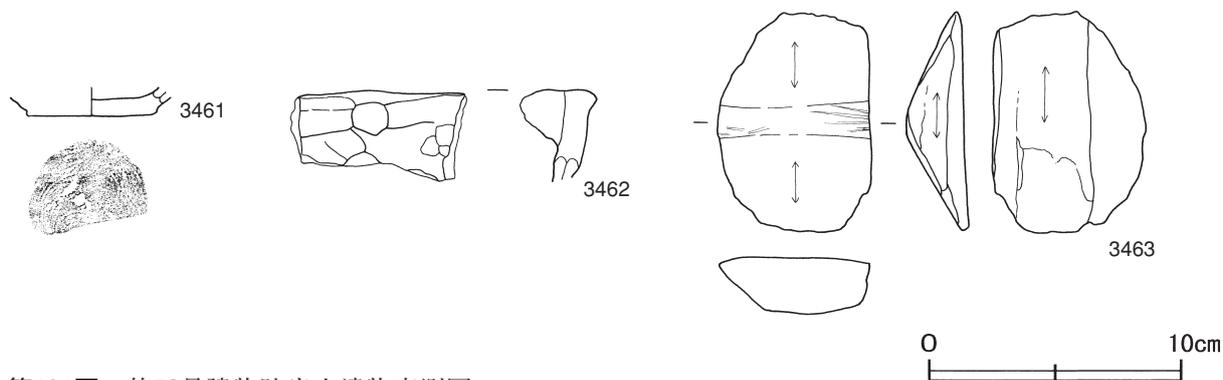
第189図 第52号建物跡粘土貼土坑土層図



第190図 第52号建物跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片 8 点（皿 2，鍋 6），石器 1 点（砥石）が出土している。3461と3463は黒色土面の覆土，3462は第 6 号粘土貼土坑内から出土している。その他の土師質土器片は細片のため図示できなかった。

所見 床面と捉えた黒色土面は硬化しており，そこからは粘土貼土坑と炉の可能性をもつ焼土範囲が確認されたことから建物跡の可能性が高いと判断した。時期は，土師質土器の皿や内耳鍋が出土していることや遺構の確認状況から，第 49 号整地面の上面に構築されている第 51 号建物跡と同時期の 16 世紀前半と考えられる。



第191図 第52号建物跡出土遺物実測図

第52号建物跡出土遺物観察表（第191図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3461	皿	土師質土器	-	(1.1)	4.8	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内底面横ナデ	覆土中	20%
3462	内耳鍋	土師質土器	-	(3.6)	-	石英・雲母	灰	普通	口縁部横ナデ 外面煤附着 耳部欠損	SN 6 内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3463	砥石	8.8	6.1	2.6	126.5	凝灰岩	砥面 4 面 断面三角形	覆土中	

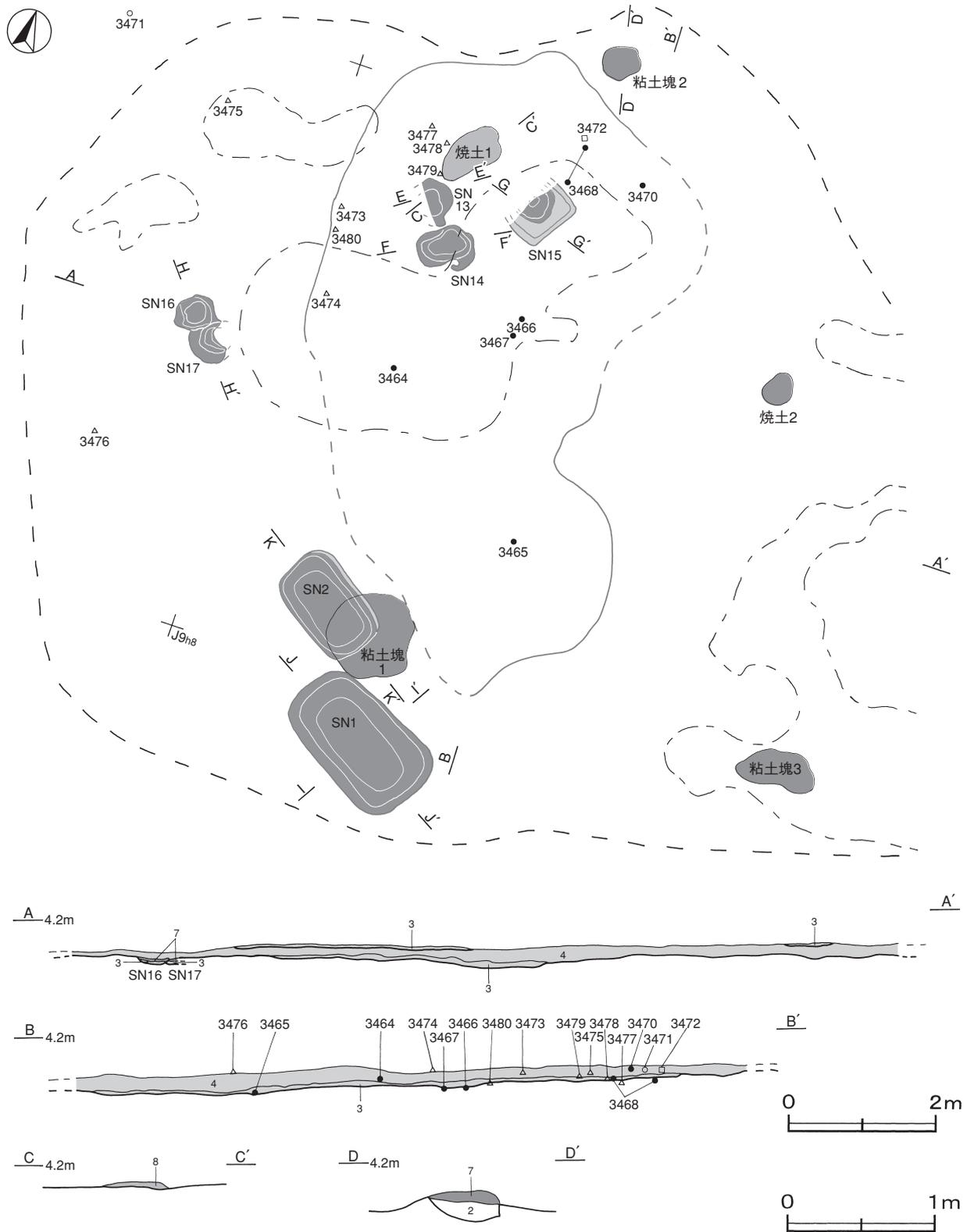
第53号建物跡 1区S I - 2（第192～195図）

位置 調査区南東部の J 9 f 8 区を中心に位置し，第 49 号整地面の黒色土中から下層にかけて構築されている。

確認状況 表砂を約 3.8m 除去し，標高約 3.8m で黒色土面が確認された。黒色土面から粘土塊と焼土範囲が確認された。さらに黒色土面下から，第 2 次面の黒色土面と粘土貼土坑が確認された。

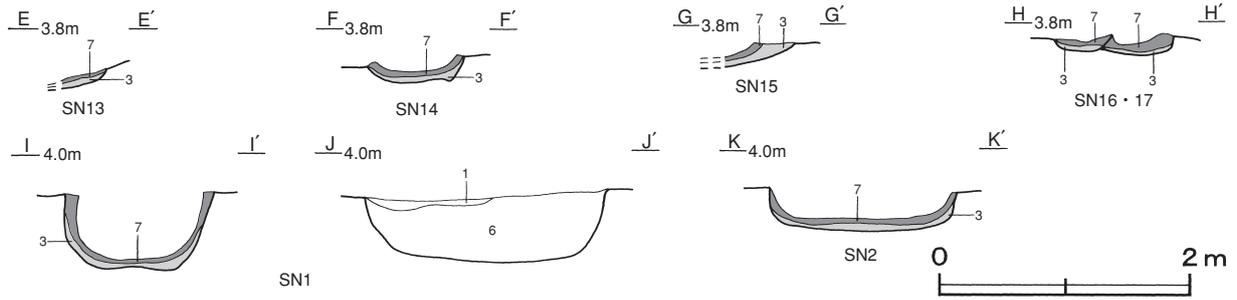
規模と施設 第 1 次面の黒色土の範囲は，南北 10.0m，東西は東側が調査区域外に延びるため 13.0m だけが確認された。第 2 次面の黒色土の範囲は，長軸 8.8m，短軸 4.0m の不定形で，長軸方向は N - 10° - W である。付属施設として，粘土貼土坑 7 基が構築されている。

床 ほほ平坦である。第 1 次面は厚さ約 4 cm の黒色土を貼り付けて構築されており，中央部と東部が硬化している。床に貼り付けられた粘土塊 3 か所と，薄く堆積した焼土範囲 2 か所が確認されている。第 2 次面は厚さ約 10cm の黒色土を貼り付けて構築されている。



第192図 第53号建物跡実測図

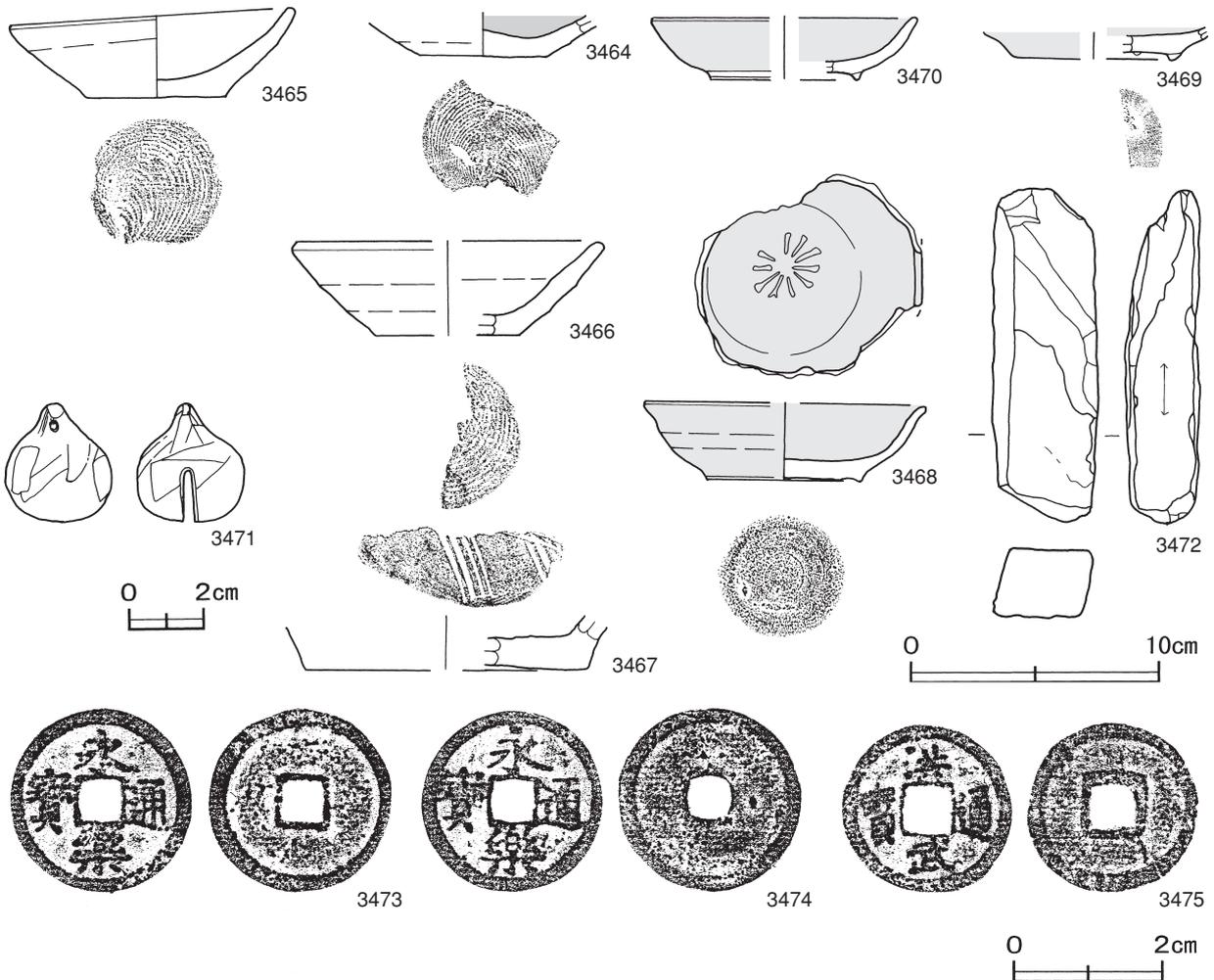
土坑（第193図）第1・2号粘土貼土坑は南部の砂層，第13～15号粘土貼土坑は黑色土面の北部，第16・17号粘土貼土坑は西部の砂層に位置している。第17号粘土貼土坑は第16号粘土貼土坑に掘り込まれた状態で確認されている。粘土貼土坑は厚さ2～15cmほどの粘土を貼り付けて構築されている。



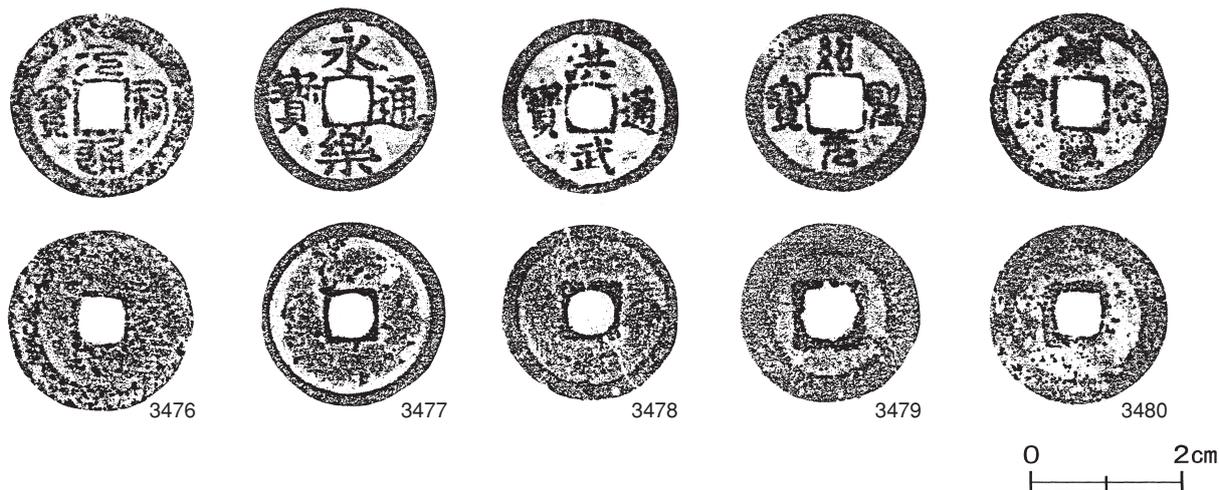
第193図 第53号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片9点（小皿1，皿6，鍋2），陶器片5点（皿），土製品1点（土鈴），石器1点（砥石），金属製品12点（古銭8，不明4）が出土している。遺物は，中央部から北部にかけて多く出土している。3464～3467・3473・3474・3480は中央部，3468・3470・3472・3477～3479は北部，3471・3475・3476は西部の黒色土上面から黒色土下にかけてそれぞれ出土している。古銭の最新銭は，永楽通寶である。

所見 炉とは認定できないが，床面から焼土範囲が確認され硬化した黒色土の生活面と生活雑器類が出土していることから，建物跡の可能性が高いと判断した。生活面は2面確認され，構築された粘土貼土坑と遺物の出土位置から，第2次面が主たる生活面と考えられる。時期は，3468・3470の陶器から15世紀末から16世紀前半と考えられる。



第194図 第53号建物跡出土遺物実測図(1)



第195図 第53号建物跡出土遺物実測図(2)

第53号建物跡出土遺物観察表 (第194・195図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3464	小皿	土師質土器	-	(1.3)	5.2	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	底部回転糸切り 内面煤付着	中央部黒色土上面	20%
3465	皿	土師質土器	11.5	3.6	5.5	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	中央部黒色土下	95% PL75
3466	皿	土師質土器	[12.2]	3.9	[6.0]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土下	40%
3467	播鉢	土師質土器	-	(2.2)	[11.4]	長石・雲母	黄橙	普通	4条1単位の播目	中央部黒色土下	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3468	端反皿	陶器	[11.2]	3.2	6.2	灰黄・灰白	灰釉	見込み内印花文 高台内輪ドナ裏有り	瀬戸・美濃 16C前半	北部黒色土中	30% 大窯2 PL63
3469	皿	陶器	-	(1.4)	[6.4]	灰黄・オリブ黄	灰釉	断面逆三角形の貼り付け高台	瀬戸・美濃	覆土中	15%
3470	丸皿	陶器	[10.6]	2.5	[6.0]	浅黄・オリブ黄	灰釉	断面逆三角形の貼り付け高台	瀬戸・美濃 16C前半	北部黒色土中	15% 大窯2カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3471	土鈴	3.2	2.9	2.9	11.7	長石	完形 ナデ 内部に中玉有り	西部黒色土中	PL 仮83
3472	砥石	13.6	4.3	3.0	280	粘板岩	砥面1面 その他は剥離面	北部黒色土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3473	永樂通寶	2.51	0.56	0.13	3.62	1408	銅	真書	中央部黒色土中	
3474	永樂通寶	2.51	0.52	0.11	3.62	1408	銅	真書	中央部黒色土上面	
3475	洪武通寶	2.33	0.64	0.12	3.14	1368	銅	真書	西部黒色土中	
3476	元祐通寶	2.49	0.58	0.13	(4.14)	1086	銅	篆書 欠け	西部黒色土中	
3477	永樂通寶	2.46	0.58	0.11	2.94	1408	銅	真書 鑄込み不足の穴有り	北部黒色土下	
3478	洪武通寶	2.39	0.56	0.11	2.64	1368	銅	真書	北部黒色土中	
3479	紹聖元寶	2.41	0.69	0.09	3.58	1094	銅	篆書 星形孔	北部黒色土中	
3480	祥符通寶	2.37	0.61	0.1	2.72	1008	銅	真書	中央部黒色土下	

表20 1区建物跡一覧表

番号	旧遺構番号	位置	長軸・長径方向	黒色土 < 建物跡 >				付属施設	ピット	備考 新旧関係 旧→新	
				標高(m)	範囲(最大値)		形状				厚さ(cm)
					長軸(m)	短軸(m)					
51	SI1	J 9 i 0	N - 42° - E	4.1	(11.2)	7.3	不定形	4 ~ 12	SN10, SM55・56	-	本跡→第158号土壘墓
52	SX1・2	I 9 j 5	N - 37° - E	4.0	9.7	5.4	不定形	2 ~ 30	SN 5 ~ 7	-	
53	SI2	J 9 f 8	-	3.8	南北10.0	東西(13.0)	-	2 ~ 4	粘土塊1 ~ 3	-	
		第2次面	N - 10° - W	3.7	8.8	4.0	不定形	7 ~ 10	SN1・2・13~17	-	

表21 1区建物跡粘土貼土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI51	SN10	J 9 i 9	4.1	N-28°-W	1.0	0.7	44	不整楕円形	4~6	2~10	緩斜	皿状	古銭	(1区SK7)
SI52	SN 5	I 9 j 4	4.0	N-51°-E	(0.6)	0.6	22	[楕円形]	-	2	緩斜	平坦		
	SN 6	I 9 j 5	3.8	N-0°	1.1	1.0	28	楕円形	-	7	緩斜	皿状	土師質土器(内耳鍋)	
	SN 7	I 9 j 5	4.0	N-28°-E	1.6	1.3	28	楕円形	-	8	緩斜	皿状		
SI53	SN 1	J 9 h 8	3.7	N-59°-W	2.0	1.2	54	隅丸長方形	3~7	2~5	外傾	平坦		
	SN 2	J 9 g 8	3.7	N-57°-W	1.4	0.9	25	隅丸長方形	2~7	3~7	緩斜	平坦		
	SN13	J 9 f 8	3.3	N-34°-W	0.6	(0.4)	19	[不定形]	6~12	2~5	緩斜	皿状		(1区SK44)
	SN14	J 9 f 8	3.1	N-37°-W	0.8	0.6	27	不定形	2~10	7~15	緩斜	-		(1区SK45)
	SN15	J 9 f 8	3.6	N-30°-E	0.9	(0.5)	12	[長方形]	4~9	2~4	緩斜	平坦		(1区SK46)
	SN16	J 9 f 7	3.7	N-38°-E	0.6	(0.4)	9	[不定形]	1~3	2~11	緩斜	平坦		SN17→本跡 (1区SK34)
	SN17	J 9 g 7	3.7	N-39°-W	(0.5)	(0.4)	7	[楕円形]	2~5	2~6	緩斜	皿状		本跡→SN16 (1区SK54)

表22 1区建物跡貝集積地一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	厚さ (cm)							
SI51	SM55	J 9 i 0	3.8	N-45°-E	0.9	0.6	20	不定形	-	-	-	-		(1区SM1)
	SM56	J 9 i 0	3.8	N-61°-E	0.7	0.3	5	楕円形	-	-	-	-		(1区SM2)

(2) 整地面

第49号整地面 1区HK-1 (第196~200・210区)

位置 調査区南東部のJ 9 f 6区を中心に位置している。

重複関係 上に第51・53号建物が構築されている。

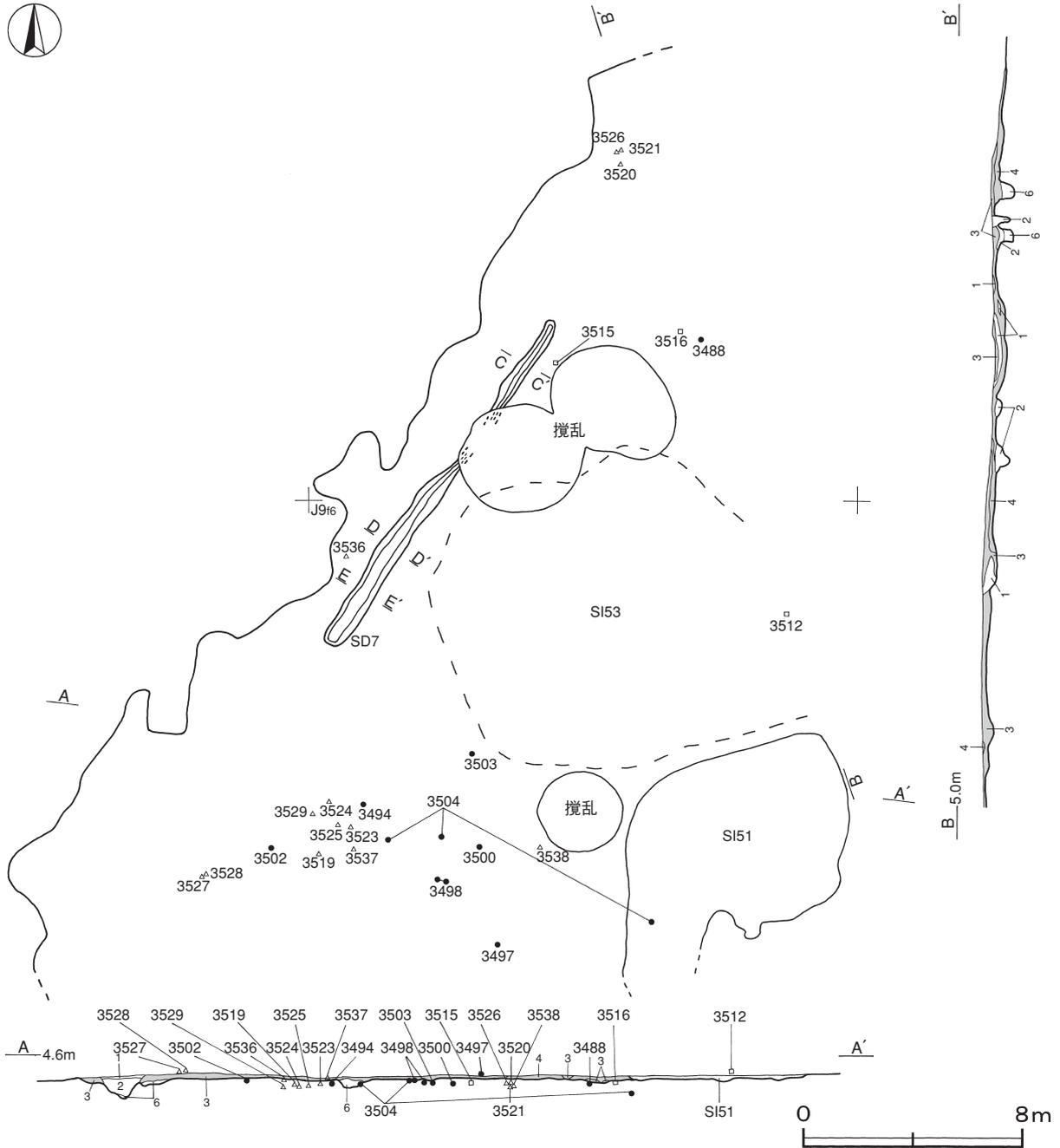
確認状況 表砂を3.7m除去し、標高3.9~4.0mで黒色土面が確認された。第49号整地面は、調査区の第1区全体に広がっている。

規模と施設 東部と南部が調査区域外へ延びているため、黒色土の範囲は、南北33.2m、東西30.4mが確認された。

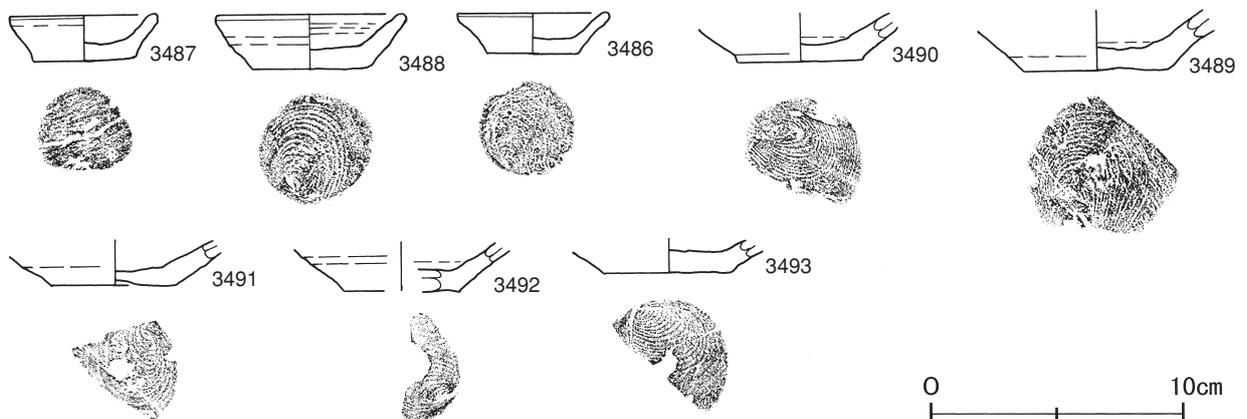
生活面 ほぼ平坦である。調査区に沿って、南北と東西にトレンチを入れ黒色土の構築状況を確認した。土層状況は、第3層の黒色土A層と第4層の黒色土B層を主体とする厚さ5~40cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の黒色土A層は部分的に2層に分かれており、黒色土を重ねて貼り付けながら構築されている。

遺物出土状況 土師質土器片215点(小皿52, 皿133, 鍋18, 播鉢12), 陶器片16点(皿13, 碗2, 甕1), 土製品1点(土錘), 石器11点(砥石7, 火打石1, 石錘3), 石製品1点(硯), 金属製品31点(火打金2, 耳金1, 小札1, 古銭17, 不明10), 漆喰片1点が出土している。遺物は、第51・53号建物跡に伴うものを除くと南部の黒色土上面から下層にかけて多く散在している。3488・3497・3512・3515・3516は黒色土上面, 3494・3498・3500・3502・3519~3521は黒色土中から下層にかけて出土している。

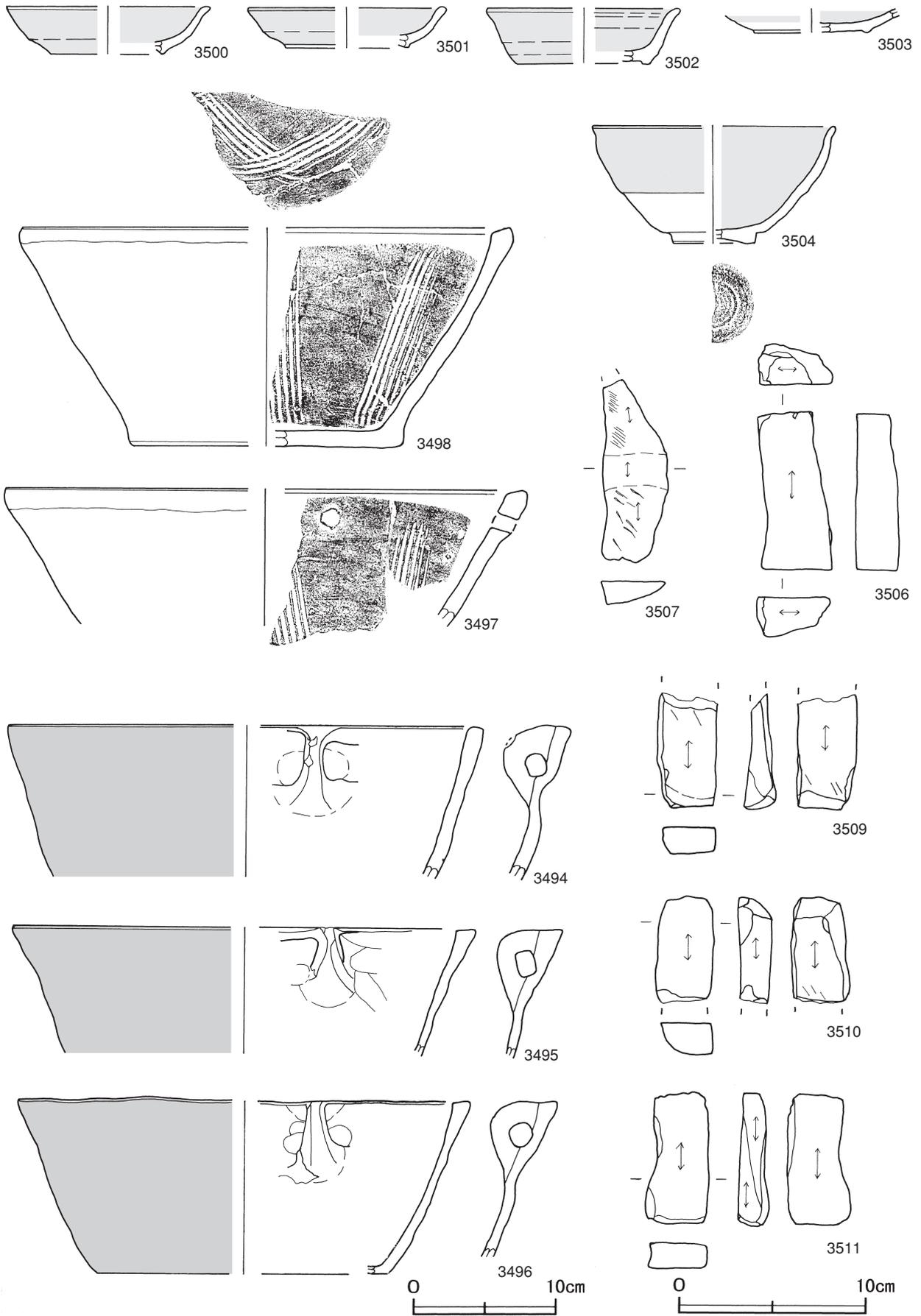
所見 第1区全体に広がっている盛土であり、全体をほぼ平坦に整地している。調査区域外の約30m東側には調査第2区が広がっており、両者はつながる可能性が高い。時期は、黒色土上面から下層にかけて出土した3500・3502~3504の陶器と3495に付着した煤の¹⁴C年代測定結果から、15世紀後半から16世紀前半頃と考えられる。



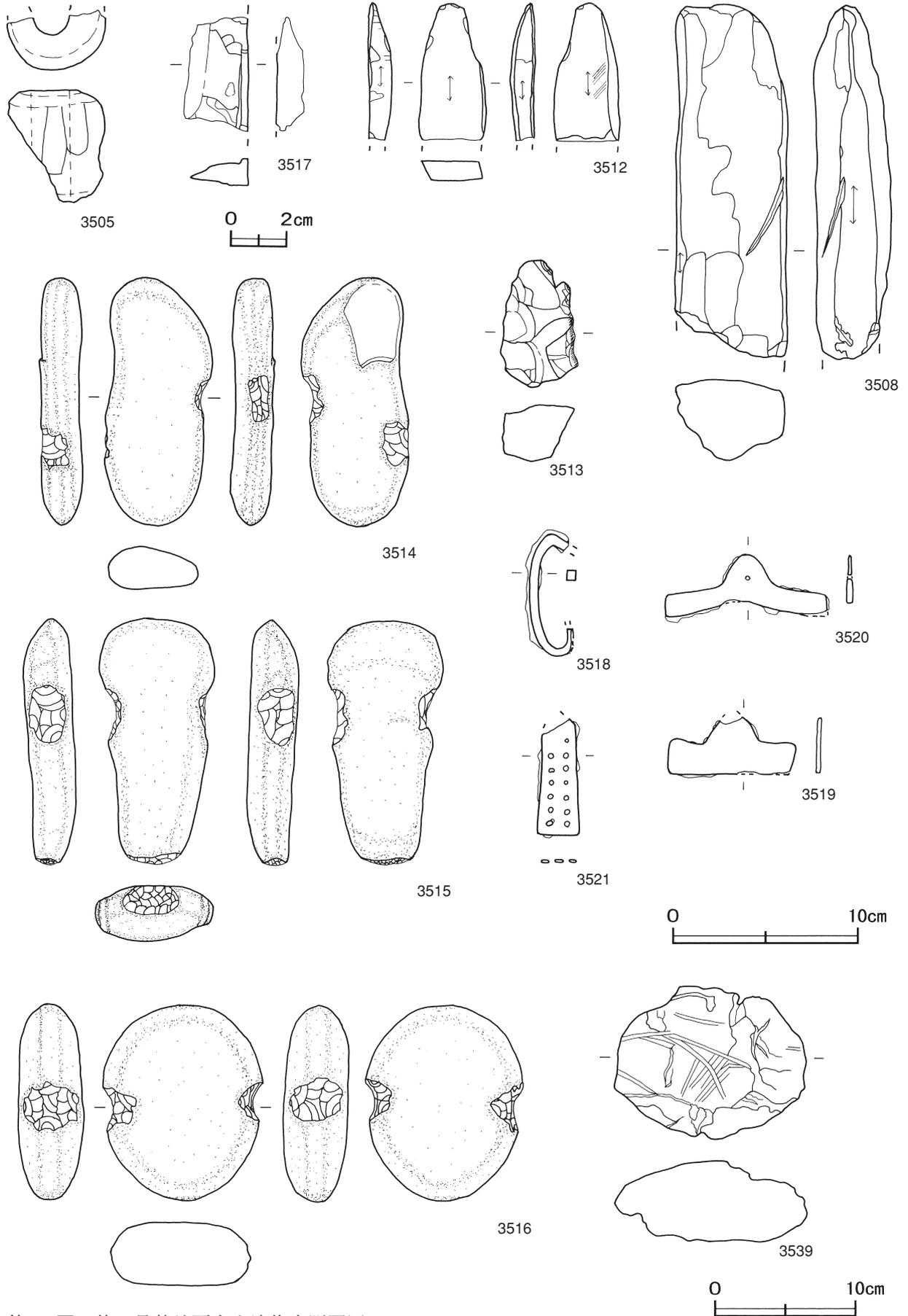
第196图 第49号整地面实测图



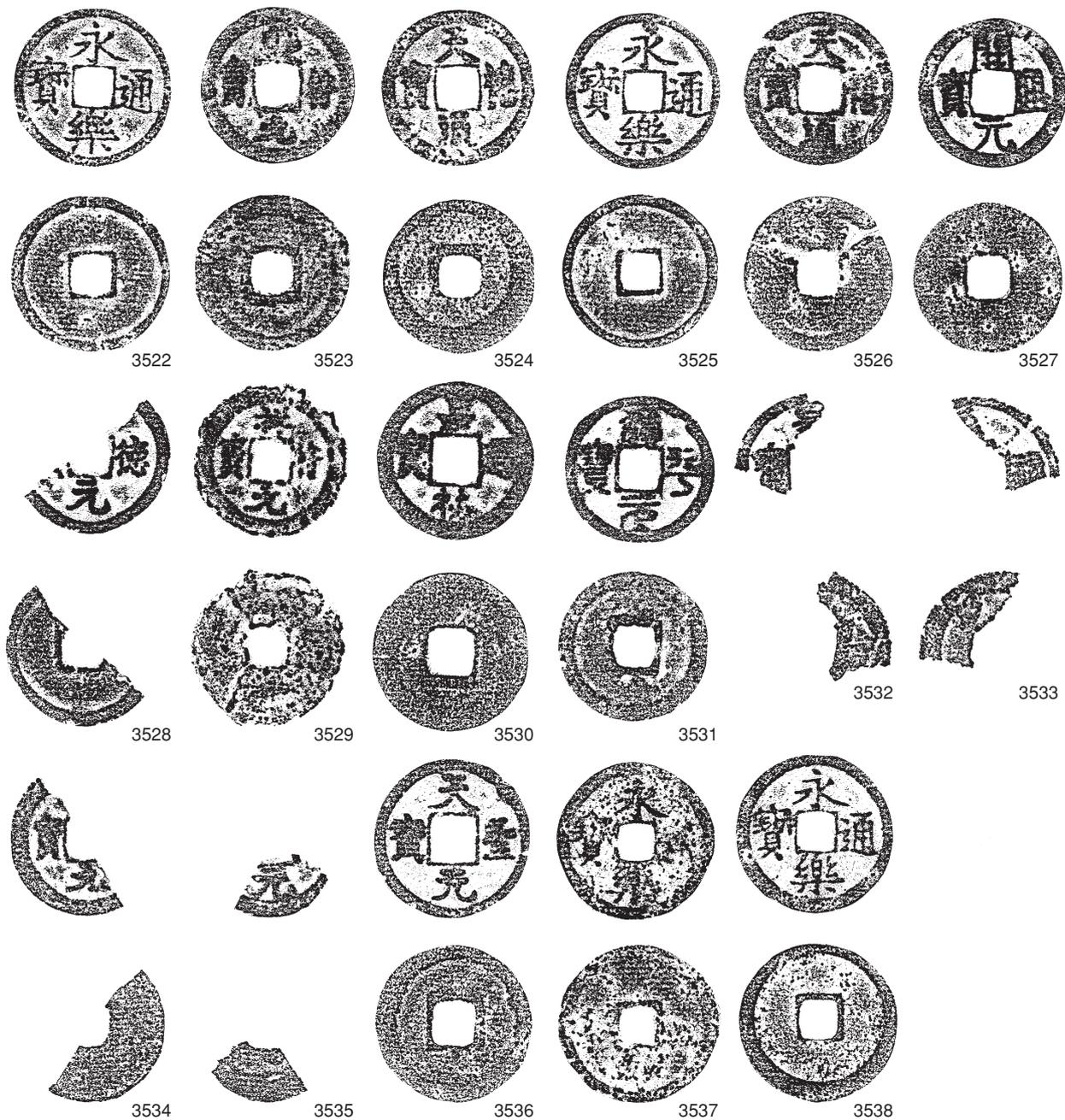
第197图 第49号整地面出土遗物实测图(1)



第198图 第49号整地面出土遺物実測図(2)



第199图 第49号整地面出土遺物実測図(3)



第200図 第49号整地面出土遺物実測図(4) [古銭は原寸大]

第49号整地面出土遺物観察表 (第197~200図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3486	小皿	土師質土器	5.7	1.7	3.6	長石・雲母・赤色粒子	明褐灰	普通	底部回転糸切り後ナデ	覆土中	95% PL71
3487	小皿	土師質土器	5.8	1.9	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	覆土中	60% PL71
3488	小皿	土師質土器	7.4	2.2	4.5	長石・雲母・赤色粒子	明褐灰	普通	内底面横ナデ	北部黒色土上面	95% PL74
3489	皿	土師質土器	-	(1.6)	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面渦巻状のナデ後横ナデ	覆土中	10%
3490	皿	土師質土器	-	(1.3)	5.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	10%
3491	皿	土師質土器	-	(1.8)	5.0	石英・雲母	にぶい褐	普通	内底面横ナデ	覆土中	10%
3492	皿	土師質土器	-	(1.6)	[4.6]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	10%
3493	皿	土師質土器	-	(1.3)	5.1	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3494	内耳鍋	土師質土器	[33.8]	(11.0)	-	石英・雲母	黄灰	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着 耳は凹形	南部黒色土下	5% PL80
3495	内耳鍋	土師質土器	[32.8]	(9.2)	-	長石・雲母	褐灰	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着 耳は楕円形	覆土中	5% PL80
3496	内耳鍋	土師質土器	[32.2]	12.6	[20.8]	長石・赤色粒子	黒	普通	口縁部横ナデ 外面煤付着 耳は楕円形	覆土中	30% PL81
3497	播鉢	土師質土器	[28.0]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	6条1単位の播目 口縁部に穿孔有り	南部黒色土上面	5% PL80
3498	播鉢	土師質土器	[26.2]	(11.8)	[14.4]	長石・雲母	灰	普通	6条1単位の播目	南部黒色土中	15% PL81

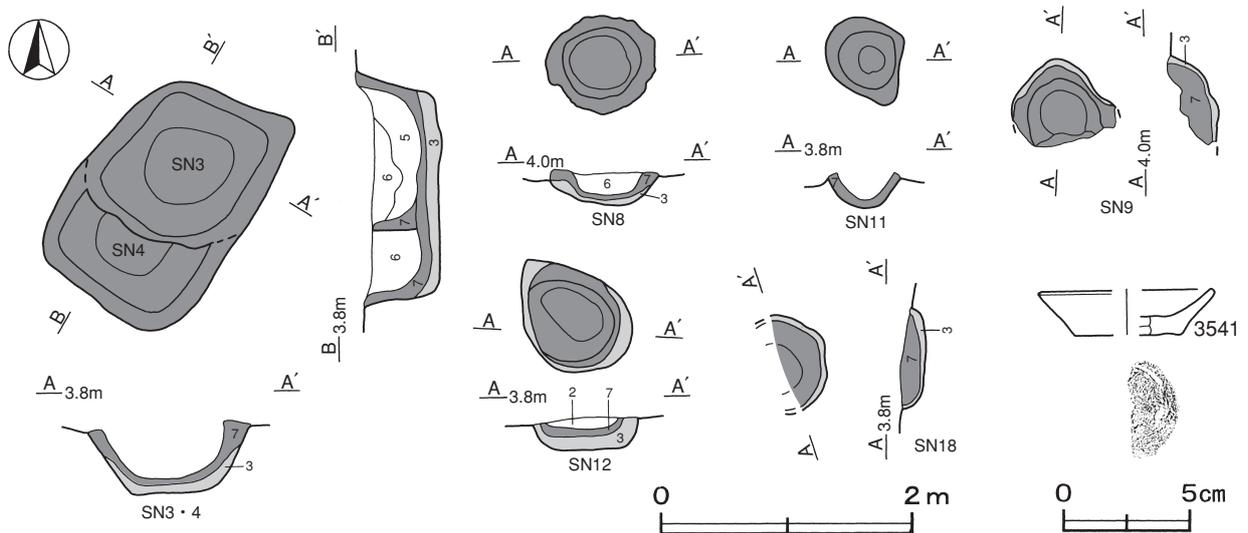
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	総付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3500	端反皿	陶器	[10.8]	(2.1)	[6.0]	灰白・浅黄	灰釉	内外面施釉	瀬戸・美濃 16C前半	南部黒色土下	10% 大窯2カ
3501	端反皿	陶器	[10.6]	(2.2)	[6.6]	灰白・にぶい黄橙	灰釉	内外面施釉	瀬戸・美濃 16C前半カ	覆土中	10% 大窯2カ
3502	稜皿カ	陶器	[10.3]	3.0	[7.2]	褐灰色・褐色	鉄釉	削り出し高台	瀬戸・美濃 16C後半	南部黒色土下	20% 大窯3 PL70
3503	平碗	陶器	-	(1.3)	[6.2]	灰白・にぶい黄	灰釉	削り出し高台 高台付近露地	瀬戸・美濃 16C初	南部黒色土中・砂層	30% 大窯1-2 PL69
3504	天目茶碗	陶器	[13.0]	6.3	[4.4]	灰黄・明褐灰	鉄釉	内外面施釉	瀬戸・美濃 16C前半	南部黒色土中・砂層	20% 大窯2-3 PL64

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3505	土錘	(4.1)	(3.5)	(1.4)	(18.6)	長石・石英	1/4遺存 ナデ	覆土中	
3506	砥石	8.5	4.0	2.1	108.8	凝灰岩	砥面3面 断面台形	覆土中	
3507	砥石	(9.9)	3.5	1.3	(43.7)	凝灰岩	砥面3面 断面三角形	覆土中	
3508	砥石	(19.4)	6.0	4.4	(690.0)	片岩	砥面1面 その他は剥離面	覆土中	
3509	砥石	(6.2)	3.3	1.8	(35.6)	凝灰岩	砥面2面 断面長方形 火熱で砥面変色	覆土中	
3510	砥石	(5.8)	3.2	1.8	(48.8)	凝灰岩	砥面3面 断面長方形 火熱で砥面変色	覆土中	
3511	砥石	7.2	3.5	1.7	56.6	凝灰岩	砥面4面 断面長方形	覆土中	
3512	砥石	(7.5)	3.4	1.4	(44.0)	凝灰岩	砥面4面 断面長方形	南部黒色土上面	
3513	火打石	6.9	4.2	3.1	92.7	瑪瑙	一部の陵が摩滅	覆土中	
3514	石錘	13.6	5.9	2.4	260.0	砂岩	両端部調整	覆土中	
3515	石錘	13.4	6.2	2.7	330.0	砂岩	両端部調整 底部敲打痕	北部黒色土上面	
3516	石錘	14.3	11.5	4.7	1070.0	砂岩	両端部調整	北部黒色土上面	
3517	硯	(4.2)	(2.3)	1.0	(8.6)	粘板岩	縁部遺存 陸部凹状カ	覆土中	
3518	耳金	7.0	0.5	0.6	16.4	鉄	断面方形 C字状に屈曲	覆土中	
3519	火打金	7.0	(3.2)	0.2	(18.4)	鉄	頂部欠損 断面扁平	南部黒色土下	PL94
3520	火打金	8.9	2.6	0.3	22.5	鉄	孔有り 打撃部は厚い	北部黒色土下	PL94
3521	小札	(6.3)	2.3	0.1	(7.3)	鉄	孔は13カ所で径2~3mm 上部一部欠損	北部黒色土下	PL90
3539	漆喰	11.2	13.8	6.0	622.0	貝	内面灰白色 表面紐状の圧痕有り	覆土中	PL97

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3522	永樂通寶	2.48	0.56	0.11	2.24	1408	銅	真書 鑄込み不足の穴有り	黒色土下	
3523	祥符元寶カ	2.46	0.67	0.08	2.76	1008	銅	真書	南部黒色土下	
3524	天禧通寶	2.44	0.62	0.12	3.90	1017	銅	真書	南部黒色土下	PL96
3525	永樂通寶	2.44	0.59	0.11	3.44	1408	銅	真書 鑄込み不足の穴有り	南部黒色土下	
3526	天禧通寶	2.33	0.63	0.05	(1.96)	1017	銅	真書 欠け	北部黒色土下	
3527	開元通寶	2.36	0.69	0.08	2.48	621	銅	真書	南部黒色土上面	
3528	-徳元-	-	-	0.12	(1.80)	1004	銅	真書 欠け 景德元寶カ	南部黒色土上面	
3529	祥符元寶	2.40	0.56	0.10	2.24	1008	銅	真書	南部黒色土下	
3530	嘉祐通寶	2.48	0.73	0.08	2.76	1056	銅	真書	黒色土下	
3531	治平元寶	2.35	0.61	0.13	3.82	1064	銅	篆書	黒色土下	PL96
3532	---寶	-	-	0.12	(0.90)	-	銅	真書 欠け	黒色土下	
3533	-祐--	-	-	0.12	(0.89)	-	銅	欠け	黒色土下	
3534	--元寶	-	-	0.08	(1.28)	-	銅	真書 欠け	黒色土下	
3535	--元-	-	-	0.10	(0.58)	-	銅	真書 欠け	黒色土下	
3536	天聖元寶	2.50	0.68	0.11	(3.52)	1023	銅	真書 欠け 鑄込み不足の穴有り	南部黒色土下	
3537	永樂通寶	2.48	0.55	0.12	(3.96)	1408	銅	真書 鑄付着	南部黒色土中	
3538	永樂通寶	2.48	0.59	0.11	3.60	1408	銅	真書	南部黒色土下	

(3) 粘土貼土坑

建物跡や整地面に組み込まれない 7 基の粘土貼土坑が確認された。規模と形状から、長軸 1.3 ~ 1.4m, 短軸 0.8 ~ 1.0m ほどの方形や長方形を呈する 2 基と、径 1.0m ほどの円形や楕円形を呈する 5 基に分類される。以下、実測図と一覧表で掲載する。なお、これらの遺構の時期は、おおむね 15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられる。



第201図 粘土貼土坑・出土遺物実測図

粘土貼土坑出土遺物観察表（第201図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3541	小皿	土師質土器	[6.8]	1.8	[4.2]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	SN9内	40%

表23 1区粘土貼土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SN 3	J 9 i 6	3.6	-	1.3	1.3	48	方形	1 ~ 15	6 ~ 11	緩斜	平坦		SN4→本跡 (1区 SK26)
2	SN 4	J 9 j 6	3.6	N - 37° - E	2.0	1.4	55	長方形	10	13	緩斜	皿状		本跡→SN3 (1区 SK30)
3	SN 8	J 9 j 6	4.0	-	0.9	0.9	20	円形	4	2 ~ 10	緩斜	皿状		(1区 SK1)
4	SN 9	J 9 h 5	3.8	N - 83° - W	0.8	(0.7)	11	[楕円形]	4 ~ 6	16 ~ 22	緩斜	凸凹	土師質土器 (小皿)	(1区 SK5)
5	SN11	J 9 h 6	3.6	N - 26° - W	0.7	0.6	23	不整楕円形	-	6	緩斜	皿状		(1区 SK23)
6	SN12	J 9 h 6	3.6	N - 4° - W	1.1	0.8	10	楕円形	6 ~ 10	6 ~ 8	緩斜	平坦		(1区 SK24)
7	SN18	J 9 b 8	3.7	-	(0.8)	(0.4)	16	[円形]	4	15	緩斜	平坦		(1区 SK9)

(4) 土坑

建物跡や整地面に組み込まれない47基の土坑が確認された。土坑は、黒色土を貼り付けて構築された土坑 5基と砂と暗褐色土を混ぜて壁を構築している土坑 2基と砂層を掘り込んだだけの土坑40基に分類される。ここでは、特徴的な土坑 1基と土坑群として捉えられる 1か所について取り上げ、それ以外は実測図と一覧表で掲載する。これらの遺構の時期は、おおむね15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

第31号土坑 1区SK-31 (第202図)

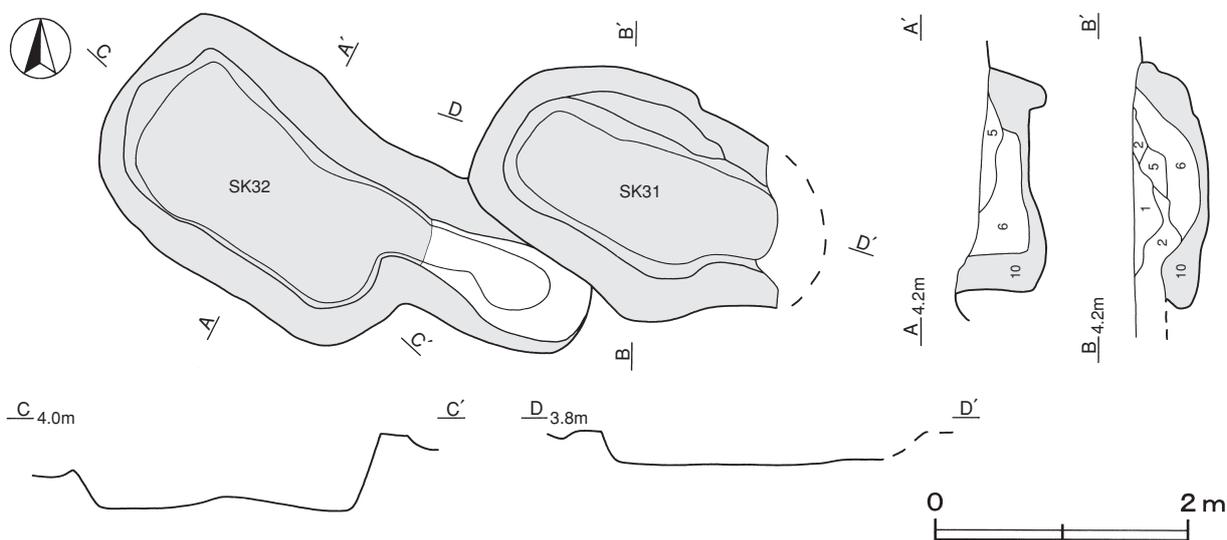
位置 調査区南東部のJ9i4区に位置している。

重複関係 第32号土坑を掘り込んでいる。

確認状況 表砂を約3.6m除去し、標高約4.0mから確認された。

規模と平面形 長径2.6m、短径1.7mの楕円形と推定され、深さは32cmである。長径方向はN-67°-Wである。底面は皿状で、縮まりは普通である。壁は緩やかに立ち上がっている。東部を除く壁は、砂とローム土を混ぜた暗褐色土で構築されている。覆土は、下層の第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積、上層の第1・2層の砂A・B層が自然堆積した層である。

所見 第49号整地面の最西端に位置し、構築状況や出土位置が第9区の第78号土坑と類似している。形状は崩れているが、倉庫的な性格をもつ土坑と考えられる。第49号整地面の上面から確認されていることから、16世紀前半と考えられる。



第202図 第31・32号土坑実測図

第3号土坑群 (第203・204図)

位置 調査区南東部のJ9i5区を中心に位置している。

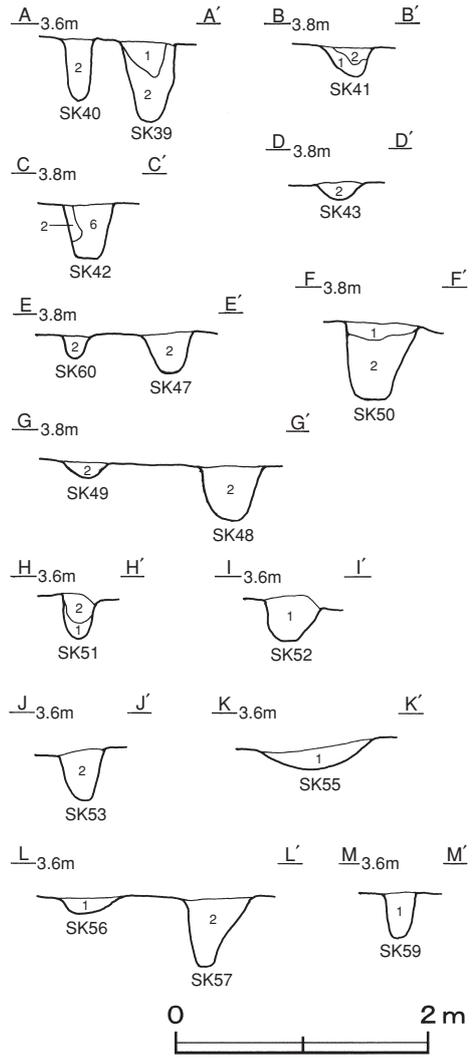
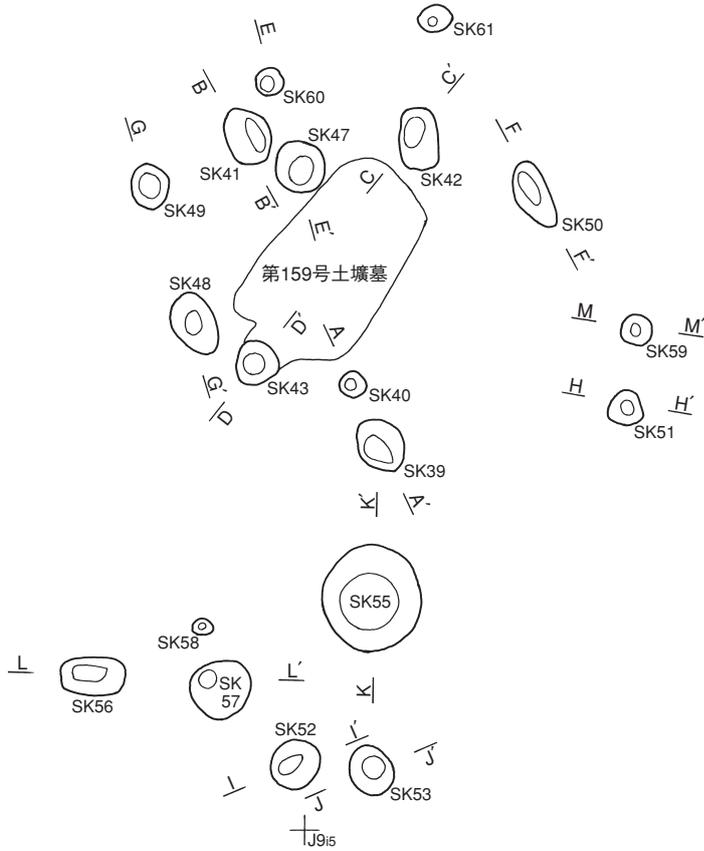
重複関係 第43号土坑は第159号土墳墓を掘り込んでいる。

確認状況 第49号整地面の黒色土を約0.3m除去した標高約3.5mで、土坑19基が確認された。

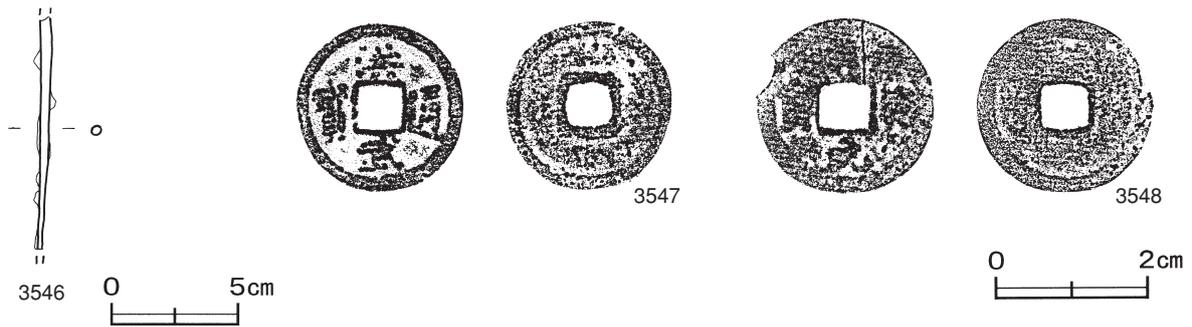
規模と形状 南北6.5m、東西4.8mの範囲から、第39～43・47～53・55～61号土坑が確認された。土坑は円形・楕円形・隅丸長方形などで、深さは12～66cmである。覆土は、第1・2層の砂A・B層が自然堆積、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 3546は第50号土坑の覆土から、3547・3548は第51号土坑の覆土から出土している。

所見 ほぼ同じ標高で人骨を伴う第159号土墳墓が確認されているが、人骨や副葬品とみられる遺物が出土していないことから土坑群と判断した。性格は不明である。第49号整地面の黒色土下の砂層から確認されていることから、15世紀後半と考えられる。



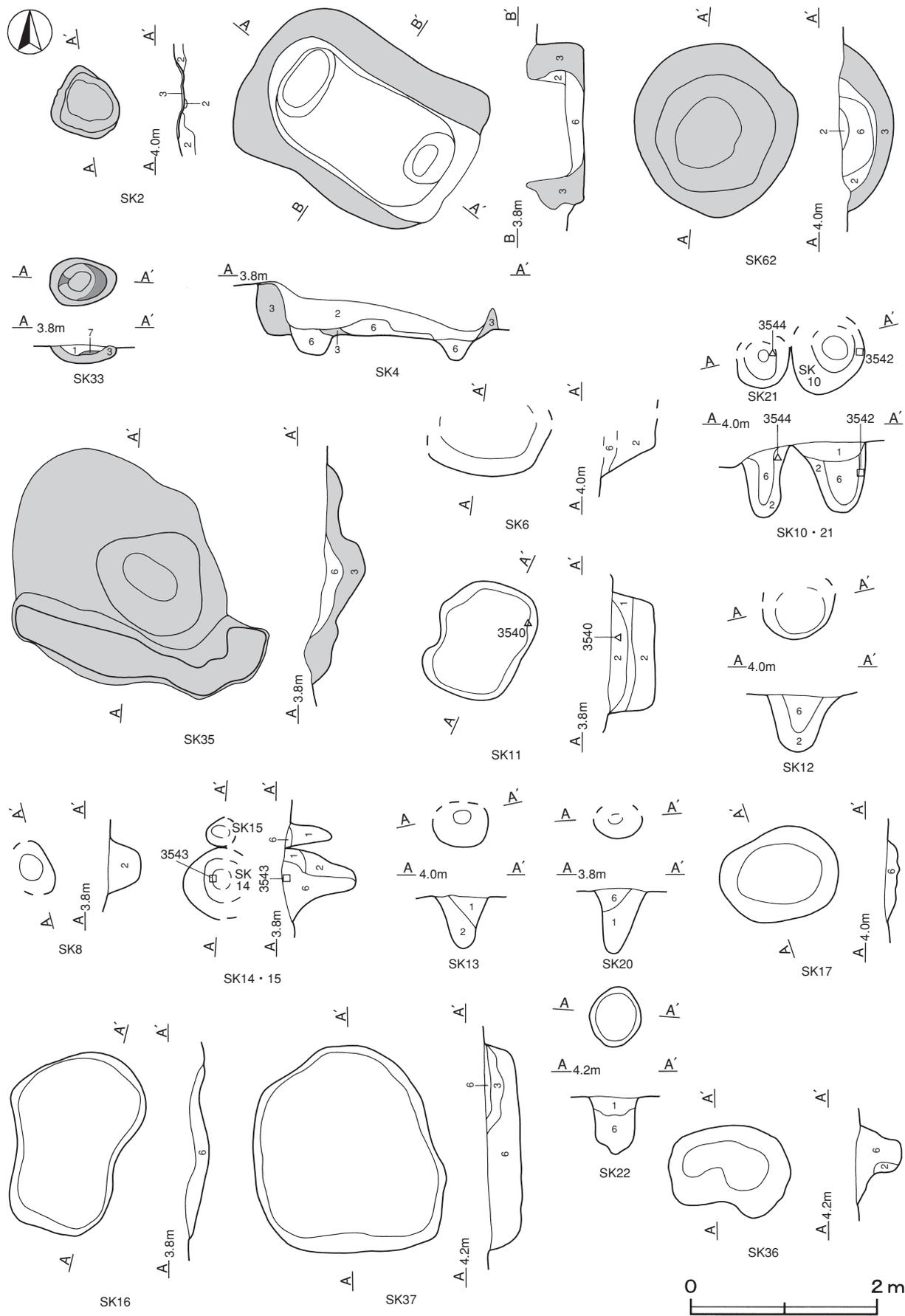
第203図 第3号土坑群実測図



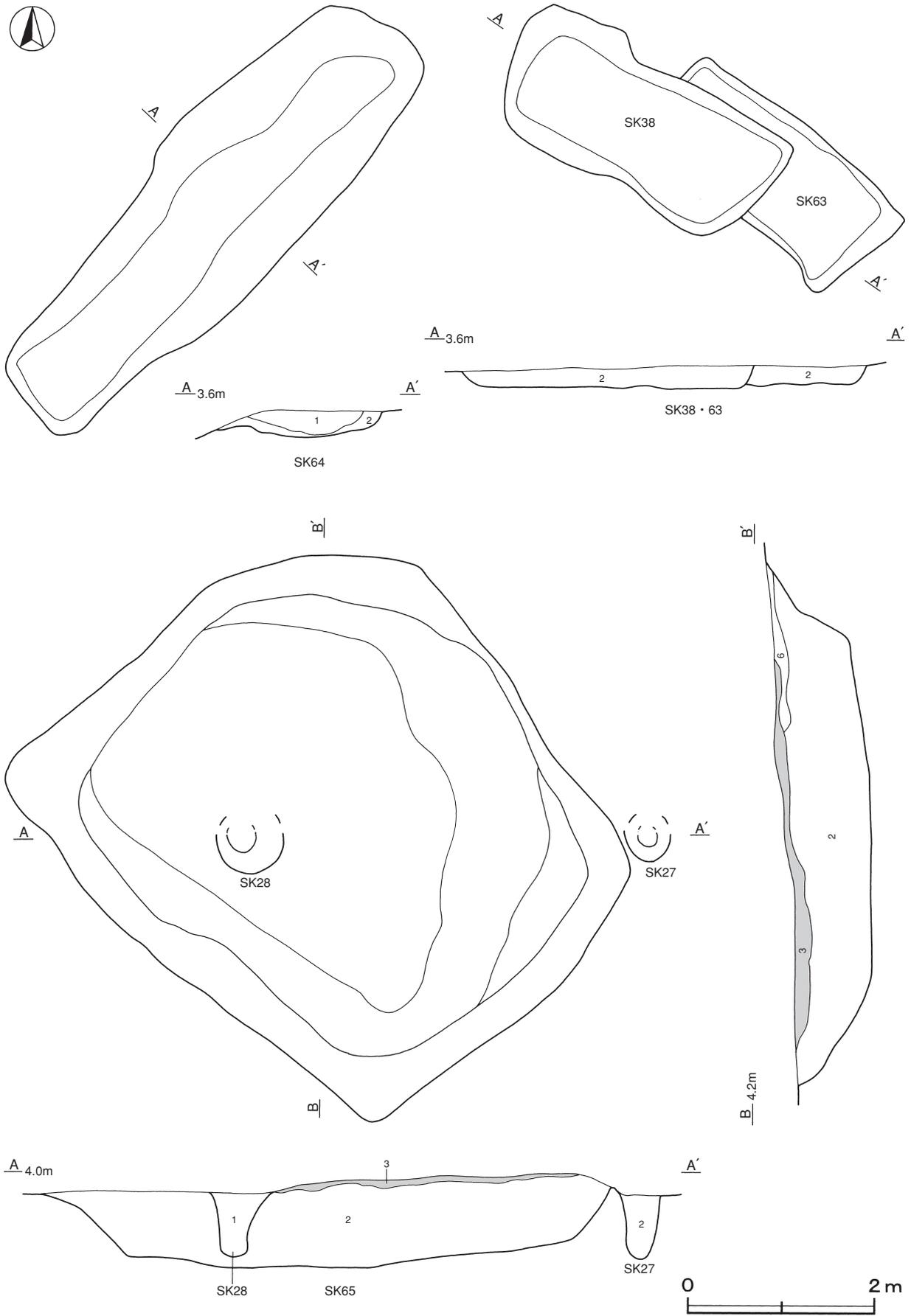
第204図 第3号土坑群出土遺物実測図

第3号土坑群出土遺物観察表 (第204図)

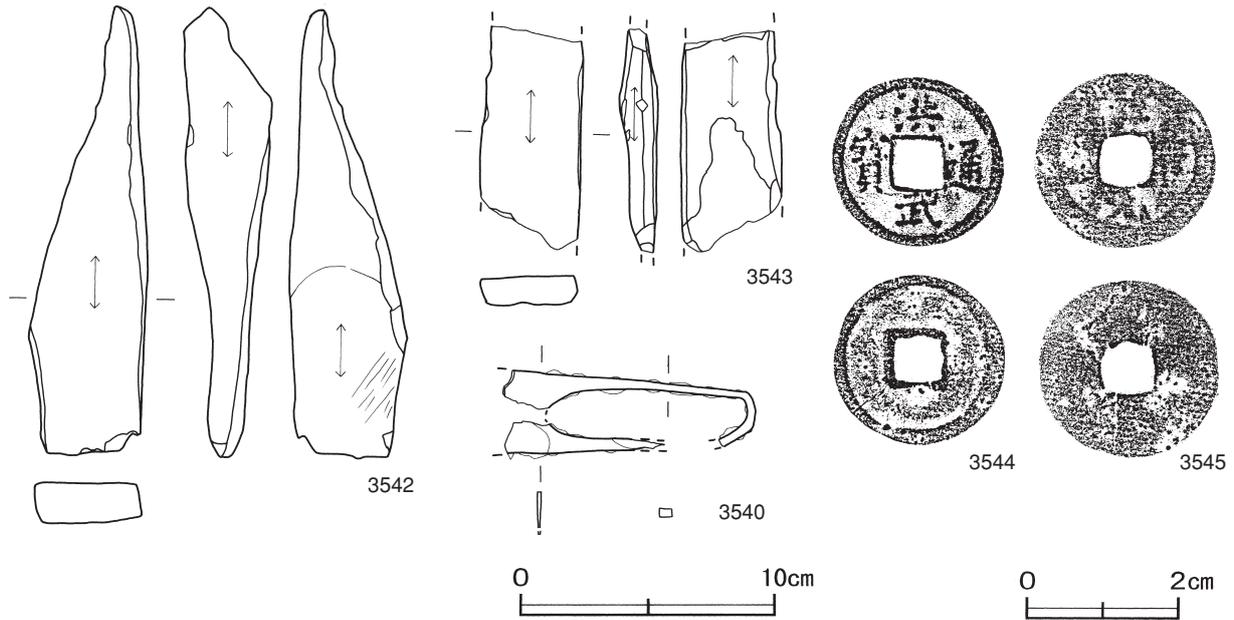
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
3546	紡茎	(9.3)	0.4	0.4	(5.7)	鉄	断面円形 茎端欠損	SK50内		
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3547	洪武通寶	2.25	0.60	0.13	2.80	1368	銅	真書	SK51内	
3548	祥符元寶	2.37	0.62	0.06	(2.18)	1008	銅	真書 欠け	SK51内	



第205图 黑色土贴土坑·土坑实测图



第206图 土坑实测图



第207図 土坑出土遺物実測図

その他の土坑出土遺物観察表（第207図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3542	砥石	17.9	4.6	3.5	240.0	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	SK10内	
3543	砥石	(8.9)	3.9	1.5	(66.7)	凝灰岩	砥面3面 断面長方形	SK14内	
3540	はさみ	(10.0)	(3.4)	0.2~0.5	(20.5)	鉄	先端部欠損 断面長方形	SK11内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3544	洪武通寶	2.28	0.64	0.11	2.66	1368	銅	真書	SK21内	
3545	祥符元寶カ	2.44	0.68	0.08	1.92	1008	銅	真書	SK22内	

表24 1区黒色土貼土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SK 2	J 9g6	3.8	N-13°-W	0.8	0.7	9	不整楕円形	2	-	緩斜	平坦		
2	SK 4	J 9g4	3.7	N-58°-W	2.5	1.8	61	隅丸長方形	30	-	外傾	平坦		
3	SK31	J 9i4	4.0	N-67°-W	[2.8]	1.7	32	[楕円形]	暗褐色土3~28	-	緩斜	皿状		SK32→本跡
4	SK32	J 9i4	4.0	N-52°-W	4.0	1.9	50	不定形	暗褐色土3~30	-	外傾	平坦		本跡→SK31
5	SK33	J 9h6	3.6	N-81°-W	0.7	0.5	11	楕円形	10	-	緩斜	皿状		
6	SK35	J 9h3	3.7	N-45°-W	3.2	2.3	20	不定形	12~24	-	緩斜	凸凹		
7	SK62	J 9b4	3.8	-	1.7	1.7	30	円形	14~28	-	緩斜	皿状		

表25 1区土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SK 6	J 9j6	3.8	N-73°-E	[1.5]	(0.6)	59	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		
2	SK 8	J 9b8	3.5	N-19°-W	[0.6]	[0.4]	34	[楕円形]	-	-	外傾	皿状		
3	SK10	J 9c8	3.8	N-32°-E	[0.9]	0.8	76	[楕円形]	-	-	外傾	皿状	砥石	
4	SK11	J 9c8	3.6	N-42°-E	1.3	1.0	62	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦	はさみ	

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形 状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
5	SK12	J 9c8	3.7	N-33°-W	0.8	[0.7]	60	[楕円形]	-	-	外傾	皿状		
6	SK13	J 9d8	3.8	N-85°-E	0.6	[0.5]	56	[楕円形]	-	-	外傾	皿状		
7	SK14	J 9d9	3.7	N-3°-E	0.9	[0.7]	90	[楕円形]	-	-	緩斜	凸凹	砥石	
8	SK15	J 9d9	3.7	N-65°-W	[0.4]	[0.3]	50	[楕円形]	-	-	外傾	皿状		
9	SK16	J 9e7	3.6	N-14°-E	2.0	1.4	70	不定形	-	-	緩斜	皿状		
10	SK17	J 9d7	3.8	N-14°-W	1.3	1.0	14	楕円形	-	-	緩斜	凸凹		
11	SK20	J 9d8	3.6	N-80°-E	0.6	[0.4]	70	[楕円形]	-	-	外傾	凸凹		
12	SK21	J 9c8	3.8	-	0.6	[0.6]	79	[円形]	-	-	外傾	皿状	古銭	
13	SK22	J 8i3	3.9	N-14°-E	0.7	0.6	61	楕円形	-	-	外傾	皿状	古銭	
14	SK27	J 9i9	3.8	-	0.5	[0.5]	70	[円形]	-	-	外傾	平坦		
15	SK28	J 9i8	3.8	-	0.7	[0.7]	70	[円形]	-	-	外傾	皿状		
16	SK36	J 9h5	3.9	N-78°-W	1.3	0.9	50	不定形	-	-	外傾	皿状		
17	SK37	J 9h5	4.0	N-2°-W	2.2	2.0	37	不定形	-	-	外傾	平坦		
18	SK38	J 9i7	3.6	N-60°-W	3.1	1.3	28	不整長方形	-	-	緩斜	平坦		SK 63→本跡
19	SK39	J 9i5	3.5	N-39°-W	0.5	0.4	65	楕円形	-	-	外傾	平坦		
20	SK40	J 9i5	3.5	-	0.2	0.2	49	円形	-	-	直立	皿状		
21	SK41	J 9h4	3.6	N-36°-W	0.5	0.4	24	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
22	SK42	J 9h5	3.6	N-5°-W	0.5	0.3	44	長方形	-	-	外傾	皿状		
23	SK43	J 9i4	3.6	-	0.3	0.3	15	円形	-	-	緩斜	皿状		第159号土壌墓→本跡
24	SK47	J 9h4	3.7	-	0.4	0.4	31	円形	-	-	外傾	皿状		
25	SK48	J 9i4	3.5	N-36°-W	0.5	0.3	44	楕円形	-	-	外傾	皿状		
26	SK49	J 9h4	3.5	N-13°-W	0.4	0.3	14	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
27	SK50	J 9h5	3.5	N-32°-W	0.6	0.3	60	楕円形	-	-	外傾	皿状	紡茎	
28	SK51	J 9i5	3.5	-	0.3	0.3	32	円形	-	-	外傾	皿状	古銭	
29	SK52	J 9i4	3.4	-	0.4	0.4	37	円形	-	-	外傾	皿状		
30	SK53	J 9i5	3.3	N-25°-W	0.4	0.3	40	楕円形	-	-	外傾	皿状		
31	SK55	J 9i5	3.4	N-5°-W	0.9	0.8	20	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
32	SK56	J 9i4	3.3	N-88°-W	0.5	0.3	12	隅丸長方形	-	-	外傾	皿状		
33	SK57	J 9i4	3.3	-	0.5	0.5	55	円形	-	-	竝・巒	皿状		
34	SK58	J 9i4	3.3	N-69°-E	0.2	0.1	30	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
35	SK59	J 9i5	3.4	-	0.2	0.2	35	円形	-	-	外傾	皿状		
36	SK60	J 9h4	3.6	-	0.2	0.2	17	円形	-	-	外傾	皿状		
37	SK61	J 9h5	3.6	N-79°-E	0.4	0.2	36	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
38	SK63	J 9i7	3.3	N-54°-W	2.8	1.2	20	長方形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK 38
39	SK64	J 9d6	3.4	N-44°-E	5.7	1.8	37	不整長方形	-	-	緩斜	平坦		
40	SK65	J 9i8	4.0	N-43°-W	5.9	4.9	110	不定形	-	-	緩斜	皿状		

(5) 集石

第7号集石 1区第1号集石(第208・209図)

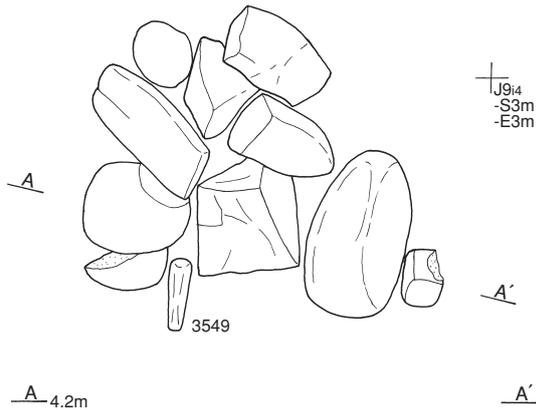
位置 調査区南東部のJ 9i3区に位置している。

確認状況 表砂を3.7m除去した標高3.9mの黒色土面で、中礫が確認された。

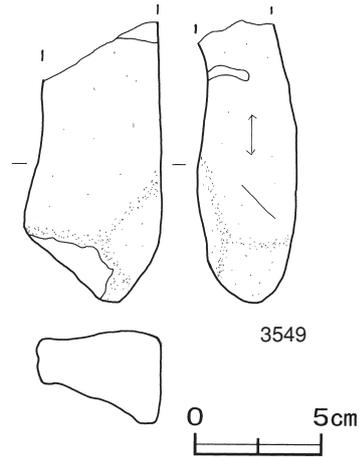
規模と平面形 礫が確認された範囲は径0.5mの円形である。

遺物出土状況 石器1点(砥石)、礫9点が出土している。礫は径5~15cm大のもので、火熱を受けている砂岩1点と安山岩、砂岩、チャートの自然礫8点が、石器とともに重なるように出土している。

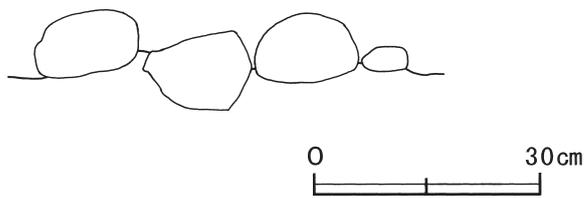
所見 石材や大きさに規格性はない。出土状況から廃棄された礫と考えられる。第49号整地面の黒色土上面から確認されていることから、16世紀前半と考えられる。



第208図 第7号集石実測図



第209図 第7号集石出土遺物実測図



第7号集石出土遺物観察表 (第209図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3549	砥石	(11.2)	5.5	3.9	(300.0)	砂岩	砥面1面 自然礫	黒色土上面	

(6) 溝跡

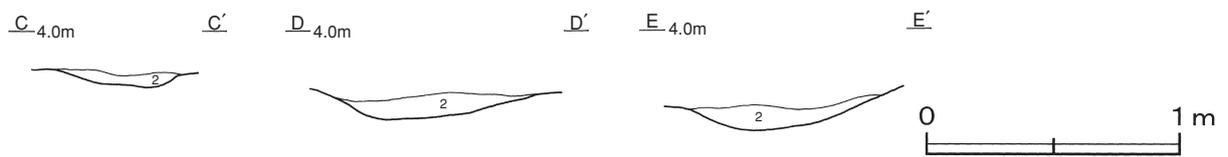
第7号溝跡 1区SD-1 (第196・210図)

位置 調査区南東部のJ9e7区を中心に位置している。

確認状況 表砂を3.7m除去し、標高3.9mで黒色土面が確認された。

規模と形状 J9g6区から北東方向(N-30°-E)へ直線的に延びている。確認された長さは、14.3mである。規模は、上幅0.4~0.8m、下幅0.2~0.4mで、深さは10cmである。底面は浅いU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

所見 第49号整地面の黒色土上面から確認されていることから16世紀前半と考えられるが、性格は不明である。



第210図 第7号溝跡土層図

(7) 土墳墓

1区で人骨の埋葬が確認された遺構2基について、その概要を記述する。

第158号土墳墓 SK-3 (第211図)

位置 1区南東部の J 9 i 9区で、第51号建物跡の上面に位置している。

確認状況 表砂を3.0m除去後、標高4.1mで人骨を確認した。掘り込みは確認できなかったが、土墳墓の最下層部を認めることができた。

規模と形状 土墳墓の最下部は、長軸0.9m、短軸0.8mの不定形で、深さは15cmである。

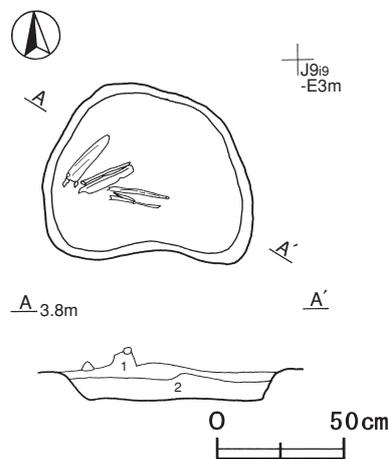
覆土 砂B層を中心とした単一層であり、埋葬時の埋め戻しと考えられる。

埋葬の状況 折り曲げられた状態の下肢骨が出土した。屈葬での埋葬である。下肢骨の状態から北西頭位または北頭位と推測される。

性別と年齢 性別不明 成人

遺骸の特徴 左大腿骨、左右の脛骨、腓骨が確認された。大腿骨の残存長は27cmである。歯は、確認できなかった。骨の大きさから成人と推定される。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬時期は不明である。第48号整地面の黒色土を掘り込んでいるため、第48号整地面構築後の埋葬である。



第211図 第158号土墳墓実測図

第159号土墳墓 SK-29 (第212・213図)

位置 1区南東部の J 9 h 5区で、第158号土墳墓の西18mに位置している。

確認状況 表砂を2.0m除去後、標高3.5mで、人骨を確認した。掘り込みの最下層部を認めることができた。

規模と形状 掘り込みの最下層部は、長軸1.7m、短軸1.0mの隅丸長方形で、深さは20cmである。

覆土 砂B層が中心で黒色土A層を少量含む、単一層である。埋葬時の埋め戻しである。

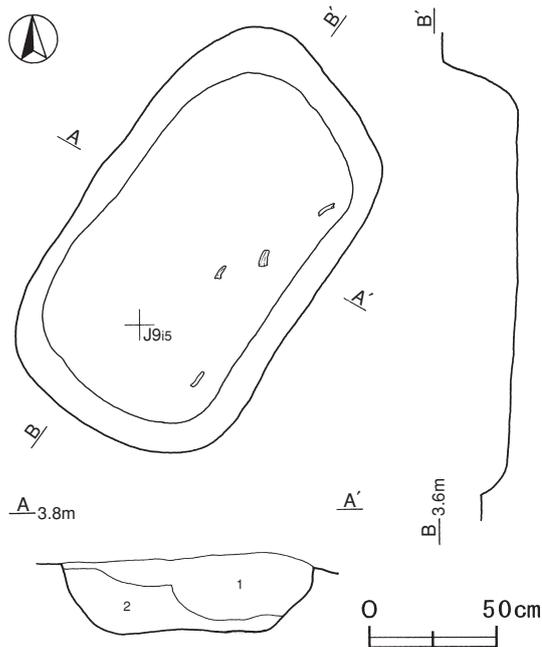
埋葬の状況 短い骨が、遺構内に散在していた。

遺物出土状況 土師質土器2点（小皿）が覆土から、銅製品1点（切羽）が人骨の側から、古銭2枚が土墳墓確認面の最上層からそれぞれ出土している。

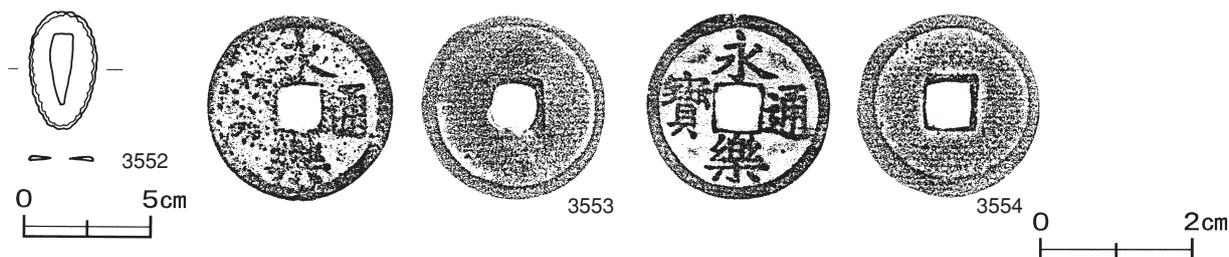
性別と年齢 性別不明 成人カ

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでおり、細かな骨のみ確認することができた。部位は確定できなかった。形状から四肢骨の一部と考えられる。歯は確認できなかった。

所見 骨は破片のみであったが、掘り込みの最下層部が確認できたことや副葬品と考えられる切羽が骨片の側から出土していることから、土墳墓とした。土師質土器片は埋葬時の混入であり、細片のため図示できなかった。古銭は埋葬時の混入あるいは遺構確認時に動かされた可能性がある。判読できた最新銭は永樂通寶（初鑄年1408）である。



第212図 第159号土墳墓実測図



第213図 第159号土壙墓出土遺物実測図

第159号土壙墓出土遺物観察表（第213図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3552	切羽	4.6	2.5	0.2	7.5	銅	完存 長丸型	骨片側	副葬品 PL90

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3553	永樂通寶	2.48	0.55	0.11	3.50	1408	銅	真書	覆土中	混入
3554	永樂通寶	2.47	0.58	0.12	3.18	1408	銅	真書	覆土中	混入

表 1 区土壙墓一覧表

番号	区	遺構番号	位置	標高	性別	推定死亡年齢	推定身長	各四肢骨の長さ（単位 cm）								備考				
								上腕骨		橈骨		尺骨		大腿骨			脛骨		腓骨	
								右	左	右	左	右	左	右	左		右	左	右	左
158	1	SK 3	J 9 i 9	4.1	-	成人	-	-	-	-	-	-	-	(27.0)	(23.0)	(20.5)	(26.0)	-	-	HK 48内
159	1	SK 29	J 9 h 5	3.5	-	成人カ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

3 7区の遺構と遺物

調査第7区は、遺構を構築している盛土が広がっている。そのため、黒色土全体をひとつの整地面として捉えた。整地面以外に、土坑2基、流路跡1条が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 整地面

第50号整地面 7区HK-1・2（第214・215図）

位置 調査区中央部E1i8区を中心に位置している。

重複関係 西部を流路に、東部を第1号土坑、第2号土坑に掘り込まれている。

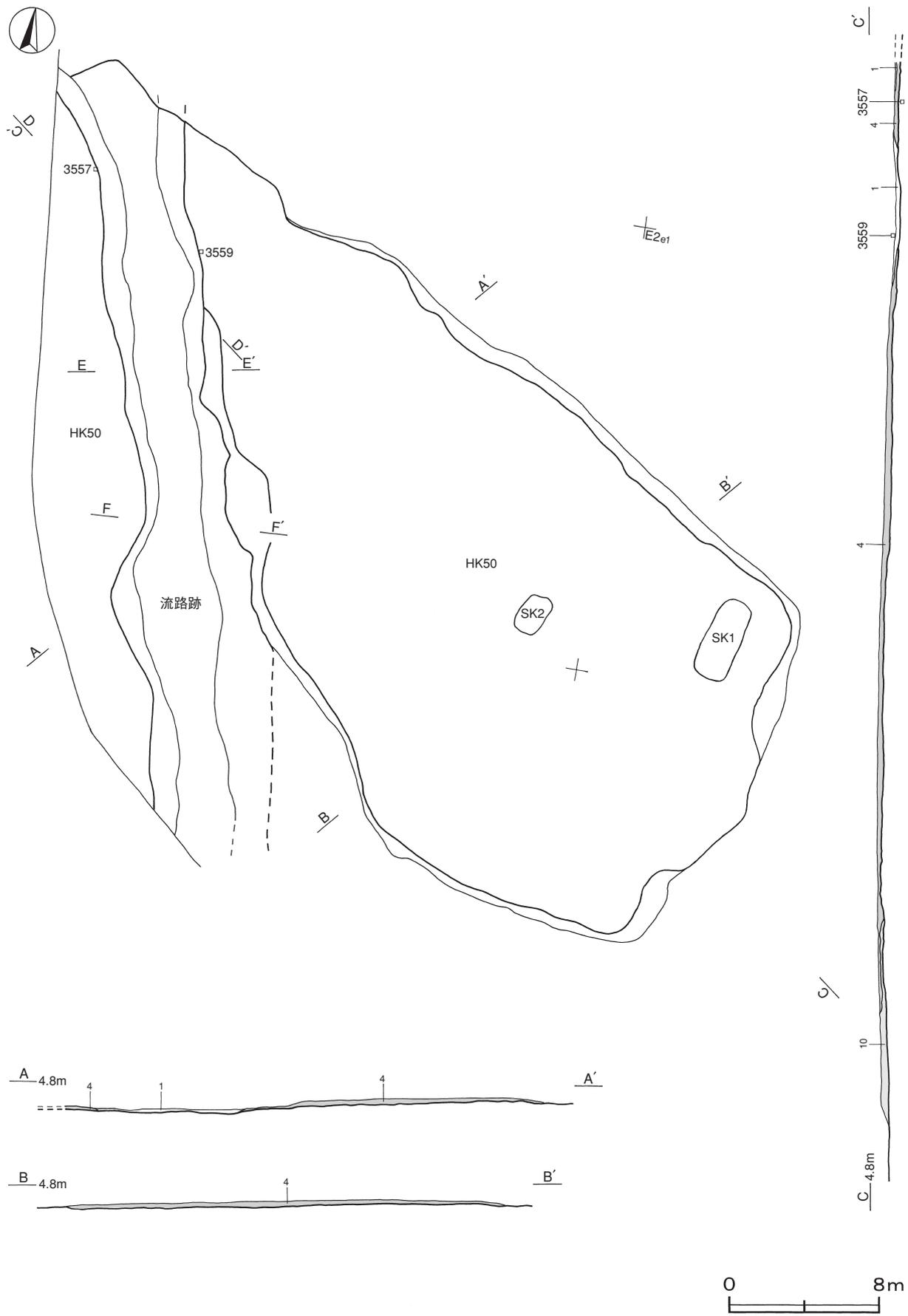
確認状況 表砂を1.2m除去し、標高約3.5～4.5mで黒色土面が確認された。調査第7区を構築している盛土で、全体が整地されている。よって東西に分けられている。

規模と施設 黒色土面が西側の調査区域外へ延びているため、黒色土の範囲は、南北は40.2mだけが確認され、東西42.4mである。整地面東側には、暗褐色土の硬くしまった自然層が広がっている。

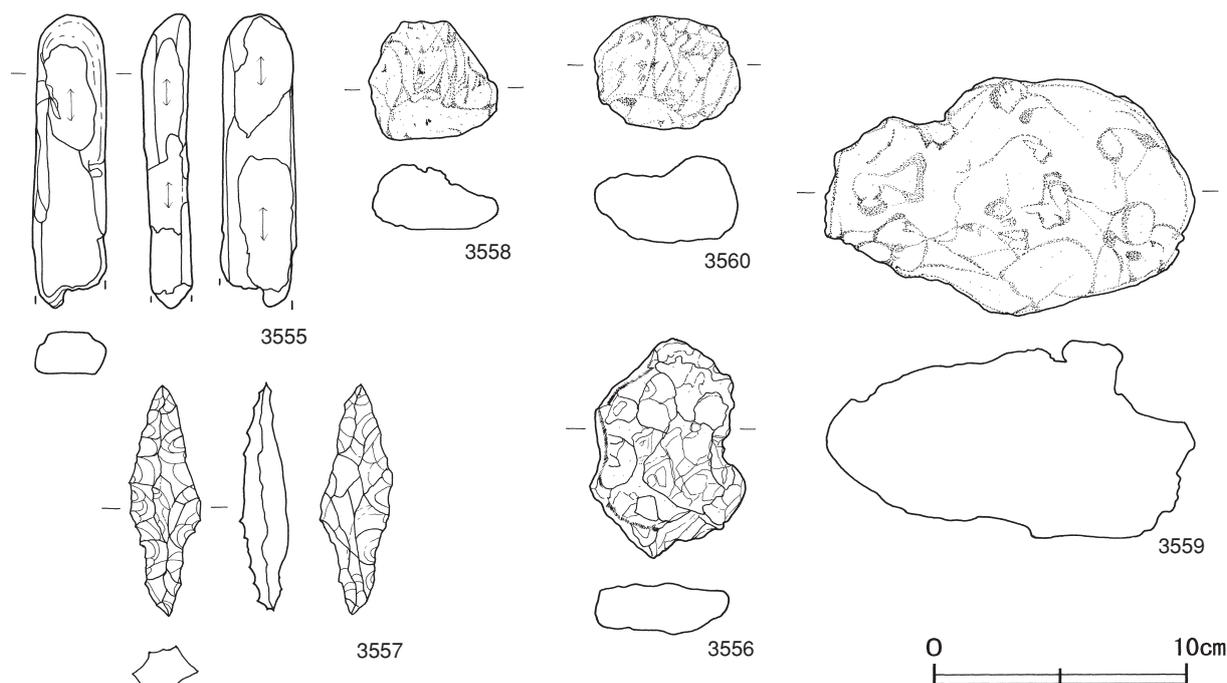
生活面 東部中央付近の標高が一番高く、周囲に向かってなだらかに傾斜している。第4層の黒色土B層を主体とする厚さ10～30cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）、土師器片4点（甕）、土師質土器片7点（皿）、石器19点（砥石1、火打石1、軽石14、石鏃1、不明2）、獣骨片が出土している。3557は北西部の黒色土下、3559は北西部の黒色土上面から出土している。

所見 用途は不明であるが、土層の状況から人為的に構築された整地面と考えられる。



第214図 第50号整地面・流路跡実測図



第215図 第50号整地面出土遺物実測図

第50号整地面出土遺物観察表（第215図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3555	砥石	(11.7)	3.0	2.0	(93.7)	凝灰岩	砥面5面 断面長方形 風化激しい	覆土中	
3556	火打石	8.7	6.2	2.1	149.7	瑪瑙	一部の稜が摩滅	覆土中	
3557	石鏃	3.0	0.9	0.6	1.2	チャート	有茎鏃	北西部黒色土下	
3558	軽石	4.7	5.1	2.6	8.7	軽石	断面不整形 表面崩れやすい	覆土中	
3559	軽石	9.5	14.6	7.8	234.0	軽石	断面不整形 表面崩れやすい	北西部黒色土上面	
3560	軽石	4.6	5.7	3.5	17.6	軽石	断面不整形 表面崩れやすい	覆土中	

(2) 流路跡

流路跡 7区SD-1（第214・216・217図）

位置 調査区北西部のE1c3区から南西部のF1d6区に位置している。

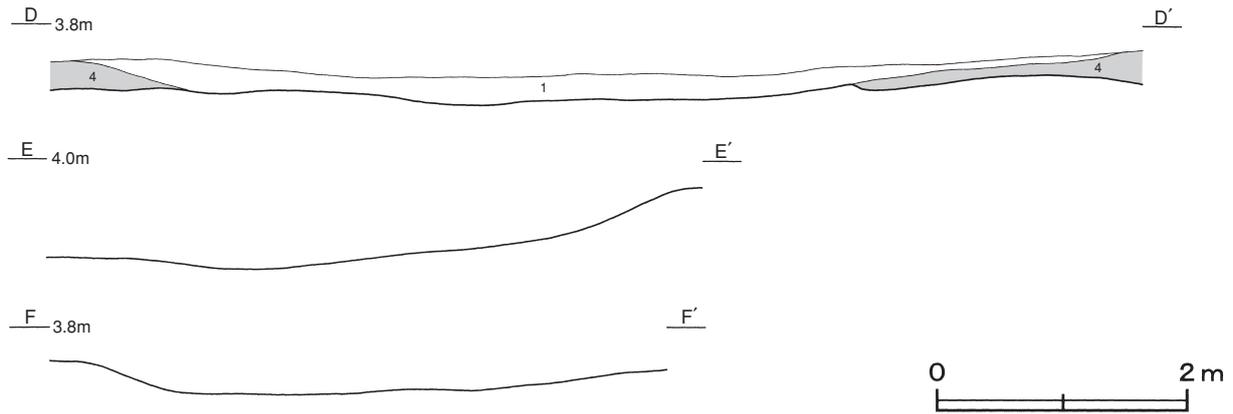
重複関係 第50号整地面を掘り込んでいる。

確認状況 表砂を約1.1m除去し、標高約3.4～3.6mで確認された。

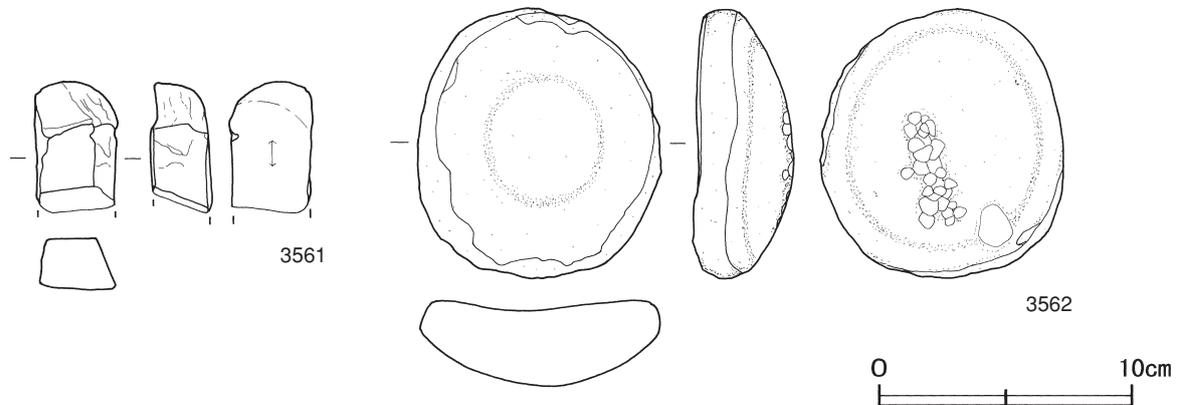
規模と形状 北部及び南部が調査区域外になるため規模は不明であるが、確認された長さは41.0mで、上幅4.0～7.4m、下幅1.9～4.3m、深さ8～28cmである。断面は浅いU字状である。底面には自然礫が堆積している。覆土は、第1層の砂A層が自然堆積した層である。

遺物出土状況 石製品2点（砥石、磨石カ）が出土している。3561は北部の底面から出土している。

所見 遺物は、出土状況から混入と考えられる。溝底面の礫の角が摩滅し、丸みを帯びた細礫であることや、溝の平面形状から、自然流路と推定される。



第216図 流路跡土層図



第217図 流路跡出土遺物実測図

流路跡出土遺物観察表（第217図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3561	砥石	(5.2)	3.1	2.5	(53.8)	砂岩	砥面1面 断面台形	北部底面	
3562	磨石カ	10.8	9.5	4.0	497.0	砂岩	凹面磨面 凸面敲打痕有り 側面全面調整	覆土中	

(3) 土坑

第1号土坑 7区SK-1（第218図）

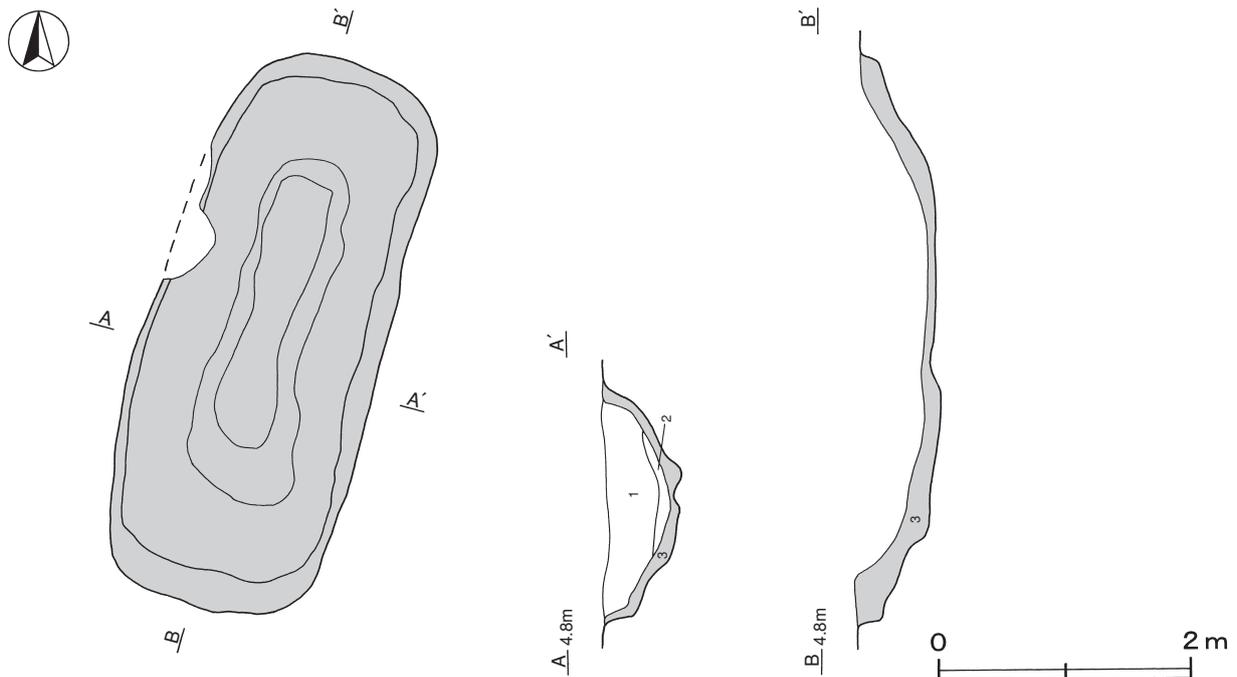
位置 調査区東部のE2j2区に位置している。

確認状況 表砂を約1.0m除去し、標高約4.5mで確認された。

規模と形状 長軸4.5m、短軸1.9mの隅丸長方形で、長軸方向はN-18°-Eである。深さは52cmである。底面は浅いU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。第50号整地面の黒色土を掘り込んだ後、厚さ4~20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は、第1・2層の砂A・B層が自然堆積した層である。

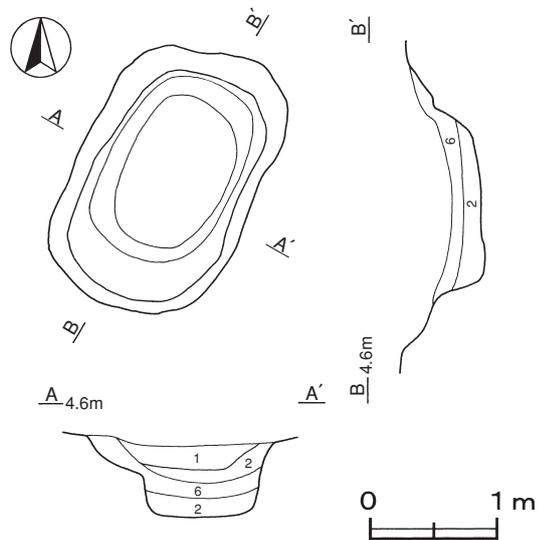
遺物出土状況 自然礫1点が、土坑の底面から出土している。

所見 自然礫は径15cmで、土坑埋没時に混入したと推測される。性格は不明である。



第218図 第1号土坑実測図

第2号土坑 7区SK-2 (第219図)



第219図 第2号土坑実測図

位置 調査区中央部のE1j0区に位置している。

確認状況 表砂を1.2m除去し、標高約4.3mで確認された。

規模と形状 長軸2.3m、短軸1.4mの隅丸長方形で、長軸方向はN-25°-Eである。深さは66cmである。底面は平坦で、壁の下方は外傾し、上方は緩やかに立ち上がっている。第50号整地面の黒色土を掘り込んで構築されている。覆土は、第1・2層砂A・B層及び第6層の黒D層がレンズ状に自然堆積した層である。

所見 時期は、長軸方向から第1号土坑と前後して構築された可能性がある。性格は不明である。

表27 7区土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SK 1	E 2 j 2	4.5	N-18°-E	4.5	1.9	52	隅丸長方形	4~20	-	外傾	皿状		
2	SK 2	E 1 j 0	4.3	N-25°-E	2.3	1.4	66	隅丸長方形	-	-	外傾・縦	平坦		

4 8区の遺構と遺物

土手状遺構1か所、建物跡20軒、整地面26か所が確認された。また、建物跡や整地面に伴わない炉1基、粘土貼土坑12基、土坑143基、貝集積地1か所、ピット群6か所、不明遺構1基、土墳墓3基、土墳4基が確認された。以下、各項の遺構と遺物について記述する。

(1) 土手状遺構

第3号土手状遺構 (第220~222図)

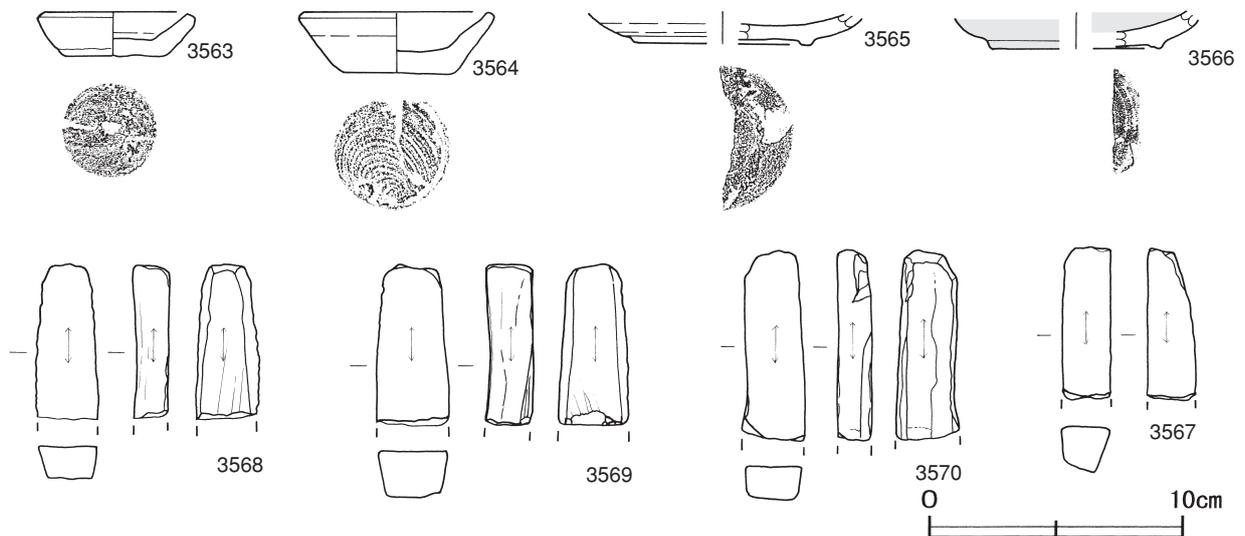
位置 調査区南部のO11b2~O11j8区に位置している。調査区内の建物跡や整地面を画するように南部の調査区域外から北東方向へ緩やかに高まりながら一直線に延びている。土手状遺構の東部には第54号建物跡を主とする建物跡と整地面、西部には曲屋の構造をもつ第56・60号建物跡が位置している。北部は、一段高い砂上になっており、第63号整地面や第62号整地面を基盤とした第64~66・72号建物跡と整地面が位置している。

確認状況 表砂を約4.1m除去し、標高約3.4~4.6mで黒色土面が確認された。

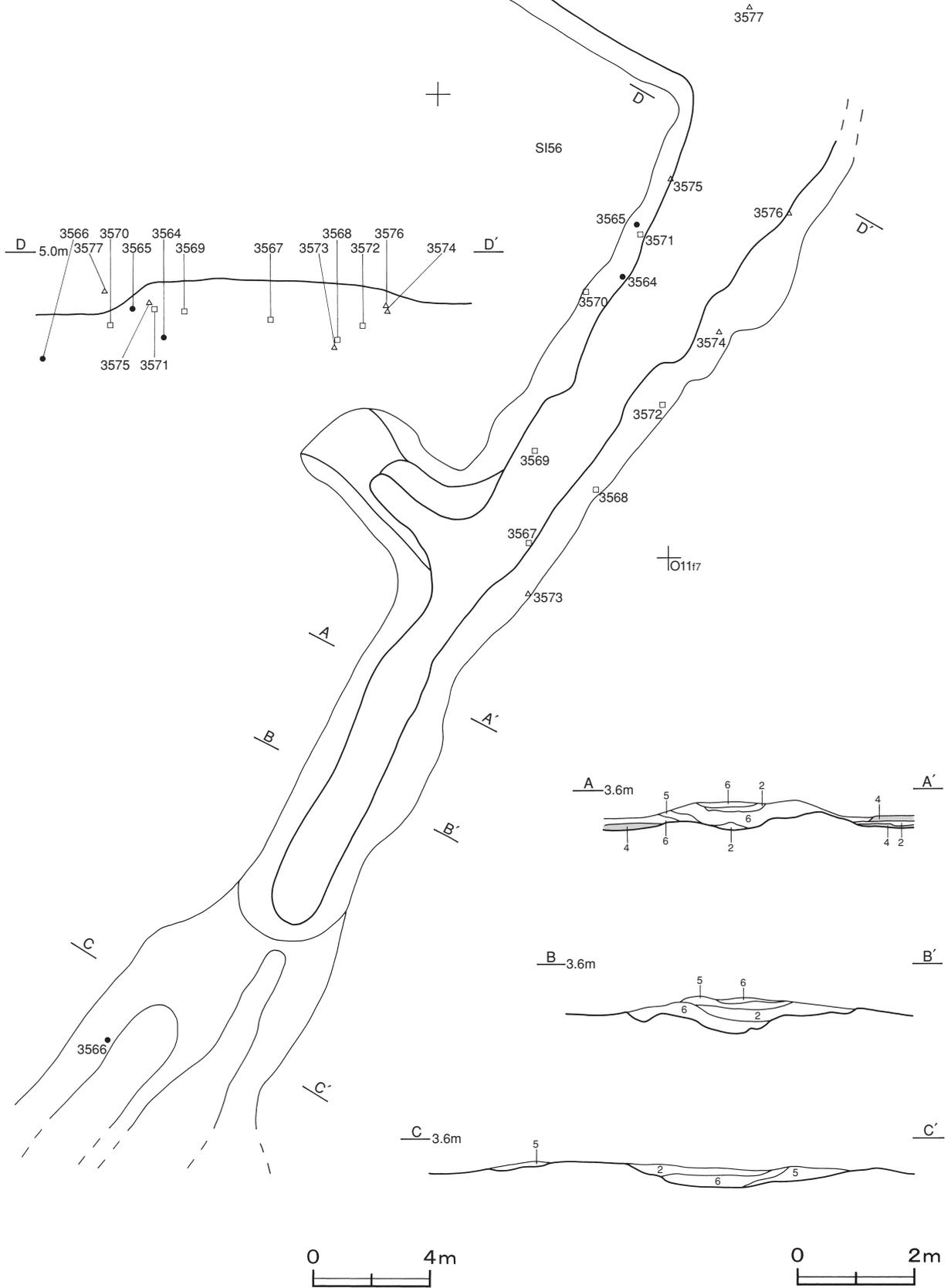
規模と形状 O11j2区から北東方向(N-30°-E)に緩やかに高まりながら一直線に延びている。南部は調査区域外に延びているため、長さ約43m、上幅約1.9~4.5m、下幅約3.2~6.1m、高さ約0.2~0.5mだけが確認された。断面は台形である。土手状遺構の北部は、第63号整地面と重なるように合流している。本跡と第56・60号建物跡は隣接し、軸線はほぼ同じである。また、土手状遺構の中央部のO11e4区で、西部に向かって緩やかに傾斜する出入り口部分が確認された。長さ約6.5m、上幅約1.0~1.5m、下幅約3.4~3.9m、高さ約0.2~0.3mで、形状はかなり崩れているが、断面は台形である。土層断面図中のB-B'から、土層は黒色土D層を主体に黒色土C層と砂B層を重ねて構築され、上面の締まりは強い。

遺物出土状況 土師質土器片24点(小皿6, 皿15, 鍋3), 陶器5点(皿), 石器6点(砥石), 金属製品6点(小柄1, 釘1, 鋸1, 古銭2, 不明1)が出土している。3564・3565・3570・3571・3574~3577は北部, 3567~3569・3572・3573は中央部, 3566は南部の黒色土上面から黒色土中にかけてそれぞれ出土している。

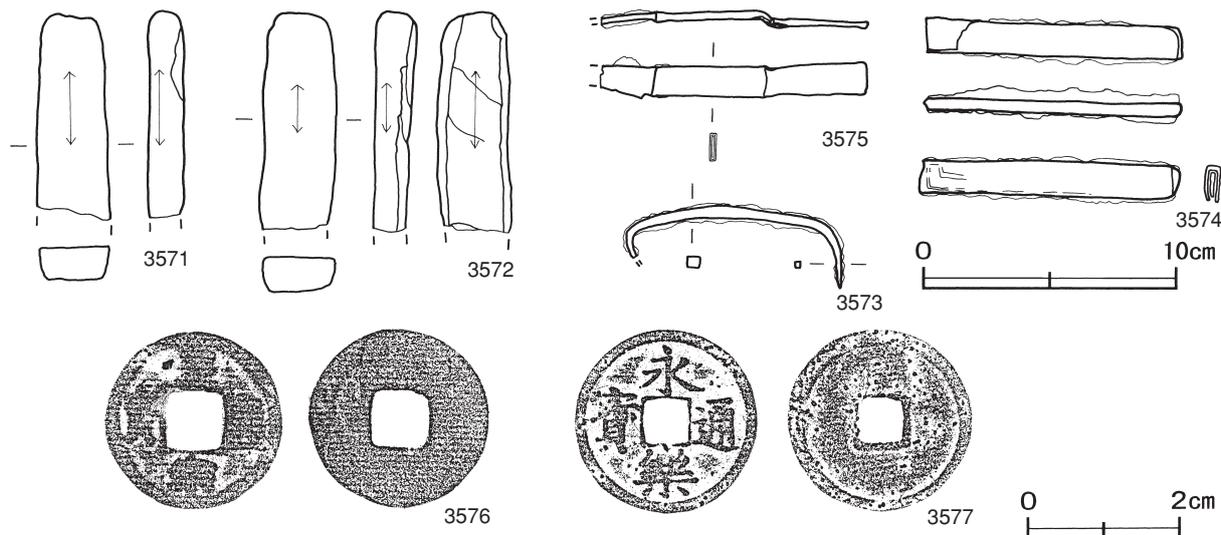
所見 調査区内の建物跡や整地面を画するように構築され、西部に位置している第56・60号建物跡と東部に位置している第57・58号建物跡との軸線が同じである。また、土手部上面の締まりが強いことから、通路として使用されていたと考えられる。時期は、3565・3566から17世紀前半ごろと考えられる。



第220図 第3号土手状遺構出土遺物実測図(1)



第221图 第3号土手状遺構実測図



第222図 第3号土手状遺構出土遺物実測図(2)

第3号土手状遺構出土遺物観察表 (第220・222図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3563	小皿	土師質土器	6.2	1.8	4.0	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り後 ナデ	覆土中	100% PL71
3564	小皿	土師質土器	7.1	2.5	4.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	北部黒色土中	80% PL72

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3565	丸皿	陶器	-	(1.3)	[7.0]	灰白・灰白	長石釉	見込み・高台内ビン痕有り	瀬戸・美濃 17C前葉	北部黒色土上面	20% 大窯4
3566	丸皿	陶器	-	(1.5)	[6.6]	灰白・オリブ黄	灰釉	見込み・高台内ビン痕有り	瀬戸・美濃	南部黒色土上面	10% 大窯後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3567	砥石	(6.1)	2.0	1.9	(32.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	中央部黒色土中	
3568	砥石	(6.2)	2.5	1.4	(34.1)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	中央部黒色土中	
3569	砥石	(6.4)	2.8	1.9	(58.0)	凝灰岩	砥面4面 砥面に擦痕 断面台形	中央部黒色土中	
3570	砥石	(7.6)	2.5	1.4	(42.4)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	北部黒色土上面	
3571	砥石	(8.3)	3.0	1.5	(58.2)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	北部黒色土上面	
3572	砥石	(8.8)	3.0	1.7	(63.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	中央部黒色土中	
3573	鏝	8.6	3.3	0.5	(13.9)	鉄	断面四角形 先端部扁平	中央部黒色土中	PL92
3574	小柄	10.3	1.4	0.5	35.4	銅	地板に金象眼の模様有り 錆激しい	北部黒色土中	PL70
3575	小柄カ	(10.6)	1.6	0.3	(14.3)	銅	地板無文	北部黒色土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3576	皇宋通寶	2.40	0.78	0.07	2.76	1038	銅	真書	北部黒色土中	
3577	永樂通寶	2.46	0.59	0.12	3.16	1408	銅	真書	北部黒色土上面	

(2) 建物跡

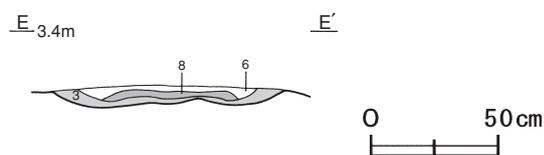
第54号建物跡 8区S I - 1 (第223~226図)

位置 調査区南東部のO11i9区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約4.4m除去し、標高約3.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑、貝集積地と北東に並ぶ柱穴10か所、さらに黒色土を除去して炉、粘土貼土坑と土坑が確認された。

規模と施設 東部と南部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、南北8.2m、東西7.6mが確認された。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑2基、土坑9基が構築され、貝集積地1か所が確認されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ5～10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。北東軸に並ぶ柱穴と平行に、長軸9.2m、短軸2.2mの不定形である。黒色土面の西部に、長軸9.2m、短軸2.9mの不定形で、厚さ約4cmのローム土が広がっている。

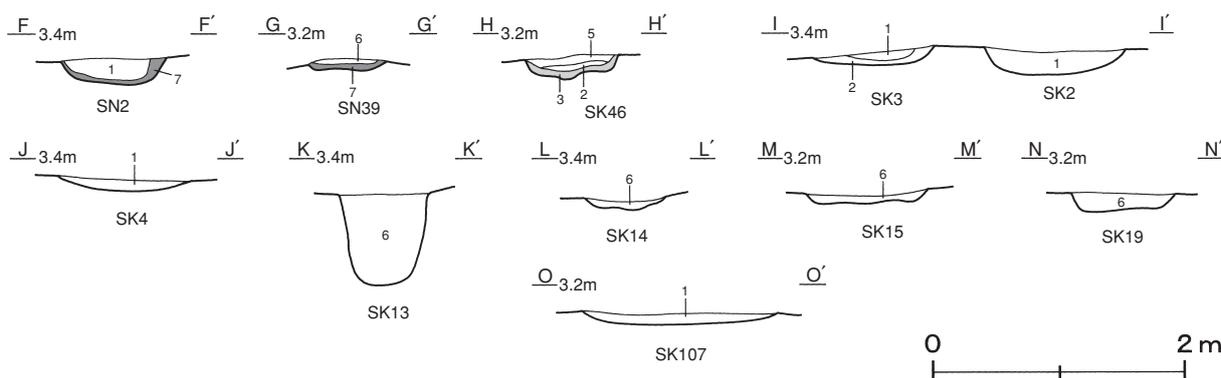


第223図 第54号建物跡炉土層図

炉 (第223図) 炉は柱穴の配列から、北東部に位置していると推定される。厚さ2～5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土下層から第8層の焼砂が検出され、上層は第6層の黒色土D層で埋め戻されている。

ピット 10か所。P1～P4は深さ60～105cmで、北東軸の柱穴と考えられる。P5～P8は深さ55～73cmで、P1～P4と平行に並ぶ柱穴と考えられる。2列の間隔は約1mであり、P5～P8は庇の可能性が考えられる。P9・P10は深さ約85cmで、上屋を支えた柱穴か間仕切りをした柱穴と考えられる。

土坑 (第224図) 第2号粘土貼土坑は黒色土面の北東部、第2～4号土坑は炉の西側に位置している。第39号粘土貼土坑と第107号土坑は、黒色土面の下層から確認されている。第13～15・19号土坑と黒色土で構築された第46号土坑は、黒色土面の西側に位置している。第2・39号粘土貼土坑は、厚さ3～7cmほどの粘土を貼り付けて構築されている。第46号土坑の上面は、厚さ3～12cmの黒色土が貼り付けてられ、覆土は第2層の砂B層と第5層の黒色土C層が人為堆積した層である。



第224図 第54号建物跡土坑土層図

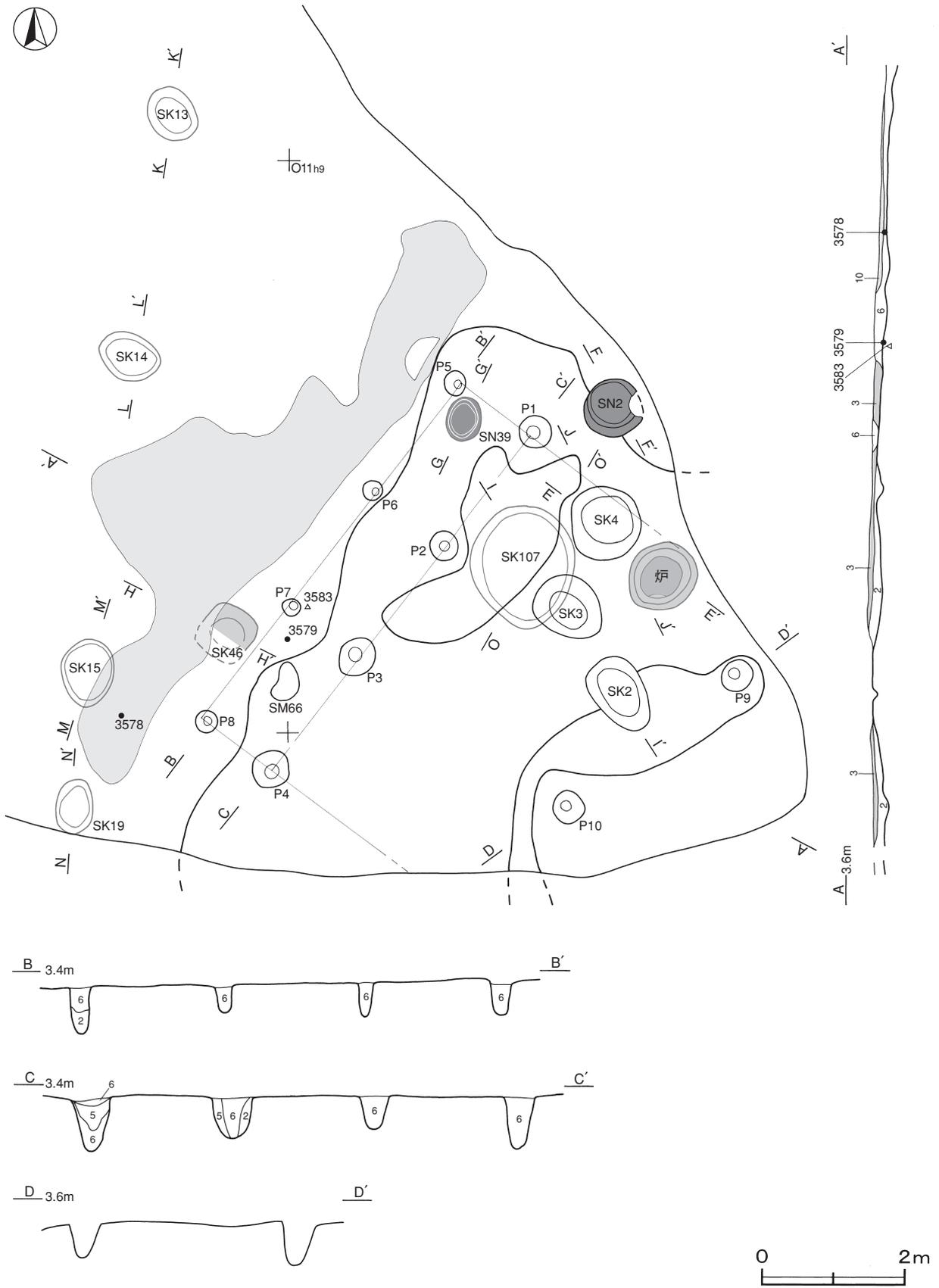
貝集積地 第66号貝集積地は黒色土の西部に位置し、長軸0.5m、短軸0.3mの不定形を呈している。貝層は、薄く広がった状態で確認された。

第66号貝集積地出土貝種一覧表

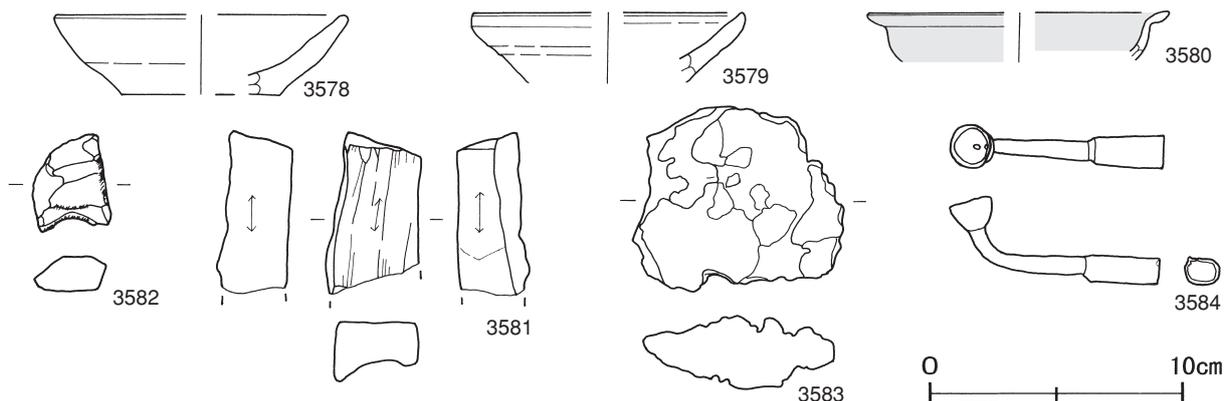
No	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	450.0	39.13	183	淡水
2	細片	700.0	60.87		数種混在

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿3, 鍋1), 陶器片1点(皿), 石器2点(砥石, 火打石), 金属製品8点(煙管1, 不明7), 鉄滓1点が出土している。3578は西部のローム土下層, 3579・3583は西部の砂層から出土している。

所見 東部と南部が調査区域外に延びているため、全体の様子はつかめないが、ピットの配列から北東を主軸とした建物跡と推定される。時期は、最初の遺構確認面から検出されていることや3580から17世紀前半と考えられる。



第225图 第54号建物跡実測図



第226図 第54号建物跡出土遺物実測図

第54号建物跡出土遺物観察表（第226図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3578	皿	土師質土器	[11.5]	3.2	[6.2]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	西部ローム土下層	10%
3579	皿	土師質土器	[10.6]	(2.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ	西部砂層	20%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3580	皿	陶器	[12.0]	(1.9)	-	灰・黄灰	薬灰釉	口縁部強く外反	肥前 17C 前葉	覆土中	5% I-2

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3581	砥石	(6.5)	3.6	2.9	(74.2)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	覆土中	
3582	火打石	3.9	3.1	1.3	20.0	瑪瑙	一部の稜が摩滅	覆土中	
3583	碗状滓	8.3	7.3	2.9	174.0	鉄	断面碗状 表面茶褐色	西部砂層	PL93
3584	煙管	8.5	火皿径1.7	小口径1.0	9.9	銅	雁首 火皿冠1ヵ所有り	覆土中	PL94

第55号建物跡 8区S I-2 (第227~231図)

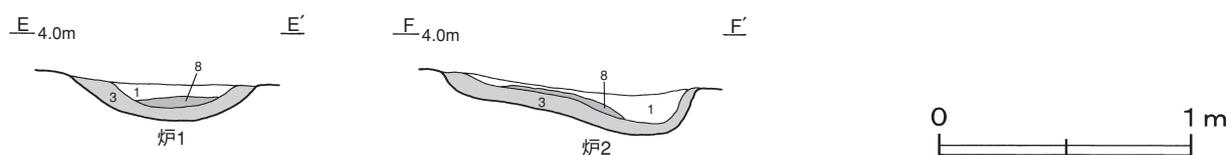
位置 調査区南部のN11j3区を中心に位置している。南東側には第56号建物跡が隣接している。

確認状況 表砂を約3.4m除去し、標高約4.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、土坑と柱穴17か所、さらに黒色土を除去して、粘土貼土坑と土坑が確認された。

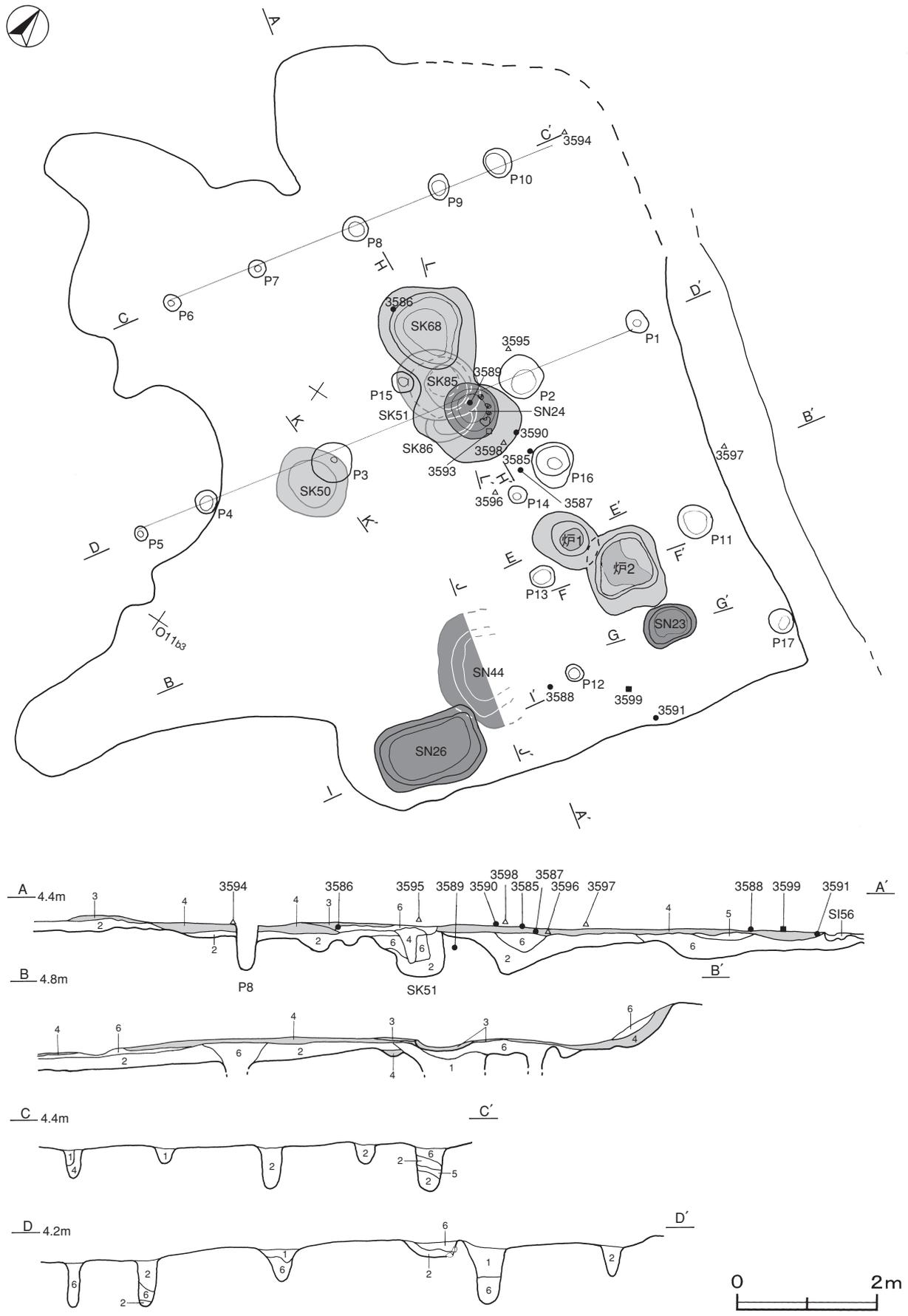
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸11.0m、短軸8.2mの不定形で、長軸方向はN-47°-Wである。付属施設として、炉2基、粘土貼土坑4基と土坑5基が構築されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ3~8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉1・2と第24号粘土貼土坑の周囲から硬化した黒色土が確認された。

炉 (第227図) 2か所。どちらも東部に位置し、並んで構築されている。炉1は厚さ5~8cm、炉2は厚さ4~6cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉2の東部には、第23号粘土貼土坑が隣接している。覆土の最下層から、第8層の焼砂が検出されている。



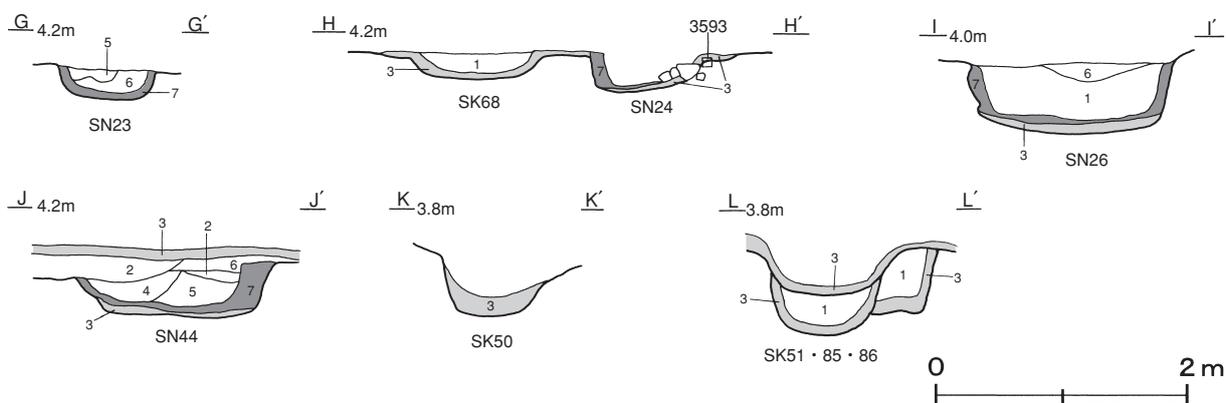
第227図 第55号建物跡炉土層図



第228图 第55号建物跡実测图

ピット 17か所。P 1～P 5は深さ44～82cm， P 6～P 10は深さ26～77cmでそれぞれ北東軸に並ぶ柱穴と考えられる。P 11～P 17は深さ25～57cmで上屋を支えた柱穴か間仕切りをした柱穴と考えられる。北東軸に並ぶ柱穴が確認されたが，北東軸に並ぶ柱間寸法は不規則である。また，北西軸に対応する柱穴は検出されなかった。

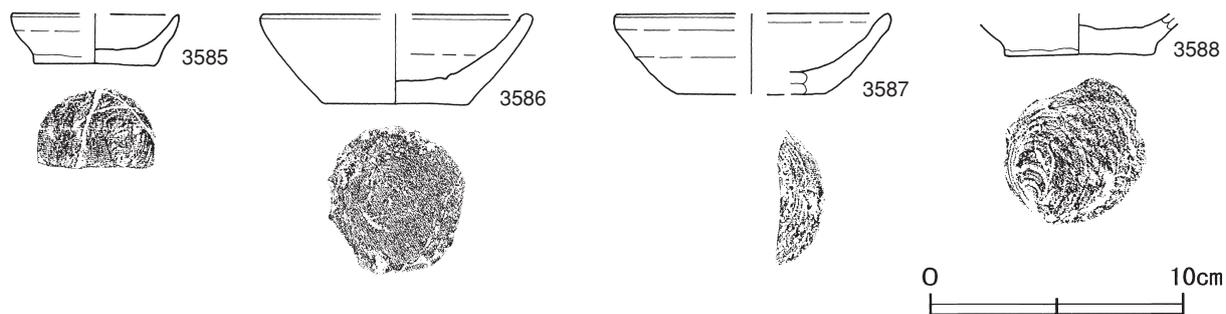
土坑（第229図）第24号粘土貼土坑と黒色土で構築された第68号土坑は中央部，第23号粘土貼土坑は東部，第26号粘土貼土坑は南東部に位置している。第24号粘土貼土坑と第68号土坑は並んで確認されている。黒色土面の下層からは，第44号粘土貼土坑が南東部，黒色土で構築された第50・51・85・86号土坑が中央部から確認されている。第51・85・86号土坑は，重なり合うように構築されている。粘土貼土坑は厚さ2～12cmほどの粘土，第50・51・85・86号土坑は厚さ3～15cmほどの黒色土を貼り付けて構築されている。第44号粘土貼土坑は第2層の砂B層と第4・5層の黒色土B・C層が人為堆積した層である。



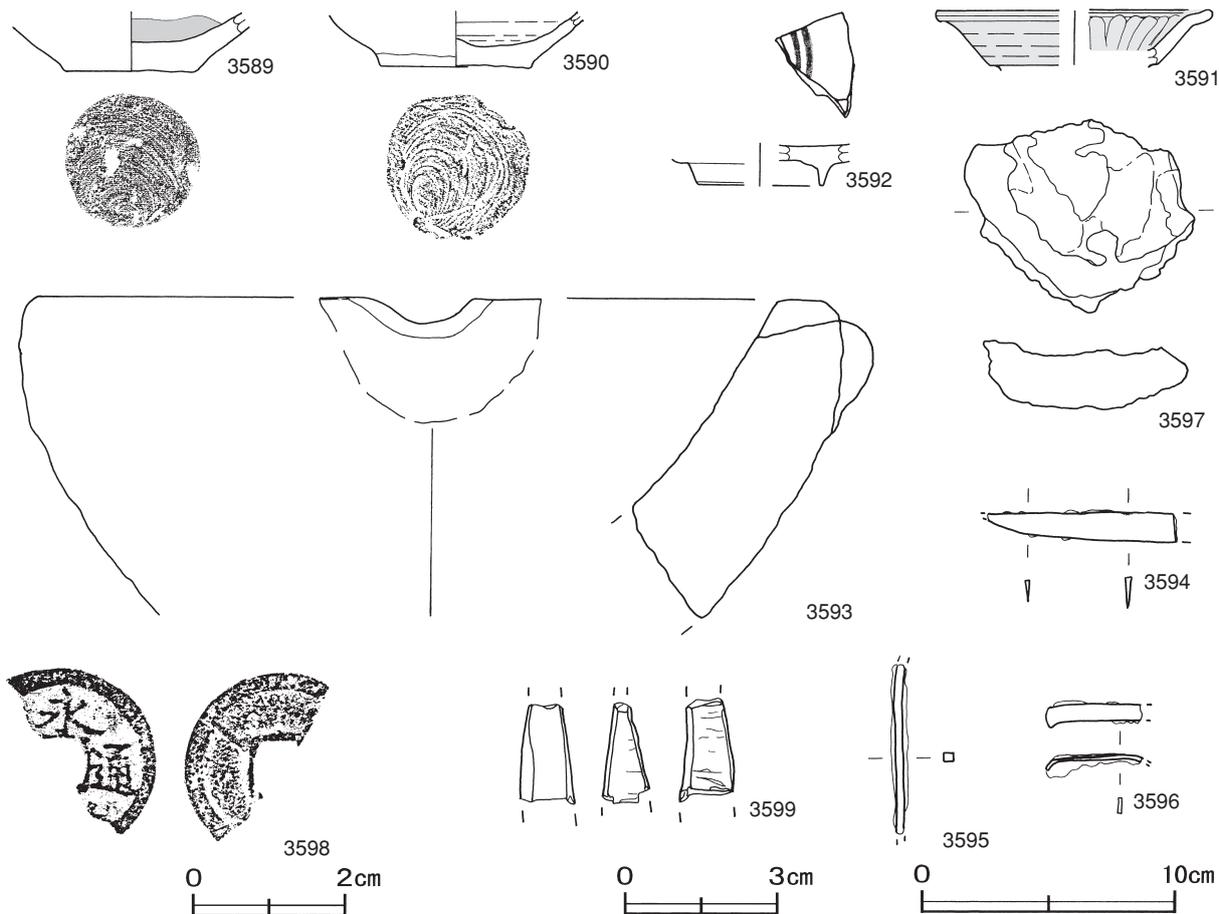
第229図 第55号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片13点（小皿6，皿6，甕1），陶器片3点（皿），石器2点（火打石，石鉢），金属製品10点（小刀1，釘4，毛抜1，古銭1，不明3），骨角製品1点（不明），椀状滓1点が出土している。遺物は中央部から多く出土している。3585～3587・3589・3590・3595・3596・3598は，中央部の黒色土上面から黒色土下にかけて出土している。3588・3591・3599は東部の黒色土上面，3597は北東部の黒色土上面，3594は北部の黒色土上面からそれぞれ出土している。

所見 ピットの配列からは上屋構造を想定できないが，南東側に隣接している第56号建物跡の炉や粘土貼土坑の配置が類似していることから，曲屋的な建物跡と推察される。黒色土面で確認された第24号粘土貼土坑の下から3基の土坑が重なり合って検出されており，4回は造り替えをしたと考えられる。時期は，3591・3592から17世紀前半と考えられる。



第230図 第55号建物跡出土遺物実測図(1)



第231図 第55号建物跡出土遺物実測図(2)

第55号建物跡出土遺物観察表 (第230・231図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3585	小皿	土師質土器	[6.6]	2.0	4.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	中央部黒色土上面	50%
3586	皿	土師質土器	[10.7]	3.6	5.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	中央部黒色土中	60% PL79
3587	皿	土師質土器	[10.7]	3.2	[6.0]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土上面	25%
3588	皿	土師質土器	-	(1.7)	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面渦巻き状のナデ	東部黒色土上面	20%
3589	皿	土師質土器	-	(2.4)	5.2	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り 内面煤付着	中央部黒色土下	30%
3590	皿	土師質土器	-	(2.3)	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土上面	25%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3591	折縁皿	陶器	[10.6]	(2.2)	-	浅黄橙・浅黄	灰釉	口縁部玉縁状 体部内面にソギ	瀬戸・美濃 16C後葉-17C初	東部黒色土上面	10% 大窯4
3592	皿	陶器	-	(1.7)	[5.0]	灰白・灰	鉄絵・長石釉	見込みに2条の圏線	瀬戸・美濃1 17C前半	SK50内	5% 連房1

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3593	石鉢	[31.0]	(12.7)	-	(2330.0)	砂岩	口縁部片 片口 内外面比熱痕有り	SN24内	PL89
3594	小刀	(7.5)	(1.2)	0.2	(7.4)	鉄	刃部の一部 茎部欠損	北部黒色土上面	
3595	釘	(6.8)	0.4	0.4	(6.9)	鉄	両端部欠損	中央部黒色土上面	
3596	毛抜	(3.8)	1.0	0.1	(2.6)	鉄	断面長方形 先端部のみ遺存	中央部黒色土上面	
3597	椀状滓	8.8	9.1	2.8	275.0	鉄	断面椀状 表面茶褐色	北東部黒色土上面	PL93
3599	不明骨角製品	(2.0)	1.1	0.9	(1.1)	骨角	4面加工 断面長方形	東部黒色土上面	
3600	アカニシ	13.9	10.9	8.5	(439.0)	貝	一部欠損 表面にはコブ列が巡り殻は厚い	SK50内	計測値のみ PL98

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3598	永-通-	2.48	0.63	0.12	(1.46)	1408	銅	真書 欠け 永樂通寶カ	中央部黒色土上面	

第56号建物跡 8区SB-2(第232~234図)

位置 調査区南部のO11b5区を中心に位置している。北西側には第55号建物跡、東側には第3号土手状遺構が隣接している。

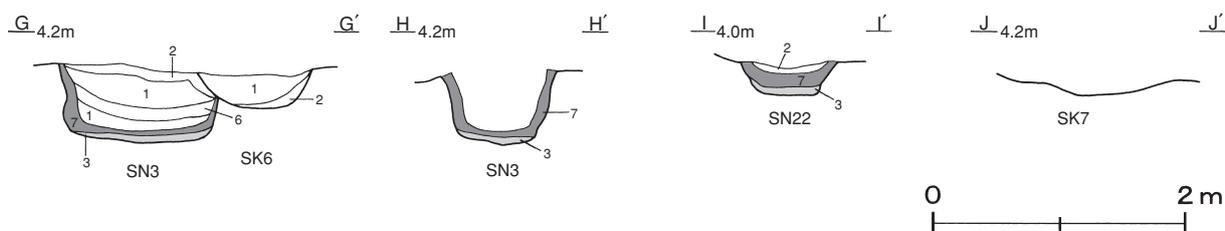
確認状況 表砂を約3.7m除去し、標高約3.8mで黒色土面を確認した。黒色土面から粘土貼土坑、土坑、北東と北西に並ぶ柱穴か20か所、さらに黒色土を除去して、柱穴14か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸10.3m、短軸8.6mの隅丸長方形、長軸方向はN-55°-Wである。桁行3間、梁行2間の北東棟の建物跡に、桁行2間、梁行2間の北東棟の建物跡が取り付くように配されている。3間×2間の桁行方向はN-35°-E、規模は桁行6.5m、梁行3.4mで、面積は22.1㎡である。柱間寸法は桁行が1.9m・2.5m、梁間が1.6~1.9mでやや不均一である。2間×2間の桁行方向はN-35°-E、規模は桁行4.6m、梁行2.7mで、面積は12.4㎡である。柱間寸法は桁行が1.4m、梁間が1.7・2.8mである。二棟の北東側の梁行は、一直線に並んでいる。付属施設として、粘土貼土坑2基、土坑2基が構築されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ6~12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。3間×2間の北東棟の外側に、桁行と平行する2条の溝が確認されている。長さは3.5mと1.6m、幅は0.2~0.3m、深さは4~6cmである。

ピット 34か所。P1~P10は深さ58~100cmで、3間×2間の北東棟を支えた主柱穴と考えられる。P11~P17は深さ34~84cmで、2間×2間の北東棟を支えた主柱穴と考えられる。P18~P20は深さ20~53cmで、間仕切り用の柱穴又は補助柱穴と考えられる。黒色土を除去して確認されたP21~P34は深さ13~66cmで、3間×2間の建物跡の上屋を支えた柱穴又は間仕切り用の柱穴と考えられる。

土坑 (第232図) 第7号土坑と第22号粘土貼土坑は建物の北東部、第6号土坑と第3号粘土貼土坑は屋外の東部に位置している。第6号土坑は第3号粘土貼土坑を掘り込んでいる。第3号粘土貼土坑は厚さ3~8cmの粘土、第22号粘土貼土坑は厚さ10cmの粘土を貼り付けて構築されている。土坑と粘土貼土坑の覆土は、第1・2層の砂A・B層と第6層の黒色土D層が自然堆積した層である。



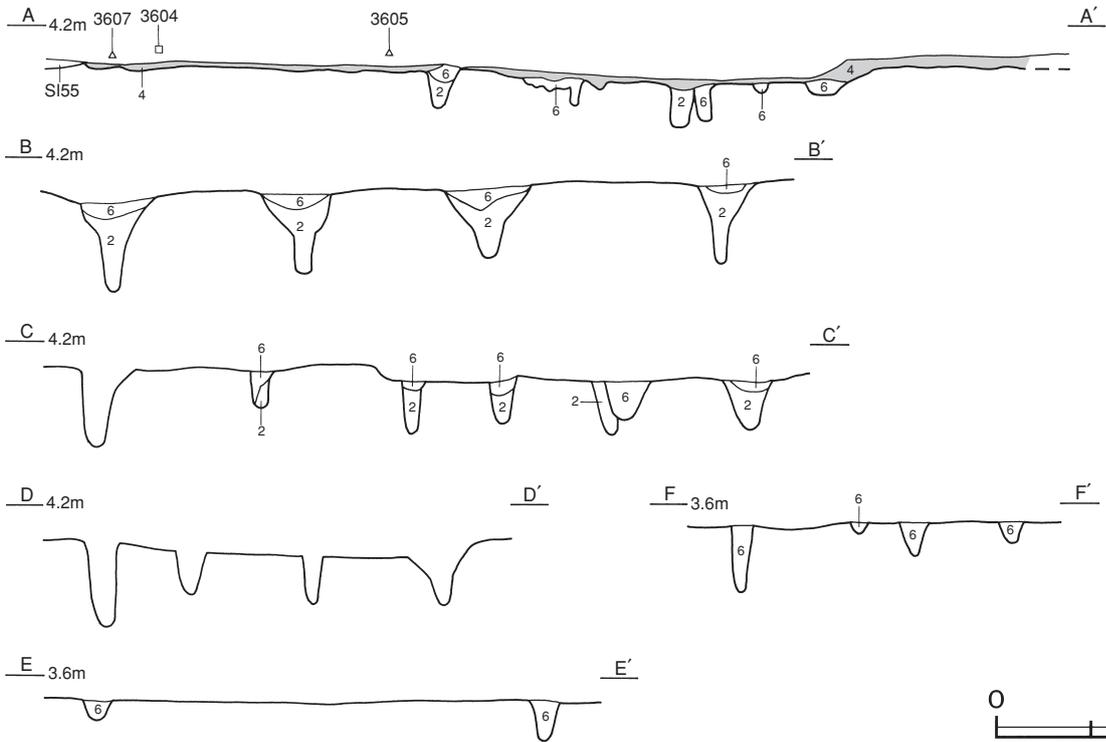
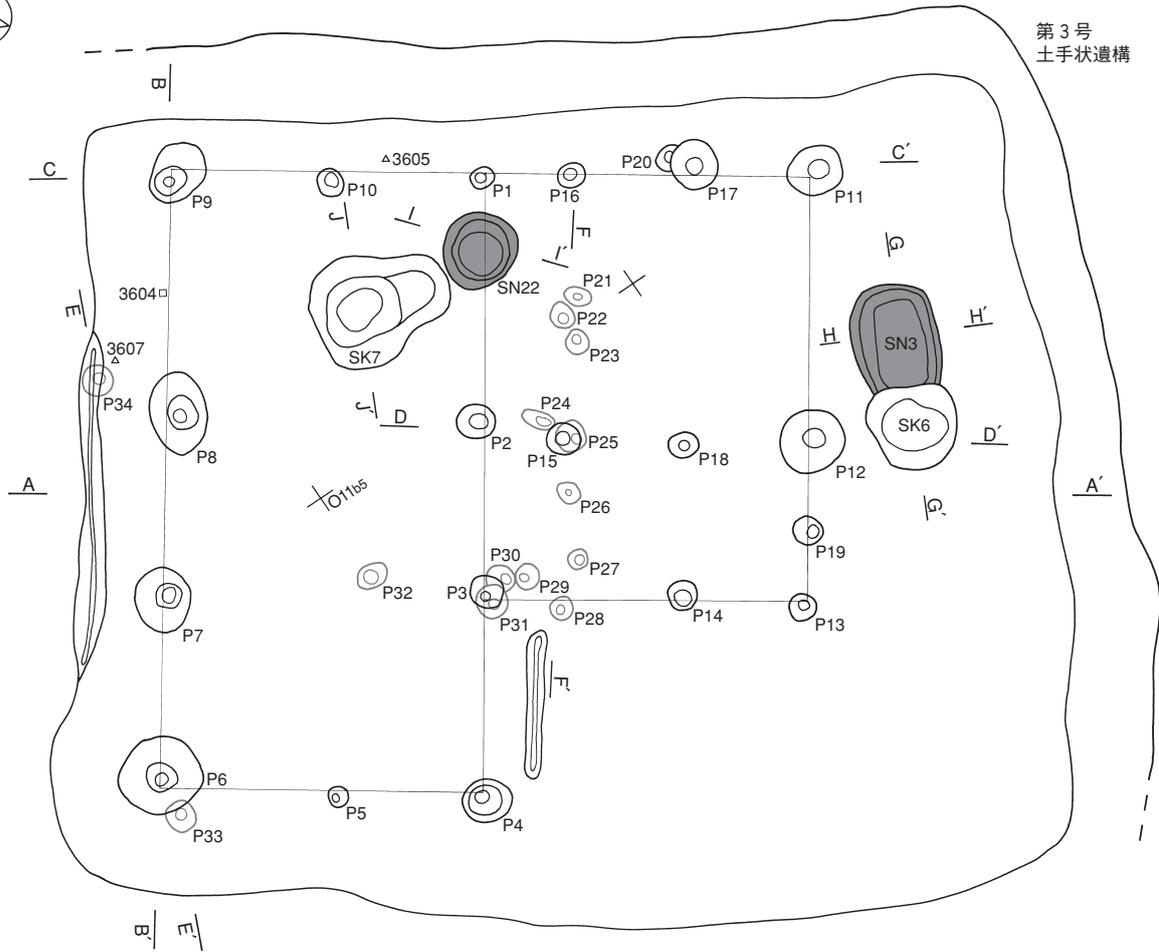
第232図 第56号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片22点(小皿20, 皿1, 火鉢1), 石器1点(砥石), 金属製品4点(鏝, 毛抜, 煙管, 不明)が出土している。3604・3605・3607は北部の黒色土上面から出土している。

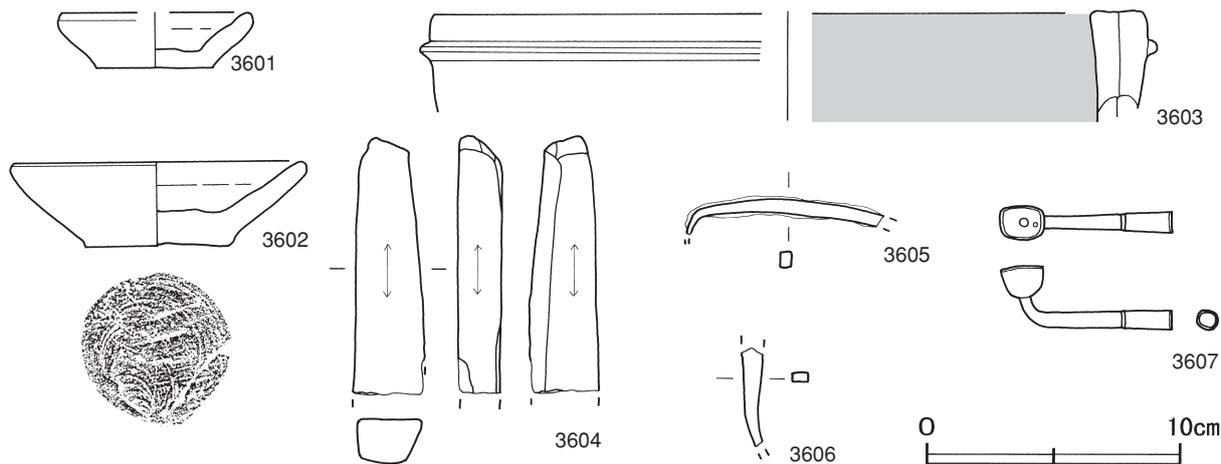
所見 柱穴の配置から、曲屋的構造をもつ建物跡と考えられる。北東棟の外側にある溝は、桁行と平行していることから雨落ち溝と推定される。中央部に位置している第7号土坑と粘土貼土坑は併設されており、調理場の可能性が高い。第3号粘土貼土坑は鹹水槽と同様の構造であり、水溜として機能していたと推定される。時期は、3607が出土していることや最初の遺構確認面から検出されていることから、17世紀前半と考えられる。



第3号
土手状遺構



第233图 第56号建物跡実測図



第234図 第56号建物跡出土遺物実測図

第56号建物跡出土遺物観察表 (第234図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3601	小皿	土師質土器	[7.8]	2.2	4.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	50%
3602	皿	土師質土器	11.7	2.3	5.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内底面横ナデ 底部スノコ圧痕有り	覆土中	95% PL75
3603	火鉢	土師質土器	[28.0]	(4.3)	-	長石・雲母	黒褐	普通	外面隆帯貼り付け 内面煤付着	覆土中	5% PL82

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3604	砥石	(10.2)	2.9	1.7	(85.8)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	北部黒色土上面	
3605	鏝	(7.6)	1.5	0.5	(18.3)	鉄	断面四角形 先端部欠損	北部黒色土上面	
3606	釘	(4.0)	0.7	0.4	(3.7)	鉄	断面長方形 両端部欠損	SK 6内	
3607	煙管	6.8	火皿径1.7	小口径0.8	6.4	銅	雁首 火皿冠1か所有り	北部黒色土上面	PL94

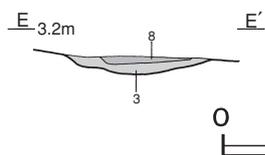
第57号建物跡 8区SB-4 (第235~238図)

位置 調査区南東部のO11h6区を中心とする、第51号整地面上の北部に位置している。

確認状況 表砂を約4.3m除去し、標高約3.2mで黒色土面が確認された。南側には第58号建物跡が隣接している。黒色土面から炉、粘土貼土坑、土坑と北西に並ぶ柱穴14か所が確認された。

規模と施設 範囲は、長軸9.0m、短軸7.2mの長方形で、長軸方向はN-62°-Wである。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑2基、土坑1基が構築されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ8~16cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

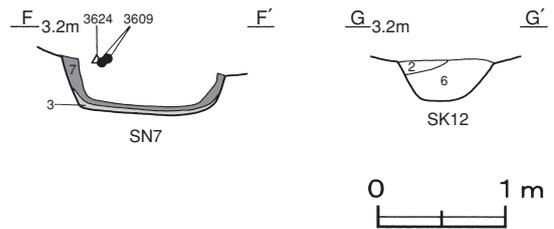


炉 (第235図) やや北西部に位置し、厚さ4~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第7・8号粘土貼土坑が隣接している。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。

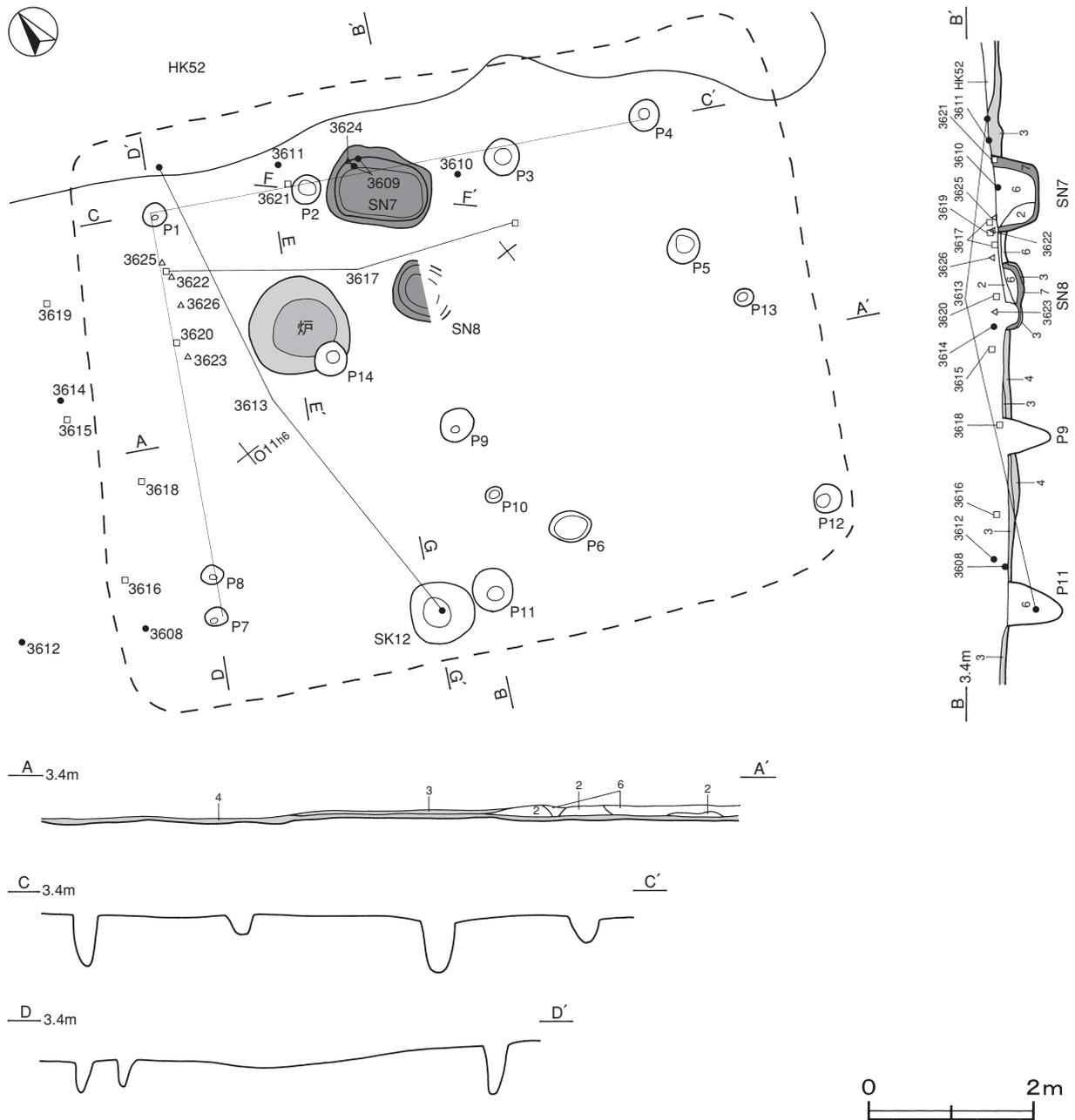
第235図 第57号建物跡炉土層図

ピット 14か所。P1~P4は深さ20~62cmで、北西軸に並ぶ柱穴である。P5~P8は深さ35~50cmで、北西軸の柱穴と対応する軸線上に不規則に配されている柱穴である。P9~P11は深さ38~55cmで、上屋を支えた柱穴又は間仕切り用の柱穴と考えられる。P12~P14は深さ28~48cmで、性格は不明である。

土坑（第236図）第7・8号粘土貼土坑は北部，第12号土坑は南部に位置している。粘土貼土坑は，厚さ4～8 cmの粘土を貼り付けて構築されている。いずれの土坑も，第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積している。



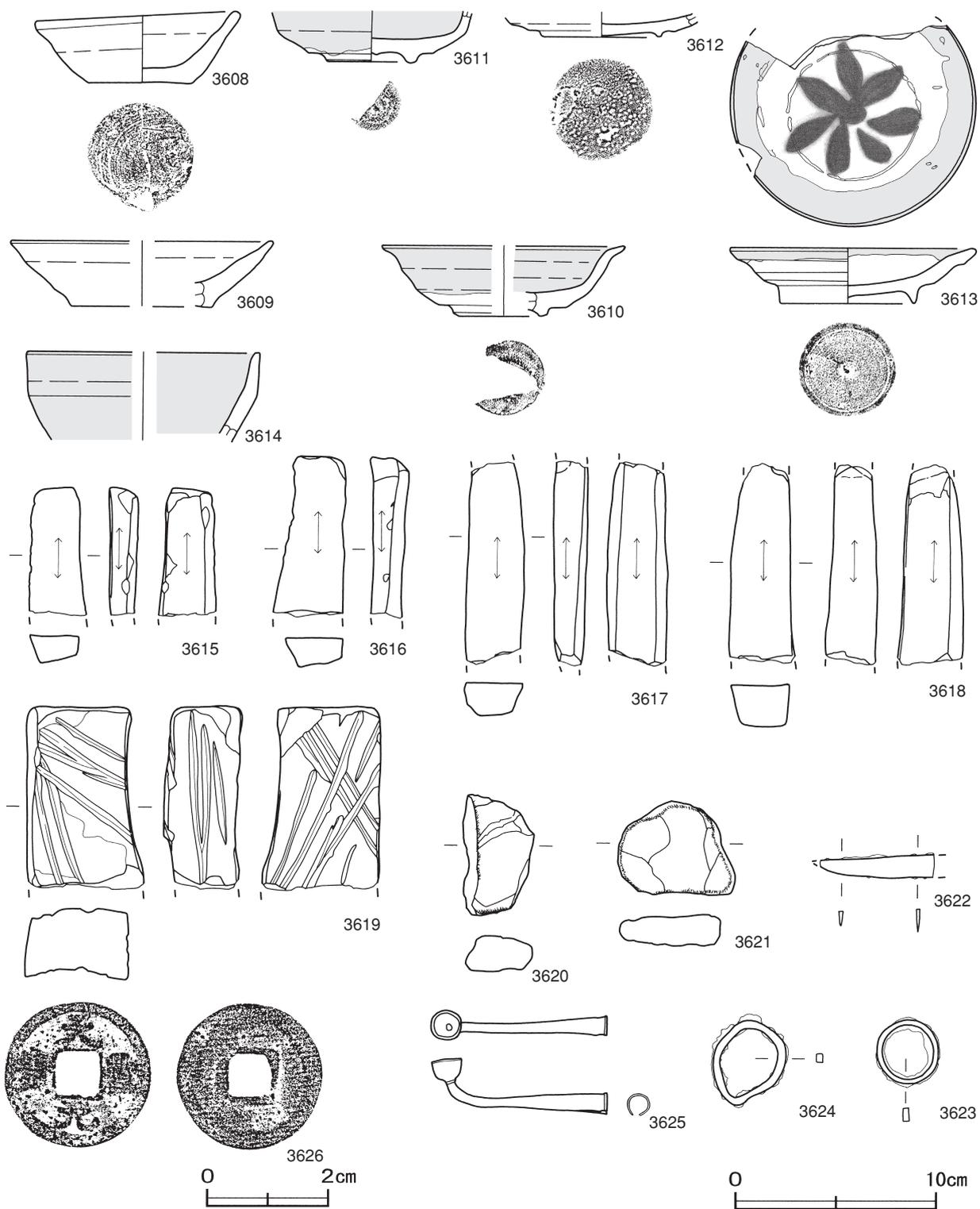
第236図 第57号建物跡土坑土層図



第237図 第57号建物跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片5点（皿），陶器片6点（皿5，碗1），石器8点（砥石5，火打石2，石錘1），金属製品6点（小刀1，環状鉄製品2，煙管1，古銭1，不明1），柱材片が出土している。3608・3612・3616・3618は西部，3610・3611・3621は北東部，3614・3615・3619・3620・3622・3623・3625・3626は北西部

のいずれも黒色土上面からそれぞれ出土している。3613は北部と第12号土坑内の破片，3617は北東部と北西部の破片が接合したものである。また，P13内から長さ10.5cm，幅3.0cmの柱材片で，丸材の一部と考えられる。
所見 柱穴は方形に並ばないが，炉と多数の遺物が確認されたことから建物跡と判断した。北西軸に並ぶ柱穴を基準とすると，北西棟の建物跡が想定される。遺物は北東部から北西部にかけて散在しており，主な生活の場は炉と粘土貼土坑が構築されている北部を中心としている。時期は，3613から17世紀前半と考えられる。



第238図 第57号建物跡出土遺物実測図

第57号建物跡出土遺物観察表（第238図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3608	皿	土師質土器	10.1	3.7	5.2	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	西部黒色土上面	100% PL79
3609	皿	土師質土器	[12.9]	3.3	[7.0]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り スノコ状の圧痕有り	SN7内	20%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3610	皿	陶器	[12.2]	3.5	4.4	灰・にぶい赤褐	薬灰釉	高台部土見せ 兜巾	肥前 17C 前葉	北東部黒色土上面	50% I-2 PL63
3611	皿	陶器	-	(2.6)	[4.4]	灰・にぶい赤褐	薬灰釉	高台部土見せ 兜巾	肥前 17C 前葉	北東部黒色土上面	30% I-2
3612	丸皿	陶器	-	(1.2)	6.0	灰白・灰白	長石釉	見込みにビン痕3か所有り	瀬戸・美濃 7C 前葉	西部黒色土上面	20% 大窯4
3613	青織部皿	陶器	12.1	2.7	6.8	浅黄橙・淡黄	口縁部銅緑釉	見込みに鉄絵花文	瀬戸・美濃 17C 前半	北部とSK12内	75% 廻1-2 PL63
3614	天目茶碗	陶器	[11.6]	(4.4)	-	浅黄橙・暗褐	鉄釉	口縁部ほぼ直立する	瀬戸・美濃	北西部黒色土上面	10% 大窯後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3615	砥石	(6.4)	1.5	1.5	(37.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	北西部黒色土上面	
3616	砥石	(8.0)	3.5	1.9	(65.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	西部黒色土上面	
3617	砥石	(10.2)	3.0	1.6	(82.4)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	北東部・北西部接合	
3618	砥石	(10.0)	3.3	2.6	(129.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	西部黒色土上面	
3619	砥石	(9.2)	5.9	3.3	(293.0)	凝灰岩	砥面4面 3面に筋状の擦痕有り 断面四角形	北西部黒色土上面	PL86
3620	火打石	6.1	3.6	1.8	52.6	瑪瑙	一部の稜が摩滅	北西部黒色土上面	
3621	火打石	4.7	5.7	1.6	61.4	瑪瑙	一部の稜が摩滅	北東部黒色土上面	
3622	小刀	(5.7)	(1.1)	0.2	(5.2)	鉄	刃部の一部 茎部欠損	北西部黒色土上面	
3623	環状金具	径3.2	0.7	0.3	19.0	鉄	断面長方形 平面リング状	北西部黒色土上面	
3624	環状金具	径3.2	0.4	0.4	7.1	鉄	断面長方形 平面リング状	SN7内	
3625	煙管	8.8	火皿径1.5	小口径1.1	8.7	銅	雁首 小口部折り返し有り	北西部黒色土上面	PL94

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3626	天聖元寶	2.46	0.71	0.08	3.14	1023	銅	真書	北西部黒色土上面	

第58号建物跡 8区SB-5（第239～242図）

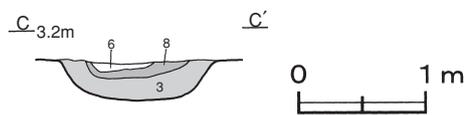
位置 調査区南東部のO11i5区を中心とする、第51号整地地面上の南部に位置している。

確認状況 表砂を約4.5m除去し、標高約3.0mで黒色土面が確認された。北東側には第57号建物跡が隣接している。黒色土面から炉、粘土貼土坑、土坑、貝集積地と北東に並ぶ柱穴8か所が確認された。

規模と施設 範囲は、長軸8.5m、短軸6.2mの長方形で、長軸方向はN-30°-Eである。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑2基、土坑1基が構築され、貝集積地1か所が確認されている。

床 やや凹凸で、厚さ4～18cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

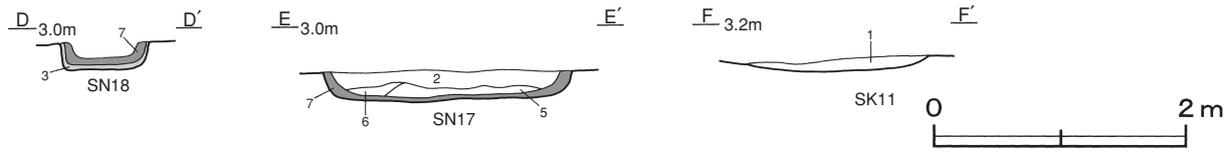
炉（第239図）南部に位置し、厚さ16cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土下層から第8層の焼砂が検出され、上層は第6層の黒色土D層が人為堆積している。



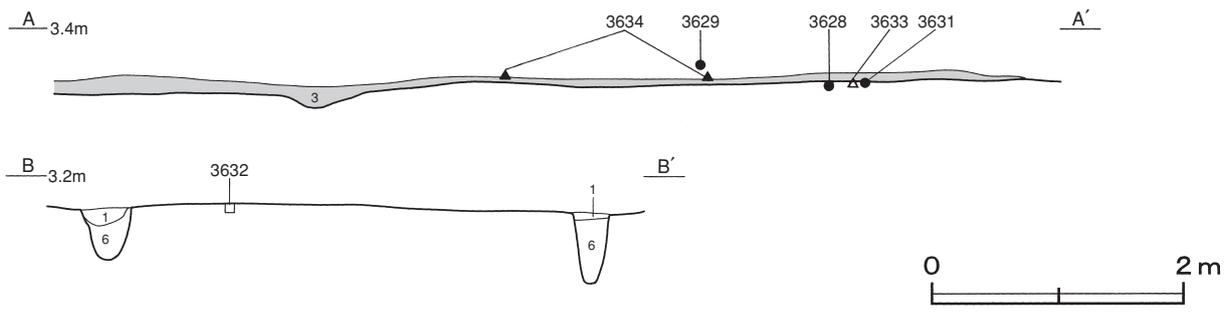
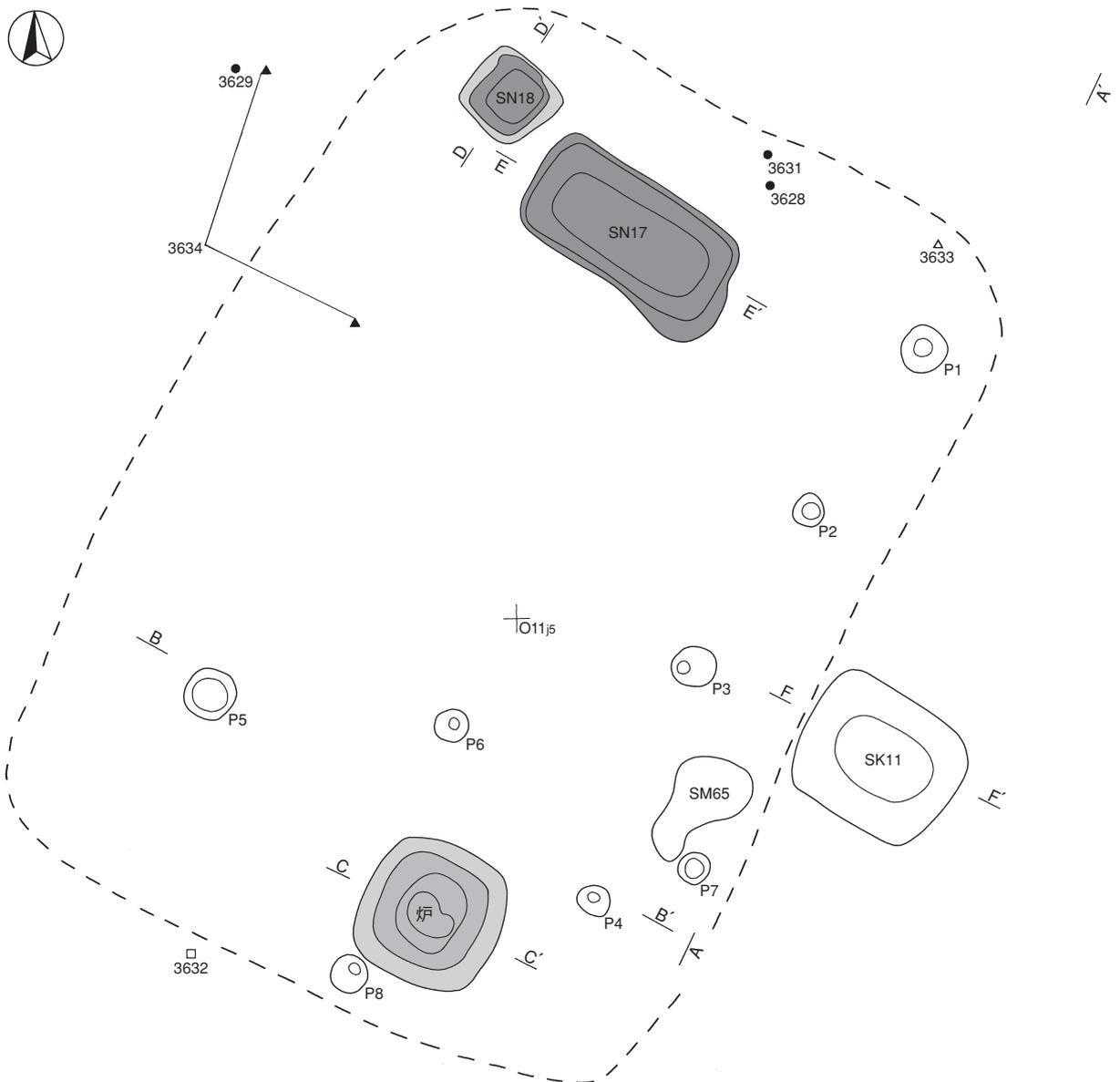
第239図 第58号建物跡炉土層図

ピット 8か所。P1～P3は深さ30～72cmで、北東軸に並ぶ柱穴、P4・P5は深さ60・47cmで、北西軸に並ぶように配された柱穴である。それぞれに対応する柱穴は確認されなかった。P6～P8は深さ33～67cmで、上屋を支えた柱穴又は間仕切りをした柱穴と考えられる。

土坑（第240図）第17・18号粘土貼土坑は北部、第11号土坑は南東部に位置している。第11号土坑は、第1層の砂A層が自然堆積している。第17号粘土貼土坑は厚さ5cmの粘土を貼り付けて構築されている。粘土貼土坑は、第2層の砂B層が自然堆積、第5・6層の黒色土C・Dが人為堆積した層である。



第240图 第58号建物跡土坑土層図



第241图 第58号建物跡实测图

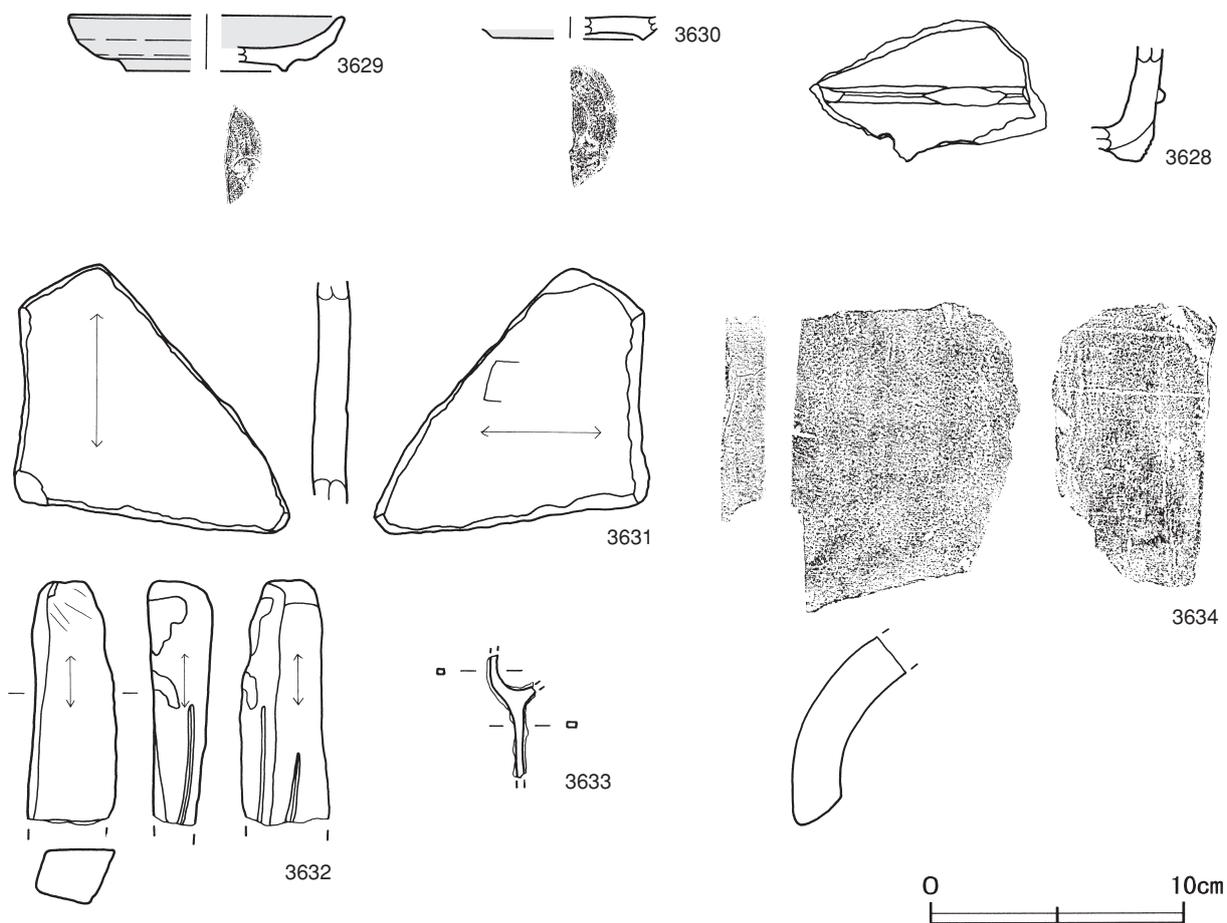
貝集積地 第65号貝集積地は南東部に位置し、長軸1.0m、短軸0.6mの不定形を呈している。貝層は、薄く広がった状態で確認された。

第65号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	カキ	5.0	0.52	1		3	ウバガイ	550.0	56.94	L=13 R=10	
2	シジミ属	1.0	0.10	L=0 R=2	淡水または汽水	4	ウバガイ細片	410.0	42.44		

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿2、火鉢1）、陶器片2点（皿、甕）、石器1点（砥石）、金属製品1点（簞）、瓦2点が出土している。3628・3631・3633は北東部の黒色土中、3629は北西部、3632は南部の黒色土上面から出土している。3634は、北西部の黒色土上面から出土した破片が接合したものである。

所見 上屋を想定される柱穴の配列は確認できなかったが、炉と生活雑器類の遺物が出土していることから建物跡と判断した。炉は南部に位置し、黒色土を厚く貼り付けて構築している特徴をもち、囲炉裏として機能していた可能性が考えられる。時期は、3629から16世紀後半から17世紀にかけてと考えられる。



第242図 第58号建物跡出土遺物実測図

第58号建物跡出土遺物観察表（第242図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3628	火鉢	土師質土器	-	(5.7)	-	長石・雲母	黄灰	普通	外面隆帯貼り付け	北東部黒色土中	10%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3629	丸皿	陶器	[10.8]	2.2	[6.4]	灰黄・オリブ黄	灰釉	見込み・高台内にビン痕有り	瀬戸・美濃 16C後~17C初	北西部黒色土上面	25% 大窯4
3630	折縁皿	陶器	-	(0.9)	[6.8]	灰・オリブ黄	灰釉	見込み・高台内に輪ドチ痕有り	瀬戸・美濃 16C後葉	SN17内	10% 大窯3-4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3631	砥石	(10.6)	(10.9)	1.5	(192.0)	長石・石英	常滑の甕転用 砥面2面 破断面研磨	北東部黒色土中	
3632	砥石	(9.7)	3.5	2.5	(106.9)	凝灰岩	砥面4面 筋状の溝2条 断面四角形	南部黒色土上面	
3633	箝	(4.8)	0.4	0.2	(3.4)	鉄	断面方形 2本箝	北東部黒色土中	
3634	丸瓦	(12.5)	(8.4)	1.9	(284.0)	長石・雲母	凹面布目痕 凸面ヘラナデ・煤付着	北西部黒色土上面	

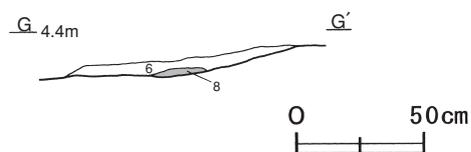
第59号建物跡 8区S I - 3・S B - 10(第243~246図)

位置 調査区南部のN11i1区を中心に位置している。東側には第55号建物跡が隣接している。

確認状況 表砂を約3.5m除去し、標高約4.0mで黒色土面が確認された。黒色土面と砂層から炉、粘土貼土坑と柱穴20か所、さらに黒色土を除去して、土坑と柱穴7か所が確認された。

規模と施設 黒色土は北部にのみ遺存している。確認できた黒色土の範囲は、長軸4.5m、短軸1.9mの長方形であり、ピットの配列から長軸方向はN-37°-Eと推定される。建物跡は桁行4間、梁行1間の北東棟である。規模は桁行7.8m、梁行4.2mで、面積は32.8㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m、梁間が4.2mを基調としている。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑2基と土坑6基が構築されている。

床 確認できた黒色土部分はほぼ平坦で、厚さ約10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

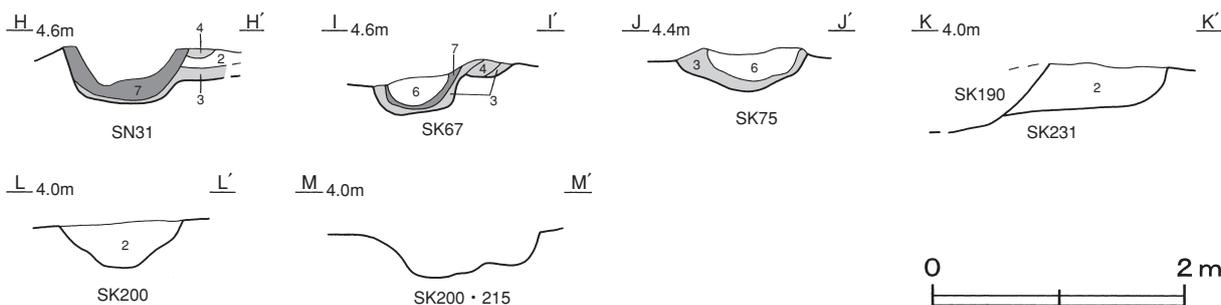


炉 (第243図) 第67号粘土貼土坑と並んで、黒色土面に位置している。床面として貼り付けた黒色土面を、わずかに掘りくぼめて使用された炉である。覆土の最下層には、第8層の焼砂が堆積している。

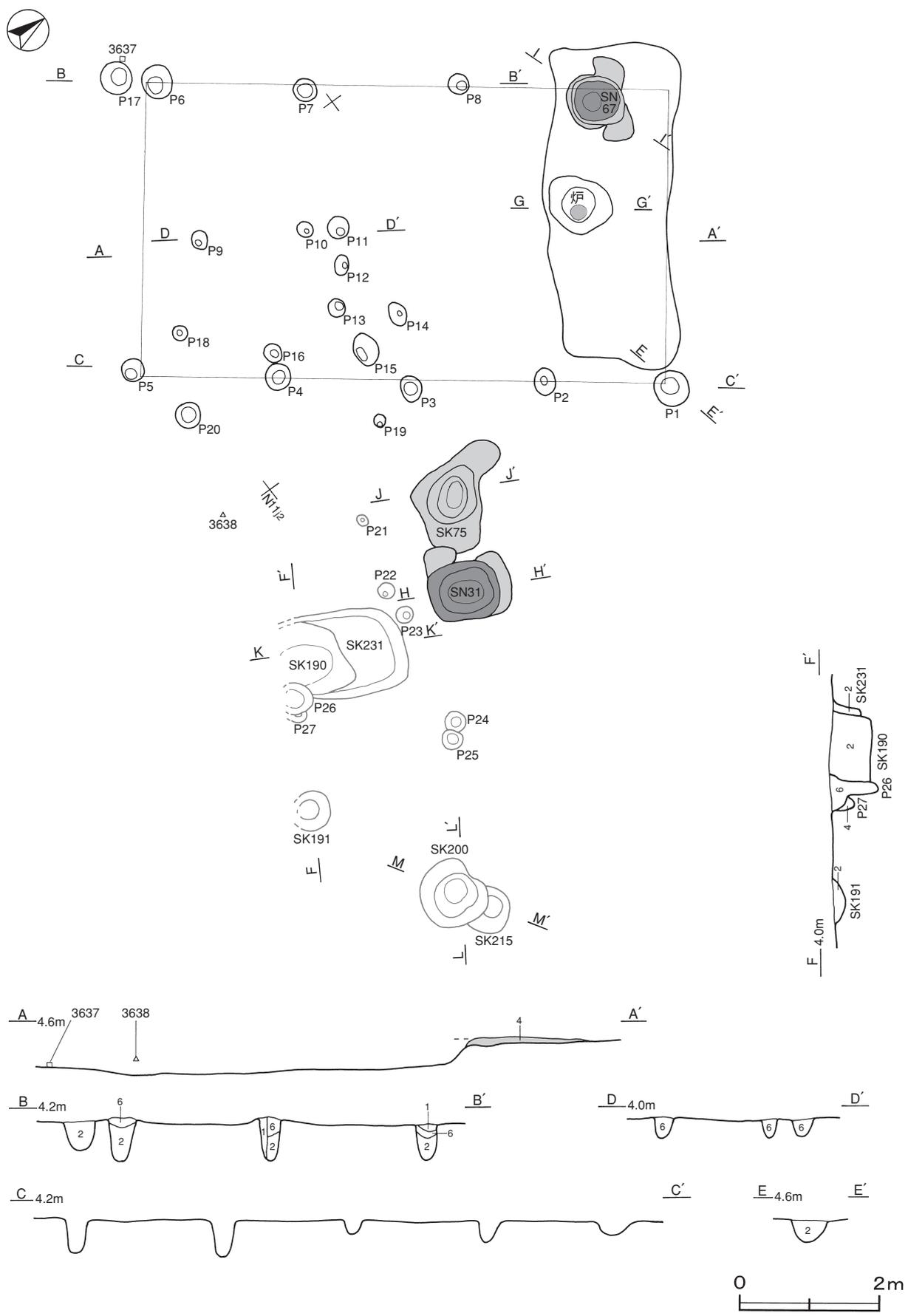
第243図 第59号建物跡炉土層図

ピット 27か所。P1は深さ20cm、P2~P8は深さ36~68cmで、北東棟を支えた支柱穴と考えられる。P9~P18は深さ23~52cmで、上屋を支えた柱穴又は間仕切り用の柱穴と考えられる。P19~P27は深さ28~76cmである。北東棟の屋外から確認されたもので、性格は不明である。

土坑 (第244図) 第67号粘土貼土坑は黒色土面、黒色土で構築された第75号土坑と第31号粘土貼土坑は東部の砂層、第190・191・200・215・231号土坑は南東部の砂層に位置している。第190号土坑は第231号土坑、第200号土坑は第215号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。第31号粘土貼土坑は厚さ7~17cmの粘土、第67号粘土貼土坑は厚さ5cmの粘土、第75号土坑は厚さ20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第67号粘土貼土坑と第75号土坑の覆土は、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



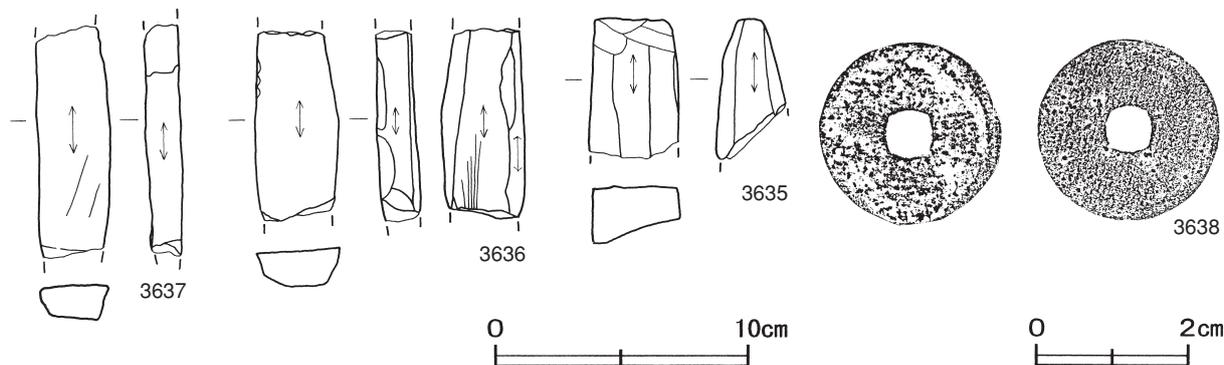
第244図 第59号建物跡土坑土層図



第245图 第59号建物迹实测图

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿，鍋），石器3点（砥石），金属製品1点（古銭）が出土している。3637は西部，3638は南部の砂層，3635はP7内から出土している。

所見 桁行4間，梁行1間の北東棟の建物跡と想定される。建物跡の北部に炉と粘土貼土坑が並んで確認されており，第61号建物跡と類似する建物跡である。時期を判断できる遺物は出土していないが，第55・56号建物跡と同じ標高の黑色土面であることから，17世紀前半と考えられる。



第246図 第59号建物跡出土遺物実測図

第59号建物跡出土遺物観察表（第246図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3635	砥石	(5.6)	3.6	2.3	(64.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	P7内	
3636	砥石	(7.6)	3.3	1.8	(63.2)	凝灰岩	砥面4面 砥面に擦痕有り	覆土中	
3637	砥石	(9.2)	2.9	1.5	(64.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	西部砂層	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3638	永樂通寶カ	2.43	0.57	0.09	3.20	1408	銅	真書 鑄付着	南部砂層	

第60号建物跡 8区SB-1（第247～250図）

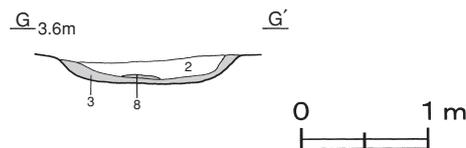
位置 調査区南部のO11e3区を中心に位置している。南東側には第3号土手状遺構が隣接している。

確認状況 表砂を約4.0m除去し，標高約3.5mで黑色土面が確認された。黑色土面から炉，粘土貼土坑，貝集積地と北東に並ぶ柱穴19か所，さらに黑色土を除去して，柱穴1か所が確認された。

規模と施設 黑色土の範囲は，長軸11.4m，短軸9.3mの不整長方形で，長軸方向はN-50°-Wである。桁行4間，梁行2間の北東棟の建物に，桁行3間，梁行1間の北東棟の建物を取り付くように配されている。北東棟の桁行方向はN-40°-E，規模は桁行6.9m，梁行3.8mで，面積は26.2㎡である。柱間寸法は桁行が1.7～1.8m，梁間が1.3・2.5mでやや不均一である。北東棟の桁行方向はN-45°-E，規模は桁行4.4m，梁行2.9mで，面積は12.8㎡である。柱間寸法は桁行が1.3～1.6m，梁間が2.8mを基調としている。付属施設として，炉1基，粘土貼土坑2基が構築され，貝集積地2か所が確認された。

床 ほほ平坦である。3間×1間の床は，約20cm低くなっている。厚さ6～20cmの黑色土を貼り付けて構築されている。

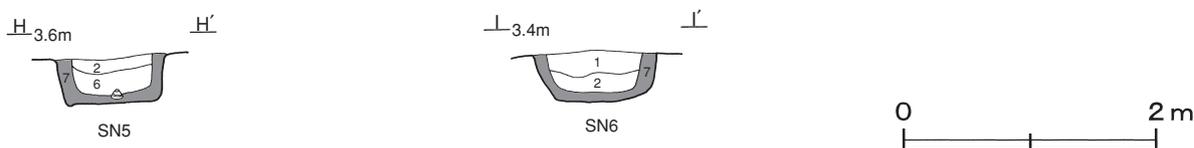
炉（第247図）炉は4間×2間の北東部に位置し、第5号粘土貼土坑と併設されている。厚さ4cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土下層から、第8層の焼砂がわずかに検出されている。



第247図 第60号建物跡炉土層図

ピット 20か所。P1～P5・P7・P10～P12は深さ40～95cm、P6・P8・P9は深さ25～28cmで、4間×2間を支えた支柱穴と考えられる。P12は、黒色土を除去して確認された柱穴である。P13～P20は深さ58～79cmで、3間×1間を支えた支柱穴と考えられる。

土坑（第248図）第5号粘土貼土坑は炉の東部、第6号粘土貼土坑は屋外の東部に位置している。どちらも厚さ6～13cmの粘土を貼り付けて構築されている。第5号粘土貼土坑の内側には、ウバ貝を貼り付けている。覆土は、第1・2層の砂B層が自然堆積、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



第248図 第60号建物跡粘土貼土坑土層図

貝集積地 第60号貝集積地は東部に位置し、長軸1.3m、短軸0.7mの長方形を呈している。第61号貝集積地は北東部に位置し、長軸0.6m、短軸0.5mの不定形を呈している。どちらの貝層も、薄く広がった状態で確認された。

第60号貝集積地出土貝種一覧表

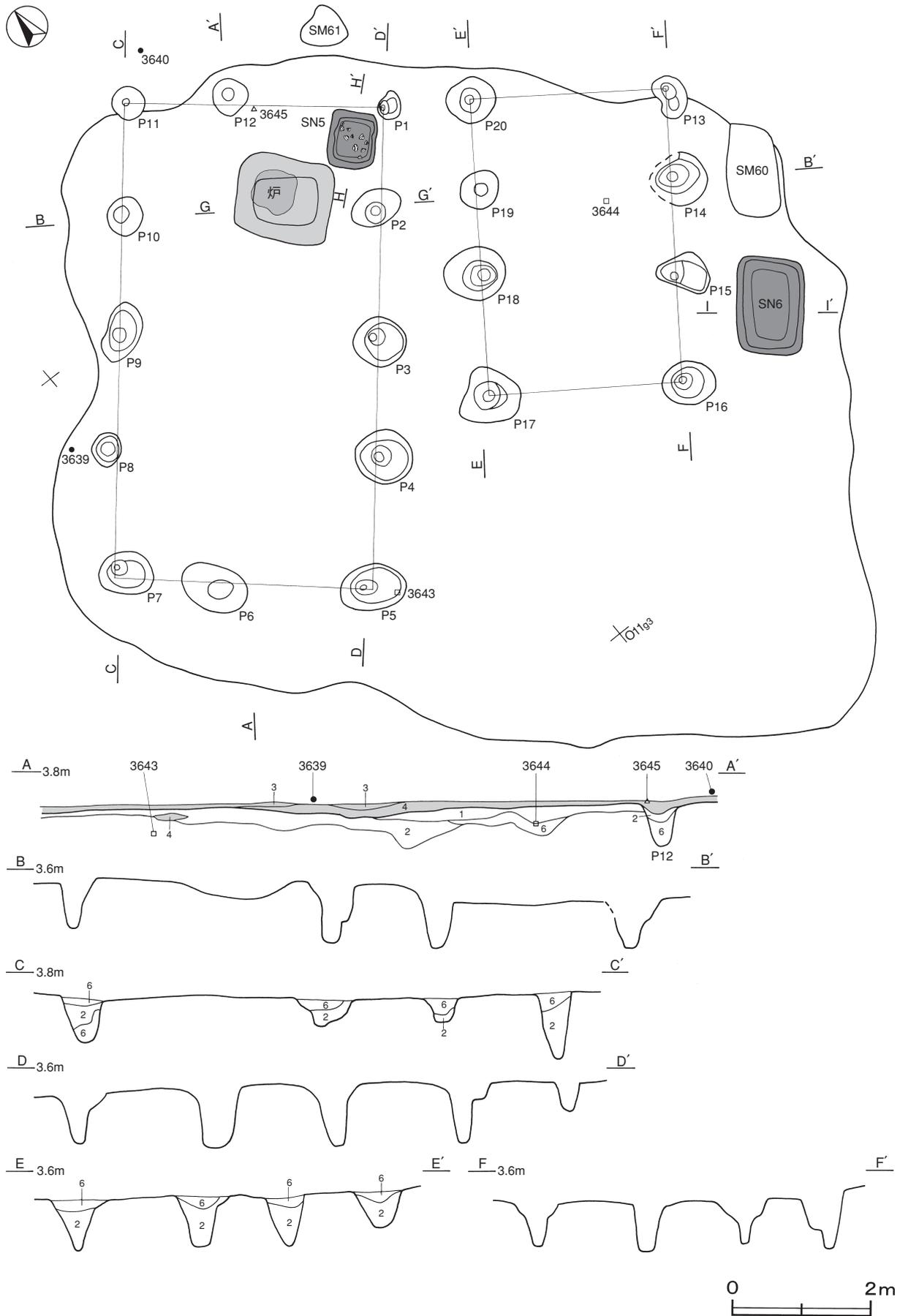
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	タマキガイ	15.0	0.43	1		4	ウバガイ	900.0	25.75	L=32 R=26	
2	カキ	60.0	1.72	7							
3	チョウセンハマグリ	40.0	1.14	1		5	細片	2,480.0	70.96		数種混在

第61号貝集積地出土貝種一覧表

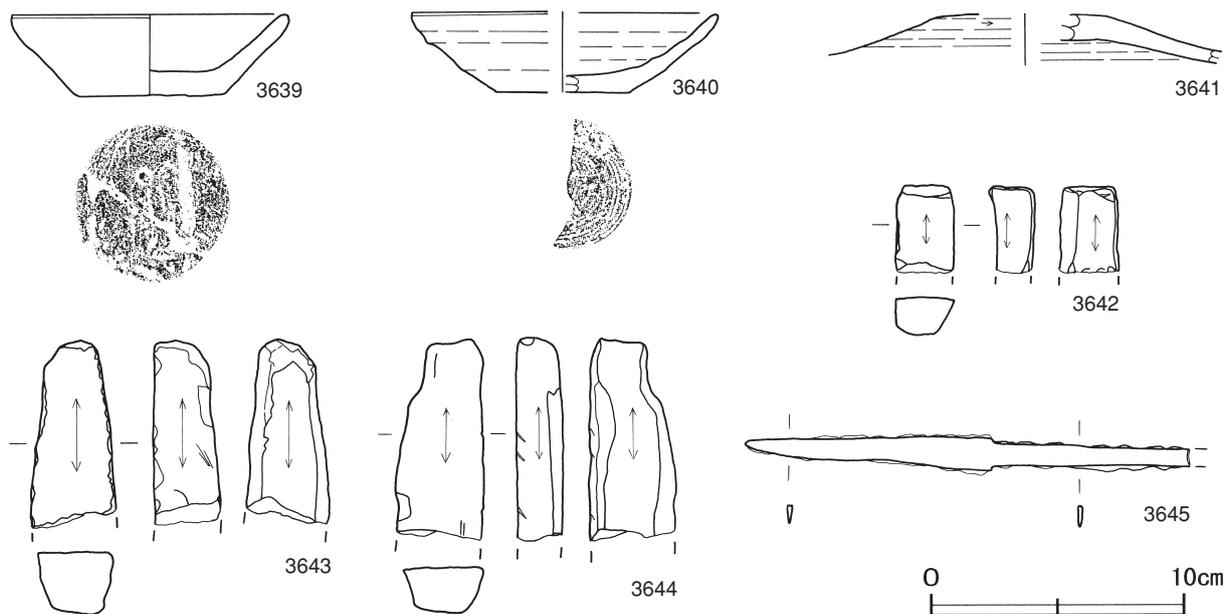
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	ウバガイ	630.0	69.23			2	細片	280.0	30.77		数種混在

遺物出土状況 土師質土器片5点（小皿1、皿3、鍋1）、須恵器片1点（蓋）、石器4点（砥石3、火打石1）、金属製品1点（小刀）、瓦片1点が出土している。3639は西部の黒色土上面、3640は北側の砂層、3644は東部の黒色土下、3645は北部の黒色土上面からそれぞれ出土している。

所見 桁行4間、梁行2間の北東棟に、桁行3間、梁行1間の北東棟が取り付くような配置から、曲屋的構造の建物跡と考えられる。炉と併設されている第5号粘土貼土坑付近は調理場として、屋外にある第6号粘土貼土坑は鹹水槽と同様の構造であることから水溜として機能していたと推定される。時期を判断できる遺物は出土していないが、最初の遺構確認面から検出されていることから、17世紀前半と考えられる。



第249图 第60号建物迹实测图



第250図 第60号建物跡出土遺物実測図

第60号建物跡出土遺物観察表（第250図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3639	皿	土師質土器	10.9	3.2	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り	西部黒色土上面	70%
3640	皿	土師質土器	[12.0]	3.2	[5.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	北部砂層	40%
3641	蓋	須恵器	-	(2.0)	-	長石	暗灰黄	普通	天井部ヘラ削り	SN5内	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3642	砥石	(3.4)	2.3	1.7	(20.7)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	覆土中	
3643	砥石	(7.4)	3.3	2.7	(86.9)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	P5内	
3644	砥石	(7.9)	3.5	1.9	(80.2)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	東部黒色土下	
3645	小刀	(17.6)	1.4	0.2	(19.6)	鉄	ほぼ完存 両関	北部黒色土上面	PL91

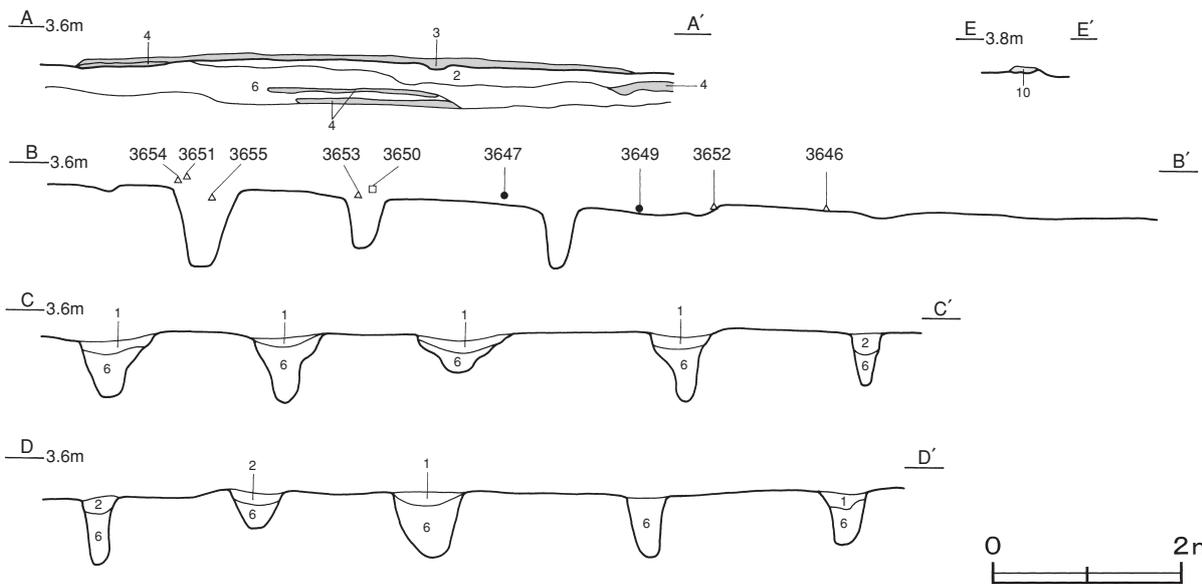
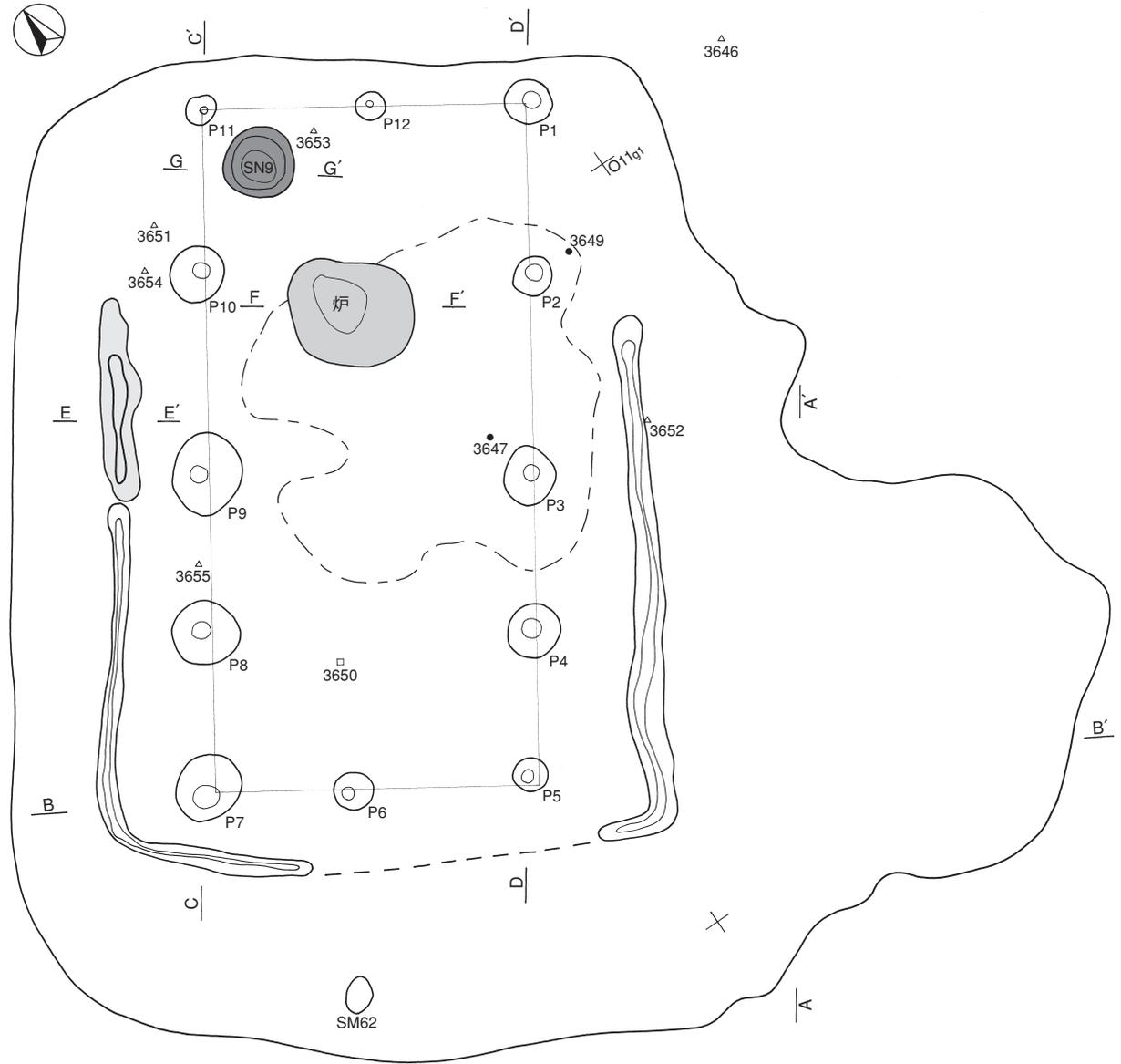
第61号建物跡 8区SB-3（第251～255図）

位置 調査区南部のO10g0区を中心に位置している。北側には第68号整地面が隣接している。

確認状況 表砂を約4.1m除去し、標高約3.4mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、貝集積地と北東に並ぶ柱穴12か所が確認された。

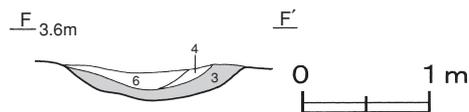
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸11.5m、短軸9.2mの不定形で、長軸方向はN-34°-Eである。ピットの配列から、桁行4間、梁行2間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-34°-E、規模は桁行8.0m、梁行3.8mで、面積は30.4㎡である。柱間寸法は桁行が1.9～2.2m、梁間が1.9mを基調としている。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑1基が構築され、貝集積地1か所が確認された。

床 ほぼ平坦である。南東部のトレンチから判断すると、厚さ6～10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉を中心に黒色土が硬化している。北東棟の南西部と南東部を巡るような溝が確認された。長さ6.1mと6.5m、幅0.1～0.4m、深さ6～8cmである。また、建物跡の西部に、長さ2.4m、幅0.3～0.4m、高さ6cmのローム土の高まりが遺存している。



第251图 第61号建物迹实测图

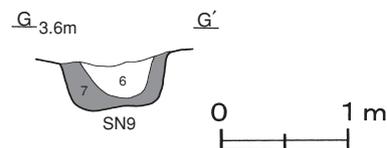
炉（第252図）やや北部に位置し、約1.0m北部には第9号粘土貼土坑が構築されている。厚さ5～15cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土下層から、焼砂と灰がわずかに検出されている。



第252図 第61号建物跡炉土層図

ピット 12か所。P 1～P 12は深さ50～81cmで、北東棟を支えた支柱穴と考えられる。

土坑（第253図）第9号粘土貼土坑は、北コーナー部に位置している。厚さ7～23cmの粘土を貼り付けて構築されている。覆土は、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



第253図 第61号建物跡粘土貼土坑土層図

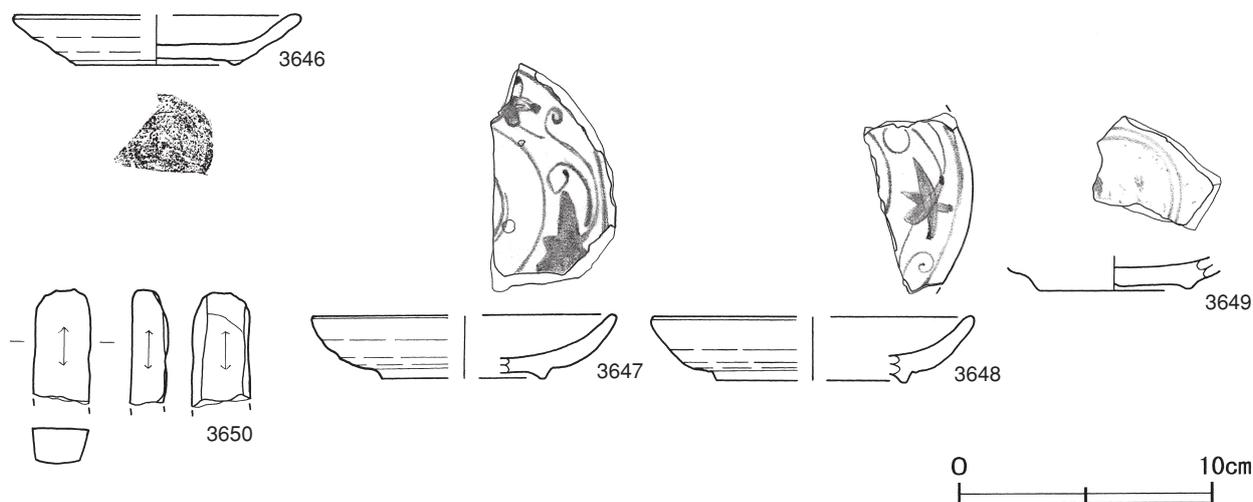
貝集積地 第62号貝集積地は南西部に位置し、長径0.4m、短径0.3mの楕円形を呈している。貝層は、薄く広がった状態で確認された。

第62号貝集積地出土貝種一覧表

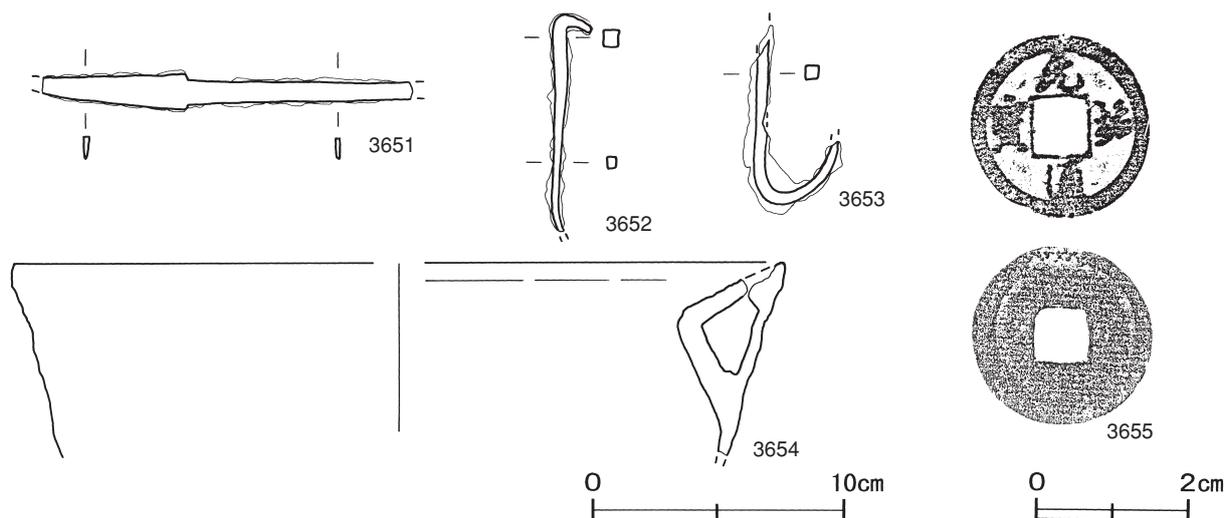
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	1.0	0.10	1	淡水	4	ウバガイ	300.0	30.61	20	
2	タマキガイ	4.0	0.41	1		5	ウバガイ細片	670.0	68.37		
3	カキ	5.0	0.51	2							

遺物出土状況 陶器片5点（皿）、石器1点（砥石）、金属製品5点（鉄鍋、小刀、釘、吊金具カ、古銭）が出土している。遺物は、黒色土面全体に散在している。3647・3649・3650・3652・3655は中央部の黒色土上面、3651・3653・3654は北部の黒色土上面、3646は東部の砂層からそれぞれ出土している。

所見 炉と粘土貼土坑は北部に配置され、第59号建物跡の構造と類似している。主たる生活部分は、黒色土の硬化している中央部と考えられる。主軸方向は、第56・60号建物跡と同じく北東方向である。建物跡の南西部と南東部を巡っている溝は、桁行と平行していることから、雨落ち溝と推定される。時期は、3647～3649から17世紀前半と考えられる。



第254図 第61号建物跡出土遺物実測図(1)



第255図 第61号建物跡出土遺物実測図(2)

第61号建物跡出土遺物観察表 (第254・255図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3646	丸皿	陶器	[11.2]	2.0	[6.4]	にぶい黄澄・灰白	長石釉	貼り付け高台	瀬戸・美濃 17C前葉	東部砂層	10% 大窯4
3647	鉄絵皿	陶器	[12.0]	2.5	[6.4]	灰白・灰白	鉄絵・長石釉	圏線間に紅葉唐草文	瀬戸・美濃 17C前半	中央部黒色土上面	10% 連房1
3648	鉄絵皿	陶器	[12.6]	2.5	[7.5]	灰白・灰白	鉄絵・長石釉	圏線間に紅葉唐草文	瀬戸・美濃 17C前半	覆土中	10% 連房1
3649	鉄絵皿	陶器	-	(0.8)	6.0	灰白・灰白	鉄絵・長石釉	2条の圏線	瀬戸・美濃 17C前半	中央部黒色土上面	10% 連房1

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3650	砥石	(4.6)	2.3	1.5	(25.6)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	中央部黒色土上面	
3651	小刀	(14.7)	1.5	0.2	(19.3)	鉄	切先部・茎部一部欠損 両関	北部黒色土上面	PL91
3652	釘	(8.7)	0.6	0.5	(19.5)	鉄	断面方形 頭部屈曲	中央部黒色土上面	PL93
3653	吊金具カ	(7.1)	0.5	0.6	(20.8)	鉄	断面方形 湾曲	北部黒色土上面	
3654	鉄鍋	[30.6]	(7.7)	0.5	(118.3)	鉄	L字状の内耳部遺存 口縁部内面に稜有り	北部黒色土上面	PL95

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3655	元祐通寶	2.45	0.70	0.11	0.36	1086	銅	真書	中央部黒色土上面	

第62号建物跡 8区S I - 4, HK - 15 (第256~259図)

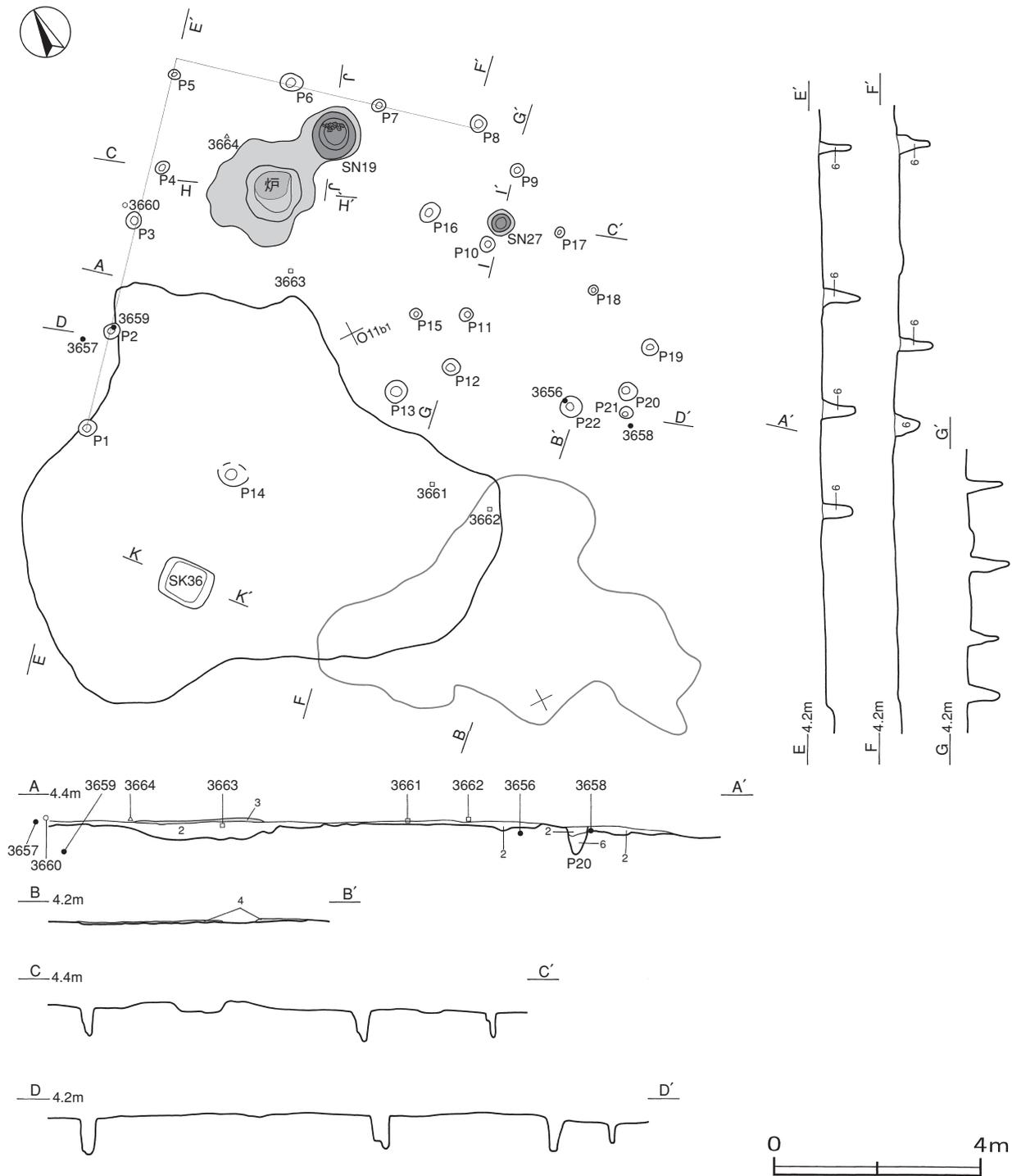
位置 調査区南部のO10b0区を中心に位置している。南側には第70号建物跡が隣接している。

重複関係 上面に第63号建物が構築されている。

確認状況 第63号建物跡の第2次面を約0.1m掘り下げた標高約3.8mで、黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、土坑と北東に並ぶ柱穴22か所、さらに黒色土を約10cm除去した標高3.7mで、第2次面の黒色土面が確認されている。

規模と施設 第1次面の黒色土の範囲は、長軸8.9m、短軸8.2mの不定形で、長軸方向はN-48°-Wである。第2次面の黒色土の範囲は、長軸7.4m、短軸4.8mの不定形で、長軸方向はN-58°-Wである。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑2基、土坑1基が構築されている。

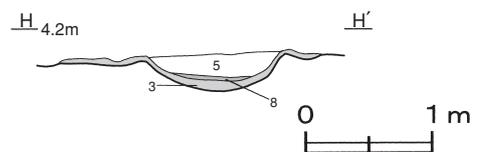
床 ほほ平坦である。第1次面は厚さ2~6cm、第2次面は厚さ2~4cmの黒色土を直接貼り付けて構築されているが、締まりは弱い。



第256図 第62号建物跡実測図

炉（第257図）北部に位置し、第19号粘土貼土坑が併設されている。厚さ2～7cmの黑色土を貼り付けて構築されている。覆土は、第5層の黑色土C層が人為堆積し、最下層には第8層の焼砂が検出されている。

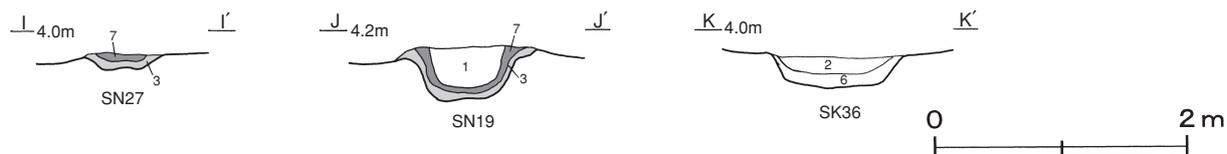
ピット 22か所。P1～P5は深さ50～78cmで、北東軸に並ぶ柱穴と考えられる。P6～P8は深さ33～61cmで、北西軸に並ぶ柱穴と考えられる。P9～P22は深さ31～74



第257図 第62号建物跡炉土層図

cmで、上屋を支えた柱穴又は間仕切り用の柱穴と考えられる。北東軸と北西軸に並ぶ柱穴が確認されたが、柱間寸法が不規則で対応するピットは検出されなかった。

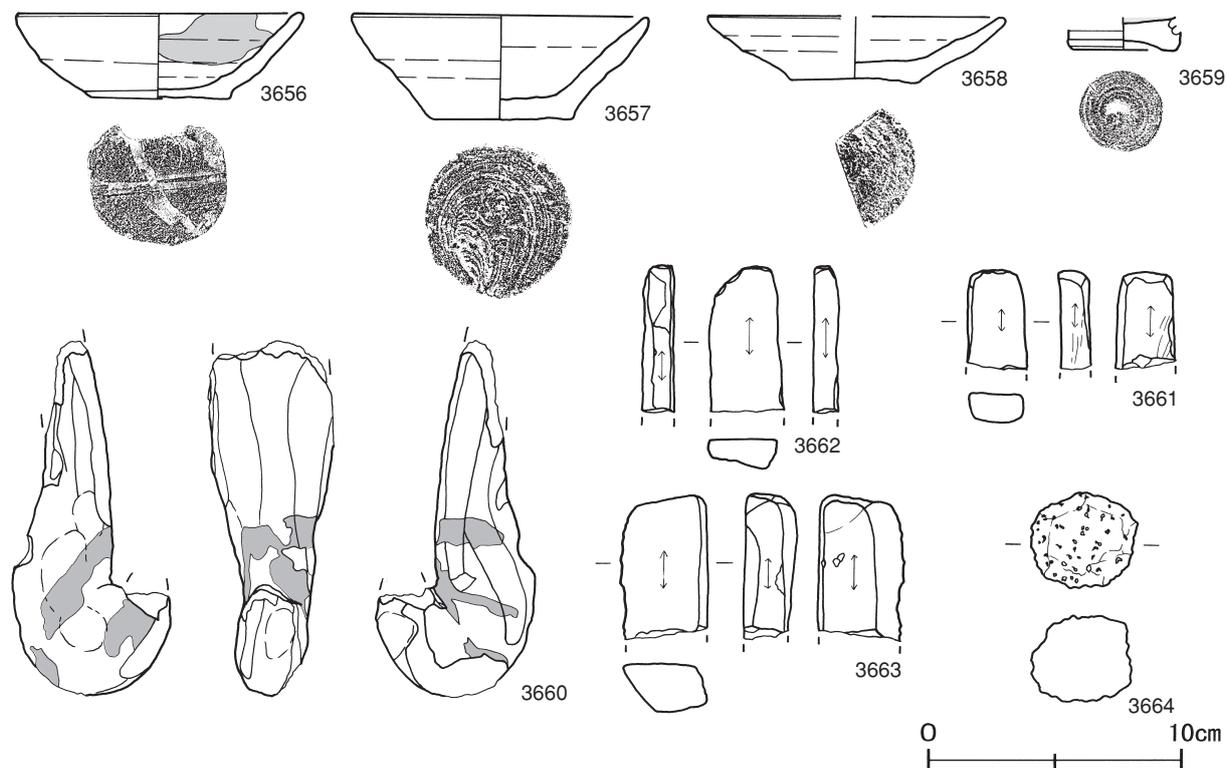
土坑（第258図）第19・27号粘土貼土坑は北部，第36号土坑は西部に位置している。第19号粘土貼土坑は厚さ3～12cmの粘土，第27号粘土貼土坑は確認できた厚さで約6cmの粘土を貼り付けて構築されている。第19号粘土貼土坑は炉の東側に併設されており，底面にウバ貝を貼り付けて構築されている。第27号粘土貼土坑は，構築部分の底部のみ確認された。第36号土坑は，第2層の砂B層が自然堆積，第6層の黑色土D層が人為堆積した層である。



第258図 第62号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片11点（皿），陶器片1点（碗），土製品1点（埴輪），石器3点（砥石），金属製品3点（不明），鉄滓1点が出土している。3657・3659は西部，3658は東部，3660・3663・3664は炉付近のいずれも砂層から，3661・3662は東部の黑色土上面，3656はP22内からそれぞれ出土している。

所見 黑色土面の広がる南部は主たる生活の場，炉や粘土貼土坑が位置している北部は調理場として機能していたと想定される。火処の炉と併設されている粘土貼土坑は，水を汲み置きしていたと考えられる。3660の埴輪片は，黑色土を構築するために他地域から持ち込まれたことを示す貴重な資料である。時期は，17世紀前半の第63号建物跡のすぐ下の黑色土面であることや3659から，17世紀初頭と考えられる。



第259図 第62号建物跡出土遺物実測図

第62号建物跡出土遺物観察表（第259図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3656	皿	土師質土器	11.0	3.5	5.5	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面強い横ナデ 内面煤附着	P 22内	95% PL75
3657	皿	土師質土器	11.6	3.1	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	西部砂層	55% PL79
3658	皿	土師質土器	[11.6]	2.6	[5.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面渦巻き状のナデ	東部砂層	25%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3659	天目茶碗	陶器	-	(1.3)	4.1	にぶい黄橙・黒	鉄釉	内反り高台	瀬戸・美濃	西部砂層	20% 大窯後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3660	埴輪	(14.1)	5.0	6.3	(216.0)	長石・石英	美豆良片 外面ナデ 一部赤彩	炉付近砂層	PL82
3661	砥石	(3.9)	2.5	1.2	(19.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	東部黒色土上面	
3662	砥石	(5.9)	3.0	1.3	(33.1)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	東部黒色土上面	
3663	砥石	(5.8)	3.5	2.1	(60.8)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	炉付近砂層	
3664	鉄滓	4.2	3.9	3.5	40.7	鉄	断面楕円形 表面茶褐色	炉付近砂層	

第63号建物跡 8区HK-5（第260～263図）

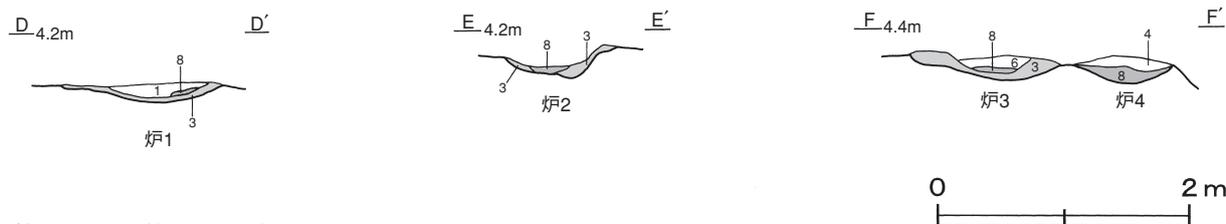
位置 調査区南部のO11c1区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約3.3m除去し、標高約4.2mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、土坑と柱穴2か所が確認された。さらに黒色土を約30cm除去した標高3.9mで、第2次面の黒色土面とそれに伴う炉、北東に並ぶ柱穴6か所が確認された。

規模と施設 第1次面の黒色土の範囲は、長軸11.2m、短軸6.5mの不定形で、長軸方向はN-53°-Wである。第2次面の黒色土の範囲は、長軸12.7m、短軸6.6mの不定形で、長軸方向はN-45°-Wである。第2次面のピットの配列から、桁行2間、梁行1間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-50°-E、規模は桁行5.0m、梁行3.2mで、面積は16.0㎡である。柱間寸法は桁行が2.0～2.5m、梁間が3.2mを基調としている。付属施設として、炉4基、土坑1基が構築されている。

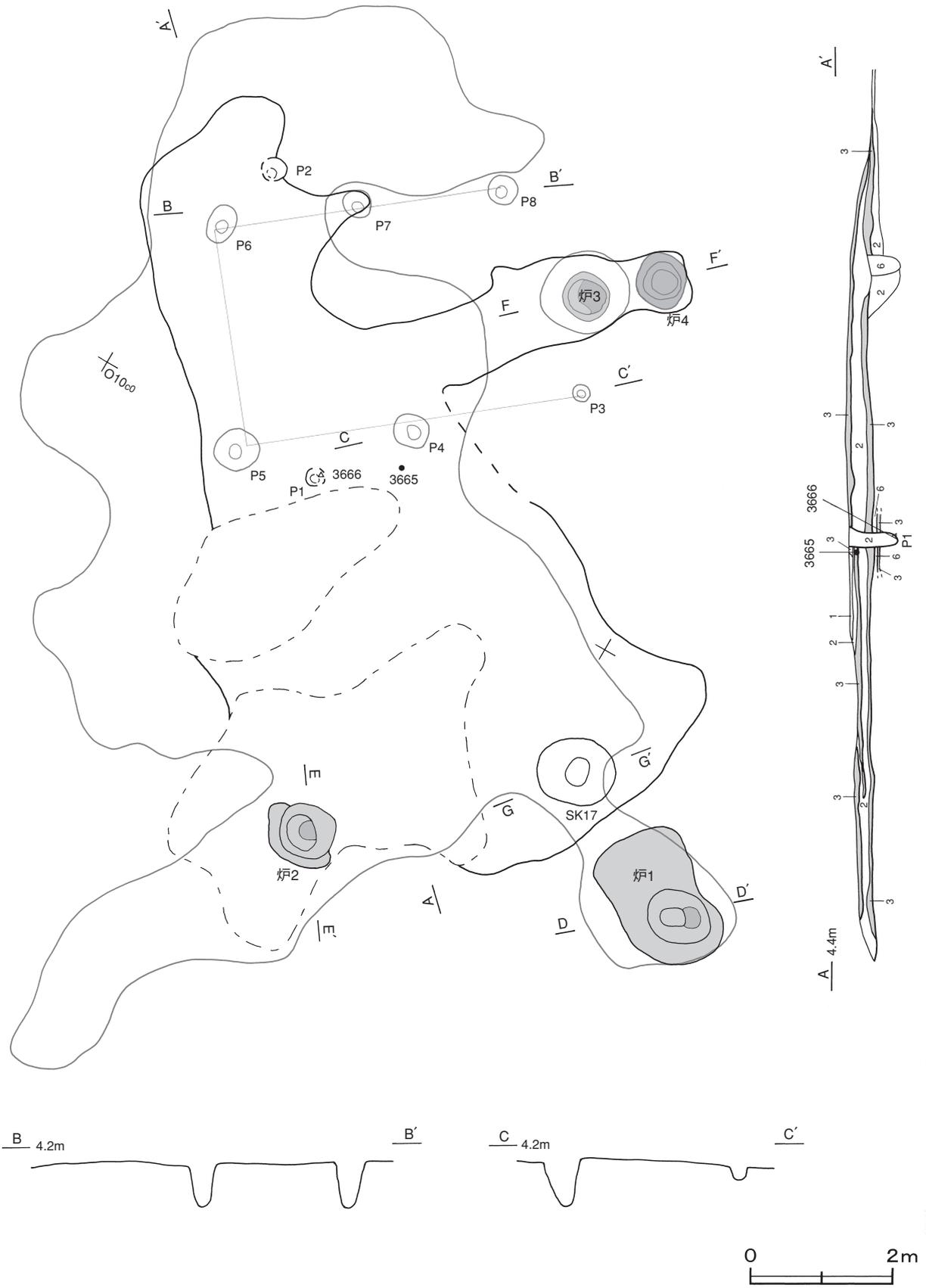
床 ほほ平坦である。第1次面は厚さ6～10cm、第2次面は厚さ4～12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。東部の炉1の周囲と中央部から南部にかけて、黒色土が硬化している。

炉（第260図）炉1は東部、炉2は南部に位置している。炉3・4は第2次面の北東部から並んで確認された。炉1～3は、厚さ4～10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉4は第2次面の黒色土面をそのまま利用している。いずれの覆土からも、第8層の焼砂が検出されている。炉3は第6層の黒色土D層、炉4は第4層の黒色土B層が人為堆積した層である。



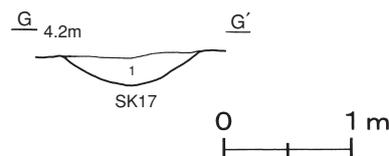
第260図 第63号建物跡炉実測図

ピット 8か所。P3～P8は深さ20～68cmで、北東棟を支えた主柱穴と考えられる。P1・P2は深さ63・44cmで、性格は不明である。



第261图 第63号建物迹实测图

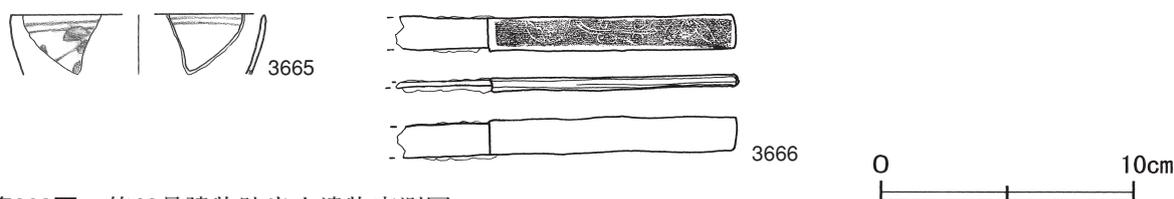
土坑（第262図）第17号土坑は、第1次面の東部に位置し、炉1の西側に隣接している。覆土は、第1層の砂A層が自然堆積している。



第262図 第63号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片2点（鍋）、陶器片1点（皿）、磁器片1点（碗）、金属製品4点（小刀1、小柄1、不明2）が出土している。3665は中央部の黒色土中、3666はP1内から出土している。

所見 第1次面の床面は中央部が硬化しており、東部と南部に炉を有していることから建物跡と捉えた。第2次面で確認された桁行2間、梁行1間の建物跡には、北東側に炉2基を有している。時期を判断できる遺物は出土していないが、最初の遺構確認面から検出されていることから、17世紀前半と考えられる。



第263図 第63号建物跡出土遺物実測図

第63号建物跡出土遺物観察表（第263図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3665	碗	磁器	[10.0]	(2.4)	-	灰白・灰白	染付・透明釉	体部外面唐草文	景德鎮窯系 16C前半	中央部黒色土中	5% E群
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3666	小柄	(13.6)	1.5	0.5	(32.7)	鉄・銅	地板に毛彫り 軍配カ		P1内	PL70	

第64号建物跡 8区SB-8（第264～267図）

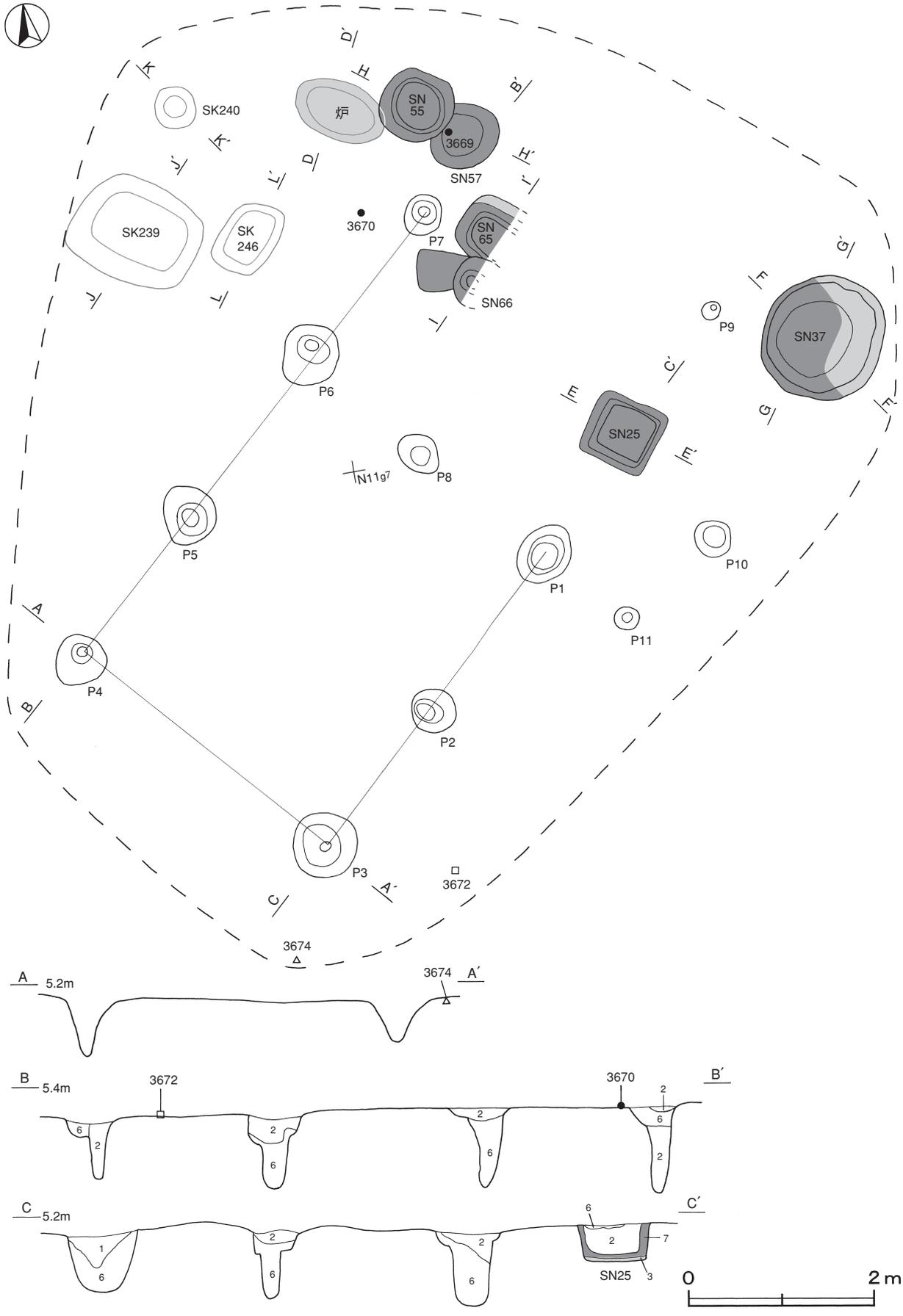
位置 調査区中央部のN11g7区を中心とし、第62号整地面上の東部に位置している。西側には第65・66号建物跡が隣接している。

重複関係 東部上面に、第61号整地面が構築されている。

確認状況 表砂を約2.4m除去し、標高約5.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑と北東に並ぶ柱穴11か所、さらに黒色土を除去して炉、土坑が確認された。

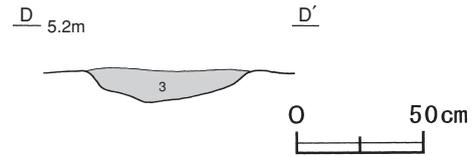
規模と施設 範囲は、長径10.3m、短径9.1mの楕円形と推測され、長径方向はN-45°-Eである。ピットの配列から、桁行3間、梁行1間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-45°-E、規模は桁行6.1m、梁行3.4mで、面積は20.7㎡である。柱間寸法は桁行が1.9・2.1m、梁間が3.4mを基調としている。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑6基、土坑3基が構築されている。

床 やや凹凸である。黒色土面は、本跡に近接している第62号整地面の土層断面図中B-B'をもとにすると、厚さ8～12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。



第264图 第64号建物跡実測図

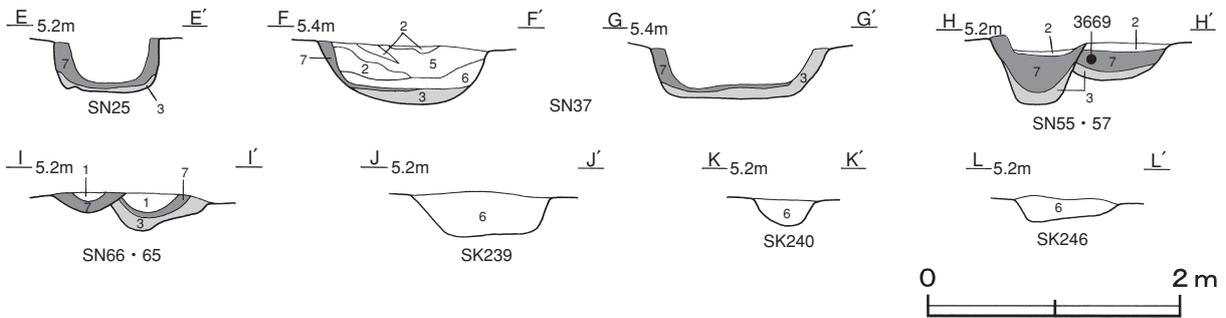
炉（第265図）黒色土を除去した北部に位置している。上面は削平され覆土は確認できなかったが、底面から焼砂がわずかに検出されていることから炉と判断した。厚さ12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。



第265図 第64号建物跡炉土層図

ピット 11か所。P 1～P 7は深さ65～100cmで、北西棟を支えた主柱穴と考えられる。P 8は深さ48cmで、上屋を支えた柱穴又は間仕切り用の柱穴と考えられる。P 9～P 11は深さ22～70cmで、性格は不明である。

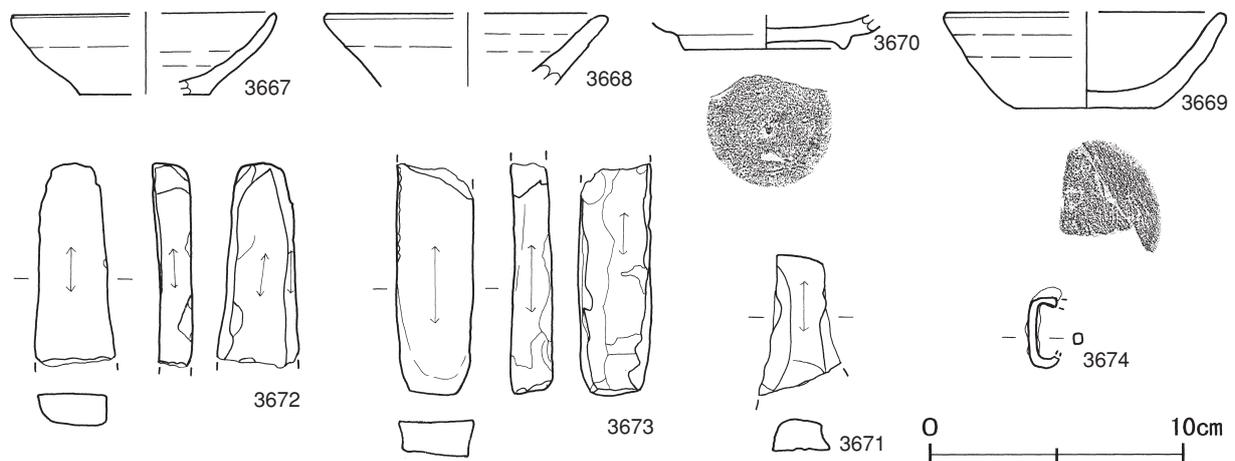
土坑（第266図）第25・37号粘土貼土坑は東部、第55・57・65・66号粘土貼土坑及び黒色土面の下層から確認された第239・240・246号土坑は北部に位置している。第55号粘土貼土坑は第57号粘土貼土坑を、第66号粘土貼土坑は第65号粘土貼土坑を掘り込んでいる。第25・37・65・66号粘土貼土坑は厚さ2～8cmほど、第55号粘土貼土坑は厚さ30cm、第57号粘土貼土坑は厚さ14cmの粘土を貼り付けて構築されている。第25・55・57号粘土貼土坑は第2層の砂B層が自然堆積、第37号粘土貼土坑や第239・240・246号土坑は、第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積した層である。



第266図 第64号建物跡土坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片21点（皿），陶器片2点（皿），石器3点（砥石），金属製品1点（耳金カ）が出土している。3670は北部の黒色土上面，3672は南部の黒色土上面，3674は南部の黒色土中から出土している。

所見 ピットの配列や炉から、桁行3間，梁行1間の北東棟の建物跡と考えられる。確認された6基の粘土貼土坑は北部に集中し，重複しているものが多い。出土遺物も少ないことから作業用の小屋と推測され，粘土貼土坑の多い北部が，作業場の中心と考えられる。時期は，3670から17世紀前半と考えられる。



第267図 第64号建物跡出土遺物実測図

第64号建物跡出土遺物観察表（第267図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3667	皿	土師質土器	[10.4]	3.2	[5.0]	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内底面横ナデ	SK239内	20%
3668	皿	土師質土器	[11.4]	(2.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ	SN37内	15%
3669	皿	土師質土器	[11.0]	3.8	[5.5]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	SN57内	45% PL79

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3670	丸皿	陶器	-	(1.4)	6.3	灰白・灰白	長石釉	削り出し高台	瀬戸・美濃 17C前葉	北部黒色土上面	20% 大窯4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3671	砥石	(5.6)	3.2	1.4	(24.9)	凝灰岩	砥面1面 他は剥離面	SK239内	
3672	砥石	(8.2)	3.2	1.7	(55.3)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	南部黒色土上面	
3673	砥石	(9.3)	3.0	1.6	(69.4)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	覆土中	
3674	耳金カ	2.9	(0.4)	0.5	(4.0)	鉄	断面方形 両端部欠損	南部黒色土中	

第65号建物跡 8区SB-9（第268～271図）

位置 調査区中央部のN11e4区を中心とする、第62号整地面上の西部に位置している。

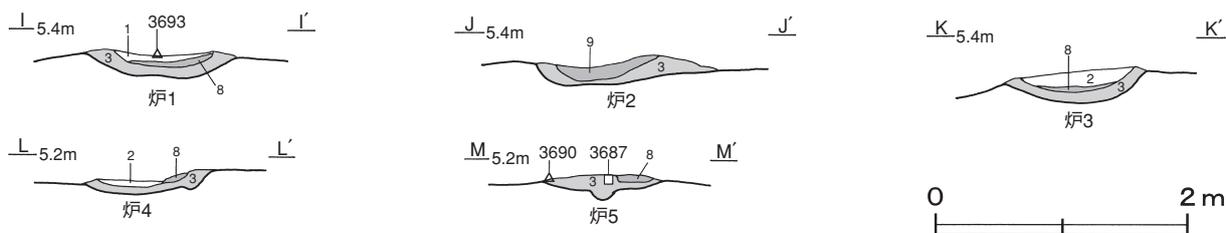
重複関係 第66号建物跡の北西部を掘り込んでいる。

確認状況 表砂を約2.1m除去し、標高約5.4mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、貝集積地と北東及び北西に並ぶ柱穴36か所、さらに黒色土を除去して炉、土坑と柱穴30か所が確認された。

規模と施設 範囲は、長軸15.5m、短軸14.5mの不定形で、長軸方向はN-45°-Wである。付属施設として、炉5基、粘土貼土坑3基、土坑6基が構築され、貝集積地1か所が確認されている。桁行3間、梁行3間の北西棟の建物跡に、桁行2間、梁行2間の北西棟の建物跡が取り付くように配されている。前者の桁行方向はN-47°-Wで、規模は桁行7.6～8.1m、梁行7.3mで、面積は57.3㎡である。柱間寸法は、桁行・梁間ともに不規則である。後者の桁行方向はN-47°-Wで、規模は桁行4.7m、梁行3.8mで面積は17.9㎡である。柱間寸法は桁行が不規則で、梁間が1.9mを基調としている。

床 ほほ平坦で、厚さ10～22cmの黒色土を貼り付けて構築されている。P1～P9に囲まれた部分の黒色土は、踏み固められている。炉1の西側と炉2の周囲から硬化した黒色土を確認した。

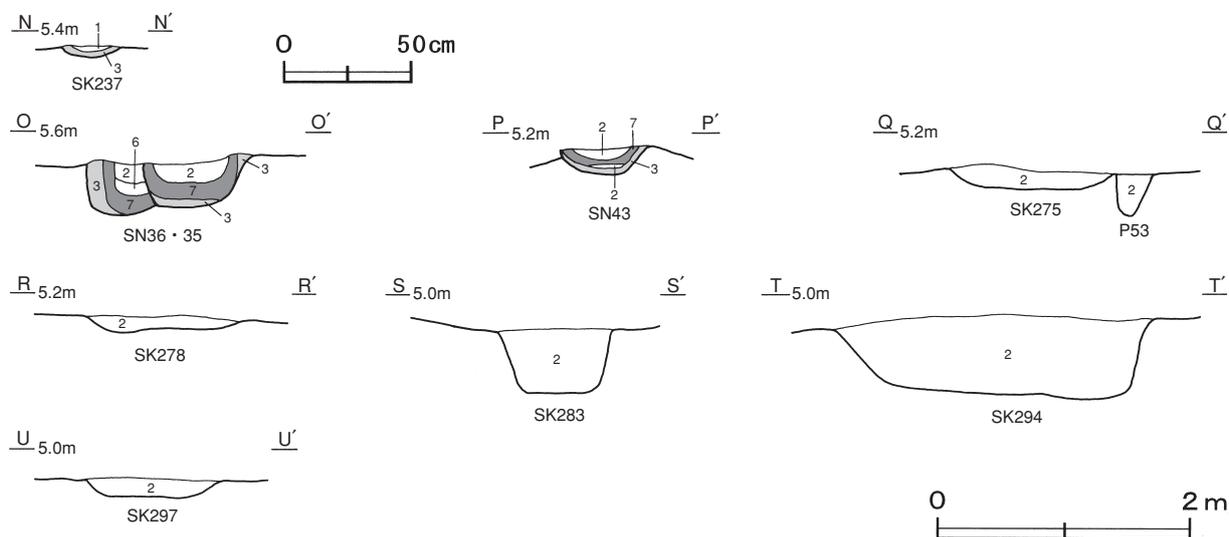
炉（第268図）炉1・2は東部、炉3は北部、炉4は西部に位置している。炉5は炉2の約20cm下から確認されており、炉5は使用後に埋め戻され、その上面に炉2が構築されている。炉1は第35・36号粘土貼土坑と並んで構築されている。炉1・3・4は厚さ2～10cmほど、炉2・5は厚さ4～21cmほどの黒色土を貼り付けて構築されている。炉1・3～5からは第8層の焼砂、炉2からは第9層の灰が検出されている。



第268図 第65号建物跡炉土層図

ピット 66か所。P 1～P 16は深さ42～93cmで、桁行3間、梁行3間の北東棟の支柱穴及び柱穴と考えられる。P 17～P 24は深さ34～87cmで、桁行2間、梁行2間の北西棟の支柱穴及び柱穴と考えられる。P 25～P 28は深さ21～61cmで柱穴及び間仕切り用の柱穴、P 29～P 34は深さ30～80cmで建物跡の北東側をほぼ平行に並ぶ柵列状の柱穴の可能性が考えられる。P 35・P 36は深さ105・75cmで、性格は不明である。黒色土を除去した後に確認されたP 37～P 60は深さ18～72cmで、以前の上屋を支えていた柱穴及び間仕切り用の柱穴が考えられる。

土坑（第269図）第35・36号粘土貼土坑は東部、第43号粘土貼土坑は西部に位置している。黒色土面の下層からは、第278・297号土坑が東部、第237・283・294号土坑が南部、第275号土坑が西部からそれぞれ確認されている。第35・36号粘土貼土坑は厚さ10～18cmほど、第43号粘土貼土坑は厚さ2～12cmの粘土を貼り付けて構築されている。粘土貼土坑の覆土は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積している。第35号粘土貼土坑は、第36号粘土貼土坑を掘り込んで構築されている。第237号土坑は、厚さ1cmの黒色土で構築されている。土坑の覆土は、いずれも第2層の砂B層が自然堆積した層である。



第269図 第65号建物跡土坑土層図

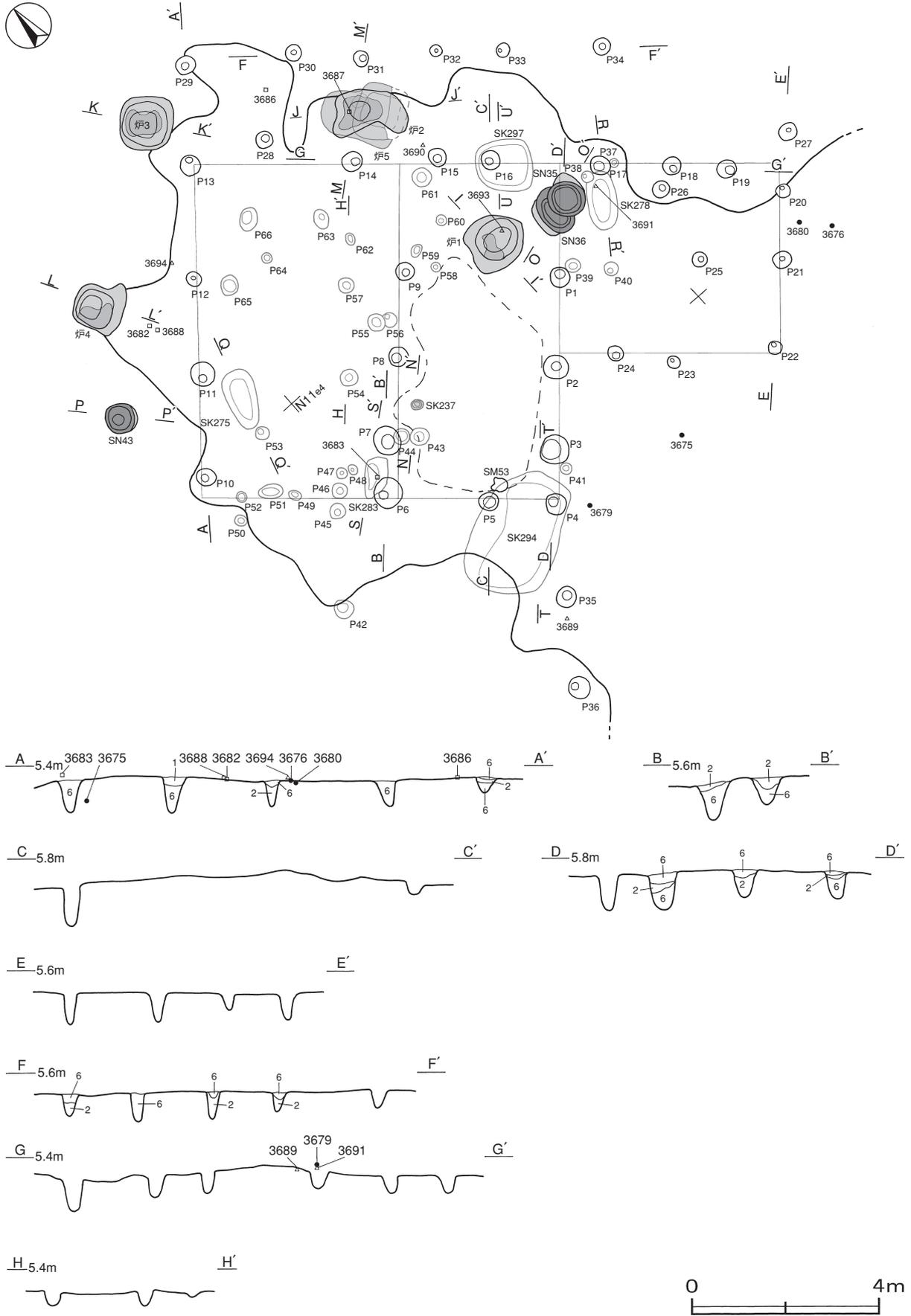
貝集積地 第53号貝集積地は南部に位置している。長軸0.4m、短軸0.3mの不定形を呈している。貝層は、薄く広がった状態で確認された。

第53号貝集積地出土貝種一覧表

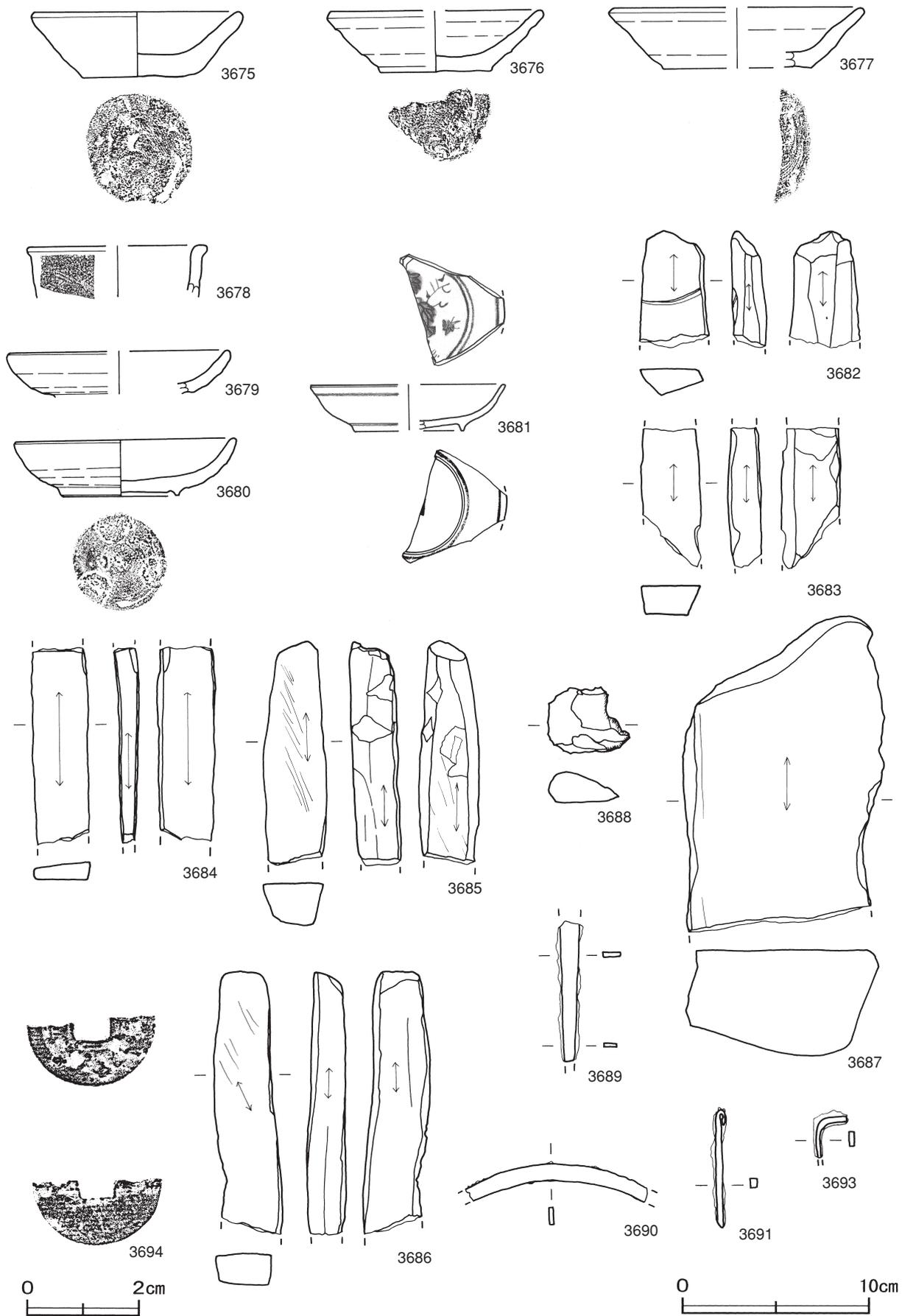
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	ムラサキインコガイカ	25.0	26.32	18	
2	ムラサキインコガイ細片	70.0	73.68		

遺物出土状況 土師質土器片40点（皿）、陶器片3点（皿）、磁器片1点（皿）、瓦質土器片1点（香炉）、石器6点（火打石1、砥石5）、金属製品24点（火打金2、小刀1、釘1、はさみ1、古銭1、不明18）が出土している。3675・3679・3689は南部の黒色土上面から下層の砂層にかけて、3676・3680・3691は東部の黒色土上面、3682・3686・3688・3694は北部の黒色土上面、3683は中央部の黒色土上面からそれぞれ出土している。

所見 第8区の中で規模が最も大きい建物跡である。北東部に炉と粘土貼土坑が構築されており、炉の南西部には踏み固めた黒色土が広がっていることから、土間として使用されていたと推測される。また、建物内の西部は主な生活の場と考えられる。時期は、3679・3680から17世紀前半と考えられる。



第270图 第65号建物跡実測图



第271图 第65号建物跡出土遺物実測図

第65号建物跡出土遺物観察表（第271図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3675	皿	土師質土器	11.0	3.5	5.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	南部黒色土下	95% PL79
3676	皿	土師質土器	[11.4]	3.3	6.0	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	東部黒色土上面	25%
3677	皿	土師質土器	[13.2]	3.3	[8.0]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%
3678	香炉	瓦質土器	[9.5]	(2.8)	-	長石・赤色粒子・小礫	灰褐	普通	体部スタンプ文（菱形文）	覆土中	5% PL80

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3679	丸皿	陶器	[11.8]	(2.4)	-	灰白・灰白	長石釉	内外面施釉	瀬戸・美濃 17C前葉	南部黒色土上面	5% 大窯4
3680	丸皿	陶器	11.8	3.1	6.2	灰白・灰白	長石釉	見込み・高台内ビン痕3か所有り	瀬戸・美濃 17C前葉	東部黒色土上面	80% 大窯4 PL63
3681	皿	磁器	[10.4]	2.0	[5.8]	灰白・明緑灰	染付・透明釉	見込みに折菊文	景徳鎮窯系 16C後半	覆土中	25% B2群 PL64

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3682	砥石	(6.3)	3.2	1.9	(43.6)	凝灰岩	砥面3面 断面四角形	北部黒色土上面	
3683	砥石	(7.5)	3.2	1.8	(57.2)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	中央部黒色土上面	
3684	砥石	(10.6)	3.1	1.2	(54.7)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	覆土中	
3685	砥石	(12.1)	3.4	2.6	(146.2)	凝灰岩	砥面3面 砥面に擦痕 他は剥離面	覆土中	PL85
3686	砥石	(14.2)	3.7	2.2	(141.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	北部黒色土上面	PL86
3687	砥石	(17.0)	10.9	6.1	(1570.0)	砂岩	砥面1面 他は自然面と剥離面	炉5内	
3688	火打石	3.6	4.4	2.1	29.1	瑪瑙	一部の稜が摩滅	北部黒色土上面	
3689	釘	(7.3)	1.0	0.2	(15.3)	鉄	断面長方形 両端部欠損	南部黒色土上面	
3690	五徳カ	(9.8)	0.9	0.2	(15.1)	鉄	断面長方形 平面円形カ	炉5付近	
3691	釘	6.5	0.4	0.5	12.0	鉄	断面長方形 先端部屈曲	東部黒色土上面	
3693	釘カ	(2.3)	0.3	0.8	(3.5)	鉄	頭部遺存 断面長方形 頭部屈曲	炉1内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3694	一元寶	1.14	0.64	0.07	(1.12)	-	銅	判読不明 欠け	北部黒色土上面	

第66号建物跡 8区SB-11（第272図）

位置 調査区中央部のN11g5区を中心とする、第62号整地面上の中央部に位置している。東側には第64号建物跡が隣接している。

重複関係 北部を第65号建物に掘り込まれ、第62号整地面に伴う第52号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

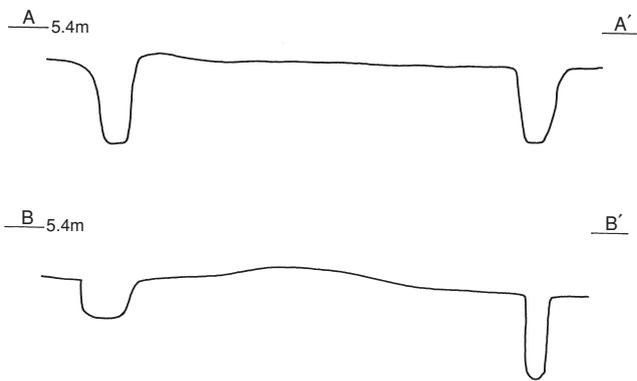
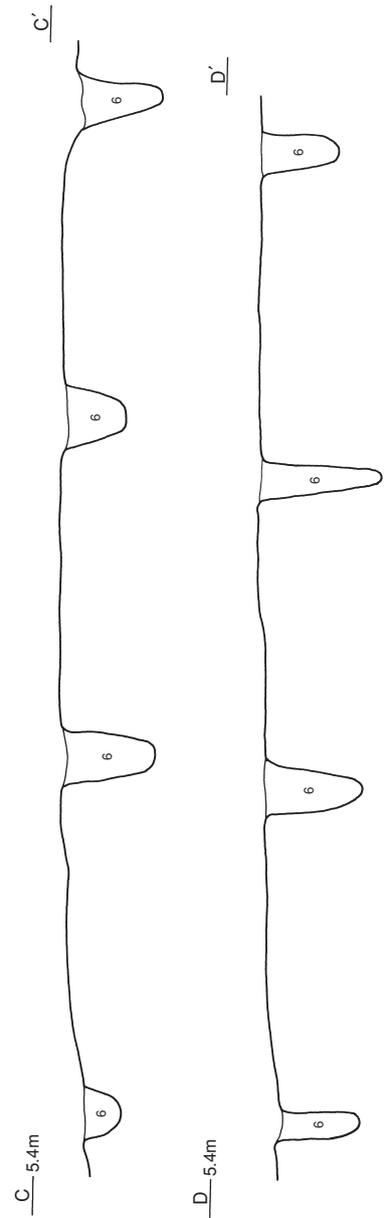
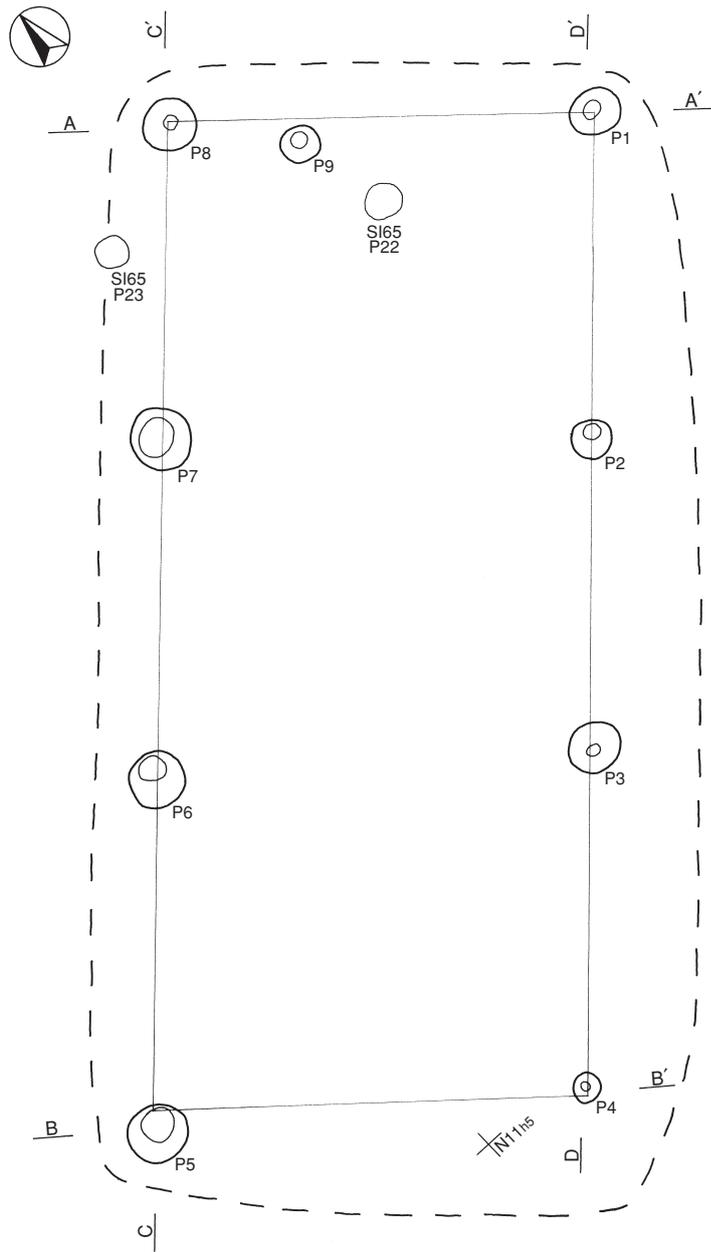
確認状況 表砂を約2.4m除去し、標高約5.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から北東に並ぶ柱穴9か所が確認されている。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸9.3m、短軸4.8mの長方形で、長軸方向はN-45°-Eである。ピットの配列から、桁行3間、梁行1間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-45°-E、規模は桁行7.9m、梁行3.5mで、面積は27.7㎡である。柱間寸法は桁行が2.5・2.7m、梁間が3.5mを基調としている。

床 ほほ平坦である。第62号整地面の土層断面図中A-A'から、厚さ8~14cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

ピット 9か所。P1~P4・P6~P8は深さ51~79cm、P5は深さ32cmで、北東棟を支えた支柱穴と考えられる。P9は深さ20cmで、北東棟の上屋を支えた柱穴と考えられる。

所見 北部は第65号建物跡のピットと重複しているが、覆土の状況から本跡の方が古いと判断した。炉や粘土貼土坑などの生活の痕跡が認められないことから、小屋と推定される。時期は、第65号建物跡が17世紀前半と推定されることから、それよりは若干古い時期と考えられる。



第272图 第66号建物跡実測図

第67号建物跡 8区SB-7(第273~276図)

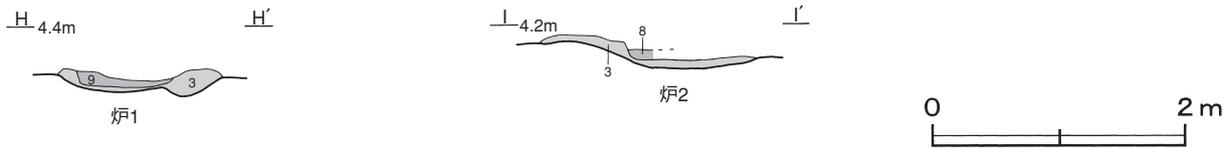
位置 調査区南部のN10j9区を中心に位置している。北側には第59号建物跡が隣接している。

確認状況 表砂を約3.4m除去し、標高約4.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、土坑と北東に並ぶ柱穴23か所、さらに黒色土の下層から炉と粘土貼土坑が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸7.1m、短軸4.1mの不定形で、長軸方向はN-20°-Eである。ピットの配列から、桁行4間、梁行3間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-38°-E、規模は桁行8.4m、梁行5.6mで、面積は47.0㎡である。柱間寸法は桁行が1.9~2.1m、梁間が1.8~2.1mでやや不均一である。付属施設として、炉2基、粘土貼土坑2基、土坑2基が構築されている。

床 やや凹凸で、中央部から外側に向かって緩やかに傾斜している。厚さ2~5cmの黒色土を貼り付けている。ほぼ平坦で、黒色土が広範囲に貼り付けて構築されていたと考えられるが、生活の中で削れたり流出したりして、踏み固められた硬化面のみが遺存したと考えられる。

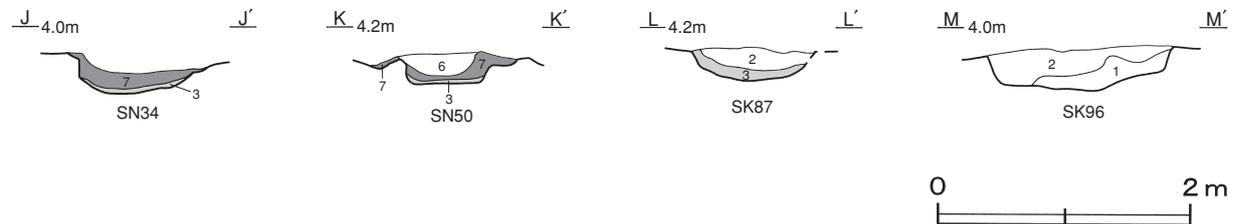
炉 (第273図) 炉1は北東部に位置している。炉2は黒色土面の下層から確認され、第50号粘土貼土坑と並んで構築されている。炉1は厚さ2~13cm、炉2は厚さ3~7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉1からは第9層の灰、炉2からは第8層の焼砂が検出されている。



第273図 第67号建物跡炉土層図

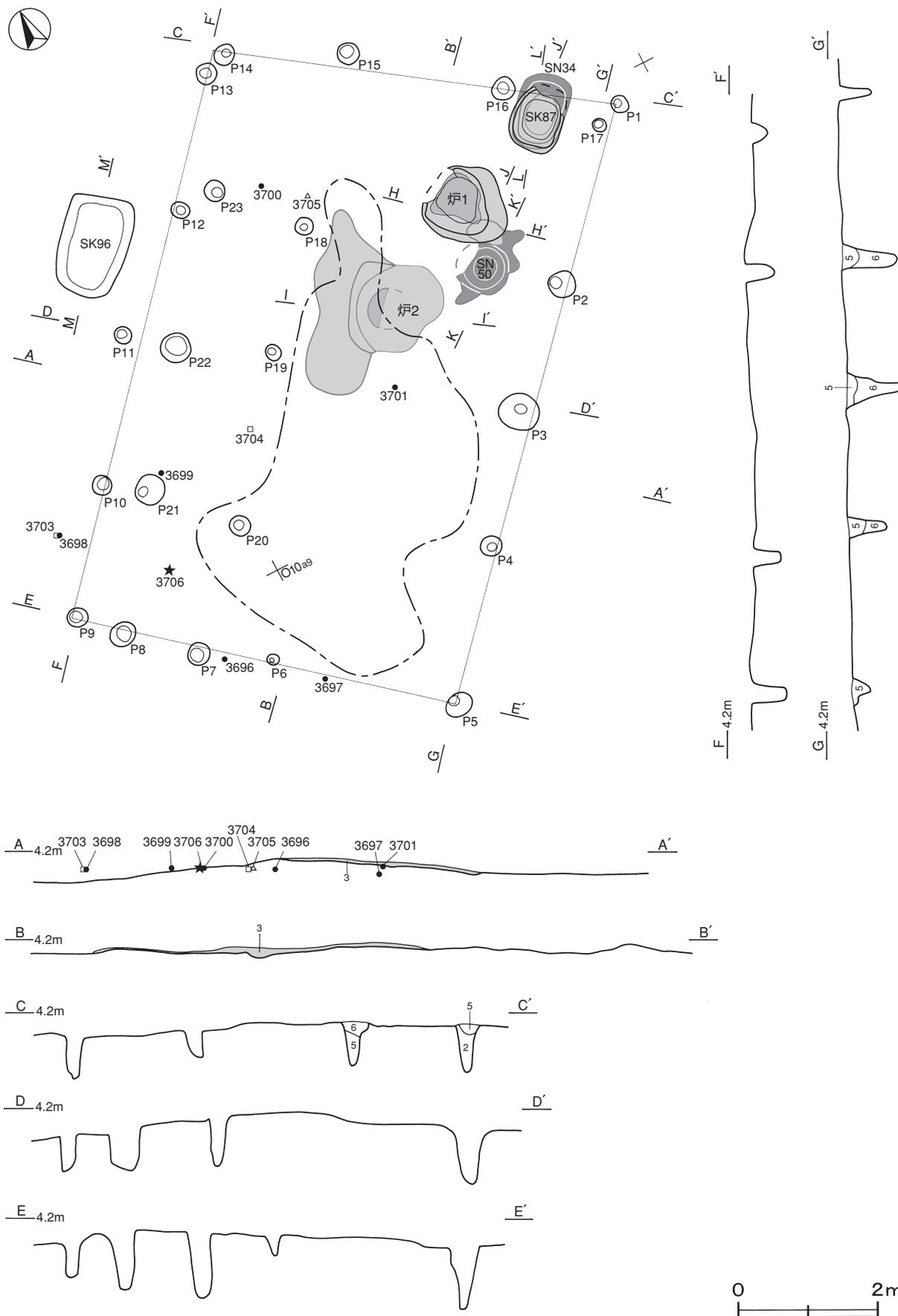
ピット 23か所。P1~P5・P7・P9・P11・P14・P16は深さ50~94cm、P10・P12・P13・P15は深さ26~44cmで、北東棟を支えた主柱穴と考えられる。P6・P8・P17~P23は深さ42~82cmで、北東棟の上屋を支えた柱穴又は間仕切り用の柱穴と考えられる。

土坑 (第274図) 黒色土で構築された第87号土坑は北東部、第96号土坑は西部に位置している。また、第34・50号粘土貼土坑は、炉2とともに黒色土面の下層から確認されている。第87号土坑は厚さ3~10cmの黒色土、粘土貼土坑は厚さ2~13cmほどの粘土を貼り付けて構築されている。



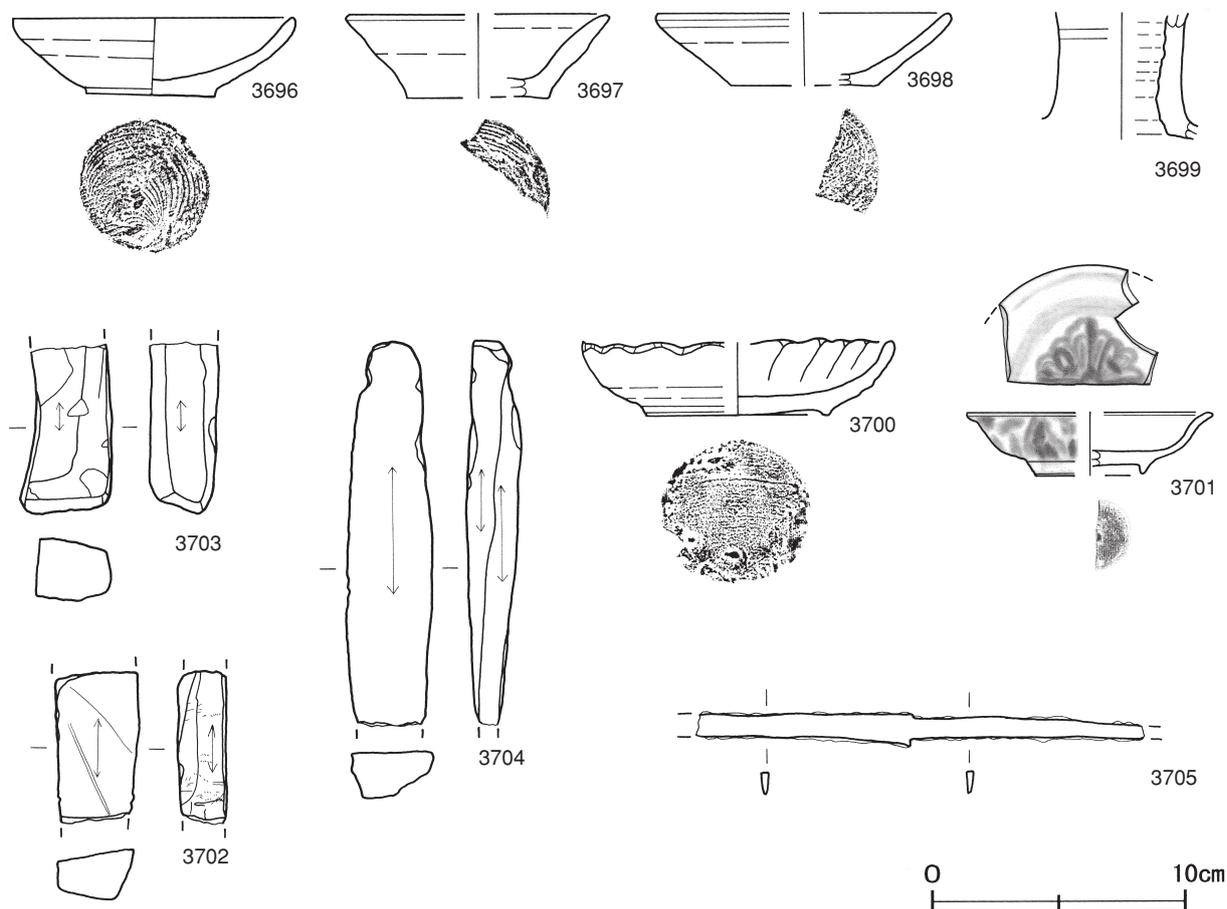
第274図 第67号建物跡土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片20点(皿19, 鍋1), 陶器片1点(皿), 磁器片1点(皿), 須恵器片1点(長頸瓶), 石器2点(砥石), 金属製品5点(小刀1, 火打金2, 不明2), 魚の鱗が出土している。遺物は、中央部から西部にかけて多く点在している。3696・3697は南部の砂層, 3698・3699・3703は西部の砂層, 3700・3705は北部の砂層, 3701は中央部の黒色土中, 3704は中央部の砂層からそれぞれ出土している。また, 3706はカサゴなどの鱗で西部の砂層から出土している。



第275图 第67号建物迹实测图

所見 桁行4間、梁行3間の北東棟の建物跡であると考えられる。北東部に炉と黒色土貼りの土坑が確認され、中央部から南西部にかけて黒色土面が硬化していることから、主たる生活場所は南西部と考えられる。黒色土面下層から確認された炉と粘土貼土坑は、当初使用されていたが、黒色土で埋め戻されたものである。時期は、3700から17世紀前半と考えられる。



第276図 第67号建物跡出土遺物実測図

第67号建物跡出土遺物観察表（第276図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3696	皿	土師質土器	11.0	3.3	5.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内底面横ナデ	南部砂層	95% PL75
3697	皿	土師質土器	[10.0]	3.3	[5.6]	長石・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	底部回転糸切り	南部砂層	20%
3698	皿	土師質土器	[11.4]	2.9	[5.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	内底面横ナデ	西部砂層	20%
3699	長頸瓶	須恵器	-	(5.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 内・外面自然釉付着	西部砂層	5%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3700	菊皿	陶器	[12.3]	2.9	7.3	灰白・灰白	長石釉	内面打ち出し菊花文	瀬戸・美濃 17C前葉	北部砂層	70% 大窯4 PL64
3701	端反皿	磁器	[9.7]	2.5	[4.3]	灰白・明緑灰	染付・透明釉	見込み内十字花文	景徳鎮窯系 15C後~16C前	中央部黒色土中	40% B1群 PL64
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3702	砥石	(6.1)	3.4	2.1	(58.8)	凝灰岩	砥面4面	砥面擦痕 断面四角形	覆土中		
3703	砥石	(6.7)	3.6	2.8	(99.8)	凝灰岩	砥面3面	他は剥離面	西部砂層		
3704	砥石	(15.3)	3.3	2.1	(117.9)	凝灰岩	砥面4面	剥離面有り	中央部砂層		
3705	小刀	(17.5)	1.3	0.3	(19.9)	鉄	切先部・茎部一部欠損	両関	北部砂層		

第68号建物跡 8区HK-3 (第277~280図)

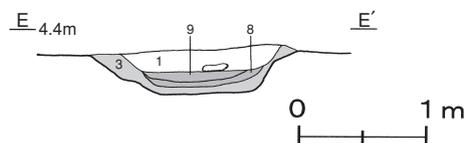
位置 調査区南部のO10e8区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約3.2m除去し、標高約4.3mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、貝集積地及び北東に並ぶ柱穴7か所、さらに黒色土を約10cm除去した標高4.2mで、第2次面の黒色土面が確認された。

規模と施設 第1次面の黒色土の範囲は、長軸10.6m、短軸7.9mの不定形で、長軸方向はN-8°-Wである。第2次面の黒色土の範囲は、長軸9.2m、短軸7.1mの不定形で、長軸方向はN-29°-Wである。北東部分の柱穴は確認できなかったが、ピットの配列から、桁行3間、梁行1間の北東棟の建物跡と推察される。桁行方向はN-40°-E、規模は桁行8.1m、梁行4.2mで、面積は34.0㎡である。柱間寸法は桁行が2.5~3.5m、梁間が4.2mを基調としている。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑1基が構築され、貝集積地2か所が確認された。

床 両面とも南部に向かって緩やかに傾斜している。第1次面は厚さ3~7cm、第2次面は厚さ3~5cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

炉 (第277図) 北部に位置し、第1号粘土貼土坑と隣接している。厚さ4~15cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第8層の焼砂と第9層の灰が検出されている。底面から、長径20cm大の自然礫が確認された。

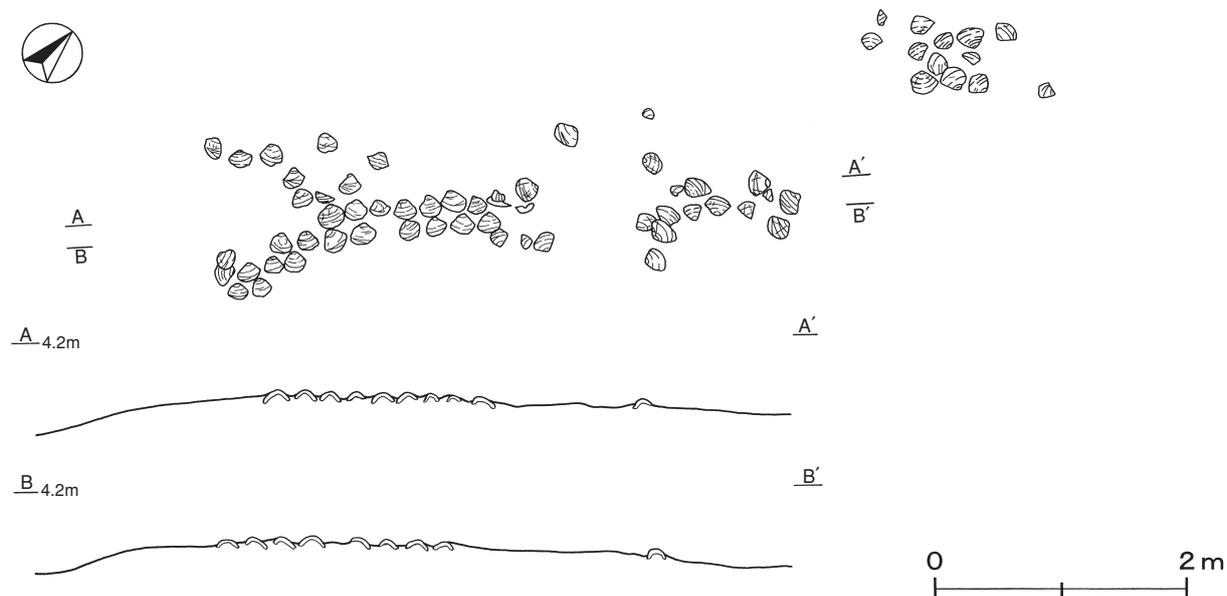


第277図 第68号建物跡炉土層図

ピット 7か所。P1・P3・P6・P7は深さ22~39cm、P2・P4・P5は深さ63~68cmで、北東棟を支えた主柱穴と考えられる。

土坑 (第279図) 第1号粘土貼土坑は、炉の東部のP1とP2の間に位置している。厚さ4~10cmの粘土を貼り付けて構築されている。覆土は、第1層の砂Aが自然堆積した層である。

貝集積地 (第278図) 第57号貝集積地は北部に位置している。長軸3.5m、短軸0.7mの不定形な範囲内に、ウバ貝の殻頂部を南西側に向けて規則的に貝殻を並べている。第59号貝集積地は第2次面の南部に位置している。長径1.3m、短径1.0mの楕円形で、貝層の厚さは最大で27cmである。



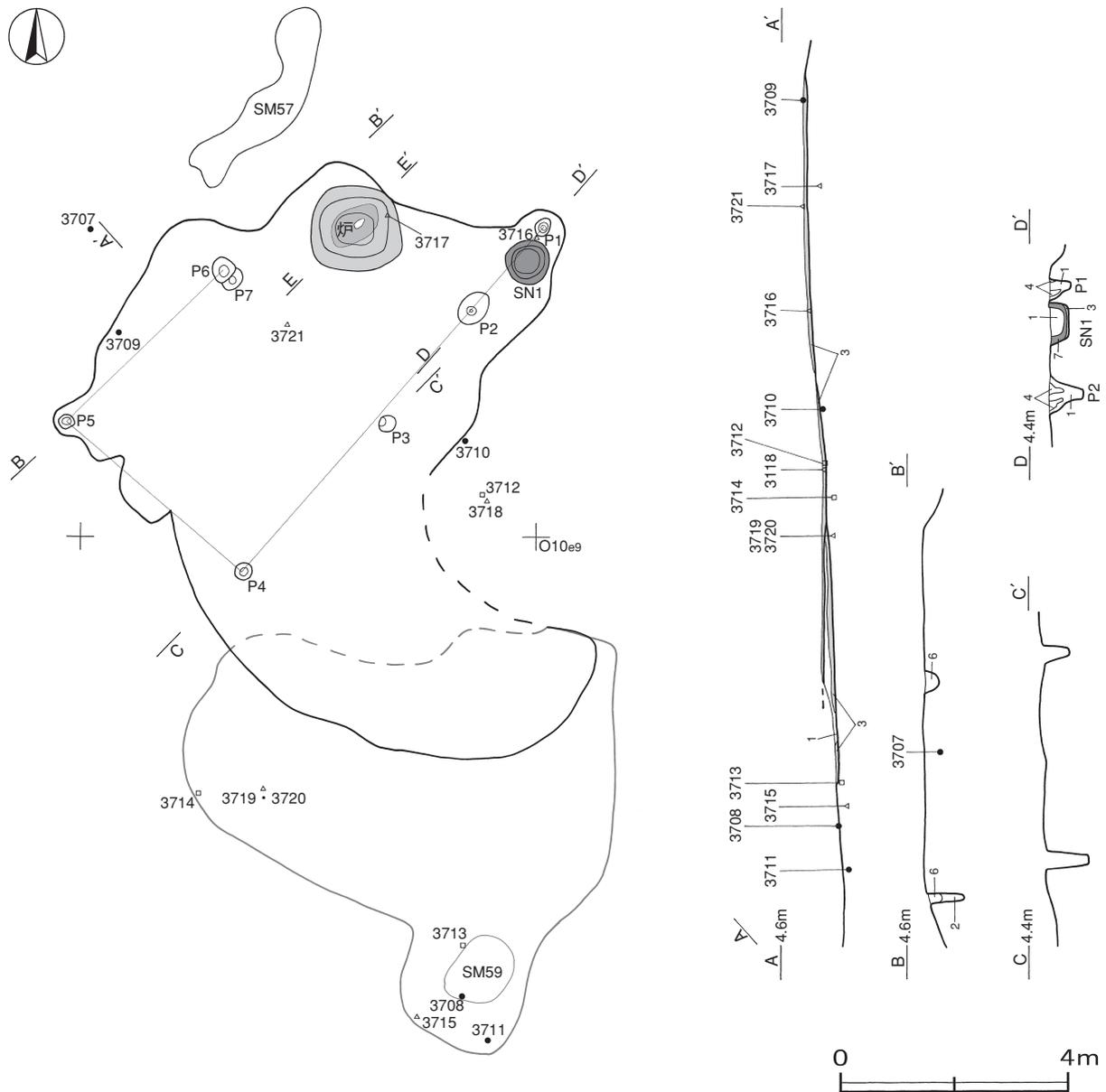
第278図 第57号貝集積地実測図

第57号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	ウバガイ	4,760.0	69.88	L=23 R=33	人為配列	2	ウバガイ細片	2,052.0	30.12		

第59号貝集積地出土貝種一覧表

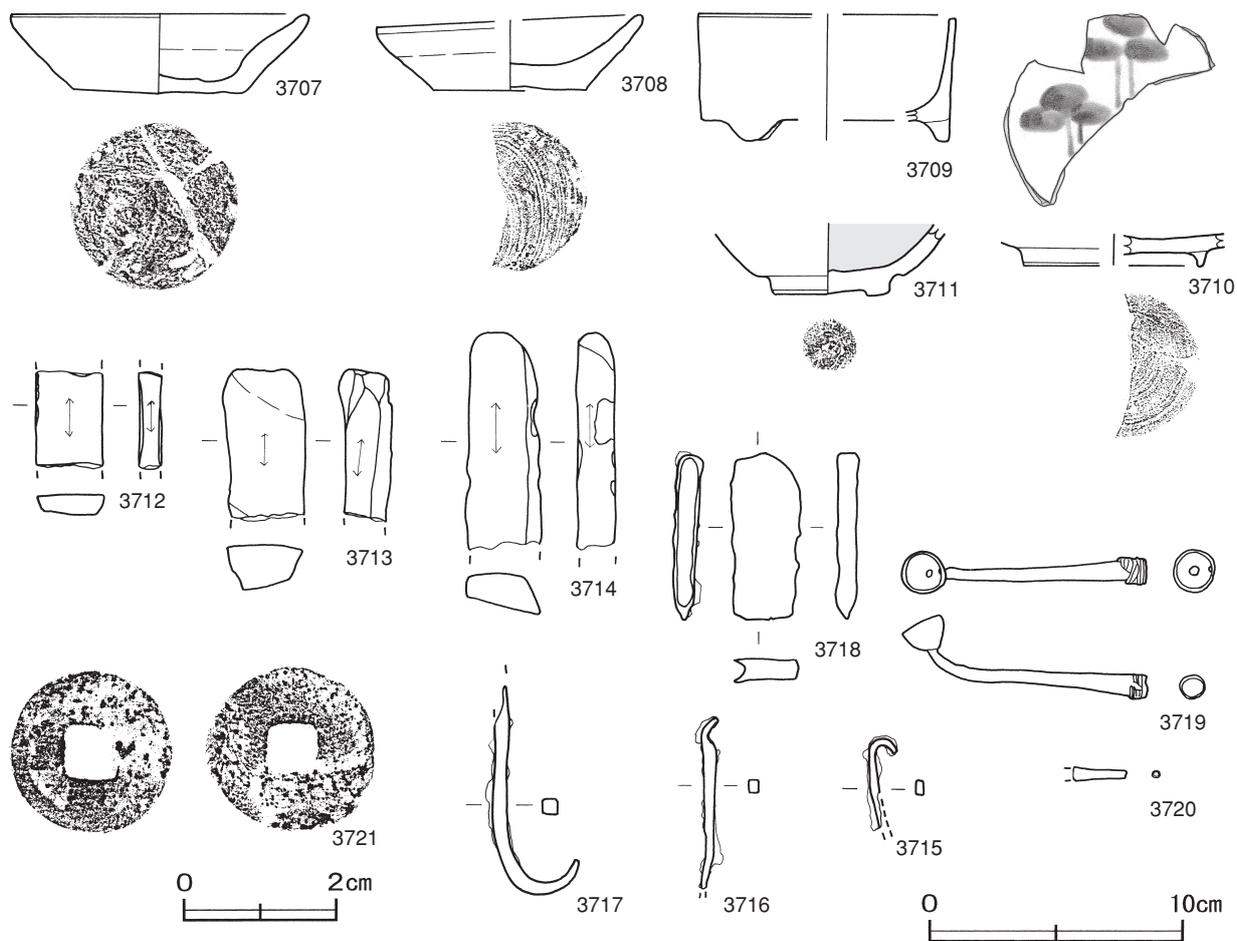
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	ツメタガイ	30.0	0.03	1		6	ウバガイ	81,700.0	82.78	L=914 R=854	
2	タマキガイ	170.0	0.17	3		7	カキ細片	540.0	0.55		
3	カキ	3,920.0	3.97	61		8	ウバガイ細片	12,180.0	12.34		
4	マツカサガイ	1.0	0.00	1	淡水						
5	チョウセンハマグリ	160.0	0.16	4							



第279図 第68号建物跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿5, 香炉1), 陶器片5点(皿4, 碗1), 瓦質土器片1点(香炉), 石器3点(砥石), 金属製品9点(小刀2, 釘1, 吊金具1, 煙管2, 古銭1, 不明2)が出土している。遺物は、黒色土面とその周囲の砂層に散在している。3707は北西部の砂層, 3709は北西部の黒色土上面, 3716・3717・3721は北部の黒色土上面から黒色土下にかけて, 3710・3712・3718は中央部の砂層, 3711・3713~3715・3719・3720は南部の黒色土上面からそれぞれ出土している。また, 3708は第59号貝集積地から出土している。

所見 炉や粘土貼土坑は北東棟の北側に位置しており, 主な生活の場と考えられる。また, 北西側に並んでいる第57号貝集積地は, 建物跡の桁行と平行に並べられている。時期は, 3710・3719・3720から, 17世紀前半と考えられる。



第280図 第68号建物跡出土遺物実測図

第68号建物跡出土遺物観察表 (第280図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3707	皿	土師質土器	11.8	3.2	6.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面渦巻き状のナデ	北西部砂層	100% PL76
3708	皿	土師質土器	[10.4]	3.1	6.0	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	底部回転糸切り	SM59内	50%
3709	香炉	瓦質土器	[10.0]	5.0	-	長石・雲母・赤色粒子	灰	普通	高台部貼り付け	北西部黒色土上面	20% PL81

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3710	青織部皿	陶器	-	(1.3)	[7.1]	灰黄・浅黄	鉄絵・長石釉	見込みに松を描く 輪高台	瀬戸・美濃 17C前半	中央部砂層	10% 透房1 PL69
3711	天目茶碗	陶器	-	(2.7)	4.3	灰白・黒	鉄釉	内反り高台	瀬戸・美濃	南部黒色土上面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3712	砥石	(3.9)	2.7	0.9	(16.8)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	中央部砂層	
3713	砥石	(6.1)	3.2	2.1	(51.6)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	南部黒色土上面	
3714	砥石	(8.7)	3.0	1.7	(63.4)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	南部黒色土上面	
3715	釘	(3.5)	0.3	0.6	(4.2)	鉄	断面長方形 頭部屈曲 先端部欠損	南部黒色土上面	
3716	釘	(6.9)	0.4	0.5	(7.6)	鉄	断面方形 先端部欠損	北部黒色土上面	
3717	吊金具	(8.3)	0.6	0.6	(16.5)	鉄	断面方形 湾曲	北部黒色土下	PL93
3718	不明	6.6	2.6	1.0	65.5	鉄	平面長方形 柄頭カ	中央部砂層	
3719	煙管	9.8	火皿径1.7	小口径0.9	7.7	銅	雁首 火皿冠1カ所 小口部布巻き遺存	南部黒色土上面	PL94
3720	煙管	(2.2)	-	口付径0.3	(0.7)	銅	吸い口 口付部のみ遺存	南部黒色土上面	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3721	□□寶	2.19	0.66	0.11	1.80	-	銅	判読不明 錆付着	北部黒色土上面	

第69号建物跡 8区 HK-8 (第281~285図)

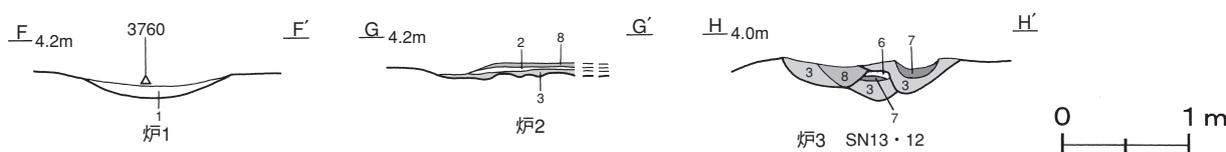
位置 調査区南部のO10e6区を中心に位置している。東側には第70号建物跡が隣接している。

確認状況 第68号建物跡を約0.2m掘り下げた標高約3.8mで、黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、土坑、貝集積地と北東に並ぶ柱穴15か所、さらに黒色土を除去して炉、粘土貼土坑、土坑と北東に並ぶ柱穴15か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸11.4m、短軸8.5mの不定形で、長軸方向はN-38°-Eである。ピットの配列から、桁行5間、梁行2間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-40°-E、規模は桁行10.5m、梁行3.9mで、面積は41.0㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m、梁間が1.9mを基調としている。付属施設として、炉3基、粘土貼土坑4基、土坑6基が構築され、貝集積地1か所が確認されている。

床 ほほ平坦で、厚さ約8cmの黒色土を貼り付けている。

炉 (第281図) 炉1は北部寄りの黒色土面に位置している。炉2は北部、炉3は東部の黒色土面の下層から確認された。炉1は第1層の砂A層が自然堆積し、底面から微量の焼砂が検出された。また炉1は、床面の黒色土をわずかに掘りくぼめて使用されている。炉2は厚さ3~7cm、炉3は厚さ14cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉2・3からは、第8層の焼砂が検出されている。

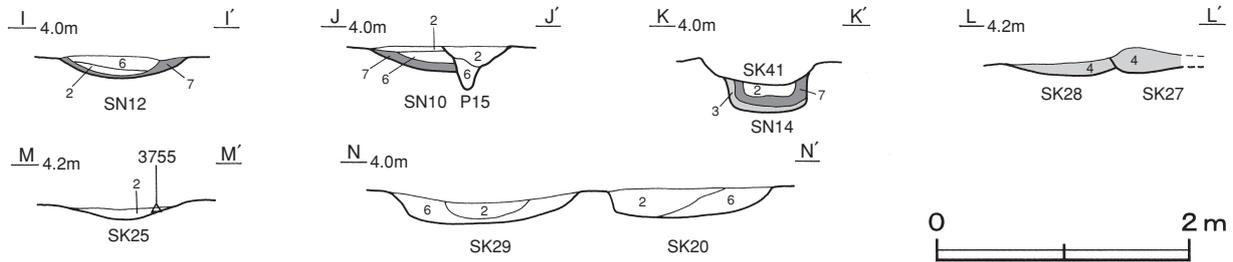


第281図 第69号建物跡炉・粘土貼土坑実測図

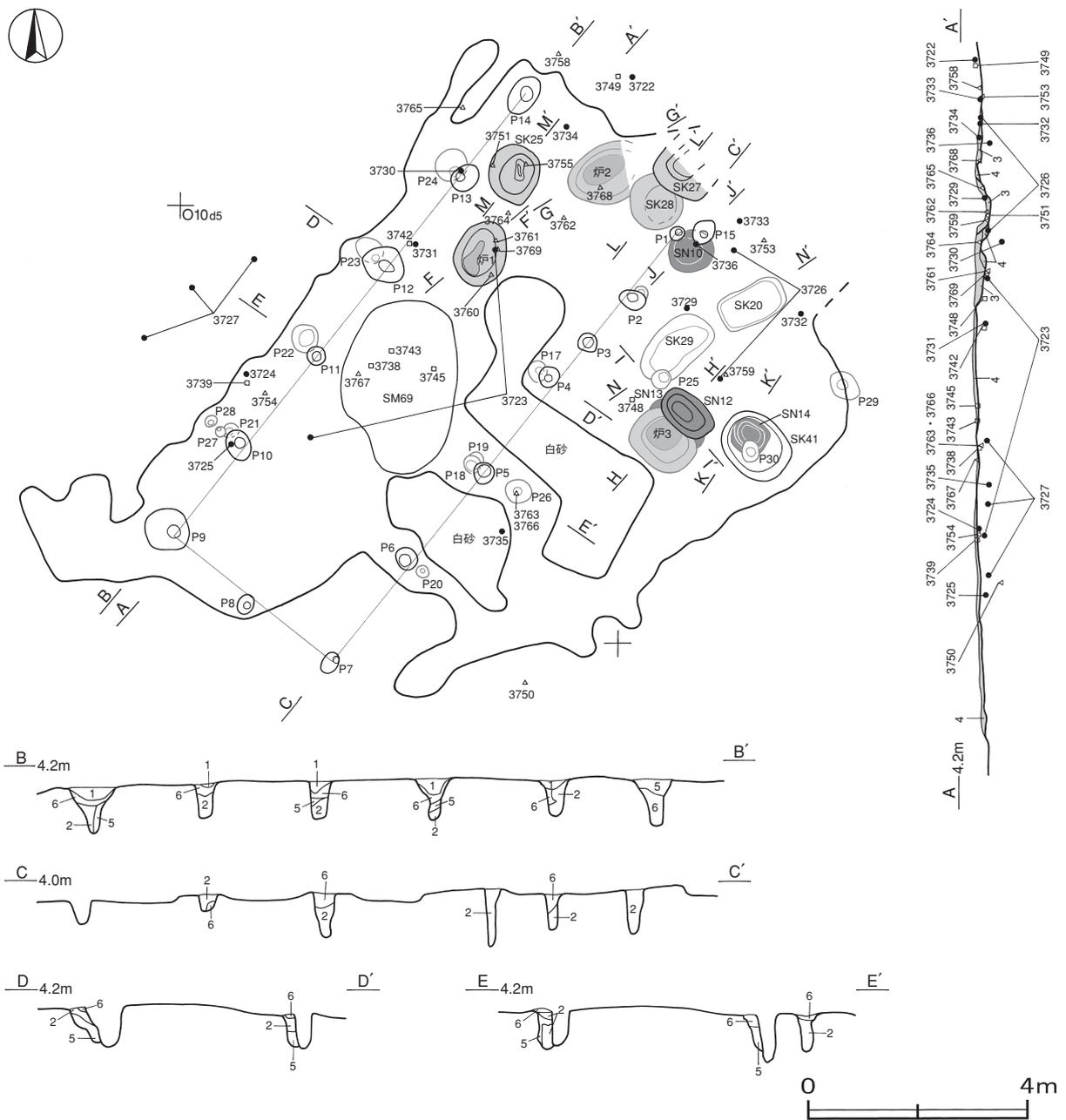
ピット 30か所。P1・P2・P7・P15は深さ36~40cm、P3~P6・P8~P14は深さ51~103cmで、北東棟を支えた主柱穴及び柱穴と考えられる。P16~P19・P22・P24・P26は深さ55~88cm、P20・P21・P23・P25は深さ26~42cmで、造り替え以前の主柱穴及び柱穴と考えられる。P27~P30は深さ36~74cmで、建物跡の東側に位置しているが規則性はなく、性格は不明である。

土坑 (第282図) 土坑及び粘土貼土坑は、炉と同じく北部から東部にかけて集中している。第12号粘土貼土坑、黒色土で構築された第27号土坑、第25・41号土坑は黒色土面から確認されている。第12号粘土貼土坑は炉3及び第13号粘土貼土坑を掘り込んでいる。第10・13・14号粘土貼土坑、黒色土で構築された第28号土坑、第20・

29号土坑は黒色土の下層から確認されている。粘土貼土坑は、厚さ6～7cmほどの粘土、第27号土坑は厚さ19cm、第28号土坑は厚さ9cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土坑及び粘土貼土坑の覆土は、第2層の砂B層が自然堆積、第4・6層の黒色土B・D層が人為堆積した層である。



第282図 第69号建物跡土坑土層図



第283図 第69号建物跡実測図

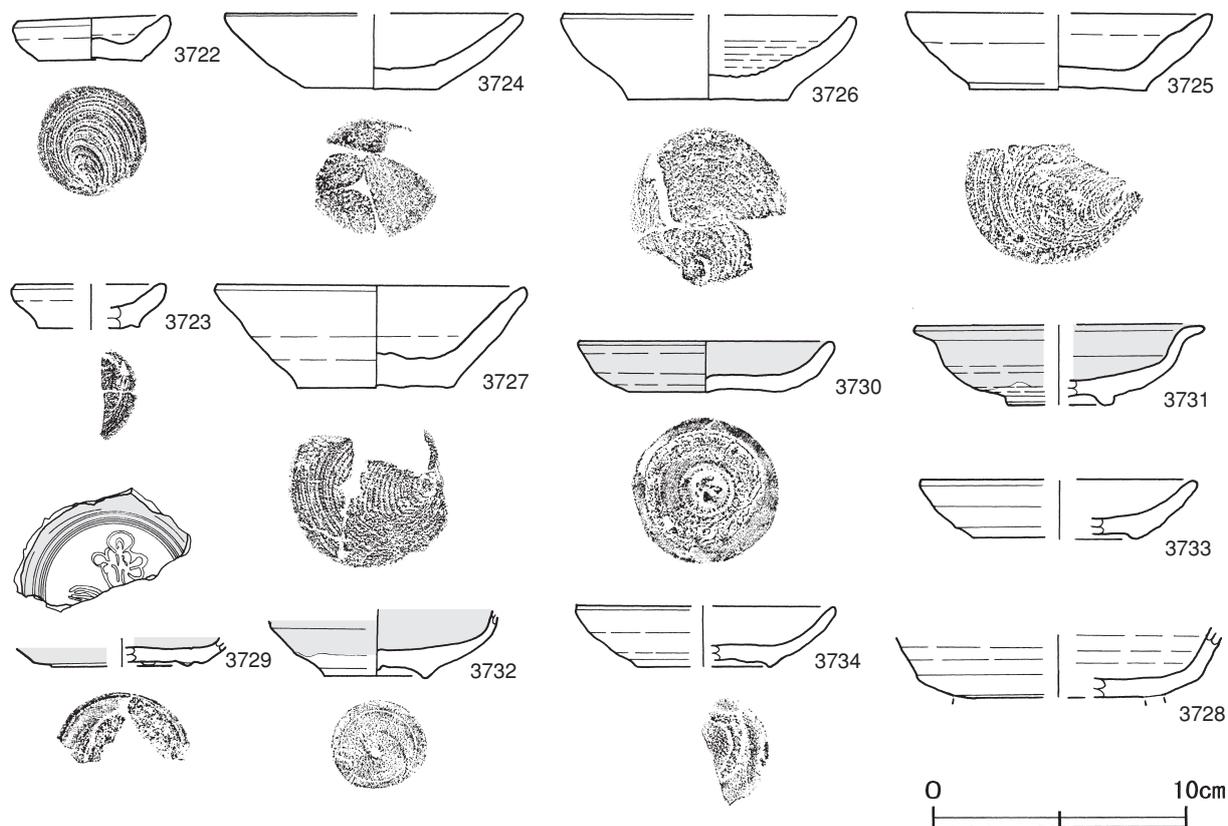
貝集積地 第69号貝集積地は中央部に位置している。長径3.2m、短径2.1mの楕円形を呈している。貝層は、薄く広がった状態で確認された。

第69号貝集積地出土貝種一覧表

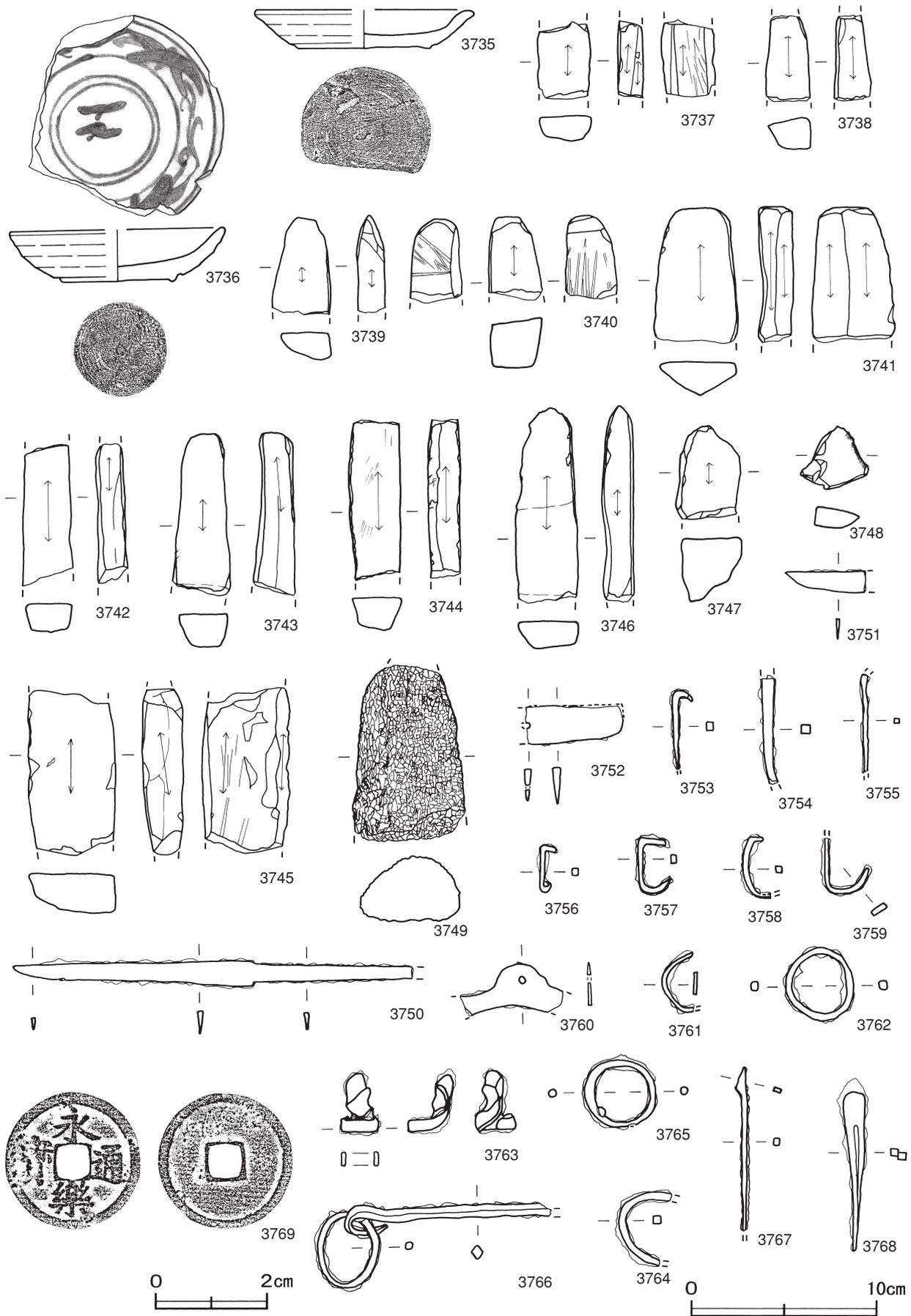
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	カキ	4.0	0.07	1		4	チョウセンハマグリ	10.0	0.17	1	
2	マツカサガイ	3.0	0.05	L=4 R=2	淡水	5	ウバカイ	2,610.0	45.65	L=60 R=62	
3	シジミ属	20.0	0.35	44	淡水または汽水	6	細片	3,070.0	53.7		数種混在

遺物出土状況 土師質土器片40点（小皿2，皿37，香炉1），陶器片23点（皿），須恵器片2点（坏，甕），石器14点（砥石11，火打石2，軽石1），金属製品35点（小刀3，火打金1，釘2，環状金具1，馬具4，古銭1，不明23）が出土している。遺物は、黒色土上面から黒色土中にかけて多く出土している。3724・3725・3739・3754は西部の黒色土上面，3726・3729・3732・3733・3748・3753・3759は東部の黒色土上面から黒色土中にかけて出土している。3731・3734・3735・3738・3742・3743・3745・3751・3758・3761～3769は中央部から北部にかけての黒色土上面から黒色土下層にかけてそれぞれ出土している。3723は西部と中央部，3727は西部から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 第69号貝集積地は黒色土面の中央部から広がった状態で確認されたもので、建物を廃絶したときに投棄された可能性が高い。柱穴や粘土貼土坑及び土坑は重複関係にあり、建物や付属施設の造り替えが推測される。土師質土器や陶器の皿などの生活雑器類のほか、砥石、小刀及び馬具などの出土遺物から、住居と作業場が一体の建物跡と考えられる。時期は、3729～3736から17世紀前半と考えられる。



第284図 第69号建物跡出土遺物実測図(1)



第285图 第69号建物跡出土遺物実測図(2)

第69号建物跡出土遺物観察表（第284・285図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3722	小皿	土師質土器	5.9	1.8	4.1	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	底部回転糸切り	北部砂層	95% PL71
3723	小皿	土師質土器	[5.7]	(1.8)	[4.0]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	西部・中央部黒色土上面	25%
3724	皿	土師質土器	[11.6]	3.0	5.0	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 摩滅激しい	西部黒色土上面	60%
3725	皿	土師質土器	[12.0]	3.0	[7.0]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面横ナデ	西部黒色土上面	55% PL71
3726	皿	土師質土器	[11.5]	3.4	6.2	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面渦巻状のナデ	東部黒色土上面	55% PL76
3727	皿	土師質土器	11.8	3.9	6.1	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面渦巻状のナデ	西部砂層	70% PL76
3728	高台付杯	須恵器	-	(2.5)	[8.6]	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 高台部剥離	炉2内	20%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3729	皿	陶器	-	(1.2)	[5.5]	オリブ黄・灰白	灰釉	見込み内花文 高台内輪ドチ痕	瀬戸・美濃 16C後葉~17C初	東部黒色土上面	30% 大窯4 PL70
3730	皿	陶器	9.9	2.1	5.9	暗褐・黒	鉄釉	見込み・高台内輪ドチ痕	瀬戸・美濃 16C後葉	P13内	95% 大窯3 PL65
3731	皿	陶器	[11.4]	3.2	[4.0]	にぶい赤褐・灰黄	灰釉	高台土見せ 兜巾	肥前 17C前葉	北部黒色土中	35% I-2 PL65
3732	皿	陶器	-	(2.7)	4.1	にぶい赤褐・灰黄	灰釉	高台土見せ 削り出し高台	肥前 17C前葉	東部黒色土上面	40% I-2 PL64
3733	丸皿	陶器	[11.0]	2.4	[6.0]	灰黄・灰白	長石釉	削り出し高台	瀬戸・美濃 17C前葉	東部黒色土上面	25% 大窯4
3734	丸皿	陶器	[10.1]	2.4	[5.2]	灰白・浅黄	灰釉	見込み内ビン痕 高台内輪ドチ痕	瀬戸・美濃 16C後葉~17C初	北部黒色土上面	40% 大窯4 PL64
3735	丸皿	陶器	[11.6]	2.1	7.2	灰白・灰白	長石釉	削り出し高台	瀬戸・美濃 17C前葉	中央部砂層	60% 大窯4
3736	鉄絵皿	陶器	[11.8]	2.8	5.8	浅黄・灰白	鉄絵・長石釉	圏線間に紅葉唐草文	瀬戸・美濃 17C前葉	P15内	70% 遺房1 PL65

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3737	砥石	(4.2)	3.0	1.4	(25.4)	凝灰岩	砥面4面 砥面に擦痕有り	覆土中	
3738	砥石	(4.6)	2.4	2.0	(29.2)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	中央部黒色土上面	
3739	砥石	(5.3)	3.3	1.4	(35.0)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	西部黒色土上面	
3740	砥石	(4.6)	2.8	2.9	(45.0)	凝灰岩	砥面4面 砥面に擦痕有り	覆土中	
3741	砥石	(7.4)	4.5	1.9	(81.3)	凝灰岩	砥面4面 断面三角形	覆土中	
3742	砥石	(7.6)	2.8	1.5	(50.2)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	北部黒色土上面	
3743	砥石	(8.9)	3.1	2.2	(74.0)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	中央部黒色土上面	
3744	砥石	(8.7)	2.8	1.8	(60.9)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	覆土中	
3745	砥石	(9.0)	4.8	2.2	(143.3)	凝灰岩	砥面4面 砥面に擦痕有り	中央部黒色土上面	PL85
3746	砥石	(10.7)	3.3	1.7	(85.7)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	覆土中	PL85
3747	砥石	(5.1)	3.6	4.0	(68.2)	砂岩	砥面1面 他は剥離面	SN10内	
3748	火打石	3.4	3.6	1.3	13.8	瑪瑙	一部の稜が摩滅	東部黒色土中	
3749	軽石	9.5	6.1	4.0	120.7	軽石	断面三角形 表面の摩滅は少ない	北部砂層	
3750	小刀	(21.5)	1.4	0.3	(21.6)	鉄	ほぼ完存 両関	南部砂層	PL91
3751	小刀	(4.4)	1.2	0.2	(4.0)	鉄	切先部遺存	北部黒色土上面	
3752	小刀	(5.3)	2.1	0.5	(24.1)	鉄	茎部 目釘穴有り	覆土中	
3753	釘	(4.4)	0.4	0.5	(3.8)	鉄	断面方形 頭部屈曲	東部黒色土上面	
3754	釘	(5.8)	0.5	0.5	(12.3)	鉄	断面方形 両端部欠損	西部黒色土上面	
3755	釘	(5.3)	0.3	0.3	(3.4)	鉄	断面方形 両端部欠損	SK25内	
3756	釘	2.6	0.3	0.4	3.4	鉄	断面方形 頭部・先端部屈曲	覆土中	
3757	耳金	3.0	0.3	0.5	6.4	鉄	完存 断面方形	覆土中	
3758	吊金具	3.3	0.4	0.4	(5.4)	鉄	断面方形 先端部欠損	北部黒色土上面	
3759	吊金具	(3.2)	0.3	0.8	(7.4)	鉄	断面長方形 湾曲	東部黒色土上面	
3760	火打金	(5.7)	2.9	0.2	(8.8)	鉄	山型 打撃部やや厚い 孔有り	炉1内	
3761	環状金具カ	径3.3	1.2	0.2	(7.5)	鉄	断面長方形 リング状カ	北部黒色土中	
3762	環状金具	径3.7	0.5	0.5	4.7	鉄	断面円形 リング状	北部黒色土上面	PL94
3763	環状金具	3.3	2.1	0.3	13.2	鉄	リング状の繋ぎ目有り 馬具の一部カ	中央部黒色土上面	
3764	環状金具	径4.0	0.4	0.4	(7.4)	鉄	断面方形 リング状	北部黒色土上面	
3765	環状金具	径3.8	0.4	0.4	8.8	鉄	断面円形 リング状	北部黒色土上面	PL94
3766	轡	(12.7)	0.5	0.5	(34.5)	鉄	断面方形 端部欠損 環状金具有り	中央部黒色土上面	PL94
3767	箆カ	(9.0)	0.3	0.4	(5.8)	鉄	断面方形 先端部三角形	中央部黒色土上面	
3768	不明	(8.7)	1.2	0.4	(16.8)	鉄	断面方形 中央で屈曲	北部黒色土上面	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3769	永樂通寶	2.48	0.61	0.09	2.96	1408	銅	真書	北部黒色土中	

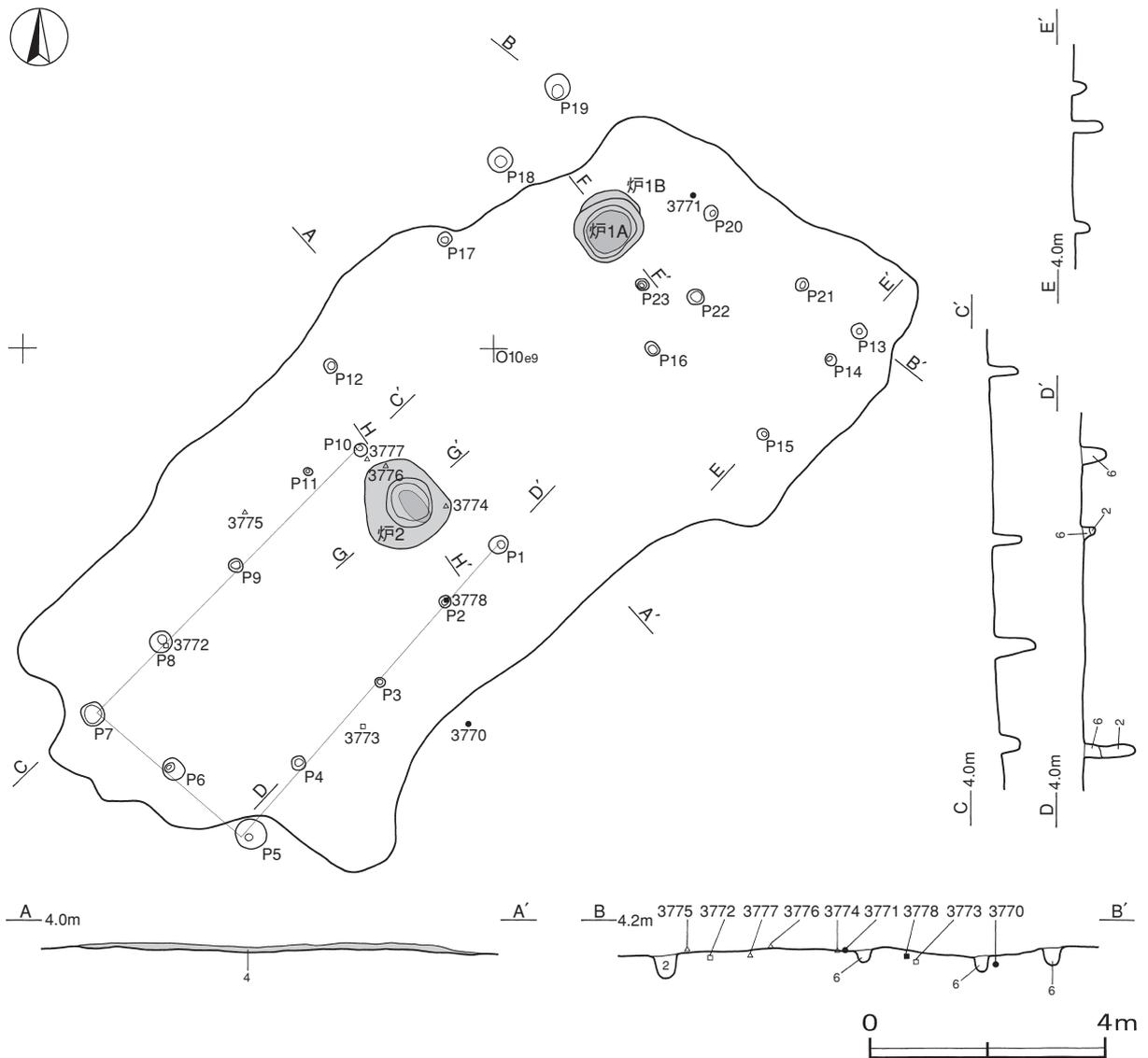
第70号建物跡 8区HK-10 (第286~288図)

位置 調査区南部のO10e9区を中心に位置している。

確認状況 第69号建物跡を約0.2m掘り下げた標高約3.6mで、黒色土面が確認された。黒色土面から炉と主に北東に並ぶ柱穴23か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸15.3m、短軸6.8mの不定形で、長軸方向はN-50°-Eである。ピットの配列から、炉2を囲むように桁行4間、梁行2間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-43°-E、規模は桁行6.5m、梁行3.4mで、面積は22.1㎡である。柱間寸法は桁行が1.4~1.9m、梁間が1.7mを基調としている。付属施設として、炉2基が構築されている。

床 ほほ平坦で、厚さ8~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。



第286図 第70号建物跡実測図

炉 (第287図) 炉1は北部、炉2は中央部の黒色土面に位置している。炉1はA・Bに分かれており、炉1Aは炉1Bの上面に黒色土を貼り付けて構築されている。炉1A・Bは厚さ2~8cm、炉2は厚さ3~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土には、第8層の焼砂が検出されている。

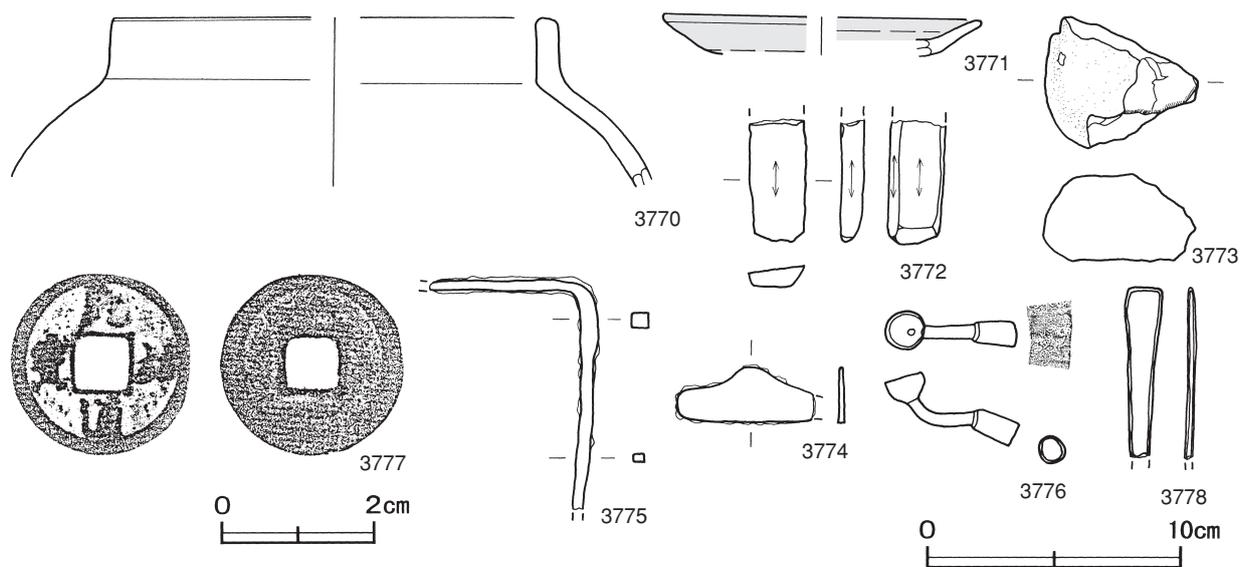


第287図 第70号建物跡炉土層図

ピット 23か所。P 1・P 2・P 6は深さ30~38cm, P 3~P 5・P 7~P 11は深さ53~90cmで北東棟を支えた主柱穴及び柱穴と考えられる。P 12は深さ40cmで, 性格は不明である。P 13~P 15・P 17・P 19~P 21は深さ27~48cm, P 16・P 18・P 22・P 23は深さ54・64cmで, 炉1の周囲に集中している。またP 13~P 15は北東軸, P 13とP 19~P 21は北西軸に並んでいるが, 対応するピットが確認できなかったため性格は不明である。

遺物出土状況 土師質土器片5点(皿4, 茶釜カ1), 陶器片1点(皿), 石器2点(砥石, 火打石), 金属製品7点(煙管1, 古銭1, 不明5), 骨角製品1点(筭)が出土している。遺物は, 炉2を中心に散在している。3771は北部の黒色土上面, 3774~3777は中央部の黒色土上面, 3773・3778は南東部の黒色土中からそれぞれ出土している。

所見 踏み固められた黒色土面を確認することはできなかったが, 炉2を北部にもつ建物跡と考えられる。時期は, 出土土器から17世紀前半の第69号建物跡と, ほとんど時期差は認められない。



第288図 第70号建物跡出土遺物実測図

第70号建物跡出土遺物観察表 (第288図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3770	茶釜カ	土師質土器	[17.6]	(6.7)	-	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外面ナデ	南東部砂層	5%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3771	皿	陶器	[12.4]	(1.5)	-	黄灰・オリブ黄	灰釉	全面施釉	瀬戸・美濃	北部黒色土上面	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3772	砥石	(4.9)	2.2	0.9	(15.2)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形		P 8内		
3773	火打石	5.3	5.1	3.4	117.3	瑪瑙	一部の稜が摩滅		南東部黒色土中		
3774	火打金	(5.4)	2.2	0.3	(12.2)	鉄	山型 打撃部はやや厚い		中央部黒色土上面	PL94	
3775	不明	(9.1)	(6.7)	0.3~0.6	(24.7)	鉄	断面方形 L字状に屈曲		中央部黒色土上面		
3776	煙管	5.3	火皿径1.6	小口径1.0	6.0	銅	雁首 火皿冠1カ所 肩部に花文印刻		中央部黒色土上面	PL94	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3778	筭	(6.7)	1.4	0.3	(2.5)	骨角	胴部遺存 断面扁平	南東部黒色土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
3777	元祐通寶	2.46	0.71	0.13	4.14	1086	銅	行書	中央部黒色土上面	

第71号建物跡 8区HK-11 (第289~292図)

位置 調査区南部のO10h7区を中心に位置している。

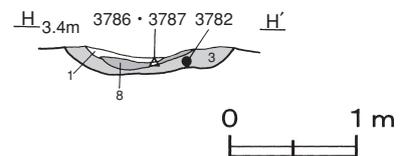
重複関係 上面に第15号不明遺構が構築されている。

確認状況 第61号建物跡の南側を約0.2m掘り下げた標高約3.2mで、黒色土面が確認された。黒色土面と周囲の砂層から土坑と北東に並ぶ柱穴13か所、黒色土を除去して炉、粘土貼土坑、土坑と柱穴3か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸5.8m、短軸1.9mの不定形で、長軸方向はN-56°-Wである。ピットの配列から、桁行3間、梁行1間の北東棟の建物跡であることが確認された。また、南部は調査区域外に延びているため、建物跡は桁行き方向に広がっている可能性がある。桁行方向はN-43°-E、規模は桁行7.2m、梁行3.9~4.5mで、面積は30.2㎡である。柱間寸法は桁行が2.2m、梁間が3.9~4.5mを基調としている。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑2基、土坑7基が構築されている。

床 ほぼ平坦で、厚さ約4cmの黒色土を貼り付けて構築されている。床面とした黒色土の範囲は、流失や削平により確認できた範囲は小さい。

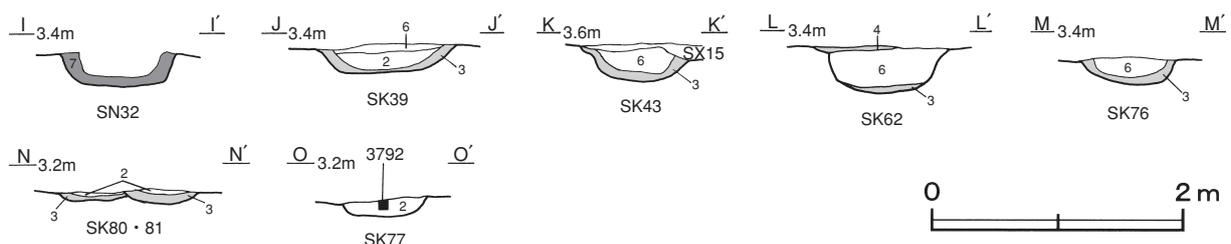
炉 (第289図) 黒色土の南部に位置している。厚さ5~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第8層の焼砂が検出されている。



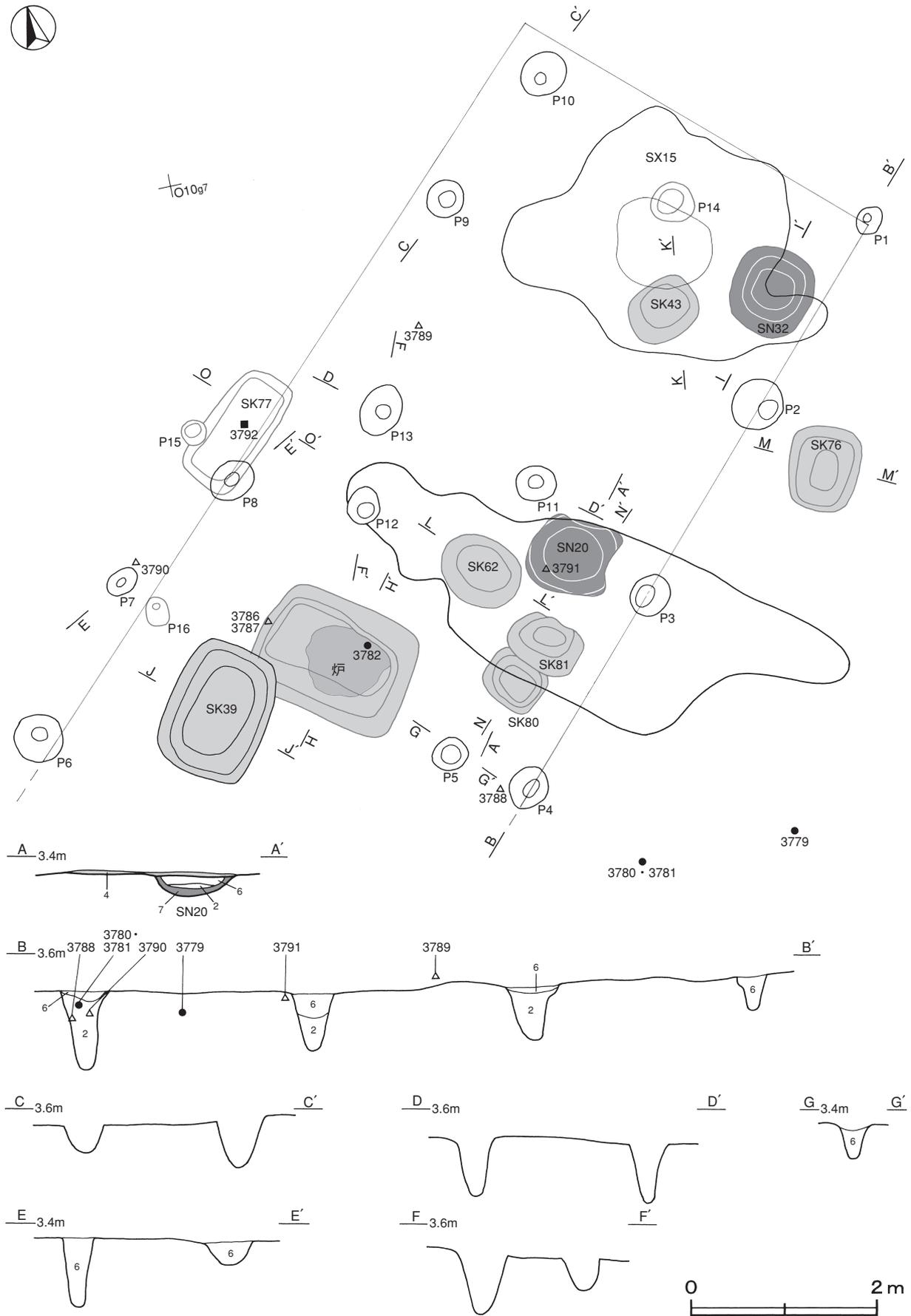
第289図 第71号建物跡炉土層図

ピット 16か所。P1~P4は深さ36~85cmで、柱間を約2.2mとする北東軸の柱穴である。P6~P10は深さ28~90cmで、P1~P4の西側に対応し、ほぼ北東軸に並ぶ柱穴であるが、柱間は不規則である。P5・P11~P13は深さ39~64cmで、上屋を支える補助的な柱穴と考えられる。P14~P16は深さ21~41cmで、性格は不明である。

土坑 (第290図) 第20号粘土貼土坑、黒色土で構築された第39・62・80・81号土坑は南部、第77号土坑は南西部、第32号粘土貼土坑、黒色土で構築された第43・76号土坑は北東部に位置している。黒色土面と第39号土坑が最終生活面の土坑である。炉と第43・62・76・77・80・81号土坑、第20・32号粘土貼土坑は、黒色土面の下層及び同じ層位から検出されている。粘土貼土坑は厚さ6~10cmほどの粘土、第39・43・62・76・80・81号土坑は厚さ4~8cmほどの黒色土を貼り付けて構築されている。粘土貼土坑及び土坑の覆土は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



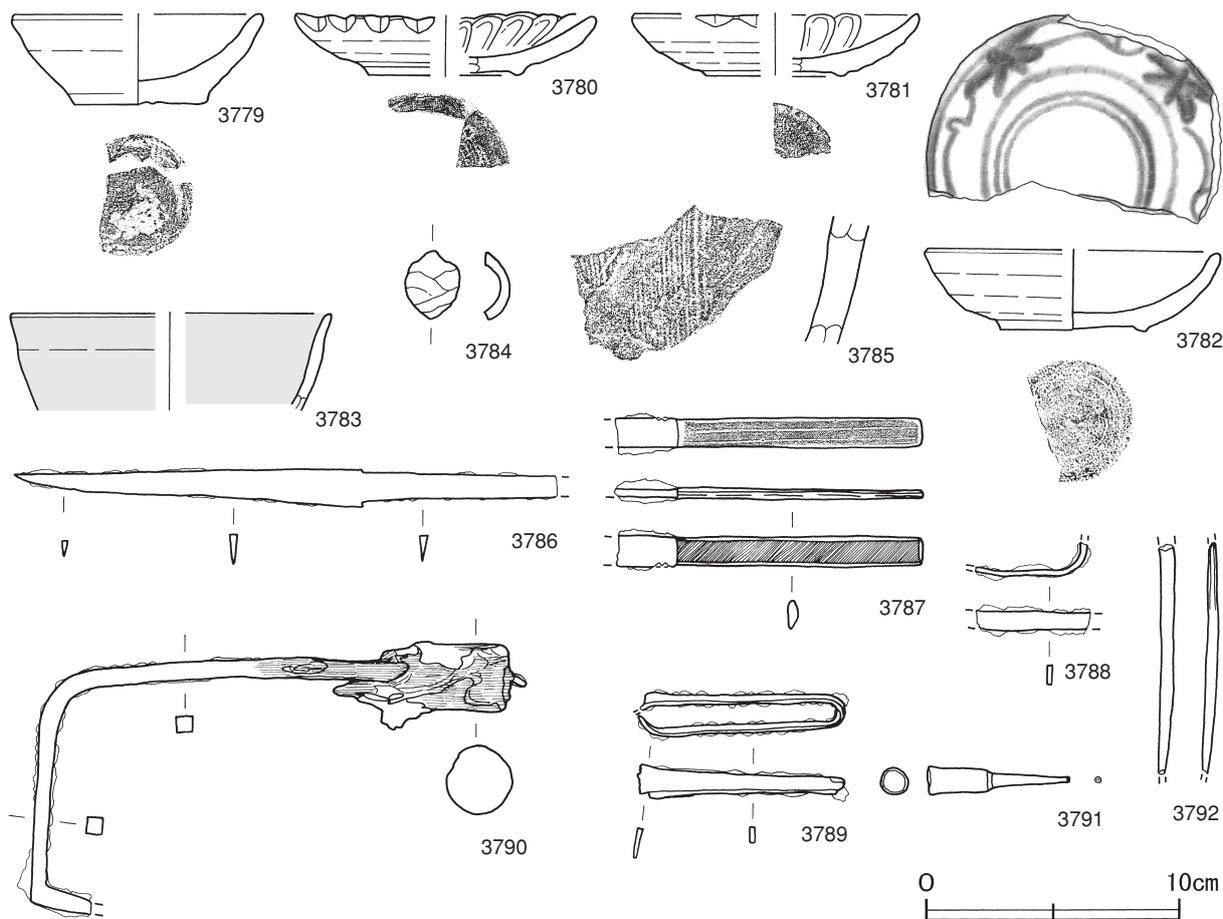
第290図 第71号建物跡土坑土層図



第291图 第71号建物跡実測图

遺物出土状況 土師質土器片10点（皿9，鍋1），陶器片9点（皿8，碗1），土製品2点（土鈴，円筒埴輪），金属製品7点（小刀2，鍵1，毛抜2，煙管1，不明1），骨角製品1点（筭）が出土している。遺物は、南部を中心に出土している。3779～3781・3788は南部の砂層，3789は中央部の砂層，3790はP 7付近の砂層から出土している。

所見 黒色土面の下層から粘土貼土坑や土坑が検出されていることから，黒色土を貼り替えるなど造り替えが行われている建物跡と考えられる。生活の場は，炉や遺物が出土している南部と推測される。時期は，3780～3782から17世紀前半と考えられる。



第292図 第71号建物跡出土遺物実測図

第71号建物跡出土遺物観察表（第292図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3779	皿	土師質土器	[9.8]	3.6	5.0	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南部砂層	40%
3780	菊皿	陶器	[11.8]	2.4	[6.0]	にぶい黄橙・灰白	長石釉		内面打ち出し菊花文	瀬戸・美濃 17C前葉	南部砂層 30% 大窯4 PL65
3781	菊皿	陶器	[11.2]	2.4	[5.4]	灰白・灰白	長石釉		内面打ち出し菊花文	瀬戸・美濃 17C前葉	南部砂層 15% 大窯4
3782	鉄絵皿	陶器	[11.8]	3.2	5.8	浅黄・灰白	鉄絵・長石釉		圏線間に紅葉唐草文	瀬戸・美濃 17C前半	炉内 60% 遺房1 PL65
3783	天目茶碗カ	陶器	[12.6]	(3.8)	-	灰白・オリブ黄	灰釉		口縁部横ナデ	瀬戸・美濃 16C後葉	覆土中 5% 大窯3

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3784	土鈴	2.7	(2.1)	0.4	(3.0)	長石・石英	1/4遺存 外面ナデ	覆土中	
3785	円筒埴輪	(5.0)	-	1.4	(70.5)	長石・石英	外面縦位 内面横位のハケ目	SK 62内	PL83
3786	小刀	(21.4)	1.5	0.3	(25.0)	鉄	ほぼ完存 両関 刃部の中央部摩滅	炉内	PL91
3787	小柄	(12.2)	1.2	0.4	(23.4)	黄銅	地板に毛彫り 矢羽状	炉内	PL70
3788	毛抜	(4.4)	0.8	0.2	(3.6)	鉄	腰部のみ遺存	南部砂層	
3789	毛抜	8.2	0.6~1.2	0.2	(11.0)	鉄	刃部一部欠損 銀杏形	中央部砂層	PL92
3790	鍵	19.7	10.0	0.6	100.2	鉄	断面方形 木質部遺存	P7付近砂層	PL93
3791	煙管	5.6	小口径1.0	口付径(0.2)	(2.9)	銅	吸い口 肩部段有り	SN20内	
3792	筭	(9.1)	(0.7)	0.6	(2.4)	骨角	両端部欠損 筭部楕円形	SK 77内	

第72号建物跡 8区SB-9の南部(第293~296図)

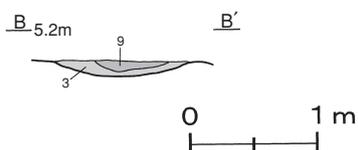
位置 調査区中央部のN11e3区を中心に位置している。

重複関係 上面に第65号建物が構築されている。

確認状況 第65号建物跡を約0.1m掘り下げた標高約5.0mで、黒色土面が確認された。黒色土面から炉、粘土貼土坑、貝集積地と北東に並ぶ柱穴13か所が確認された。

規模と施設 ピットの配列から、桁行4間、梁行2間の北東棟の建物跡であることが確認された。桁行方向はN-38°-E、規模は、桁行7.9m、梁行5.2mで、面積は41.1㎡である。柱間寸法は桁行が1.3・2.1mを基調とし、梁間是不規則である。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑3基が構築されており、貝集積地1か所が確認されている。

床 確認できた黒色土の範囲は、長径3.7m、短径2.1mの楕円形で、灰混じりの硬化した黒色土がわずかに遺存している。

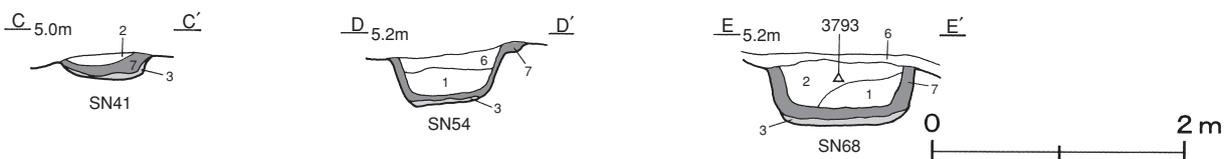


炉 (第293図) 北東部に位置し、第54号粘土貼土坑と隣接している。厚さ3~7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第9層の灰が検出されている。

第293図 第72号建物跡炉土層図

ピット 13か所。P1~P11は深さ38~75cmで、北東棟を支えた柱穴と考えられる。P12・P13は深さ62・24cmで、性格は不明である。

土坑 (第294図) 第41号粘土貼土坑は西部、第54・68号粘土貼土坑は北東部に位置している。第41号粘土貼土坑は厚さ2~13cm、第54・68号粘土貼土坑は厚さ2~6cmほどの粘土を貼り付けて構築されている。第41・68号粘土貼土坑は、第1・2層の砂A・B層が自然堆積した層である。第54号粘土貼土坑は、第1層の砂A層が自然堆積した後に第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

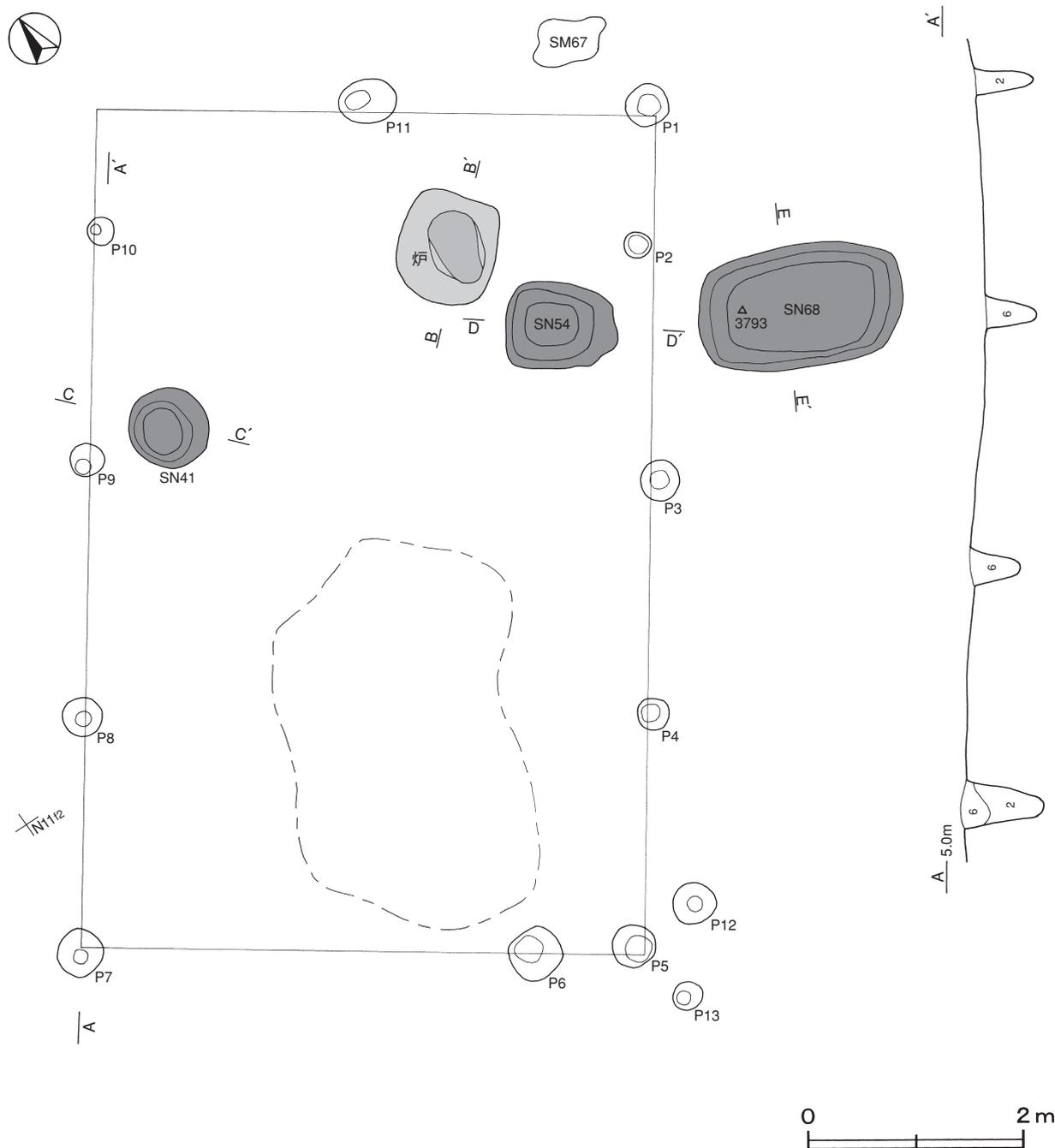


第294図 第72号建物跡粘土貼土坑土層図

貝集積地 第67号貝集積地は北東部に位置している。長軸0.8m、短軸0.4mの不定形を呈している。貝層は、薄く広がった状態で確認された。

第67号貝集積地出土貝種一覧表

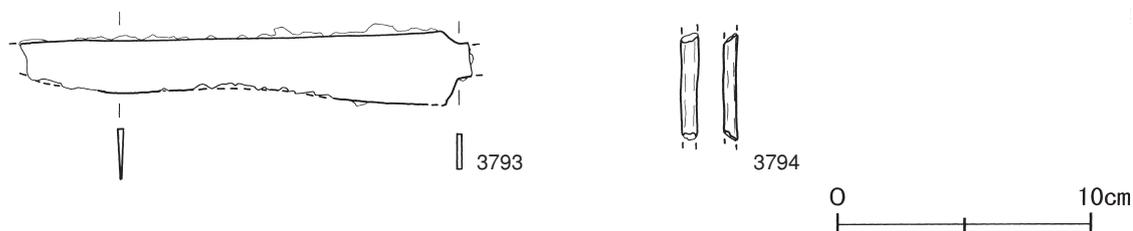
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	マツカサガイ	290.0	76.52	L=57 R=58	淡水	3	ウバガイ	14.0	3.69	L=1 R=1	接合せず
2	シジミ属	5.0	1.32	2	淡水または汽水	4	マツカサガイ細片	30.0	7.92		
						5	ウバガイ細片	40.0	10.55		



第295図 第72号建物跡実測図

遺物出土状況 金属製品1点（小刀）、骨角製品1点（筭）が、第68号粘土貼土坑内から出土している。

所見 ピットの配列から、桁行4間、梁行2間の北東棟の建物跡である。炉と併設されている第54号粘土貼土坑付近は調理場として、屋外に位置する第68号粘土貼土坑は鹹水槽と同様の構造であることから水溜として機能していたと推測される。時期は、上面の第65号建物跡とあまり時期差のない17世紀前半と考えられる。



第296図 第72号建物跡出土遺物実測図

第72号建物跡出土遺物観察表（第296図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3793	小刀	(17.9)	2.9	0.2	(46.1)	鉄	刃部遺存 中央部摩滅	SN68内	
3794	筭	(4.2)	0.7	0.5	(1.7)	骨角	筭部の一部 断面楕円形	SN68内	

第73号建物跡 8区HK-29（第297図）

位置 調査区南部のO11b9区を中心に位置している。

確認状況 第62号建物跡の西側の標高3.7～3.8mで、黒色土面が確認された。黒色土面から土坑、周囲の砂層から柱穴12か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長径8.3m、短径4.3mの不整楕円形で、長径方向N-74°-Wである。ピットの配列から、桁行2間、梁行1間の北西軸の小屋が確認された。桁行方向はN-45°-W、規模は桁行3.5m、梁行2.1mで、面積は7.4㎡である。柱間寸法は桁行が1.5・2.0m、梁行が2.1mを基調としている。付属施設として、土坑1基が構築されている。

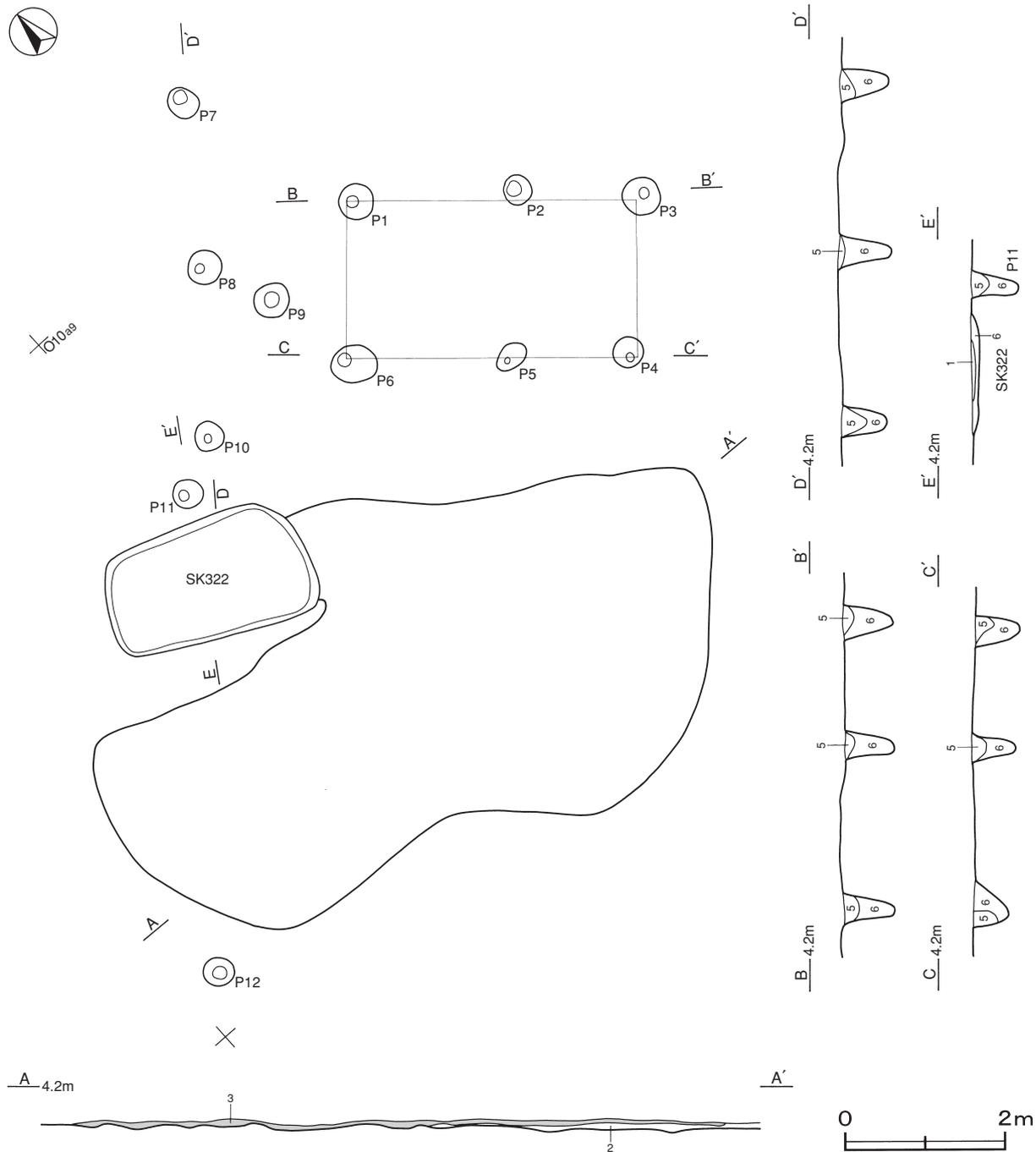
床 やや凹凸であり、厚さ2～7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりはやや弱い。

ピット 12か所。P1～P6は深さ50～70cmで、小屋を支えた柱穴と考えられる。P7～P8は深さ60～88cmで北東軸に並んでいるが、対応する柱穴は確認できなかった。P10～P12は深さ56～70cmで、性格は不明である。

土坑（第297図）第322号土坑は、黒色土面の北部に位置している。覆土は、第1層の砂A層が自然堆積し、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 土師質土器片1点（皿）、陶器片1点（菊皿）が、第322号土坑の埋め戻された層から出土している。どちらの皿も、細片のため図示できなかった。

所見 黒色土面の締まりはやや弱く、出土遺物も少ないことから、建物跡と判断した。2間×1間の建物跡は小規模であり、黒色土も貼られていないことから簡易的な小屋と想定される。時期は、出土している陶器片や隣接する第62号建物跡から17世紀前半の可能性が高い。



第297図 第73号建物跡実測図

表28 8区建物跡一覧表

番号	旧遺構番号	位置	長軸・長径 方向	黒色土			建物跡							付属施設	ピット	備考 新旧関係 旧→新		
				標高 (m)	範囲(最大値) 長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	形状	厚さ (cm)	桁行方向	柱間数	規模 桁行×梁行 (m)	面積 (㎡)	棟向				桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)
54	8区SI1	O11i9	-	3.1	南北 (8.2)	東西 (7.6)	-	5~10	-	-	-	-	-	-	炬 SN2・39, SK2~4・13~15・19・46・107, SM66	10	P1~P10柱穴	
55	8区SI2	N11j3	N-47°-W	4.1	11.0	8.2	不定形	3~8	-	-	-	-	-	-	炬1・2, SN23・24・26・44, SK50・51・68・85・86	17	P1~P17柱穴	
56	8区SB2	O11b5	N-55°-W	3.8	10.3	8.6	隅丸長方形	6~12	N-35°-E	3×2	6.5×3.4	22.1	北東棟	1.9・2.5	1.6~1.9	SN3・22, SK6・7	34	3×2調P1~P10柱穴・P21~P34柱穴, 2×調P11~P17柱穴・P18~P20柱穴
57	8区SB4	O11h6	N-62°-W	3.2	9.0	7.2	長方形	8~16	N-35°-E	2×2	4.6×2.7	12.4	北東棟	1.4	1.7・2.8	炬, SN7・8, SK12	14	P1~P11柱穴

番号	旧遺構番号	位置	長軸・長径方向	黒色土			形状	厚さ(cm)	建 物 跡						付属施設	ピット	備考 新旧関係 旧→新	
				標高(m)	範囲(最大値) 長軸(径) (m)	短軸(径) (m)			桁行方向	柱間数	規模 桁行×梁行 (m)	面積 (㎡)	棟向	桁行 柱間 (m)				梁行 柱間 (m)
58	8区SB5	O11i5	N-30°-E	3.0	8.5	6.2	長方形	4~18	-	-	-	-	-	-	炬, SN17・18, SK11, SM65	8	P1~P8柱穴	
59	8区SI3・SB10	N11i1	[N-37°-E]	4.0	(4.5)	(1.9)	[長方形]	10	N-37°-E	4×1	7.8×4.2	32.8	北東棟	2.1	4.2	炬, SN31・67, SK75・190・191・200・215・231	27	P1~P8主柱穴, P9~P18柱穴
60	8区SB1	O11e3	N-50°-W	3.5	11.4	9.3	不整形長方形	6~20	N-40°-E N-45°-E	4×2 3×1	6.9×3.8 4.4×2.9	26.2 12.8	北東棟 北東棟	1.7~1.8 1.3~1.6	1.3・2.5 2.8	炬, SN5・6・61, SM60・61	20	4×2間P1~P12主柱穴, 3×1間P13~P20主柱穴
61	8区SB3	O10g0	N-34°-E	3.4	11.5	9.2	不定形	6~10	N-34°-E	4×2	8.0×3.8	30.4	北東棟	1.9~2.2	1.9	炬, SN9, SM62	12	P1~P12主柱穴
62	8区SI4・HK15	O10b0	N-48°-W	3.8	8.9	8.2	不定形	2~6	-	-	-	-	-	-	-	炬, SN19・27, SK36	22	P1~P22柱穴
		2次面	N-58°-W	3.7	7.4	4.8	不定形	2~4	-	-	-	-	-	-	-	黒色土面のみ	-	-
63	8区HK5	O11c1	N-53°-W	4.2	11.2	6.5	不定形	6~10	-	-	-	-	-	-	-	炬1・2, SK17	2	-
		2次面	N-45°-W	3.9	12.7	6.6	不定形	4~12	N-50°-E	2×1	5.0×3.2	16.0	北東棟	2.0~2.5	3.2	炬3・4	6	P3~P8主柱穴
64	8区SB8	N11g7	N-45°-E	5.1	10.3	9.1	[楕円形]	8~12	N-45°-E	3×1	6.1×3.4	20.7	北東棟	1.9・2.1	3.4	炬, SN25・37・55・57・65・66, SK239・240・246	11	本跡→HK61, P1~P7主柱穴, P8柱穴
65	8区SB9	N11e4	N-45°-W	5.4	15.5	14.5	不定形	10~22	N-47°-W	3×3	7.6~8.1 ×7.3	57.3	北西棟	不規則	不規則	炬1~5, SN35・36・43, SK237・275・278・283・294・297, SM53	66	SI66→本跡, 3×3間P1~P16主柱穴・柱穴, 2×2間P17~P24主柱穴・柱穴, P25~P28・P37~P60柱穴, P29~P34備列状
								N-47°-W	2×2	4.7×3.8	17.9	北西棟	不規則	1.9	-	9	本跡→SI65, P1~P8主柱穴, P9柱穴	
66	8区SB11	N11g5	N-45°-E	5.1	9.3	4.8	長方形	8~14	N-45°-E	3×1	7.9×3.5	27.7	北東棟	2.5・2.7	3.5	-	9	-
67	8区SB7	N10j9	N-20°-E	4.1	7.1	4.1	不定形	2~5	N-38°-E	4×3	8.4×5.6	47.0	北東棟	1.9~2.1	1.8~2.1	炬1・2, SN34・50, SK87・96	23	P1~P5・P7・P9~P16主柱穴, P6・P8・P17~P22柱穴
68	8区HK3	O10e8	N-8°-W	4.3	10.6	7.9	不定形	3~7	N-40°-E	[3×1]	8.1×4.2	[34.0]	[北東棟]	2.5~3.5	4.2	炬, SN1, SM57	7	P1~P7主柱穴
		2次面	N-29°-W	4.2	9.2	7.1	不定形	3~5	-	-	-	-	-	-	-	SM59	-	-
69	8区HK8	O10e6	N-38°-E	3.8	11.4	8.5	不定形	8	N-40°-E	5×2	10.5×3.9	41.0	北東棟	2.1	1.9	炬~3, SN10・12~14, SK20・25・27~29・41, SM69	30	P1~P26主柱穴・柱穴
70	8区HK10	O10e9	N-50°-E	3.6	15.3	6.8	不定形	8~10	N-43°-E	4×2	6.5×3.4	22.1	北東棟	1.4~1.9	1.7	炬1A・B・2	23	P1~P11主柱穴・柱穴
71	8区HK11	O10h7	N-56°-W	3.2	5.8	1.9	不定形	4	N-43°-E	3×1	7.2× 3.9~4.5	30.2	北東棟	2.2	3.9~4.5	炬, SN20・32, SK39・43・62・76・77・80・81	16	本跡→SX15, P1~P13柱穴
72	8区SB9精部	N11e3	-	5.0	3.7	2.1	楕円形	-	N-38°-E	4×2	7.9×5.2	41.1	北東棟	1.3・2.1	不規則	炬, SN41・54・68, SM67	13	P1~P11柱穴
73	8区HK29	O11b9	N-74°-W	3.7~3.8	8.3	4.3	不整形楕円形	2~7	N-45°-W	2×1	3.5×2.1	7.4	北西棟	1.5・2.0	2.1	SK322	12	P1~P6柱穴

表29 8区建物跡炉一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形 状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI54	炬	O11i0	3.2	N-44°-E	1.1	0.9	5	楕円形	2~5	-	緩斜	凸凹		(8区SK63)
SI55	炬1	N11j4	3.9	N-90°	0.9	0.7	9	楕円形	5~8	-	緩斜	皿状		炬2と重複 (8区SK66)
	炬2	N11j4	3.9	N-50°-W	1.2	1.0	20	長方形	4~6	-	緩斜	平坦		炬1と重複 (8区SK67)
SI57	炬	O11g6	3.0	-	1.2	1.2	4	円形	4~10	-	緩斜	平坦		(8区SN15)
SI58	炬	O11j4	3.0	-	1.2	1.2	10	方形	16	-	緩斜	平坦		(8区SK10)
SI59	炬	N11h1	4.3	N-72°-E	1.0	0.8	5	楕円形	-	-	緩斜	平坦		(8区SK235)
SI60	炬	O11d3	3.4	N-41°-W	1.4	1.2	17	長方形	4	-	緩斜	平坦		
SI61	炬	O10f0	3.3	N-56°-W	1.5	1.2	20	隅丸長方形	5~15	-	緩斜	皿状		(8区SK30)
SI62	炬	O10a0	4.0	-	1.0	1.0	20	隅丸方形	2~7	-	緩斜	皿状		(8区SK61)
SI63	炬1	O11c2	3.8	N-89°-E	1.9	1.2	10	隅丸長方形	4	-	緩斜	皿状		(8区SK8)
	炬2	O11d1	4.1	-	0.8	0.8	20	隅丸方形	4~10	-	緩斜	皿状		(8区SK9)
	炬3	O11a1	4.2	N-38°-W	1.3	1.1	12	楕円形	4~10	-	緩斜	皿状		(8区SK21)
	炬4	O11a1	4.2	-	0.7	0.7	20	隅丸方形	-	-	緩斜	皿状		(8区SK22)
SI64	炬	N11f7	5.0	N-54°-W	1.0	0.6	-	楕円形	12	-	緩斜	皿状		(8区SK241)
SI65	炬1	N11e5	5.4	-	1.3	1.2	9	円形	2~10	2~5	緩斜	皿状	釘カ	(8区SK98)
	炬2	N11d5	5.2	N-49°-W	1.5	0.9	16	不定形	4~18	-	緩斜	皿状		(8区SK110)
	炬3	N11c4	5.1	-	1.2	1.2	18	隅丸方形	2~7	-	緩斜	平坦		(8区SK109)
	炬4	N11c3	5.1	N-28°-W	1.1	0.9	14	不定形	2~9	-	緩斜	平坦		(8区SK108)
	炬5	N11d5	5.1	-	1.2	[1.1]	44	[隅丸方形]	4~21	-	外傾	凸凹		(8区SK282)
SI67	炬1	N10j0	4.1	N-49°-W	[1.3]	1.1	15	[不定形]	2~13	-	緩斜	皿状		(8区SK79)
	炬2	N10j9	4.1	-	(1.3)	(1.3)	20	[方形]	3~7	-	緩斜	平坦		(8区SK124)
SI68	炬	O10c8	4.2	-	1.6	1.5	19	隅丸方形	4~15	-	緩斜	皿状		(8区SK1)

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形 状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI69	炉1	O10d6	3.9	N-20°-E	1.2	0.9	10	楕円形	-	-	緩斜	皿状	火打金	(8区 SK26)
	炉2	O10c6	4.0	N-63°-E	[1.5]	1.1	5	[楕円形]	3~7	-	緩斜	平坦	須恵器 (高台付坏)	本跡→SK28 (8区 SK33)
	炉3	O10e7	2.8	N-50°-W	1.2	(0.8)	14	[隅丸長方形]	14	-	緩斜	皿状		S N13→本跡→S N12, (8区 SK44)
SI70	炉1A	O10d9	3.6	-	1.1	1.0	8	円形	2~8	-	緩斜	皿状		炉1B→本跡 (8区 SK37A)
	炉1B	O10d9	3.6	[N-21°-E]	[1.2]	[1.1]	4	[不定形]	2~8	-	緩斜	皿状		本跡→炉1A (8区 SK37B)
	炉2	O10e8	3.7	N-31°-W	1.6	1.4	2~7	不整楕円形	3~10	-	緩斜	皿状		(8区 SK40)
SI71	炉	O10h7	3.2	N-50°-W	1.7	1.2	20	長方形	5~10	-	緩斜	皿状	陶器 (鉄絵皿), 小刀, 小柄	本跡→SK39 (8区 SK38)
SI72	炉	N11e3	5.1	N-47°-E	1.0	0.9	6	隅丸長方形	3~7	-	緩斜	皿状		(8区 SK114)

表30 8区建物跡粘土貼土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形 状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI54	SN 2	O11h0	3.2	-	0.8	(0.7)	17	[円形]	-	3~6	外傾・緩斜	平坦		
	SN39	O11h9	3.0	N-3°-E	0.6	0.5	4	楕円形	-	3~7	緩斜	平坦		
SI55	SN23	N11j4	3.9	N-40°-E	0.7	0.5	17	楕円形	-	4~9	外傾	平坦		
	SN24	N11j3	4.1	N-54°-W	0.8	0.7	26	楕円形	2	2~8	外傾・直立	平坦	石鍋	
	SN26	O11a4	3.8	N-37°-E	1.5	1.0	45	長方形	5	2~12	外傾	平坦		
	SN44	O11a4	3.8	N-55°-W	1.7	(0.7)	36	[楕円形]	5	3~8	外傾・緩斜	平坦		
SI56	SN 3	O11b6	3.9	N-25°-E	(1.1)	0.9	50	[長方形]	5~7	3~8	外傾	平坦		本跡→SK6
	SN22	O11a5	3.8	-	0.8	0.8	10	円形	6	10	緩斜	平坦		
SI57	SN 7	O11g6	3.0	N-46°-W	1.3	0.9	20	不整長方形	4	4~8	外傾	平坦	土師質土器 (皿), 環状金具	
	SN 8	O11g6	3.0	[N-30°-W]	[0.8]	0.7	-	[隅丸長方形]	3	8	緩斜	平坦		
SI58	SN17	O11i5	2.6	N-47°-W	2.0	1.0	20	長方形	4	5	外傾	平坦	陶器 (折縁皿)	
	SN18	O11i4	2.9	-	0.7	0.7	10	方形	3~10	-	緩斜	平坦		
SI59	SN31	N11i2	4.2	N-24°-E	1.0	0.9	25	長方形	5~9	7~17	外傾	平坦		
	SN67	N11h1	4.2	-	0.8	0.8	36	隅丸方形	5	5	緩斜	皿状		
SI60	SN 5	O11d3	3.4	N-46°-E	0.8	0.7	33	長方形	-	7~12	直立	平坦	須恵器 (蓋)	
	SN 6	O11f4	3.2	N-38°-E	1.4	1.0	34	長方形	-	6~13	外傾	平坦		
SI61	SN 9	O10f0	3.3	-	0.8	0.8	35	円形	-	7~23	外傾・緩斜	平坦		
SI62	SN19	O11a1	4.1	N-30°-E	0.9	0.8	38	楕円形	3~5	3~12	外傾	皿状		
	SN27	O11a1	3.8	-	0.5	0.5	7	円形	4~8	6	緩斜	凸凹		
SI64	SN25	N11g7	5.1	N-55°-W	0.8	0.7	38	長方形	2	4	外傾	平坦		
	SN37	N11f8	5.2	N-24°-E	1.5	1.3	14	楕円形	6~30	2	外傾	平坦	土師質土器 (皿)	
	SN55	N11f7	5.2	-	0.8	0.8	16	円形	10	30	緩斜	平坦		SN57→本跡
	SN57	N11f7	5.1	N-45°-E	0.8	(0.6)	10	楕円形	6	14	緩斜	平坦	土師質土器 (皿)	本跡→SN55
	SN65	N11f7	5.0	N-50°-E	0.7	(0.5)	14	[隅丸長方形]	6~12	4	緩斜	皿状		本跡→SN66
	SN66	N11f7	5.0	-	(0.6)	(0.2)	6	[円形]	-	8	緩斜	皿状		SN65→本跡
SI65	SN35	N11e5	5.4	N-32°-E	0.8	0.8	21	円形	3~7	10~18	外傾	平坦		SN36→本跡
	SN36	N11e5	5.4	N-9°-E	1.0	[0.7]	25	[楕円形]	2~20	11~17	直立	平坦	火打金	本跡→SN35
	SN43	N11d3	5.1	-	0.7	0.7	12	円形	2~9	2~12	緩斜	皿状		
SI67	SN34	N10i0	3.8	N-42°-E	1.1	0.7	18	隅丸長方形	2	2~13	外傾・緩斜	皿状		
	SN50	N10j0	4.0	-	0.7	(0.6)	18	[円形]	2	3~12	緩斜	平坦		
SI68	SN1	O10c8	4.1	-	0.8	0.8	27	円形	3	4~10	外傾	皿状		
SI69	SN10	O10d7	3.8	N-75°-E	0.9	0.8	12	楕円形	-	6	緩斜	皿状	砥石	本跡→P1・P15
	SN12	O10d7	3.8	N-48°-W	1.0	0.7	14	隅丸長方形	10	-	緩斜	皿状		
	SN13	O10d7	3.8	[N-48°-W]	1.2	[0.5]	-	[楕円形]	(10)	-	不明	不明		本跡→炉3・SN12
	SN14	O10e7	3.6	N-53°-W	0.7	0.6	12	隅丸長方形	5	7	外傾	平坦		本跡→SN41・P30
SI71	SN20	O10h7	3.2	N-57°-W	(0.9)	(0.8)	9	[不整長方形]	-	7	緩斜	平坦	煙管	
	SN32	O10g8	3.2	-	0.8	0.8	26	隅丸方形	-	6~10	緩斜	平坦		本跡→SX15
SI72	SN41	N11e3	4.8	-	0.8	0.8	10	円形	1~5	2~13	緩斜	皿状		
	SN54	N11e3	5.1	N-47°-W	1.1	0.8	43	隅丸長方形	2~3	2~5	外傾	平坦		
	SN68	N11f4	5.1	N-60°-W	1.9	1.2	19	隅丸長方形	2~3	2~6	外傾	平坦	小刀, 筭	SK294→本跡

表31 8区建物跡土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形 状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
SI54	SK 2	O11i0	3.3	N-36°-W	1.1	0.7	22	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 3	O11i9	3.2	N-52°-W	1.0	0.8	13	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 4	O11i0	3.3	-	1.0	1.0	11	隅丸方形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 13	O11g8	3.1	N-34°-W	0.8	0.6	73	楕円形	-	-	外傾	皿状		
	SK 14	O11h8	3.1	N-72°-W	0.9	0.7	9	楕円形	-	-	緩斜	凸凹		
	SK 15	O11i8	2.9	N-4°-E	0.9	0.7	8	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 19	O11j8	2.9	N-8°-E	0.8	0.5	15	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 46	O11i8	3.0	-	[0.8]	0.7	14	[方形]	3~12	-	緩斜	皿状		
SK 107	O11i9	3.0	N-4°-W	1.7	1.4	11	楕円形	-	-	緩斜	平坦			
SI55	SK 50	O11a3	3.4	-	1.0	1.0	36	隅丸方形	15	-	外傾・緩斜	平坦	陶器(皿), アカニシ	
	SK 51	N11j3	3.5	N-22°-E	1.2	1.0	36	楕円形	8	-	緩斜	平坦		SK85・86→本跡
	SK 68	N11j3	4.1	-	1.1	1.0	18	不整円形	3~7	-	緩斜	平坦		
	SK 85	N11j3	3.3	N-21°-E	0.9	0.8	(24)	楕円形	8	-	外傾	平坦		SK86→本跡→SK51
	SK 86	N11j3	3.5	N-27°-E	0.8	(0.3)	38	[楕円形]	6~11	-	外傾	平坦		本跡→SK51・85
SI56	SK 6	O11b6	3.8	N-55°-W	1.0	0.9	30	楕円形	-	-	外傾・緩斜	平坦	釘	SN3→本跡
	SK 7	O11a5	3.9	N-20°-E	1.5	1.2	17	不整楕円形	-	-	緩斜	皿状		
SI57	SK 12	O11h6	3.0	N-50°-W	0.8	0.7	30	楕円形	-	-	緩斜	皿状	陶器(皿)	
SI58	SK 11	O11j5	2.8	-	1.4	1.3	10	隅丸方形	-	-	緩斜	平坦		
SI59	SK 75	N11i2	4.2	N-30°-W	0.9	0.7	4	楕円形	20	-	緩斜	平坦		
	SK 190	N11j2	3.7	[N-30°-W]	1.0	(0.8)	60	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		SK 231→本跡
	SK 191	N11j3	3.8	-	(0.4)	0.6	19	[円形]	-	-	緩斜	平坦		
	SK 200	N11j3	3.7	-	1.0	1.0	35	不整円形	-	-	緩斜	平坦		SK 215→本跡
	SK 215	N11j3	3.7	N-23°-W	0.7	(0.4)	27	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK 200
	SK 231	N11j2	3.7	[N-24°-E]	(1.6)	1.2	38	[長方形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK 190
SI62	SK 36	O10b9	3.8	N-37°-W	1.0	0.8	31	長方形	-	-	緩斜	皿状		
SI63	SK 17	O11c2	4.0	N-67°-E	1.1	0.9	24	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
SI64	SK 239	N11f6	5.0	N-51°-W	1.4	1.1	34	長方形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿), 砥石	
	SK 240	N11e6	4.9	-	0.5	0.5	20	円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK 246	N11f6	5.0	N-41°-E	0.8	0.6	19	長方形	-	-	緩斜	平坦		
SI65	SK 237	N11e4	5.3	-	0.2	0.2	2	円形	1	-	緩斜	皿状		
	SK 275	N11d3	4.9	N-24°-E	1.3	0.7	15	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 278	N11e5	5.0	N-36°-E	1.2	0.6	12	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 283	N11e4	4.9	N-44°-E	0.8	0.5	52	不整楕円形	-	-	外傾・緩斜	皿状		
	SK 294	N11f4	4.7	N-62°-E	2.8	1.8	63	不整楕円形	-	-	外傾・緩斜	平坦		本跡→SN 68
	SK 297	N11d5	4.9	-	1.2	1.1	17	円形	-	-	緩斜	平坦		
SI67	SK 87	N10j0	4.0	N-46°-E	(0.9)	0.7	18	[隅丸長方形]	3~10	-	緩斜	皿状		
	SK 96	N10j8	3.8	N-41°-E	1.6	1.0	35	長方形	-	-	外傾	平坦		
SI69	SK 20	O10d7	3.8	N-62°-E	1.3	0.7	24	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		
	SK 25	O10c6	3.9	N-5°-W	1.1	0.9	10	楕円形	-	-	緩斜	皿状	釘	
	SK 27	O10c7	4.0	N-56°-W	[1.1]	(0.5)	-	[楕円形]	19	-	緩斜	平坦		SK 28→本跡
	SK 28	O10c7	3.9	N-83°-W	1.0	0.9	3	楕円形	9	-	緩斜	平坦		本跡→SK 27
	SK 29	O10d7	3.8	N-47°-W	1.5	0.8	25	楕円形	-	-	緩斜	皿状		本跡→P 25
SK 41	O10e7	3.8	N-49°-E	1.3	1.0	22	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		SN14→本跡→P30	
SI71	SK 39	O10h6	3.3	N-35°-E	1.5	1.1	20	長方形	8	-	緩斜	平坦		炬→本跡
	SK 43	O10g8	3.3	N-68°-E	0.7	0.6	27	隅丸長方形	7	-	緩斜	平坦		本跡→SX 15
	SK 62	O10h7	3.3	N-37°-W	0.9	0.7	28	楕円形	4	-	外傾	平坦	円筒埴輪	
	SK 76	O10h8	3.0	N-22°-E	0.9	0.7	18	長方形	4	-	緩斜	皿状		
	SK 77	O10g7	2.9	N-48°-E	1.4	0.6	12	長方形	-	-	緩斜	平坦	斧	
	SK 80	O10h7	3.0	N-48°-W	0.7	(0.5)	6	[長方形]	4	-	緩斜	平坦		本跡→SK 81
SK 81	O10h7	3.0	N-48°-W	0.8	0.5	10	長方形	6	-	緩斜	平坦		SK 80→本跡	
SI73	SK 322	O10b8	3.8	N-58°-W	2.6	1.5	9	長方形	-	-	緩斜	平坦		

表32 8区建物跡貝集積地一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	厚さ(cm)							
SI54	SM66	O11j9	3.1	N-40°-E	0.5	0.3	-	不定形	-	-	-	-		(8区 SM9)
SI58	SM65	O11i5	3.0	N-3°-W	1.0	0.6	-	不定形	-	-	-	-		(8区 SM10)
SI60	SM60	O11e4	3.2	N-37°-E	1.3	0.7	-	長方形	-	-	-	-		(8区 SM4)
	SM61	O11d3	3.4	N-47°-W	0.6	0.5	-	不定形	-	-	-	-		(8区 SM5)
SI61	SM62	O11h9	3.3	N-46°-E	0.4	0.3	-	楕円形	-	-	-	-		(8区 SM6)
SI65	SM53	N11f4	5.2	N-68°-W	0.4	0.3	-	不定形	-	-	-	-		(8区 SM14)
SI68	SM57	O11c7	3.7	N-37°-E	3.5	0.7	-	不定形	-	-	-	-		(8区 SM1)
	SM59	O11f8	3.8	N-32°-E	1.3	1.0	27	楕円形	-	-	-	-	土師質土器(皿)	(8区 SM3)
SI69	SM69	O10d6	3.8	N-0°	3.2	2.1	-	楕円形	-	-	-	-		(8区 HK8内貝片)
SI72	SM67	N11e4	5.0	N-87°-W	0.8	0.4	-	不定形	-	-	-	-		(8区 SM13)

(3) 整地面

確認された26か所のうち、遺物が伴う21か所について記述し、それ以外は全体図と一覧表で掲載する。

第51号整地面 8区HK-1 (第298~300図)

位置 調査区南東部のO11h6区を中心に位置している。西側には第3号土手状遺構が隣接している。

重複関係 黒色土面の北部に第57号建物、南部に第58号建物が構築されている。北部の上面に、第52号整地面が構築されている。

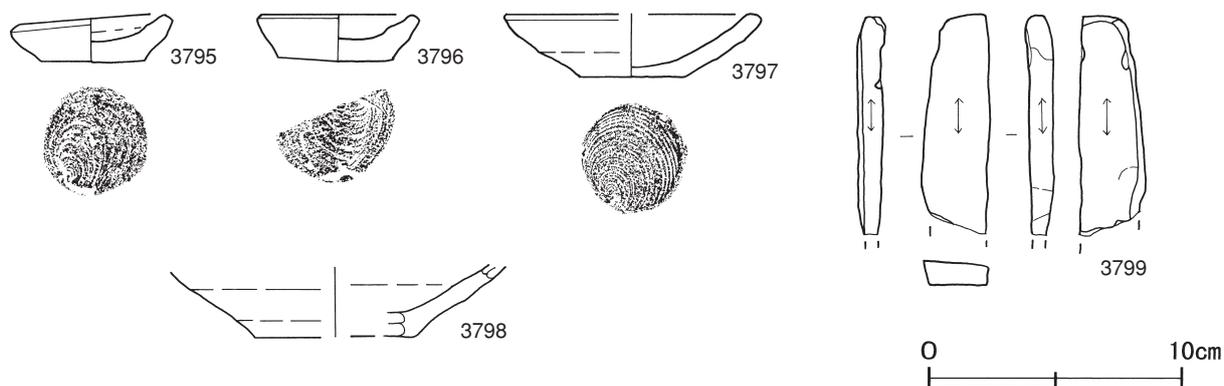
確認状況 表砂を約4.3m除去し、標高約3.2mで黒色土面が確認された。

規模と施設 南部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、長軸は23.9mだけ確認され、短軸13.1mである。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-60°-Eである。

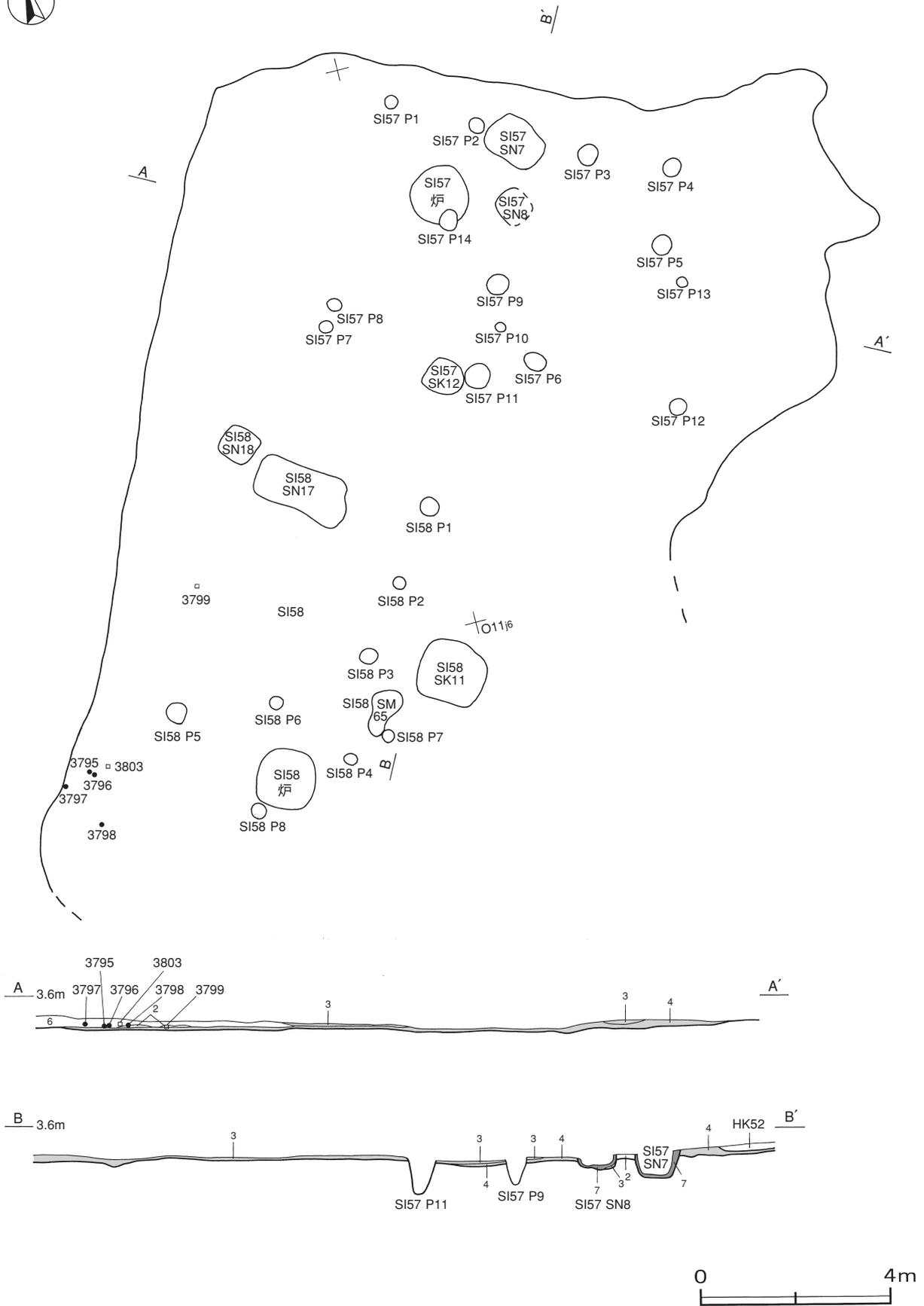
生活面 やや凹凸で、南西部に向かって緩やかに傾斜している。厚さ5~20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層、第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。

遺物出土状況 土師質土器片32点(小皿2, 皿30), 陶器片3点(皿), 石器5点(砥石4, 火打石1), 金属製品1点(不明)が出土している。3795~3799・3803は南西部の黒色土上面から出土している。

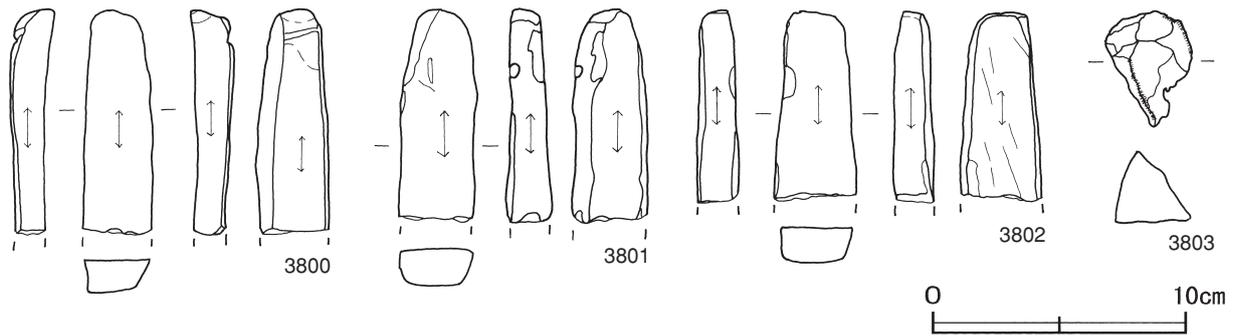
所見 第3号土手状遺構の南東部を生活面とするために、広範囲に盛土された黒色土面と考えられる。上面に構築されている第57・58号建物跡が16世紀後半から17世紀にかけてであることから、ほぼ同時期に構築されたと考えられる。



第298図 第51号整地面出土遺物実測図(1)



第299图 第51号整地面实测图



第300図 第51号整地面出土遺物実測図(2)

第51号整地面出土遺物観察表 (第298・300図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3795	小皿	土師質土器	5.7	1.9	4.1	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内底面横ナデ	南西部黒色土上面	100% PL71
3796	小皿	土師質土器	6.0	2.0	4.5	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内底面横ナデ	南西部黒色土上面	50%
3797	皿	土師質土器	[9.7]	2.5	4.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	南西部黒色土上面	60%
3798	皿	土師質土器	-	(2.8)	[6.4]	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	南西部黒色土上面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3799	砥石	(8.7)	2.7	1.2	(38.4)	凝灰岩	砥面4面 断面長方形	南西部黒色土上面	
3800	砥石	(8.9)	2.8	1.7	(56.2)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	覆土中	
3801	砥石	(8.5)	3.1	1.8	(65.1)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	覆土中	
3802	砥石	(7.5)	3.3	1.6	(61.6)	凝灰岩	砥面4面 断面長方形	覆土中	
3803	火打石	4.6	3.4	2.9	30.5	瑪瑙	一部の稜が摩滅	南西部黒色土上面	

第52号整地面 8区HK-13 (第301~305図)

位置 調査区南東部のO11d9区を中心に位置している。

重複関係 南部の下面に第51号整地面の北部が構築されている。また、中央部の上面に第53号整地面が構築されている。

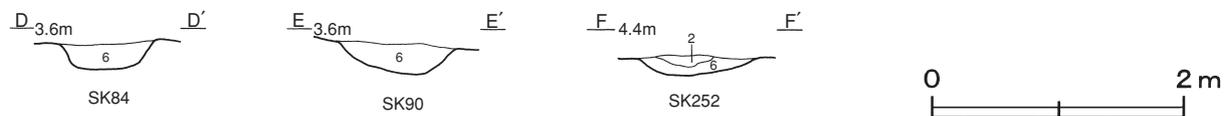
確認状況 表砂を約3.4m除去し、標高約4.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から土坑と柱穴6か所、さらに黒色土面の下層から貝集積地が確認された。

規模と施設 東部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、南北32.0m、東西20.5mが確認された。付属施設として、土坑3基が構築され、貝集積地1か所が確認されている。

生活面 南西部に向かって緩やかに傾斜している。厚さ4~11cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。黒色土の間には、第2層の砂B層が堆積した層である。

ピット 6か所。P1・P3~P6は深さ15~48cm、P2は深さ72cmである。いずれも配列に規則性はなく、性格は不明である。

土坑 (第301図) 第84・90号土坑は南部、第252号土坑は北部に位置している。第84・90号土坑は第6層の黒色土D層、第252号土坑は第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



第301図 第52号整地面土坑土層図

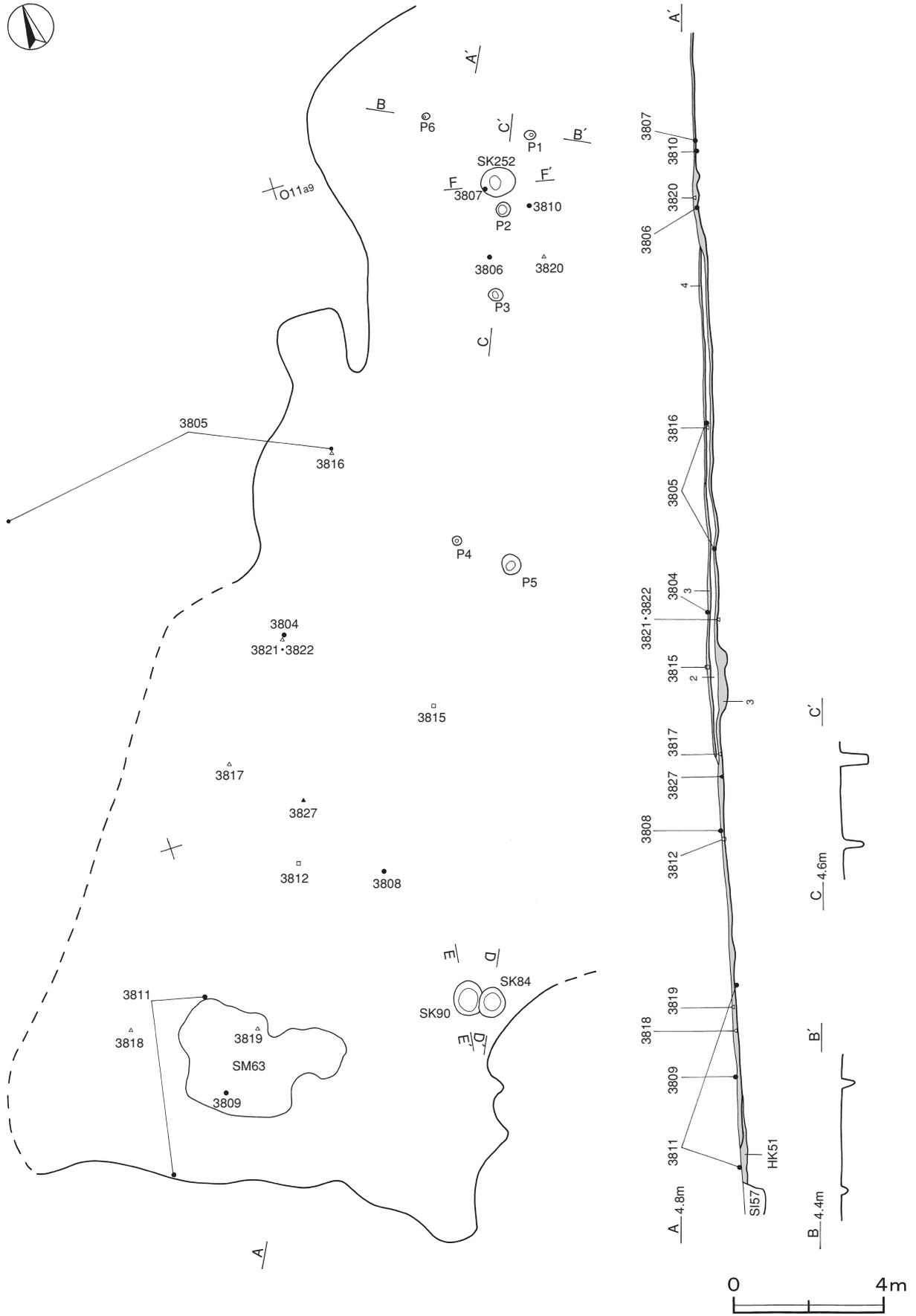
貝集積地 (第302図) 第63号貝集積地は黒色土下層の南部に位置している。長軸4.4m, 短軸2.8mの不定形で, 貝層の厚さは最大で28cmである。破碎された貝片が多く, ウバ貝が主体である。



第302図 第52号整地面貝集積地実測図

第63号貝集積地出土貝種一覧表

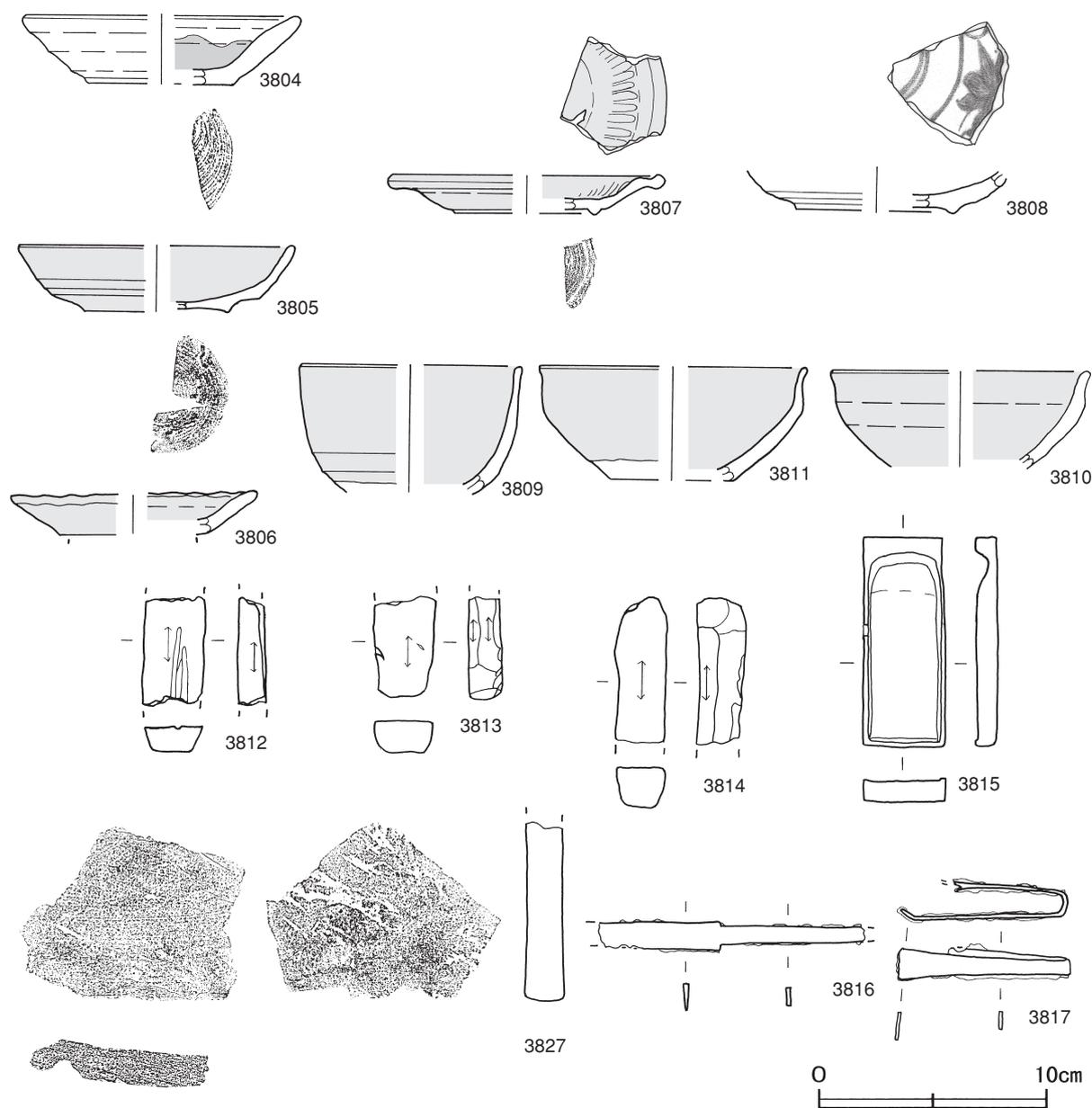
No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	オオタニシ	20.0	0.04	8	淡水	6	マツカサガイ	20.0	0.04	7	淡水
2	ツメタガイ	20.0	0.04	2		7	シジミ属	5.0	0.01	2	淡水または汽水
3	サルボウガイ	20.0	0.04	2		8	チョウセンハマグリ	250.0	0.45	11	
4	タマキガイ	140.0	0.25	12		9	ウバガイ細片	55,100.0	98.39		
5	カキ	425.0	0.76	18	細片含む						



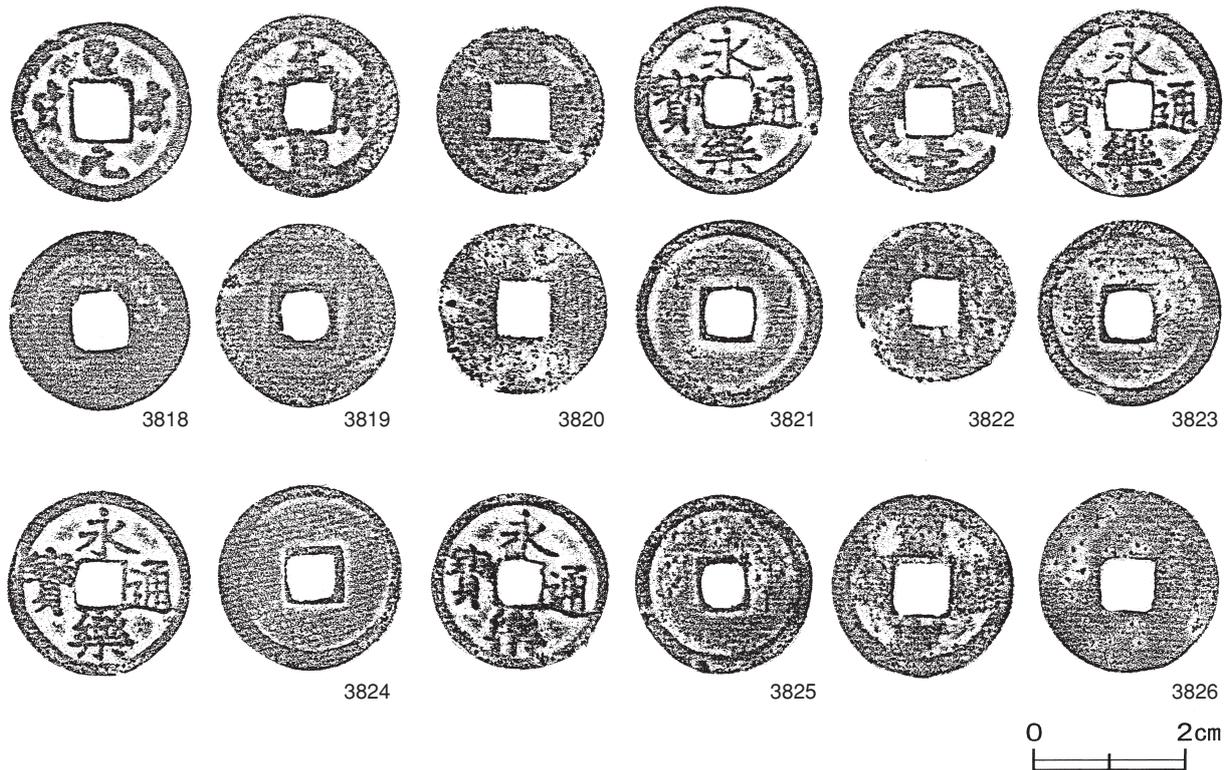
第303图 第52号整地面实测图

遺物出土状況 土師質土器片21点（小皿14, 皿5, 鍋1, 火鉢1）, 陶器片12点（皿6, 碗6）, 土製品1点（埴輪）, 石器5点（砥石3, 火打石1, 硯1）, 金属製品12点（小刀1, 毛抜1, 古銭9, 不明1）, 瓦片3点が出土している。3804・3808・3812・3815～3817・3821・3822・3827は中央部の黒色土上面から黒色土中にかけて, 3806・3807・3810・3820は北部の黒色土中, 3809・3811・3818・3819は南部の黒色土上面からそれぞれ出土している。3805は中央部と第3号土手状遺構から出土した破片が接合したものである。また, 3813・3814・3823～3826は第63号貝集積地の貝層から出土している。

所見 東部が調査区域外に延びているため, 遺構全体の様子を捉えられなかった。第3号土手状遺構と隣接し, 黒色土面が南西部に向かって緩やかに傾斜していることから, 整地面と判断した。この黒色土面に伴う建物跡は, 調査区域外に存在していることが想定される。時期は, 第51号整地面の北部上面に構築されていることや3805から, 17世紀前半頃と考えられる。



第304図 第52号整地面出土遺物実測図(1)



第305図 第52号整地面出土遺物実測図(2)

第52号整地面出土遺物観察表 (第304・305図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3804	皿	土師質土器	[11.8]	3.0	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部回転糸切り 内面煤付着	中央部黒色土上面	25%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3805	丸皿	陶器	[12.0]	2.9	[6.4]	灰黄・灰白	灰釉	見込み内ビン痕有り	瀬戸・美濃 17C前半	中央部・土手状3	60% 連房1 PL65
3806	稜皿	陶器	[10.8]	(1.9)	-	灰白・暗褐	鉄釉	口縁部輪花風	瀬戸・美濃 16C後葉~17C初	北部黒色土中	5% 大窯4
3807	折縁皿	陶器	[11.8]	1.7	[6.2]	黄灰・オリブ黄	灰釉	口縁部玉縁状 体部内面ノギ有り	瀬戸・美濃 16C後葉~17C初	北部黒色土中	20% 大窯4
3808	鉄絵皿	陶器	-	(1.7)	[7.0]	浅黄・灰白	鉄絵・長石釉	3条の圏線と紅葉唐草文	瀬戸・美濃 17C前葉	中央部黒色土上面	20% 大窯4
3809	丸碗	陶器	[9.8]	(5.6)	-	灰黄・灰褐	鉄釉	口縁部は直立する	瀬戸・美濃 17C前半	南部黒色土上面	5% 連房1 PL70
3810	天目茶碗	陶器	[11.3]	(4.3)	-	にぶい黄橙・暗褐	鉄釉	口縁部外反	瀬戸・美濃	北部黒色土中	5% 大窯後期
3811	天目茶碗	陶器	[11.6]	5.0	[5.4]	灰黄・黒褐	鉄釉	高台付近露胎	瀬戸・美濃 16C後葉~17C前葉	南部黒色土上面	40% 大窯4~連房1
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴		出土位置	備考	
3812	砥石	(4.8)	2.8	1.3	(25.8)	凝灰岩	砥面4面	砥面に筋状の溝 断面台形	中央部黒色土上面		
3813	砥石	(4.6)	2.8	1.5	(29.4)	凝灰岩	砥面4面	断面台形	SM63内		
3814	砥石	(6.5)	2.3	2.2	(50.8)	凝灰岩	砥面4面	断面四角形	SM63内		
3815	硯	9.2	3.6	1.0	74.0	粘板岩	ほぼ完形	墨堂部の中央摩滅	中央部黒色土上面	PL88	
3816	小刀	(11.7)	1.2	0.2	(14.4)	鉄	両端部欠損	両関	中央部黒色土中		
3817	毛抜	7.5	0.8~1.3	0.1	(8.2)	鉄	刃部一部欠損	銀杏形	中央部黒色土中	PL92	
3827	平瓦	(8.3)	(10.6)	1.7	(170.2)	長石	凹面ヘラナデ		中央部黒色土中		
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考	
3818	聖宋元寶	2.41	0.72	0.07	2.58	1101	銅	行書	南部黒色土上面		
3819	元符通寶	2.43	0.59	0.09	2.96	1098	銅	行書	南部黒色土上面		
3820	□□□□	2.27	0.73	0.08	1.86	-	銅	判読不明	北部黒色土上面		
3821	永樂通寶	2.51	0.62	0.10	3.14	1408	銅	真書	中央部黒色土中		
3822	慶長通寶	2.15	0.64	0.07	1.26	1596~1615	銅	真書	中央部黒色土中		

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3823	永樂通寶	2.49	0.59	0.14	3.94	1408	銅	真書	SM63内	
3824	永樂通寶	2.47	0.56	0.11	3.86	1408	銅	真書	SM63内	
3825	永樂通寶	2.40	0.60	0.09	2.82	1408	銅	真書	SM63内	
3826	皇宋通寶カ	2.49	0.78	0.11	3.88	1038	銅	真書 鑄付着	SM63内	

第53号整地面 8区HK-9 (第306~308図)

位置 調査区南東部のO11d9区を中心に位置している。

重複関係 第52号整地面の中央部上面に構築され、間層として、約20cmの砂層が堆積している。

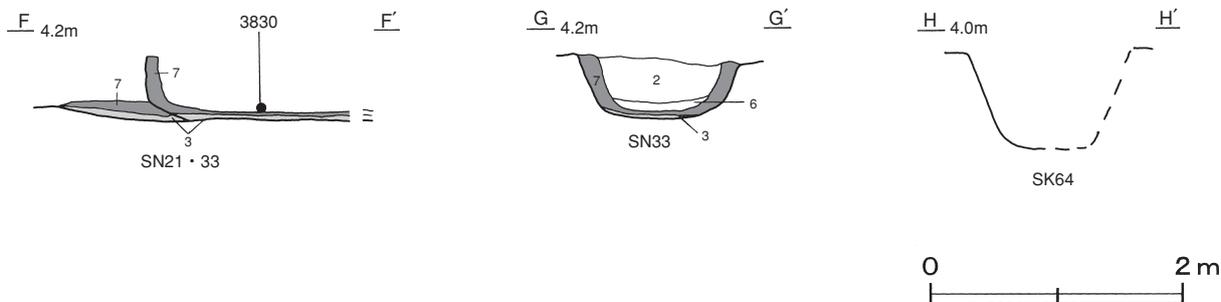
確認状況 表砂を約3.4m除去し、標高約4.1mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑と北東に並ぶ柱穴9か所を確認した。

規模と施設 黒色土の範囲は、長径9.8m、短径4.0mの不整楕円形で、長径方向はN-43°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑2基と土坑1基が構築されている。

生活面 やや凹凸で、厚さ4~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりは普通である。

ピット 9か所。P1・P2・P4~P6は深さ36~76cm、P3は深さ22cmで、北東軸に並ぶ柱穴である。P7~P9は深さ46~70cmで、性格は不明である。

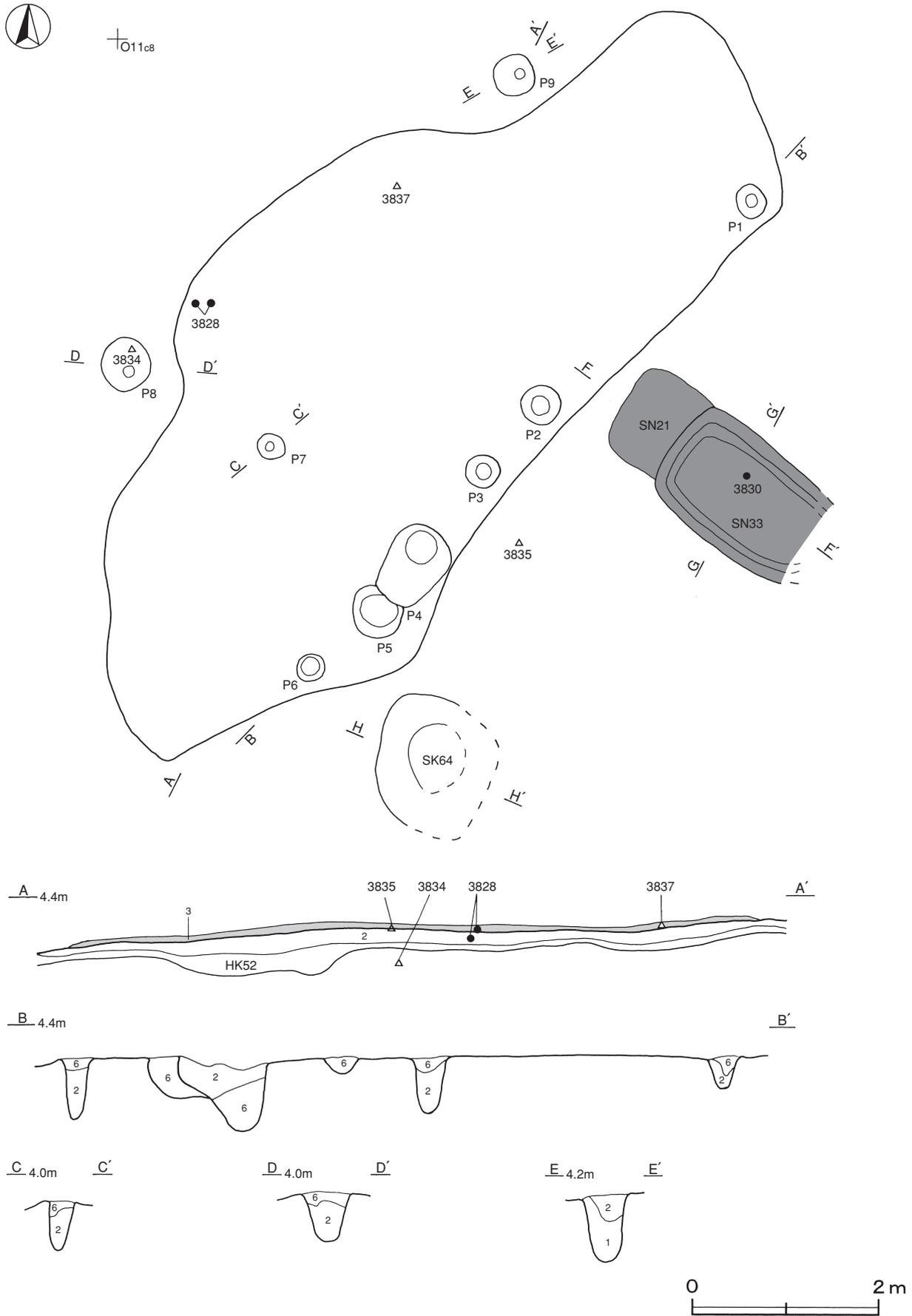
土坑 (第306図) 第21・33号粘土貼土坑は東部、第64号土坑は南部に位置している。粘土貼土坑は、厚さ2~12cmほどの粘土を貼り付けて構築されている。また、第33号粘土貼土坑は、第21号粘土貼土坑の底部を利用して造り替えをしている。第33号粘土貼土坑は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が自然堆積した層である。



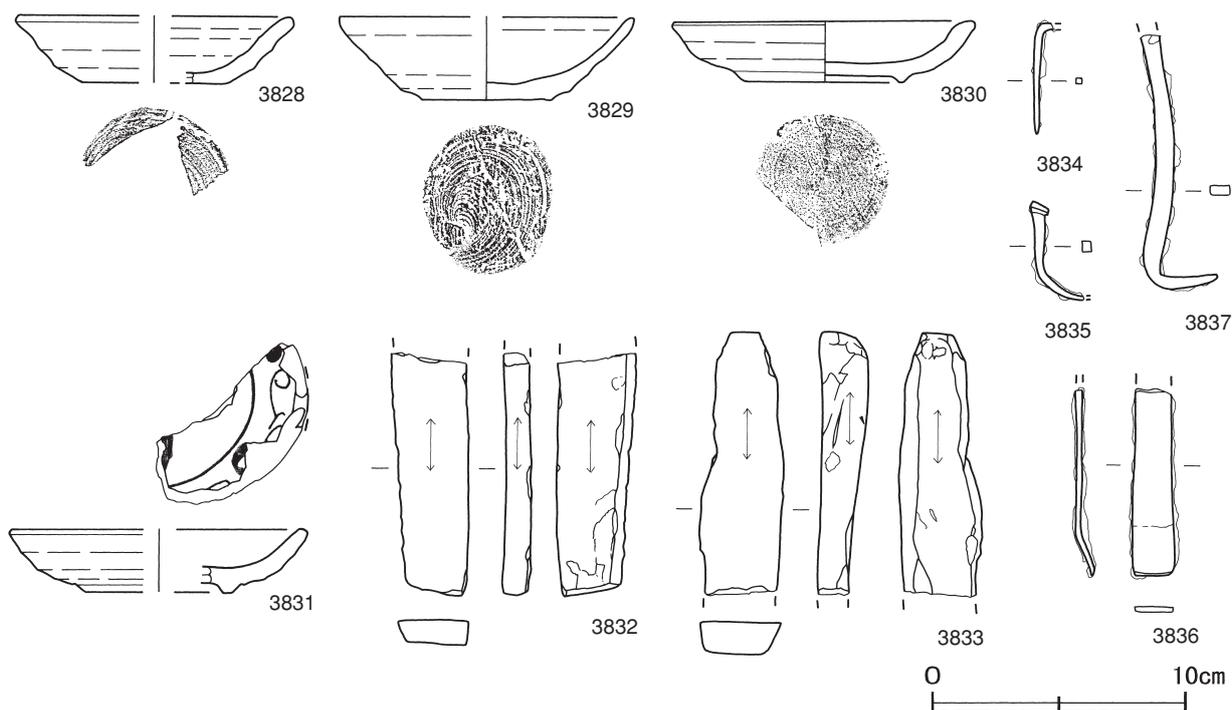
第306図 第53号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片36点(小皿1, 皿35), 陶器片3点(皿), 土製品1点(埴輪), 石器2点(砥石), 金属製品4点(釘2, 起金カ1, 不明1)が出土している。3828は西部, 3837は北部の黒色土中, 3834はP8内, 3835は東部の砂層からそれぞれ出土している。

所見 黒色土面がやや凹凸で炉を伴わないことから、作業場としての整地面と判断した。出土した埴輪片は、黒色土を構築するために他地域から持ち込まれたことを示す資料といえる。時期は、3830・3831から17世紀前半と考えられる。



第307图 第53号整地面实测图



第308図 第53号整地面出土遺物実測図

第53号整地面出土遺物観察表（第308図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3828	皿	土師質土器	[10.6]	2.7	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面口クロナデ	西部黒色土中	45%
3829	皿	土師質土器	[11.7]	3.3	5.1	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面横ナデ	覆土中	45%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3830	丸皿	陶器	11.6	2.5	6.2	灰白・灰白	長石釉	高台内ビン痕有り	瀬戸・美濃 17C前葉	SN33内	8% 大塚 PL66
3831	鉄絵皿	陶器	[11.6]	2.5	[6.0]	灰黄・灰白	鉄絵・長石釉	1条の圈線 唐草文	瀬戸・美濃 17C前半	覆土中	20% 連房1

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3832	砥石	(9.7)	3.1	1.2	(52.7)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	覆土中	
3833	砥石	(10.5)	3.3	1.9	(77.4)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	覆土中	
3834	釘	4.4	0.2	0.2	(2.1)	鉄	断面方形 頭部一部屈曲	P8内	
3835	釘	(4.0)	0.4	0.4	(4.6)	鉄	断面方形 頭部屈曲 先端部欠損	東部砂層	
3836	起金カ	(7.3)	1.5	0.2	(18.2)	鉄	断面長方形 先端部やや湾曲	SN33内	
3837	鉤状金具	(10.1)	0.8	0.4	(18.0)	鉄	断面長方形 先端部L字状に屈曲	北部黒色土中	

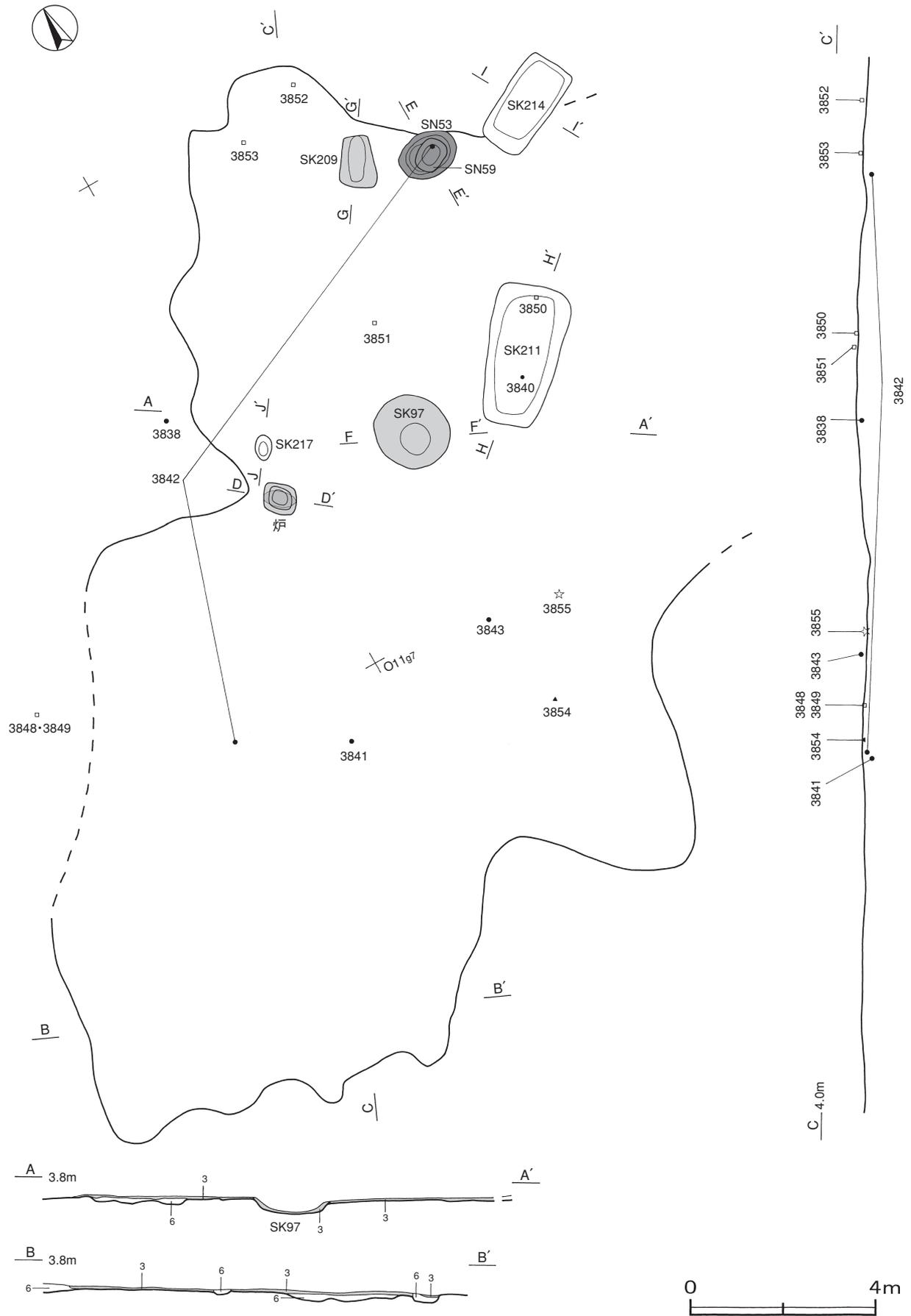
第54号整地面 8区HK-25A（第309～313図）

位置 調査区南東部のO11f7区を中心に位置している。

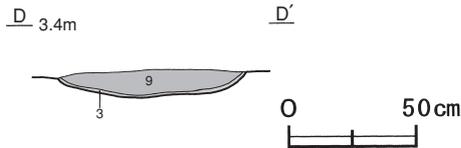
確認状況 第52号整地面を約0.6m掘り下げた、標高約3.5mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉と土坑が確認された。

規模と施設 東部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、長径22.9m、短径は14.1mだけが確認された。平面形は不定形と推定され、長軸方向はN-46°-Eである。付属施設として、炉1基、粘土貼土坑2基、土坑5基が構築されている。

生活面 南西部に向かって緩やかに傾斜している。厚さ4～7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりはやや強い。



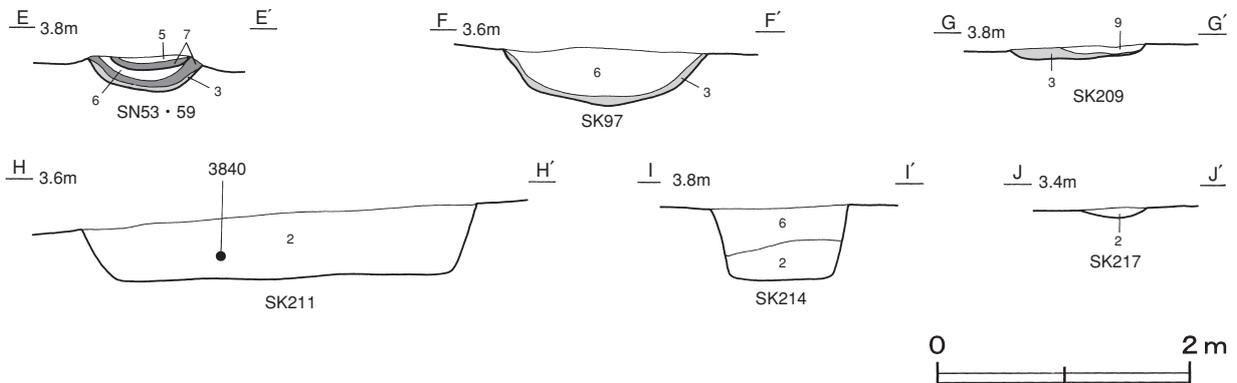
第309图 第54号整地面实测图



第310図 第54号整地面炉土層図

炉（第310図）やや西部に位置している。厚さ1cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土から、第9層の灰が検出されている。

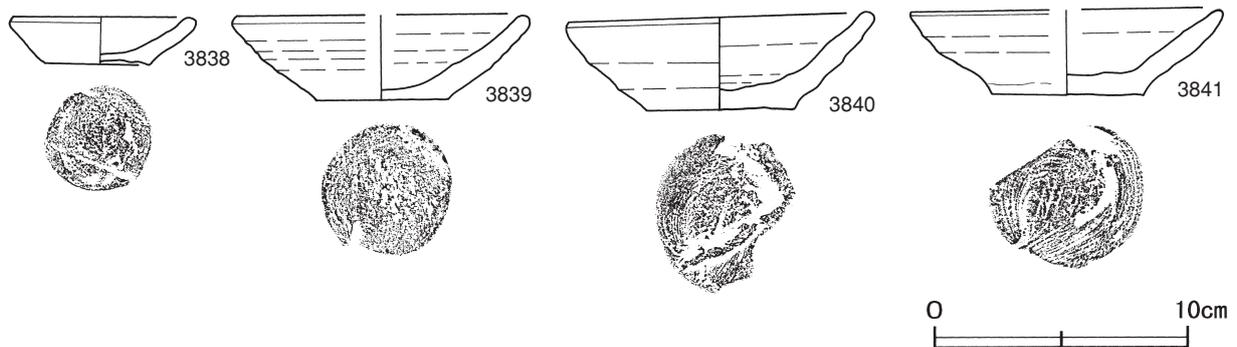
土坑（第311図）第53・59号粘土貼土坑，黒色土で構築された第209号土坑，第214号土坑は北部，黒色土で構築された第97号土坑，第211号土坑は中央部，第217号土坑はやや西部に位置している。第59号粘土貼土坑は，第53号粘土貼土坑の上面に構築され，造り替えが認められる。第53・59号粘土貼土坑は厚さ5・9cmの粘土，第97・209号土坑は厚さ5～9cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土坑の覆土は，第2層の砂B層が自然堆積，第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積している。



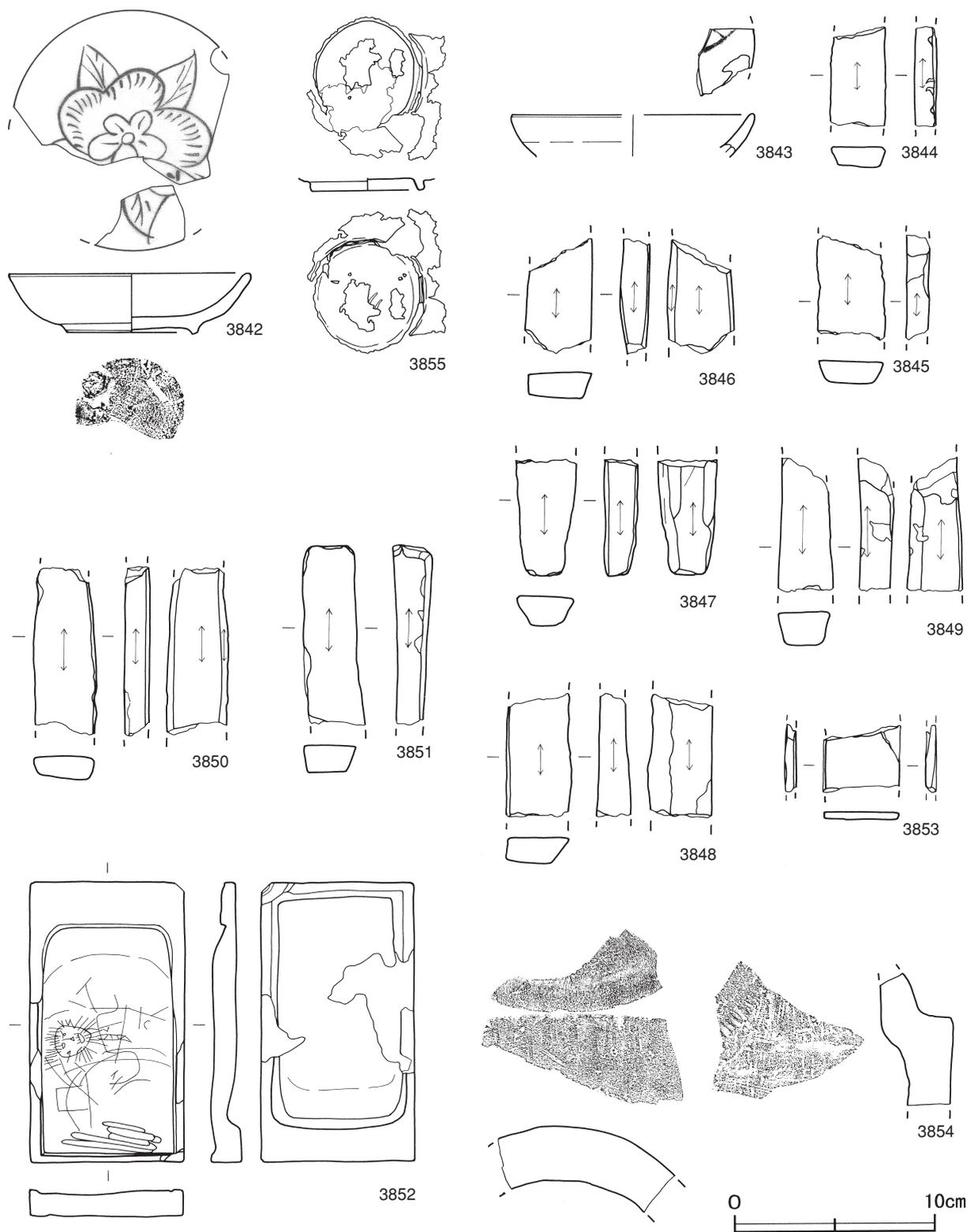
第311図 第54号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片31点（小皿2，皿29），陶器片7点（皿），土製品1点（土玉），石器11点（砥石9，硯2），金属製品4点（釘1，不明3），漆器1点（漆塗り椀），瓦1点が出土している。3841は中央部の黒色土中，3843・3850・3851・3854・3855は中央部の黒色土上面，3852・3853は北部の黒色土上面，3838・3848・3849は西部の砂層からそれぞれ出土している。3842は中央部の黒色土上面と第59号粘土貼土坑内から出土した破片が接合したものである。

所見 生活面は緩やかに傾斜しており，上屋を想定できる柱穴が確認されたことから，屋外の作業場と判断した。北部は第52号整地面，南部は第51号整地面の下の層位で確認された黒色土面である。時期は，3842から16世紀末から17世紀初頭と考えられ，第51・52号整地面との時期差はあまり認められない。



第312図 第54号整地面出土遺物実測図(1)



第313図 第54号整地面出土遺物実測図(2)

第54号整地面出土遺物観察表 (第312・313図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3838	小皿	土師質土器	7.0	1.9	4.2	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	西部砂層	100% PL74
3839	皿	土師質土器	[11.3]	3.4	5.3	長石・雲母	にぶい橙	普通	内底面強い横ナデ	覆土中	40%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3840	皿	土師質土器	11.8	3.9	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	SK211内	80% PL76
3841	皿	土師質土器	[12.1]	3.4	6.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面渦巻状のナデ	中央部黒色土中	40%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3842	丸皿	陶器	12.0	3.0	6.6	灰白・灰白	鉄絵・長石釉	内面草花文	瀬戸・美濃 16C後葉~17C前初	黒色土上面・SN59内	70% 大塚 PL65
3843	鼠志野皿	陶器	[12.1]	(2.1)	-	浅黄・灰白	鉄絵・長石釉	内面鉄絵花文カ	瀬戸・美濃 17C前半	中央部黒色土上面	5%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	高台高	色調	材質	手法の特徴	出土位置	備考
3855	椀カ	-	-	(0.6)	[5.4]	(0.6)	漆部赤色	木製	内外面赤漆塗り、木質部わずかに遺存	中央部黒色土上面	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴		出土位置	備考	
3844	砥石	(5.0)	2.8	1.1	(24.4)	凝灰岩	砥面4面	断面台形	覆土中		
3845	砥石	(5.3)	3.4	1.2	(31.0)	凝灰岩	砥面3面	断面台形	覆土中		
3846	砥石	(5.8)	3.3	1.4	(36.0)	凝灰岩	砥面4面	断面台形	覆土中		
3847	砥石	(5.9)	3.0	1.6	(38.5)	凝灰岩	砥面3面	他は剥離面	覆土中		
3848	砥石	(6.2)	3.3	1.7	(50.5)	凝灰岩	砥面4面	断面台形	西部砂層		
3849	砥石	(6.7)	2.7	1.8	(48.9)	凝灰岩	砥面4面	断面台形	西部砂層		
3850	砥石	(8.4)	3.7	1.3	(52.3)	凝灰岩	砥面4面	断面台形	中央部黒色土上面		
3851	砥石	(9.0)	2.7	2.0	(67.9)	凝灰岩	砥面4面	断面台形	中央部黒色土上面		
3852	硯	14.1	7.7	1.5	(301.0)	粘板岩	両面硯 縁の一部欠損	硯面に線刻で人物像	北部黒色土上面	PL88	
3853	硯カ	(3.3)	3.8	0.4	(8.8)	粘板岩	硯背の一部カ		北部黒色土上面		
3854	丸瓦	(6.7)	(8.7)	2.7	(149.0)	長石・石英	玉縁部遺存	凹面布目痕 凸面ヘラ削り	中央部黒色土上面		

第55号整地面 8区HK-14 (第314~316図)

位置 調査区南部のO11b7区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約3.5m除去し、標高約4.0mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑が確認されている。さらに黒色土を約10cm除去した標高3.9mで、第2次面の黒色土面と土坑が確認された。

規模と施設 第1次面の黒色土の範囲は、長軸8.2m、短軸8.0mの不定形で、長軸方向はN-41°-Eである。第2次面の黒色土の範囲は、長軸7.6m、短軸4.6mの不定形で、長軸方向はN-41°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑1基、土坑1基が構築されている。

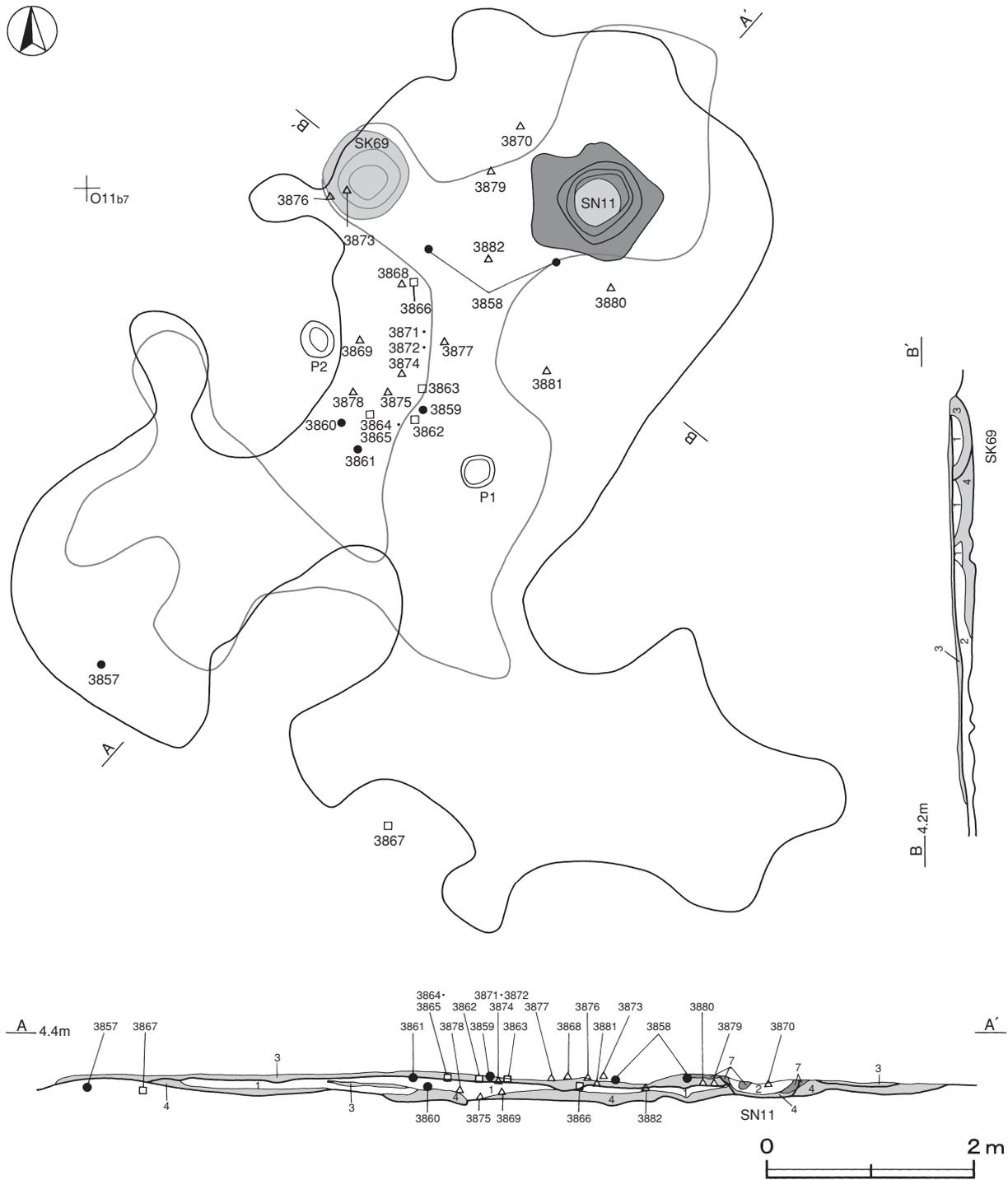
生活面 ほほ平坦である。第1次面は厚さ3~15cm、第2次面は厚さ7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は第1次面の黒色土A層、第4層は第2次面の黒色土B層で、締めりは普通である。

ピット 2か所。深さ63cmと69cmで、性格は不明である。

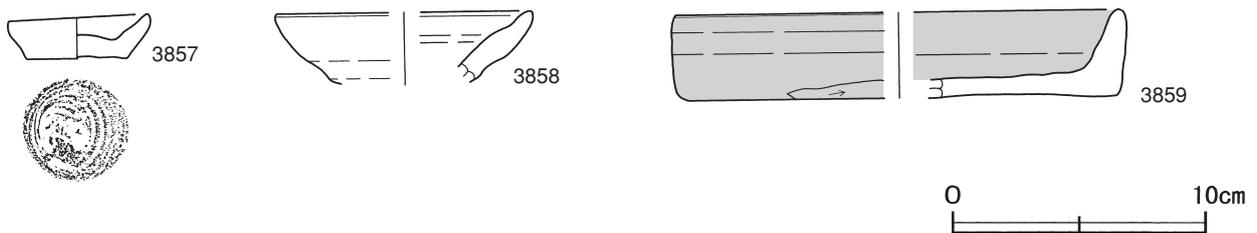
土坑 (第314図) 第1次面では第11号粘土貼土坑が北東部、第2次面では黒色土で構築された第69号土坑が北部に位置している。第11号粘土貼土坑は厚さ5cmの粘土、第69号土坑は厚さ10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。

遺物出土状況 土師質土器片35点(小皿2, 皿32, 鍋1), 陶器片3点(皿1, 碗2), 須恵器片1点(坏), 石器9点(砥石6, 火打石3), 金属製品23点(小刀4, 火打金2, 釘7, 吊金具2, 棒状金具1, 古銭3, 不明4)が出土している。遺物は中央部の黒色土上面から黒色土中にかけて散在している。3857・3867は南部の黒色土下の砂層, 3858~3866・3868~3882は中央部から北部の黒色土上面から黒色土中にかけてそれぞれ出土している。

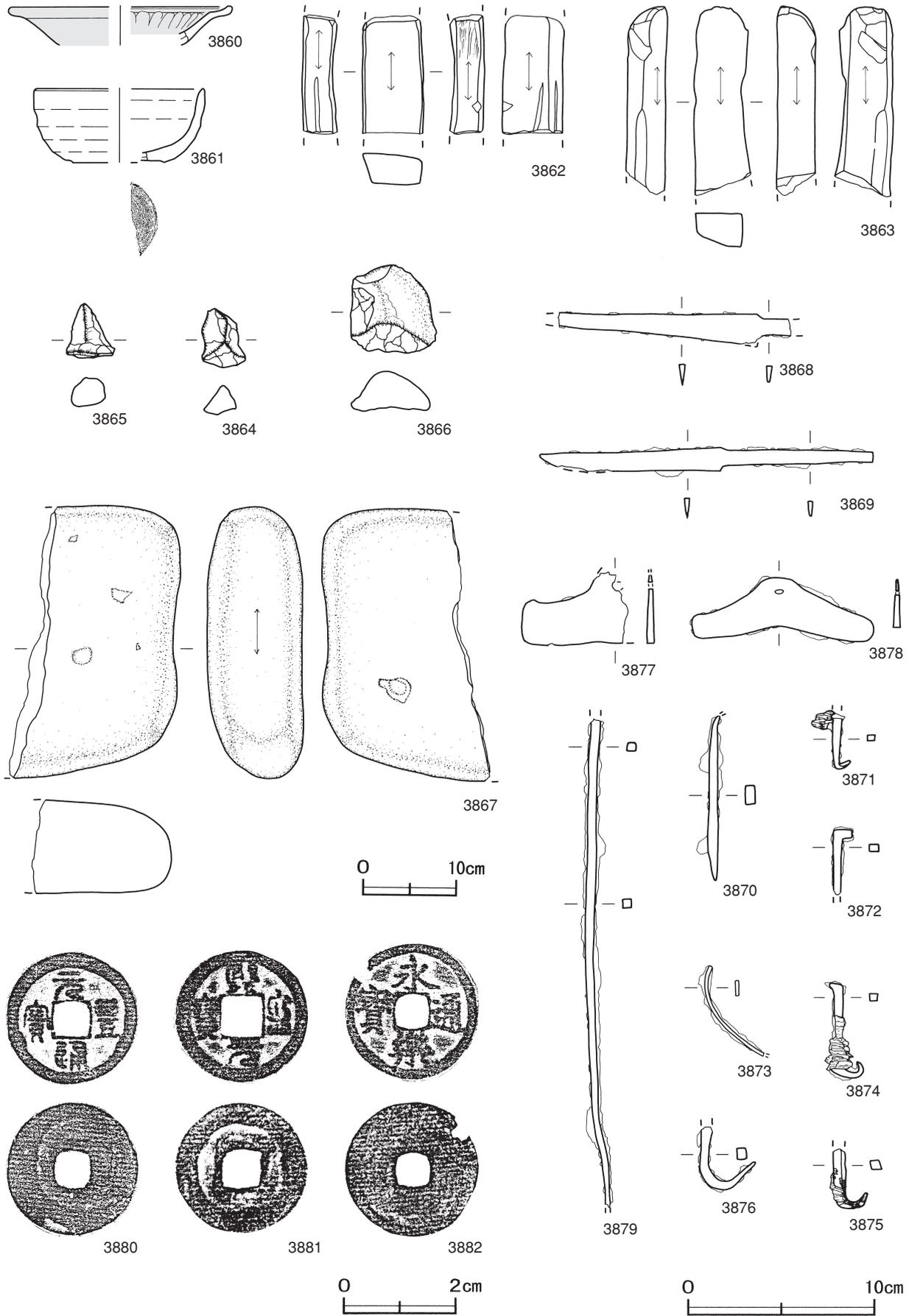
所見 黒色土面は2面確認された。出土遺物も多く建物跡を想定したが、黒色土面内に炉や柱穴が認められないことから整地面と判断した。時期は、3860・3861から17世紀前半と考えられる。



第314図 第55号整地面実測図



第315図 第55号整地面出土遺物実測図(1)



第316图 第55号整地面出土遗物实测图(2)

第55号整地面出土遺物観察表（第315・316図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3857	小皿	土師質土器	5.5	1.7	4.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	南部黒色土下	90% PL71
3858	皿	土師質土器	[10.0]	(2.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ	中央部黒色土上面	10%
3859	焙烙	土師質土器	[17.4]	3.4	[17.4]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面下位ヘラ削り 内外面煤付着	中央部黒色土上面	25% PL81

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3860	折縁皿	陶器	[11.6]	(2.1)	-	浅黄・オリブ黄	灰釉	口縁部玉縁状 体部内面ソギ	瀬戸・美濃 16C後葉~17C初	中央部黒色土中	10% 大窯4
3861	碗	陶器	[9.0]	4.0	[4.8]	灰白・灰白	長石釉	削り出し高台	瀬戸・美濃	中央部黒色土中	35% 大窯後期 PL66

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3862	砥石	(6.4)	3.4	1.8	(65.0)	凝灰岩	砥面4面 砥面に筋状の溝 断面台形	中央部黒色土上面	
3863	砥石	(10.2)	3.1	2.2	(88.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	中央部黒色土上面	
3864	火打石	3.2	2.3	1.7	9.6	瑪瑙	一部の稜が摩滅	中央部黒色土上面	
3865	火打石	3.0	2.6	1.5	11.7	瑪瑙	一部の稜が摩滅	中央部黒色土上面	
3866	火打石	4.7	4.6	2.4	57.1	瑪瑙	一部の稜が摩滅	中央部黒色土上面	
3867	台石カ	29.4	(15.7)	10.3	(8740.0)	砂岩	両面平坦で表面は滑らか 砥石転用 洗濯石カ	南部黒色土下	PL89
3868	小刀	(12.5)	1.7	0.3	(29.0)	鉄	刃部遺存 両関	中央部黒色土上面	
3869	小刀	17.9	1.3	0.3	(19.3)	鉄	ほぼ完存 両関	中央部黒色土中	
3870	釘	(8.9)	0.5	1.0	(23.4)	鉄	断面長方形 頭部欠損	北部黒色土上面	
3871	釘	(2.7)	0.4	0.3	(2.8)	鉄	断面長方形 頭部屈曲 木質部遺存	中央部黒色土上面	
3872	釘	(3.5)	0.5	0.4	(4.6)	鉄	断面長方形 頭部屈曲 木質部遺存	中央部黒色土上面	
3873	釘	(4.9)	0.8	0.2	(6.2)	鉄	断面長方形 先端部欠損	北部黒色土上面	
3874	釘	5.0	0.4	0.4	7.3	鉄	断面方形 先端部屈曲 木質部遺存	中央部黒色土中	
3875	吊金具	(3.4)	0.7	0.5	(3.3)	鉄	断面方形 先端部湾曲 木質部遺存	中央部黒色土中	
3876	吊金具	(3.4)	0.5	0.6	(6.0)	鉄	断面方形 頭部欠損 先端部湾曲	北部黒色土上面	
3877	火打金	(5.2)	(4.0)	0.4	(31.1)	鉄	山型 1/2遺存 打撃部厚い	中央部黒色土上面	PL94
3878	火打金	9.8	3.3	0.4	29.9	鉄	山型 打撃部厚い 孔有り	中央部黒色土中	PL94
3879	棒状金具	(25.4)	0.5	0.5	(34.2)	鉄	断面方形 両端部欠損	北部黒色土上面	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3880	元豊通寶	2.38	0.62	0.10	3.14	1078	銅	篆書	中央部黒色土上面	
3881	熙寧元寶	2.40	0.75	0.11	3.04	1068	銅	篆書	中央部黒色土上面	
3882	永樂通寶	2.46	0.63	0.07	(2.64)	1408	銅	真書 欠け	中央部黒色土上面	

第56号整地面 8区HK-28（第317~319図）

位置 調査区南部のO11b2区を中心に位置している。

確認状況 第55号建物跡の南部を約0.4m掘り下げた標高約3.7mで、黒色土面が確認された。黒色土面とそれに伴う粘土貼土坑、土坑と柱穴6か所、さらに黒色土面の下から土坑が確認された。

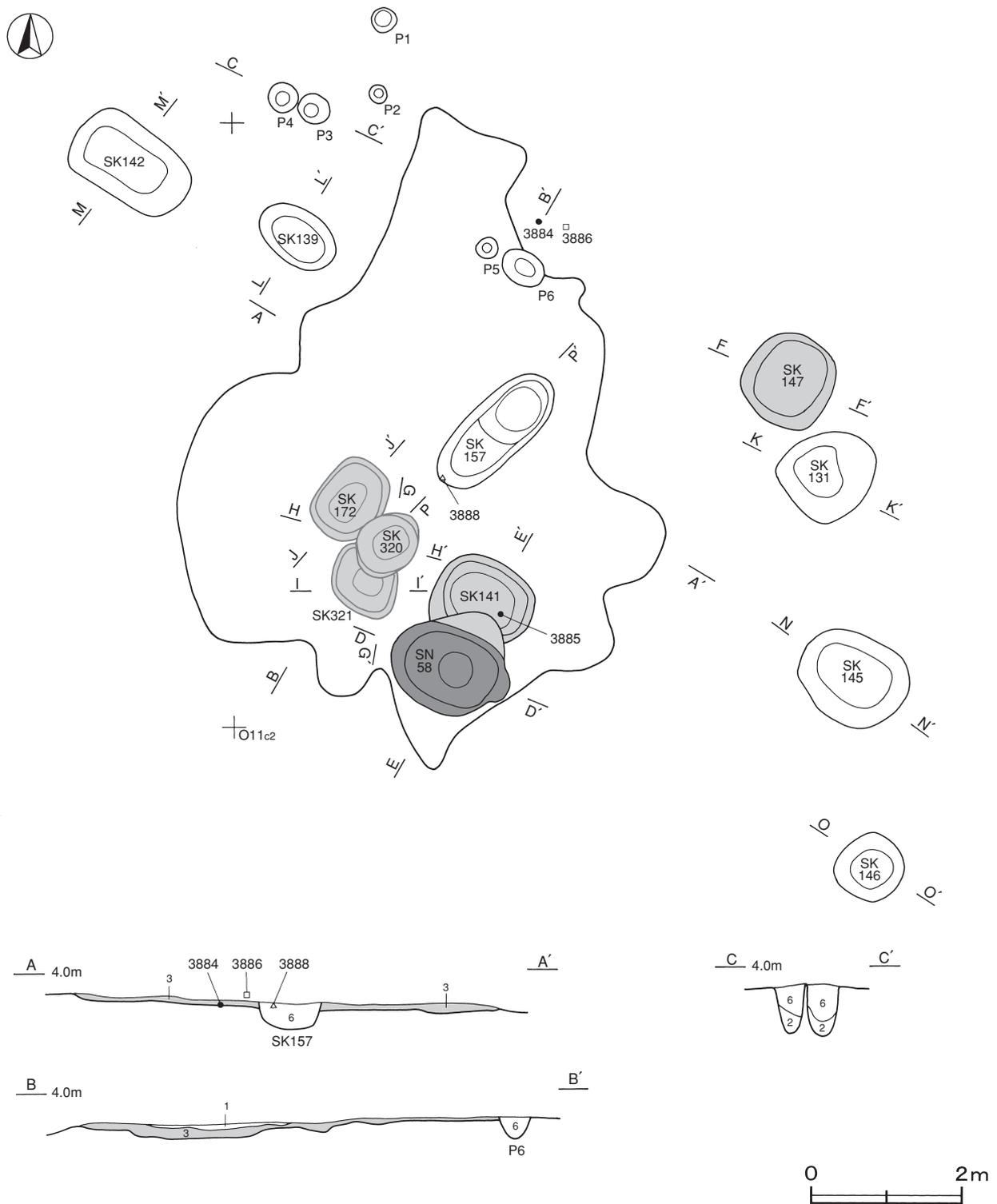
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸8.8m、短軸6.4mの不定形で、長軸方向はN-1°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑1基、土坑11基が構築されている。

生活面 東側に向かって緩やかに傾斜している。厚さ2~17cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりは普通である。

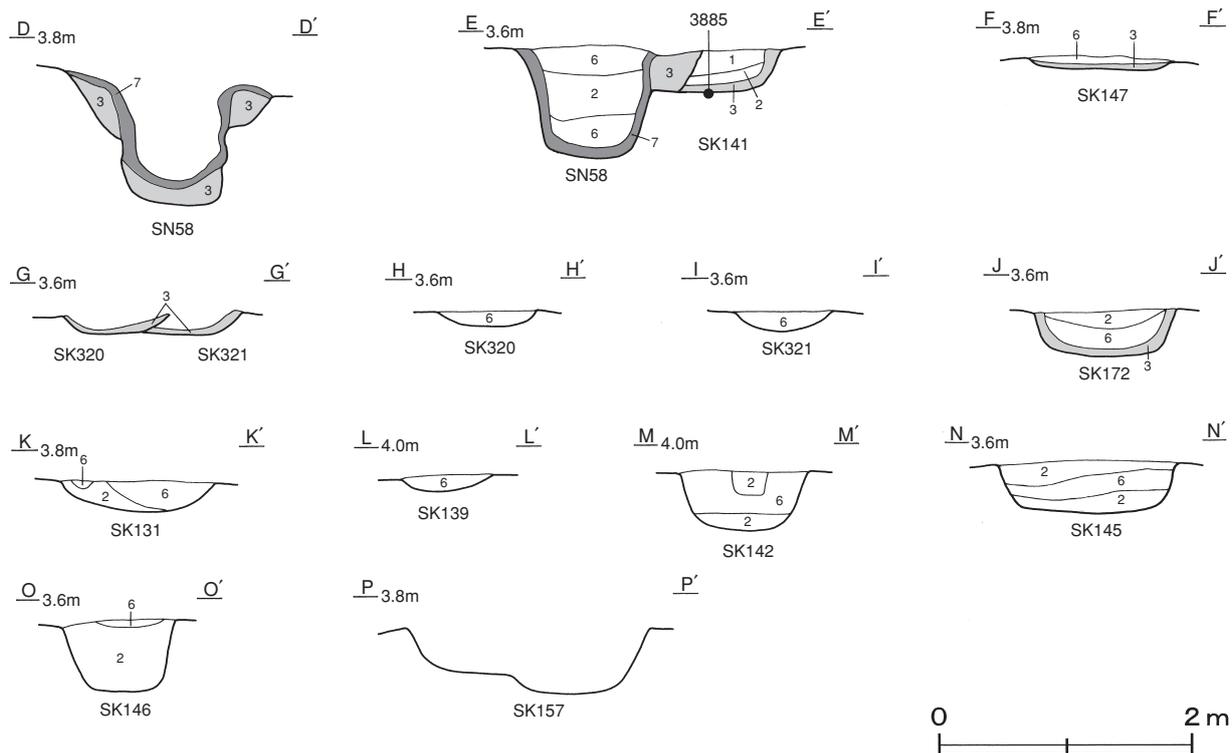
ピット 6か所。深さ30~78cmで、北部に集中している。配列に規則性はなく、性格は不明である。

土坑（第318図）第58号粘土貼土坑、黒色土で構築された第141号土坑は黒色土面の南部、第157号土坑は黒色土面の中央部に位置している。第172・320・321号土坑は黒色土面の下層、第131・第145~147号土坑は東部の

砂層，第139・142号土坑は北西部の砂層から確認されている。第58号粘土貼土坑は第141号土坑，第320号土坑は第172・321号土坑を掘り込んでいる。第58号粘土貼土坑は厚さ4～10cmの粘土，第141・147・172・320・321号土坑は厚さ3～10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は，第2層の砂B層が自然堆積，第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



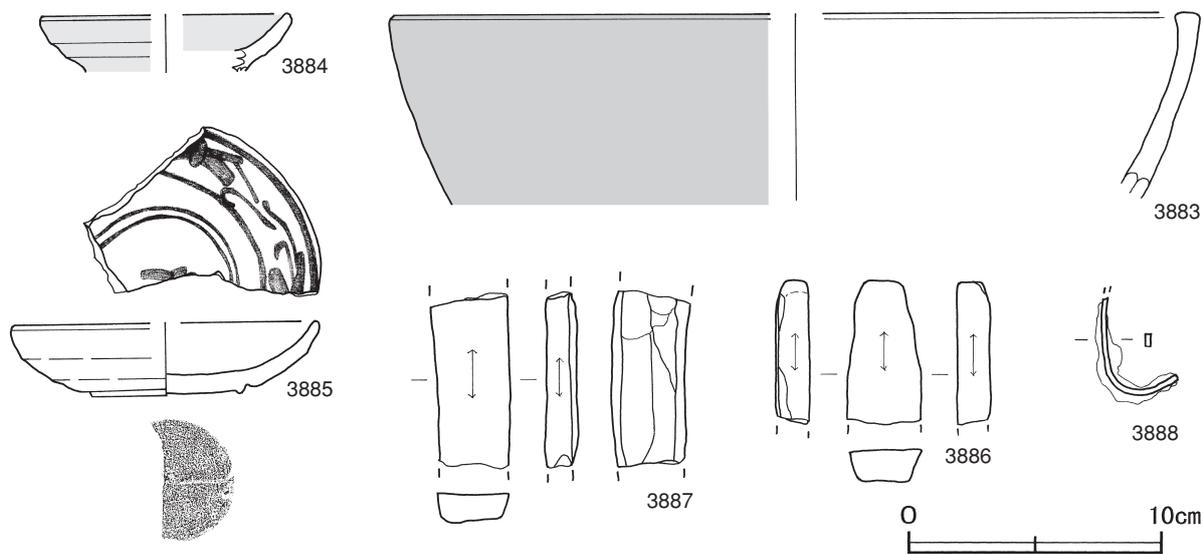
第317図 第56号整地面実測図



第318図 第56号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片15点(皿5, 鍋10), 陶器片2点(皿), 石器2点(砥石), 金属製品2点(吊金具カ, 不明)が出土している。3884・3886は北部の砂層, 3888は中央部の黒色土上面から出土している。

所見 黒色土面は傾斜しており, 上屋を想定できる柱穴が確認できなかったことから整地面と判断した。黒色土面や下層から確認された粘土貼土坑と土坑は, それぞれ重複しており, 同じ場所で繰り返し作業が行われていたと推定される。時期は, 第55号建物跡の南部下層から確認されていることや3884・3885から17世紀前半と考えられる。



第319図 第56号整地面出土遺物実測図

第56号整地面出土遺物観察表（第319図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3883	内耳鍋	土師質土器	[32.2]	(7.4)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部内・外面ナデ 外面煤付着	覆土中	5%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3884	丸皿	陶器	[9.8]	(2.3)	-	灰黄・浅黄	灰釉	全面施釉	瀬戸・美濃	北部砂層	20% 大窯後期
3885	鉄絵皿	陶器	[12.2]	2.9	[6.0]	浅黄・灰白	鉄絵・長石釉	圏線間に紅葉唐草文	瀬戸・美濃 17C前半	SK141内	40% 透房1 PL66
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
3886	砥石	(5.7)	3.0	1.3	(39.1)	凝灰岩	砥面3面 断面台形	北部砂層			
3887	砥石	(7.0)	3.0	1.5	(46.0)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	SK131内			
3888	吊金具カ	(3.9)	0.2	0.5	(9.5)	鉄	断面長方形 先端部湾曲	中央部黒色土上面			

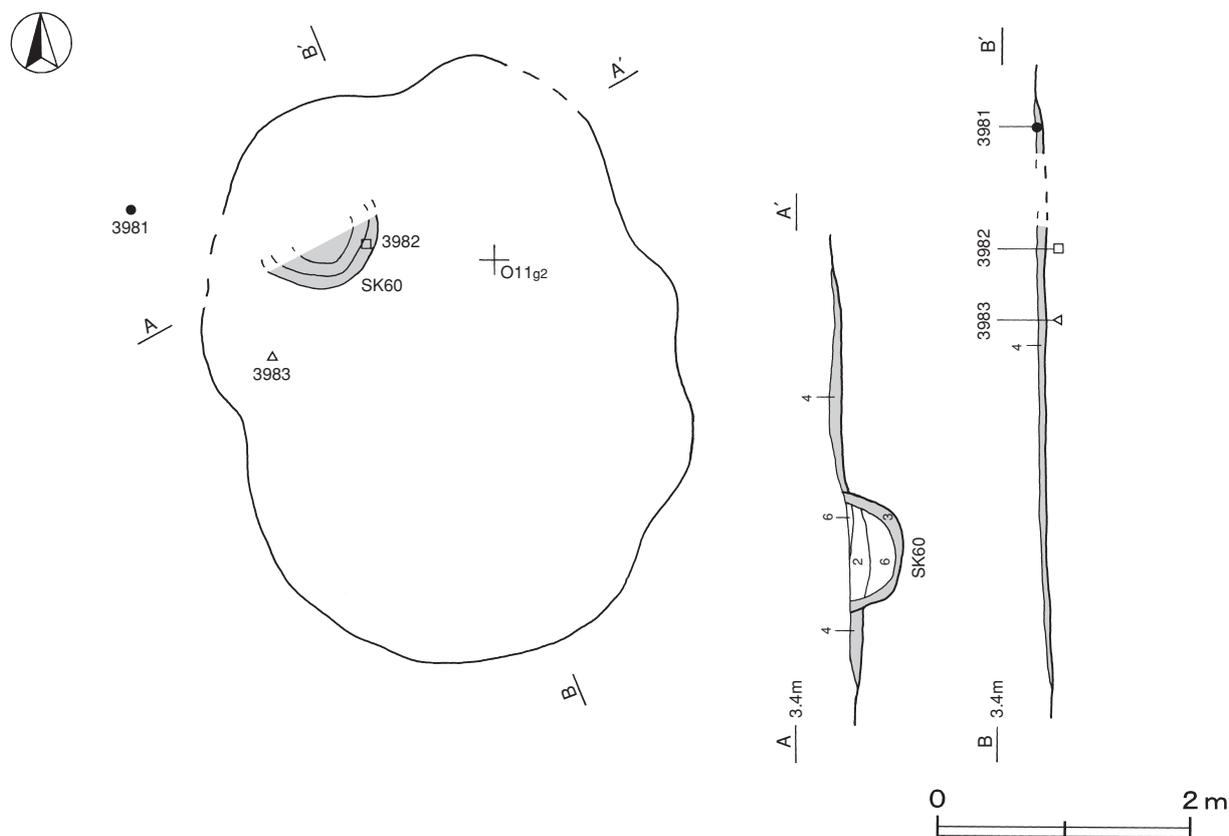
第57号整地面 8区SK-60（第320・321図）

位置 調査区南部のO11g1区を中心に位置し、第61号建物跡の東側に隣接している。

確認状況 表砂を約4.4m除去し、標高約3.1mで黒色土面と土坑が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長径4.7m、短径3.6mの不整楕円形で、長径方向はN-22°-Wである。付属施設として、土坑1基が構築されている。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ5～8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。

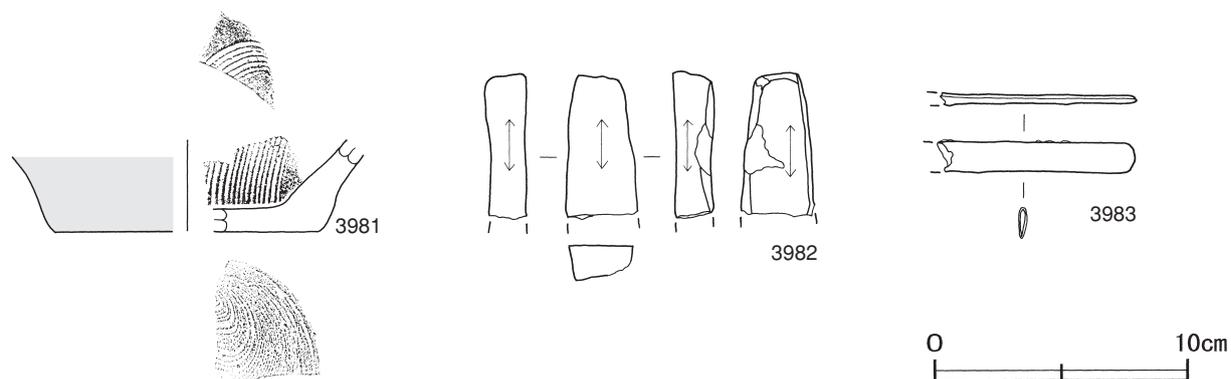


第320図 第57号整地面実測図

土坑（第320図）黒色土で構築された第60号土坑は、北西部に位置している。厚さ4～9cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 土師質土器片2点（鍋、播鉢）、陶器片2点（皿）、石器1点（砥石）、金属製品1点（小柄）が出土している。3982・3983は北西部の黒色土下、3981は北西部の砂層から出土している。

所見 黒色土面や周囲から炉や柱穴が確認されなかったことから、屋外の作業場と判断した。時期は、第61号建物跡と同じ黒色土面であることや3981から、17世紀前半と考えられる。



第321図 第57号整地面出土遺物実測図

第57号整地面出土遺物観察表（第321図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3981	播鉢	陶器	-	(3.6)	[5.2]	灰褐・暗赤灰	錆釉	14条1単位の播目	瀬戸・美濃	北西部砂層	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3982	砥石	(5.8)	2.9	1.6	(38.6)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形		北西部黒色土下		
3983	小柄	(7.9)	1.3	0.4	(9.9)	銅	接合部欠損 断面V字状 無文		北西部黒色土下	PL90	

第61号整地面 8区HK-19（第322～324図）

位置 調査区中央部のN11h7区を中心に位置し、第60号整地面と隣接している。

重複関係 第62号整地面から約0.2～0.4mの砂層が堆積した上面に構築されている。

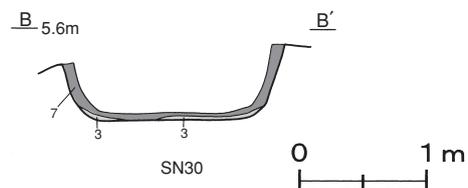
確認状況 表砂を約2.0m除去し、標高約5.5mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸6.9m、短軸3.8mの不定形で、長軸方向はN-23°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑1基が構築されている。

生活面 南部に向かって緩やかに傾斜している。厚さ10～20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりは弱い。第1・2層は第62号整地面との間に堆積した砂層である。

土坑（第322図）第30号粘土貼土坑が中央部に位置している。

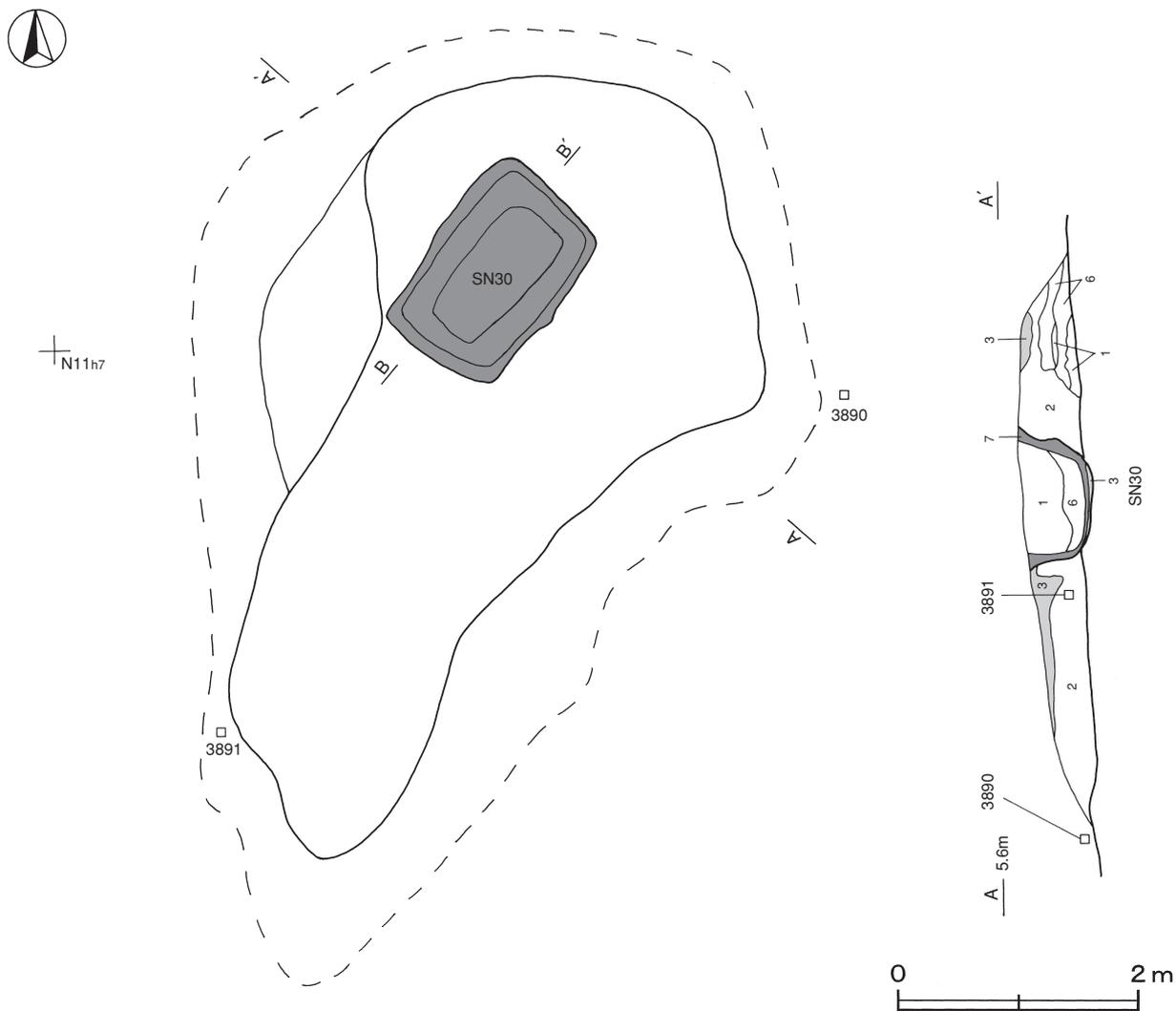
厚さ4～10cmの粘土を貼り付けて構築されている。覆土は、第1層の砂A層が自然堆積、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



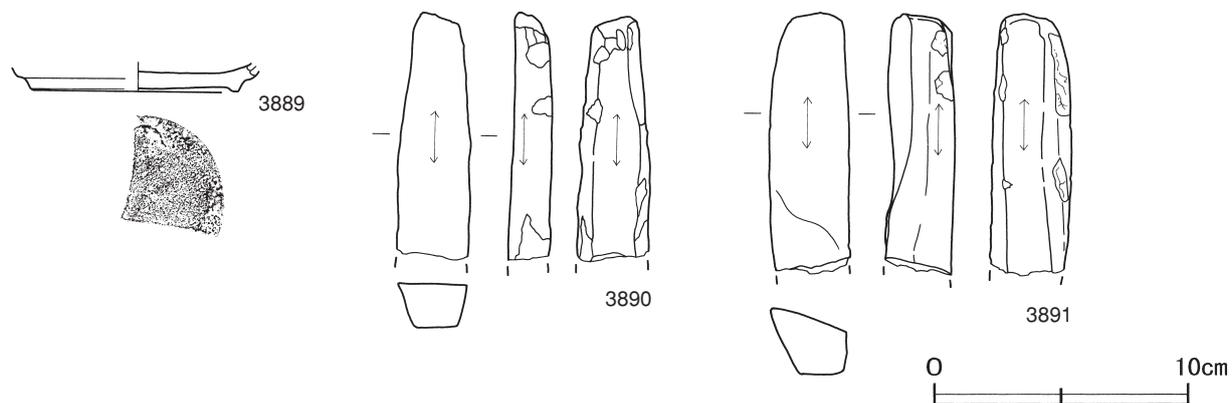
第322図 第61号整地面粘土貼土坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点（皿3，鍋1），陶器片1点（皿），須恵器片1点（甕），石器2点（砥石）が出土している。3890は東部の黒色土下の砂層，3891は南部の黒色土中から出土している。

所見 第30号粘土貼土坑は，鹹水槽と同様の構築方法で，水溜として使用していたと推定される。黒色土面の遺存状態がよくないため，遺構の性格は不明である。時期は，第62号整地面の上面に構築されていることや3889から，17世紀前半でも新しい時期と考えられる。



第323図 第61号整地面実測図



第324図 第61号整地面出土遺物実測図

第61号整地面出土遺物観察表（第324図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3889	丸皿	陶器	-	(0.8)	[8.2]	にぶい黄橙・灰白	長石釉	見込み内ピン痕有り	瀬戸・美濃 17C前葉	覆土中	10% 大窯4

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3890	砥石	(9.9)	2.9	1.7	(72.4)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	東部黒色土下	
3891	砥石	(10.4)	3.2	2.7	(124.0)	凝灰岩	砥面4面 砥面湾曲	南部黒色土中	

第62号整地面 8区HK-21（第325～328図）

位置 調査区中央部のN11g6区を中心に位置している。

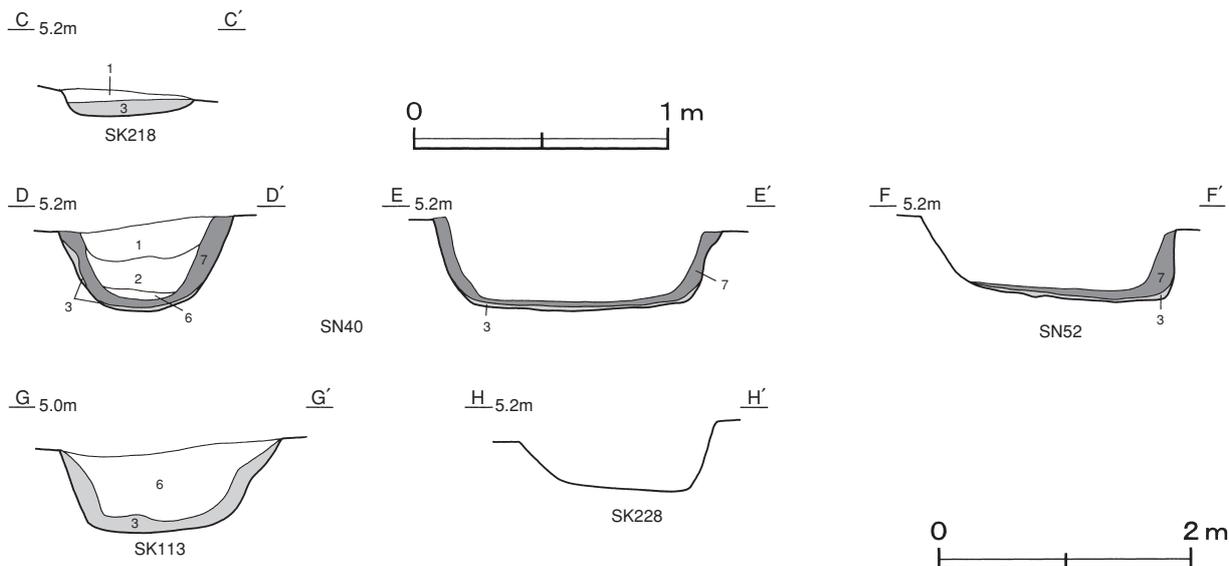
重複関係 砂層をはさんだ上面に第60・61号整地面，黒色土面には第64～66号建物，黒色土面下には第72号建物跡が構築されている。

確認状況 表砂を約2.1m除去し，標高約5.1～5.4mで黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑，土坑と貝集積地が確認された。

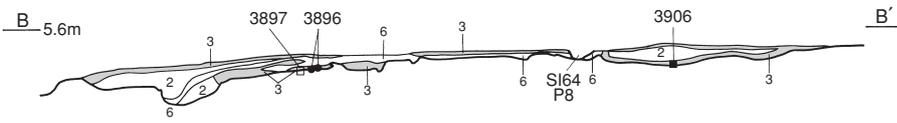
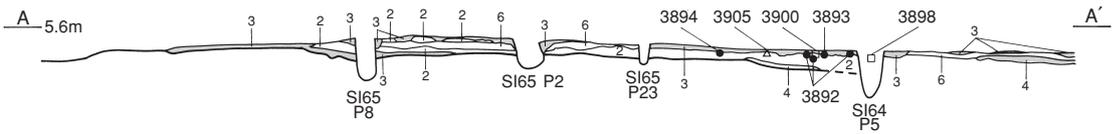
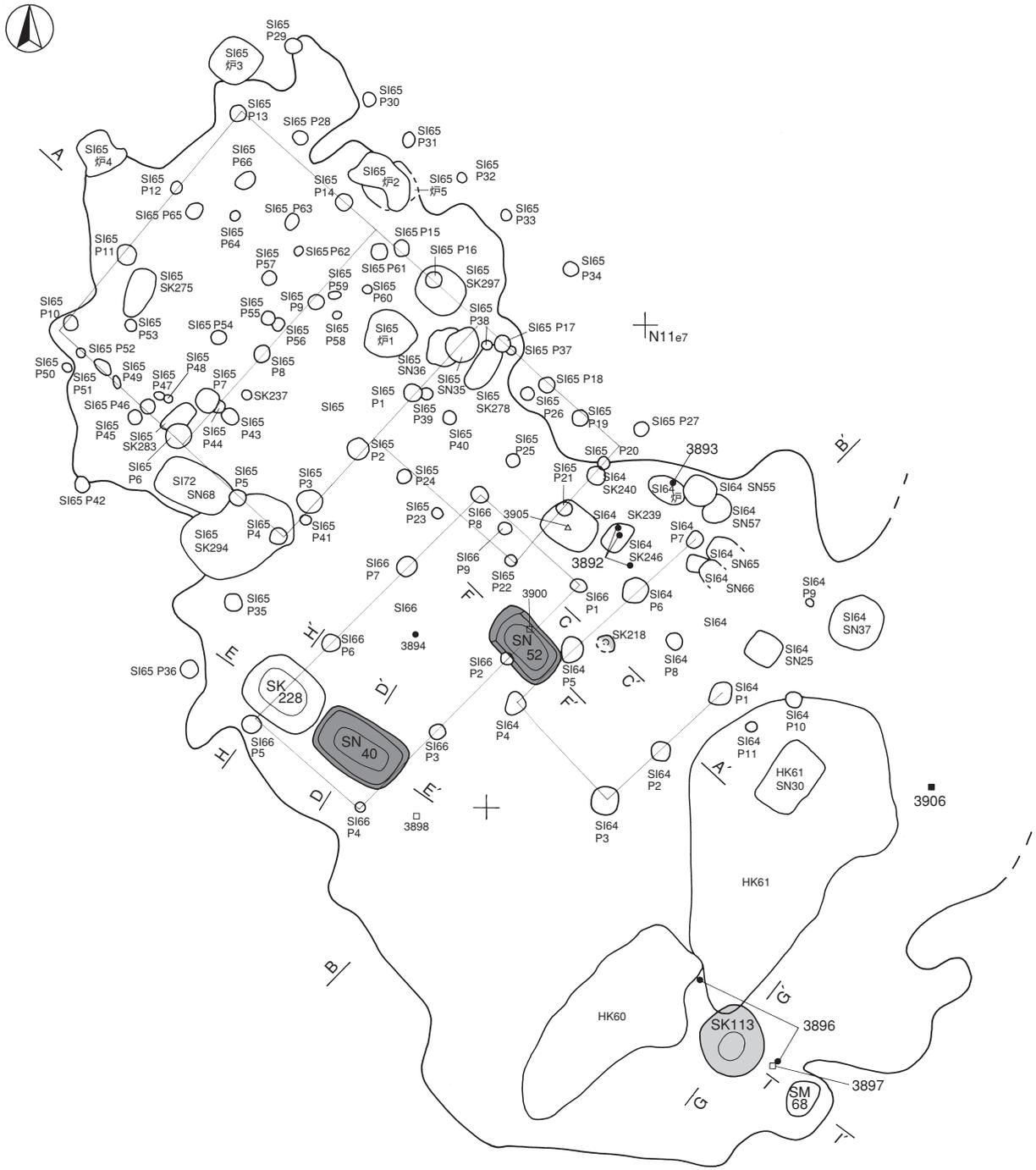
規模と施設 黒色土の範囲は，長軸29.8m，短軸15.8mの不定形で，長軸方向はN-42°-Wである。付属施設として，粘土貼土坑2基，土坑3基が構築され，貝集積地1か所が確認されている。

生活面 中央部が最も高く，南東部から南西部にかけて緩やかに傾斜している。厚さ8～22cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3・4層は黒色土A・B層で，締まりは普通である。黒色土面は部分的に2層で，間層に第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が堆積した層である。

土坑（第325図）第40・52号粘土貼土坑，黒色土で構築された第218・228号土坑は中央部，黒色土で構築された第113号土坑，第68号貝集積地は南東部に位置している。これらの粘土貼土坑と土坑は，上面に黒色土が貼り付けられた状態で確認されている。粘土貼土坑は厚さ3～18cmの粘土，第113号土坑は厚さ7～14cm，第218号土坑は厚さ4～7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土坑及び粘土貼土坑の覆土は，第1・2層の砂A・B層が自然堆積，第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

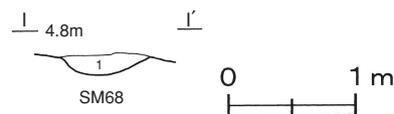


第325図 第62号整地面土坑土層図



第326图 第62号整地面实测图

貝集積地 (第327図) 第68号貝集積地は南東部に位置している。長径1.0m, 短径0.7mの楕円形で、貝層の厚さは最大で15cmである。



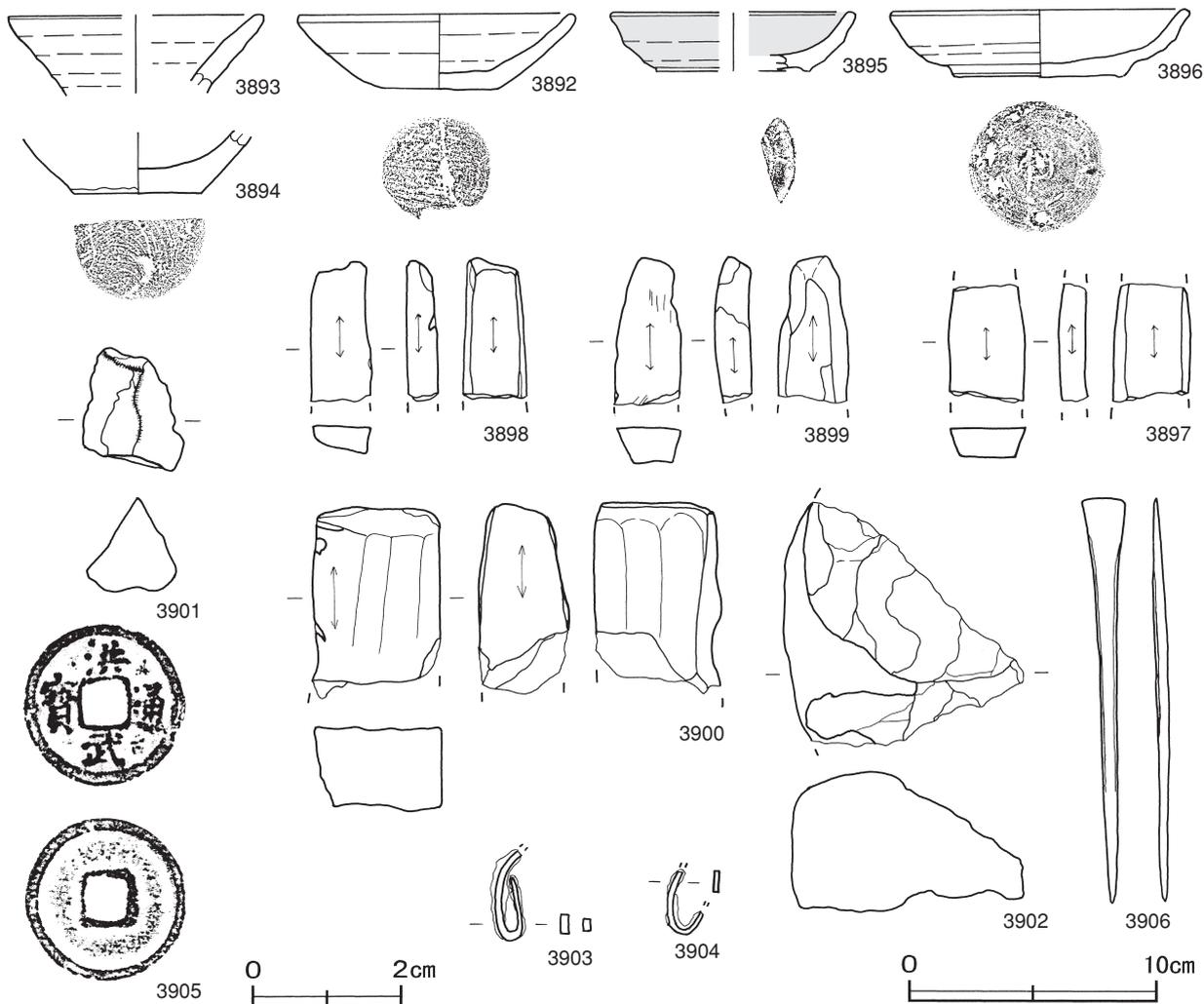
第327図 第62号整地面貝集積地土層図

第68号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	ダンバイキサゴ	5.0	0.02	1		6	ウチムラサキガイ	110.0	0.53	3	
2	オオタニシ	1.0	0.00	1	淡水	7	ウバガイ	15,560.0	74.66	L=804 R=734	
3	タマキガイ	10.0	0.05	2		8	ウバガイ細片	5,100.0	24.47		
4	カキ	15.0	0.07	4							
5	チョウセンハマグリ	40.0	0.19	2							

遺物出土状況 土師質土器片33点(皿30, 鍋3), 陶器片9点(皿), 磁器片1点(皿), 石器7点(砥石4, 火打石3), 金属製品10点(小刀1, 火打金1, 釘1, 古銭1, 不明6), 骨角製品1点(筭)が出土している。3892~3894・3898・3900・3905は中央部の黒色土下, 3896・3897・3906は南東部の黒色土中から出土している。

所見 8区の中央部に位置し, 生活面とするために盛土された黒色土である。黒色土面には17世紀前半頃と考えられる第64~66号建物跡が構築されている。時期は, 黒色土中から出土した3895・3896から17世紀前半と考えられ, 建物跡との時期差はあまり認められない。



第328図 第63号整地面出土遺物実測図

第62号整地面出土遺物観察表（第328図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3892	皿	土師質土器	11.1	3.2	4.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	中央部黒色土下	95% PL75
3893	皿	土師質土器	[10.4]	(3.1)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ	中央部黒色土下	5%
3894	皿	土師質土器	-	(2.5)	5.0	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	中央部黒色土下	10%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3895	皿	陶器	[9.7]	2.4	[6.2]	にぶい橙・黒褐	鉄釉	削り出し高台	瀬戸・美濃	SN52内	20% 大窯後期
3896	丸皿	陶器	11.9	2.8	7.1	灰白・灰白	長石釉	高台内ピン痕有り	瀬戸・美濃 17C前葉	南東部黒色土中	60% 大窯4 PL66

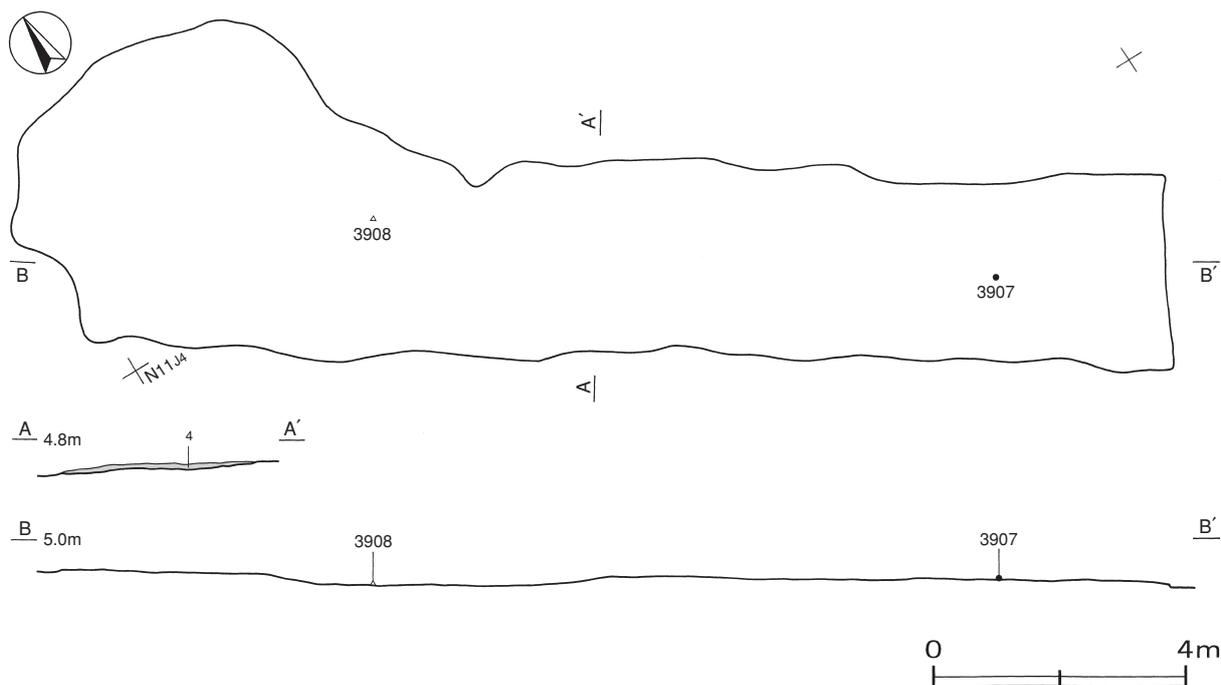
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3897	砥石	(4.9)	3.1	1.2	(32.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	南東部黒色土中	
3898	砥石	(5.6)	2.4	1.2	(29.9)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	中央部黒色土下	
3899	砥石	(6.0)	2.8	1.5	(35.6)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	覆土中	
3900	砥石	(7.8)	5.2	3.6	(220.0)	凝灰岩	砥面2面 断面四角形	中央部黒色土下	PL85
3901	火打石	5.0	3.6	3.8	67.5	石英	摩滅の集中箇所有り	覆土中	
3902	石核	(10.0)	(9.6)	(5.7)	(584.0)	石英	火打石の母岩	覆土中	
3903	釘	(5.5)	0.8	0.3	(10.9)	鉄	断面長方形 中央で屈曲	覆土中	
3904	吊金具	(2.6)	0.2	0.9	(4.4)	鉄	断面長方形 湾曲 先部欠損	SK113内	
3906	筭	16.5	1.8	0.5	8.0	骨角	完存 胴部扁平 筭部楕円形	南東部黒色土中	PL70

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3905	洪武通寶	2.24	0.53	0.14	2.34	1368	銅	真書	中央部黒色土下	

第63号整地面 8区HK-23（第329・330図）

位置 調査区中央部のN11i4区を中心に位置している。第3号土手状遺構の北西部と隣接している。

確認状況 表砂を約3.1m除去し、標高約4.4mで黒色土面が確認された。



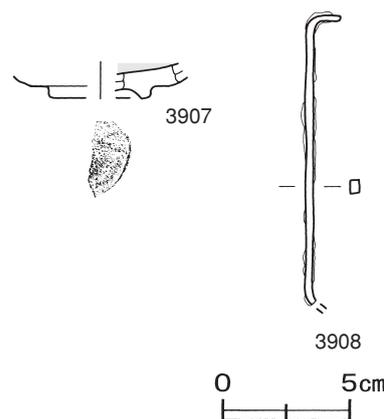
第329図 第63号整地面実測図

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸18.4m、短軸5.2mの帯状に広がる不定形で、長軸方向はN-58°-Wである。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ約10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりはやや弱い。

遺物出土状況 土師質土器片10点(皿), 陶器片1点(皿), 石器1点(火打石), 金属製品1点(釘)が出土している。3907は南東部の黒色土上面, 3908は北西部の黒色土上面から出土している。

所見 第3号土手状遺構の北西部と隣接していることや遺構の形状から、通路として使用していた可能性が高い。時期は、最初の遺構確認面から検出されていることや3907から、17世紀前半と考えられる。



第330図 第63号整地面
出土遺物実測図

第63号整地面出土遺物観察表 (第330図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3907	皿	陶器	-	(0.9)	[3.8]	にぶい赤褐・灰	薬灰釉	高台土見せ	肥前 17C 前葉	南東部黒色土上面	5% I-2
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3908	釘	(11.5)	0.4	0.6	(22.7)	鉄	断面長方形	頭部屈曲 先端部欠損	北西部黒色土上面	PL93	

第64号整地面 8区HK-18 (第331~333図)

位置 調査区中央部のN11h3区を中心に位置し、第63号整地面の北西側に隣接している。

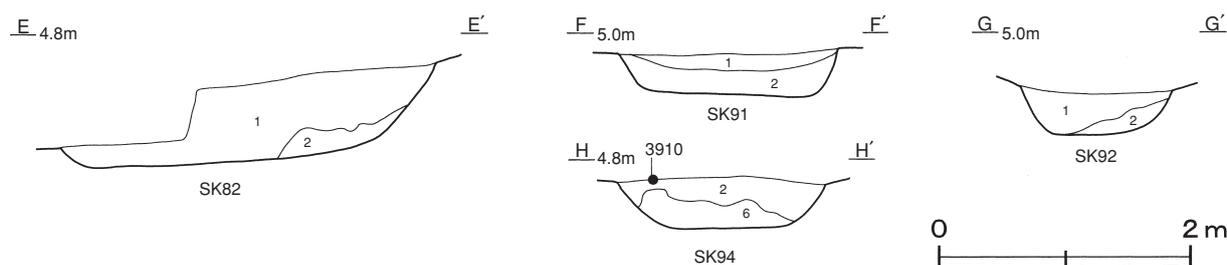
確認状況 表砂を約2.7m除去し、標高約4.8mで黒色土面が確認された。黒色土面から土坑と柱穴6か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸11.9m、短軸8.3mの不定形で、長軸方向はN-47°-Wである。附属施設として、土坑4基が構築されている。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ2~13cmの黒色土を貼り付けて構築されている。中央部と南西部に北西方向を長軸とするローム土の高まりが2条確認された。前者には長さ4.6m、幅0.3m、高さ4~8cm、後者には長さ7.9m、幅0.2~0.7m、高さ4~8cmのローム土が貼り付けられている。土層断面図中の第3層は黒色土A層、第10層はローム土の土層で、締まりは普通である。

ピット 6か所。深さ24~51cmで、北側に集中している。配列に規則性はなく、性格は不明である。

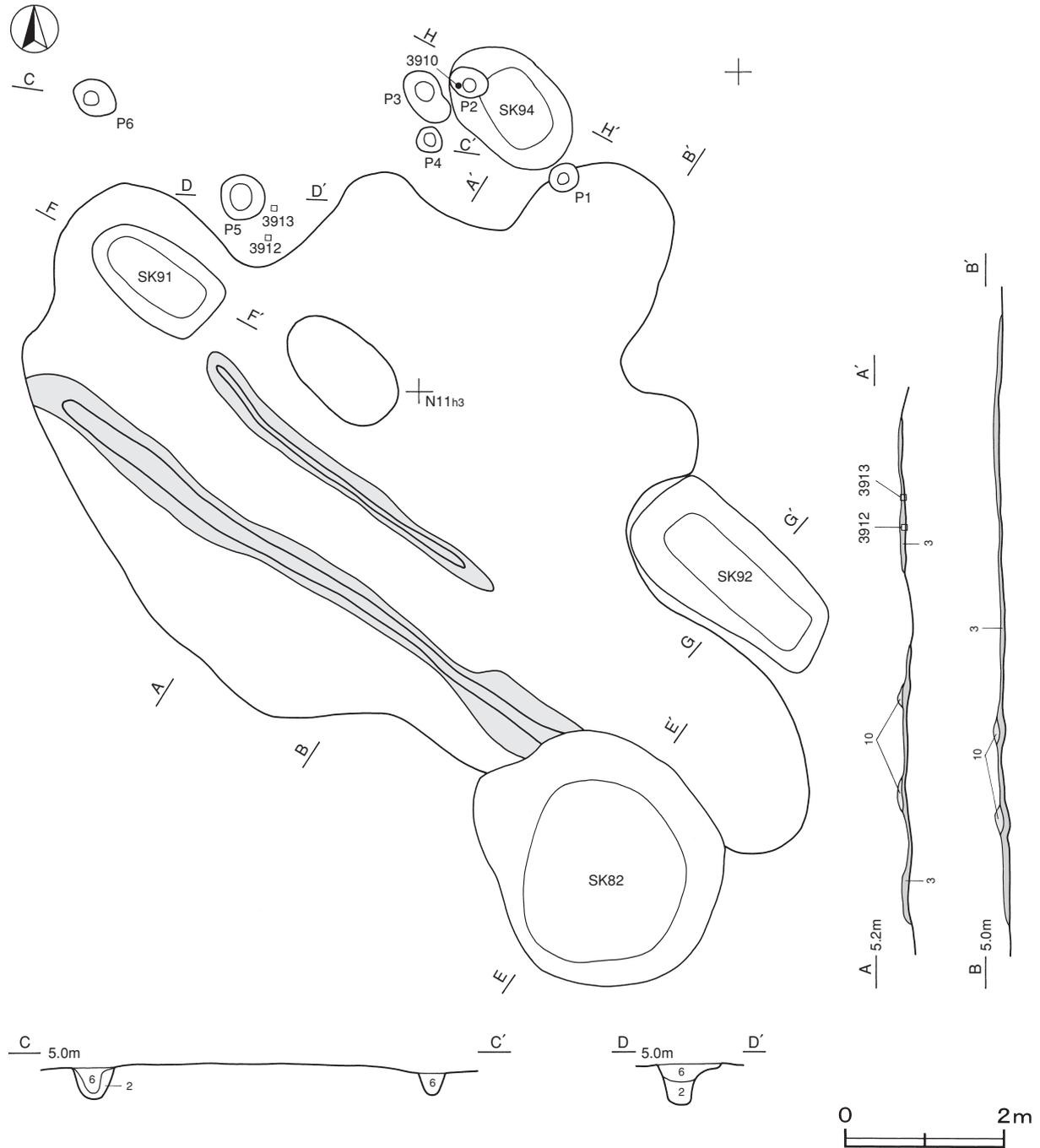
土坑 (第331図) 第82・92号土坑は南東部, 第91・94号土坑は北部に位置している。第94号土坑は第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積, 第82・91・92号土坑は第1・2層の砂A・B層が自然堆積した層である。



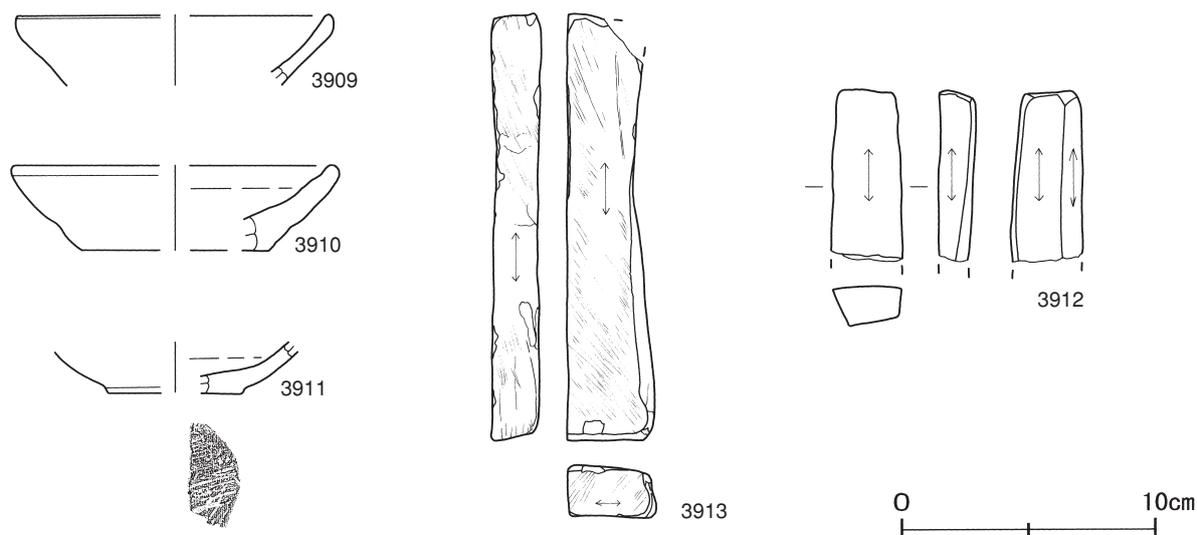
第331図 第64号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿), 石器2点(砥石)が出土している。3912・3913は北部の砂層から出土している。

所見 炉や粘土貼土坑は確認されず, 遺構の状況から生活の場や作業場としての機能は想定できない。第63号整地面と同様に, 通路として使用していた可能性が高い。時期は, 最初の遺構確認面から検出されていることから, 17世紀前半と考えられる。



第332図 第64号整地面実測図



第333図 第64号整地面出土遺物実測図

第64号整地面出土遺物観察表（第333図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3909	皿	土師質土器	[12.2]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
3910	皿	土師質土器	[12.6]	3.4	[7.4]	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	SK94内	15%
3911	皿	土師質土器	-	(2.0)	[5.2]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後スノコ状圧痕	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3912	砥石	(6.8)	2.8	1.5	(43.5)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	北部砂層	
3913	砥石	16.9	3.6	2.0	(201.0)	頁岩	砥面3面 他は剥離面 断面台形	北部砂層	PL85

第66号整地面 8区HK-26（第334～336図）

位置 調査区南部のO10g0区を中心に位置している。

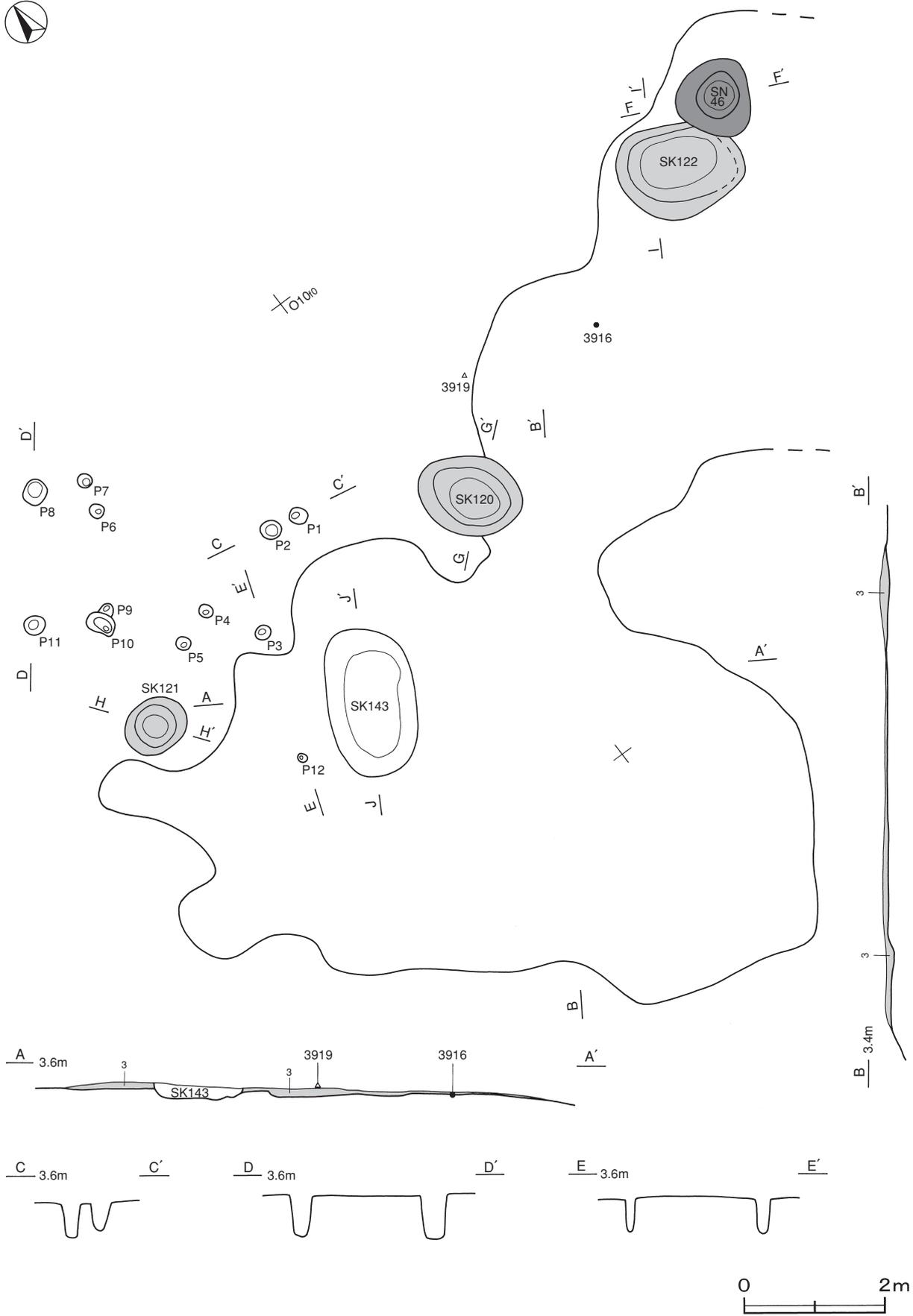
確認状況 第61号建物跡を約0.1m掘り下げた標高約3.3mで、黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑と柱穴12か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸14.9m、短軸8.9mの不定形で、長軸方向はN-58°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑1基、土坑4基が構築されている。

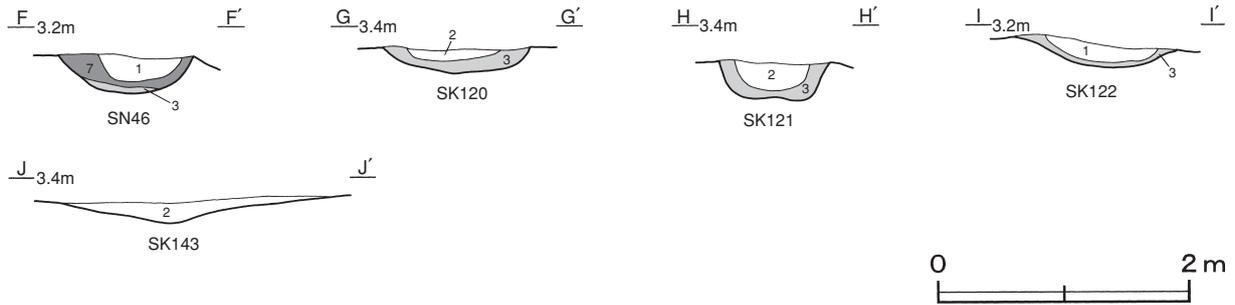
生活面 東部に向かって緩やかに傾斜している。厚さ2～12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりは普通である。

ピット 12か所。深さ30～67cmで、北西部の砂層に集中している。配列に規則性はなく、性格は不明である。

土坑（第335図）第46号粘土貼土坑と黒色土で構築された第122号土坑は東部、黒色土で構築された第120号土坑は中央部、黒色土で構築された第121号土坑と第143号土坑は西部に位置している。第46号粘土貼土坑は厚さ10～25cmの粘土、第120・121号土坑は厚さ7～12cm、第122号土坑は厚さ4cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は、いずれも第1・2層の砂A・B層が自然堆積した層である。



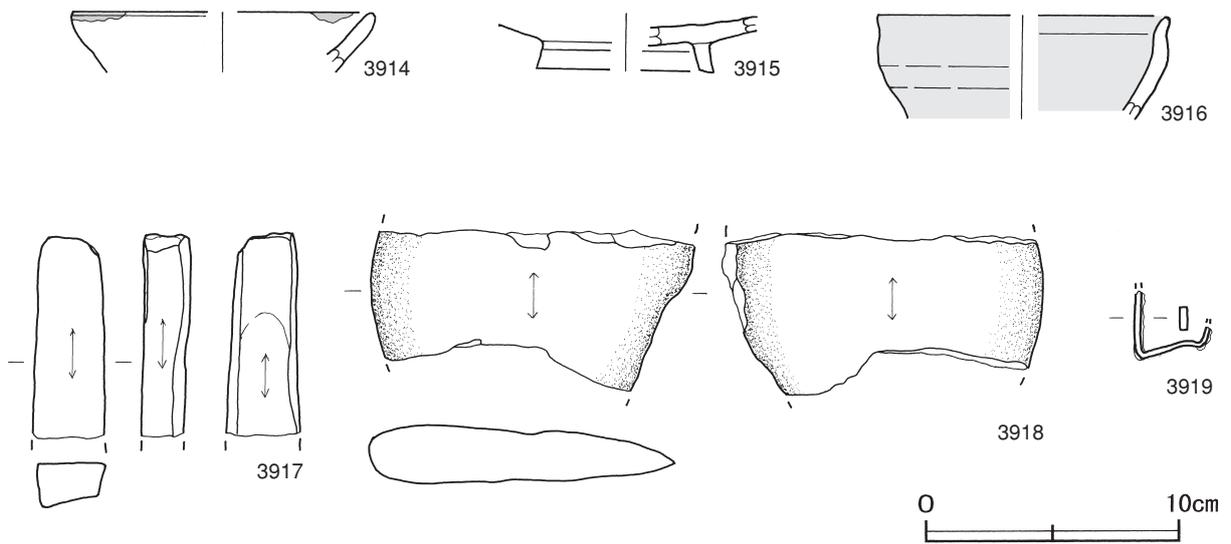
第334图 第66号整地面实测图



第335図 第66号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片14点（皿12，鍋2），陶器片1点（碗），須恵器片1点（盤），石器2点（砥石），金属製品2点（不明）が出土している。3916は中央部の黒色土上面から出土している。

所見 黒色土面が東部に向かって緩やかに傾斜していること，炉や土屋を想定できる柱穴が確認されなかったことから整地面と判断した。時期は，3916から16世紀後半から17世紀頃と考えられる。



第336図 第66号整地面出土遺物実測図

第66号整地面出土遺物観察表（第336図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3914	皿	土師質土器	[11.8]	(2.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 口縁部煤付着	覆土中	10%
3915	盤	須恵器	-	(2.2)	[7.0]	長石・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後 高台貼り付け	P 12内	15%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3916	天目茶碗	陶器	[11.4]	(4.1)	-	にぶい黄・黒褐	鉄釉	口縁部屈曲強い	瀬戸・美濃	中央部黒色土上面	5% 大窯後期
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3917	砥石	(8.1)	2.9	2.0	(76.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形		覆土中		
3918	砥石	(6.4)	12.9	2.3	(332.0)	砂岩	砥面2面 断面楕円形		覆土中		
3919	釘	(2.7)	0.3	1.0	(5.3)	鉄	断面長方形 中央部・先端部屈曲		中央部砂層		

第67号整地面 8区HK-31 (第337~339図)

位置 調査区南部のO10i8区を中心に位置している。

確認状況 第71号建物跡の東側を約0.3m掘り下げた標高約2.9mで、黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑と柱穴6か所が確認された。



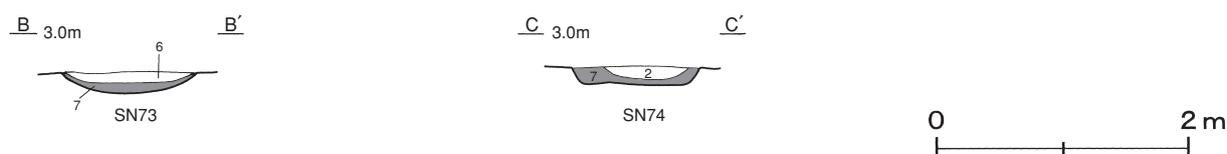
第337図 第67号整地面実測図

規模と施設 南部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、南北5.3m、東西8.1mが確認された。付属施設として、粘土貼土坑2基が構築されている。

生活面 ほほ平坦で、厚さ2～11cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりは普通である。

ピット 6か所。深さ23～37cmである。配列に規則性はなく、性格は不明である。

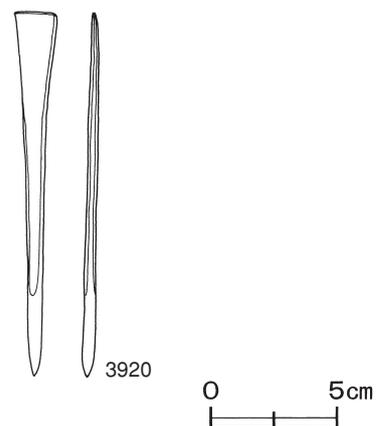
土坑 (第338図) 第73・74号粘土貼土坑は、北部に位置している。両者とも、厚さ4～8cmの粘土を貼り付けて構築されている。第73号粘土貼土坑は第6層の黒色土D層が人為堆積、第74号粘土貼土坑は第2層の砂B層が自然堆積した層である。



第338図 第73号整地面粘土貼土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片1点(鍋), 須恵器片4点(甕), 石器1点(砥石), 骨角製品1点(筭)が出土している。3920は北部の黒色土上面から出土している。内耳鍋片や砥石は、細片のため図示できなかった。

所見 南部の調査区域外に黒色土面が延びているため断定できないが、上屋を支える柱穴や炉が確認されなかったため整地面と判断した。また、本跡の下層からは、遺構は検出されていない。時期を判断できる遺物は出土していないが、砂層の堆積状況から第71号建物跡の17世紀前半よりわずかに古い時期と考えられる。



第339図 第73号整地面出土遺物実測図

第73号整地面出土遺物観察表 (第339図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3920	筭	14.4	1.6	0.5	5.1	骨角	完存 胴部扁平 筭部楕円形	北部黒色土上面	PL70

第68号整地面 8区HK-4 (第340～342図)

位置 調査区南部のO11f1区を中心に位置している。

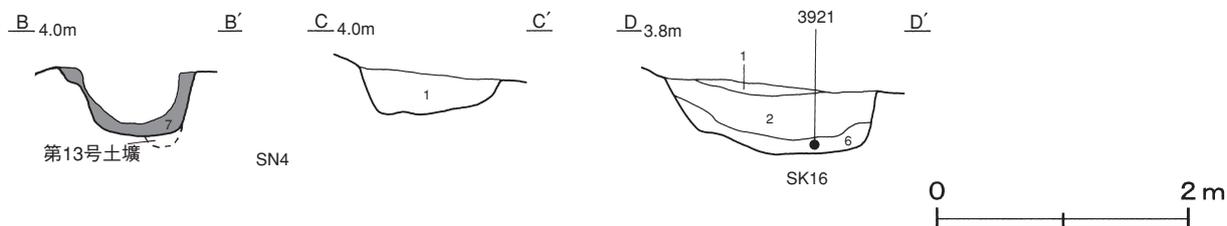
重複関係 第4号粘土貼土坑の直下には、第13号土壌が位置している。

確認状況 表砂を約3.2m除去し、標高約3.9mで黒色土面が確認された。さらに第2次面の黒色土面、粘土貼土坑と土坑が確認された。

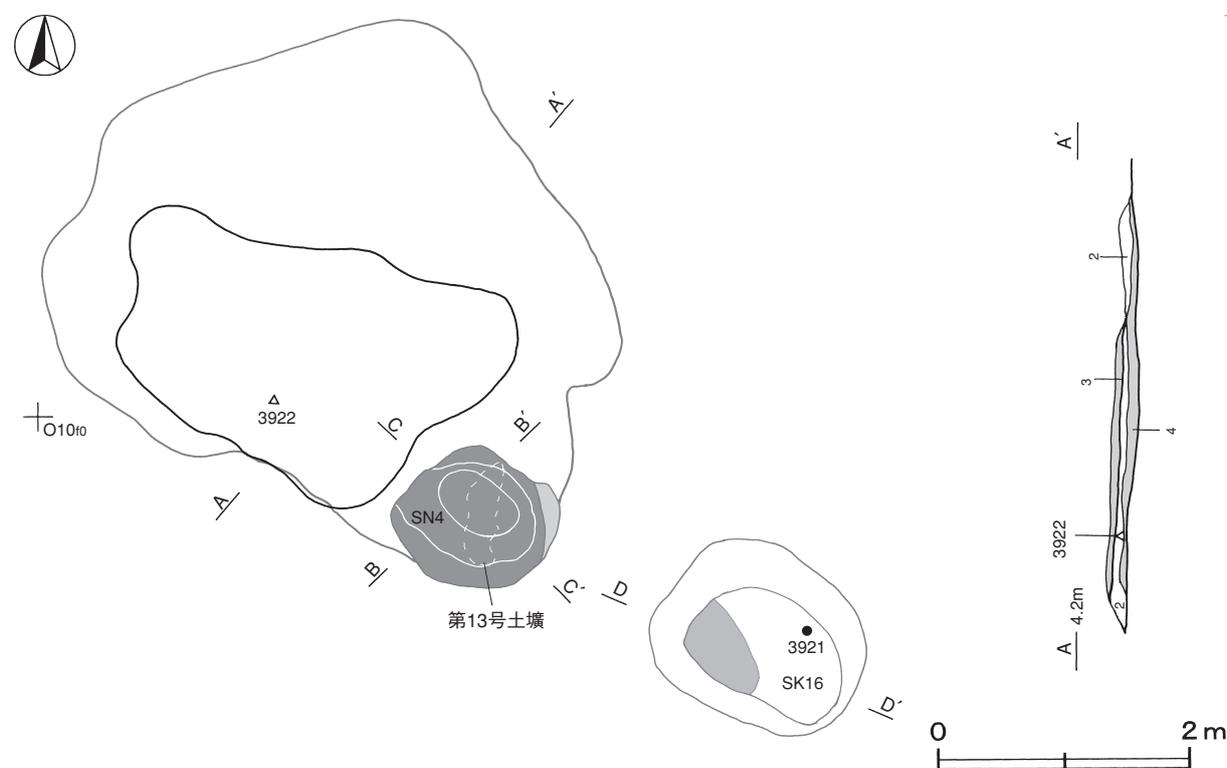
規模と施設 第1次面の黒色土の範囲は、長軸2.9m、短軸2.2mの不定形で、長軸方向はN-44°-Wである。第2次面の黒色土の範囲は、長軸4.9m、短軸3.8mの不定形で、長軸方向はN-41°-Wである。付属施設として、粘土貼土坑1基と土坑1基が構築されている。黒色土面の間には、約10cmの砂層が堆積している。

生活面 ほぼ平坦である。第1次面は厚さ4～6cm, 第2次面は厚さ2～10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層, 第4層は黒色土B層で, 締まりは普通である。

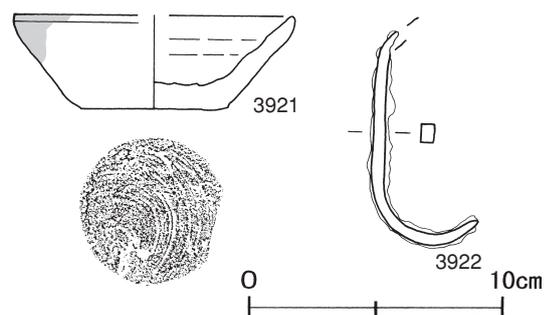
土坑 (第340図) 第4号粘土貼土坑は黒色土面の南東部, 第16号土坑は南東部の砂層に位置している。第4号粘土貼土坑は厚さ8～16cmの粘土を貼り付けて構築されている。覆土は, 第1・2層の砂A・B層は自然堆積, 第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



第340図 第68号整地面土坑土層図



第341図 第68号整地面実測図



第342図 第68号整地面出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿), 金属製品1点(耳金)が出土している。3922は中央部の黒色土上面, 3921は第16号土坑内から出土している。

所見 黒色土面の周囲から炉や柱穴は確認されなかった。粘土貼土坑を中心とした屋外の作業場と考えられる。時期は, 最初の遺構確認面で検出されたことや3921から, 17世紀前半と考えられる。

第68号整地面出土遺物観察表（第342図）

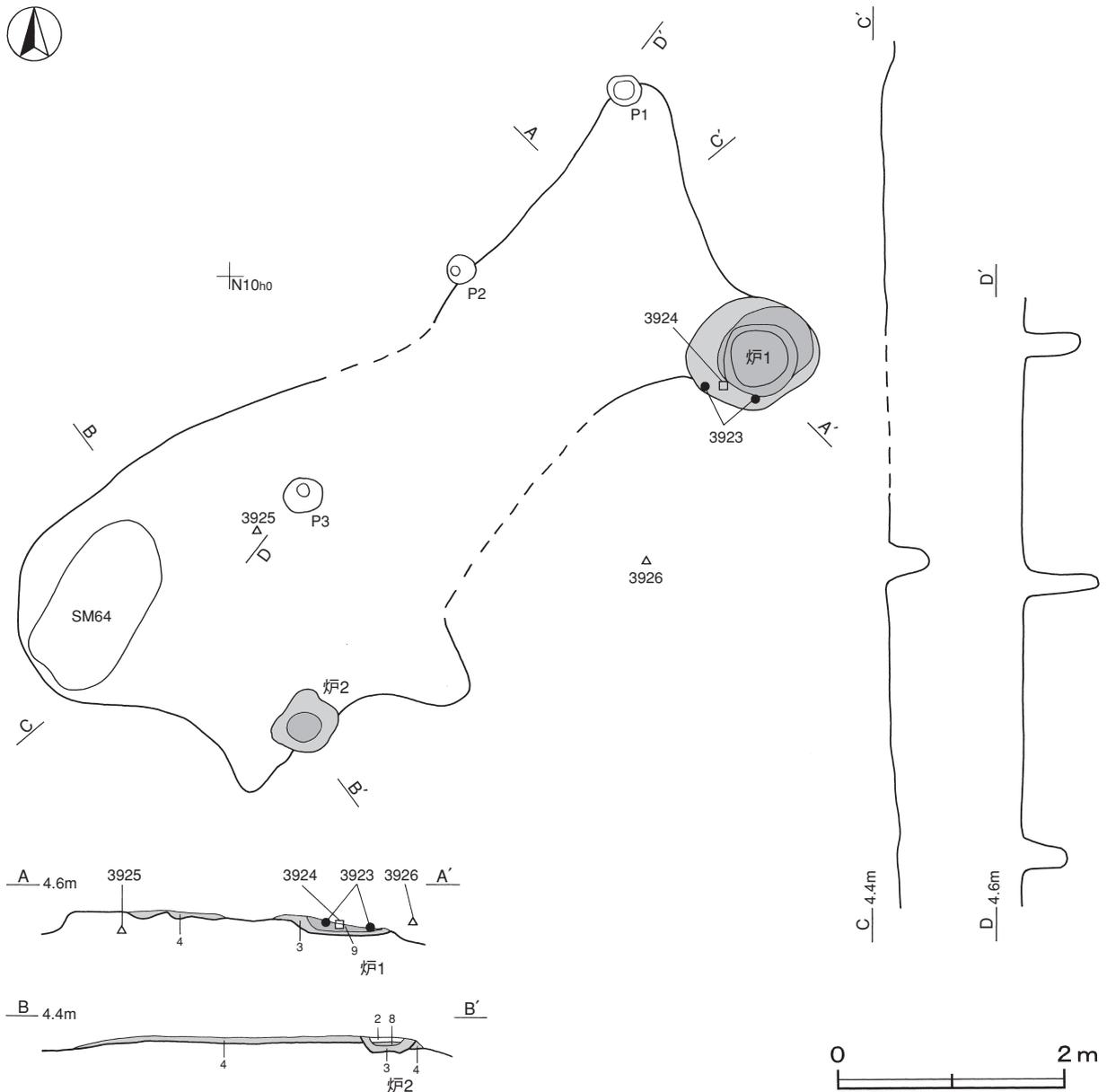
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3921	皿	土師質土器	[11.0]	3.7	5.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面渦巻き状のナデ 外面煤付着	SK 16内	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3922	吊金具	(8.4)	0.5	0.8	(22.3)	鉄	断面長方形 湾曲	中央部黒色土上面	PL93

第70号整地面 8区HK-16（第343・344図）

位置 調査区中央部のN10h0区を中心に位置している。

確認状況 表砂を約3.2m除去し、標高約4.3mで黒色土面が確認された。黒色土面から炉，貝集積地と北東に並ぶ柱穴3か所が確認された。



第343図 第70号整地面実測図

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸7.1m、短軸3.2mの不定形で、長軸方向はN-54°-Eである。付属施設として、炉2基が構築され、貝集積地1か所が確認されている。

生活面 ほぼ平坦で、厚さ2~6cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりはやや弱い。

炉 (第343図) 炉1は東部、炉2は南部に位置している。厚さ3~7cmの黒色土を貼り付けて構築されている。炉1からは第9層の灰、炉2からは第2層の砂B層と第8層の焼砂が検出されている。

ピット 3か所。深さ40~51cmで、北東方向に並ぶ柱穴と考えられる。対応する柱穴は確認できなかった。

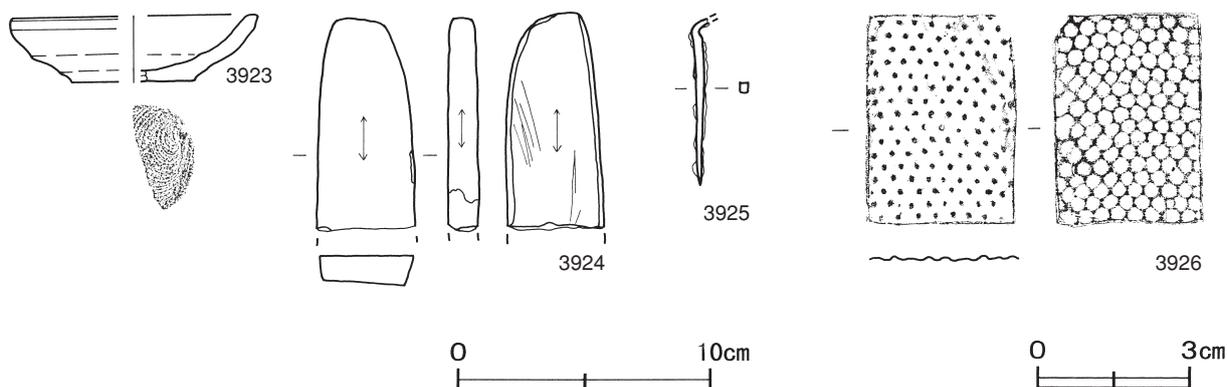
貝集積地 第64号貝集積地は南西部に位置している。長径1.6m、短径0.8mの楕円形を呈している。貝層は薄く広がった状態で確認された。

第64号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	サルボウガイ	9.0	0.30	1		4	チョウセンハマグリ	40.0	1.35	3	
2	タマキガイ	50.0	1.69	1		5	ウバガイ	1,885.0	63.81	47	
3	カキ	170.0	5.75	13		6	細片	800.0	27.08		数種混在

遺物出土状況 土師質土器片10点(皿9, 播鉢1), 陶器片2点(皿), 土製品1点(土鈴), 石器1点(砥石), 金属製品3点(釘1, 不明2)が出土している。3923・3924は炉1内, 3925は中央部の黒色土中, 3926は東部の砂層からそれぞれ出土している。

所見 炉は確認されたが、床面の黒色土の締まりがやや弱いことや建物跡を想定できる柱穴が確認されなかったことから、整地面と判断した。時期は、最初の遺構確認面から検出されていることから、17世紀前半と考えられる。



第344図 第70号整地面出土遺物実測図

第70号整地面出土遺物観察表 (第344図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3923	皿	土師質土器	[9.6]	2.6	[4.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面口クロナデ	炉1内	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3924	砥石	(8.5)	3.9	1.3	(71.1)	凝灰岩	砥面4面	砥面に擦痕有り	炉1内		
3925	釘	(6.5)	0.3	0.4	(5.4)	鉄	断面方形	頭部屈曲	中央部黒色土中		
3926	打出鉸カ	4.2	2.9	0.1	1.2	銅	裏面から半球形に打ち出す七々子状		東部砂層		

第71号整地面 8区HK-22 (第345~348図)

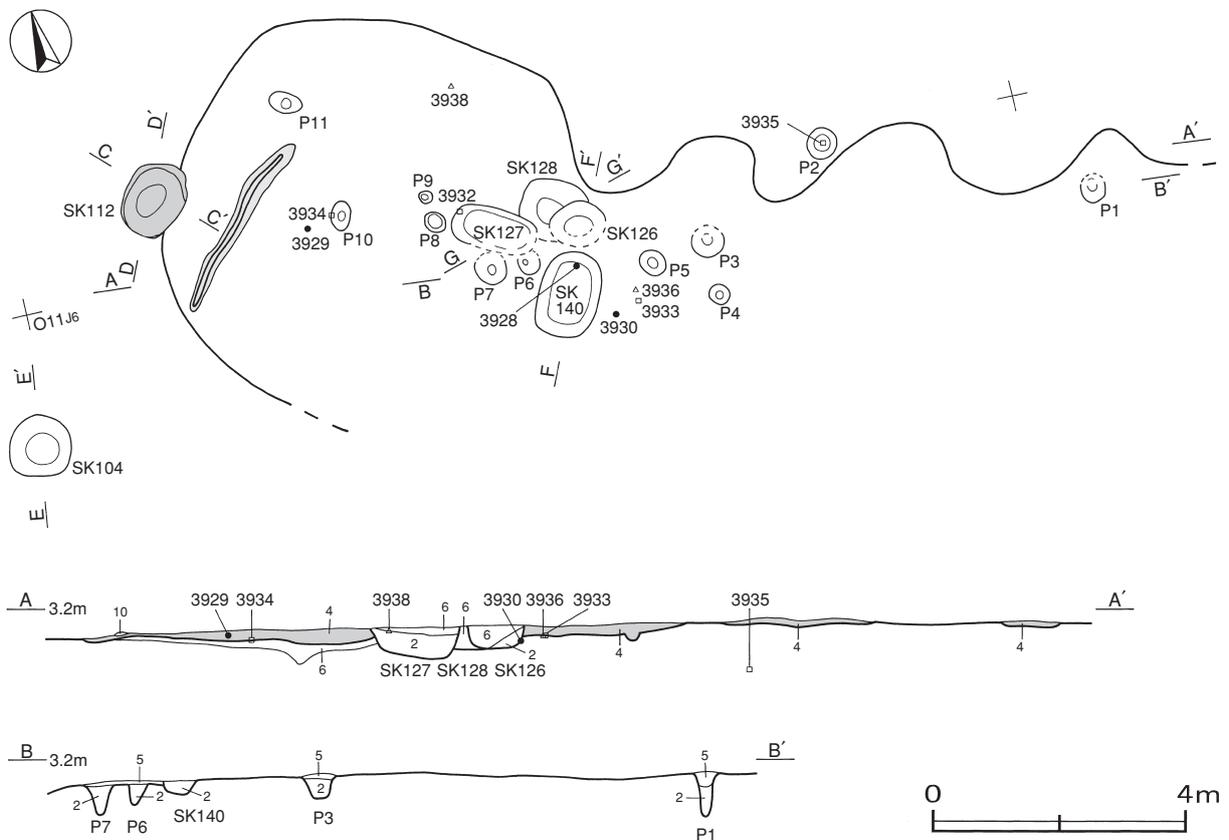
位置 調査区南東部のO11j7区を中心に位置している。

確認状況 第54号建物跡と第51号整地面を約0.3m掘り下げた標高約2.9mで、黒色土面が確認された。黒色土面から土坑と柱穴11か所が確認された。

規模と施設 南部が調査区域外に延びているため、黒色土の範囲は、南北6.0m、東西15.9mが確認された。付属施設として、土坑6基が構築されている。

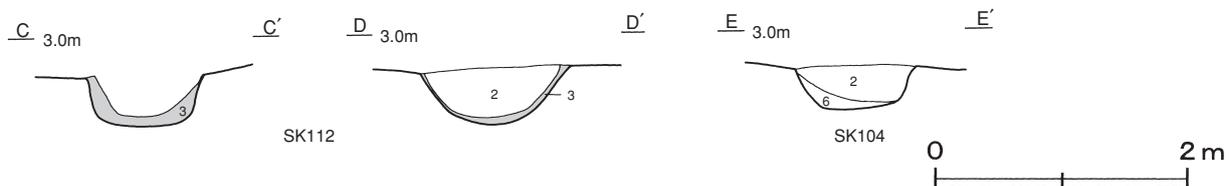
生活面 ほぼ平坦で、厚さ5~25cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりはやや弱い。西部には長さ3.1m、幅0.3m、高さ7cmのローム土の高まりが遺存している。

ピット 11か所。P1・P2・P4~P7・P10・P11は深さ50~75cm、P3・P8・P9は深さ22~32cmである。配列に規則性はなく、性格は不明である。

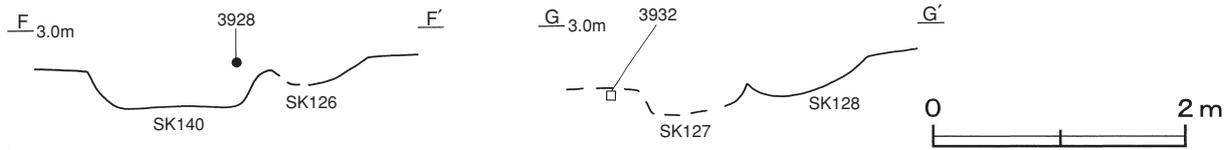


第345図 第71号整地面実測図

土坑 (第346・347図) 黒色土で構築された第112号土坑と第104号土坑は西部、第126~128・140号土坑は中央部に位置している。第112号土坑は、厚さ2~6cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第126~128・140号土坑は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



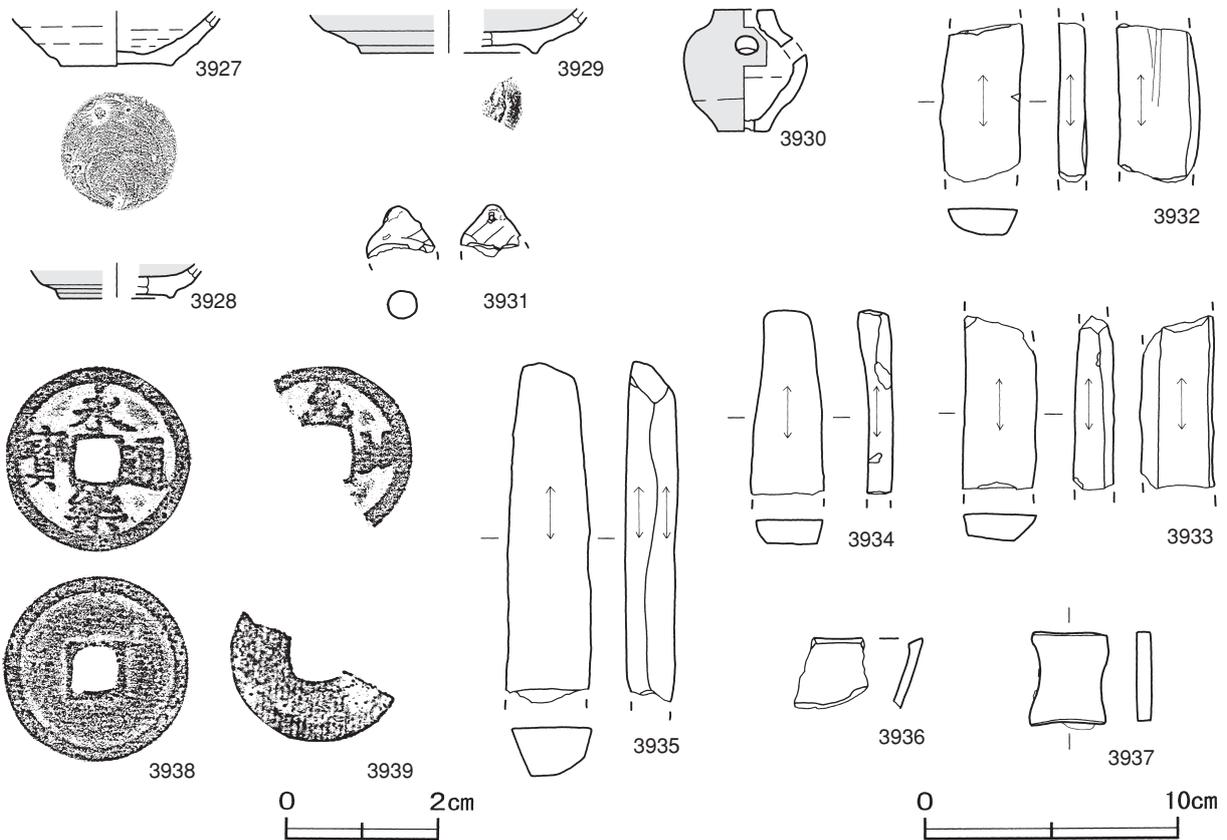
第346図 第71号整地面土坑土層図(1)



第347図 第71号整地面土坑土層図(2)

遺物出土状況 土師質土器片17点（小皿1，皿15，鍋1），陶器片3点（皿2，水差しカ1），土製品1点（土鈴）石器4点（砥石），金属製品7点（古銭3，不明4）が出土している。3929・3934は西部，3930・3933・3936は中央部，3938は北部の黒色土中からそれぞれ出土している。

所見 南部が調査区域外に延びているため，全体の様子を捉えられなかった。皿類の小破片は出土しているが，生活面の締まりがやや弱いことや炉が確認されなかったことから整地面と判断した。時期は，3929から，16世紀後半と考えられる。



第348図 第71号整地面出土遺物実測図

第71号整地面出土遺物観察表（第348図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
3927	皿	土師質土器	-	(1.9)	4.5	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面渦巻き状のナデ	覆土中	70%	
3928	丸皿	陶器	-	(1.1)	[4.6]	灰黄・浅黄	灰釉	削り出し高台		瀬戸・美濃	SK140内	5% 大窯後期
3929	丸皿	陶器	-	(1.5)	[7.0]	淡黄・オリーブ黄	灰釉	高台内輪ドチ痕有り		瀬戸・美濃	西部黒色土中	10% 大窯後期

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3930	水差しカ	陶器	2.4	4.8	2.2	浅黄・黄褐	灰釉	底部漆充填	瀬戸・美濃	中央部黒色土中	30% 古瀬戸花瓶の二次利用カ PL66

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3931	土鈴	(2.1)	(2.7)	0.4	(4.7)	長石	孔径0.2cm 外面ナデ 中玉遺存	SK140内	
3932	砥石	(6.3)	3.4	1.2	(37.4)	凝灰岩	砥面3面 砥面に擦痕有り	SK127内	PL85
3933	砥石	(6.9)	3.0	1.7	(51.1)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	中央部黒色土中	
3934	砥石	(7.4)	2.9	1.3	(40.7)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	西部黒色土中	
3935	砥石	(13.5)	3.4	2.0	(127.8)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	東部砂層・P2内	
3936	鉄鍋	-	(2.8)	-	(13.8)	鉄	口縁部片	中央部黒色土中	
3937	不明	3.8	3.1	0.6	26.6	鉄	断面長方形 厚さ一定	覆土中	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3938	永樂通寶	2.49	0.49	0.09	2.84	1408	銅	真書	北部黒色土中	
3939	元祐--	-	0.06	0.12	(1.78)	1086	銅	行書 欠け	SK140内	

第72号整地面 8区HK-27 (第349~351図)

位置 調査区南部のO11h1区を中心に位置している。

確認状況 第61号建物跡を約0.4m掘り下げた標高約3.0mで、黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑と柱穴18か所が確認された。

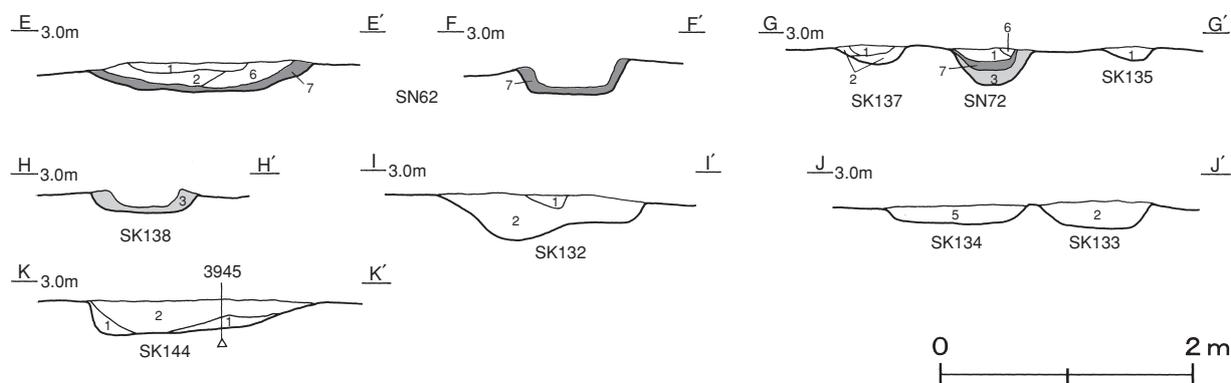
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸17.9m、短軸8.8mの不定形で、長軸方向はN-56°-Eである。

附属施設として、粘土貼土坑2基、土坑7基が構築されている。

生活面 ほほ平坦で、厚さ7~20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層、第4層は黒色土B層で、締まりは普通である。

ピット 18か所。深さ12~55cmである。中央部に集中しているが、配列に規則性はなく、性格は不明である。

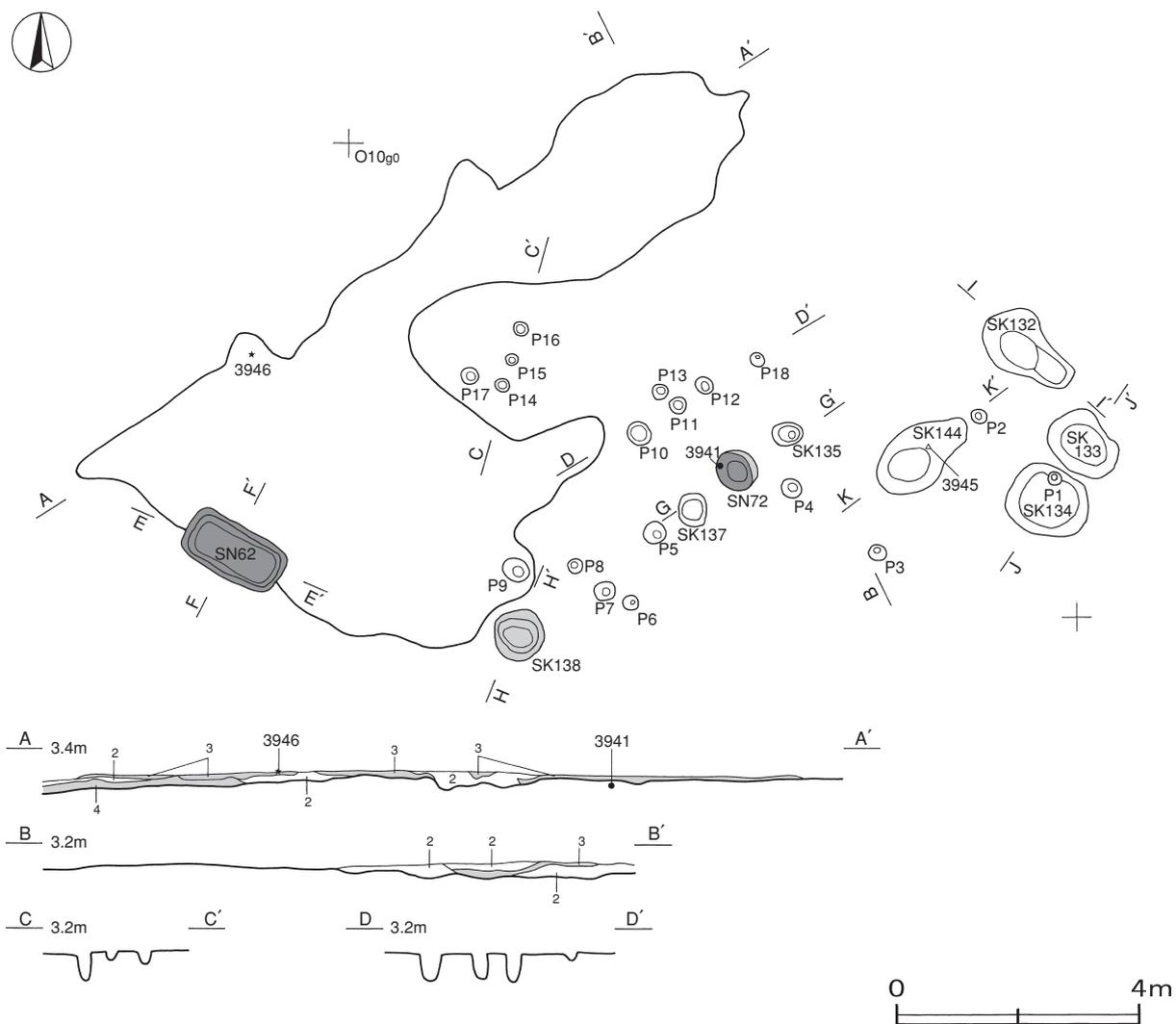
土坑 (第349図) 第62号粘土貼土坑、黒色土で構築された第138号土坑は南部、第72号粘土貼土坑、第132~135・137・144号土坑は東部に位置している。第62号粘土貼土坑は厚さ4~10cmの粘土、第72号粘土貼土坑は厚さ10cmの粘土、第138号土坑は厚さ4cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土坑及び粘土貼土坑の覆土は、第1・2層の砂A・B層が自然堆積、第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積した層である。



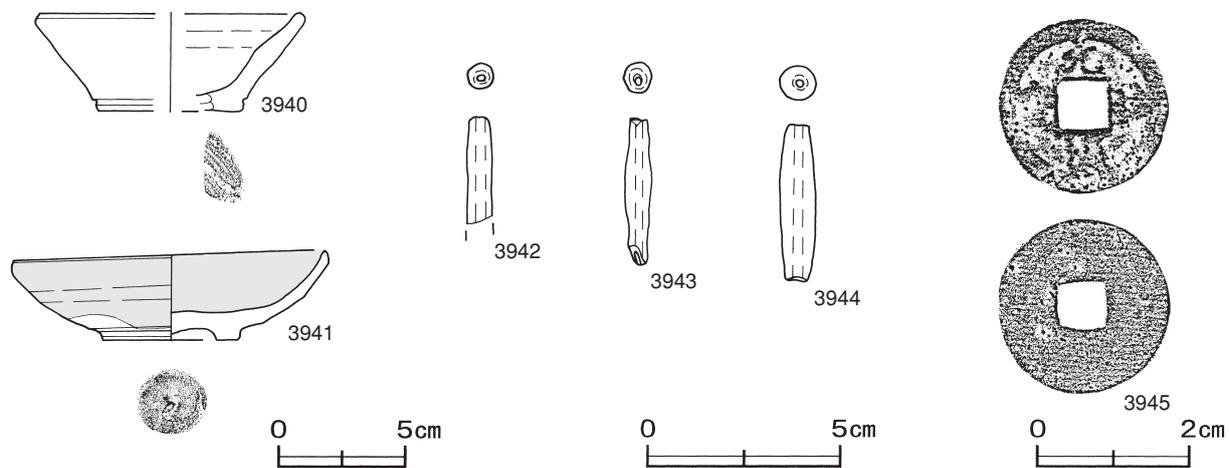
第349図 第72号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿),陶器片2点(皿),土製品3点(土錘),金属製品7点(古銭1,不明6)と魚の鱗が出土している。3941は中央部の黒色土下,3946は西部の黒色土上面から出土している。

所見 炉や上屋を想定できる柱穴が確認されなかったことから、整地面と判断した。黒色土上面で確認された魚の鱗や覆土から出土した土錘などから想定すると、漁業と関連する屋外の作業場の可能性が考えられる。時期は、3941から17世紀前半と考えられる。



第350図 第72号整地面実測図



第351図 第72号整地面出土遺物実測図

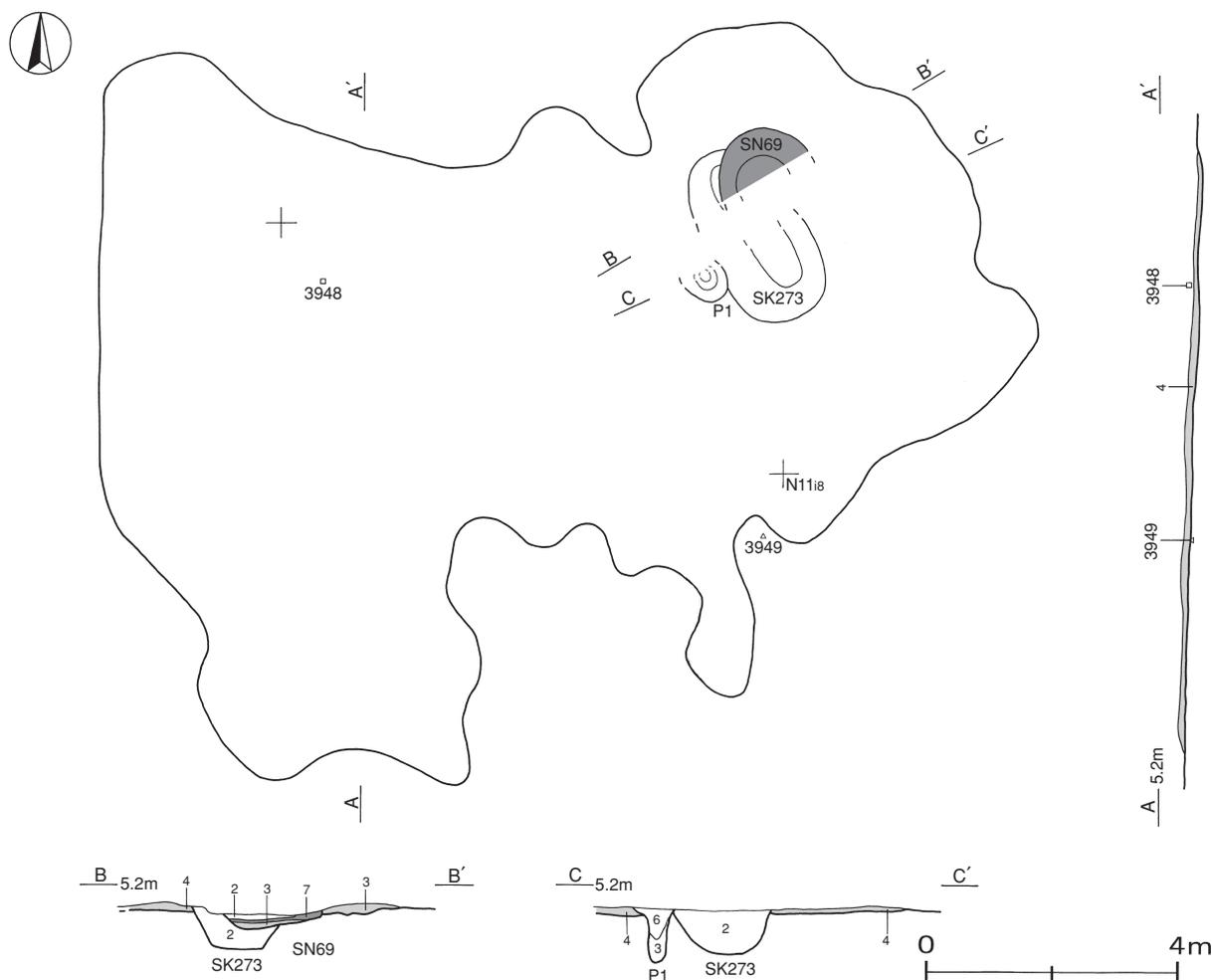
第72号整地面出土遺物観察表（第351図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3940	皿	土師質土器	[10.2]	3.9	[5.6]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	15%
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3941	皿	陶器	12.3	3.7	5.4	にぶい緑・黄オリーブ	灰釉	高台は土見せ 兜巾	肥前 17C 前半	中央部黒色土下	60% I-2 PL66
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴		出土位置	備考	
3942	管状土錘	(2.8)	0.8	0.7	(1.5)	長石	孔径0.2cm	外面ナデ	覆土中	PL83	
3943	管状土錘	3.8	0.8	0.2	(1.7)	長石	ほぼ完形 孔径0.2cm	外面ナデ	覆土中	PL83	
3944	管状土錘	4.1	8.5	8.5	(3.1)	長石	ほぼ完形 孔径0.3cm	外面ナデ	覆土中	PL83	
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考	
3945	元祐通寶	2.35	0.61	0.08	2.66	1086	銅	行書	SK 144内		

第73号整地面 8区HK-33（第352・353図）

位置 調査区中央部のN11h7区を中心に位置している。

確認状況 第64号建物跡を約0.2m掘り下げた標高約4.9mで、黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑と柱穴1か所が確認された。



第352図 第73号整地面実測図

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸15.0m、短軸9.8mの不定形で、長軸方向はN-76°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑1基、土坑1基が構築されている。

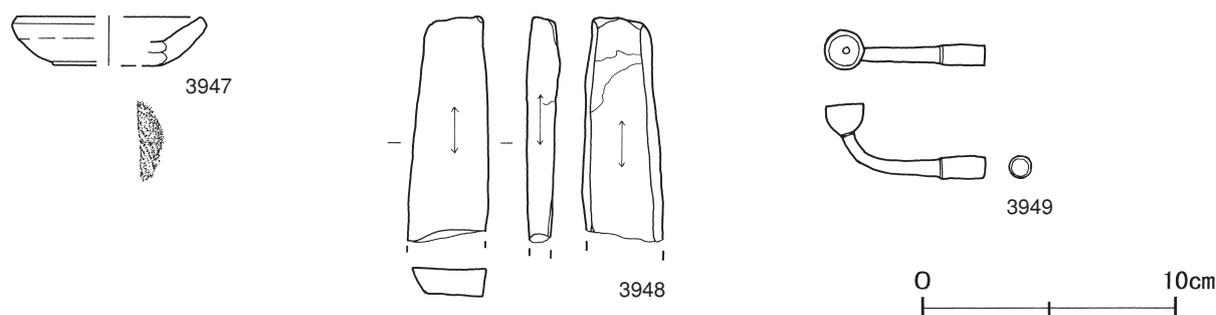
生活面 ほぼ平坦で、厚さ6~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第4層は黒色土B層で、締まりはやや弱い。

ピット 1か所。深さ90cmで、性格は不明である。

土坑 (第352図) 第69号粘土貼土坑、第273号土坑は東部に位置している。第69号粘土貼土坑は底部がわずかに遺存する程度で、第273号土坑の上面に構築されている。厚さ3~8cmの粘土を貼り付けて構築されている。第273号土坑は第2層の砂B層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 土師質土器片7点(小皿1、皿6)、陶器片3点(皿)、須恵器片1点(甕)、石器2点(砥石)、金属製品2点(煙管、不明)が出土している。3948は中央部の黒色土上面、3949は南東部の砂層から出土している。

所見 炉や上屋を想定させる柱穴が検出されなかったことから、整地面と判断した。出土遺物も少なく、性格は不明である。出土した須恵器片は、黒色土を構築するために他地域から持ち込まれたことを示す資料といえる。時期は、第64号建物跡が17世紀前半と考えられることから、それよりは若干古い時期と考えられる。



第353図 第73号整地面出土遺物実測図

第73号整地面出土遺物観察表 (第353図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3947	小皿	土師質土器	[7.2]	1.8	[4.4]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	25%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3948	砥石	(8.9)	3.3	1.3	(58.5)	凝灰岩	砥面4面 断面台形		中央部黒色土上面		
3949	煙管	6.3	火皿径1.5	小口径0.8	9.2	銅	雁首 肩部に段有り		南東部砂層	PL94	

第74号整地面 8区HK-34 (第354~357図)

位置 調査区中央部のN11i6区を中心に位置している。

確認状況 第62号整地面を約0.6m掘り下げた標高約4.5mで、黒色土面が確認された。黒色土面から粘土貼土坑、土坑と柱穴12か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸15.7m、短軸9.7mの不定形で、長軸方向はN-47°-Eである。付属施設として、粘土貼土坑1基、土坑7基が構築されている。

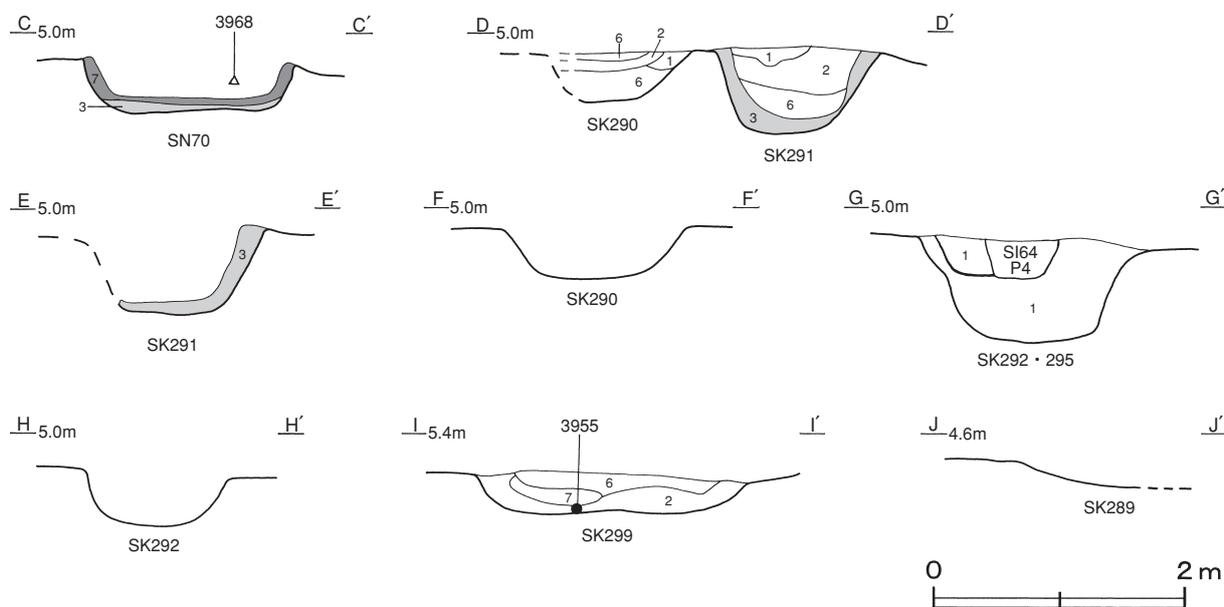


第354図 第74号整地面実測図

生活面 南西部に向かって緩やかに傾斜している。厚さ5～22cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層，第4層は黒色土B層で，締まりは普通である。

ピット 12か所。P1は深さ34cmで，黒色土の北部に位置している。P2～P11は深さ11～51cm，P12は深さ72cmで，北東側の砂層に位置している。いずれも配列に規則性はなく，性格は不明である。

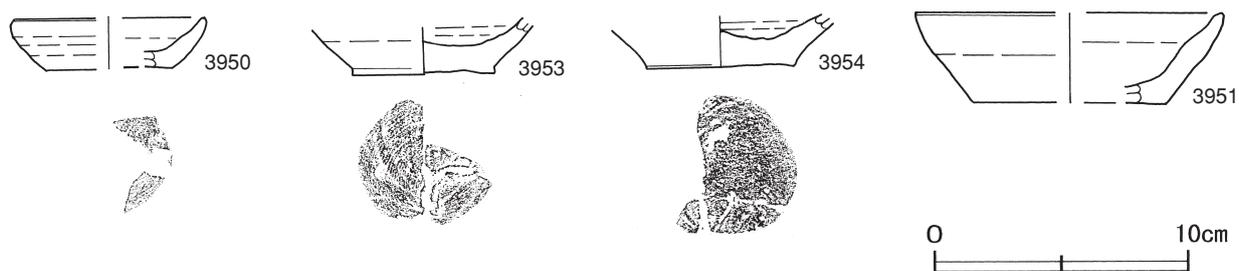
土坑 (第355図) 第292・295・296号土坑は黑色土面の北部, 第70号粘土貼土坑, 黑色土で構築された第291号土坑, 第290・299号土坑は, 北東部の砂層に位置している。また, 黑色土で構築された第289号土坑は黑色土面を除去した下層から検出されている。第70号粘土貼土坑は厚さ4~10cmの粘土, 第289・291号土坑は厚さ10~21cmの黑色土を貼り付けて構築されている。第290・291・295号土坑は第1・2層の砂A・B層と第6層の黑色土D層, 第299号土坑は第2層の砂B層, 第6層の黑色土D層と第7層の粘土層が人為堆積した層である。



第355図 第74号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片80点 (小皿12, 皿63, 鍋2, 播鉢1, 火鉢2), 陶器片9点 (皿8, 甕1), 須恵器片2点 (甕), 土製品1点 (面), 石器7点 (砥石6, 石鍋1), 金属製品9点 (火打金1, 古銭1, 不明7) が出土している。遺物は中央部の黑色土上面から黑色土下にかけて散在している。3951~3954・3957・3958・3960~3965・3969は, 中央部から南部の黑色土上面から黑色土下にかけてそれぞれ出土している。3959は黑色土面の南部と東部から出土した破片が接合している。

所見 黑色土面が南西側に向かって緩やかに傾斜していることや, 柱穴及び炉が検出されなかったことから, 整地面と判断した。黑色土面の中央部付近から, 生活雑器類の皿や砥石が多く出土している。3959は破片が接合関係にあることや, 粘土貼土坑や土坑が埋め戻されている状況から, 投棄された可能性が高い。また, 3961の土製の面は, 県内でも出土例がなく極めて貴重な資料といえる。時期は, 3958・3959から17世紀前半と考えられるが, 上面に構築されている第62号整地面との大きな時期差は認められない。



第356図 第74号整地面出土遺物実測図(1)



第357図 第74号整地出土遺物実測図(2)

74号整地面出土遺物観察表 (第356・357図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3950	小皿	土師質土器	[7.4]	2.0	[5.0]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	20%
3951	皿	土師質土器	[12.2]	3.6	[7.6]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土上面	20%
3952	皿	土師質土器	[11.4]	4.0	5.9	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	中央部黒色土上面	40%
3953	皿	土師質土器	-	(1.9)	5.6	長石・石英・雲母	橙	普通	内底面渦巻き状のナデ	南部黒色土中	45%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3954	皿	土師質土器	-	(2.0)	5.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内底面渦巻き状のナデ	中央部黒色土中	20%
3955	播鉢	土師質土器	-	(2.0)	13.4	長石・雲母	黄灰	普通	6条1単位の播目	SK299内	10% PL81
3956	火鉢	土師質土器	[42.0]	(6.4)	-	長石・石英	黒褐	普通	体部外面印花文	SK290内	5% PL82
3957	短頸壺	須恵器	-	(6.5)	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	外面自然釉付着	南部黒色土下	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3958	折縁皿	陶器	[9.8]	2.3	[5.6]	灰白・オリブ灰	灰釉	口縁部玉縁状 輪ドチ痕有り	瀬戸・美濃 16C後葉~17C初	中央部黒色土中	40% 大窯 PL66
3959	菊皿	陶器	-	(1.6)	[6.8]	灰白・灰白	長石釉	内面打ち出し菊花文	瀬戸・美濃 17C前葉	南部と東部の接合	30% 大窯4
3960	染付皿	磁器	-	(1.1)	[6.6]	灰白・灰白	染付・透明釉	見込み内花文 体部外面折枝文	景徳鎮窯系 16C後~17C初	中央部黒色土下	5% E群 PL69

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
3961	面	(9.2)	(5.9)	(0.5~1.0)	(37.4)	長石・石英・雲母	高さ4.3cm 顎から鼻部遺存 内外面ナデ	中央部黒色土下	PL82
3962	砥石	(6.0)	3.4	1.3	(42.1)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	中央部黒色土中	
3963	砥石	(4.0)	3.2	1.5	(30.3)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	中央部黒色土中	
3964	砥石	(10.0)	3.4	1.9	(99.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	中央部黒色土中	PL85
3965	砥石	17.2	5.4	1.7	197.4	粘板岩	砥面1面 断面楕円形	中央部黒色土中	
3966	砥石	(4.7)	2.8	1.6	(18.6)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面 火熱を受けて赤変している	SK299内	
3967	砥石	(10.3)	3.6	1.7	(115.2)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	SK299内	
3968	火打金	8.1	(2.8)	0.2	(16.1)	鉄	山型 頂部欠損 孔有り	SN70内	PL94

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3969	元祐通寶	2.37	0.64	0.10	2.48	1086	銅	行書	中央部黒色土中	

第75号整地面 8区HK-35 (第358~360図)

位置 調査区中央部のN11f2区を中心に位置している。

確認状況 第72号建物跡を約0.7m掘り下げた、標高約3.9~4.3mで黒色土面が確認された。黒色土面から土坑と柱穴1か所が確認された。

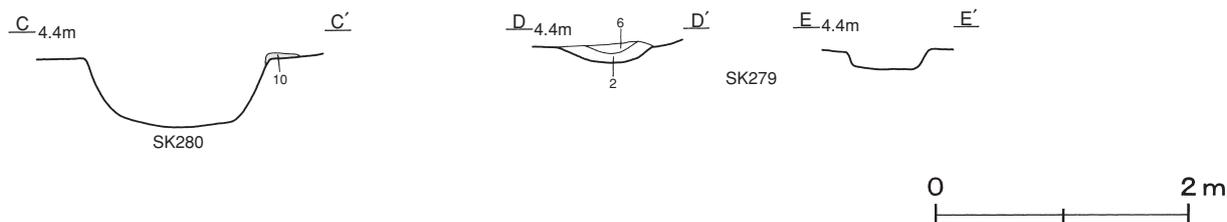
規模と施設 黒色土の範囲は、長軸7.3m、短軸5.3mの不定形で、長軸方向はN-50°-Wである。

付属施設として、土坑2基が構築されている。

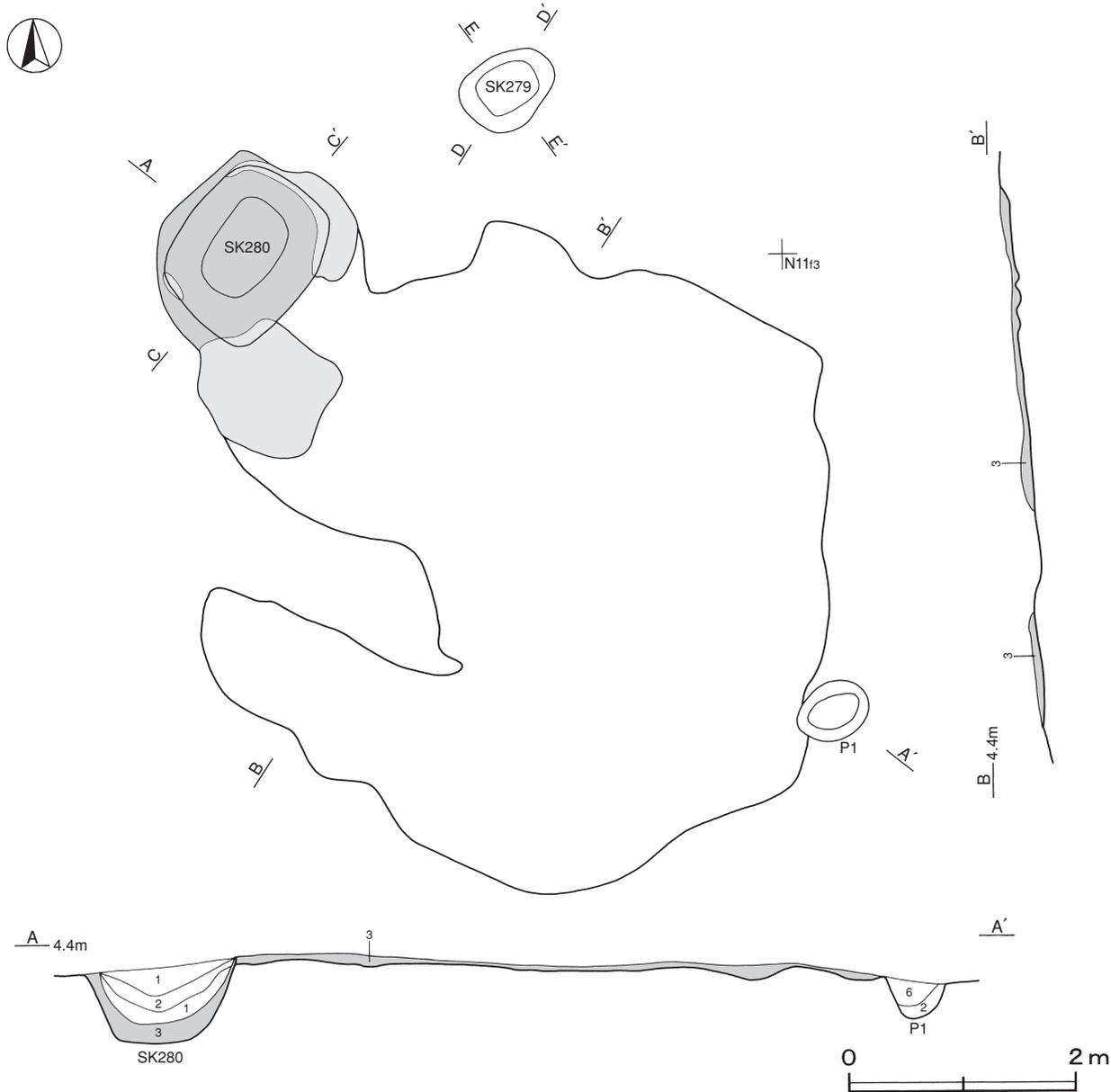
生活面 南部に向かって緩やかに傾斜している。厚さ2~10cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりは普通である。

ピット 1か所。深さ35cmで、南東側に位置している。性格は不明である。

土坑 (第358図) 黒色土で構築された第280号土坑が黒色土面の北西部、第279号土坑は北部の砂層に位置している。第280号土坑の周囲には、暗褐色のローム土が薄く貼り付けられている。厚さ4~18cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は、第1・2層の砂A・B層が自然堆積した層である。第279号土坑は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。



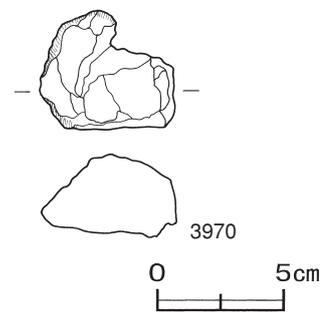
第358図 第75号整地面土坑土層図



第359図 第75号整地面実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿), 須恵器片1点(坏), 石器1点(火打石)が出土している。3970や土師質土器の皿は, 黑色土の覆土から出土している。土師質土器の皿は, 細片のため図示できなかった。

所見 炉や上屋を想定できる柱穴が確認されなかったことから, 整地面と判断した。出土遺物も少なく性格は不明である。黑色土面は, 第72号建物跡の約0.7m下層から確認されている。第72号建物跡は17世紀前半と考えられ, それより古い, あまり大きな時期差はないと推定される。



第360図 第75号整地面出土遺物実測図

第75号整地面出土遺物観察表 (第360図)

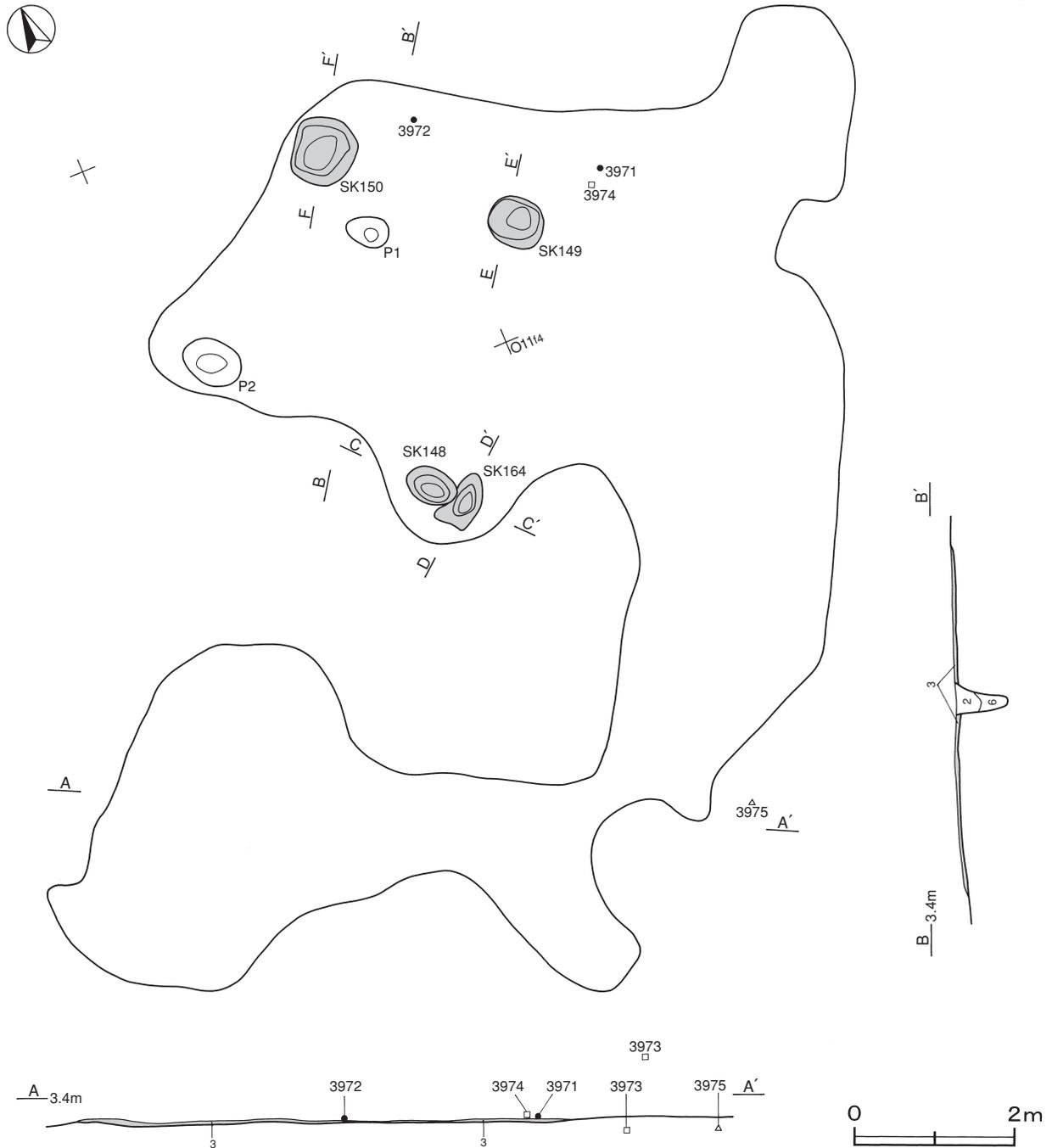
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3970	火打石	4.7	5.3	3.3	75.1	瑪瑙	摩滅集中の箇所有り	SK280内	

第76号整地面 8区HK-25B (第361~363図)

位置 調査区南部のO11f4区を中心に位置している。

確認状況 第60号建物跡を約0.6m掘り下げた標高約2.9mで、黒色土面が確認された。黒色土面から土坑と柱穴2か所が確認された。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸12.4m、短軸8.7mの不定形で、長軸方向はN-37°-Eである。附属施設として、土坑4基が構築されている。

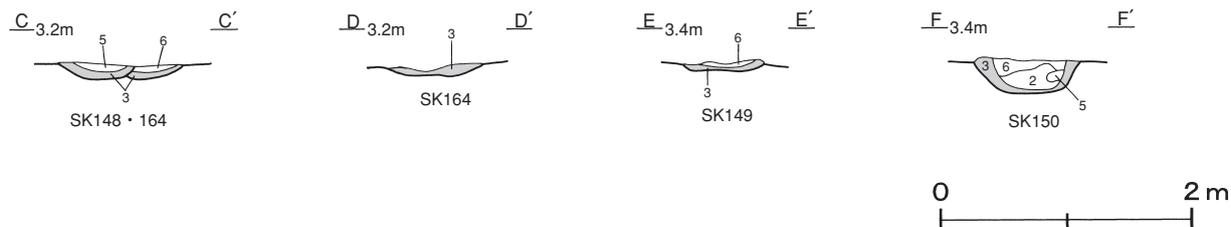


第361図 第76号整地面実測図

生活面 ほぼ平坦で、厚さ4cmの黒色土を貼り付けて構築されている。土層断面図中の第3層は黒色土A層で、締まりはやや強い。

ピット 2か所。深さ約60cmである。黒色土内に位置しているが、性格は不明である。

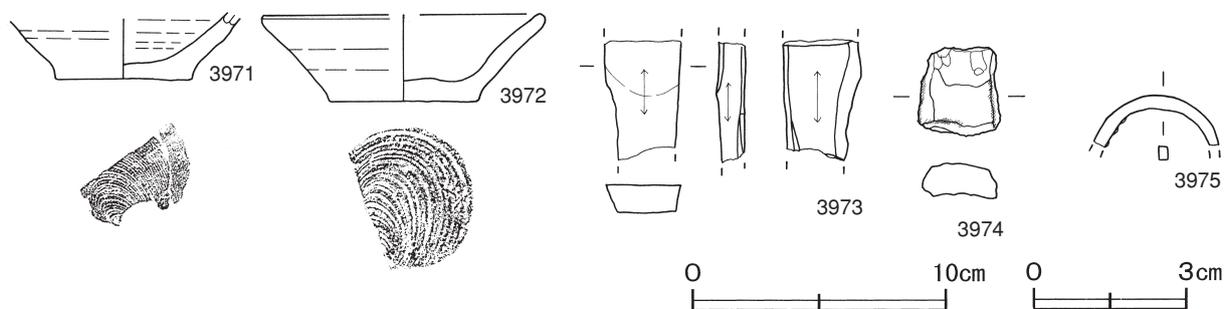
土坑 (第362図) いずれも黒色土で構築された土坑である。第148・164号土坑は中央部、第149・150号土坑は北部に位置している。厚さ2～12cmの黒色土を貼り付けて構築されている。第148・149・164号土坑は、第5・6層の黒色土C・D層がわずかに堆積した層である。第150号土坑は、第2層の砂B層と第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積した層である。



第362図 第76号整地面土坑土層図

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿5, 鍋1), 石器2点(砥石, 火打石), 金属製品1点(不明)が出土している。3971・3972・3974は北部の黒色土上面, 3973・3975は南部の砂層からそれぞれ出土している。

所見 炉や上屋を想定できる柱穴が確認されていないことから、屋外の作業場と判断した。時期は、17世紀前半と考えられる第60号建物跡の約0.6m下層であることから、16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第363図 第76号整地面出土遺物実測図

第76号整地面出土遺物観察表 (第363図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3971	皿	土師質土器	-	(2.4)	5.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面渦巻き状のナデ	北部黒色土上面	40%
3972	皿	土師質土器	[11.0]	3.5	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北部黒色土上面	30% PL75
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3973	砥石	(4.7)	3.1	1.1	(27.3)	凝灰岩	砥面3面	断面台形	南部砂層		
3974	火打石	3.6	3.3	1.4	26.4	瑪瑙	摩滅集中の箇所有り		北部黒色土上面		
3975	不明	(2.5)	(1.1)	0.3	(0.7)	銅	断面方形	リング状	南部砂層		

表33 8区整地面一覽表

番号	旧遺構番号	位置	長軸・長径方向	黒色土				形状	厚さ(cm)	付 属 施 設	ピット	備考 新旧関係 旧→新
				標高(m)	範囲(最大値)		短軸(m)					
					長軸(m)	短軸(m)						
51	8区HK1	O11h6	N-60°-E	3.2	[23.9]	13.1	[不定形]	5~20	-	-	本跡→SI57・58, HK52	
52	8区HK13	O11d9	-	4.1	南北(32.0)	東西(20.5)	-	4~11	SK84・90・252, SM63	6	HK51→本跡→HK53	
53	8区HK9	O11d9	N-43°-E	4.1	9.8	4.0	不整楕円形	4~10	SN21・33, SK64	9	HK52→本跡	
54	8区HK25A	O11f7	N-46°-E	3.5	22.9	(14.1)	[不定形]	4~7	炉, SN53・59, SK97・209・211・214・217	-		
55	8区HK14	O11b7	N-41°-E	4.0	8.2	8.0	不定形	3~15	SN11	2		
		2次面	N-41°-E	3.9	7.6	4.6	不定形	7	SK69	-		
56	8区HK28	O11b2	N-1°-E	3.7	8.8	6.4	不定形	2~17	SN58, SK131・139・141・142・145~147・157・172・320・321	6		
57	8区SK60	O11g1	N-22°-W	3.1	4.7	3.6	不整楕円形	5~8	SK60	-		
58	8区HK30	O10a7	N-29°-E	3.8	3.5	1.5	楕円形	3~12	-	5		
59	8区HK32	O11d1	N-66°-W	3.5	7.0	2.9	不定形	4~10	-	-		
60	8区HK17	N11i6	N-40°-E	5.1	5.2	1.6	不定形	6~10	-	-	HK62→本跡	
61	8区HK19	N11h7	N-23°-E	5.5	6.9	3.8	不定形	10~20	SN30	-	HK62→本跡	
62	8区HK21	N11g6	N-42°-W	5.1~5.4	29.8	15.8	不定形	8~22	SN40・52, SK113・218・228, SM68	-	SI72→本跡→SI64~66・HK60・61	
63	8区HK23	N11i4	N-58°-W	4.4	18.4	5.2	不定形	10	-	-		
64	8区HK18	N11h3	N-47°-W	4.8	11.9	8.3	不定形	2~13	SK82・91・92・94	6		
65	8区HK7	O10f5	N-49°-W	2.8	4.7	2.7	不定形	5~12	-	-		
66	8区HK26	O10g0	N-58°-E	3.3	14.9	8.9	不定形	2~12	SN46, SK120~122・143	12		
67	8区HK31	O10i8	-	2.9	南北(5.3)	東西(8.1)	-	2~11	SN73・74	6		
68	8区HK4	O11f1	N-44°-W	3.9	2.9	2.2	不定形	4~6	-	-		
		2次面	N-41°-W	3.8	4.9	3.8	不定形	2~10	SN4, SK16	-		
69	8区HK12	O11g2	N-62°-W	3.0	5.8	3.9	不定形	4	SK31・32	-		
70	8区HK16	N10h0	N-54°-E	4.3	7.1	3.2	不定形	2~6	炉1・2, SM64	3		
71	8区HK22	O11j7	-	2.9	南北(6.0)	東西(15.9)	-	5~25	SK104・112・126~128・140	11		
72	8区HK27	O11h1	N-56°-E	3.0	17.9	8.8	不定形	7~20	SN62・72, SK132~135・137・138・144	18		
73	8区HK33	N11h7	N-76°-E	4.9	15.0	9.8	不定形	6~10	SN69, SK273	1		
74	8区HK34	N11i6	N-47°-E	4.5	15.7	9.7	不定形	5~22	SN70, SK289・290~292・295・296・299	12		
75	8区HK35	N11f2	N-50°-W	3.9~4.3	7.3	5.3	不定形	2~10	SK279・280	1		
76	8区HK25B	O11f4	N-37°-E	2.9	12.4	8.7	不定形	4	SK148~150・164	2		

表34 8区整地面炉一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	深さ(cm)							
HK54	炉	O11e7	3.2	N-48°-W	0.7	0.6	10	長方形	1	-	緩斜	皿状		
HK70	炉1	N11h1	4.3	N-54°-E	1.0	0.9	13	楕円形	4	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿), 礎石	(8区SK78)
	炉2	N10h0	4.2	N-33°-E	0.7	0.5	7	不整楕円形	3~7	-	外傾	皿状		

表35 8区整地面粘土貼土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚(cm)	粘土厚(cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径)(m)	短軸(径)(m)	深さ(cm)							
HK53	SN21	O11d9	3.6	N-55°-W	(2.4)	(1.1)	-	[長方形]	4	10	-	平坦		本跡→SN33
	SN33	O11d9	4.0	N-50°-W	(1.8)	1.2	45	[長方形]	4	2~12	外傾	平坦	陶器(丸皿), 起金カ	SN21→本跡
HK54	SN53	O11d8	3.6	N-38°-W	1.2	1.0	6	楕円形	1	5	緩斜	皿状		本跡→SN59
	SN59	O11d8	3.6	N-30°-E	1.0	0.7	17	楕円形	-	9	緩斜	皿状	陶器(丸皿)	SN53→本跡
HK55	SN11	O11b8	4.0	-	0.8	0.8	16	隅丸方形	-	5	緩斜	平坦		
HK56	SN58	O11b2	3.4	N-68°-W	1.6	1.1	79	楕円形	10~20	4~10	外傾	平坦		SK141→本跡
HK61	SN30	N11g7	5.5	N-38°-E	1.7	1.2	55	長方形	3	4~10	外傾	平坦		
HK62	SN40	N11g5	5.1	N-56°-W	2.3	1.4	66	隅丸長方形	2	4~10	外傾	平坦		
	SN52	N11g6	5.1	N-47°-W	2.0	1.2	58	隅丸長方形	3	3~18	外傾	平坦	陶器(皿)	
HK66	SN46	O11f1	3.1	-	1.1	1.1	17	不整円形	3	10~25	緩斜	皿状		SK122→本跡

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
HK 67	SN73	O10h8	2.8	N-26°-E	1.1	0.9	10	楕円形	-	4~8	緩斜	平坦		(8区 SK166)
	SN74	O10h8	2.8	N-57°-E	1.0	0.7	10	楕円形	-	4~8	緩斜	平坦		(8区 SK198)
HK 68	SN 4	O10f0	3.8	-	1.1	1.1	44	不整形	-	8~16	外傾・緩斜	皿状		第13号土壇→本跡
HK 72	SN62	O10h9	2.8	N-60°-W	1.7	0.9	24	長方形	-	4~10	緩斜	平坦		
	SN72	O11h1	2.9	-	0.7	0.7	10	円形	5~12	10	緩斜	平坦		(8区 SK136)
HK 73	SN69	N11g7	4.8	N-60°-E	1.5	(0.7)	17	[楕円形]	6~10	3~8	緩斜	平坦		SK 273→本跡
HK 74	SN70	N11f7	4.8	N-48°-E	1.6	1.0	34	長方形	2~8	4~10	緩斜	平坦	火打金	

表36 8区整地面土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
HK 52	SK 84	O11f8	3.5	N-28°-E	0.8	0.7	19	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK 90→本跡
	SK 90	O11f8	3.5	N-27°-E	1.0	(0.8)	24	[楕円形]	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK 84
	SK 252	O10a0	3.4	N-18°-E	0.9	0.8	15	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
HK 53	SK 64	O11d8	3.8	N-22°-E	1.4	(0.6)	78	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		
HK 54	SK 97	O11e7	3.5	-	1.6	1.5	41	円形	5	-	緩斜	皿状		
	SK 209	O11d8	3.7	N-30°-E	1.1	0.7	7	長方形	5~9	-	緩斜	平坦		
	SK 211	O11e8	3.4	N-44°-E	3.1	1.5	56	長方形	-	-	外傾	平坦	土師質土器(皿)	
	SK 214	O11d9	3.6	N-65°-E	2.2	1.1	60	長方形	-	-	外傾	平坦		
	SK 217	O11e7	3.2	N-31°-E	0.6	0.4	8	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
HK 55	SK 69	O11a7	3.9	N-5°-E	0.9	0.7	9	楕円形	10	-	緩斜	平坦		
HK 56	SK 131	O11b3	3.5	N-33°-E	1.3	1.1	26	楕円形	-	-	緩斜	皿状	砥石	
	SK 139	O11a2	3.8	N-50°-W	1.1	0.7	13	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 141	O11b2	3.4	N-62°-W	1.3	(1.0)	28	[隅丸長方形]	5~8	-	外傾	平坦		本跡→SN 58
	SK 142	O11a1	3.8	N-54°-W	1.7	1.0	51	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦		
	SK 145	O11b4	3.4	N-61°-W	1.5	1.2	54	楕円形	-	-	外傾	平坦		
	SK 146	O11c4	3.4	-	0.9	0.9	58	円形	-	-	外傾	平坦		
	SK 147	O11a3	3.5	-	1.2	1.2	5	隅丸方形	3~5	-	緩斜	平坦		
	SK 157	O11b2	3.5	N-49°-E	1.9	0.8	56	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK 172	O11b2	3.3	N-40°-E	1.1	0.8	32	隅丸長方形	5~10	-	緩斜	皿状		本跡→SK 320
	SK 320	O11b2	3.3	N-48°-E	0.9	0.7	13	楕円形	3~7	-	緩斜	皿状		SK 172・321→本跡
HK 57	SK 321	O11b2	3.3	N-29°-W	1.1	0.8	16	楕円形	5~7	-	緩斜	平坦		本跡→SK 320
HK 62	SK 60	O11g1	3.0	-	(1.0)	(0.4)	40	[隅丸方形]	4~9	-	緩斜・外傾	皿状		
	SK 113	N11i7	4.8	N-11°-E	1.8	1.6	60	楕円形	7~14	-	緩斜	皿状	吊金具	
	SK 218	N11g6	5.2	N-40°-W	0.5	[0.4]	9	[楕円形]	4~7	-	緩斜	皿状		
HK 64	SK 228	N11g4	5.1	N-48°-W	2.0	1.5	55	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 82	N11i3	4.5	N-54°-W	3.3	2.8	105	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 91	N11g2	4.8	N-53°-W	1.7	1.0	40	楕円形	-	-	外傾・緩斜	平坦		
	SK 92	N11h3	4.0	N-50°-W	2.8	1.3	66	隅丸長方形	-	-	緩斜	平坦		
HK 66	SK 94	N11g3	4.6	N-42°-W	1.8	1.2	38	楕円形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿)	本跡→P5
	SK 120	O10f0	3.2	N-33°-W	1.5	1.2	10	楕円形	7~12	-	緩斜	皿状		
	SK 121	O10f8	3.3	N-89°-E	0.9	0.8	20	楕円形	7~12	-	外傾	平坦		
	SK 122	O11f1	3.0	N-53°-W	1.8	1.4	14	楕円形	4	-	緩斜	皿状		本跡→SN 46
HK 68	SK 143	O10g9	3.2	N-30°-E	2.1	1.2	14	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
HK 69	SK 16	O11f1	3.5	N-54°-W	1.6	1.4	54	隅丸長方形	-	-	外傾・緩斜	平坦	土師質土器(皿)	
	SK 31	O11h2	3.0	-	1.3	1.2	68	円形	-	-	緩斜	皿状		
HK 71	SK 32	O11h3	3.0	N-61°-W	1.9	1.6	40	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
	SK 104	O11j5	2.7	-	1.0	1.0	34	円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK 112	O11i6	2.7	N-43°-E	1.2	0.9	40	楕円形	2~6	-	緩斜	平坦		
	SK 126	O11j8	2.7	N-89°-W	0.9	[0.7]	19	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		SK 128→本跡
	SK 127	O11j7	2.5	N-58°-W	[1.7]	[0.8]	25	[隅丸長方形]	-	-	緩斜	平坦		SK 128→本跡
	SK 128	O11j8	2.7	-	1.0	[1.0]	30	[隅丸方形]	-	-	緩斜	皿状	砥石	本跡→SK 126・127
	SK 140	O11j8	2.7	N-28°-E	1.4	0.9	32	隅丸長方形	-	-	外傾・緩斜	平坦	陶器(丸皿), 土鈴, 古鏡	

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
HK72	SK132	O11g2	2.8	N-53°-W	1.7	1.0	35	不定形	-	-	外傾・緩斜	凸凹		
	SK133	O11h3	2.8	N-43°-W	1.2	0.9	34	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK134	O11h2	2.8	N-61°-W	1.4	1.1	17	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦		
	SK135	O11h1	2.9	N-74°-E	0.5	0.4	10	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK137	O11h1	2.9	N-0°	0.6	0.5	6	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
	SK138	O11i0	2.9	-	0.8	0.8	10	不整円形	4	-	緩斜	平坦		
	SK144	O11h2	2.9	N-51°-E	1.7	1.0	25	不定形	-	-	外傾	平坦	古銭	
HK73	SK273	N11g7	4.8	N-32°-W	2.9	1.7	67	楕円形	-	-	外傾	平坦		本跡→SN69
HK74	SK289	N11h6	4.4	N-68°-W	(1.2)	1.2	44	[楕円形]	10~21	-	緩斜	皿状		
	SK290	N11f8	4.8	N-54°-E	1.5	[1.1]	40	[楕円形]	-	-	緩斜	皿状	土師質土器(火鉢)	
	SK291	N11g8	4.9	N-33°-E	1.4	1.1	57	長方形	10~20	-	外傾	皿状		
	SK292	N11g6	4.8	N-66°-W	1.0	(0.4)	13	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		SK295→本跡
	SK295	N11h6	4.7	-	2.0	[2.0]	41	[方形]	-	-	外傾	皿状		本跡→SK292
	SK296	N11g6	4.6	N-13°-W	[1.0]	[0.7]	40	[楕円形]	-	-	緩斜	皿状		
	SK299	N11f7	5.1	-	2.2	2.1	30	不定形	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(備針), 砥石	
HK75	SK279	N11e2	4.3	N-58°-E	0.9	0.7	16	楕円形	-	-	外傾	平坦		
	SK280	N11e1	4.2	N-40°-E	1.9	1.3	50	隅丸長方形	4~18	-	緩斜	皿状	火打石	
HK76	SK148	O11f3	2.9	N-42°-W	0.6	0.4	4	楕円形	4	-	緩斜	皿状		SK164→本跡
	SK149	O11e4	3.2	N-54°-W	0.7	0.6	2	隅丸長方形	2	-	緩斜	皿状		
	SK150	O11e3	3.1	N-32°-E	0.8	0.7	23	不整長方形	2~12	-	外傾	皿状		
	SK164	O11f3	3.1	N-50°-E	0.7	(0.4)	4	[不整楕円形]	3~8	-	緩斜	皿状		本跡→SK148

表37 8区整地面貝集積地一覧表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	厚さ (cm)							
HK52	SM63	O11f7	3.4	N-57°-W	4.4	2.8	28	不定形	-	-	-	-	砥石, 古銭	(8区SM7)
HK62	SM68	N11i7	4.6	N-37°-E	1.0	0.7	15	楕円形	-	-	緩斜	-		(8区SM12)
HK70	SM64	N10h9	4.3	N-25°-E	1.6	0.8	-	楕円形	-	-	-	-		(8区SM8)

(4) 炉跡

建物跡や整地面に組み込まれない炉跡1基が確認された。以下、その概要を記述する。

第7号炉跡 8区SK-23 (第364図)

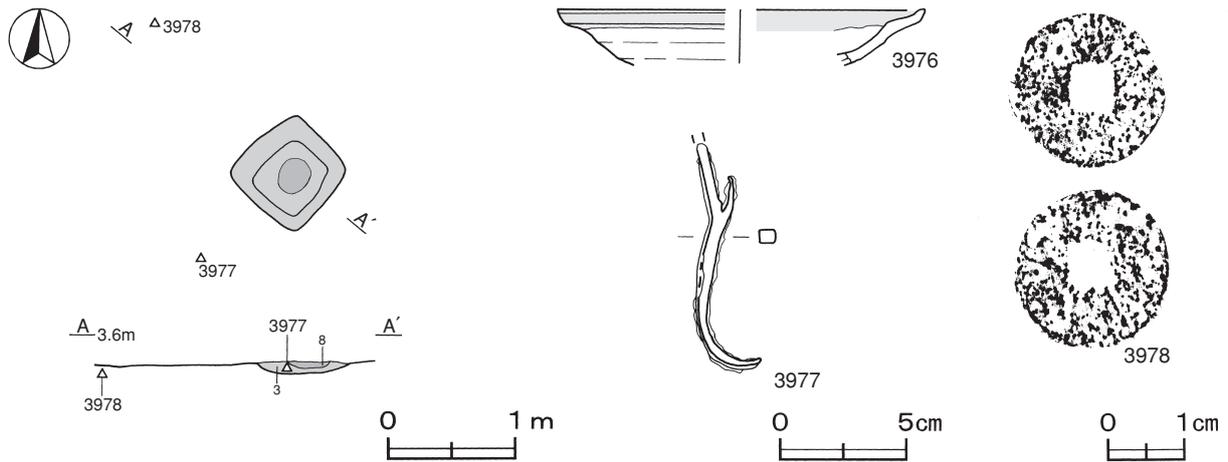
位置 調査区南部のO10g4区に位置している。

確認状況 表砂を約4.3m除去し、標高約3.4mから確認された。

規模と形状 長軸0.8m, 短軸0.7mの長方形で、深さは4cmである。長軸方向はN-40°-Eである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。厚さ4~8cmの黒色土を貼り付けて構築されている。覆土は、第8層の焼砂で灰も微量含まれている。

遺物出土状況 陶器片1点(皿), 鉄製品1点(鉤状金具), 古銭が、炉付近から出土している。

所見 炉の周囲に柱穴が確認されなかったことから、屋外炉の可能性が高い。時期は、3976から17世紀前半と考えられる。



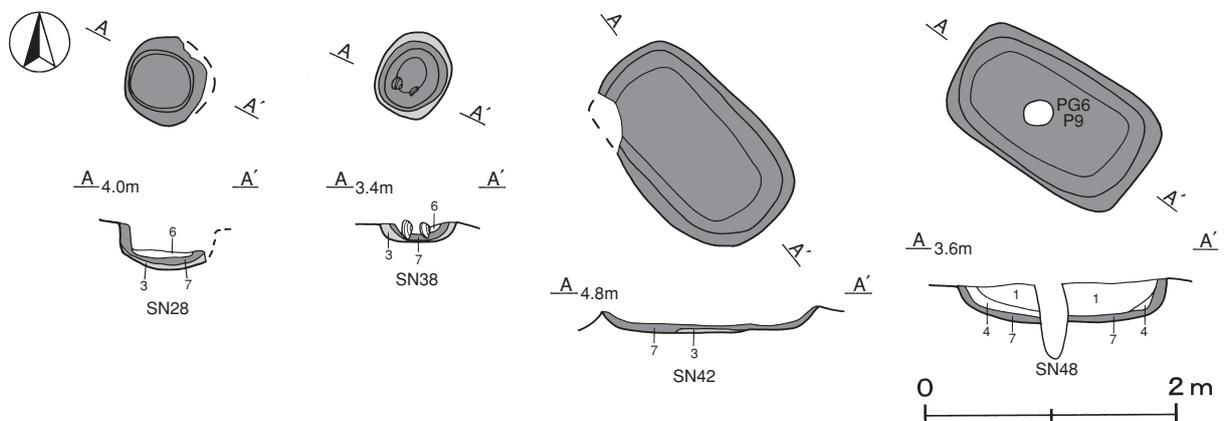
第364図 第7号炉跡・出土遺物実測図

第7号炉跡出土遺物観察表（第364図）

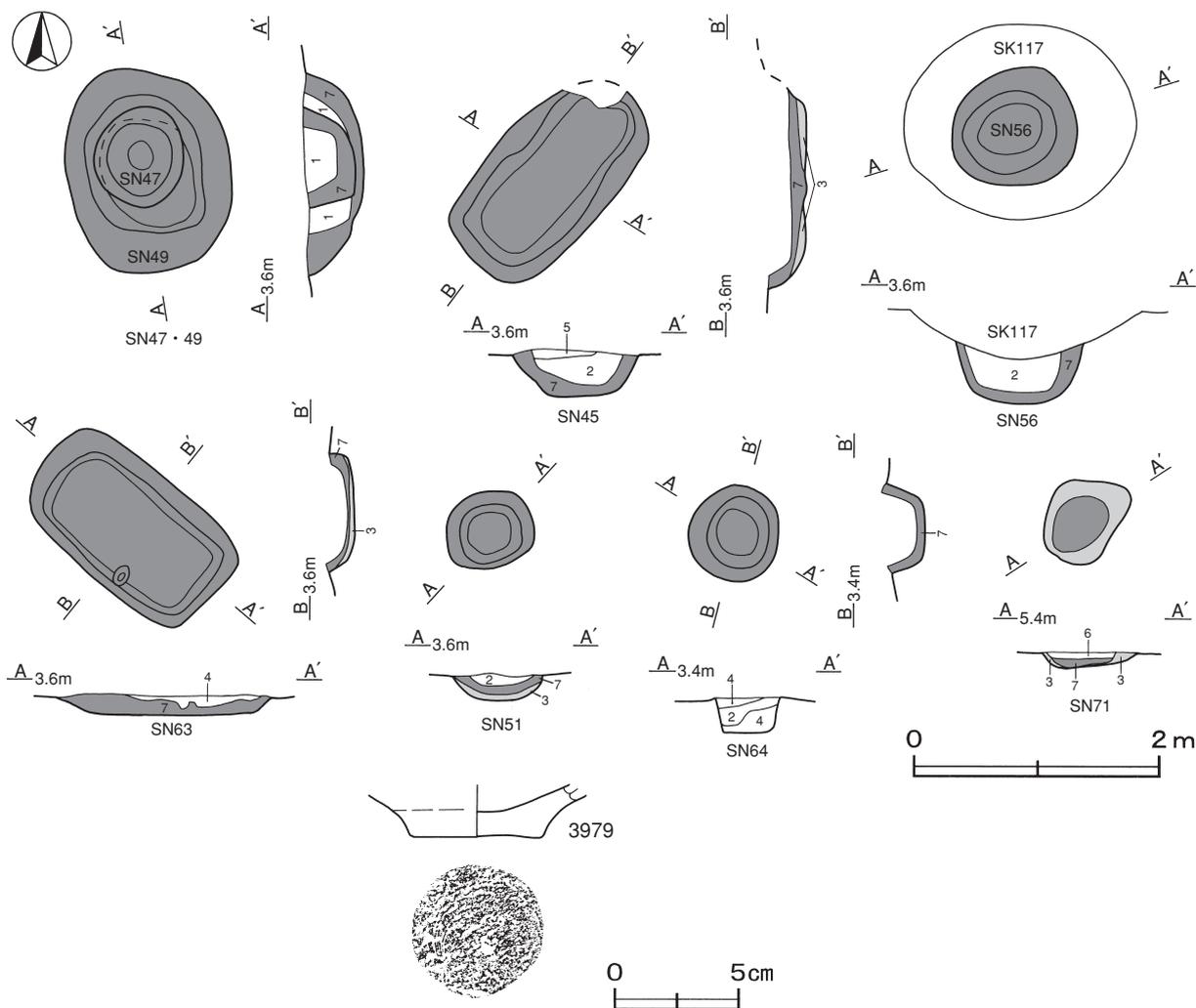
番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3976	青織部皿	陶器	[14.6]	(2.1)	-	灰白・暗オリーブ	口縁部銅緑釉	体部外面露胎	瀬戸・美濃 17C前半	第7号炉内	5% 連房2
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3977	鉤状金具	(9.0)	0.7	0.5	(17.5)	鉄	断面長方形 先端部湾曲		第7号炉付近砂層		
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴		出土位置	備考
3978	□□□□	2.08	0.53	0.13	1.74	-	鉄	判読不明 錆付着		第7号炉付近砂層	

(5) 粘土貼土坑

建物跡や整地面に組み込まれない粘土貼土坑12基が確認された。規模と形状から長軸（径）1.7~1.8m、短軸（径）1.0~1.3mほどの長方形及び楕円形を呈する5基と、径（長径）が1.0mほどの円形や楕円形又は不定形を呈する7基に分けられる。以下、実測図と一覧表で掲載する。なお、これらの遺構の時期は、確認面の層位からおおむね16世紀末から17世紀前半と考えられる。



第365図 粘土貼土坑実測図



第366図 粘土貼土坑・出土遺物実測図

第45号粘土貼土坑出土遺物観察表（第366図）

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3979	皿	土師質土器	-	(2.0)	5.4	にぶい橙	長石・雲母	普通	底部回転糸切り	覆土中	50%

表38 8区粘土貼土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SN28	O10d9	3.7	-	0.6	0.6	22	円形	2	4~6	外傾	皿状		
2	SN38	O11f7	3.1	N-26°-E	0.7	0.6	10	楕円形	1~5	2~5	緩斜	平坦		
3	SN42	N11e1	4.7	N-42°-W	1.7	1.1	14	隅丸長方形	2	6	緩斜	皿状		
4	SN45	O10e8	3.3	N-44°-E	1.8	1.0	20	隅丸長方形	6~8	4~13	外傾	平坦	土師質土器(皿)	
5	SN47	O10f0	3.3	N-5°-E	0.8	0.7	26	楕円形	-	12~16	外傾	平坦		SN49→本跡
6	SN48	O11f7	3.4	N-56°-E	1.7	1.0	26	隅丸長方形	8	8	外傾	皿状		
7	SN49	O10f0	3.3	N-10°-W	1.7	1.3	32	楕円形	-	8~32	緩斜	平坦		本跡→SN47
8	SN51	O10e9	3.4	N-74°-E	0.7	0.6	10	楕円形	4	6	緩斜	皿状		
9	SN56	O10e0	3.2	-	1.0	1.0	26	円形	-	6~14	外傾	平坦		本跡→SK117
10	SN63	O10a0	3.5	N-48°-W	1.7	1.0	16	長方形	2~8	2~11	外傾	平坦		SK176→本跡
11	SN64	O11g9	3.2	-	0.8	0.7	28	円形	-	7	外傾	平坦		
12	SN71	N11d6	5.1	N-56°-E	0.8	0.6	6	不定形	2	3~7	緩斜	平坦		(8区 SK269)

(6) 土坑

建物跡や整地面に組み込まれない土坑143基が確認された。それらは、黒色土を貼り付けて構築された土坑17基、砂と褐色土を混ぜた暗褐色土で壁を構築している土坑6基及び砂層を掘り込んだだけの土坑120基に分けられる。ここでは、特徴的な土坑5基と土坑群として捉えられる3か所について取り上げ、それ以外は実測図と一覧表で掲載する。なお、これらの遺構の時期は、確認面の層位からおおむね16世紀後半から17世紀前半頃と考えられる。

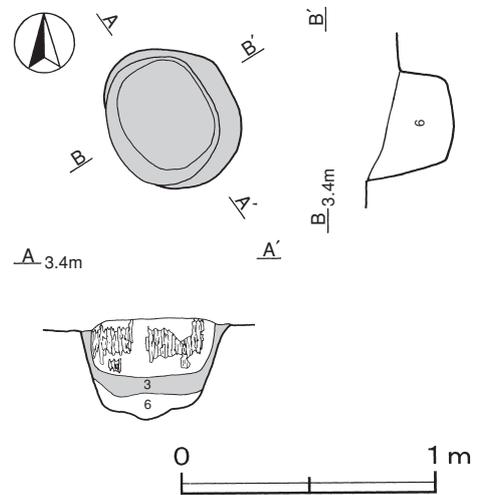
第207号土坑 8区SK-207 (第367図)

位置 調査区南東部のO11g8区に位置している。

確認状況 第52号整地面を約1.0m掘り下げた、標高約3.1mから確認された。

規模と形状 長径0.6m、短径0.5mの楕円形で、深さは46cmである。長径方向はN-32°-Wである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。厚さ3~20cmの黒色土を貼り付けて構築されている。北東部の壁面には、黒色土面に貼り付いた状態で厚さ0.5cmほどの木片が遺存している。覆土は、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

所見 黒色土を貼り付けて構築された土坑の中で、本跡のみわずかな木片が遺存している。壁もほぼ直立していることから、桶状の木製品を埋め込んで使用していた可能性が高い。時期は、第52号整地面が17世紀前半であることから、それより古いと考えられる。



第367図 第207号土坑実測図

第229号土坑 8区SK-229 (第368図)

位置 調査区中央部のN11c5区に位置し、第233・234号土坑と隣接している。

重複関係 第230号土坑を掘り込んでいる。

確認状況 表砂を約2.3m除去し、標高約5.2mから確認された。

規模と形状 長軸3.5m、短軸1.9mの長方形で、深さは20cmである。長軸方向はN-66°-Wである。底面は平坦で、壁面ほどの締めりはない。南東部の壁は外傾し、それ以外の壁は緩やかに立ち上がっている。壁の締めりは強く、砂と暗褐色土を混ぜた暗褐色土が幅約20~30cmの厚さで貼り付けられている。南東側に厚さ約3cmの暗褐色土が舌状に貼り付けられている。覆土は、第4~6層の黒色土B~D層が人為堆積した層である。

所見 遺構の重複関係や確認状況から、隣接する第233号土坑と同時期と考えられる。強固な構築状況から半地下的な倉庫の可能性が高い。時期は、遺構の確認状況と重複から、17世紀前半と考えられる。

第230号土坑 8区SK-230 (第368図)

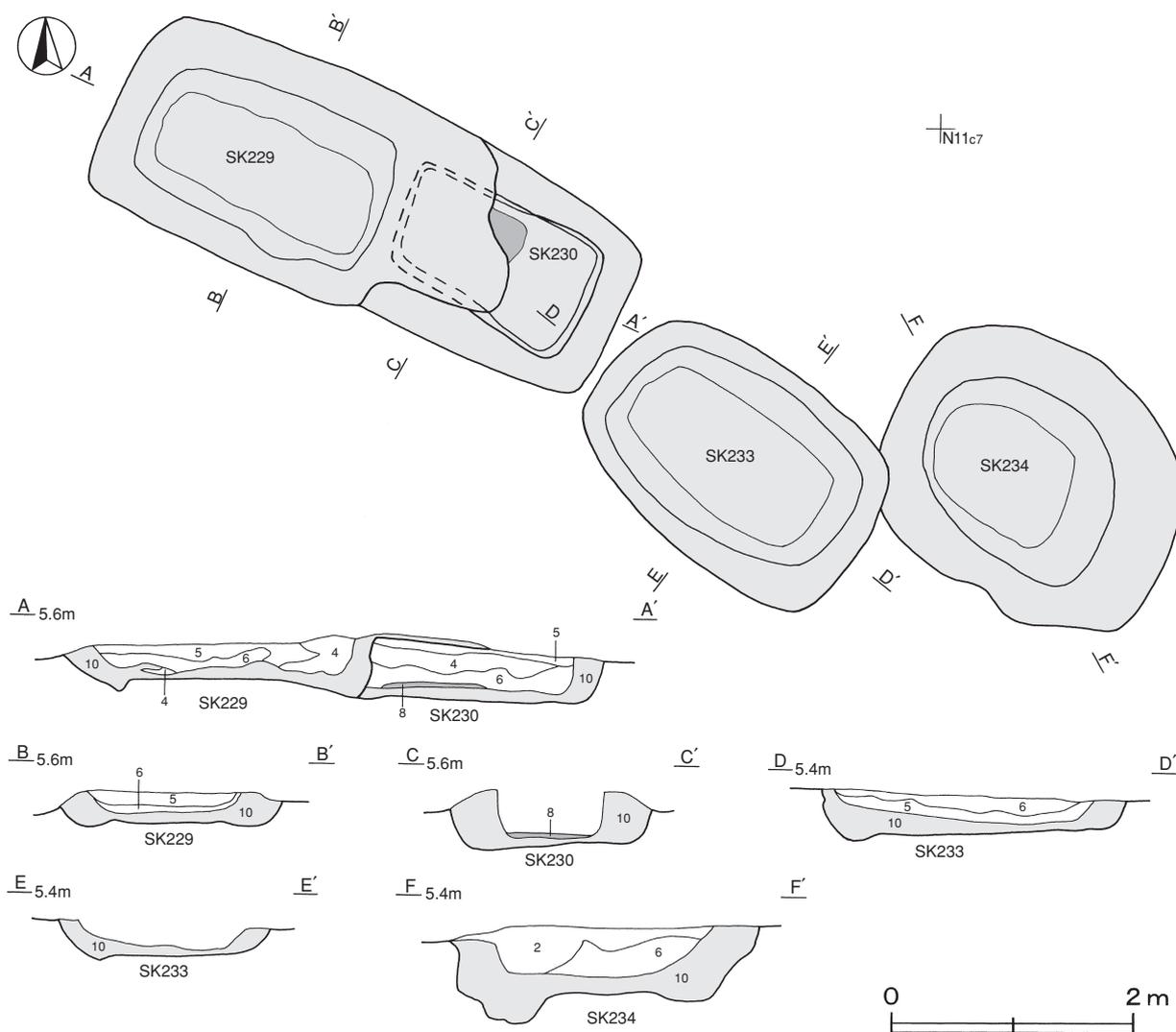
位置 調査区中央部のN11c6区に位置し、第233・234号土坑と隣接している。

重複関係 第229号土坑に掘り込まれている。

確認状況 表砂を約2.3m除去し、標高約5.2mから確認された。

規模と形状 長軸は2mだけ確認され、短軸は1.7mである。平面形は長方形と推定され、深さは32cmである。長軸方向はN-66°-Wである。底面は平坦で、壁面ほどの縮まりはない。掘り込まれている北西部以外の壁は、ほぼ直立している。壁の縮まりは強く、砂とローム土を混ぜた暗褐色土が幅約25~40cmの厚さで貼り付けられている。覆土は、第4~6層の黒色土B~D層が人為堆積した層で、底面には、第8層の焼砂層が薄く堆積している。

所見 遺構の重複関係や確認状況から、隣接する第234号土坑と同時期と考えられる。強固な構築状況から半地下的な倉庫の可能性が高い。時期は、遺構の確認状況と重複から、第229・233号土坑よりも古い17世紀前半と考えられる。



第368図 第229・230・233・234号土坑実測図

第233号土坑 8区SK-233 (第368図)

位置 調査区中央部のN11c6区に位置し、第229・230号土坑と隣接している。

重複関係 第234号土坑を掘り込んでいる。

確認状況 表砂を約2.2m除去し、標高約5.3mから確認された。

規模と形状 長軸2.6m、短軸1.7mの長方形で、深さは20cmである。長軸方向はN-51°-Wである。底面は平坦で、壁面ほどの締まりはない。壁は緩やかに立ち上がっている。壁の締まりは強く、砂とローム土を混ぜた暗褐色土が幅約15~26cmの厚さで貼り付けられている。覆土は、第5・6層の黒色土C・D層が人為堆積した層である。

所見 遺構の重複関係や確認状況から、隣接する第229号土坑と同時期と考えられる。強固な構築状況から半地下的な倉庫の可能性が高い。時期は、遺構の確認状況と重複から、17世紀前半と考えられる。

第234号土坑 8区SK-234 (第368図)

位置 調査区中央部のN11c7区に位置し、第229・230号土坑と隣接している。

重複関係 第233号土坑に掘り込まれている。

確認状況 表砂を約2.4m除去し、標高約5.1mから確認された。

規模と形状 長径2.6m、短径2.2mの不整楕円形で、深さは40cmである。長径方向はN-60°-Wである。底面は平坦で、壁面ほどの締まりはない。壁は南東部が緩やかに、北西部は外傾して立ち上がっている。壁の締まりはやや強く、砂とローム土を混ぜた暗褐色土が幅約10~30cmの厚さで構築されている。覆土は、第2層の砂B層と第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

所見 遺物は出土していない。第8区中央部の黒色土面が途切れた砂層から検出されている。遺構の重複関係や確認状況から、隣接する第230号土坑と同時期に使用されていた可能性が高い。規模は小さいが、半地下的な倉庫の可能性が考えられる。時期は、遺構の確認状況と重複から、第229・233号土坑よりも古い17世紀前半と考えられる。

第4号土坑群 (第369図)

位置 調査区南部のO11d6~O11f4区に位置している。

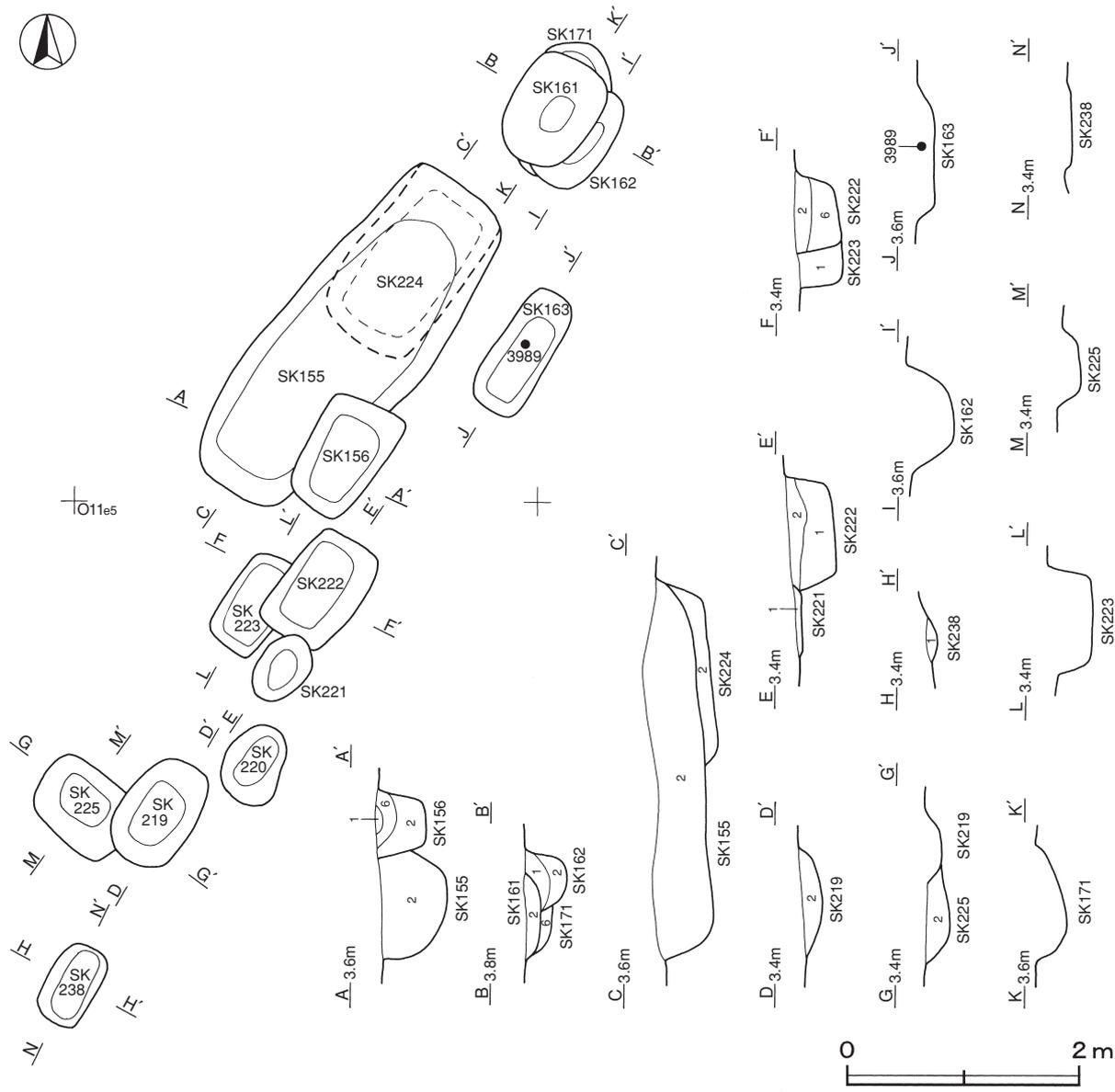
重複関係 第156号土坑は第155号土坑、第161号土坑は第162・171号土坑、第162号土坑は第171号土坑、第219号土坑は第225号、第221号土坑は第222号土坑、第222号土坑は第223号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

確認状況 第76号整地面の北東側の標高約3.1~3.5mで、土坑14基が確認された。

規模と形状 南北8.9m、東西5.6mの範囲から、第155・156・161~163・171・219~225・238号土坑が確認された。土坑は長軸(径)0.6~3.3m、短軸(径)0.4~1.3mの楕円形又は長方形で、深さは5~58cmである。土坑は第3号土手状遺構の西側に位置し、長軸方向が第3号土手状遺構と平行するように並んでいる。覆土は、第1・2層の砂A・B層が自然堆積、第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

遺物出土状況 石器1点(砥石)が、第222号土坑の覆土から出土している。

所見 第3号土手状遺構は、黒色土を数回貼り付けて継続して構築されており、本跡は最下層の黒色土と同じ層位で確認されている。当初から第3号土手状遺構の西側に沿って構築された土坑の可能性が高い。同じ確認面である第76号整地面が16世紀後半から17世紀にかけての時期であることから、ほぼ同時期と考えられる。性格は不明である。



第369図 第4号土坑群実測図

第5号土坑群 (第370図)

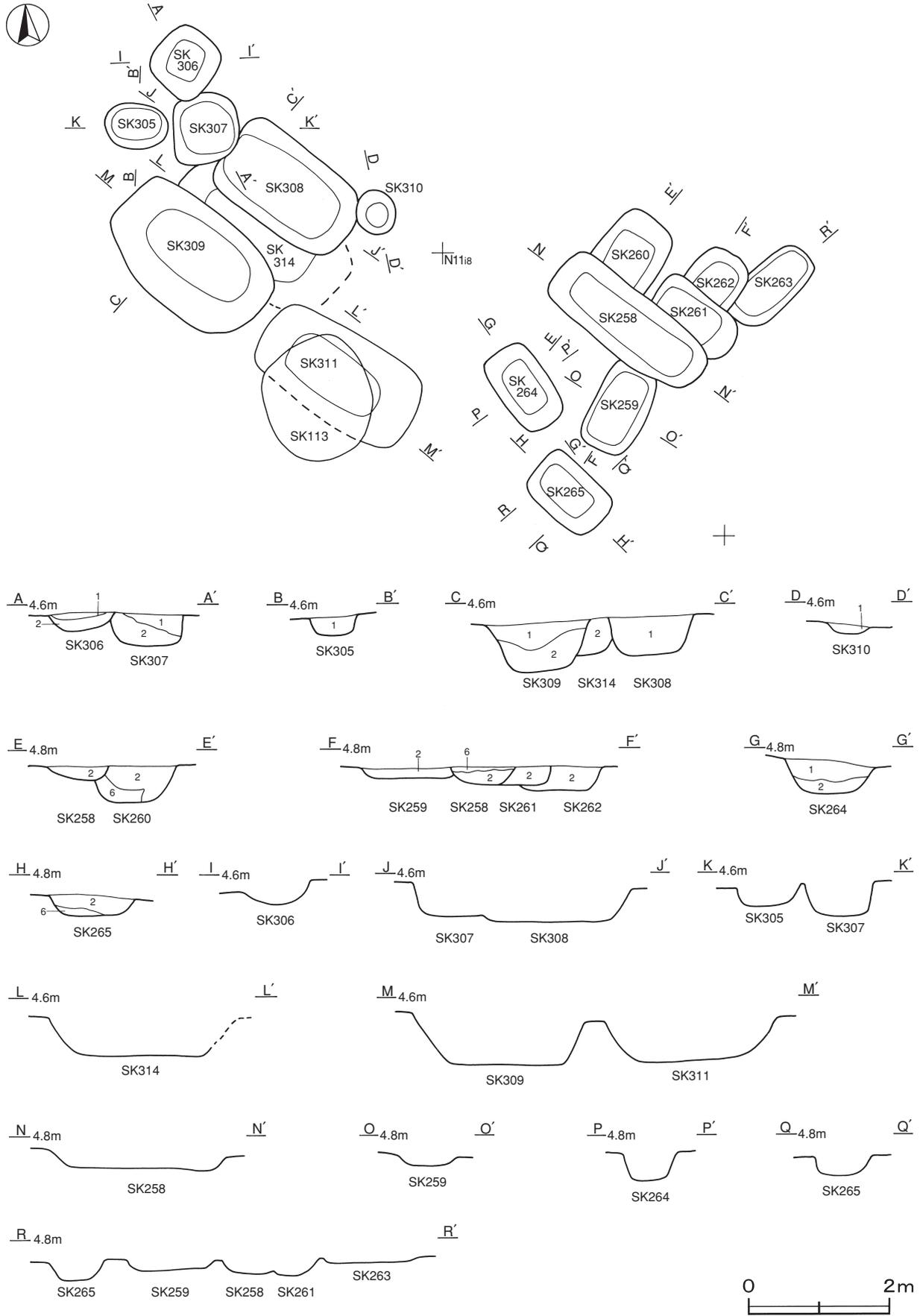
位置 調査区中央部のN11h6～N11i9区に位置している。

重複関係 第258号土坑は第259～261号土坑，第306号土坑は第307号土坑，第307号土坑は第308・314号土坑，第309号土坑は第314号土坑，第310号土坑は第308号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

確認状況 第62号整地面の黒色土を約0.7m除去した標高約4.3～4.6mで，土坑16基が確認された。

規模と形状 南北7.5m，東西10.6mの範囲から，第258～265・305～311・314号土坑が確認された。土坑は長軸（径）0.8～2.7m，短軸（径）0.6～1.5mの円形や楕円形及び方形・長方形で，深さは6～66cmである。配置に規則性は認められない。覆土は，第1・2層の砂A・B層が自然堆積，第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

所見 第62号整地面下の砂層から検出されていることから，黒色土を貼り付ける以前に構築されていた土坑と考えられる。時期は，黒色土面が構築された17世紀前半より以前と考えられる。



第370图 第5号土坑群实测图

第6号土坑群 (第371図)

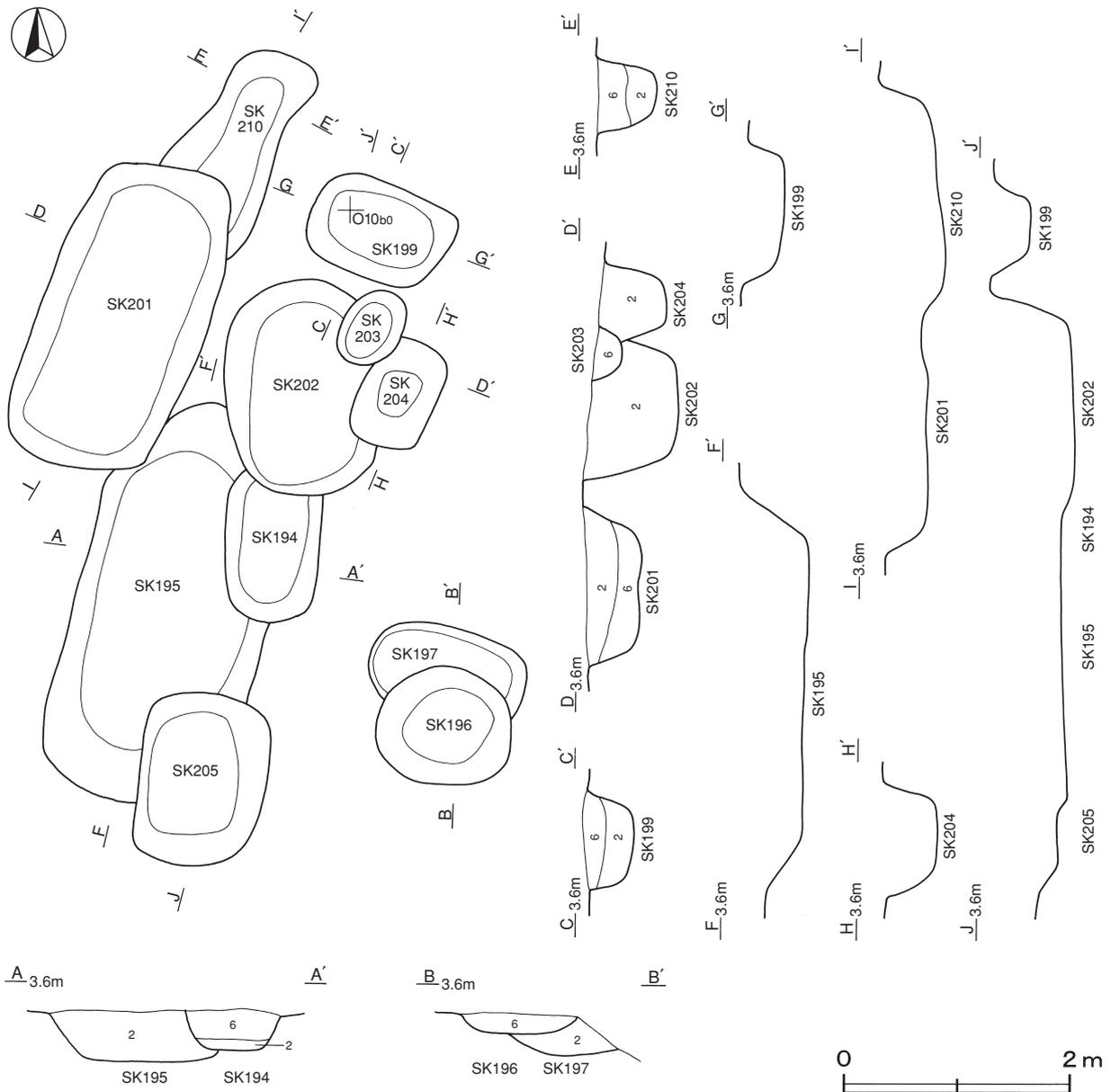
位置 調査区南部のO10a9～O10c0区に位置している。

重複関係 第194号土坑は第195号土坑，第196号土坑は第197号土坑，第201号土坑は第195・210号土坑，第203号土坑は第202・204号土坑，第204号土坑は第202号土坑，第205号土坑は第195号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

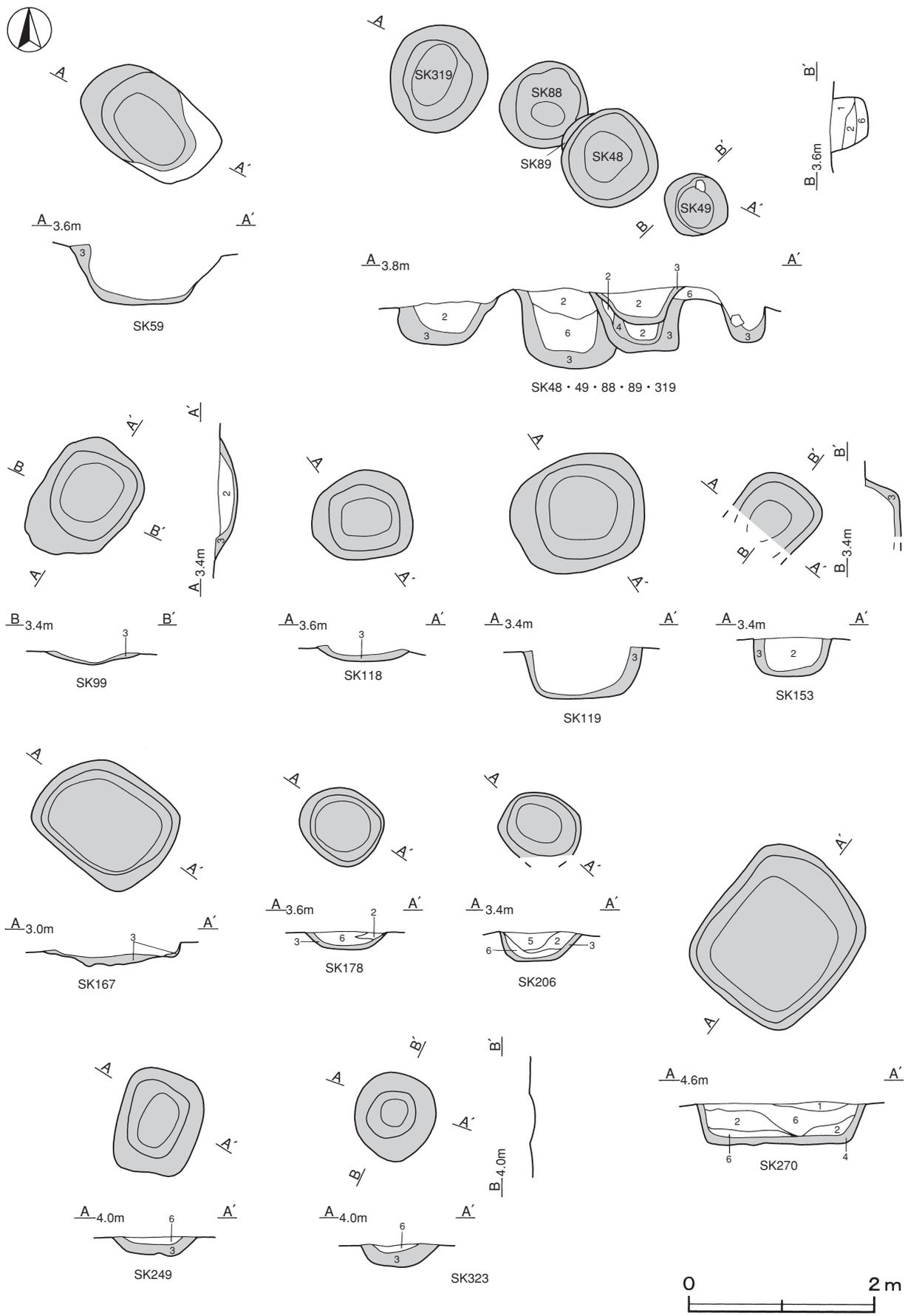
確認状況 第57号整地面の黒色土を約0.1～0.4m除去した標高約3.3～3.6mで，土坑11基が確認された。

規模と形状 南北7.5m，東西4.9mの範囲から，第194～197・199・201～205・210号土坑が確認された。土坑は長軸（径）0.7～3.1m，短軸（径）0.5～1.7mの楕円形又は長方形で，深さは16～82cmである。配置に規則性は認められない。覆土は，第2層の砂B層が自然堆積，第6層の黒色土D層が人為堆積した層である。

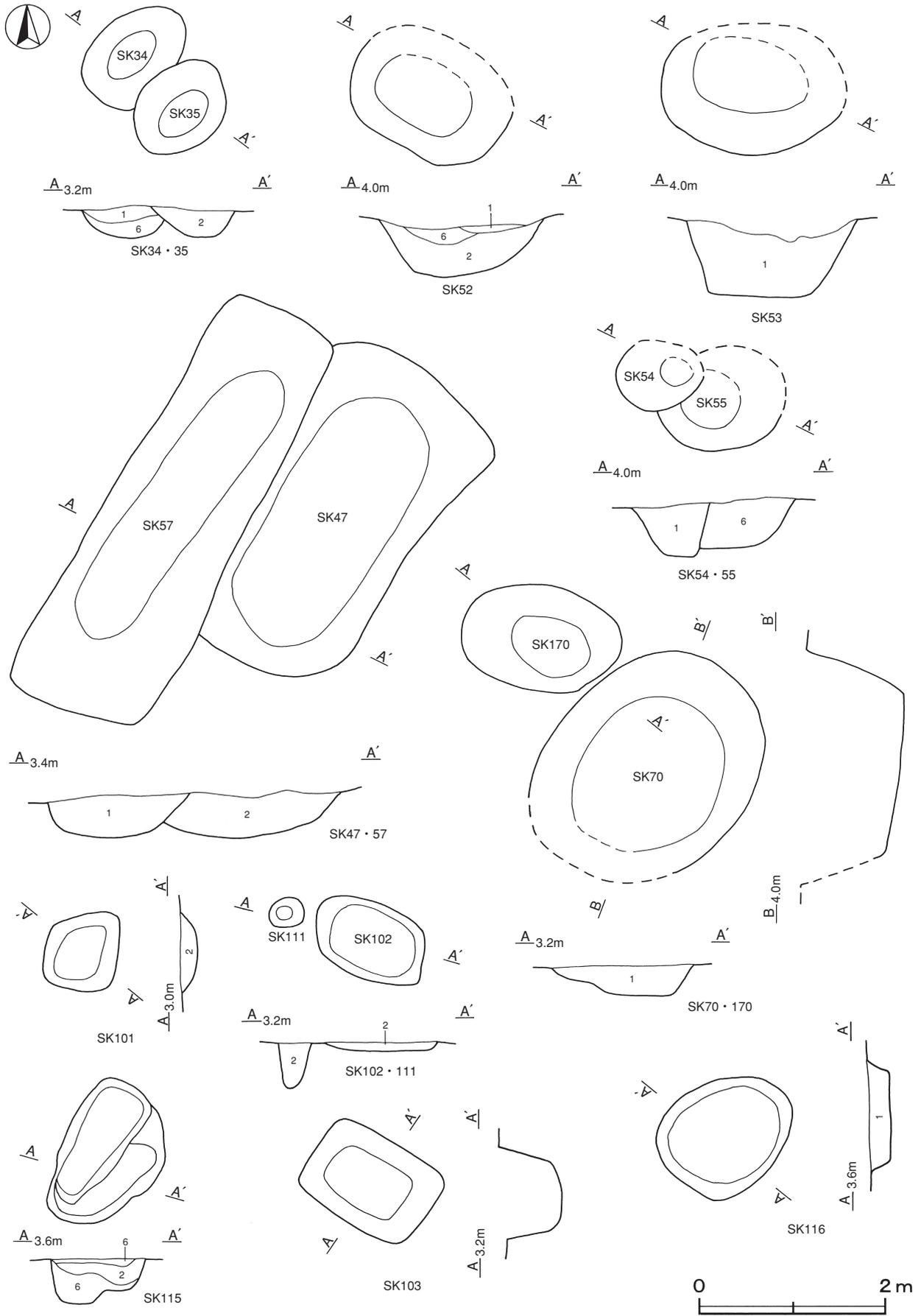
所見 第57号整地面下の砂層から検出されていることから，黒色土を貼り付ける以前に構築されていた土坑と考えられる。時期は，黒色土面が構築された17世紀前半以前と考えられる。



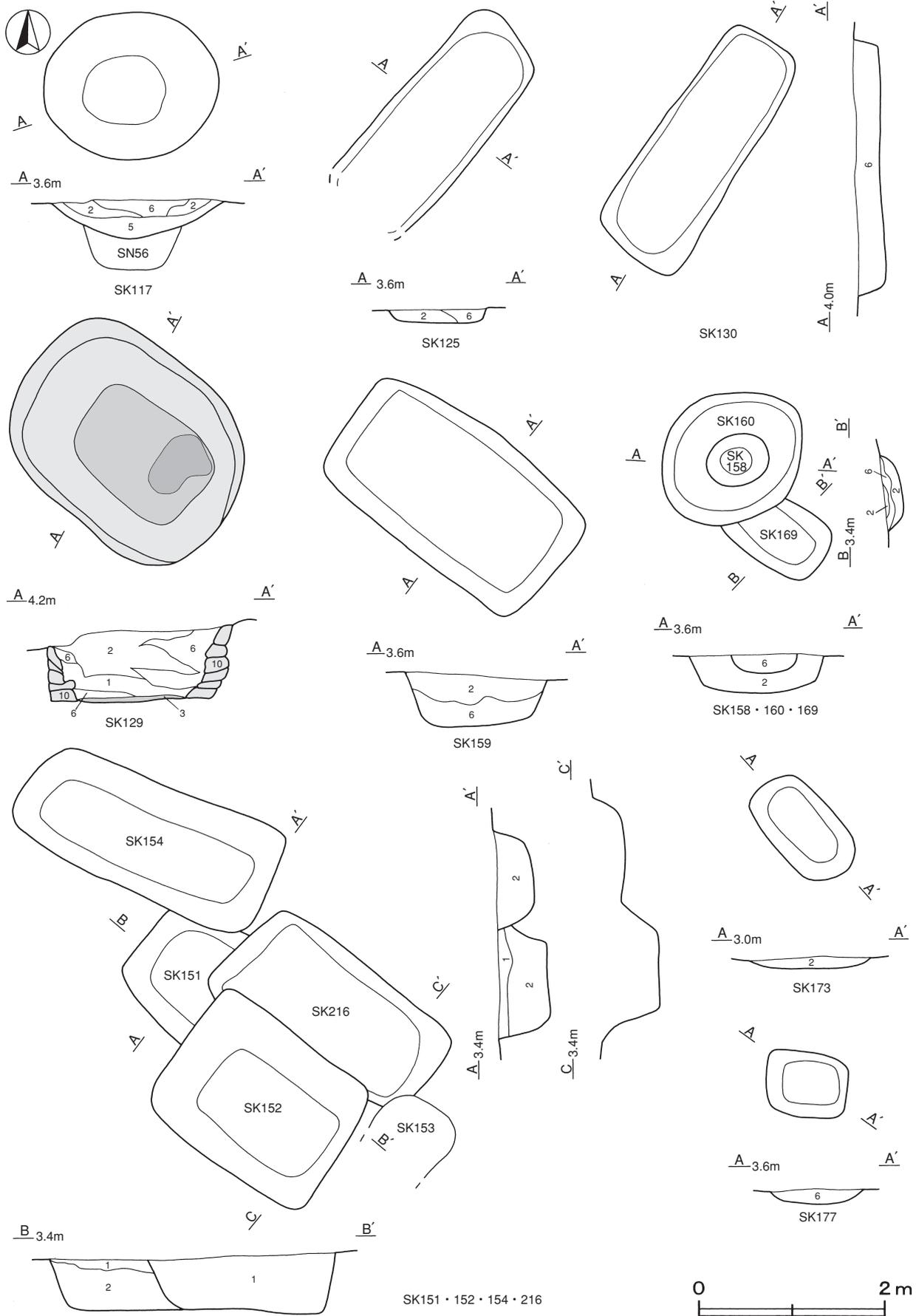
第371図 第6号土坑群実測図



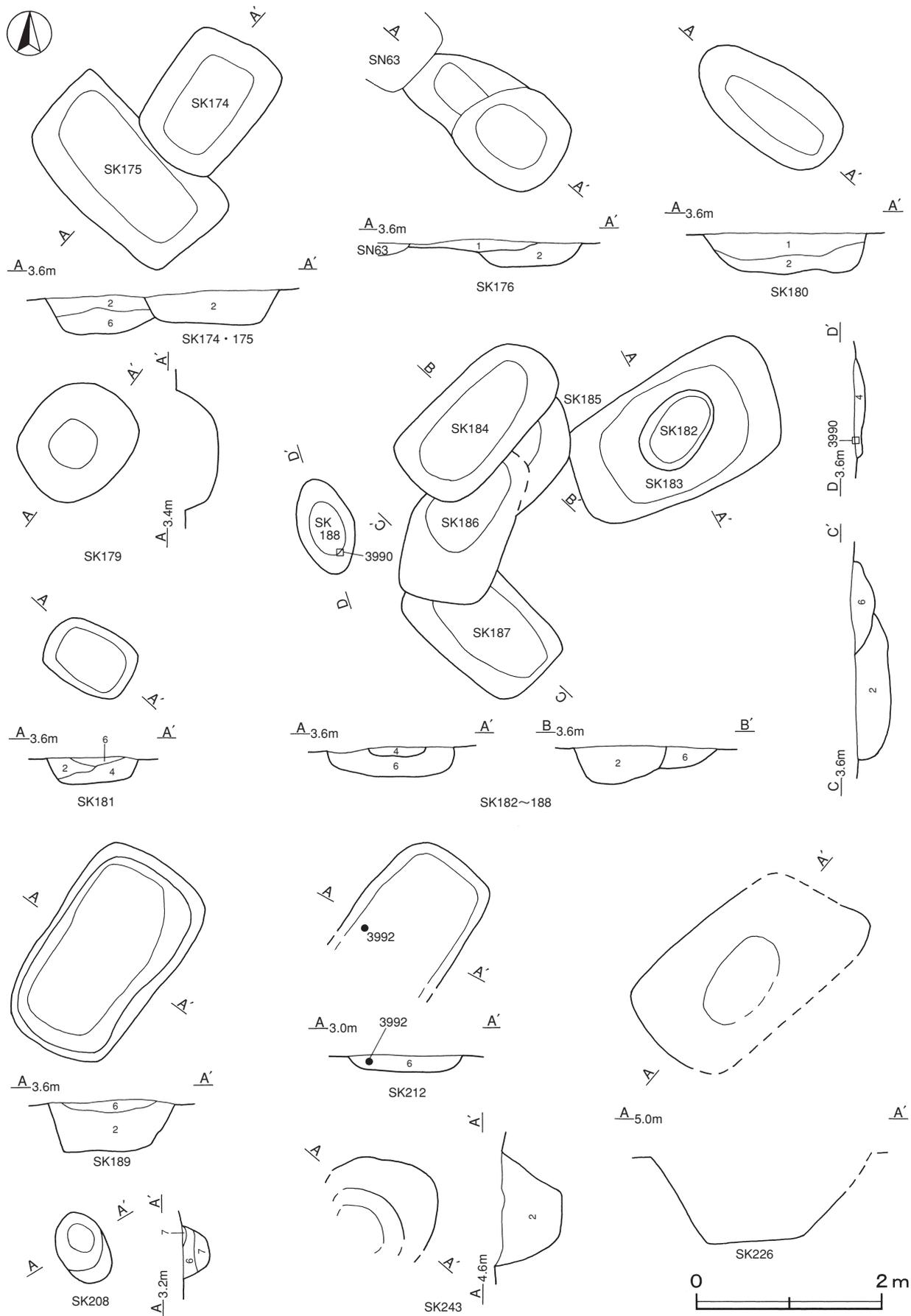
第372图 黑色土黏土坑实测图



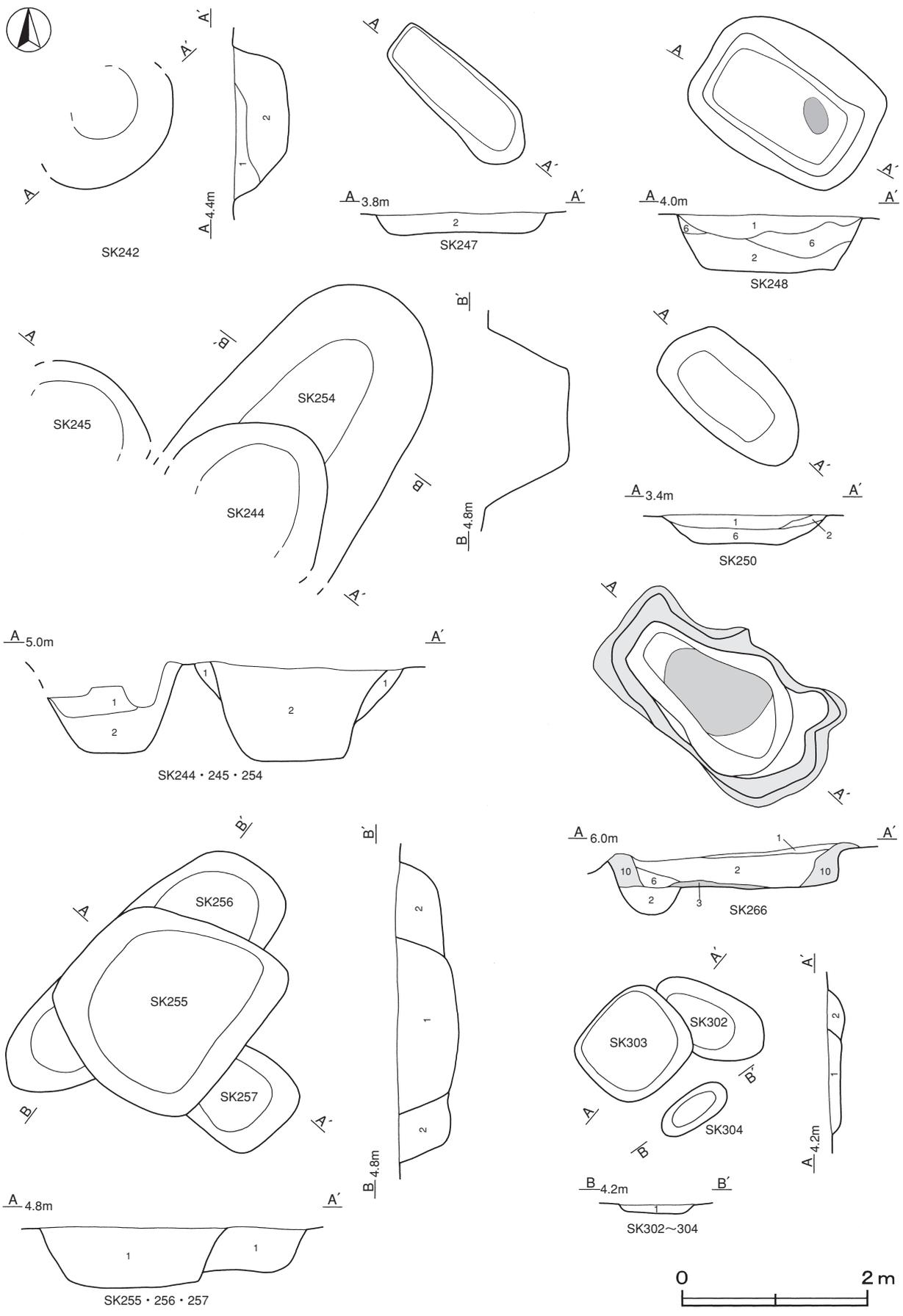
第373图 土坑实测图(1)



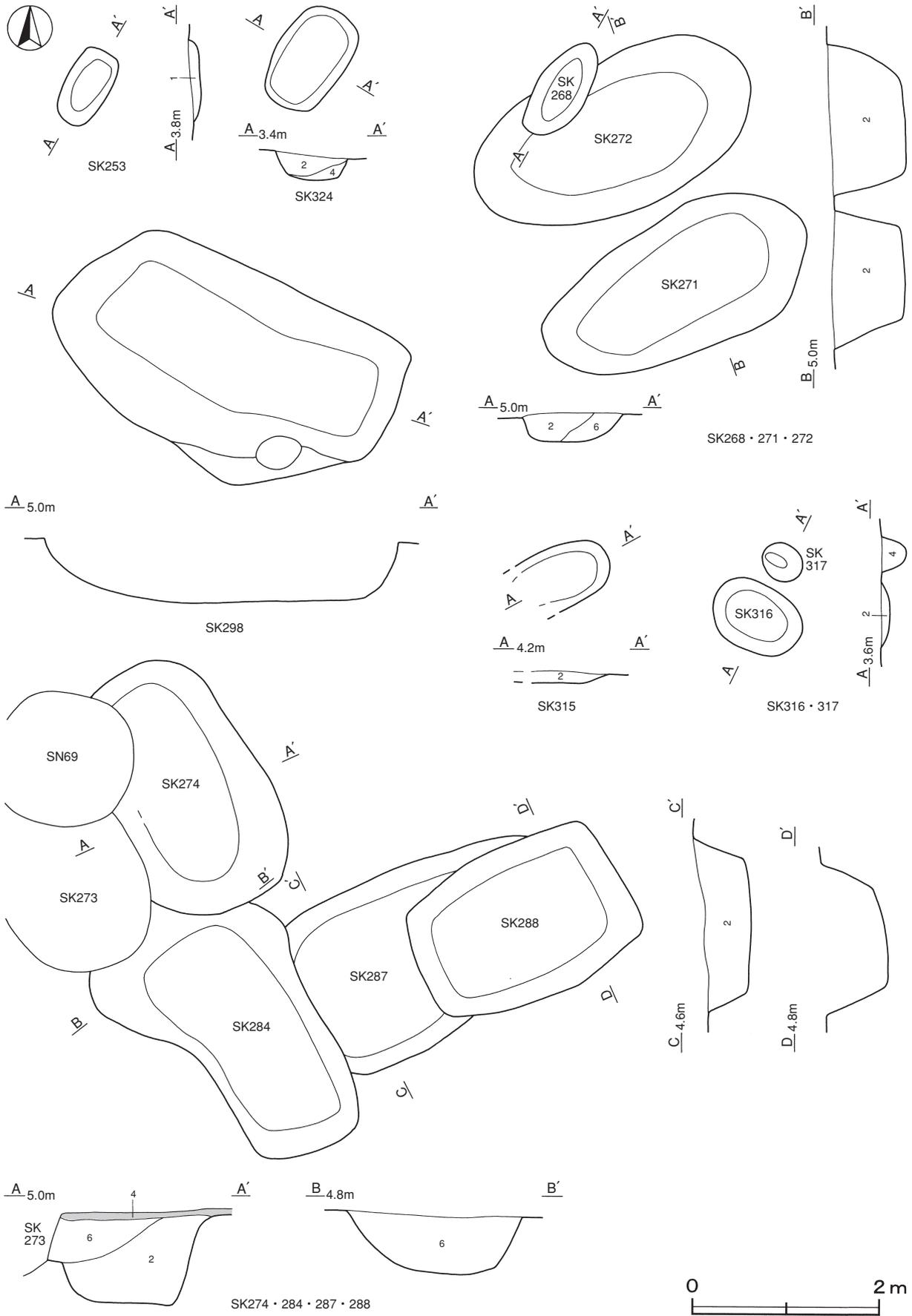
第374图 土坑实测图(2)



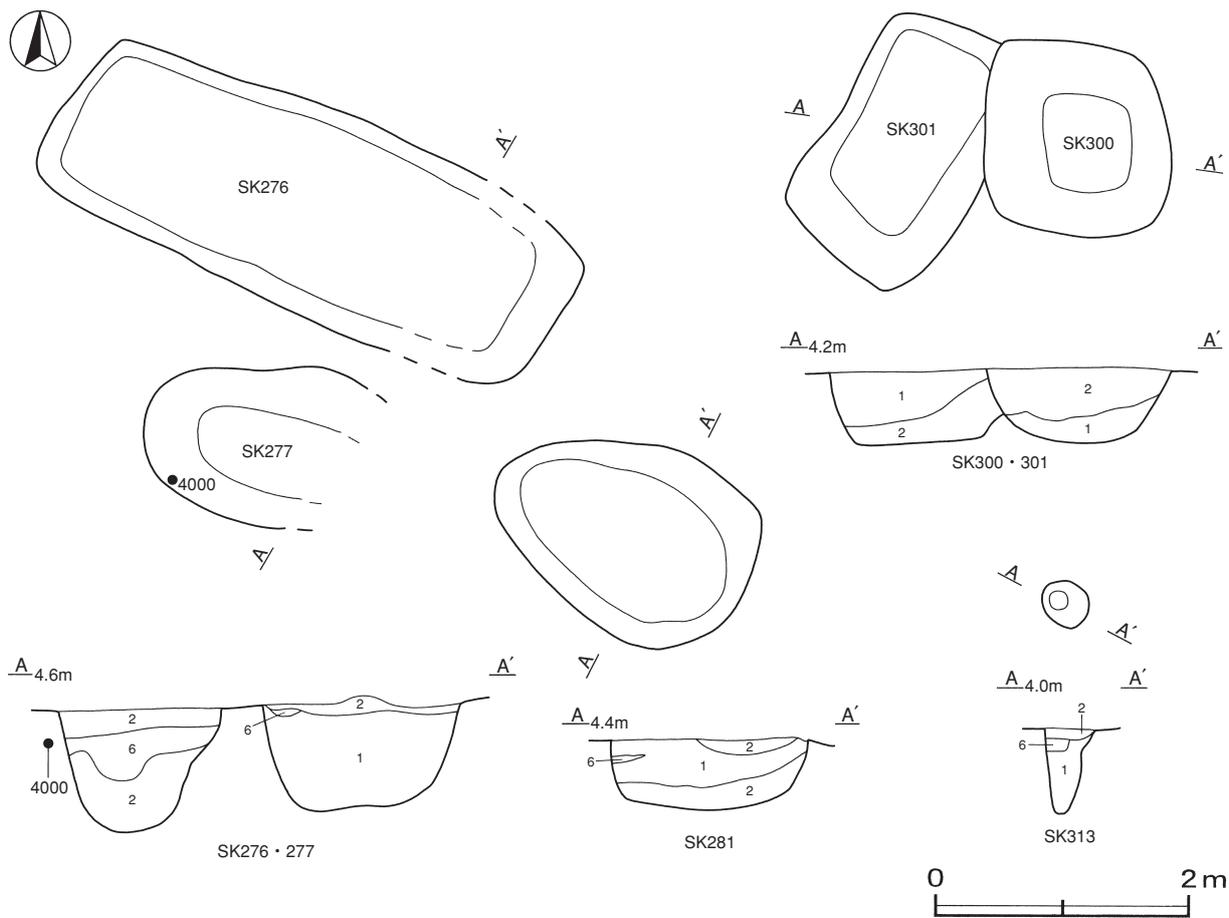
第375图 土坑实测图(3)



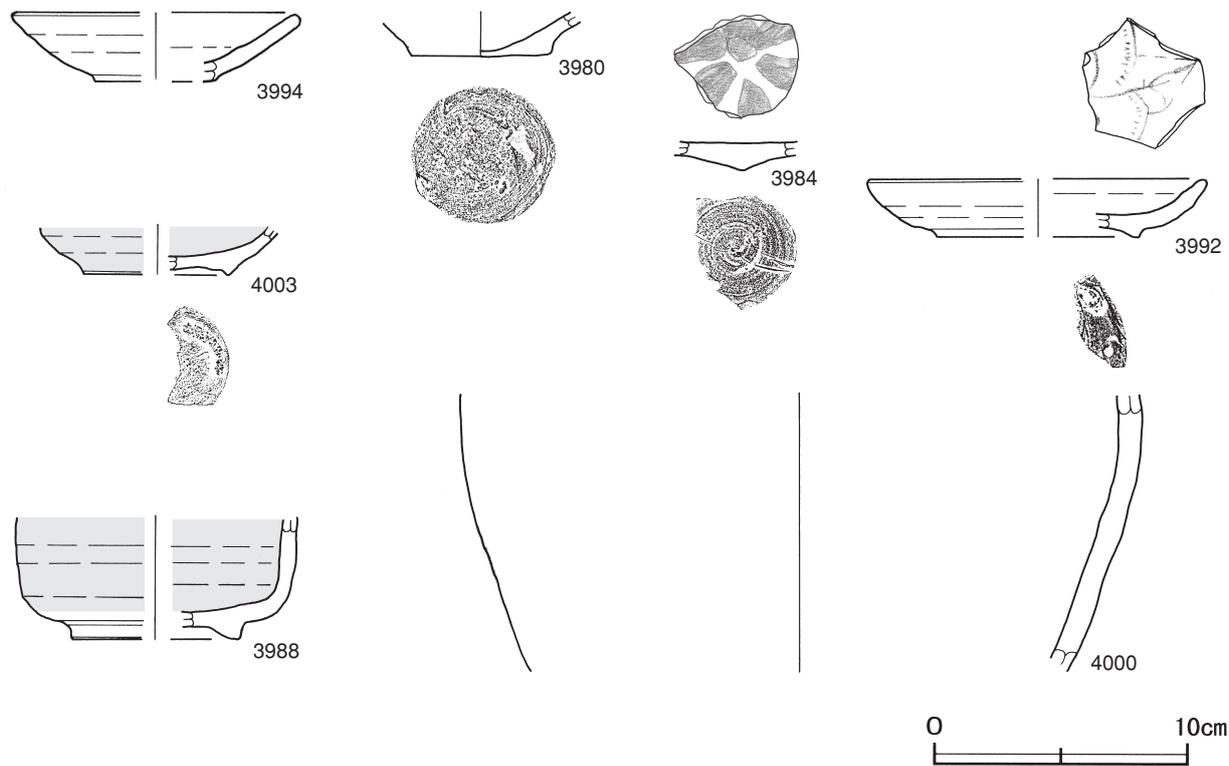
第376图 土坑实测图(4)



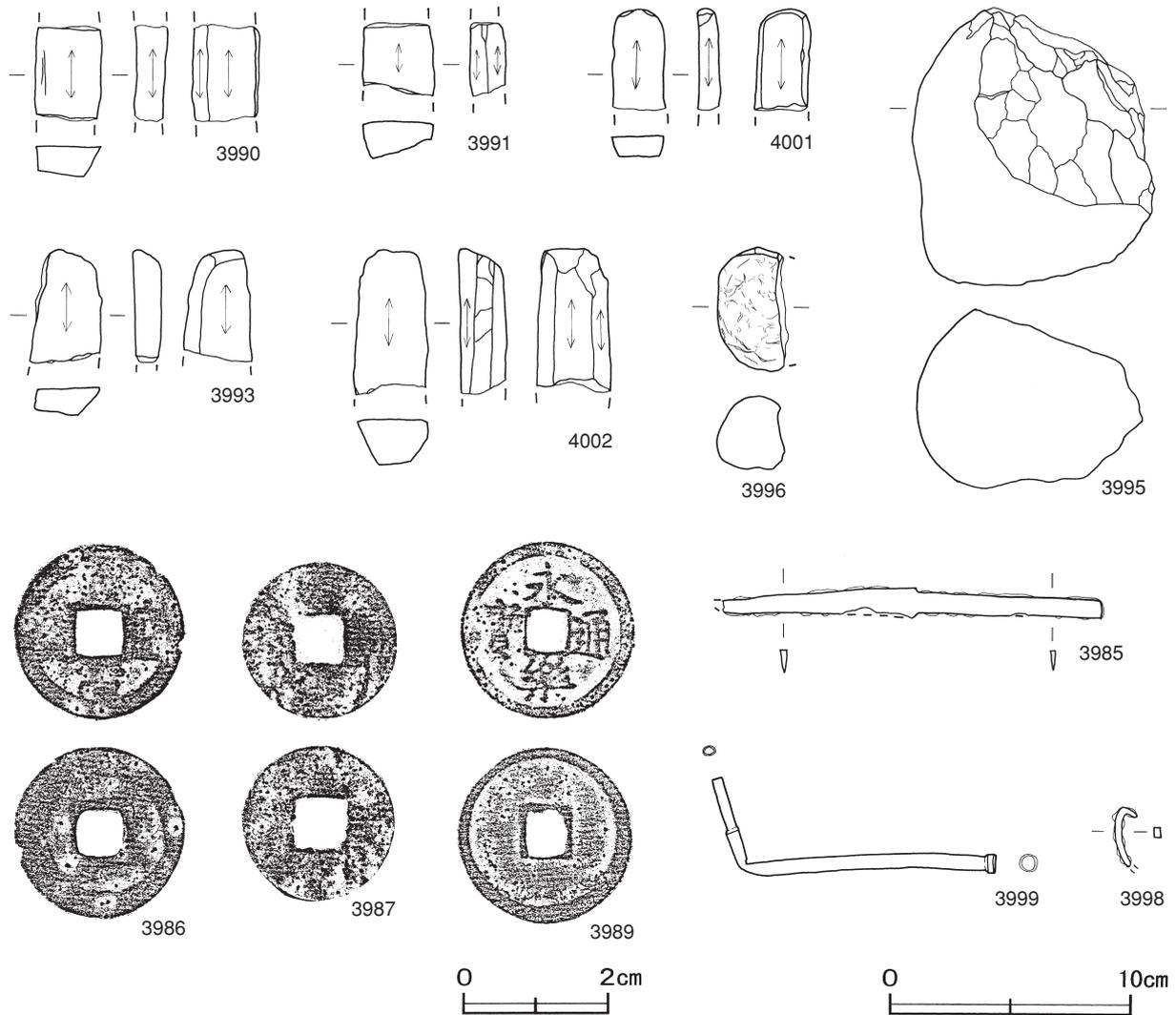
第377图 土坑实测图(5)



第378图 土坑实测图(6)



第379图 土坑出土遗物实测图(1)



第380図 土坑出土遺物実測図(2)

その他の土坑出土遺物観察表 (第379・380図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3980	皿	土師質土器	-	(1.4)	5.6	石英・雲母	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	SK59内	40%
3994	皿	土師質土器	[11.0]	2.7	[4.8]	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	SK226内	10%
4000	甕	土師器	-	(11.0)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	SK277内	5%

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
3984	青織部皿	陶器	-	(4.8)	-	灰黄・淡黄	鉄絵・長石釉	見込みに鉄絵花文	瀬戸・美濃 17C前半	SK47内	5% 連房1カ
3988	碗	陶器	-	(4.9)	[6.6]	灰黄褐・黒褐	鉄釉	削り出し高台	瀬戸・美濃	SK154内	10%
3992	鼠志野皿	陶器	[13.2]	2.3	[8.0]	浅黄・灰	鉄絵・長石釉	内面鉄絵花文	瀬戸・美濃 17C前半	SK212内	10% PL66
4003	丸皿カ	陶器	-	(2.0)	[5.6]	灰白・浅黄	灰釉	高台内輪ドチ痕有り	瀬戸・美濃	SK305内	10% 大窯期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3985	小刀	(15.8)	1.4	0.2	(18.6)	鉄	切先部欠損 両関	SK47内	
3990	砥石	(4.0)	2.8	1.4	(25.4)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	SK188内	
3991	砥石	(3.1)	3.0	1.5	(21.4)	凝灰岩	砥面3面 他は剥離面	SK195内	
3993	砥石	(4.7)	3.0	1.2	(23.5)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	SK222内	
3995	石核	11.5	10.1	7.4	1140.0	石英	火打石の母岩	SK226内	
3996	漆喰	5.2	(2.9)	3.0	(38.4)	貝	内・外面乳白色	SK264内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3998	釘	(2.5)	0.3	0.4	(2.7)	鉄	断面方形 頭部屈曲 先端部欠損	SK276内	
3999	煙管	11.8	接合部径0.5	口付径0.8	8.0	銅	吸い口 吸い口部段有り	SK276内	
4001	砥石	(4.1)	2.2	0.9	(15.2)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	SK300内	
4002	砥石	(6.0)	3.0	1.9	(52.1)	凝灰岩	砥面4面 断面不定形	SK300内	

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
3986	熙寧元寶	2.41	0.58	0.13	3.42	1068	銅	篆書	SK52内	
3987	□□□□	2.18	0.62	0.08	1.66	-	銅	判読不明	SK52内	
3989	永樂通寶	2.49	0.52	0.12	3.78	1408	銅	真書	SK163内	

表39 8区黒色土貼土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SK48	O11c2	3.2	N-40°-E	0.7	0.5	30	楕円形	8~12	-	外傾	皿状		SK88・89→本跡
2	SK49	O11c2	3.5	N-30°-W	0.7	0.6	40	不整長方形	6~16	-	外傾	皿状		
3	SK59	O11c2	3.4	N-47°-W	1.5	0.9	60	不整長方形	4~16	-	緩斜・外傾	皿状	土師質土器(皿)	
4	SK88	O11c2	3.6	-	0.8	(0.7)	68	[円形]	18	-	直立	皿状		本跡→SK48・89
5	SK89	O11c2	3.5	N-35°-W	1.1	1.0	16	楕円形	10~20	-	外傾	皿状		SK88→本跡→SK48
6	SK99	O11f6	3.1	N-40°-E	1.4	1.0	10	不整楕円形	2~5	-	緩斜	皿状		
7	SK118	O10e0	3.4	-	1.0	1.0	10	円形	6~8	-	緩斜	皿状		
8	SK119	O10f0	3.4	N-70°-E	1.4	1.2	54	隅丸長方形	6~24	-	外傾	平坦		
9	SK153	O11d4	3.2	N-42°-E	0.9	(0.6)	36	[隅丸長方形]	4~10	-	緩斜	皿状		SK216→本跡
10	SK167	O10f0	2.9	N-49°-W	1.5	1.2	12	隅丸長方形	6~12	-	緩斜・外傾	皿状		
11	SK178	O10a8	3.4	N-52°-W	0.8	0.7	19	隅丸長方形	3~5	-	緩斜	平坦		
12	SK206	O11g8	3.2	N-64°-W	0.8	0.6	22	楕円形	4~8	-	緩斜	皿状		
13	SK207	O11g8	3.1	N-32°-W	0.6	0.5	46	楕円形	3~20	-	直立	平坦		
14	SK249	O11a7	3.8	N-14°-E	1.1	0.9	8	隅丸長方形	9~18	-	緩斜	皿状		
15	SK270	N11h5	3.8	N-37°-E	1.8	1.5	38	隅丸長方形	8	-	外傾	平坦		
16	SK319	O11c2	3.4	N-27°-E	1.2	1.0	32	楕円形	10~20	-	緩斜	皿状		
17	SK323	N11h6	3.7	-	0.9	0.9	8	円形	16	-	緩斜	平坦		

表40 8区土坑一覽表

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規 模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
1	SK34	O11i1	3.0	N-49°-E	1.3	(0.8)	34	[楕円形]	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK35
2	SK35	O11i1	3.0	N-41°-E	1.2	0.9	33	楕円形	-	-	緩斜	平坦		SK34→本跡
3	SK47	O11i8	3.0	N-31°-E	3.7	(1.7)	49	[隅丸長方形]	-	-	緩斜	皿状	陶器(青織部皿) 小刀	本跡→SK57
4	SK52	O10d9	3.6	N-62°-W	1.7	(0.9)	54	[楕円形]	-	-	緩斜	皿状	古銭	
5	SK53	O10d9	3.7	N-64°-W	1.8	(0.9)	90	[楕円形]	-	-	緩斜・外傾	平坦		
6	SK54	O10e0	3.7	-	0.5	(0.4)	54	[円形]	-	-	緩斜・外傾	平坦		SK55→本跡
7	SK55	O10e0	3.7	N-30°-W	(1.2)	(0.7)	50	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK54
8	SK57	O11i8	3.1	N-29°-E	5.0	1.4	48	長方形	-	-	緩斜	皿状		SK47→本跡
9	SK70	O11d1	3.7	N-28°-E	(2.2)	2.1	104	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		
10	SK101	O11h8	2.9	N-9°-E	1.3	0.8	22	不整長方形	-	-	緩斜・外傾	平坦		
11	SK102	O11g9	3.0	N-65°-W	1.2	0.8	12	不整楕円形	-	-	緩斜	皿状		
12	SK103	O11g8	3.0	N-56°-W	1.4	1.0	68	長方形	-	-	外傾	皿状		
13	SK111	O11g8	3.0	N-49°-E	0.4	0.3	50	楕円形	-	-	外傾	皿状		
14	SK115	O10e9	3.4	N-30°-E	1.5	1.0	49	楕円形	-	-	外傾	平坦		
15	SK116	O10e0	3.4	N-42°-E	1.4	1.2	22	楕円形	-	-	外傾	平坦		
16	SK117	O10e0	3.4	N-90°	1.9	1.6	18	楕円形	-	-	緩斜	平坦		SN56→本跡
17	SK125	O10f5	3.3	N-42°-E	(2.4)	1.1	28	[長方形]	-	-	緩斜・外傾	平坦		
18	SK129	O11c8	3.9	N-46°-W	2.8	2.0	73	隅丸長方形	暗褐色土4	-	外傾	平坦		

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
19	SK130	N11h1	3.8	N-32°-E	2.7	1.0	30	長方形	-	-	緩斜・外傾	平坦		
20	SK151	O11d4	3.2	[N-40°-W]	(1.2)	1.0	55	[長方形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK152・154・216
21	SK152	O11d4	3.1	N-40°-W	2.1	1.6	64	長方形	-	-	外傾	平坦		SK151・216→本跡
22	SK154	O11d4	3.2	N-65°-W	2.8	1.2	40	長方形	-	-	緩斜	皿状	陶器(碗)	SK151→本跡
23	SK155	O11d5	3.4	N-36°-E	3.3	1.3	58	[長方形]	-	-	直立	皿状		SK224→本跡→SK156
24	SK156	O11d5	3.4	N-35°-E	1.0	0.7	44	長方形	-	-	直立	皿状		SK155→本跡
25	SK158	O11d1	3.3	-	0.6	0.6	20	円形	-	-	緩斜	皿状		SK160→本跡
26	SK159	O11c4	3.4	N-52°-W	2.8	1.6	57	長方形	-	-	外傾	平坦		
27	SK160	O11d1	3.3	N-27°-E	1.6	1.4	40	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK169→本跡→SK158
28	SK161	O11d6	3.5	N-29°-E	1.1	0.7	13	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK162・171→本跡
29	SK162	O11d6	3.5	N-29°-E	1.0	[0.5]	36	[楕円形]	-	-	外傾	皿状		SK171→本跡→SK161
30	SK163	O11d5	3.4	N-34°-E	1.2	0.5	15	長方形	-	-	外傾	平坦	古銭	
31	SK169	O11d1	3.1	N-57°-W	[1.3]	0.7	22	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK160
32	SK170	O10d0	2.9	N-78°-E	1.7	1.2	30	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
33	SK171	O11d6	3.5	N-29°-E	1.1	[0.7]	36	[楕円形]	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK161・162
34	SK173	O10g8	2.8	N-40°-W	1.3	0.7	14	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		
35	SK174	O11c5	3.4	N-37°-E	1.6	1.1	37	長方形	-	-	緩斜	平坦		SK175→本跡
36	SK175	O11d5	3.3	N-42°-W	2.1	1.1	42	長方形	-	-	外傾	平坦		本跡→SK174
37	SK176	O10b0	3.4	N-52°-W	1.8	1.1	25	不整楕円形	-	-	緩斜	皿状		本跡→SN63
38	SK177	O10a8	3.3	N-82°-W	0.9	0.7	15	長方形	-	-	外傾	平坦		
39	SK179	O11c3	3.3	N-43°-E	1.3	1.1	45	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
40	SK180	O10a8	3.4	N-52°-W	1.7	0.9	45	楕円形	-	-	外傾	皿状		
41	SK181	O10a8	3.4	N-61°-W	1.0	0.7	23	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦		
42	SK182	O11a1	3.4	N-36°-E	1.0	0.6	9	楕円形	-	-	外傾	平坦		SK183→本跡
43	SK183	O11a1	3.4	N-62°-E	2.4	1.4	36	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦		本跡→SK182
44	SK184	O11a1	3.4	N-45°-E	2.0	1.0	48	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		SK185・186→本跡
45	SK185	O11a1	3.4	N-47°-E	[1.7]	[1.2]	24	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK184・186
46	SK186	O11a1	3.5	N-24°-E	[1.8]	1.1	13	[隅丸長方形]	-	-	緩斜	皿状		SK185・187→本跡→SK184
47	SK187	O11b1	3.4	N-45°-W	[1.7]	1.1	34	[長方形]	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK186
48	SK188	O11a0	3.4	N-16°-W	1.1	0.6	10	楕円形	-	-	緩斜	皿状	砥石	
49	SK189	O11b7	3.4	N-35°-E	2.4	1.4	49	隅丸長方形	-	-	外傾	平坦		
50	SK194	O10b9	3.4	N-4°-W	1.5	0.8	35	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK195→本跡→SK202
51	SK195	O10b9	3.4	N-15°-E	3.1	1.7	45	楕円形	-	-	緩斜	平坦	砥石	本跡→SK194・201・202・205
52	SK196	O10c0	3.3	N-75°-W	1.2	1.0	16	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK197→本跡
53	SK197	O10c0	3.3	N-76°-W	1.2	[0.8]	34	楕円形	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK196
54	SK199	O10b0	3.5	N-68°-W	1.2	0.9	45	隅丸長方形	-	-	外傾	皿状		
55	SK201	O10b9	3.5	N-21°-E	2.8	1.5	49	長方形	-	-	緩斜	平坦		SK195・210→本跡
56	SK202	O10b9	3.5	N-7°-W	1.9	[1.3]	82	[隅丸長方形]	-	-	外傾	皿状		SK194→本跡→SK203・204
57	SK203	O10b0	3.5	N-36°-E	0.7	0.5	28	楕円形	-	-	外傾	皿状		SK202・204→本跡
58	SK204	O10b0	3.4	N-25°-E	1.0	0.7	60	長方形	-	-	外傾	皿状		SK202→本跡→SK203
59	SK205	O10c9	3.6	N-7°-E	1.6	1.1	16	長方形	-	-	緩斜	皿状		SK195→本跡
60	SK208	O11g8	3.0	N-18°-W	0.8	0.5	28	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
61	SK210	O10a9	3.4	N-27°-E	(2.1)	0.9	52	[不整楕円形]	-	-	外傾	皿状		本跡→SK201
62	SK212	O11h7	2.7	N-35°-E	(1.4)	1.2	18	[長方形]	-	-	緩斜	皿状	陶器(鼠志野皿)	
63	SK216	O11d4	3.2	N-51°-W	2.4	[1.2]	40	[長方形]	-	-	直立	平坦		SK151→本跡→SK152・153
64	SK219	O11e5	3.2	N-38°-E	1.0	0.6	17	楕円形	-	-	緩斜	皿状		SK225→本跡
65	SK220	O11e5	3.2	N-40°-E	0.7	0.5	5	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
66	SK221	O11e5	3.2	N-29°-E	0.6	0.4	5	楕円形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK222
67	SK222	O11e5	3.3	N-38°-E	1.0	0.7	39	長方形	-	-	直立	平坦	砥石	SK223→本跡→SK221
68	SK223	O11e5	3.2	N-34°-E	0.9	0.4	38	長方形	-	-	直立	平坦		本跡→SK222
69	SK224	O11d5	3.4	N-37°-E	1.6	1.0	50	長方形	-	-	外傾	平坦		本跡→SK155
70	SK225	O11e5	3.1	N-48°-W	0.9	0.7	18	長方形	-	-	緩斜	皿状		本跡→SK219
71	SK226	N11h5	4.6	N-49°-E	[2.3]	(1.1)	94	[不整長方形]	-	-	緩斜	平坦	土師質土器(皿)石核	
72	SK229	N11c5	5.2	N-66°-W	3.5	1.9	20	長方形	暗褐色土20~30	-	緩斜・外傾	平坦		SK230→本跡
73	SK230	N11c6	5.2	N-66°-W	[2.0]	1.7	32	[長方形]	暗褐色土25~40	-	直立	平坦		本跡→SK229

番号	遺構番号	位置	標高	長軸・長径方向	規模			形状	黒色土厚 (cm)	粘土厚 (cm)	壁面	床面	出土遺物	新旧関係 旧→新 (旧番号)
					長軸(径) (m)	短軸(径) (m)	深さ (cm)							
74	SK233	N11c6	5.3	N-51°-W	2.6	1.7	20	長方形	暗褐色土10~30		緩斜	平坦		SK234→本跡
75	SK234	N11c7	5.1	N-60°-W	2.6	2.2	40	不整楕円形	暗褐色土10~30		緩斜・外傾	平坦		本跡→SK233
76	SK238	O11f5	3.1	N-23°-E	0.7	0.4	9	長方形	-	-	緩斜	皿状		
77	SK242	N11j4	4.2	N-48°-E	(1.7)	(0.5)	60	[楕円形]	-	-	緩斜	-		
78	SK243	N11h3	4.4	N-49°-W	(1.3)	(0.6)	60	[楕円形]	-	-	緩斜・外傾	皿状		
79	SK244	N11h3	4.8	-	(1.9)	(1.1)	102	[円形]	-	-	外傾	平坦		SK254→本跡
80	SK245	N11g2	4.8	[N-50°-W]	(1.4)	(0.2)	100	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		
81	SK247	O11c9	3.7	N-48°-W	1.8	0.7	20	長方形	-	-	緩斜	平坦		
82	SK248	O11c8	3.9	N-56°-W	2.4	1.7	62	長方形	-	-	緩斜	平坦		
83	SK250	N11j4	3.2	N-48°-W	1.8	0.9	30	楕円形	-	-	緩斜	皿状		
84	SK253	N11b6	3.6	N-32°-E	0.9	0.5	10	隅丸長方形	-	-	緩斜	皿状		
85	SK254	N11g3	4.6	N-33°-E	(2.9)	2.1	90	[楕円形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SK244
86	SK255	N11g4	4.6	N-49°-E	2.1	1.3	61	長方形	-	-	緩斜・外傾	平坦		SK256・257→本跡
87	SK256	N11g4	4.6	N-35°-E	3.6	1.2	55	楕円形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK255
88	SK257	N11g4	4.6	N-46°-E	1.1	(0.9)	43	[長方形]	-	-	緩斜・外傾	平坦		本跡→SK255
89	SK258	N11i8	4.5	N-51°-W	2.5	0.9	27	長方形	-	-	緩斜	平坦		SK259~261→本跡
90	SK259	N11i8	4.5	N-26°-E	(1.2)	0.7	16	長方形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK258
91	SK260	N11h8	4.5	N-35°-E	(1.0)	0.9	52	[長方形]	-	-	緩斜・外傾	平坦		本跡→SK258
92	SK261	N11i8	4.4	N-35°-W	1.3	(0.5)	28	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		SK262→本跡→SK258
93	SK262	N11i8	4.5	N-35°-E	0.8	(0.7)	34	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		SK263→本跡→SK261
94	SK263	N11i9	4.5	N-49°-E	1.3	0.6	6	長方形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK262
95	SK264	N11i8	4.6	N-33°-W	1.2	0.7	40	長方形	-	-	緩斜	平坦	漆喰	
96	SK265	N11i8	4.5	N-45°-W	1.2	0.8	30	長方形	-	-	緩斜	平坦		
97	SK266	N11b5	5.8	N-48°-W	2.7	1.4	38	不定形	暗褐色土6~30		外傾	平坦		
98	SK268	N11f4	5.0	N-30°-E	1.1	0.5	30	楕円形	-	-	緩斜・外傾	皿状		SK272→本跡
99	SK271	N11g5	4.8	N-62°-E	3.0	1.5	80	楕円形	-	-	外傾	平坦		
100	SK272	N11f4	4.8	N-66°-E	3.2	1.6	80	楕円形	-	-	外傾	平坦		本跡→SK268
101	SK274	N11g8	4.8	N-26°-W	2.8	(1.6)	93	[隅丸長方形]	-	-	外傾	平坦		本跡→SN69・SK273・284
102	SK276	N11j6	4.4	N-65°-W	4.2	1.6	78	長方形	-	-	外傾	皿状	釘, 煙管	
103	SK277	O11a6	4.2	N-71°-W	(1.5)	1.3	90	[楕円形]	-	-	外傾	皿状	土師質土器(皿)	
104	SK281	O11a7	4.3	N-58°-W	2.2	1.5	56	不整楕円形	-	-	外傾	皿状		
105	SK284	N11h8	4.6	N-37°-W	3.2	1.7	56	不整長方形	-	-	緩斜	皿状		SK287→本跡→SK273・274
106	SK287	N11h8	4.5	N-63°-E	[3.1]	1.6	63	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK284・288
107	SK288	N11h9	4.6	N-61°-E	2.3	1.7	70	長方形	-	-	緩斜	平坦		SK287→本跡
108	SK298	N11g5	4.7	N-66°-W	3.7	2.1	71	不整長方形	-	-	緩斜	平坦		
109	SK300	N11i5	4.0	-	1.5	1.5	57	方形	-	-	緩斜	平坦	砥石	SK301→本跡
110	SK301	N11i5	4.0	N-34°-E	2.1	1.3	57	長方形	-	-	外傾	平坦		本跡→SK300
111	SK302	N11i5	4.0	N-66°-W	1.3	0.7	18	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK303
112	SK303	N11i5	4.0	N-47°-E	1.2	1.0	13	長方形	-	-	緩斜	平坦		SK302→本跡
113	SK304	N11i5	4.0	N-54°-E	0.8	0.3	10	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
114	SK305	N11h6	4.4	N-62°-W	0.9	0.7	28	楕円形	-	-	緩斜	平坦	陶器(丸皿カ)	
115	SK306	N11h7	4.4	-	0.9	0.9	26	方形	-	-	緩斜	皿状		SK307→本跡
116	SK307	N11h7	4.4	-	1.1	1.0	46	円形	-	-	外傾	平坦		SK308・314→本跡→SK306
117	SK308	N11h7	4.4	N-52°-W	(2.0)	1.2	50	長方形	-	-	外傾	平坦		SK314→本跡→SK307・310
118	SK309	N11h7	4.3	N-49°-W	2.4	1.5	66	長方形	-	-	緩斜	平坦		SK314→本跡
119	SK310	N11h7	4.5	-	0.6	0.6	10	円形	-	-	緩斜	皿状		SK308→本跡
120	SK311	N11i7	4.3	N-49°-W	2.4	1.3	58	長方形	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK113
121	SK313	O11b7	3.7	N-54°-W	0.4	0.3	69	楕円形	-	-	外傾	皿状		
122	SK314	N11h7	4.3	N-49°-W	[2.7]	[1.4]	50	[楕円形]	-	-	緩斜	平坦		本跡→SK307~309
123	SK315	O11a7	4.0	N-60°-E	[0.9]	0.6	10	[長方形]	-	-	緩斜	平坦		
124	SK316	O11a6	3.5	N-57°-W	1.0	0.7	10	楕円形	-	-	緩斜	平坦		
125	SK317	O11a6	3.5	-	0.4	0.4	26	円形	-	-	緩斜・外傾	皿状		
126	SK324	O11g8	3.2	N-32°-E	1.2	0.8	30	楕円形	-	-	緩斜・外傾	皿状		

(7) 貝集積地

ここでは、遺構に伴わない貝集積地1か所について、その概要を記述する。

第58号貝集積地 8区SM-2 (第381図)

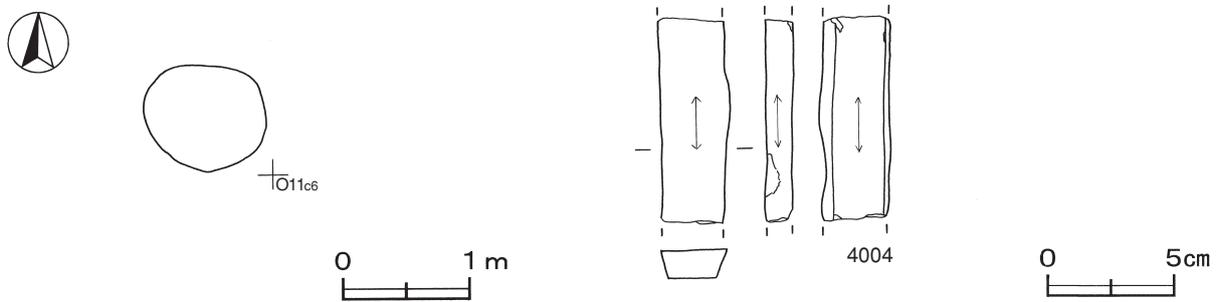
位置 調査区南部のO11b5区で、第56号建物跡の上層0.5mに位置している。

確認状況 表砂を約4.0m除去し、標高約4.2mから貝が確認された。

規模と形状 長径1.0m、短径0.9mの楕円形で、長径方向はN-65°-Wである。貝が砂上に広がった状態であり、貝層は薄く広がった状態で確認された。

遺物出土状況 石器1点(砥石)が出土している。4004は貝殻と混じって出土しており、混入と推測される。

所見 第56号建物の廃絶後に形成されている。ウバ貝中心の貝集積地であり、他の貝種は、投棄の際に混入したと考えられる。



第381図 第58号貝集積地・出土遺物実測図

第58号貝集積地出土貝種一覧表

No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考	No.	貝種	重さ	比率	殻頂数	備考
1	クボガイ	1.0	0.04	1		5	チョウセンハマグリ	16.0	0.67	L= 1 R= 3	
2	タマキガイ	10.0	0.42	2		6	ウバガイ	660.0	27.62	L=29 R=27	
3	カキ	10.0	0.42	2		7	細片	1,690.0	70.71		数種混在
4	シジミ属	3.0	0.13	3	淡水または汽水						

第58号貝集積地出土遺物観察表 (第381図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4004	砥石	(8.1)	2.8	1.2	(50.6)	凝灰岩	砥面4面 断面台形	覆土中	

(8) ピット群

黒色土を取り除いた後の中央部、南部、南東部から、建物跡や整地面に伴わないピット群6か所が確認された。以下、その概要を記述する。

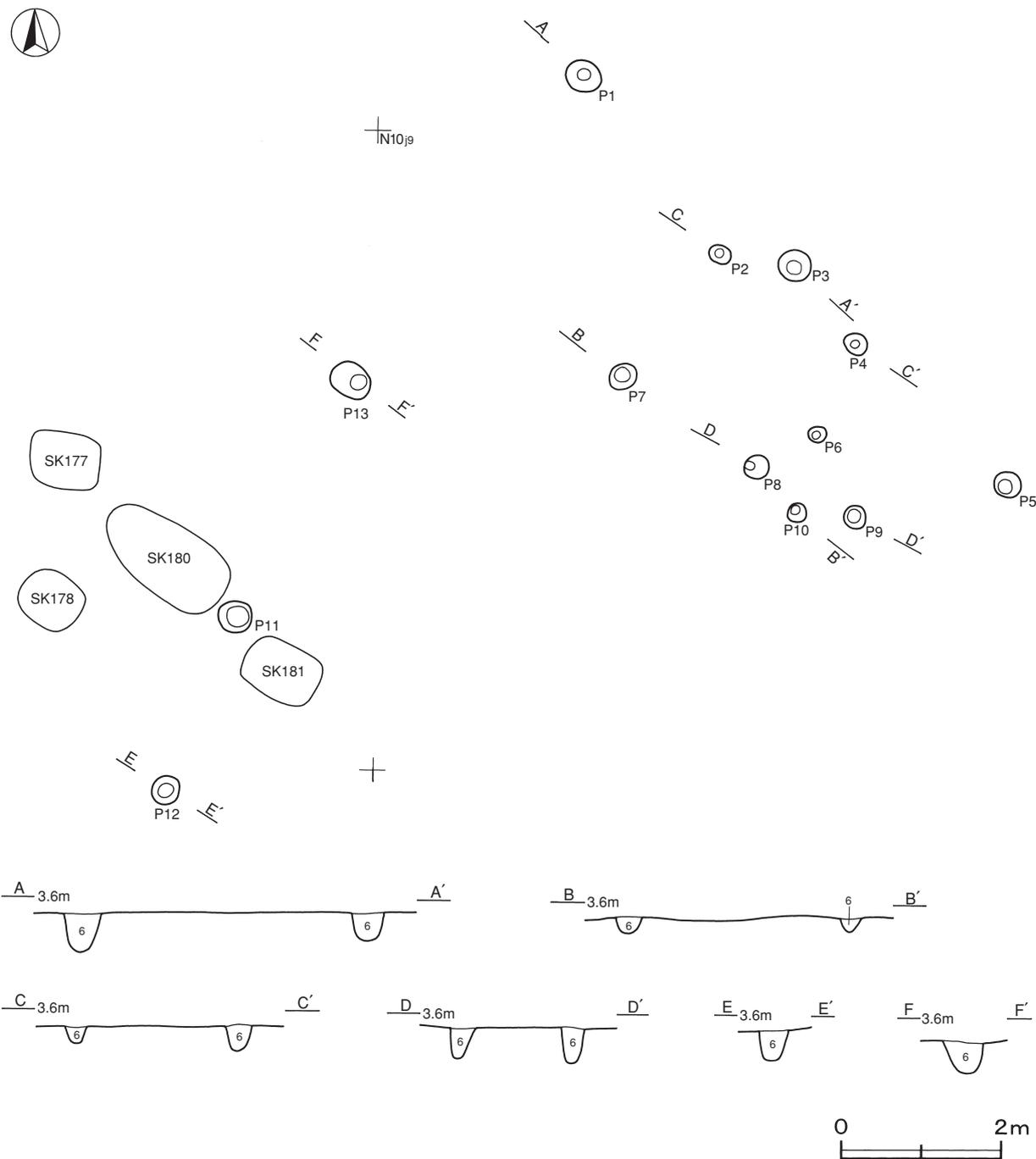
第6号ピット群 8区Pg-6 (第382図)

位置 調査区南部のN10i8～O10a0区に位置している。

確認状況 第67号建物跡を約0.7m掘り下げた標高約3.4mで確認された。

規模と形状 南北10.0m, 東西13.5mの範囲から, 不規則な13か所のピットが確認された。いずれも砂層を掘り込んでいる。径(長径)が20~50cmの円形又は楕円形で, 深さ21~52cmである。

所見 13か所のピットを確認したが, 配列に規則性は見られない。遺構に伴う遺物はなく, 時期・性格は不明である。



第382図 第6号ピット群実測図

第6号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	44	40	51	P5	34	32	42	P9	30	28	41	P13	50	42	52
P2	26	24	23	P6	24	20	26	P10	24	22	37				
P3	40	40	25	P7	38	32	21	P11	42	38	24				
P4	30	26	36	P8	30	30	43	P12	36	36	42				

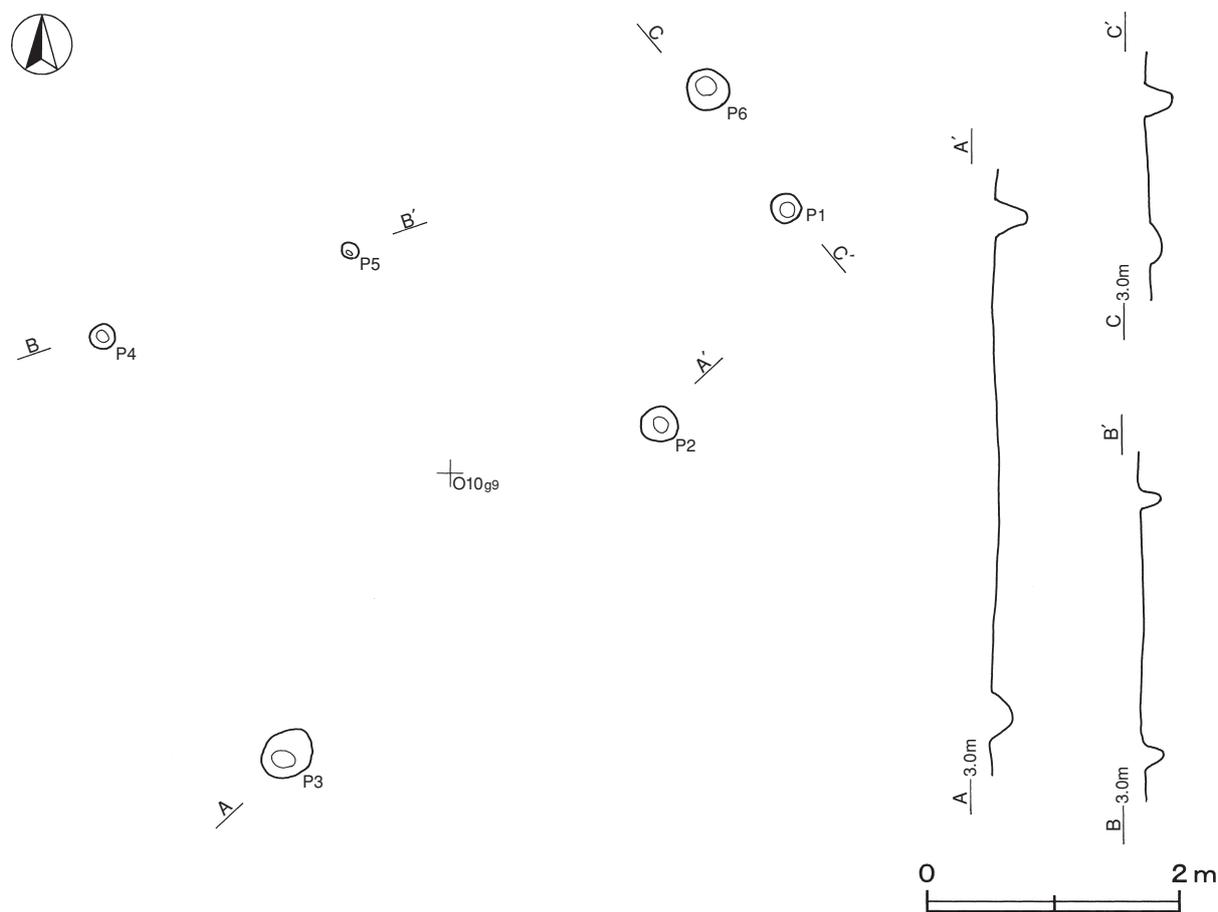
第7号ピット群 8区Pg-4 (第383図)

位置 調査区南部O10f8～O10g9区に位置している。

確認状況 第66号整地面を約0.5m掘り下げた標高約2.8mで確認された。

規模と形状 南北6.5m, 東西6.3mの範囲から, 不規則な6か所のピットが確認された。いずれも砂層を掘り込んでいます。径(長径)が12～42cmの円形又は楕円形で, 深さ10～27cmである。

所見 6か所のピットを確認したが, 配列に規則性は見られない。時期・性格は不明である。



第383図 第7号ピット群実測図

第7号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	24	22	25	P3	42	38	24	P5	12	12	17
P2	28	26	27	P4	20	18	16	P6	32	32	10

第8号ピット群 8区Pg-7 (第384・385図)

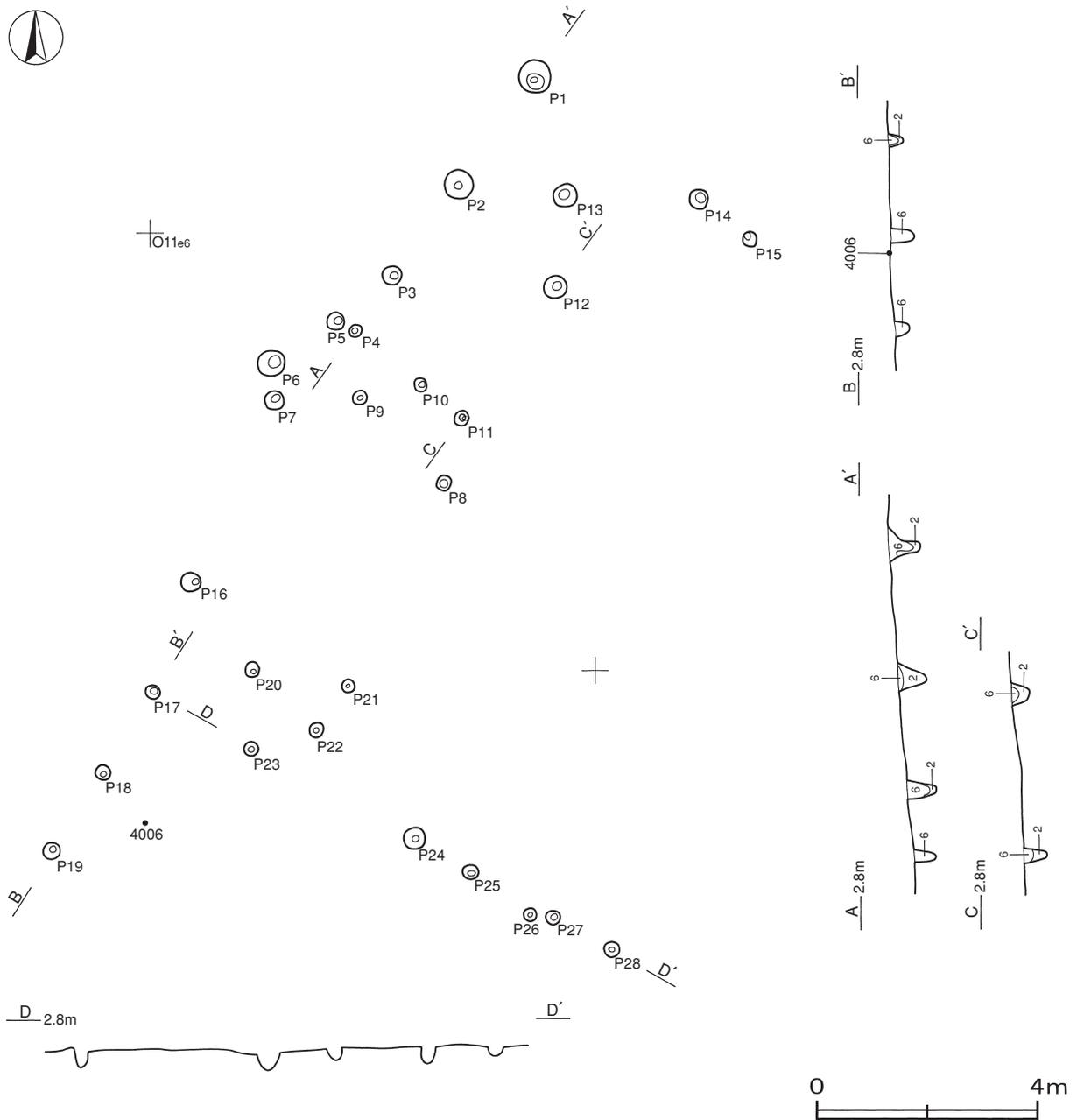
位置 調査区南東部のO11d5～O11h8区に位置している。

確認状況 第52号整地面を約1.4m掘り下げた標高約2.5～2.7mで確認された。

規模と形状 南北16.8m、東西13.5mの範囲から、不規則な28か所のピットが確認された。いずれも砂層を掘り込んでいる。径(長径)が22～60cmの円形又は楕円形で、深さ18～58cmである。

遺物出土状況 陶器片1点(大皿)、石器1点(砥石)、金属製品2点(古銭)が出土している。4006～4009は砂層から出土している。

所見 28か所のピットを確認したが、配列に規則性は見られない。4006は古瀬戸の大皿の底部片で、生産年代は15世紀前半頃とみられるが、砂層からの出土であることや他の遺構との関連から、時期は16世紀以降と考えられる。

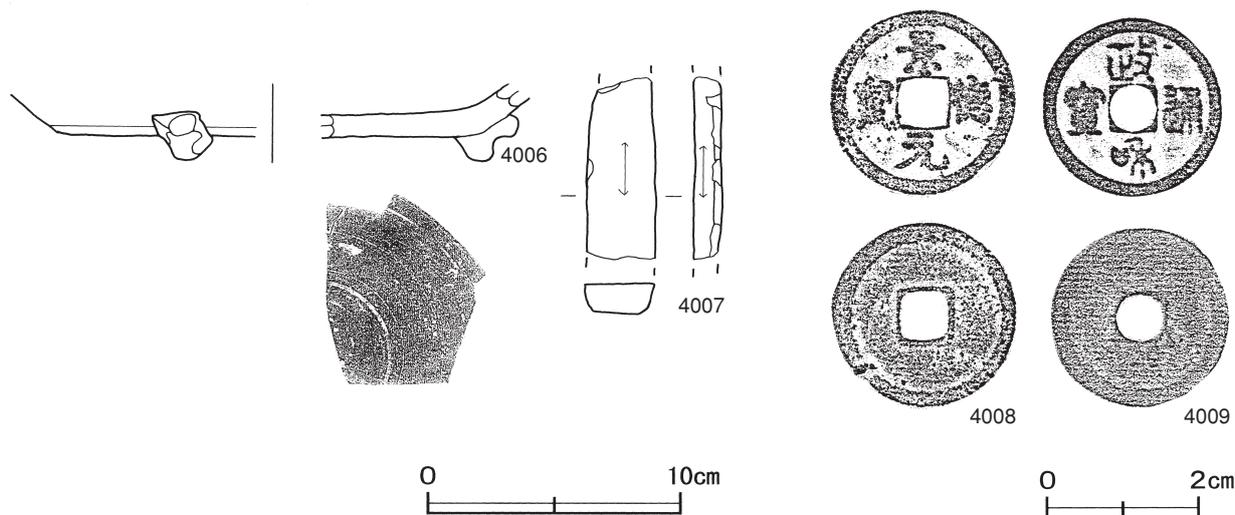


第384図 第8号ピット群実測図

第8号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	60	58	54	P8	28	26	22	P15	26	26	30	P22	26	22	18
P2	52	50	58	P9	30	28	40	P16	34	34	42	P23	24	24	30
P3	34	32	54	P10	24	22	44	P17	26	24	32	P24	40	40	38
P4	22	22	42	P11	26	24	58	P18	28	26	46	P25	30	26	22
P5	32	30	42	P12	40	38	30	P19	30	30	34	P26	22	22	32
P6	50	48	54	P13	44	42	52	P20	26	26	22	P27	28	26	30
P7	36	36	32	P14	36	36	42	P21	22	22	18	P28	30	30	20



第385図 第8号ピット群出土遺物実測図

第8号ピット群出土遺物観察表 (第385図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
4006	大皿	陶器	-	(2.4)	[16.0]	褐灰・にぶい黄褐	灰釉	釉はハケ塗り 三足貼り付けカ	瀬戸・美濃 15C中~後半	P18付近砂層	15% 古瀬戸後Ⅱ~Ⅲ
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4007	砥石	(7.2)	2.7	1.2	(39.6)	凝灰岩	砥面4面 断面台形		覆土中		
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考	
4008	景德元寶	2.49	0.53	0.11	3.66	1004	銅	真書	覆土中		
4009	政和通寶	2.43	0.61	0.11	3.38	1111	銅	篆書 丸孔	覆土中		

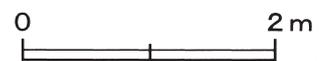
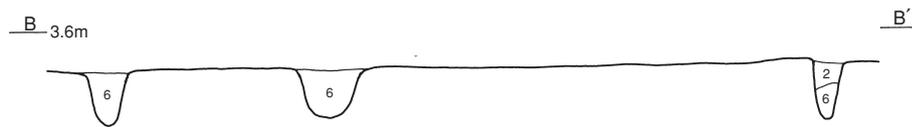
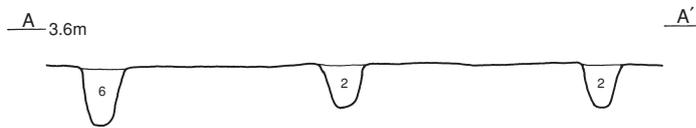
第9号ピット群 8区Pg-1 (第386図)

位置 調査区南部のO10d6~O11f8区に位置している。

確認状況 第69号建物跡を約0.5m掘り下げた標高約3.3mで確認された。

規模と形状 南北9.0m, 東西10.5mの範囲から, 不規則な27基のピットが確認された。いずれも砂層を掘り込んで構築されている。ピットは径(長径)が16~58cmの円形又は楕円形で, 深さは25~56cmである。

所見 27基のピットを確認したが, 配列に規則性は見られない。遺構に伴う遺物はなく, 時期・性格は不明である。



第386図 第9号ピット群実測図

第9号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	30	28	43	P8	27	22	39	P15	46	32	45	P22	48	32	43
P2	22	22	39	P9	22	20	32	P16	21	20	35	P23	30	28	50
P3	28	22	49	P10	28	22	37	P17	22	20	45	P24	30	28	46
P4	18	18	40	P11	30	28	29	P18	18	16	55	P25	30	28	40
P5	28	28	39	P12	30	30	34	P19	58	16	55	P26	34	32	37
P6	40	20	56	P13	38	34	38	P20	42	(40)	46	P27	34	34	45
P7	22	20	43	P14	26	24	25	P21	32	30	51				

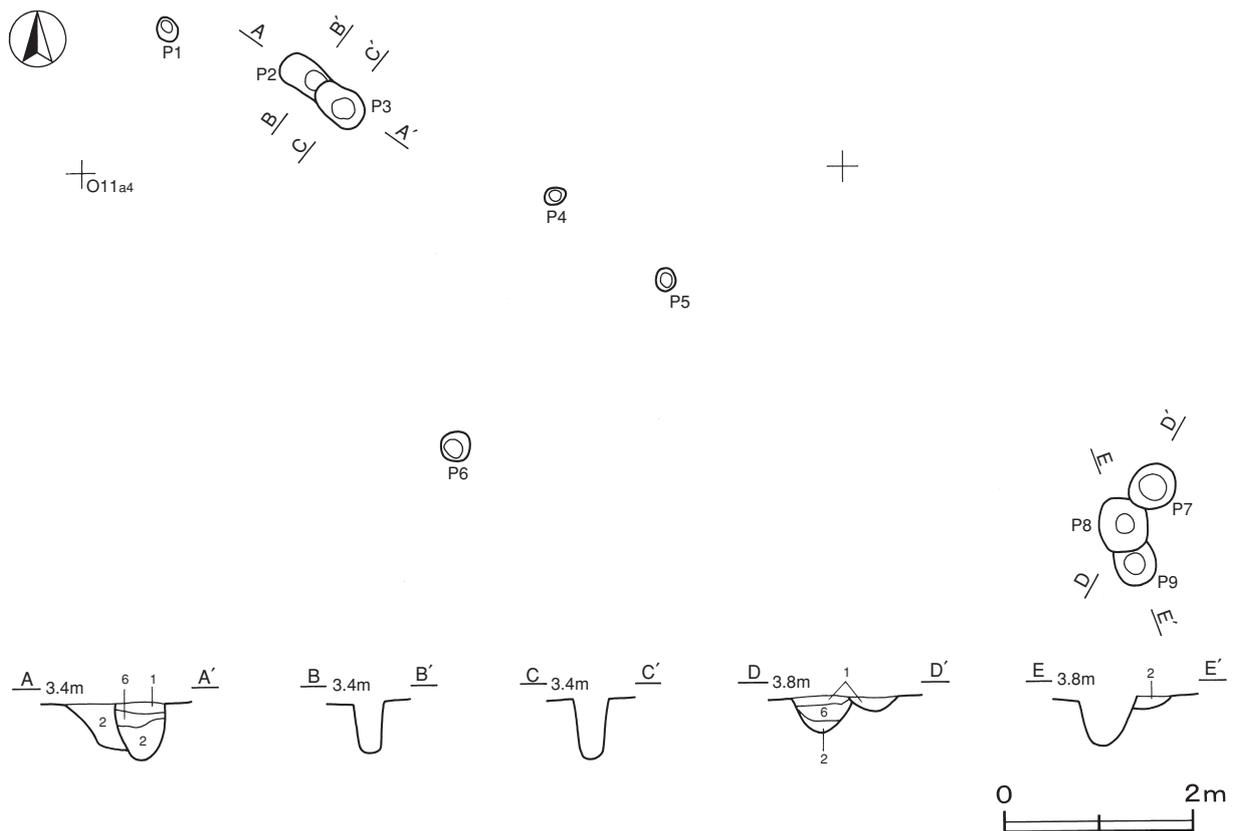
第10号ピット群 8区Pg-12 (第387図)

位置 調査区南部のN11j4～O11b6区に位置している。

確認状況 第56号建物跡を約0.6m掘り下げた標高約3.2～3.5mで確認された。

規模と形状 南北6.8m，東西11.5mの範囲から，不規則な9基のピットが確認された。いずれも砂層を掘り込んで構築されている。ピットは径（長径）が16～58cmの円形又は楕円形で，深さ5～66cmである。

所見 9基のピットを確認したが，配列に規則性は見られない。時期・性格は不明である。



第387図 第10号ピット群実測図

第10号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	24	22	23	P4	20	16	26	P7	50	48	15
P2	(46)	45	52	P5	24	20	25	P8	58	56	52
P3	56	38	66	P6	30	30	5	P9	(46)	40	14

第11号ピット群 8区P g - 2 (第388・389図)

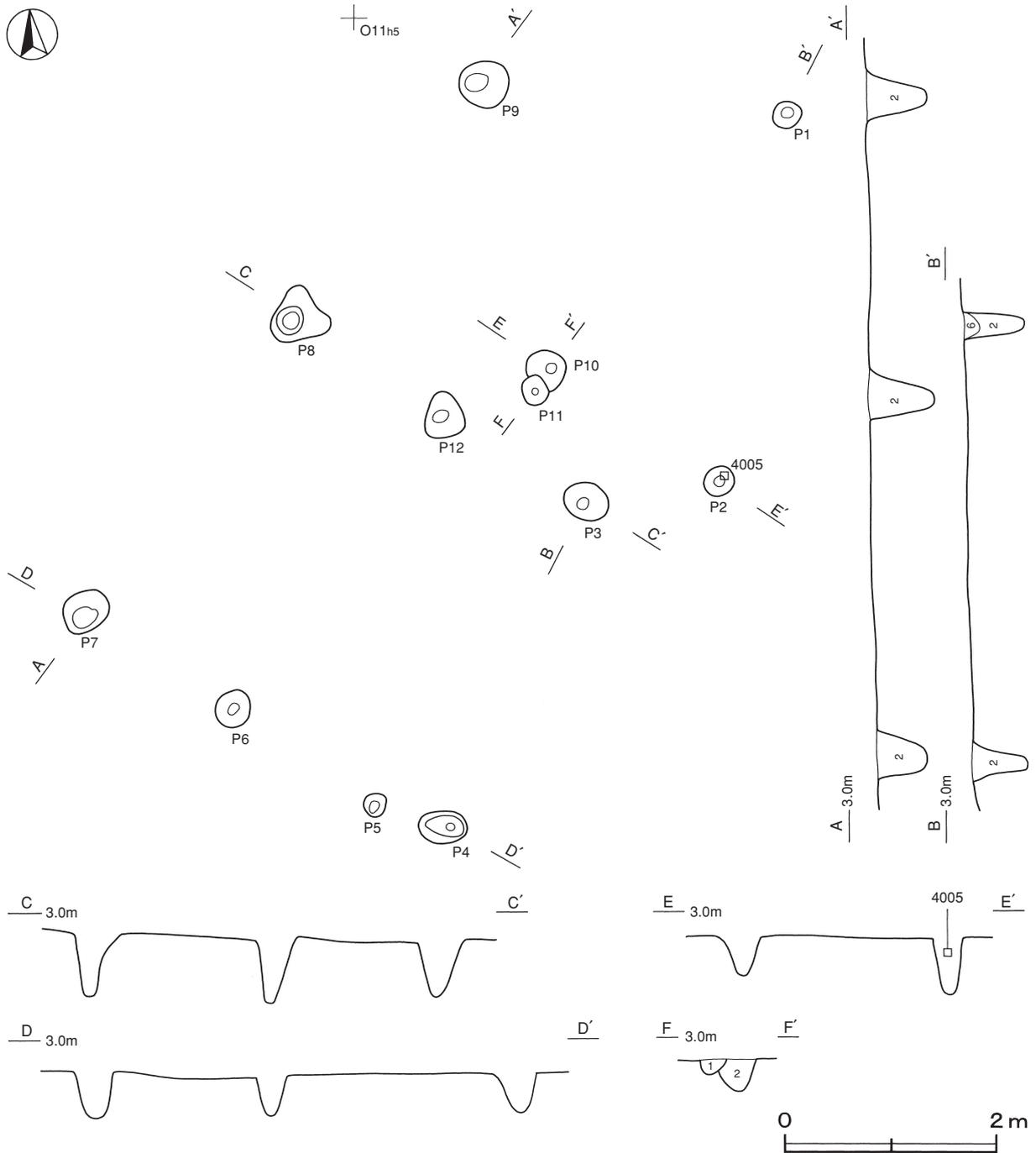
位置 調査区南東部のO11h4～O11i5区に位置している。

確認状況 第54号整地面の南部を約0.7m掘り下げた標高約2.8mで確認された。

規模と形状 南北8.0m，東西7.5mの範囲から，不規則な12基のピットが確認された。いずれも砂層を掘り込んで構築されている。ピットは径（長径）が20～56cmの円形又は楕円形で，深さ15～62cmである。

遺物出土状況 石器1点（砥石）が，P2内から出土している。

所見 12基のピットを確認したが，配列に規則性は見られない。時期・性格は不明である。

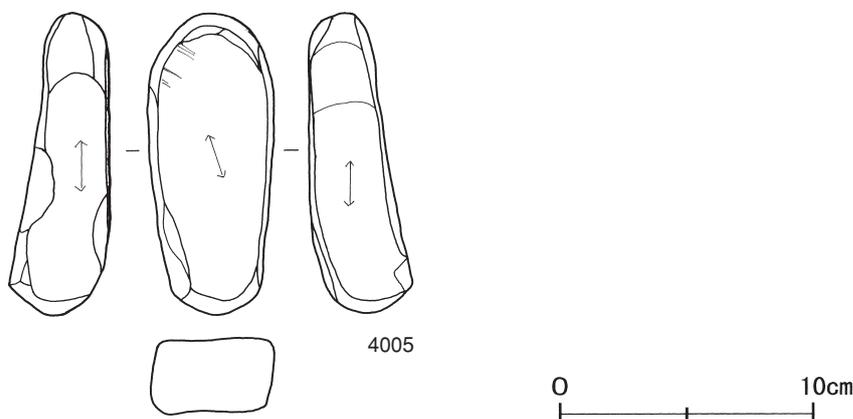


第388図 第11号ピット群実測図

第11号ピット群集計表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
P1	26	24	50	P4	46	32	40	P7	42	40	43	P10	38	[38]	29
P2	28	28	54	P5	22	20	24	P8	56	52	56	P11	26	26	15
P3	44	36	55	P6	36	32	39	P9	46	44	58	P12	46	38	62



第389図 第11号ピット群出土遺物実測図

第11号ピット群出土遺物観察表 (第387図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4005	砥石	12.0	5.0	4.0	331.0	砂岩	砥面3面 断面四角形	P2内	

表41 8区ピット群一覧表

番号	位置	標高	範囲 (m)		柱穴数	柱穴平面形	径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考
			南北	東西						
6	N10i8~O10a0	3.4	10.0	13.5	13	円形・楕円形	20~50	21~52		
7	O10f8~O10g9	2.8	6.5	6.3	6	円形・楕円形	12~42	10~27		
8	O11d5~O11h8	2.5~2.7	16.8	13.5	28	円形・楕円形	22~60	18~58	陶器 (大皿), 砥石, 古銭	
9	O10d6~O11f8	3.3	9.0	10.5	27	円形・楕円形	16~58	25~56		
10	N11j4~O11b6	3.2~3.5	6.8	11.5	9	円形・楕円形	16~58	5~66		
11	O11h4~O11i5	2.8	8.0	7.5	12	円形・楕円形	20~56	15~62	砥石	

(9) 不明遺構

性格不明の遺構1基が確認された。以下、その概要を記述する。

第15号不明遺構 8区SX-1 (第390図)

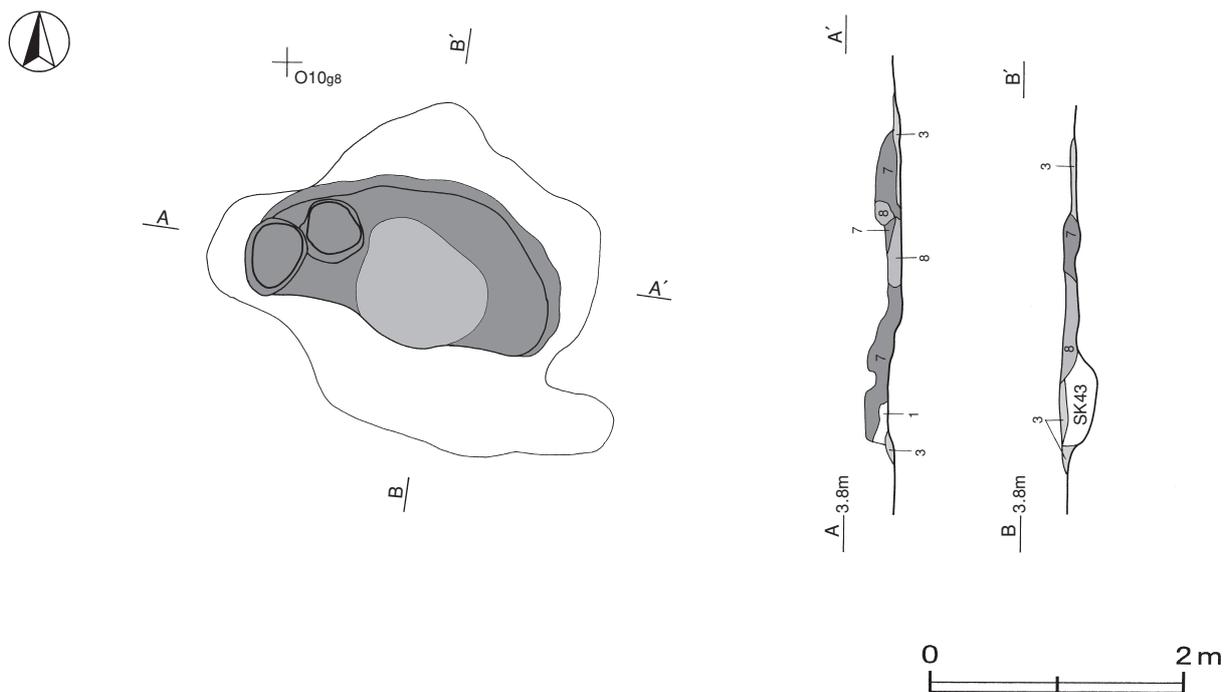
位置 調査区南部のO10g8区を中心に位置している。

重複関係 第71号建物跡の上面に構築されている。

確認状況 表砂を4.1m除去した標高約3.4mで、黒色土面が確認された。黒色土面の中央部から貼り付けた粘土と灰混じりの焼土が検出されている。

規模と施設 黒色土の範囲は、長軸3.1m、短軸2.8mの不定形で、長軸方向はN-90°である。厚さ約6cmの黒色土を貼り付けて構築されている。粘土の範囲は、長径2.6m、短径1.3mの楕円形で、厚さ10~18cmの粘土で構築されている。粘土部分の中央に位置する焼土範囲は、長径1.1m、短径0.9mの楕円形で、厚さ約10cmの灰混じりの焼土が堆積している。

所見 確認状況から、上面は崩れており最下層の部分のみ検出されている。粘土部分の中央部から灰混じりの焼土が検出されていることから、規模の大きい屋外炉の可能性が考えられる。



第390図 第15号不明遺構実測図

(10) 土壙墓

8区では、4体の人骨が確認された。ここでは、8区で人骨の埋葬が確認された遺構3基について、その概要を記述する。なお、埋葬状況の不明確な人骨1体については、一覧表に計測値のみ掲載した。

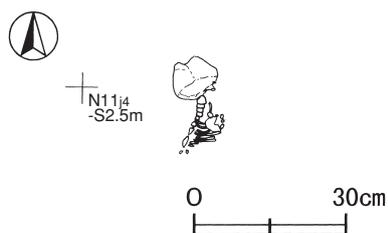
第160号土壙墓 SK-105 (第391図)

位置 8区中央部のN11j4区で、第55号建物跡内炉1の北側2mに位置している。

確認状況 表砂を3.7m除去後、第55号建物跡の下層0.2mの標高3.8mで、人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 北頭位俯臥で埋葬されていた。顔は地面の方を向いていた。表砂除去の際、四肢骨が動いてしまったため、上肢骨、下肢骨の埋葬状況は不明である。

性別と年齢 性別不明 新生児



第391図 第160号土壙墓実測図

第161号土壙墓 SK-267 (第392図)

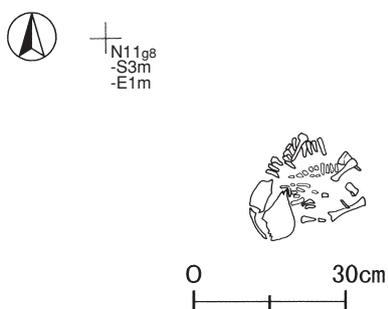
位置 8区中央部東よりのN11g8区で、第162号土壙墓の南西側2mに位置している。

確認状況 表砂を2.9m除去後、第62号整地面の下層0.3mの標高4.7mで、人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 南西頭位仰臥屈葬で埋葬されていた。頭蓋骨が崩れていたため、顔の向きは不明である。

遺骸の特徴 ほぼ全身骨格が確認できた。頭蓋骨は薄く、四肢骨も細い。歯は萌出しておらず、下顎内に乳歯の歯冠が確認できた。骨盤は未発達で、歩行以前と推測される。

所見 副葬品がないため、埋葬の時期は不明である。第55号住居跡の整地面には掘り込みがないことから、第55号建物構築前の埋葬である。



第392図 第161号土壙墓実測図

第162号土壙墓 SK-286

位置 8区中央部のN11g8区で、第161号土壙墓の北東側2mに位置している。

確認状況 表砂を2.8m除去後、第62号整地面の下層0.2mの標高4.8mで、人骨を確認した。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 骨の破片が、1か所にまとまって出土した。

性別と年齢 性別不明 成人

遺骸の特徴 崩れた頭蓋骨の破片が確認された。頭蓋骨は厚みがあり、しっかりとしている。歯と四肢骨は確認されなかった。頭蓋骨片の厚さと形状から、成人と推定される。

所見 副葬品がないため、埋葬の時期は不明である。層位から、第62号整地面構築前の埋葬である。

性別と年齢 性別不明 乳児（1歳未満）

遺骸の特徴 砂圧で崩れた状態であったが、ほぼ全身骨格が確認できた。四肢骨は細く、骨盤は発達していない。歯は8本確認でき、すべて乳歯である。歯根が成長しておらず、萌出前と推定される。

所見 副葬品がないため、埋葬の時期は不明である。層位から、第62号整地面構築前の埋葬である。第162号土壙墓と近接しており標高もほぼ等しいが、関係については不明である。

表42 8区土壙墓一覧表

番号	区	遺構番号	位置	標高	性別	推定死亡年齢	推定身長	各四肢骨の長さ(単位:cm)												備考
								上腕骨		橈骨		尺骨		大腿骨		脛骨		腓骨		
								右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
160	8	SK105	N11j4	3.8	-	新生児	-	(5.0)	(6.5)	(5.4)	5.0	5.8	5.8	(7.2)	7.4	6.9	6.4	6.0	(4.8)	SI55下層
161	8	SK267	N11g8	4.7	-	1歳未満	-	6.8	6.6	5.5	5.5	6.2	6.0	7.5	7.5	6.6	-	6.5	-	HK62下層
162	8	SK286	N11g8	4.8	-	成人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	HK62下層
-	8	SK106	O11b4	3.5	-	乳児カ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(1) 土壙

出土した動物遺骸の中で、埋葬の状況を確認できた馬3体、犬1体について、その概要を以下に記述する。

第13号土壙 SK-42 (第393図)

位置 8区南部のO10f0区で、第61号建物跡の北側1mに位置している。

確認状況 表砂を4.4m除去後、第68号整地面内の第4号粘土貼土坑の底面粘土下の標高3.2mで、粘土貼土坑の調査中に犬の骨格が確認された。掘り込みは確認できなかったが、埋葬に伴う覆土の一部を認めることができた。

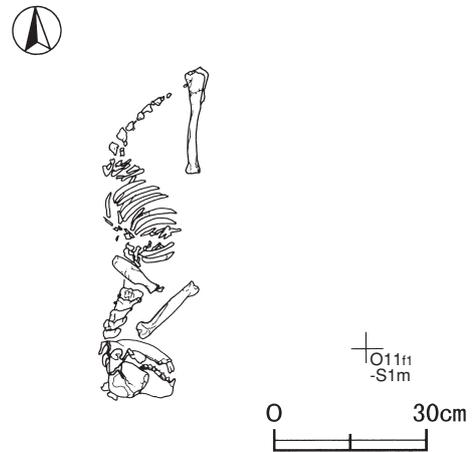
覆土 砂B層を中心とした単一層である。

埋葬の状況 頭位は南方向で、前肢骨と後肢骨を東側に向け、椎骨を西側にした状態で埋葬されていた。

雌雄と年齢 雌 成犬

遺骸の特徴 骨の腐朽が進んでいたが、ほぼ1体分が確認された。頭蓋骨と四肢骨、体幹骨が残存していた。上顎下顎ともに歯が萌出している状態が確認された。陰茎骨は確認されなかった。

所見 第4号粘土貼土坑の構築時には、本土壙が認識されていたと推測されるが、粘土貼土坑の構築に伴う埋葬かどうかは不明である。第61号建物の構築と前後して埋葬された可能性が考えられる。



第393図 第13号土壙実測図

第14号土壙 SK-71 (第394図)

位置 8区中央部のN11b3区で、第65号建物跡の北西側4mに位置している。

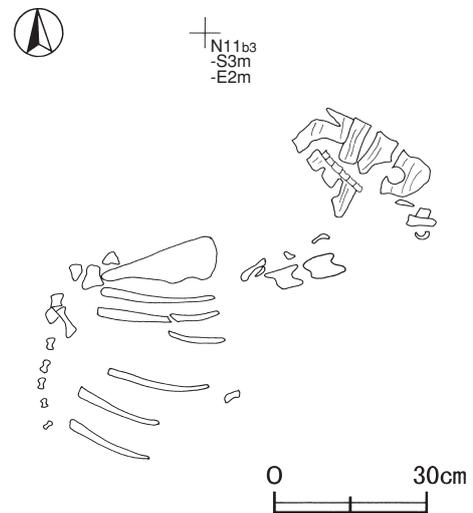
確認状況 表砂を3.2m除去後、標高5.1mで馬骨が確認された。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 頭位は北東方向で、椎骨を北西側にした状態で埋葬されていた。顔は、北西側を向いていた。

雌雄と年齢 雌 年齢不明

遺骸の特徴 椎骨、肋骨と歯列が確認された。頭蓋骨は崩れていた。犬歯と四肢骨は確認できなかった。

所見 1体分の骨格は確認できなかったが、体幹骨と歯列が残存していることから、埋葬と判断した。副葬品が確認されなかったため、埋葬の時期は不明である。第65号建物の構築と前後して埋葬された可能性が考えられる。肋骨の下に脛骨があり、顔の向きが不自然な方向を向いている。これは、埋葬時の姿勢が水平ではなく、胴部より頭部の方が低い位置になっていたためと推測される。



第394図 第14号土壙実測図

第15号土壙 SK-72 (第395図)

位置 8区中央部の N11a2区で、第65号建物跡の北西側12mに位置している。

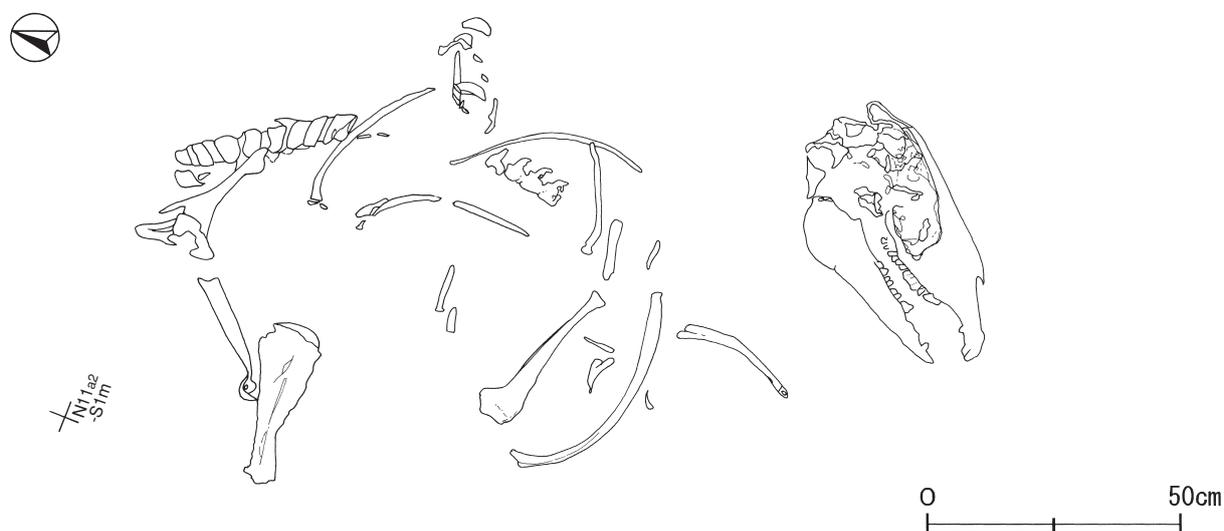
確認状況 表砂を3.4m除去後、標高4.4mで馬骨が確認された。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 頭位は南東方向で、椎骨を東側にした状態で埋葬されていた。骨盤と大腿骨の位置から、後肢骨は西側に向けられていたと推測される。

雌雄と年齢 雌 年齢不明

遺骸の特徴 ほぼ1体分の骨格が確認された。骨の残存状態は良好である。頭蓋骨には歯列が残っていた。犬歯は確認されなかった。四肢骨、肋骨は体幹骨の周りに散在していた。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬の時期は不明である。第65号建物の構築と前後して埋葬された可能性が考えられる。



第395図 第15号土壙実測図

第16号土壙 SK-285 (第396図)

位置 8区中央部の N11f8区で、第64号建物跡の北東側2mに位置している。

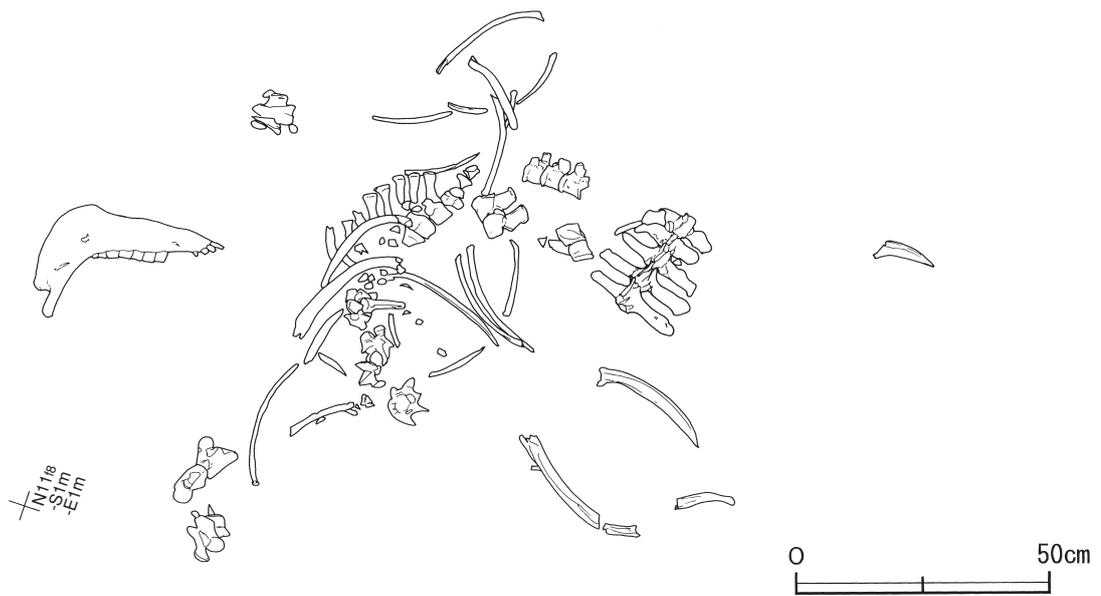
確認状況 表砂を2.6m除去後、第62号整地面の下層0.2m、標高5.0mで馬骨が確認された。掘り込みは確認できなかった。

埋葬の状況 馬骨が1か所に固まって出土した。

雌雄と年齢 雌雄不明 年齢不明 (若い馬)

遺骸の特徴 下顎骨と体幹骨が確認された。四肢骨と頭蓋骨は確認できなかった。骨の残存状態は良好である。下顎の歯の摩滅は少なかった。

所見 副葬品が確認されなかったため、埋葬の時期は不明である。第62号整地面の構築以前の埋葬と考えられる。表砂除去の影響は受けていないので、骨格が崩れている原因については不明である。



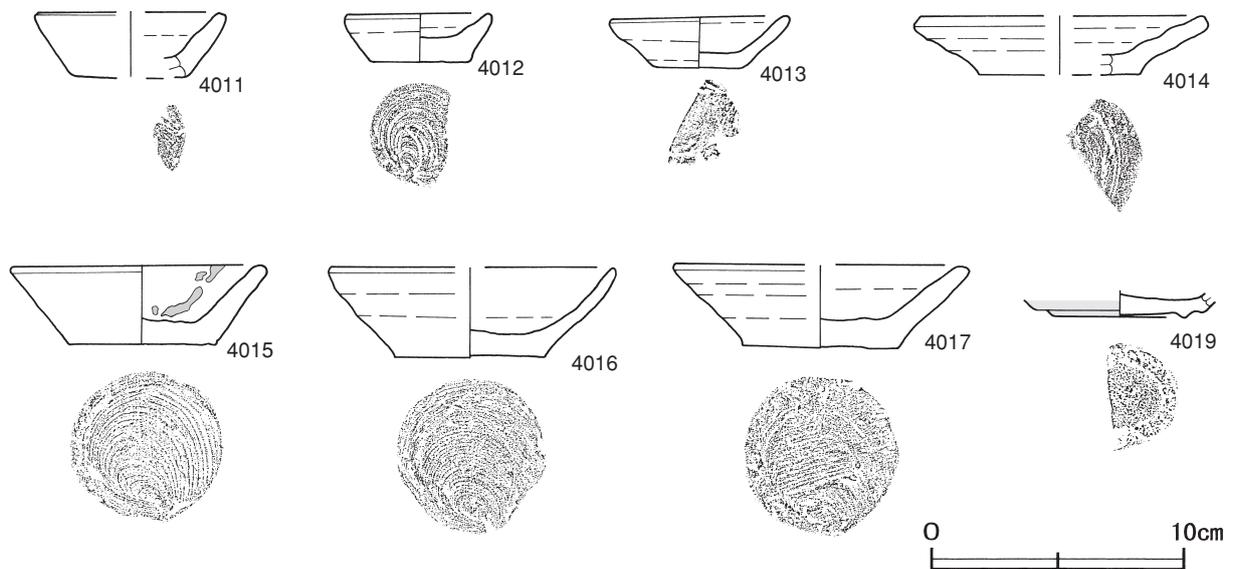
第396図 第16号土壙実測図

表43 8区土壙一覧表

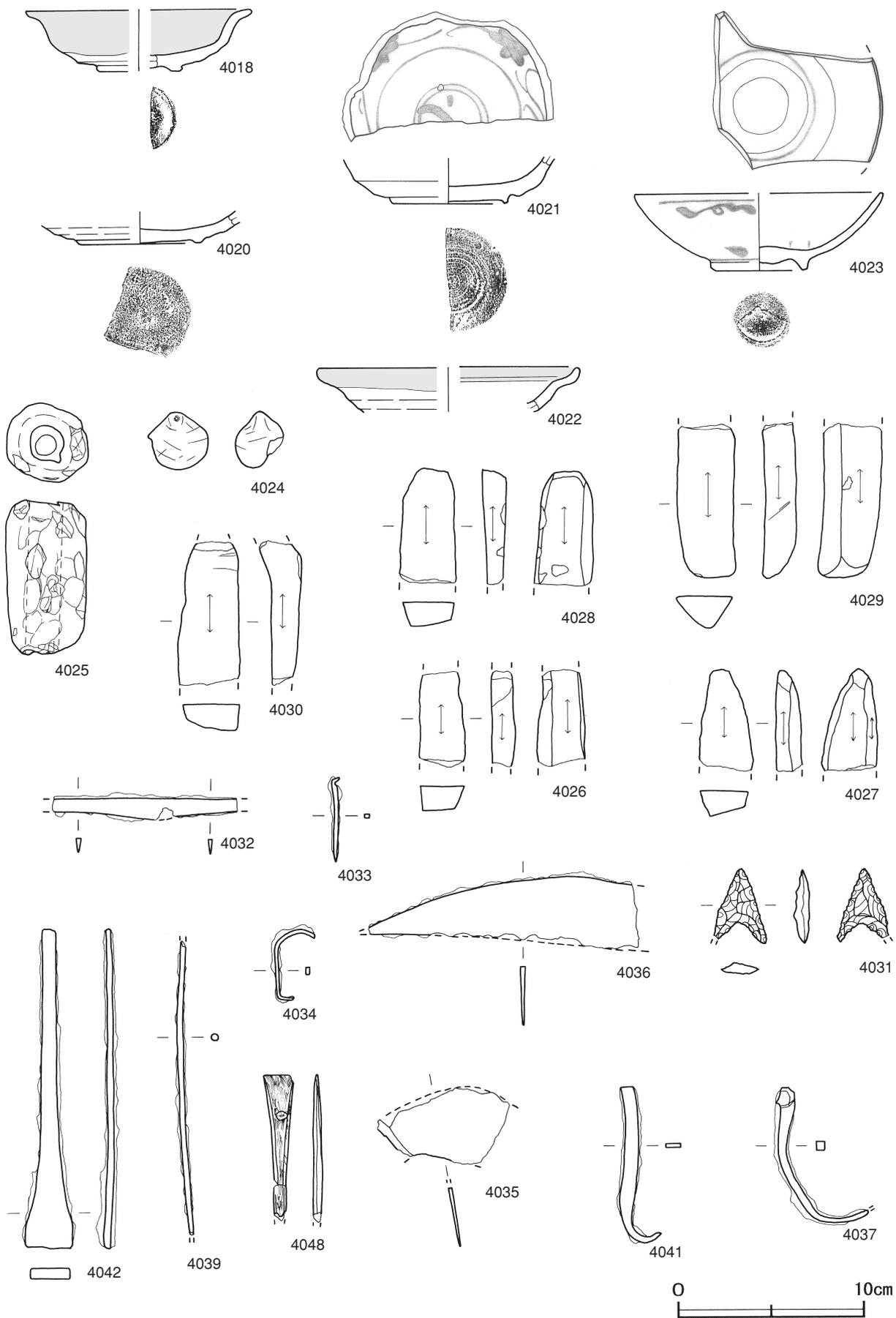
番号	区	遺構番号	位置	標高	動物名	雌雄	推定死亡年齢	推定体高	確認された部位	備考
13	8	SK 42	O10f0	3.2	犬	雌	成犬		1 個体分	
14	8	SK 71	N11b3	5.1	馬	雌	-		1 個体分	
15	8	SK 72	N11a2	4.4	馬	雌	-		1 個体分	
16	8	SK285	N11f8	5.0	馬	-	若馬カ		1 個体分	

(12) 遺構外出土遺物

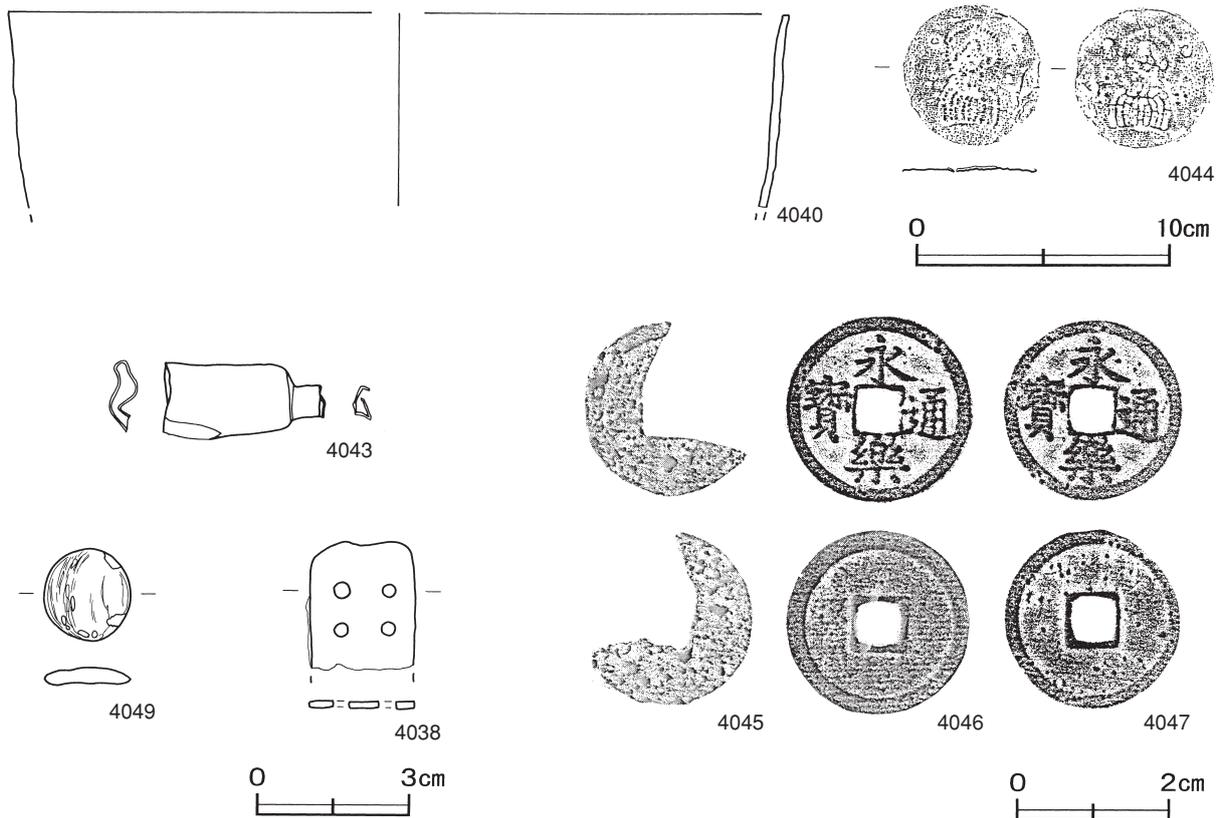
遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び出土遺物観察表で記載する。



第397図 遺構外出土遺物実測図(1)



第398図 遺構外出土遺物実測図(2)



第399図 遺構外出土遺物実測図(3)

第8区遺構外出土遺物観察表 (第397~399図)

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4011	小皿	土師質土器	[7.6]	2.6	[4.4]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	O11区	15%
4012	小皿	土師質土器	5.7	2.0	4.0	石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	8区	60% PL71
4013	小皿	土師質土器	6.8	2.1	3.5	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	N11区	50%
4014	皿	土師質土器	[11.2]	2.3	[6.4]	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	底部回転糸切り	O10区	20%
4015	皿	土師質土器	9.9	3.2	5.9	長石・雲母	にぶい褐	普通	内底面渦巻き状のナデ 内面煤付着	O11区	90% PL75
4016	皿	土師質土器	[11.1]	3.6	6.0	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	O11区	75% PL79
4017	皿	土師質土器	[11.5]	3.4	6.2	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内底面横ナデ	8区	60% PL75

番号	器形	器質	口径	器高	底径	胎土・色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	出土位置	備考
4018	皿	陶器	[12.2]	3.3	[4.4]	灰白・にぶい橙	薬灰釉	高台部土見せ	肥前 17C前葉	O11区	40% 1-2 PL67
4019	折縁皿	陶器	-	(1.0)	5.4	灰白・オリーブ黄	灰釉	高台内輪ドチ痕有り	瀬戸・美濃	O11区	10% 大窯後期
4020	菊皿	陶器	-	(1.7)	[6.6]	灰白・灰白	長石釉	内面打ち出し菊花文	瀬戸・美濃 17C前葉	O10区	15% 大窯4
4021	鉄絵皿	陶器	-	(2.5)	6.4	灰白・灰白	鉄絵・長石釉	圏線間に紅葉唐草文	瀬戸・美濃 17C前半	O11区	40% 連房1
4022	青織部皿	陶器	[14.0]	(2.4)	-	灰白・オリーブ	口縁部銅緑釉	口縁部に3条の沈線	瀬戸・美濃 17C前半	O10区	5% 連房2
4023	碗	磁器	[13.4]	4.2	4.6	灰白・明オリーブ灰	染付・透明釉	体部外面草花文 見込み蛇の目軸ハギ	漳州窯系 16C後~17C前	O11区	25% PL67

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4024	土鈴	3.1	(2.6)	0.3	(7.7)	長石・石英	孔径0.2cm 外面ナデ	O11区	PL83
4025	土錘	8.3	4.4	1.8	158.3	長石・石英	孔径1.8cm 外面ナデ・指頭痕有り	O11区	PL83
4026	砥石	(6.2)	2.6	1.4	(28.1)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	O11区	
4027	砥石	(5.6)	3.9	1.4	(28.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	8区	
4028	砥石	(7.3)	4.1	1.4	(42.0)	凝灰岩	砥面4面 断面四角形	O11区	
4029	砥石	(8.5)	3.6	2.0	(66.1)	凝灰岩	砥面3面 断面三角形	N11区	

番号	器種	長さ(口径)	幅(器高)	厚さ(底径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4030	砥石	(7.9)	3.3	2.3	(78.6)	凝灰岩	砥面2面 他は剥離面	O11区	
4031	石鏃	2.0	1.4	0.4	(0.5)	瑪瑙	無茎鏃	O11区	
4032	小刀	(9.9)	0.8	0.3	(13.3)	鉄	刃部のみ遺存	O11区	
4033	釘	4.7	0.3	0.2	2.0	鉄	完存 断面方形 頭部屈曲	8区	
4034	釘カ	(3.9)	0.2	0.4	(4.8)	鉄	断面長方形 中央部・先端部屈曲	N11区	
4035	鎌カ	(7.2)	(3.9)	0.2	(21.8)	鉄	刃部の一部 曲刃鎌カ	O11区	
4036	鎌	(14.3)	(4.0)	0.2	(53.8)	鉄	刃部 曲刃鎌	O11区	PL89
4037	吊金具	(7.3)	0.5	0.5	(18.8)	鉄	断面方形 頭部屈曲 先端部湾曲	O11区	PL93
4038	小札	(2.1)	2.1	0.1	(3.5)	鉄	小孔4カ所で径2~3mm 下部欠損	N11区	PL90
4039	紡茎カ	(16.0)	0.4	0.4	(11.3)	鉄	断面円形 両端部欠損	8区	
4040	鉄鍋	[31.0]	(7.7)	-	(88.9)	鉄	口縁部片 外傾して立ち上がる	8区	PL95
4041	鉤状金具	8.5	0.8	0.2	11.7	鉄	完存 断面長方形 先端部湾曲	O11区	
4042	篋状金具	17.4	2.6	0.6	66.6	鉄	完存 断面長方形 先端部篋状に広がる	O11区	
4043	煙管	(3.1)	1.5	0.1以下	(2.2)	銅	吸い口 口付部欠損	O11区	
4044	銅板製懸佛	5.6	5.4	0.1以下	1.6	銅	裏面から光背・尊像・台座, 表面から花瓶を打ち出す孔2カ所有り	O11区	
4048	筭	(7.9)	[1.7]	0.5	(3.6)	鹿角	胴部遺存 両面擦痕有り	O10区	
4049	おはじき	1.8	1.7	0.3	1.4	貝	完形 円形で扁平	O10区	PL98

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重さ	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
4045	--通寶	2.36	0.61	0.15	(1.62)	-	鉄	真書 欠け	O11区	
4046	永樂通寶	2.51	0.57	0.12	3.58	1408	銅	真書	O11区	
4047	永樂通寶	2.43	0.56	0.12	3.38	1408	銅	真書	N11区	

茨城県教育財団文化財調査報告第284集

村松白根遺跡 2

大強度陽子加速器施設事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

上 巻

平成19(2007)年3月19日 印刷
平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 高野高速印刷
〒310-0853 茨城県水戸市平須町1822-122
T E L 029-305-5588